

## 第7節 溝作遺跡（その2）珪藻分析

河内長野市立滝畑民俗資料館 撫養 健至  
 近畿大学医学部生物学的研究室 後藤 敏一  
 中部調査事務所 山口 誠治

### 第1項 はじめに

珪藻遺骸群集から古環境の復元を行う場合には、検出される珪藻遺骸が現地性（その場で生息し、保存されたもの）か、あるいは異地性（他の地から運搬され堆積したもの）かの判定は極めて重要である。さらに、遺跡の調査における珪藻分析では、面的な広がりと共に時間軸（層位、堆積状況）を加えた考察が必要となる。

今回は、考古学の調査結果から明らかに水田遺構と考えられる地点に、どのような特徴を有す珪藻遺骸群集が見出されるかを明らかにすることにより、水田遺構に関わる珪藻遺骸群集の堆積状況を把握することを目的とした。

### 第2項 分析試料

分析に供した試料は、2C地区南壁より採取した次の6試料である（表12・図279）。

表12 分析試料

試料番号	時代及び採取地点
試料1	古墳時代後期の水田畦下面より6cm上の地点
試料2	古墳時代後期の洪水砂層上面から8cm下の地点
試料3	古墳時代後期の水田層上面から6cm下の地点
試料4	古墳時代後期以前の水田層の上面
試料5	試料4採取地点より北へ約1mの同一層位の表面
試料6	試料3採取地点より東へ約28mの同一層位中の上面から10cm下の地点

試料1, 2, 3, 4, 6は土層断面より採取；試料5のみ平面採取

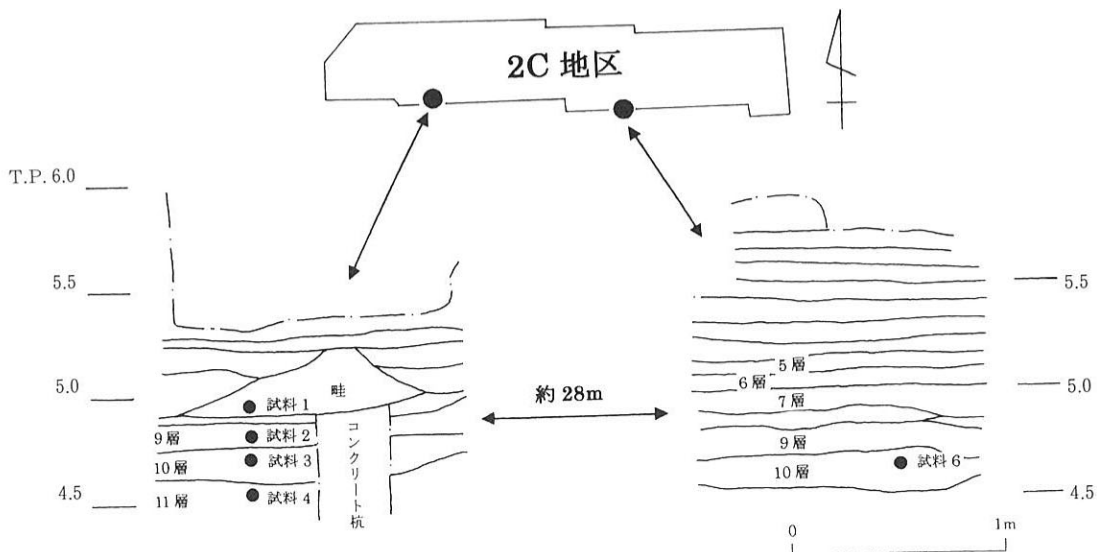


図279 試料採取地点

### 第3項 分析方法

#### 3-1 試料の処理と永久プレパラートの作成法

- ①採取した試料から湿重量で3gをとる。
- ②容量1ℓのトールビーカーに試料を入れ、蒸留水を100ml加えて泥状化した後、ビーカーを蒸留水で満たして静置して24時間後に上澄みを捨てる。この操作を3回繰り返す。
- ③残渣に5mlの過酸化水素水(5%)を加え加熱し有機物の分解と粒子の分散を行う。
- ④残渣に2mlの塩酸溶液(塩酸1:蒸留水2)を加え加熱しCaを溶解する。上澄みを回収する。ビーカーを蒸留水で満たし静置して24時間後に上澄みを捨てる。
- ⑤残渣に0.5%ヘキサメタリン酸ナトリウム溶液(分散剤)を液の高さ4cmまで加え静置する。
- ⑥3~4時間後に上澄みを検鏡し、珪藻殻が含まれないことを確認した上で上澄みを捨てる。渦巻法により巻き上がった部分を別にビーカーに移す。残った粗粒分に蒸留水を加え、さらに渦巻法により残りの珪藻殻をビーカーに移す。珪藻殻を含む試料に蒸留水を液の高さ4cmまで加え静置して以上の操作を繰り返すことで、粘土分・粗粒分の除去を行う。
- ⑦珪藻殻を含む試料に蒸留水を加え、適当な珪藻殻密度になるように調整しカバーガラス上に乾燥し、プリューラックス(和光純薬:マウントメディア)で封入し永久プレパラートとする。

#### 3-2 珪藻分析

- ①永久プレパラートを検鏡し、含まれる珪藻殻を撮影した。また、同時に珪藻殻の保存度(磨耗・溶解の程度)について観察結果を記録した。顕微鏡写真を基に種の同定を行い、各試料中の珪藻リストを作成した。種の同定についてはKrammer & Lange-Bertalot (1986, 1991a,b, 1997)を主に参考とした。
- ②任意の視野について、総珪藻殻数が200個程度までカウントした。この時、珪藻遺骸群集の組成の特徴が明確でない場合は300個程度まで計数を増やすことを試みた。各試料中の出現相対度数を求め、主要な種についてはダイヤグラムを作成した。
- ③珪藻遺骸群集の組成を、個々の構成種の生態的特徴の観点から分析することで、水田遺構に関わる珪藻遺骸の堆積状況について考察した。なお、珪藻の生態については主にLowe (1974)、小杉 (1988)、安藤 (1990)、伊藤・堀内 (1991)、Van Dam *et al.* (1994)を参考とした。

### 第4項 分析結果

6試料中に合計43種類の珪藻が認められた。その分析結果を表13に示した。試料1には珪藻殻がまったく含まれなかった。試料1以外の各試料の分析結果は次のとおりである。尚、主要な種の出現傾向については図280に示した。

〔試料2〕

15種類の珪藻が認められた。淡水生の *Surirella angusta* Kütz. (出現相対度数(以下省略): 53.7%) が優占し、次いで生態不明種である *Achnanthes undata* F.Meister (32.7%) が高率で出現した。出現相対度数の高い種から順に記すと、淡水生の *Fragilaria ulna* (Nitzsch) Lange-Bert. (2.4%)、淡水生の *Eunotia formica* Ehrenb. (2.4%)、淡水生の *Cymbella cuspidata* Kütz. (1.5%)、淡水浮遊性の *Aulacoseira* sp.1 (1.5%) や海生の *Cyclotella stylorum* Brightw. (1.5%) などであった。

〔試料3〕

20種類の珪藻が認められた。生態不明種である *Achnanthes undata* F.Meister (73.4%) が優占した。以下、出現相対度数の高い種から順に記すと、海生の *Cyclotella stylorum* Brightw. (5.6%)、淡水浮遊性の *Aulacoseira* sp.1 (3.3%)、淡水生の *Cymbella amoyensis* M.Voigt (2.3%) などであった。

## 〔試料4〕

32種類の珪藻が認められた。生態不明種である *Achnanthes undata* F.Meister (18.3%) が優占した。以下、出現相対度数の高い種から順に記すと、淡水生の *Stauroneis phoenicenteron* (Nitzsch) Ehrenb. (8.0%)、海生の *Cyclotella stylorum* Brightw. (7.7%)、淡水生の *Amphora copulata* (Kütz.) Schoeman & R.E.M.Archibald (6.8%)、淡水生の *Navicula perrotettii* (Grunov) Cleve (5.5%)、淡水生の *Cymbella cuspidata* Kütz. (4.5%)、淡水生の *Navicula cuspidata* (Kütz.) Kütz. (3.9%)、淡水生の *Stauroneis* sp.1 (3.9%)、淡水生の *Neidium iridis* (Ehrenb.) Cleve (3.5%)、淡水浮遊性の *Stephanodiscus niagarae* Ehrenb. (3.5%) などであった。

## 〔試料5〕

34種類の珪藻が認められた。生態不明種である *Achnanthes undata* F.Meister (17.3%) が優占した。以下、出現相対度数の高い種から順に記すと、海生の *Cyclotella stylorum* Brightw. (11.7%)、*Pinnularia* (aff.) *neomajor* Krammer (5.1%)、淡水生の *Amphora copulata* (Kütz.) Schoeman & R.E.M.Archibald (4.5%)、浮遊生の *Aulacoseira* sp.1 (4.5%)、淡水生の *Stauroneis phoenicenteron* (Nitzsch) Ehrenb. (4.3%)、浮遊生の *Stephanodiscus* sp.1 (4.3%) などであった。

試料4の珪藻遺骸群集組成と非常に類似性が高い。

## 〔試料6〕

26種類の珪藻が認められた。生態不明種である *Achnanthes undata* F.Meister (52.3%) が優占した。以下、出現相対度数の高い種から順に記すと、海生の *Cyclotella stylorum* Brightw. (7.5%)、淡水生の *Fragilaria ulna* (Nitzsch) Lange-Bert. (7.2%)、淡水浮遊性の *Aulacoseira* sp.1 (4.9%)、*Eunotia minor* (Kütz.) Grunov (4.9%)、淡水生の *Eunotia formica* Ehrenb. (3.9%)、淡水浮遊性の *Stephanodiscus niagarae* Ehrenb. (3.9%) などであった。

試料3の珪藻遺骸群集組成と非常に類似性が高い。

すべての試料について、珪藻殻の保存度は概して高い。これらの中で特に生態不明種である *Achnanthes undata* F.Meister、淡水生の *Surirella angusta* Kütz.、海生の *Cyclotella stylorum* Brightw. は保存度が高い。陸生種 (伊藤・堀内 1991) である *Hantzschia amphioxys* (Ehrenb.) Grunov、*Luticola mutica* (Kütz.) D.G.Mann、*Pinnularia schroederii* (Hust.) Krammer は、他に比べて保存度は極めて低く、殻の輪郭・点紋が明瞭ではないものがほとんどであった。

## 第5項 考察

### 5-1 珪藻遺骸の堆積パターン

珪藻遺骸が、どのような場、プロセスで採取地点に残るのか。それには次の4つのパターンが考えられる (撫養・山口・後藤、印刷中)。

第1は、普段は陸域である場所が、洪水などによって運ばれた堆積物に覆われるとき、その当時、地

表13 珪藻遺骸群集組成

種名	試料2	試料3	試料4	試料5	試料6
海生種					
<i>Cyclotella stylorum</i> Brightw.	3	12	24	44	23
淡水～汽水種					
<i>Hydrosera triquetra</i> G.C.Wall.					2
淡水生(浮遊)種					
<i>Stephanodiscus niagarae</i> Ehrenb.		1	11	14	12
<i>Stephanodiscus</i> sp.1	2	3	10	16	2
<i>Aulacoseira</i> sp.1	3	7	7	17	15
<i>Aulacoseira</i> sp.2				8	
淡水生(底生)種					
2.5 <i>Amphora copulata</i> (Kütz.) Schoeman & R.E.M.Archibald(ALP)			21	17	4
<i>Anomoeoneis sphaerophora</i> (Ehrenb.) Pfitzer(ALB)	1				
<i>Caloneis</i> sp.1			2		
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>euglypta</i> (Ehrenb.) Grunov (ALP)		3		3	5
<i>Cymbella amoyensis</i> M.Voigt		5	3	10	2
<i>Cymbella cuspidata</i> Kütz.(IND)	3	2	14	10	
<i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch (IND)				3	
<i>Cymbella tumida</i> (Bréb.) Van Heurck (ALP-ALB)	1	2	7	3	4
<i>Diploneis finnica</i> (Ehrenb.) Cleve (ALP)		1	1		
<i>Epithemia adnata</i> (Kütz.) Bréb. (ALP-ALB)	1	1		1	
<i>Eunotia formica</i> Ehrenb. (ACP)	5	4	5	6	12
<i>Eunotia minor</i> (Kütz.) Grunov	1		2	8	15
<i>Eunotia praerupta</i> Ehrenb. sensu lato (ACP)		4	2	4	3
<i>Flagilaria ulna</i> (Nitzsch) Lange-Bert. (ALP)	5	4	8	13	22
<i>Gomphonema angur</i> var. <i>turris</i> (Ehrenb.) Lange-Bert. (IND)				1	
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenb. (IND-ALP)			5		4
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenb. (ALP)	1	2			5
<i>Gyrosigma scalproides</i> (Rabenh.) Cleve (ALP)			1	1	1
<i>Hantzschia elongata</i> (Hantzsch) Grunov (ACP)			2		
<i>Navicula cuspidata</i> (Kütz.) Kütz. (ALP)	1	1	12	7	5
<i>Navicula flabellata</i> F.Meister (ALB)		1			
<i>Navicula perrotettii</i> (Grunov) Cleve	1		17	13	1
<i>Neidium iridis</i> (Ehrenb.) Cleve (IND)			11	13	1
2.15 <i>Nitzschia lorenziana</i> Grunov (ALB)				1	
<i>Pinnularia</i> (aff.) <i>neomajor</i> Krammer		1	6	19	1
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>dissimilis</i> H.Kobayasi			7	10	3
<i>Pinnularia rigens</i> Hust.			5	12	1
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitzsch) Ehrenb. (IND)			7	6	
<i>Stauroneis acuta</i> W.Sm.(ALP)			2	1	
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitzsch) Ehrenb. (IND)			25	16	1
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>brunii</i> (Perag. & Hérib.) M.Voigt (IND)			7	8	1
<i>Stauroneis</i> sp.1			12	11	
<i>Surirella angusta</i> Kütz. (ALP)	110	2		1	
陸生種					
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehrenb.) Grunow			9	7	1
<i>Luticola mutica</i> (Kützing) D.G.Mann		1	2		
<i>Pinnularia schroederii</i> (Hustedt) Krammer			7	5	
不明種					
<i>Achnanthes undata</i> F.Meister	67	157	57	65	160
合計(殻数)	205	214	299	374	306

淡水性(底生)種の学名の後の()はpHについての生態を表わす。

ALB:真アルカリ性種、ALP:好アルカリ性種、IND:不定性種、ACP:好酸性種、ACB:真酸性種

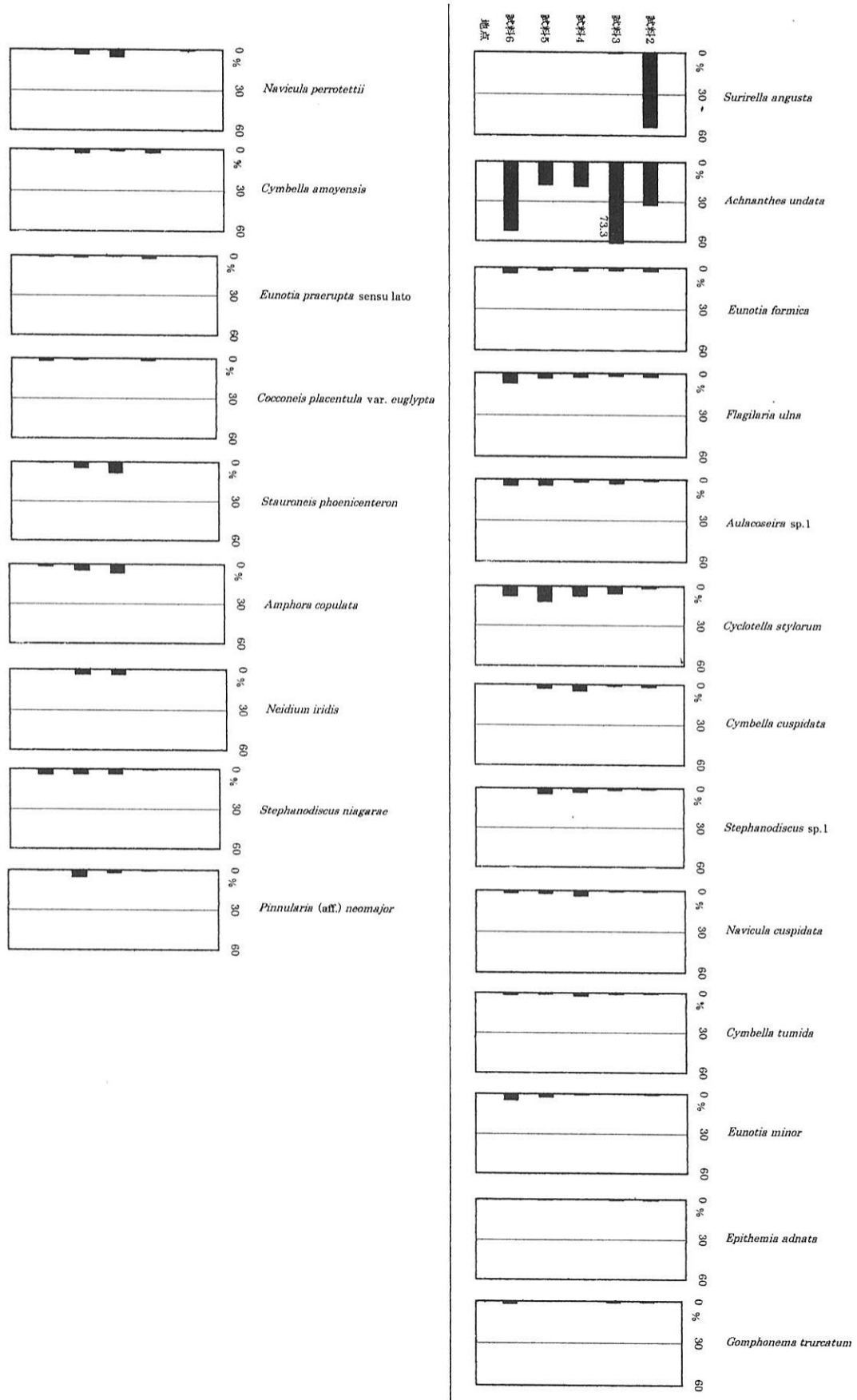


図280 主要種出現傾向ダイヤグラム

表面（土壤中）に生息していた陸生珪藻（現地性）と、水によって運ばれてきた珪藻（異地性）が混じり合ってその場に堆積するパターンである。

第2は、普段は水域である場所が、洪水などによって運ばれた堆積物に覆われるとき、その当時、水域に生息していた珪藻（現地性）と、水によって運ばれてきた珪藻（異地性）が混じり合ってその場に堆積するパターンである。

第3は、ある場所が、洪水などによって運ばれた堆積物に覆われるとき、その当時、その場所に生育していた珪藻（現地性）が洗い流されて、その場には水によって運ばれてきた珪藻（異地性）が堆積するパターンである。

第4は、現在の水田のように、短期間に水域から陸域環境への変化（あるいはその逆の変化）が起こり、同一地点にその両方の珪藻（現地性）が堆積するパターンである。

これら4つのパターンは、洪水や水田という具体的な堆積状況や環境だけに限定されるのではなく、湖沼や河川における日常的な堆積など、陸水および陸域における水の運搬作用による堆積パターンのすべてを視野に入れたものである。

## 5-2 各試料の堆積状況

堆積状況を考える上で、まず優占的に出現する種（*Achnanthes undata* F.Meister ; *Surirella angusta* Kütz.）、現地性とは考えられない種（*Cyclotella stylorum* Brightw. ; *Stephanodiscus niagarae* Ehrenb.）について、その特徴をまとめておく。

### *Achnanthes undata* F.Meister

本種は、*Achnanthes crenulata* Grunov に殻の構造が非常に似た種である。筆者らの知る限り、遺跡調査において本種が優占種となる例はない。生態については、汽水生（～海生）である可能性もあり、その場合は大阪層群に由来するものであろう。優占的に出現する重要な種であり、現在、分類・生態について研究を進めているところである。

### *Cyclotella stylorum* Brightw.

海生（沿岸底生）種であり、水田遺構の試料から見出されることから現地性とは考えられない。本種は、遺跡近くを流れる安威川の支流である佐保川沿いに位置する茨木市福井上村東方丘陵、あるいは同じく安威川の支流である勝尾寺川の上流に位置する丘陵の大阪層群（海成層）の Ma 1 より下位の試料からも報告されている（野口 1993）。本試料中の珪藻殻はこれらを含めた大阪層群からの二次堆積である可能性が高い。

小杉（1986）は、珪藻殻の保存度（磨耗・溶解の程度）によって現地性か異地性かを識別することができ、また、保存度は本来の生育地を遠ざかるにつれて低下することを現世干潟の調査により明らかにしている。しかし、今回の調査で見出された本種の珪藻殻の保存度は高く、この点からすれば現地性の可能性が極めて高いと判断されるが、実際には小杉（1986）の研究結果とは異なったものになっている。

### *Surirella angusta* Kütz.

本種が多く確認された試料2は、層相（砂層）および考古学的知見より洪水堆積物とされている。本種が流水性（Lowe 1974）であり、埼玉県川越市郊外では「どの水田にも広く分布し、かつ量的にもすぐれているもの（安藤 1966）」という生態から、旧安威川に生息していたものが洪水によって運ばれてきたか、もしくは試料2の下層である10層の地表面（水田耕作土表面）に生育していた本種が洪水に

よって混ざり合ってしまった可能性が考えられる。これらの内で、後に述べるような理由から前者の可能性が高いと考える。

*Stephanodiscus niagarae* Ehrenb.

本種は、遺跡近くを流れる安威川の支流である佐保川沿いに位置する茨木市福井上村東方丘陵、あるいは同じく安威川の支流である勝尾寺川の上流に位置する丘陵の大阪層群の *Menyanthes* bed の上位からも報告されている（野口 1993）。本試料中の珪藻殻は *Cyclotella stylorum* Brightw. と同様に、これらを含めた大阪層群からの二次堆積である可能性が高い。

これらの種の特徴などから各試料の堆積状況を推定すると、次のようになる。

〔試料2（洪水堆積物）〕

試料2とその地点の下層にあたる10層（試料3と6）とは、*Anomoeoneis sphaerophora* (Ehrenb.) Pfitzer 1個体が試料2のみから確認されたという点以外は、出現相対度数の量的な違いはあるものの、両者に出現した種類はすべて同じである。本試料を含む堆積物中の珪藻遺骸の組成は、a. 洪水によって運ばれた種、b. 洪水時に地表面（水田耕作土）に生息していた種、c. 洪水時に他の水田に生息していた種の混合である。ここで仮に、bとcの中に *Surirella angusta* Kütz. が含まれるとすると、下層である10層中にも本種が見られる可能性が高いが、10層中に相当する試料3と6から本種は2個体しか確認されていない。このことから、本試料に優占的に出現する *Surirella angusta* Kütz. に関しては、旧安威川に生育していた本種が洪水の際に運ばれてきて、採取地点に堆積した可能性が高いと考えられる。

〔試料3と試料6（水田耕作土）〕

試料3と6は、同一層位（試料間の水平距離：約28m）であり、遺骸群集の組成および相対度数に高い類似性がみられるのでまとめて考察を行う。本試料に優占的に出現する *Achnanthes undata* F.Meister が現地性である場合には、11層の表面に *Achnanthes undata* F.Meister が生育していたことになり、それらが洪水によって洗い流され、その上層である10層中に保存されたことになる。*Achnanthes undata* F.Meister が異地性である場合には、10層が堆積した時点、あるいは水田の滞水期に河川から運ばれてきたことになる。やはり、*Achnanthes undata* F.Meister の生態についての詳細を知ることが、この層の堆積状況を理解するカギになる。また、陸生種の出現相対度数が非常に低いことに加え、それらの殻の保存度も極めて低いことから、陸生種が生息できるような環境ではなかった可能性がある。このような群集組成からは、水田とはいえ現在のようにかなり長期にわたる乾水期がなかったことが示唆される。

〔試料4と5（水田耕作土）〕

試料4と5は、同一層位（試料間の距離：約1m）であり、遺骸群集の組成および相対度数に関して、両試料間に高い類似性がみられるのでまとめて考察を行う。本層は、上層である10層より種類数が増え、*Achnanthes undata* F.Meister の相対度数も低下する。やはり、*Achnanthes undata* F.Meister の生態についての詳細を知ることが、この層の堆積状況を理解するカギになる。陸生種についても上層（10層）よりも相対度数が高いが、各試料中の淡水生種と陸生種の比率からみると陸生種の割合が低く（図281）、また殻の保存度も極めて低いことから、上層（10層）と同じく陸生種が生息できるような環境ではなかった可能性があり、水田とはいえ現在のようにかなり長期にわたる乾水期がなかったことが

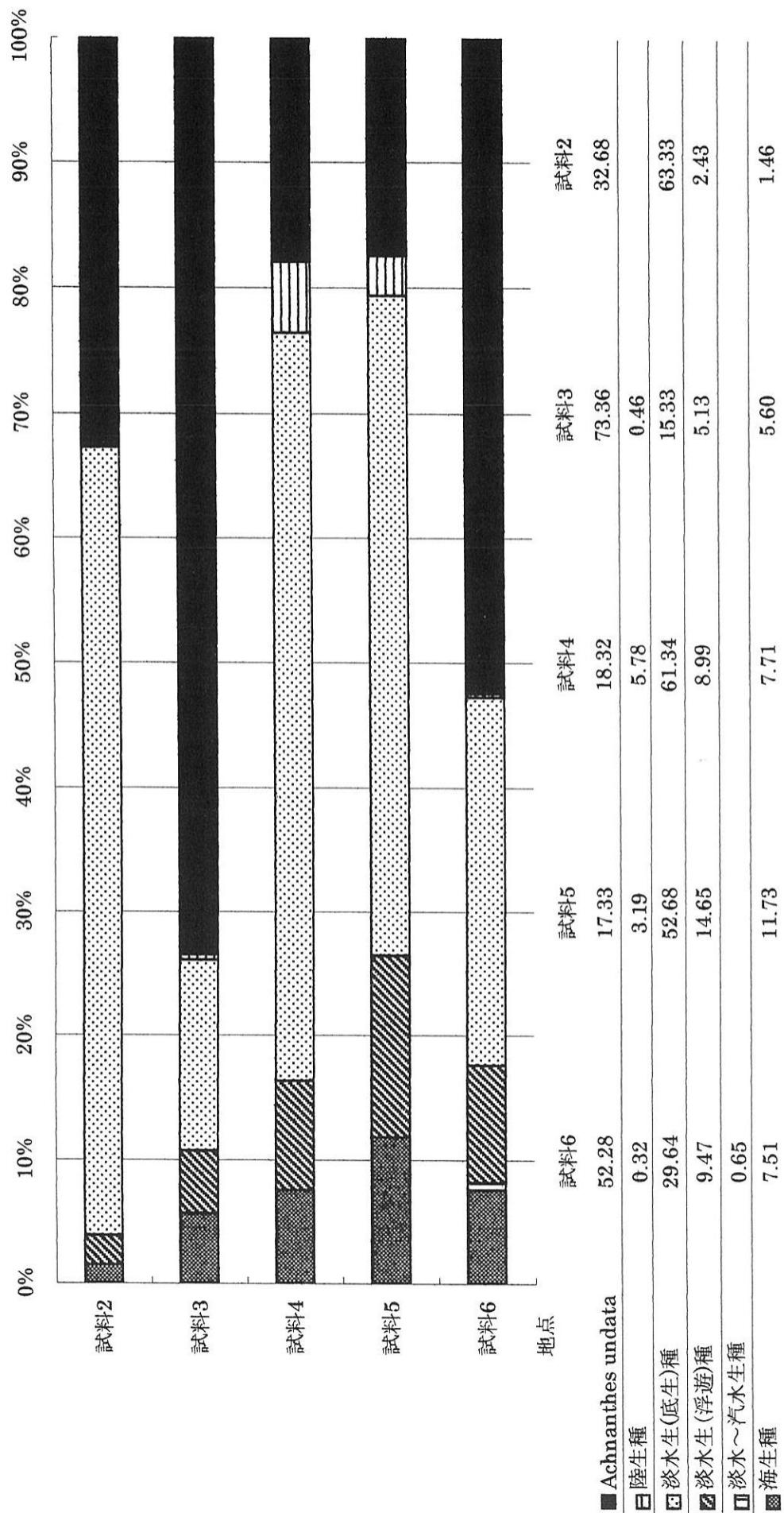


図281 珪藻遺骸群集組成の変化



示唆される。

## 第6項 まとめ

今回行った珪藻分析の結果、以下の諸点が明らかになった。

- a. 一般に、砂層中（洪水砂）には珪藻殻が含まれないことが多いが、*Surirella angusta* Kütz.（異地性）が優占する珪藻遺骸群集が確認された。
- b. 一筆内の水田中の、同じ層位の耕作土でありながら珪藻遺骸群集が異なるケースが知られている（鬼頭・尾崎 1998）。しかしながら、今回の調査では一筆内の水田中の2地点間（試料4と5；距離約1m）の群集組成にかなりの類似性が認められた。さらに、同時期に耕作された離れた距離にある水田間（試料3と6；距離約28m）でも同様に、群集組成にかなりの類似性が認められた。
- c. 水田の耕作土（試料3～6）は、すべて異地性の珪藻遺骸（*Cyclotella stylorum* Brightw.、*Stephanodiscus niagarae* Ehrenb.）を含み、それらは大阪層群からの二次堆積と推定された。

今回の調査では、当遺跡の採取地点における水田遺構に関わる珪藻分析により、珪藻遺骸の堆積状況を把握することができた。珪藻遺骸群集に基づく古環境の復元作業の中で、試料中の珪藻遺骸から明らかに現地性とは考えられない種（例えば、大阪層群からの二次堆積）を見極めること。また、珪藻の生態および珪藻遺骸の堆積パターンから現地性の種を見出すことが極めて重要であることを強調したい。

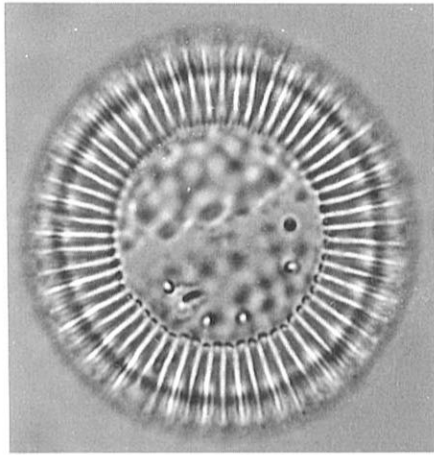
優占的に出現した *Achnanthes undata* F.Meister を含め、その生態についての情報が乏しい種が多々あるのが現状である。大阪平野の遺跡群に出現する個々の種の生態を明らかにしてゆくことが、より一層、珪藻分析の精度を上げることになり、さらには当遺跡の水田耕作期に成育していた種の把握につながる。

## 参考文献

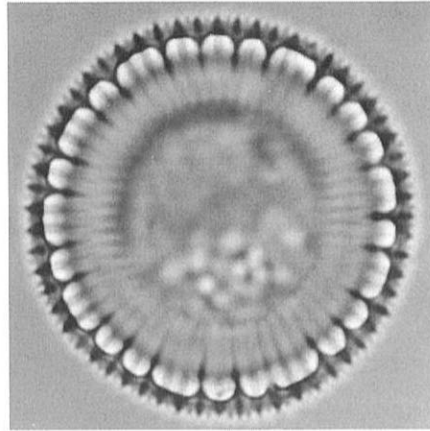
- 安藤一男. 1966. 埼玉県川越市郊外の水田産珪藻類. 秩父自然科学博物館研究報告 13:1-5.
- 安藤一男. 1990. 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理. 42(2):73-88.
- 伊藤良永・堀内誠示. 1991. 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. Diatom 6 :23-44.
- 鬼頭剛・尾崎和美. 1998. 水田の滞水前および滞水時における珪藻群集組成変化. Diatom 14:84.
- 小杉正人. 1986. 現世干潟における珪藻遺骸の運搬・堆積パターン——小櫃川下流域の場合——. 地理学評論. 59 (1):37-50.
- 小杉正人. 1988. 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究 27(1): 1-20.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1986. Bacillariophyceae1. Naviculaceae. In: Ettl, H. et al. (eds.) Süßwasserflora von Mitteleuropa 2/1. pp.876. Gustav Fischer, Stuttgart.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1991a. Bacillariophyceae 3. Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. In: Ettl, H. et al. (eds.) Süßwasserflora von Mitteleuropa 2/3. pp.576. Gustav Fischer, Stuttgart.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1991b. Bacillariophyceae 4. Achnantheaceae Kritische Ergänzungen zu *Navicula* (Lineolatae) und *Gomphonema*. In: Ettl, H. et al. (eds.) Süßwasserflora von Mitteleuropa 2/4. pp.437. Gustav Fischer, Stuttgart.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1997. Bacillariophyceae 2. Bacillariaceae, Epithemiaceae, Surirellaceae. In: Ettl, H. et al. (eds.) Süßwasserflora von Mitteleuropa 2/2. pp.611. Gustav Fischer, Stuttgart.
- Lowe, R.L. 1974. Environmental requirements and pollution tolerance of freshwater diatoms. pp.334. U.S. Environmental Protection Agency EPA-670/4-74-005.
- 撫養健至・山口誠治・後藤敏一. (印刷中). 遺跡調査における珪藻分析の有効性の検討——南遺跡群珪藻分析の総合報告——. 河内平野遺跡群の動態Ⅷ. 大阪府教育委員会 財団法人大阪府文化財調査研究センター.

野口寧世. 1993. 大阪層群の珪藻化石. pp.232-246. *in* 市原 実編「大阪層群」. 創元社.

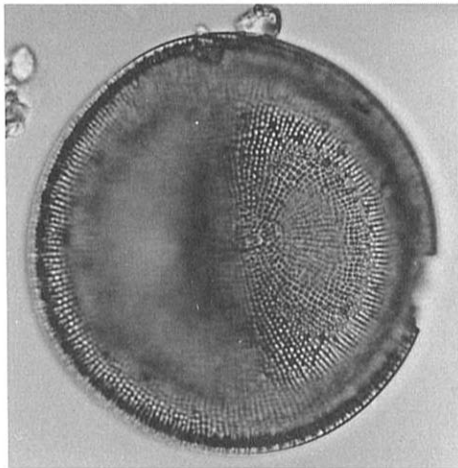
Van Dam, H., Mertens, A. & Sinkeldam, J. 1994. A coded checklist and ecological indicator values of freshwater diatoms from the Netherlands. *Netherlands Journal of Aquatic Ecology* 28(1): 117-133.



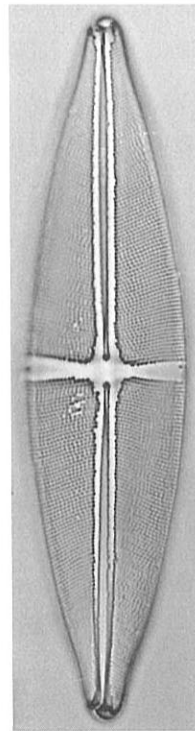
1



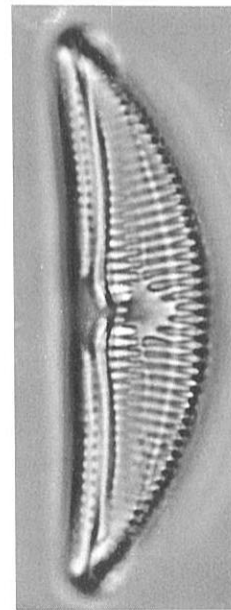
2



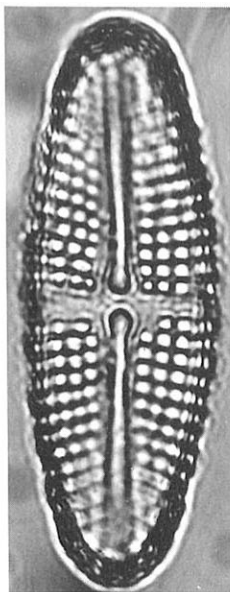
3



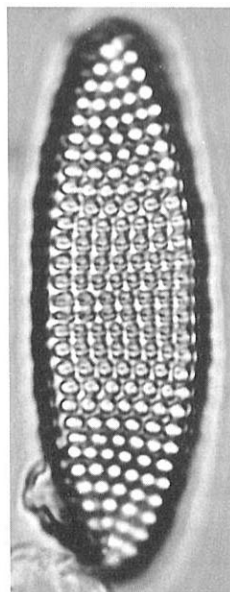
4



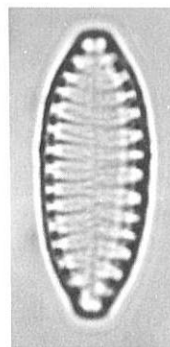
5



6



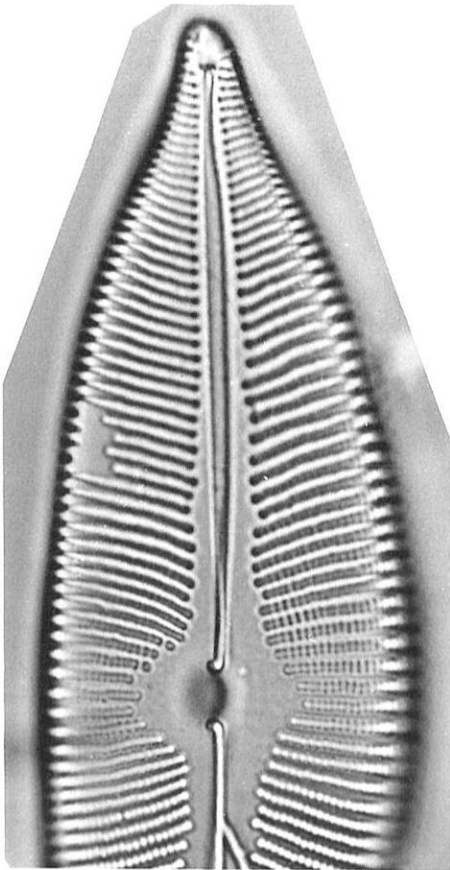
7



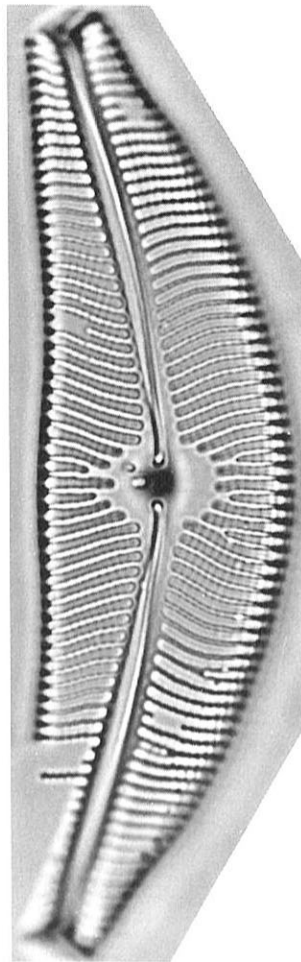
8



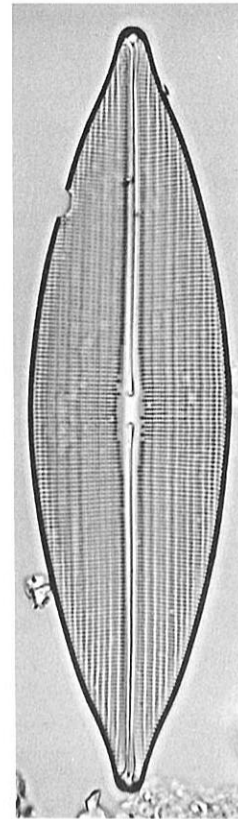
写真14 珪藻 1



9

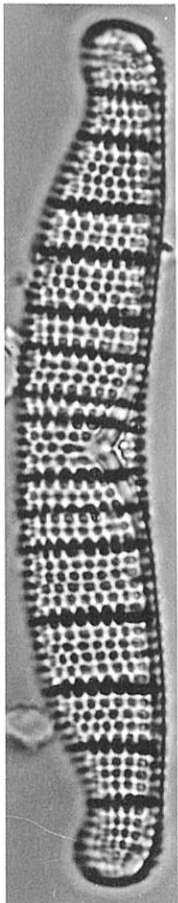


10

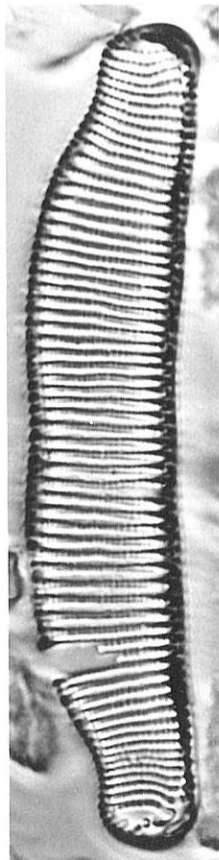


11

10 μm



12



13

学名の後ろの ( ) 内に倍率を示した。表示のない種はすべて2000倍である。図中のスケールは2000倍の写真における10 μmを表わしている。

1. *Cyclotella stylorum* Brightw.
2. *Cyclotella stylorum* Brightw.
3. *Stephanodiscus* sp.1 (×400)
4. *Stauroneis phoenicenteron* (Nitzsch) Ehrenb. (×400)
5. *Amphora copulata* (Kütz.) Schoeman & R.E.M.Archibald
6. *Achnanthes undata* F.Meister
7. *Achnanthes undata* F.Meister
8. *Surirella angusta* Kütz.
9. *Cymbella cuspidata* Kütz.
10. *Cymbella tumida* (Bréb.) Van Heurck
11. *Navicula perrotettii* (Grunov) Cleve (×400)
12. *Epithemia adnata* (Kütz.) Bréb.
13. *Eunotia praeurupta* Ehrenb. *sensu lato*

写真15 珪藻 2

## 第8節 溝咋遺跡出土の自然遺物について

山口 誠治

溝咋遺跡から検出された弥生時代から中世にわたる広範囲の植物遺体及び木製品の樹種及び自然遺物について報告する。また、未同定の植物遺体については、粉川昭平先生に、昆虫遺体は大阪市立自然史博物館の金沢至先生に同定して頂き、その同定結果も含めて報告している。同定した自然遺物は、以下の通りである。

### [裸子植物]

1. イチイ科 Taxaceae カヤ *Torreya nucifera*
2. イヌガヤカ科 Cephalotaxaceae イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia*
3. スギ科 Taxodiaceae コウヤマキ *Sciadopitys verticillata*
4. スギ科 Taxodiaceae スギ *Cryptomeria japonica*
5. ヒノキ科 Cupressaceae ヒノキ *Chamaecyparis obtusa*

### [被子植物]

1. イネ科 Gramineae イネ (炭化米) *Oryza sativa*
2. カヤツリグサ科 Cyperaceae カヤツリグサ属 *Cyperus sp.*
3. カヤツリグサ科 Cyperaceae ホタルイ属 *Scirpus sp.*
4. ツユクサ科 Commelinaceae イボクサ *Aneilema keisak*
5. ヤマモモ科 Myricaceae ヤマモモ *Myrica rubra*
6. クルミ科 Juglandaceae クルミ属 *Juglans sp.*
7. クルミ科 Juglandaceae オニグルミ *Juglans ailanthifolia*
8. ブナ科 Fagaceae アカガシ亜属 *Quercus (Cyclobalanopsis) sp.*
9. ブナ科 Fagaceae イチイガシ *Quercus gilva*
10. ブナ科 Fagaceae コナラ亜属 *Quercus (Lepidobalanus) sp.*
11. ブナ科 Fagaceae クヌギ *Quercus acutissima*
12. クワ科 Moraceae カナムグラ *Humulus scandens*
13. タデ科 Polygonaceae タデ属 *Polygonum sp.*
14. タデ科 Polygonaceae ミゾソバ *Polygonum thunbergii*
15. アカザ科 Chenopodiaceae
16. クスノキ科 Lauraceae クスノキ *Cinnamomum camphora*
17. バラ科 Rosaceae サクラ属 *Prunus sp.*
18. バラ科 Rosaceae スモモ *Prunus salicina*
19. バラ科 Rosaceae ウメ *Prunus mume*
20. バラ科 Rosaceae モモ *Prunus persica*
21. バラ科 Rosaceae ヤマザクラ *Prunus jamasakura*
22. マメ科 Leguminosae クサネム *Aeschynomene indica*

23. ミカン科 Rutaceae カラスザンショウ *Zanthoxylum ailanthoides*
24. センダン科 Meliaceae センダン *Melia azedarach*
25. トウダイグサ科 Euphorbiaceae アカメガシワ *Mallotus japonicus*
26. トチノキ科 Hippocastanaceae トチノキ *Aesculus turbinata*
27. ブドウ科 Vitidaceae ブドウ属 *Vitis sp.*
28. ブドウ科 Vitidaceae ノブドウ属 *Ampelopsis sp.*
29. ツバキ科 Theaceae ヤブツバキ *Camellia japonica*
30. ツバキ科 Theaceae サカキ *Cleyera japonica*
31. スミレ科 Violaceae
32. グミ科 Elaeagnaceae グミ属 *Elaeagnus sp.*
33. エゴノキ科 Styracaceae エゴノキ *Styrax japonica*
34. ナス科 Solanaceae ナス属 *Solanum sp.*
35. スイカズラ科 Caprifoliaceae ニワトコ属 *Sambucus sp.*
36. ウリ科 Cucurbitaceae マクワウリの仲間 *Cucumis melo*
37. ウリ科 Cucurbitaceae ヒョウタンの仲間 *Lagenaria leucantha*
38. ウリ科 Cucurbitaceae ゴキヅル *Actinostemma lobatum*
39. キク科 Compositae オナモミ *Xanthium strumarium*

## [昆虫綱 Insecta]

1. コガネムシ科 Scarabaeidae
2. ゴミムシ科 Harpalidae

## [二枚貝綱 Bivalvia]

1. イシガイ科 Unionidae カラスガイ *Cristaria plicata*
2. イシガイ科 Unionidae イシガイ *Unio douglasiae*

花粉分析結果を加味して、溝作遺跡の弥生から中世までの古環境の復原を目指した。花粉分析や植物遺体の同定結果から古環境復原の全体像を明らかにしようとしたがには、分析結果のばらつきが大きく、地域植生の差のみが明らかになった。なお、出土植物遺体の同定結果を表14~17で報告する。

自然遺物の同定結果より弥生時代から中近世にわたる古植生を考察すると、ほぼ花粉分析結果と同様な結論が得られた。すなわち、弥生時代から古墳時代の遺跡周辺には、スギやイチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科を主体に、モミ、ツガなどを交えた温帯性針葉樹林とアカガシやシイノキ属ーマテバシイ属を中心とした照葉樹林が優勢であり、クマシデ属ーアサダ属、コナラ亜属、ニレ属ーケヤキ属などの落葉広葉樹も生育していたと考えられる。以上の点は、出土した植物遺体からも言えることである。

なお、古墳時代以降アカガシ亜属やシイノキーマテバシイ属が減少したのは、稲作の進展と栽培植物の増加による影響であると想定できる。さらには、花粉分析結果から示唆されている通り、稲作の進展や農具類の開発と同時に照葉樹類の選択的利用が原因で照葉樹林が次第に減少したと考えられる。これは、コガネムシなど昆虫遺体の出土から二次林の拡大と疎林などの存在が考えられ、上記の考えを支持している。

稲作の進展は、イネ科花粉の多産や水田雑草類（アカザ科、ヒユ科、ゴキヅル属、ヨモギ属）など

の花粉や植物遺体の検出からも推定できる。それに、イネのほかモモ、ウメ、マクワウリの仲間、ウリ科、ナス属、ヒョウタンの仲間など栽培植物が出土していることによっても、稲作と同時に畑作の進展もあったと考えている。

また、イネ属型の花粉多産から水田遺構を支持しているが、多数出土する炭化米から稲作の進展を実証できる。

#### 参考文献

- 大井次三郎・北川政夫 1983 『新日本植物誌 顕花篇』至文堂  
 島地謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版

表14 植物遺体同定結果(1)

区	層・面名	遺構名	出土年月日	備 考	同 定 内 容		
A	茶黒土層	排水溝 1	951227	木製品	不明		
A		穴315	960109	〃	ヒノキ		
A		土坑98	960113	木製品 (漆塗り部分 2カ所)	ヒノキ		
A		土坑98	960113	〃	不明		
A		土坑98	960113	〃	不明		
A		P380	960129	〃	不明		
A		土坑124	960124	植物遺体	ナス属 1個		
A		土坑109	960125	〃	アカザ科 1個、カヤツリグサ属 1個、スマレ科 1個		
A		溝120砂層	960110	〃	ヒョウタンの仲間多数		
A		溝120砂層	960110	〃	炭化米 3個、タテ属 1個		
B		7層		950717	〃	不明	
B			木器集中地点	950713	木製品 (欠損ほとんどなし)	不明	
B			木器集中地点	950713	〃	不明	
B			木器集中地点	950714	〃	ヒノキ	
B	河川 2 シガラミ		950630	〃	マクワウリの仲間多数、アカガシ亜属幼果 2個、アカメガシワ 2個、オナモミ 9個、ブドウ属 2個、ゴキツル 1個、エゴノキ 1個、カナムグラ 1個、ノブドウ属 2個、グミ 1個、炭化米 1個、バラ科トゲ 1個、ヤマザクラ核 1個、ヒョウタンの仲間 2個、モモ核 5個		
C	7層		950825	〃	不明		
C		2層	950907	〃	不明		
C		9層	951012	木製品 (ほぞ穴めぐり 2カ所)	不明		
C		9層	951012	木製品 (ほぞ穴有)	不明		
C		9層	951013	〃	不明		
C		9層	951013	木製品 (ほぞ穴 1カ所)	ヒノキ		
C		9層	951013	木製品 [田下駄? ほぞ穴 3カ所]	不明		
C			溝61	951023	木製品 (孔あり)	不明	
C			溝61	951023	木製品 (ほぞ穴有)	ヒノキ	
C		西 7層		951214	〃	ヒノキ	
C			8層	包含層	951218	木製品 (欠損ほとんどなし)	不明
C				河川 4	951220	〃	ヒノキ
C				河川 4	951220	木製品 (ほぞ穴有)	ヒノキ
C				河川 4	951221	〃	ヒノキ
C		河川 4	951221	〃	ヒノキ		
C	8面	大畦下	960130	〃	ヒノキ		
2 A-1		北側側溝	961028	貝類	カラスガイ貝殻 1個		
2 A-1	木屑層	井戸 3	961204	〃	コガネムシ科頭部片 1点、上翅片 2点、カナムグラ 50個、ノブドウ属 2個、イボクサ 1個、カラスザンショウ 1個		
2 A-2		土坑28	961017	木製品 (先端部に削り有・樹皮残存)	不明		
2 A-2		土坑34	961018	〃	不明		
2 A-2		土坑75	961024	木製品 (中央部に軸残存)	ヒノキ		
2 A-2	1層		961029	〃	不明		
2 A-2	木屑層	井戸 3	961204	〃	クスノキ		

表15 植物遺体同定結果(2)

区	層・面名	遺構名	出土年月日	備 考	同 定 内 容
2 A-2	4面	木2	961213	木製品(ほぞ穴有)	不明
2 A-2	4面		961213	"	不明
2 A-2	4面	木7	961213	"	不明
2 A-2	5面	木9	961213	"	不明
2 A-2	5面	木10	961213	木製品(ほぞ穴有)	ヒノキ
2 A-2	6面	溝120	970107	"	不明
2 A-2	6面	溝120砂層	970109	"	アカガシ亜属
2 A-2	6面	土坑85	970204	"	コナラ亜属
2 A-2	6面	土坑80	970113	"	不明
2 A-2	6面	土坑80	970113	"	不明
2 A-2	6面	土坑80	970113	"	ヒノキ
2 A-2	6面	土坑80	970113	"	不明
2 A-2	6面	溝120	970224	木製品(ほぞ穴有)	不明
2 A-2	6面	溝120	970224	木製品(組み合わせ溝有)	不明
2 A-2	6面	溝120	970224	木製品(ほぞ穴有)	不明
2 A-2	6面	土坑85	970414	"	不明
2 A-2	6面	土坑98上層	970414	木製品くほぞ穴有)	不明
2 A-2	6面	土坑98上層	970414	"	クスノキ
2 A-2	6面	土坑98上層	970414	木製品(焦部あり)	不明
2 A-2	6面	土坑98下層	970417	"	コナラ亜属
2 A-2	6面	土坑98	970407	"	不明
2 A-2	6面	土坑98	970113	"	ヒノキ
2 A-2	6面	土坑108	970108	"	ヒノキ
2 A-2	6面	土坑130上層	970417	木製品(樹種の採取なし?)	不明
2 A-2	6面	穴812	970417	木製品(ほぞ穴有)	ヒノキ
2 A-2	6面	穴1497	970418	"	ヒノキ
2 A-2	6面	穴1586	970430	木製品(盤として転用)	ヒノキ
2 A-2	7面		970430	"	ヒノキ
2 A-2	7面	穴1586	970509	"	ヒノキ
2 A-2	7面	土坑83	970509	"	アカガシ亜属
2 A-2	7面	土坑150	970502	"	ヒノキ
2 A-2	7面	穴1672	970512	"	ヒノキ
2 A-2	7面	土坑149	970502	木製品(木釘、1カ所残存)	ヒノキ
2 A-2	7面	穴1760	970523	"	不明
2 A-2	7面	土坑152	970526	"	不明
2 A-2	7面	穴2013	970610	"	サカキ
2 A-2	7面	溝123上層	970611	木製品(ほぞ穴2カ所有)	ヒノキ
2 A-2	7面	溝123上層	970611	木製品(表面キズ多い)	トチノキ
2 A-2		土坑165	970610	貝類	イシガイ殻皮層1個
2 A-2		土坑130中層	970417	古墳時代昆虫	コガネムシ科頭部1点、上翅片3点
2 A-2		土坑149	970512	古墳時代昆虫	コガネムシ科頭部片1点
2 A-2		土坑125	960124	植物遺体	モモ核1個
2 A-2		P-485	960126	"	モモ核半分2個
2 A-2		P-657	960202	"	モモ核1個
2 A-2	6面	土坑129	970107	"	モモ核1個
2 A-2		溝120一砂層	961225	"	モモ核半分1個
2 A-2		溝120	961225	"	モモ核半分1個
2 A-2		溝120	961225	"	モモ核半分1個
2 A-2		溝120一砂層	961226	"	モモ核1個
2 A-2		溝120一砂層	970107	"	モモ核2個
2 A-2	6面	土坑85	970620	"	コガネムシ料上翅4点
2 A-2	6面	土坑85	970620	"	ヤブツバキ果皮片2個
2 A-2		土坑98上層	970417	古墳時代	オナモミ1個、マクワウリの仲間4個
2 A-2		土坑85上層	970417	古墳時代	カナムグラ11個、マクワウリの仲間7個、炭化米1個
2 A-2		土坑85下層	970417	古墳時代	クサネムシ分果4個、モモ核半分2個、スモモ核1個、炭化米12個、ヒョウタンの仲間2個、カナムグラ1個
2 A-2	6面	土坑82下層	970417	"	モモ核8個
2 A-2		土坑108上層	970417	古墳時代	不明
2 A-2		土坑130中層	970417	古墳時代	不明

表16 植物遺体同定結果(3)

区	層・面名	遺構名	出土年月日	備 考	同 定 内 容
2 A-2		土坑130中層	970417	〃	モモ核1個、ナス属1個、ホタルイ属41個、ヒョウタン仲間684個、オナモミ3個、マクワウリの仲間2個、カナムグラ19個、カラスザンショウ4個
2 A-2		土坑150	970509	〃	モモ核3個、半分1個
2 A-2		土坑149	970512	古墳時代	アカガシ亜属果皮4個、マクワウリの仲間4個、炭化米2個、ニワトコ属1個、カナムグラ1個、ノブドウ属1個
2 A-2	8層		970519	植物遺体	モモ核1個
2 A-2		穴1784	970519	〃	モモ核半分1個
2 A-2		穴1770	970522	〃	モモ核1個
2 A-2		土坑159	970527	〃	モモ核2個
2 A-2		土坑159	970527	〃	モモ核2個、破片2個
2 A-2		土坑130	970530	〃	モモ核1個
2 A-2		溝167	970625	〃	トチノキ1個
2 A-2		溝120一砂層	970109	〃	コナラ亜属葉3枚、アカガシ亜属葉3枚
2 A-2	6面	土坑159	970527	〃	モモ核1個、トチノキの果皮1個
2 A-2	6面	土坑108上層	970417	〃	モモ核2個、半分4個、破片4個、カナムグラ21個、炭化米19個、マクワウリの仲間5個、ヒョウタンの仲間4個
2 A-2		穴931	961219	古墳時代木製品	ヒノキ
2 A-2		穴1310	970113	〃	コナラ亜属
2 A-2		穴635	970417	〃	ヒノキ
2 A-2		穴648	970417	〃	コナラ亜属
2 A-2		穴650	970411	〃	コナラ亜属
2 A-2		穴922	970313	〃	ヒノキ
2 A-2		穴901	970418	〃	クスノキ
2 A-2		穴1031	970418	〃	ヒノキ
2 A-2		穴1203	970418	〃	ヒノキ
2 A-2		穴1414	970417	〃	クスノキ
2 A-2		穴1590	970507	古墳時代木製品	ブナ
2 A-2		穴1597	970507	古墳時代木製品	ブナ
2 A-2		穴1600	970507	〃	ヤブツバキ
2 A-2		穴1653	970509	〃	アカガシ亜属
2 A-2		穴1653	970509	〃	アカガシ亜属
2 A-2		穴1737	970509	古墳時代	アカガシ亜属
2 A-2		穴1737	970509	〃	アカガシ亜属
2 A-2		穴1725	970512	古墳時代	クスギ
2 A-2		穴704	970530	〃	コナラ亜属
2 A-2		穴1738	970526	〃	ヒノキ
2 A-2		穴116	960713	中・近世	ヒノキ
2 A-2		穴287	960729	中・近世	ヒノキ
2 A-2		穴454	960729	〃	ヒノキ
2 A-2		穴450	960823	〃	ヒノキ
2 A-2		穴551	960823	中・近世	ヒノキ
2 A-2		穴556	960823	中・近世	ヒノキ
2 A-2		穴584	960823	〃	ヒノキ
2 A-2	6面	土坑130上層	970417	〃	不明
2 B		溝14	960823	木製品(ほぞ穴3カ所有)	ヒノキ
2 B		東側側溝	960828	〃	ヒノキ
2 B	7層(洪水砂)		960903	〃	ヒノキ
2 B	7層(洪水砂)		960904	木製品(ほぞ穴3カ所有)	ヒノキ
2 B		溝14	960905	〃	ヒノキ
2 B		溝14	960906	〃	ヒノキ
2 B		木製品1	960911	木製品(欠損ほとんどなし)	ヒノキ
2 B	8層	包含層	960912	木製品(足跡圧痕、顕著)	ヒノキ
2 B	8層	包含層	960912	木製品(足跡圧痕、顕著)	ヒノキ
2 B	8-2層		960919	木製品(ほぞ穴3カ所有)	スギ
2 B	8-2層		960919	〃	ヒノキ
2 B		南西側溝	960919	〃	ヒノキ
2 B		溝17	960918	木製品(穿孔有)	ヒノキ
2 B		溝17	960918	〃	不明
2 B	8層	包含層	960924	〃	不明



表17 植物遺体同定結果(4)

区	層・面名	遺構名	出土年月日	備 考	同 定 内 容
2 B	8層	包含層	960924	〃	コウヤマキ
2 B		東側側溝	960925	〃	不明
2 B	8-2層	包含層	960927	〃	ヒノキ
2 B	8-2層	包含層	961001	〃	ヒノキ
2 B	8-2層	包含層	961001	〃	ヒノキ
2 B	8-2層	畦の下	961009	〃	スギ
2 B	8-2層	畦の下	961011	〃	ヒノキ
2 B	8-2層	畦の下	961011	木製品 (ほぞ穴有)	ヒノキ
2 B	8-2層	畦の下	961011	〃	ヒノキ
2 B		溝16	960826	〃	ヒノキ
2 B		溝14	960904	〃	モモ核1個
2 B	7面		960906	〃	モモ核1個
2 B	8層		960912	〃	モモ核1個
2 B	8-2層		960914	〃	モモ核1個
2 B	8-2層		960920	〃	モモ核1個
2 B	8-2層		960920	〃	モモ核2個
2 B	8-3層		960924	〃	モモ核2個
2 B	7層		970318	〃	モモ核1個
2 C	8層	包含層	970313	〃	トチノキ
2 C	8面		970328	〃	ヒノキ
2 C	8面		970328	〃	ヒノキ
2 C	10-1層	包含層	970331	木製品 (ほぞ穴2カ所有)	ヒノキ
2 C	10-1層	包含層	970401	木製品 (ほぞ穴2カ所有)	ヒノキ
2 C	10-1層	包含層	970407	〃	ヒノキ
2 C	10面	大畦4	970414	〃	ヒノキ
2 C	10面	大畦4	970415	木製品 (他に比べ細い)	不明
2 C	10-2層	包含層	970415	木製品 (ほぞ穴有)	ヒノキ
2 C	10-2層	包含層	970416	木製品 (ほぞ穴3カ所有)	スギ
2 C	10-1層	大畦4下	970418	〃	ヒノキ
2 C	10-1層	大畦4下	970423	木製品 (ほぞ穴有)	不明
2 C	10-1層	大畦4下	970423	木製品 (ほぞ穴有)	ヒノキ
2 C	10-1層	大畦4下	970423	〃	ヒノキ
2 C	10-1層	大畦4下	970423	〃	ヒノキ
3 B	5層			〃	モモ核半分1個
3 B		溝1		〃	モモ核1個
3 B		溝2		〃	モモ核3個、半分3個、アカメガシワ1個
3 B	7層			〃	モモ核2個、半分2個
3 B		穴20		〃	モモ核半分1個
3 B		穴22		〃	モモ核半分1個
3 B		穴61		〃	モモ核破片1個
3 C		土坑2		〃	カヤ1個
3 C	2層			〃	センダン1個
3 C	8面			〃	モモ核1個
3 D		穴488		〃	モモ核1個
3 D		穴776		〃	モモ核1個
3 D		穴788		〃	モモ核1個
3 D		穴945		〃	モモ核1個
3 D		河川2下層		〃	モモ核破片1個、アカガシ亜属殻斗2個、幼果1個、トチノキ果皮片2個、コナラ亜属殻斗9個、カナムグラ3個、アカメガシワ1個、イヌガヤ1個、ヒョウタンの仲間1個
3 D		5層-河川2		〃	モモ核破片2個、ヒョウタンの仲間2個
3 D		河川2		〃	ウメ核半分1個
3 E	5層			〃	モモ核半分1個、クルミ属1個
3 F	7層			〃	モモ核1個
3 F	8層			〃	モモ核5個
3 G	5面			〃	モモ核1個
3 G	6層			〃	モモ核7個
3 G	7層			〃	モモ核5個、破片5個

## 第9節 溝咋遺跡出土の人骨と動物遺体

大阪市立大学医学部第二解剖室 安部みき子

溝咋遺跡出土の人骨の保存は悪く、残存部位は頭骨の前頭骨と頭頂骨の一部のみであった。残存している頭骨片は性の推定ができる部位ではなかったが、頭頂骨の断面は厚く男性の可能性が高い。年齢は冠状縫合が閉鎖し、内面の縫合線は消えかかっていることより、30～50才と推定される。

この人骨の右頭頂骨は正中より約1.5cm右の冠状縫合より始まり後外側へ約13cmの切断面がみられ、これは刀などの刃物による傷跡と思われる。

(図282の説明) 斜線部が残存部位

矢印は刃物によると思われる切断面

人骨の他にウマの臼歯と、種は不明の小型の魚の椎骨が出土している。ウマの臼歯の保存は悪く、エナメル質のみ破片で出土している。この歯は未萌出で、部位の特定はできなかった。魚の椎骨は焼けていた。

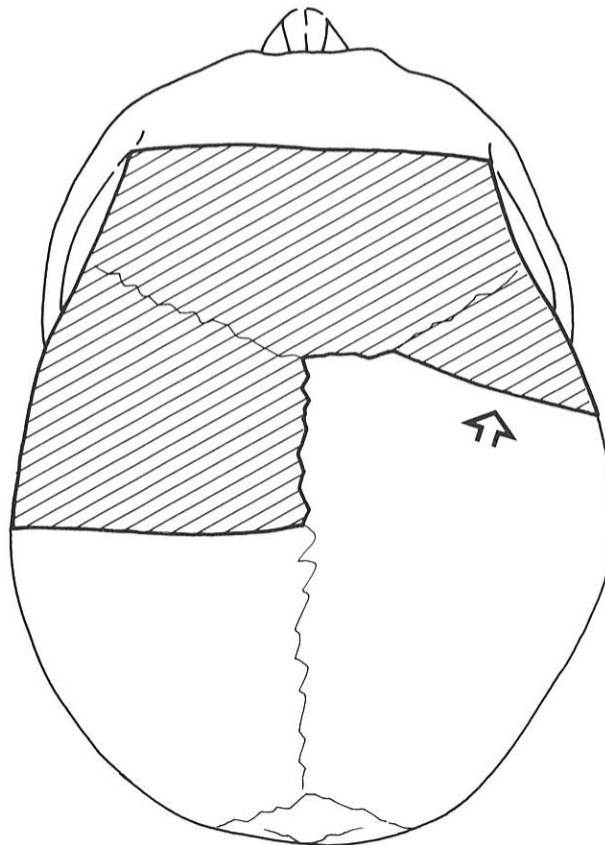


図282 頭骨模式図

## 第10節 溝咋遺跡（その2）脂肪酸分析

帯広畜産大学生物資源科学科 中野益男

株式会社ズコーシャ総合科学研究所 中野寛子・長田正宏

### 第1項 はじめに

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質、核酸、糖質（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で、圧力、水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく、土の中に棲んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは、地下水位の高い低地遺跡、泥炭遺跡、貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。(1)最近、ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと<sup>(1)</sup>、古代遺跡から出土した約2千年前のトウモロコシ種子<sup>(2)</sup>、約5千年前のバーゼルナッツ種子<sup>(3)</sup>に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態に保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した<sup>(4)</sup>。

脂質は有機溶媒に溶けて、水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質、単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス（種）が脂肪酸であり、その種類、含量ともに脂質中では最も多い。脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸、植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように、動植物は種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても、動物性のはコレステロール、植物性のはシトステロール、微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って出土遺物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組成と現生動植物のそれとを比較することによって、目に見える形では遺存しない原始古代の動植物を判定することが可能となる。

このような出土遺物に残存する脂肪を分析する方法を「残存脂肪分析法」という。この「残存脂肪分析法」を用いて、溝咋遺跡から出土した土器棺の性格を解明しようとした。

### 第2項 土壌試料

大阪府茨木市に所在する溝咋遺跡から出土した、弥生時代後期のものと推定されている土器棺内の土壌試料を分析した。遺跡内での土器棺の配置状況および土器棺内での試料採取地点を図154・155に示す。試料1・2は土器棺1、3～5は土器棺3のもので、いずれも土器棺下半部から採取した。

### 第3項 残存脂肪の抽出

土壌試料120～262 gに3倍量のクロロホルム-メタノール（2：1）混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液を濾過後、残渣に再度クロロホルム-メタノール混液を加え、再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に1%塩化バリウムを全抽出溶媒の4分の1容量加え、クロロホルム層と水層に分配し、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を表18に示す。抽出率は0.0028～0.0078%、平均0.0043%であった。この値は全国各地の遺跡から出土した土壌、石器、土器等の試料の平均抽出率0.0010～0.0100%の範囲内のものであ

表18 土壌試料の残存脂肪抽出量

試料No.	採取地点	湿重量 (g)	全脂質 (mg)	抽出率 (%)
1	土器棺 1-②	163.1	4.6	0.0028
2	” -③	163.8	4.7	0.0029
3	土器棺 3-②	193.2	7.2	0.0037
4	” -③	261.8	11.3	0.0043
5	” -④	119.7	9.3	0.0078

た。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂質で構成されていた。このうち遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪酸の結合したトリアシルグリセロール（トリグリセリド）、ステロールエステル、ステロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

#### 第4項 残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪の遊離脂肪酸とトリアシルグリセロールに5%メタノール性塩酸を加え、125℃封管中で2時間分解し、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルを含む画分をクロロホルムで分離し、さらにジアゾメタンで遊離脂肪酸を完全にメチルエステル化してから、ヘキサン-エチルエーテル-酢酸（80:30:1）またはヘキサン-エーテル（85:15）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した<sup>(5)</sup>。

残存脂肪の脂肪酸組成を図283に示す。残存脂肪から8種類の脂肪酸を検出した。このうちパルミチン酸（C16:0）、ステアリン酸（C18:0）、オレイン酸（C18:1）、リノール酸（C18:2）、アラキジン酸（C20:0）、ベヘン酸（C22:0）、リグノセリン酸（C24:0）の7種類の脂肪酸をガスクロマトトグラフィー-質量分析により同定した。

試料中の脂肪酸組成パターンを見ると、すべての試料がほぼ同一のパターンを示した。このうち炭素数18までの中級脂肪酸は、すべての試料中で主要な脂肪酸がパルミチン酸で約61~70%分布し、次いでステアリン酸が多かった。試料5ではステアリン酸とオレイン酸がほぼ同程度分布していた。一般に考古遺物にはパルミチン酸が多く含まれている。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解し、パルミチン酸を生成するため、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来していると推定される。ステアリン酸は動物体脂肪や植物の根に比較的多く分布している。オレイン酸の分布割合の高いものとしては、動物性脂肪と植物性脂肪の両方が考えられ、植物性脂肪は特に根、茎、種子に多く分布するが、動物性脂肪の方が分布割合は高い。リノール酸は主として植物種子・葉に多く分布する。

一方高等動物、特に高等動物の臓器、脳、神経組織、血液、胎盤に特徴的にみられる炭素数20以上のアラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸などの高級飽和脂肪酸はそれら3つの合計含有率が試料5で約8%、他のすべての試料中で約13~20%であった。通常の遺跡出土土壌中でのアラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸の高級飽和脂肪酸3つの合計含有率は約4~10%であるので、試料5のそれは通常の遺跡出土土壌並みで、他のすべての試料中でのそれはやや高かった。高級脂肪酸含有量が多い場合としては、試料中に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等の特殊な部分が含まれている場合と、植物の種子・葉などの植物体の表面を覆うワックスの構成成分が含まれている場合とがある。高級脂肪酸が動物、

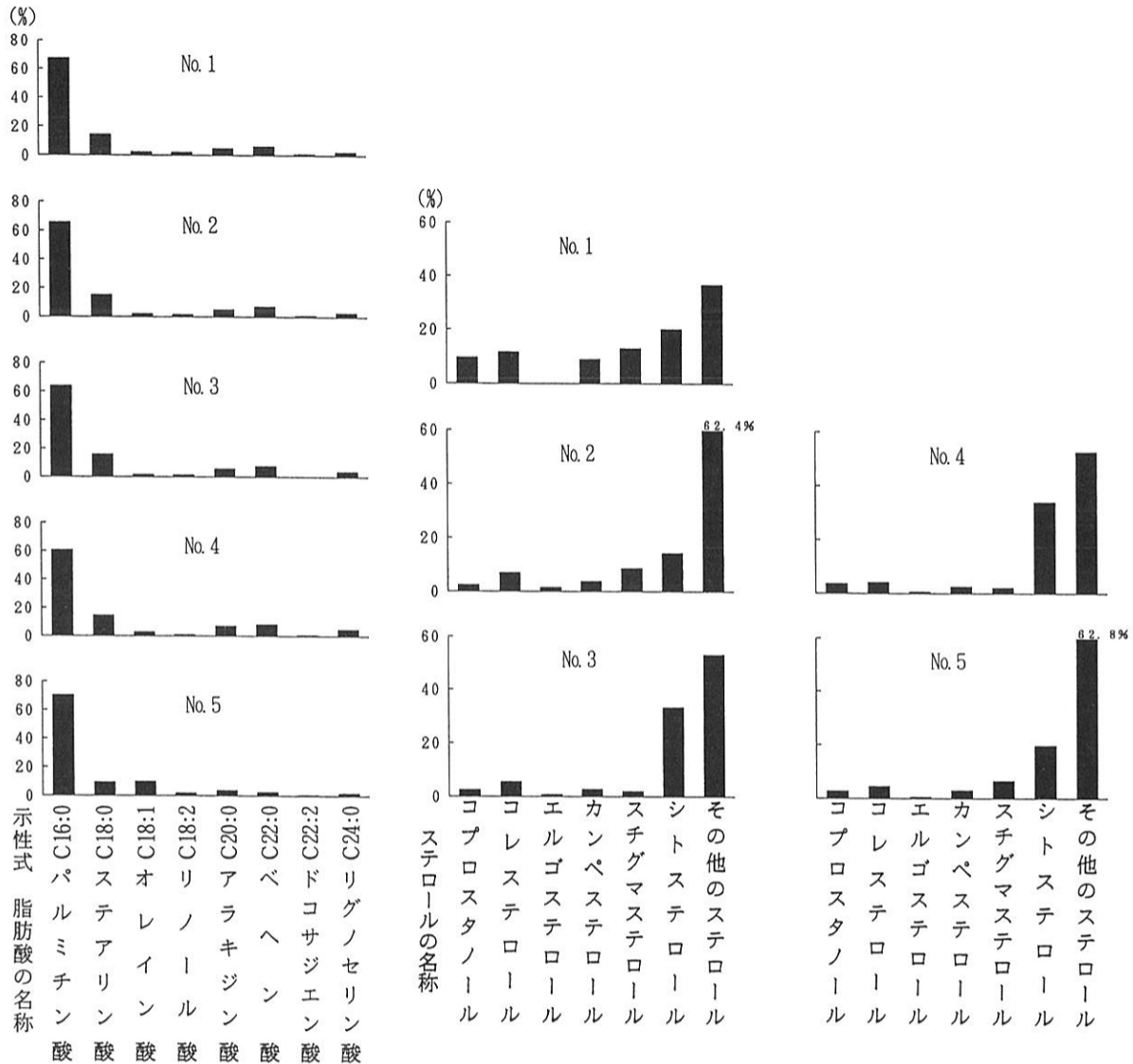


図283 試料中に残存する脂肪の脂肪酸・ステロール組成

植物のどちらに由来するかは、コレステロールの分布割合によって決めることができる。概して、動物に由来する場合はコレステロール含有量が多く、植物に由来する場合はコレステロール含有量が少ない。

以上、溝柙遺跡の試料中では主要な脂肪酸がパルミチン酸で全脂肪酸の約3分の2を占め、次いでステアリン酸が多いことがわかった。土器棺3の試料5ではステアリン酸とオレイン酸がほぼ同程度分布していた。高級脂肪酸は試料5に通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みに分布しており、他のすべての試料中にはそれよりもやや多く分布していることもわかった。

### 第5項 残存脂肪のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキサノール-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ピリジン-無水酢酸(1:1)を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にする。得られた誘導体をもう一度同じ展開溶媒で精製してから、ガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を図283に示す。残存脂肪から13~17種類のステロールを検出した。このうちコプロスタノール、コレステロール、エルゴステロール、カンペステロール、スチグマステロール、シトステロールなど8種類のステロールをガスクロマトグラフィー-質量分析に

より同定した。

各試料中のステロール組成をみると、動物由来のコレステロールは試料1に約12%、他のすべての試料中に約4~7%分布していた。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは2~6%分布している。従って、コレステロール含有量は試料1にやや多く、他のすべての試料中ではほぼ通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

植物由来のシトステロールはすべての試料中に約14~34%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはシトステロールは30~40%もしくはそれ以上に分布している。従って、シトステロール含有量はすべての試料中で通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みか少なめであった。

クリ、クルミ等の堅果植物由来のカンペステロール、スチグマステロールは、カンペステロールが試料1に約9%、他のすべての試料中に約3~4%、スチグマステロールが試料1に約13%、他のすべての試料中に約2~9%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはカンペステロール、スチグマステロールは1~10%分布している。従って、試料中のカンペステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みではあるがその中では試料1でやや多めで、スチグマステロール含有量は試料1で通常の植物腐植土中でよりもやや多く、他のすべての試料中では通常の植物腐植土並みであった。

微生物由来のエルゴステロールは痕跡程度しか検出されないものもあったが、検出されるものには約0.5~1.5%分布していた。この程度の量は土壌微生物の存在による結果と考えられる。

哺乳動物の腸および糞便中に特異的に分布するコプロスタノールは試料1に約10%、他のすべての試料中に約2~4%分布していた。コプロスタノールは一般的な遺跡出土土壌中では分布していても1~2%くらいで、通常は殆ど検出されない。また、コプロスタノールの分布により試料中での哺乳動物の存在を確認することができる他に、通常コプロスタノールが10%以上含まれていると、コプロスタノールとコレステロールの分布比から試料中に残存している脂肪の動物種や性別、また遺体の配置状況などが特定できる場合がある。今回は試料1にかなり多く含まれており、他のすべての試料中にも通常の遺跡出土土壌中でよりもわずかに多く含まれていた。このことはすべての試料中に哺乳動物の腸もしくは糞便由来の脂肪が残存していたことを示唆している。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壌で0.6以上、土器・石器・石製品で0.8~23.5をとる。<sup>(7)</sup> 試料中のコレステロールとシトステロールの分布比を表19に示す。表からわかるように分布比は試料1と2が約0.5前後、3~5が0.2前後であった。試料1と2の値は指標値の0.6に近いもので、これらの試料中は動物遺体または動物由来の脂肪が残存していることを示唆している。分布比で見ると試料3~5には動物遺体または動物由来の脂肪が残存して

表19 試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合

試料No.	コレステロール (%)	シトステロール (%)	コレステロール/シトステロール
1	11.60	20.09	0.58
2	6.97	14.39	0.48
3	5.59	33.37	0.17
4	4.20	34.20	0.12
5	4.56	19.83	0.23

いる可能性は少ないことになる。しかし、コプロスタノールが分布しているということは動物遺体の存在を示唆しており、コレステロールの分布とコプロスタノールの分布は動物由来の脂肪の判定で一致していなかった。

以上、溝咋遺跡の試料中に含まれている各種ステロール類は、動物由来のコレステロールが土器棺1試料1にやや多く、哺乳動物の腸もしくは糞便由来のコプロスタノールが同じ試料1にかなり多く、堅果植物由来のスチグマステロールも試料1にやや多く、その他のステロールは通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みか少なめであることがわかった。コレステロールとシトステロールの分布比は土器棺1試料が0.6に近く、この試料中に動物遺体または動物由来の脂肪が残存している可能性があることがわかった。試料1にはコプロスタノールがかなり多く分布してはいたが、コプロスタノールとコレステロールの分布比を算出して動物種を推定するほどの量ではなかった。脂肪酸分析でやや多めに分布していた高級飽和脂肪酸は、コレステロールの含有量を考えると土器棺1の方は動物性脂肪に由来することがわかったが、土器棺2の方は植物腐植土の中に微量の動物性脂肪が残存している形態のものに由来すると考えられる。

### 第6項 脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料の類似度を調べた。同時に試料中に残存する脂肪の持主を特定するために、同じ大阪府内の遺跡で出土土壌にヒト遺体を直接埋葬した場合と類似の脂肪が残存していると判定した大庭寺遺跡<sup>(10)</sup>、西大井遺跡<sup>(11)</sup>、本町遺跡<sup>(12)</sup>、蛭池遺跡<sup>(13)</sup>、宮の前遺跡(その2)<sup>(14)</sup>、服部遺跡<sup>(15)</sup>、

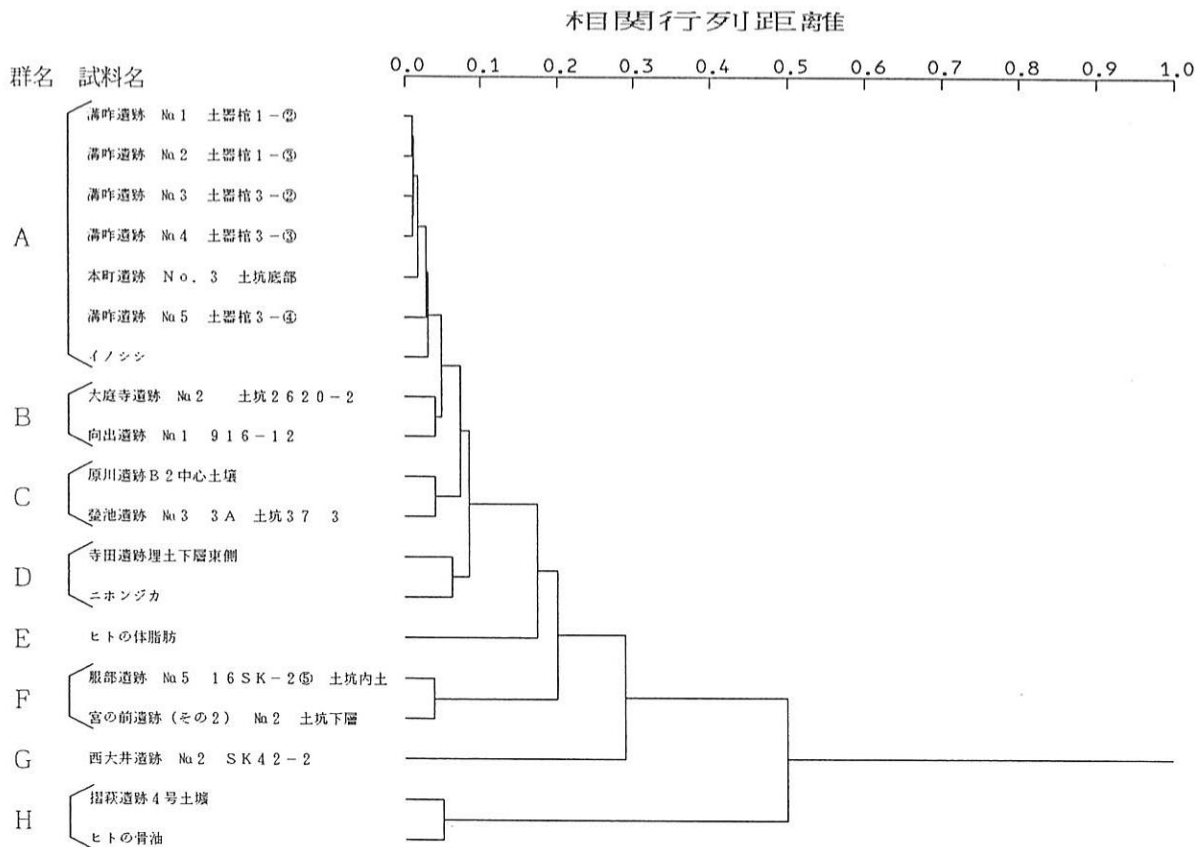


図284 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図

向出遺跡<sup>(16)</sup>、兵庫県寺田遺跡<sup>(17)</sup>、出土土器を幼児埋葬用甕棺と判定した静岡県原川遺跡<sup>(18)</sup>、ヒトの体脂肪、出土土壌を再埋葬と判定した宮城県摺萩遺跡<sup>(19)</sup>、ヒトの骨油、イノシシ、シカ試料など、各種遺跡試料や現生試料の脂肪酸との類似度を比較した。予めデータベースの脂肪酸組成とクラスター分析を行い、その中から出土状況を考慮して類似度の高い試料を選び出し、再びクラスター分析によりパターン間距離にして表したのが図284である。

図からわかるように、溝咋遺跡のすべての試料は本町遺跡の試料やイノシシ試料と共に相関行列距離0.05以内でA群を形成し、非常によく類似していた。他の対照試料はB～H群を形成した。これらの群のうちA～D群は相関行列距離で0.1以内の所にあり、よく類似していた。また、A群はC～F群とも相関行列距離0.2以内の所にあり、順次少しずつ類似していた。

以上、溝咋遺跡のすべての試料中に残存する脂肪は、ヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料やイノシシ、ニホンジカのような動物試料の脂肪と類似していることがわかった。

### 第7項 脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために、中級脂肪酸（炭素数16のパルミチン酸から炭素数18のステアリン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸まで）と高級脂肪酸（炭素数20のアラキジン酸以上）との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等に由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒト胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点から離れた位置に植物腐植、第3象限から第4象限にかけての原点から離れた位置に海産動物に由来する脂肪が分布する。

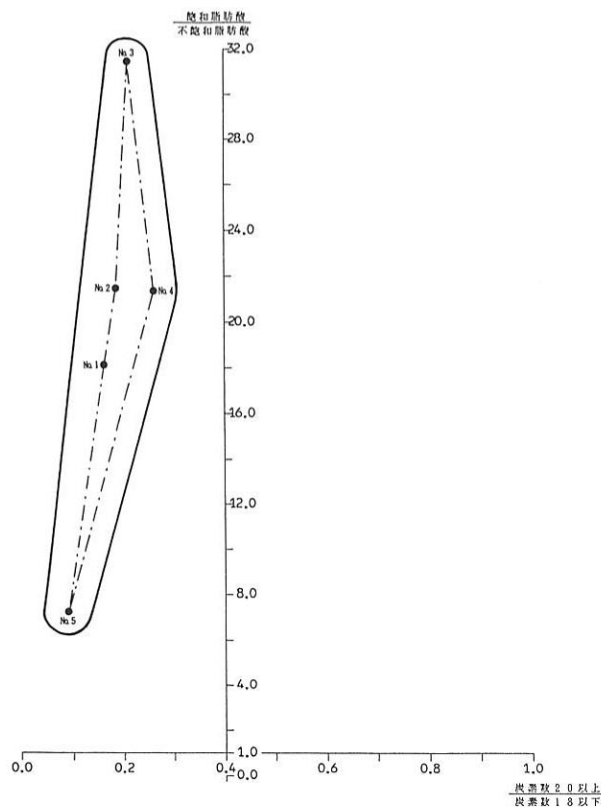


図285 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

土壌試料の残存脂肪から求めた種特異性相関を図285に示す。図からわかるように、溝咋遺跡のすべての試料は第2象限内の非常に広い範囲に分布していた。この分布位置は試料中に残存する脂肪が高等動物の体脂肪や骨油に由来することを示唆している。

以上、溝咋遺跡の試料中に残存する脂肪は高等動物の体脂肪や骨油に由来することがわかった。

### 第8項 総括

溝咋遺跡から出土した土器棺の性格を判定するために、土器棺内の土壌試料の残存脂肪分析を行った。残存する脂肪の脂肪酸分析、ステロール分析、脂肪酸組成の分布に基づく数理解析の結果、土器棺1と土器棺3に残存する脂肪は、ヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料やヒトの体脂肪試料と類似していることがわかった。溝咋遺跡の試料はイノシシ、ニホンジ



カのような動物試料とも類似しているが、これはヒトの脂肪とイノシン、ニホンジカのような動物の脂肪とには脂肪酸の組成に大差がないために、残存脂肪含有量が少ない場合にはそれらの脂肪が植物腐植土中の脂肪で希釈されて、これらの動物を識別することが難しくなるためである。これらの動物を明確にするには動物種特有の抗原抗体反応を用いた免疫試験を行うか、遺構・遺物の出土状況や形状等を考慮して、これらの動物のうちいずれに類似するかを判定する必要がある。今回の試料中には哺乳動物の腸もしくは糞便由来のコプロスタノールがかなり多く分布しているものもあったが、ヒト遺体が男女のいずれであるかの判定まではできなかった。

#### 参考文献

- (1) R.C.A. Rottlander and H.Schlichtherle : 「Food identification of samples from archaeological sites」『Archaeo Physika』10巻 1979 pp.260
- (2) D.A. Priestley, W.C.Galinat and A.C.LeoPold : 「Preservation of polyunsaturated fatty acid in ancient Anasazi maize seed」『Nature』292巻 1981 pp.146
- (3) R.C.A.Rottlander and H.Schlichtherle : 「Analyse fruhgeschichtlicher GefaB - inhalte」『Naturwissenschaften』70巻 1983 pp.33
- (4) 中野益男 : 「残存脂肪分析の現状」『歴史公論』第10巻(6) 1984 pp.124
- (5) M.Nakano and W.Fischer : 「The Glycolipids of Lactobacillus casei DSM 20021」『Hoppe - Seyler's Z. Physiol. Chem.』358巻 1977 pp.1439
- (6) 中野益男 : 「残留脂肪酸による古代復元」『新しい研究法は考古学になにをもたらしたか』田中 琢、佐原 眞編 クバプロ 1995 pp.148
- (7) 中野益男、伊賀 啓、根岸 孝、安本教傳、畑 宏明、矢吹俊男、佐原 眞、田中 琢 : 「古代遺跡に残存する脂質の分析」『脂質生化学研究』第26巻 1984 pp.40
- (8) 中野益男 : 「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」『真脇遺跡』能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団 1986 pp.401。
- (9) 中野益男、根岸 孝、長田正宏、福島道広、中野寛子 : 「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」『ヘロカルウス遺跡』北海道文化財研究所調査報告書第3集 1987 pp.191
- (10) 中野寛子、明瀬雅子、長田正宏、中野益男 : 「大庭寺遺跡から出土した土坑に残存する脂肪の分析」『大庭寺・伏尾遺跡』(財)大阪府文化財調査研究センター発掘調査報告書第27集 1998 pp.407
- (11) 中野寛子、明瀬雅子、長田正宏、中野益男 : 「西大井遺跡から出土した土坑に残存する脂肪の分析」『西大井遺跡発掘調査概要・1992年度 - '92 - 1 区の調査』大阪府教育委員会 1994 pp.37
- (12) 中野益男、中野寛子、菅原利佳、長田正宏 : 「本町遺跡から出土した土坑に残存する脂肪の分析」『未発表』大阪府豊中市教育委員会
- (13) 中野益男、中野寛子、菅原利佳、長田正宏 : 「宮の前・蛍池遺跡採集土壌の残存脂肪分析」『宮の前遺跡・蛍池東遺跡・蛍池遺跡・蛍池西遺跡』1992・1993年度発掘調査報告書(財)大阪文化財センター 1994 pp.167
- (14) 中野益男、中野寛子、菅原利佳、長田正宏 : 「宮の前・蛍池遺跡採集土壌の残存脂肪分析」『宮の前遺跡・蛍池東遺跡・蛍池遺跡・蛍池西遺跡』1992・1993年度発掘調査報告書(財)大阪文化財センター 1994 pp.167
- (15) 中野益男、中野寛子、長田正宏 : 「服部遺跡から出土した遺構・遺物に残存する脂肪の分析」『未発表』大阪府豊中市教育委員会
- (16) 中野益男、中野寛子、長田正宏 : 「向出遺跡残存脂肪酸分析委託」『未発表』(財)大阪府文化財調査研究センター
- (17) 中野益男、中野寛子、福島道広、長田正宏 : 「寺田遺跡土坑墓状遺構に残存する脂肪の分析」『未発表』兵庫県芦屋市教育委員会
- (18) 中野益男、幅口 剛、福島道広、中野寛子、長田正宏 : 「原川遺跡の土器棺に残存する脂肪の分析」『原川遺跡 I』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第17集(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1988 pp.79
- (19) 中野益男、長田正宏、福島道広、中野寛子 : 「摺萩遺跡の遺構に残存する脂肪の分析」『摺萩遺跡』宮城県文化財調査報告書第132集 宮城県教育委員会・宮城県土木部水資源開発課 1990 pp.929

## 第11節 溝咋遺跡古墳時代後期水田面より出土したヒト足跡痕に基づく 体格推定および歩容復元

大妻女子大学教養等 真家 和生

### 第1項 はじめに

溝咋遺跡古墳時代後期水田面【C区：東6面】より、ヒトの歩行時の足跡列と思われる踏み込み痕が2列（以下、足跡列1、足跡列2）、および獣の足跡列と思われる踏み込み痕が1列（獣足跡列）、出土している。

本報告では、保存されている足跡痕石膏型より、

- (1)どのように足を着いたか、あるいはどのように体重を支持したかなど接地状況等に基づく定性解析。
- (2)足各部の踏み込み深さや踏み込み時の角度など踏み込み痕計測に基づく定量解析。
- (3)踏み込み痕からの足長・足幅の推定。
- (4)上記に基づく、身長・体重などの体格推定。

および、足跡列より

(5)歩幅や歩幅比（身長に対する歩幅の割合）、歩隔や歩隔比（身長に対する歩隔の割合）などからの歩容（歩行の様態）の復元を行った。

なお、本足跡痕は軟土面を踏み込んだ状態での踏み込み痕であるので、堅路面へ刻印された足跡痕（foot-print）と区別するために、適宜、踏み込み痕の用語を用いることとする。

### 第2項 資料（図286、写真16）

足跡列1は、小畦畔際より北北東方向へ〔左足－右足－左足－右足〕と4歩確認でき、同一人が残した連続した足跡痕であると判断される。トレースとして保存されているこの足跡痕のうち、右足第1歩目と左足第2歩目は石膏型として残されている。以下、この資料を、各々、〔足跡列1右足1〕および〔足跡列1左足2〕とする。

足跡列2は、上記足跡列に隣接する水田面の小畦畔際より北東方向へ〔右足－左足－右足－左足〕と4歩歩いた足跡痕であり、やはり、同一人（足跡列1と同一人とは限らない）が残した連続した足跡痕であると判断される。やはりトレースとして保存されているこの足跡痕のうち、右足第1歩目と右足第2歩目が石膏型として残されている。以下、この資料を、各々、〔足跡列2右足1〕および〔足跡列2右足2〕とする。

獣足跡列は、足跡列1と同一水田面に残されており、南西方向に移動した左側の踏み込み痕と右側の踏み込み痕がトレースおよび石膏型として保存されている。この獣足跡列は、当初、検出土面上ではヒト足跡痕と極めて似ていることからヒト足跡痕とも疑われたが、石膏型より四足獣の前肢と後肢が掘り込んだ掘り込み痕であることが判明した。獣足跡痕については、本報告では割愛する。

### 第3項 結果

以下、足跡痕石膏資料および足跡列トレース資料ごとに結果を記す。

[足跡列1 右足1]

(1) 定性解析 [足跡列1 右足1] は、比較的堅い水田面を踏み込んだと推定され、踵部の掘り込みは痕跡的であり、踵部輪郭は同定できない。しかし、前足部から中足部にかけての輪郭は比較的鮮明である。また、母趾（趾は足指を意味する）の輪郭もほぼ確認できる。

前足部のみで接地して、すなわち爪先立ちで歩いた場合にも前足部のみ足跡痕が得られるが、本資料では前足部から中足部にかけての足底面の傾斜が少ないこと、またこれに続く[足跡列1 左足2]も深くは踏み込まれていないことなどから、堅土面を歩行した際のものと考えてよいと思われる。

趾部および指節中足関節部（以下、MP関節部：metatarsalphalangeal joint、すなわち趾の付け根部の関節）が深く掘り込まれていることから、前方歩行をしていた可能性が高い。（前方歩行を確認する条件となる第1趾と第2趾による土の挟み取り痕（ぬかるみを前方歩行すると第1趾と第2趾で土くれを挟み取り、足を引き抜く際に前方に放出することが多いが、発掘時に失われることも多い）は検出されていないが、上記理由より、本足跡痕は前方歩行のものである可能性が高いと考えられる。）

趾式（趾の、より前方へ突出している順に第1趾から第5趾の趾番号で示したものは[1 2 3 4 5]（すなわち、第1趾が最も前方へ突出しており、趾番号順に後退し第5趾が最も後退している）と判断される。

(2) 踏み込み痕計測 踏み込み痕計測の結果は以下の通りである(図287)。

- 母趾踏込深度 = 2.7cm
- MP関節部踏込深度 = 2.9cm (第1趾部)
- 踵部踏込深度 = 0.0cm

角度項目に関しては測定不能である。

(3) 足型推定 足型推定に関しては、第1趾先端点（第1趾の先端点）はほぼ明瞭であるが踵点（踵部の最後方突出点）が不明であるため足長推定は不可能である。また、脛側中足点（MP関節部母趾側の最内方突出点）はほぼ明瞭であるが腓側中足点（MP関節部小趾側の最外方突出点）は不明瞭であるため、正確な足幅は測定できないが、石膏型より、

足幅 = 約9.0cm

と計測された。通常、実際の足型は石膏型より数mm程度小さいため、足型を推定する際には石膏型より数mm程度小さく見積もるが、本資料の腓側中足点は埋没していないため、推定足幅も約9cmと見積もられ

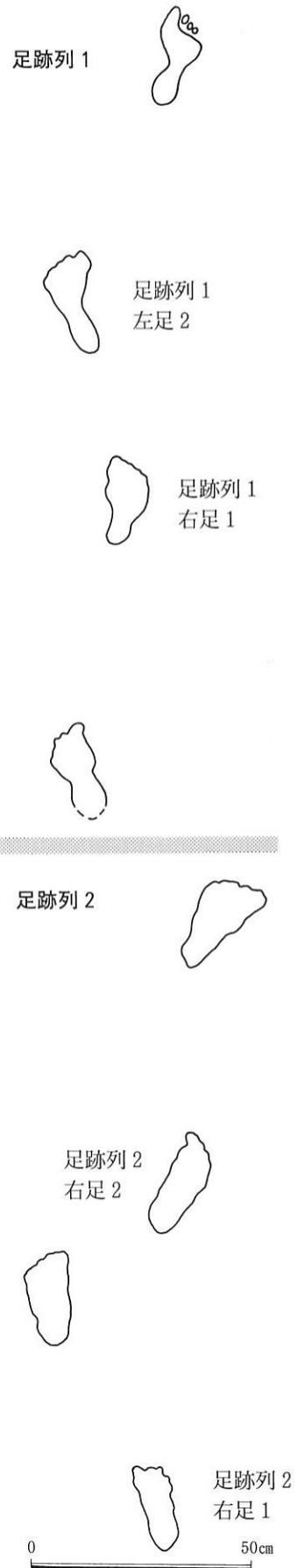
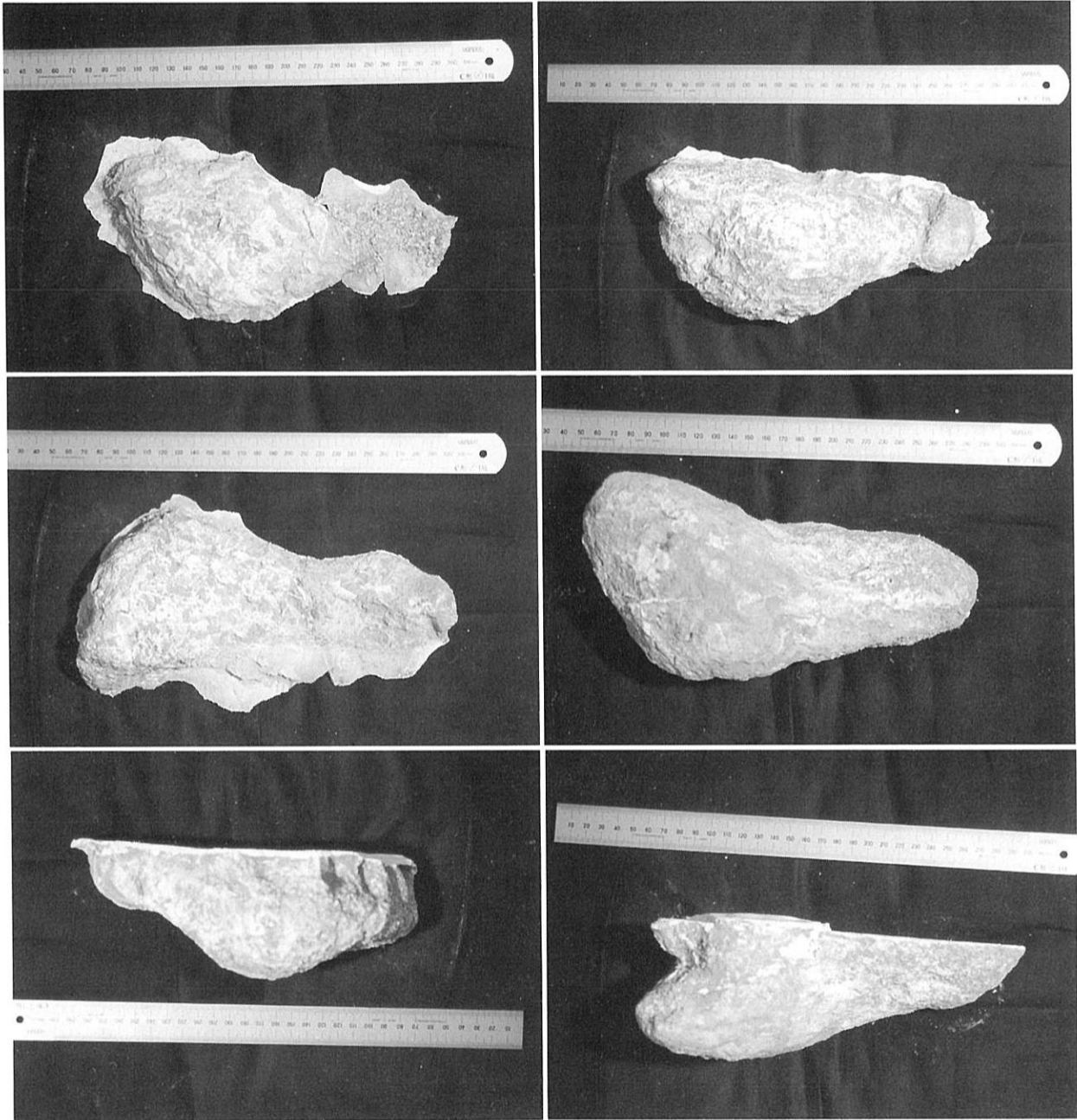


図286 足跡列1・足跡列2平面



- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 足跡列 1 右足 1 (底面)   | 4. 足跡列 2 右足 1 (底面)   |
| 2. 足跡列 1 左足 2 (底面)   | 5. 足跡列 2 右足 2 (底面)   |
| 3. 足跡列 1 左足 2 (母趾側面) | 6. 足跡列 2 右足 2 (母趾側面) |

写真16 足跡石膏型試料

る。大きさから見て、ほぼ成人のものと考えられる。

(4) 体格推定 足幅のみからの体格推定式としては参考資料（後掲）の身長推定（c式）および肩幅推定（g式）が知られている。しかし、本資料からの体格推定は参考程度と考えるのが妥当である。

c : 推定身長 = 157.8cm

g : 推定肩幅 = 36.4cm

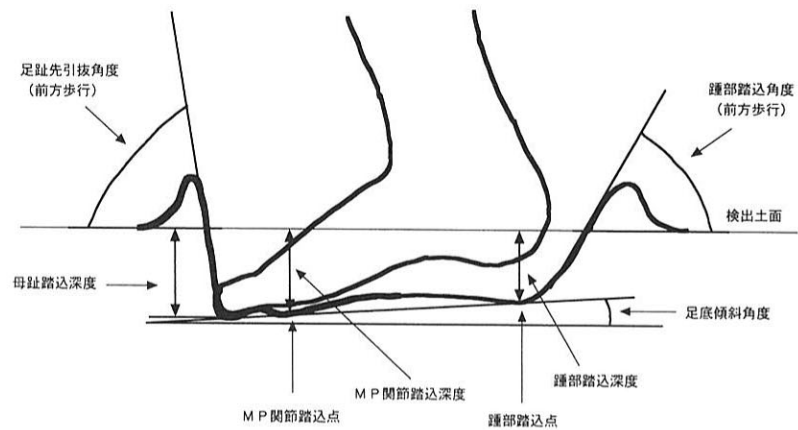


図287 踏込痕の計測項目

[足跡列1 左足2]

(1) 定性解析 [足跡列1 左足2] は踏み込み時の各趾先跡も明瞭で、踏み込み時に小趾側よりに変位しながら踏み込んでいることから（検出土面と底付き面の比較で水平距離にしてほぼ15mm）、着地時に小趾側へ足がずれた（あるいは引き抜き時に母趾側へ足を引き抜いたとも考え得るが、一般に足跡痕の前後左右のずれは着地時に付けられることが、ぬかるみ歩行の実験から確認されている）と判断される。いずれにしても、この特徴は通常のぬかるみ歩行時に認められる特徴である。また、この特徴は歩隔（両足の左右の間隔）が広い場合に多くみられる特徴であり、不安定な歩行面を歩行する際、歩隔を大きくして安定させようとする際の特徴でもある。この足跡痕は、ぬかるみを、歩隔を大きくして歩いた状況を示している可能性もあると考えられる。

趾式は[1 2 3 4 5]であり、[足跡列1 右足1]のものと同じである。また、各趾先点がほぼ直線的に後退している点も[足跡列1 右足1]と同じである。ちなみに、足軸（便宜的に踵点と第2趾先点を結んだ線とする）と各趾先点を結んだ線のなす角度は約60度である。

踏み込み痕全体を見ると、踵部踏込深度はやや浅い（検出土面より約1.7cm）が、ほぼ明瞭に底付き輪郭が判定でき、また前足部とくにMP関節部踏込深度は深く（検出土面より約3.9cm）また明瞭で、土踏まず部が隆起しており、歩行時の踏み込み痕の特徴（歩行時の垂直下方分力は踵部加重時およびMP関節部加重時に極大となる）を示している。また、踵部踏込深度よりMP関節部踏込深度が大きく、従って前方歩行である可能性が高いと考えられる。

また、足部全体形状から見て、[足跡列1 右足1]と同一個体と考えて矛盾はしない。

(2) 踏み込み痕計測 踏み込み痕計測の結果は以下の通りである（図287）。

母趾踏込深度 = 4.5cm

M P 関節部踏込深度 = 3.9cm (第1趾部)

踵部踏込深度 = 1.7cm

(3) 足型推定 左側に石膏型からの計測値、右側にそれから歩行時の足の変形を想定して数mmを減じた値を記す。

足長 = 23.4cm (石膏型) 23.0cm (推定値)

足幅 = 9.5cm (石膏型) 9.0cm (推定値)

大きさから見て、ほぼ成人のものと考えられる。

(4) 体格推定 上記推定値を用いて、体格推定（推定式後掲）を行った結果を記す。但し、ここに用いた体格推定式は、参考資料に示すようにいずれも現代人を対象とした式であり、時代変化を含んでいない点で本資料に当てはめるには無理があることを付記しておく。また、各体格推定式から推定される身長等体格には幅があることも承知しておく必要がある。また、推定式 a は、昭和30年の後藤の推定式を改変したものであり、他の推定式と比較するとやや低身長に推定されるが、身長の時代差を考慮すると、a 式による推定が最も妥当と思われる。

- a : 推定身長 = 153.1cm
- b : 推定身長 = 157.7cm
- c : 推定身長 = 157.8cm
- d : 推定身長 = 157.4cm
- e : 推定座高 = 86.8cm
- f : 推定肩幅 = 36.5cm
- g : 推定肩幅 = 36.4cm
- h : 推定肩幅 = 36.3cm
- i : 推定腰幅 = 27.3cm

[足跡列1 右足1] と [足跡列1 左足2] は同一個体の足跡痕である可能性が極めて高い（同一人と考えて差し支えないと判断されるが）ので、本個体の推定身長は153.1cm～157.8cmの範囲と考えるとと思われる。後述の歩幅比の計算のために、本個体の仮の推定身長を155.5cm（範囲の中央値）としておく。

#### [足跡列2 右足1]

(1) 定性解析 [足跡列2 右足1] は第4趾および第5趾の趾先跡を除き各趾先点は明瞭で、踏み込み時に小趾側よりに変位しながら踏み込んでいることから（検出土面と底付き面の比較で水平距離にしてほぼ10mm）、[足跡列1 左足2] と同様、着地時に小趾側へ足がずれたと判断される。すなわち、通常のぬかみ歩行時に認められる特徴が示されている。従って、[足跡列1 左足2] 同様、歩隔を大きくして歩いた状況を示している可能性もあると考えられる。

趾式は [1 2 3 4 5] である。

踏み込み痕全体を見ると、踵部の輪郭は明瞭であるが、小さく変形し、また前足部側へ押し付けられた状態となっている。これは、本足跡痕の付けられた後に踵部での別な踏み込みがあり、足跡痕の踵部が前方へ移動したためと考えられる。ぬかみ歩行でのこの特徴は、頻出するものである。

従って、踵点は明瞭であるものの、その位置は変位しているため、足長を計測することはできない。また、踵部深度も変位していることが推察される。また、中足部が大きく掘り込まれていることも、後方より押し歪められたことを示していると思われる。

また、踵部の踏み込みに対して前足部（MP関節部を含む）の踏み込みが深く、[足跡列1 左足2] と同様、前方歩行のものである可能性もあるが、足跡の付けられた比較的すぐ後、すなわち土面が乾燥など変質する前に踵部付近に別の足跡が付けられた（そのために踵部が変位した）とも考えられ、後方歩行した可能性も否定できない。

(2) 踏み込み痕計測 踏み込み痕計測の結果は以下の通りである。

母趾踏込深度 = 5.1cm

M P 関節部踏込深度 = 5.9cm (第1趾部)

踵部踏込深度 = 4.0cm (変位しているため参考程度)

(3) 足型推定 足型推定に関しては、第1趾先点および踵点は明瞭であるが、踵点の変位していると考えられるため、足長推定は不可能である。脛側中足点および腓側中足点は明瞭であるが、これも変位している可能性があり、足幅についても参考資料程度であり、正確な足幅は期待できないが、石膏型より、

足幅 = 約8.8cm

と計測された。

全体の大きさから見て、ほぼ成人のものと考えられる。

(4) 体格推定 足長が計測不能であり、また足幅の値も確度が低いため、参考資料程度であるが、一応、足幅からの体格推定値を記す。

c : 推定身長 = 157.0cm

g : 推定肩幅 = 36.2cm

#### [足跡列2右足2]

(1) 定性解析 前足部は趾先部が比較的明瞭であるが、趾先部による踏み込み痕はなく凸形状となって掘り込まれ、土面側からすればオーバーハングした状態となっている(写真16・6)。これは、着地した後、前足部を踵部方向へ引き抜いたために起きたものと考えられる。この形状も、ぬかるみ歩行時の足跡痕として頻出するものである。前足部を踵部方向へ引き抜いたということは、後方歩行していた可能性も考えられる。踵部の形状は比較的明瞭である。

趾先部はほぼ明瞭であるが、各趾先が判別できるほどではなく、一応、趾式としては [2 1 3 4 5] (下線はほぼ同列であることを示す) であるが、着地時に母趾側へ曲がりながら着地した(ぬかるみ歩行に頻出する三日月形の足跡痕となる)可能性もあり、そうだとすると趾式は [1 2 3 4 5] であると考えられる。

踏み込み痕全体を見ると、踵部踏込深度は踵部踏込深度よりも浅いが、上記の如く、前足部を後方へ引き抜いていることから後方歩行が疑われる。

(2) 踏み込み痕計測 踏み込み痕計測の結果は以下の通りである(図287)。

母趾踏込深度 = 7.0cm

M P 関節部踏込深度 = 7.1cm (第1趾部)

踵部踏込深度 = 2.6cm

(3) 足型推定 左側に石膏型からの計測値、右側にそれから歩行時の足の変形を想定して数mmを減じた値を記す。足幅は、石膏型の凸形状(土面のオーバーハングの状態)から見て、大きく変位している可能性が高いのでやや多めの10mmを減じた値とする。

足長 = 22.8cm (石膏型) 22.5cm (推定値)

足幅 = 10.3cm (石膏型) 9.3cm (推定値)

大きさから見て、ほぼ成人のものと考えられる。

(4) 体格推定 上記推定値を用いて、体格推定(推定式後掲)を行った結果を記す。但し、注意事項

としては[足跡列1 左足2]と同様である。

- a : 推定身長 = 151.1cm
- b : 推定身長 = 156.0cm
- c : 推定身長 = 159.0cm
- d : 推定身長 = 156.0cm
- e : 推定座高 = 86.1cm
- f : 推定肩幅 = 36.2cm
- g : 推定肩幅 = 36.6cm
- h : 推定肩幅 = 36.2cm
- i : 推定腰幅 = 27.0cm

足幅から推定される身長(c・d)が足長から推定される身長(a・b)よりも高身長となるのは、本足跡痕の足幅が実際よりも大きく残されていることが原因であるとも考えられる。従って、本足跡痕の持ち主の身長としては、足長のみから推定した151.1cm~156.0cmの範囲が適当であると考えられる。後述の歩幅比の計算のために、本個体の仮の推定身長を153.6cm(範囲の中央値)としておく。

#### [足跡列1]

(5) 歩容復元 トレース面で踵部最後方突出点となる点を基準とし、進行方向を直線と仮定して計測した、歩幅および歩隔は以下の通りである。左側に歩幅、右側に歩隔を記す。

	[歩幅]	[歩隔]
足跡列1 : 左足1 - 右足1	62.7cm	5.0cm
右足1 - 左足2	43.4cm	3.8cm
左足2 - 右足2	57.0cm	11.7cm

すなわち、本トレース資料のみからではあるが、右足を比較的大きく踏み出し、左足は小幅に踏み出した歩行跡と判断できる。歩幅の平均は54.4cmであり、身長を155.5cmとすると、歩幅比は35.0%であり、健康成人の平坦路歩行時の歩幅比である35%~40%(但し、現代人のもの)の小幅の部位に属するが、ぬかるみで35.0%の歩幅比を得ていることはぬかるみ歩行に習熟していることを伺わせる。

また、[足跡列1 右足2]すなわちトレースに記録されている最後の右足は、進行方向を前方とする、やや右に変位しており、右方向へ歩いていった可能性を示唆している。そこで、最後の歩隔を除き、 $\langle$ 左足1 - 右足1 $\rangle$  $\langle$ 右足1 - 左足2 $\rangle$ から得られる歩隔の平均を出すと4.4cmとなり、身長に対する歩隔比は2.83%、また腰幅に対する歩隔比は16.1%と比較的小さな歩隔で歩いたことが伺われる。このことから、ぬかるみ歩行に習熟していることが伺われる。

#### [足跡列2]

(5) 歩容復元 トレース面で踵部最後方突出点となる点を基準とし、進行方向を直線と仮定して計測した、歩幅および歩隔は以下の通りである。左側に歩幅、右側に歩隔を記す。

	[歩幅]	[歩隔]
足跡列2 : 右足1 - 左足1	46.4cm	24.2cm
左足1 - 右足2	26.8cm	21.5cm



右足2 - 左足2    60.2cm    8.3cm

すなわち、本トレース資料のみからではあるが、もし前方歩行をしたと仮定すると左足を比較的大きく踏み出し、右足を小幅に踏み出した前方歩行跡と判断できる。また、もし後方歩行をしたと仮定すると、右足を大きく後方に引き、左足を小幅に引いた後方歩行であると判断できる。[足跡列2 左足2] すなわちトレースに記録されている左足も、前例と同様に、進行方向を前方とすると、やや右に変位しており、右方向へ歩いていった可能性を示唆している。

そこで、〈右足2 - 左足2〉の歩幅を除いて平均歩幅を出すと36.6cmとなり、身長に対する歩幅比を計算すると23.8%となる。3歩幅の平均は44.5cm、その歩幅比は29.0%であるが、いずれも健康成人の平坦路歩行時の歩幅比である35%~40%（但し、現代人）と比較して極めて小さい値であり、著者の資料によるぬかるみ後方歩行時の歩幅比23.1~28.6%と近い値となっている（第53回日本人類学会発表資料, 1999）。

また、〈右足2 - 左足2〉は進行方向を変えている可能性があるので省き、歩隔の平均を取ると22.9cm、身長に対する歩隔比は14.9%、腰幅に対する歩隔比は84.8%と、足跡列1と比較しても極めて大きな値となっており、前方歩行と考えるよりも後方歩行と考える方が妥当であると思われる。従って、なにかの作業時の足跡列とも考えられる。表20・21に、足型・足跡痕・足跡痕からの体格推定式を参考までに掲げておく。

○参考資料（体格推定に用いた推定式）

a : 後藤の改変（'99）の推定身長（cm）=  $4.170 * \text{足長（cm）} + 57.23$

b : 佐倉（'65）の推定身長（cm）=  $3.42 * \text{足長（cm）} + 79.0$

c : 佐倉（'65）の推定身長（cm）=  $3.97 * \text{足幅（cm）} + 122.1$

d : 佐倉（'65）の推定身長（cm）=  $3.24 * \text{足長（cm）} + 0.72 * \text{足幅（cm）} + 76.4$

e : 佐倉（'66）の推定座高（cm）=  $1.58 * \text{足長（cm）} + 50.5$

f : 佐倉（'66）の推定肩幅（cm）=  $0.60 * \text{足長（cm）} + 22.7$

g : 佐倉（'66）の推定肩幅（cm）=  $0.94 * \text{足幅（cm）} + 27.9$

h : 佐倉（'66）の推定肩幅（cm）=  $0.49 * \text{足長（cm）} + 0.45 * \text{足幅（cm）} + 21.0$

i : 佐倉（'66）の推定腰幅（cm）=  $0.55 * \text{足長（cm）} + 14.6$

表20 足型・足跡痕・足跡痕からの体格推定(1)

年号	著者	論文名(出典)	推定式	被験者・備考
1950(S25)	近藤四郎・寺田和夫 香原志勢	足の計測値統計の一試案 人類学雑誌.(61)ZLX1-4, P167-174,1950(S25)	足長(mm)=0.132身長(mm)+27.84 足長(cm)=0.132身長(cm)+2.784	本来、身長から足長の推定式 足長からの推定式とすると傾斜が急となる 男子493名:九州某履き物会社従業員
1955(S30)	De Parville	(古畑種基「法医学」第4版、 南山堂、P405、1955(S30))	足長=8.6/30(身長/2 X 0.05) m : 式に誤植有り? Xは+の間違いか?(Xを+と仮定し変形) 身長(cm)=6.977*足長(cm)-10.0	本来、身長からの足長推定式 足長からの推定式とすると傾斜が急となる
1955(S30)	Bertillon	(古畑種基「法医学」第4版、 南山堂、P406、1955(S30))	足長に以下の数値を乗じ身長を求める 219以下 7.170 250~259 6.407 220~229 6.840 260~269 6.328 230~239 6.610 270~279 6.254 240~249 6.505 280~289 6.120 290以上 6.080 229以下はずれが大き。230より279までの中央値 すなわち(235,1553)(245,1594)(255,1634) (265,1677)(275,1720)を用いて回帰式を作ると 身長(mm)=4.170*足長(mm)+572.3 身長(cm)=4.170*足長(cm)+57.23	石橋の男と女の間に入る
1927 1955(S30)	庭瀬信太郎	(古畑種基「法医学」第4版、 南山堂、P406、1955(S30))	座高(cm)=3*足長(cm)+2*(30.0-足長) 身長(cm)=6*足長(cm)+2*(30.0-足長) 変形すると 身長(cm)=4*足長(cm)+60.0 石橋の女用と同じ	
1928 1955(S30)	石橋無事	(古畑種基「法医学」第4版、 南山堂、P406、1955(S30))	身長(cm)=6*足長(cm)+2*(30.0-足長)+3.0(cm) [男] 身長(cm)=6*足長(cm)+2*(30.0-足長)(cm) [女] (古畑種基「法医学」に女の記載なし) 変形すると 身長(cm)=4*足長(cm)+63.0(cm) [男] 身長(cm)=4*足長(cm)+60.0(cm) [女] 庭瀬と同じ 足幅かどうか不明だが変形すると 身長(cm)=9.2*足幅(cm)+63.0 身長(cm)=6*足跡長(cm)+2*(30.0-足跡長)+8.1(cm) 変形すると 身長(cm)=4*足跡長(cm)+68.1(cm)	足跡長からの推定身長は足長からの推定 身長より5.1cm長いことになる
1955(S30)	久保忠夫(久保博士)	(古畑種基「法医学」第4版、 南山堂、P406、1955(S30))	足跡のみの長さ(足指入れない)に以下の係数を乗じ、 身長を求める 6寸迄 (18.18cm迄) 8.7 6寸6分迄(20.00cm迄) 8.2 6寸3分迄(19.09cm迄) 8.4 7寸0分迄(21.21cm迄) 8.1 6寸5分迄(19.70cm迄) 8.3 7寸2分迄(21.82cm迄) 8.0	足跡長からの方が身長推定に適するか? 足跡長の何倍が足長or足跡長になるか?
1955(S30)	椿	(古畑種基「法医学」第4版、 南山堂、P406、1955(S30))	足長=身長/6.954 変形して 身長=6.954*足長	本来、身長より足長を求める推定式 足長からの推定式とすると傾斜が急となる
1955(S30)	後藤壽作	(古畑種基「法医学」第4版、 南山堂、P406、1955(S30))	足跡長(cm)に以下の係数を乗じ身長を求める 20.99以下 7.43 22.66~22.99 7.05 21.00~21.39 7.18 23.00~23.30 7.03 21.40~21.79 7.15 23.31~23.60 6.99 21.80~21.99 7.13 23.61~23.99 6.85 22.00~22.40 7.10 24.00~24.20 6.82 22.41~22.65 7.08 24.21~24.60 6.80 24.61以上 6.70 21.0より23.60までのほぼ中央値すなわち (21.20,152.2)(21.60,154.4)(21.90,156.1) (22.20,157.6)(22.53,159.5)(22.83,161.0) (23.15,162.7)(23.46,164.0) を用いて回帰式を作ると 身長(cm)=5.274*足跡長(cm)+40.52 (但し適用範囲:21.0~23.60cm) これに(23.80,163.0)(24.10,164.4)(24.40,165.9)を 加えると身長(cm)=4.401*足跡長(cm)+59.65(R2=.959) (但し適用範囲:21.0~24.60cm) 足跡長(cm)に以下の係数を乗じ身長を求める 17.00~17.50 8.65 19.26~19.50 8.37 17.51~17.99 8.60 19.51~19.75 8.25 18.00~18.39 8.56 19.76~19.99 8.16 18.40~18.69 8.52 20.00~20.30 8.13 18.70~18.99 8.48 20.31~20.70 8.07 19.00~19.25 8.44 20.71~20.99 8.02 21.00以上 8.02 各範囲の上下限の値を用いて回帰式を作ると 身長(cm)=4.808*足跡長(cm)+67.80(R2=0.957) (但し適用範囲:17.0~21.00cm)	20.99以下のレベルが高い  23.61からレベルが低下する 係数の変化率が急減している Bertillonにも同様の傾向がみられる

表21 足型・足跡痕・足跡痕からの体格推定(2)

1955(S30)	小林宏志・岡田吉郎・安東富雄	体格、年齢、職業別に見た身長と足長との相関度について 広島医学, 8(9) 原著号, 3(15), 833-836, 1955(S30)	身長別の身長足長比および標準偏差 150cm以下 6.64±0.20(1) 6.65±0.18(r) 150.1~160.0cm 6.71±0.21(1) 6.72±0.21(r) 160.1~170.0cm 6.77±0.21(1) 6.78±0.21(r) 170.1cm以上 6.78±0.20(1) 6.78±0.19(r) すなわち、身長=身長別身長足長比*足長 身長からの足長推定式と同様の傾斜	被験者：広島刑務所服役受刑者 日本人男子1225名(20~63才) 韓国人男子 159名(20~51才) 身長足長比は、体重、年齢、D-Iが指数、 足長足幅示数別では差がなく、身長、職業別では差がある。
1957(S32)	小林宏志・岡田吉郎	足跡より身長の推算について 科学と捜査, 10(3), 38号, 266-269, 1957(S32)	足跡痕(foot-print)からの身長推定 足跡長：内側縁(母指球内端と踵部内端を結ぶ直線)に垂直に指先点から踵点までの距離 足跡幅：内側縁に垂直に小指球の外端 以上:Massonの方法 日本人成人男子 身長(cm)=3.53*足跡長(cm)+ 80.44(+2.06)---(1) 身長(cm)=5.23*足跡幅(cm)+109.40(+2.06)---(2) 日本人成人女子 身長(cm)=3.65*足跡長(cm)+ 71.09(+4.74) 身長(cm)=4.14*足跡幅(cm)+110.14(+4.74) *:()は被験者の平均身長と一般平均との差を加える意 男子についての誤差:(1)は±3.2cm、(2)は±5.2cm 同足跡長で身長に男女差!	被験者：四国地方農村 日本人成人男子159名(20~69才) 身長：157.7±6.07(142.1-172.8) 足跡長l：22.29±1.12(r=0.64) r：22.31±1.10(r=0.65) 足跡幅l：9.22±0.52(r=0.45) r：9.24±0.54(r=0.48) 日本人成人女子187名(20~73才) 身長：146.2±5.58(132.6-161.3) 足跡長l：20.55±0.94(r=0.56) r：20.60±0.89(r=0.62) 足跡幅l：8.74±0.54(r=0.38) r：8.68±0.53(r=0.40)
1959(S34)	古徳迪・石原文夫・西寛二・牧角三郎	足跡からの身長推定について- 特に歩行時と静止時の足跡から得られる推定身長の違い- 米子医誌, 10巻, 3号, 787-790 1959(S34)	静止時足跡長・幅：両足均等加重(計測はMassonの方法) 静止時と歩行時の足跡長・幅から、石橋法、後藤法、 小林・岡田法(1957)により身長推定 ○静止時は小林・岡田法、後藤法、石橋法順で誤差少 ○歩行時は小林・岡田法でも誤差が多い ○歩行時と静止時では足跡長は平均0.85cm長い (Grossの指摘する如く母指先端は三角状に突出)	鳥取大学医学部職員と学生 男71名(23-58才) 身長:165.0±4.58(155.6-180.0) 女14名(22-52才) 身長:150.2±4.47(140.9-156.5)
1965(S40)	佐倉期	足長および足幅に基づく 身長の推定 日本法医学総会誌, 19(3), 191, 1965(S40)	身長(cm)=3.42*足長(cm)+ 79.0 Se=4.128 身長(cm)=3.97*足幅(cm)+122.1 Se=5.158 身長(cm)=3.24*足長(cm)+0.72*足幅+76.4 Se=4.111	被験者：府中・浦和・宮城・岐阜刑務所入所者 日本人男子261名 身長:161.33±5.62cm 足長：24.05±1.12cm 足幅：9.88±0.56cm
1966(S41)	佐倉期	足長および足幅に基づく 躯幹諸径の推定 日本法医学総会誌, 20(4), 345-346, 1966(S41)	座高(cm)=1.58*足長(cm)+50.5 Se=2.75 胴長(cm)=0.89*足長(cm)+27.9 Se=2.12 肩幅(cm)=0.60*足長(cm)+22.7 Se=1.59 腰幅(cm)=0.55*足長(cm)+14.6 Se=1.20 肩幅(cm)=0.94*足幅(cm)+27.9 Se=1.65 肩幅(cm)=0.49*足長(cm)+0.45*足幅+21.0 Se=1.58	被験者：府中・浦和・宮城・岐阜刑務所入所者 日本人男子261名 身長:161.33±5.62cm 足長：24.05±1.12cm 足幅：9.88±0.56cm
1968(S43)	市川悦子・柳川格・佐倉期	足長および足幅に基づく 身体諸径の推定式の性別 ならびに年代による差異 日本法医学総会誌, 22(4), 392, 1968(S43)	男女年齢別(同足長で男が女より高身長、 低年齢が高年齢より高身長) 20~29歳男子：身長=3.89*足長+69.9 Se=4.39 30~59歳男子：身長=3.74*足長+71.3 Se=4.35 18~29歳女子：身長=3.71*足長+70.3 Se=3.60 30~59歳女子：身長=3.45*足長+73.4 Se=4.02	被験者：福岡県内の軽症結核・精神病患者 女学生・西鉄職員等 男745名 女792名 20~29歳男子(平均身長163.50cm) 30~59歳男子(平均身長161.20cm) 18~29歳女子(平均身長153.80cm) 30~59歳女子(平均身長149.06cm)
1969a(S44a)	柳川格・市川悦子・佐倉期・太田伸一郎	九州人における足長および足幅 に基づく身体諸径の推定式の性別 ならびに年代による差異 (第1報) 日本法医学総会誌, 23(2), 187, 1969a(S44)	九州人男女年齢別 (同足長で男が女より高身長、低年齢が高年齢より高 身長、腰幅では逆) 20~29歳男子：身長=4.02*足長+66.8 Se=4.45 30~59歳男子：身長=3.81*足長+70.0 Se=4.44 20~29歳女子：身長=3.74*足長+70.3 Se=3.72 30~59歳女子：身長=3.39*足長+75.0 Se=4.06	被験者：福岡・長崎・佐賀・大分・熊本の 軽症結核・精神病患者・女学生・西鉄職員等 男933名 女970名 20~29歳男子(平均身長163.47cm) 30~59歳男子(平均身長160.92cm) 20~29歳女子(平均身長153.68cm) 30~59歳女子(平均身長149.14cm)
1969a(S44b)	柳川格・市川悦子・佐倉期	九州人における足長および足幅 に基づく身体諸径の推定式の性別 ならびに年代による差異 (第2報) 日本法医学総会誌, 23(4), 327-328, 1969b(S44)	九州人男女年齢別 (同足長で男が女より高身長、低年齢が高年齢より高 身長、腰幅では逆) ほぼ同傾向	被験者：福岡・長崎・佐賀・大分・熊本の 軽症結核・精神病患者・女学生・西鉄職員等 男2268名 女1975名 20~29歳男子(500名) 30~59歳男子(1768名) 20~29歳女子(838名) 30~59歳女子(1137名)

## 第12節 溝咋遺跡（その2）出土土器に付着した赤色顔料分析

株式会社パレオ・ラボ 菱田 量

### 第1項 はじめに

溝咋遺跡からは、赤色顔料が塗布された弥生土器、および赤色顔料が付着した古墳時代の土師器が出土した。ここでは、これらの赤色顔料に含まれる元素を、蛍光X線分析によって明らかにした。従来、赤色顔料の種類として、水銀朱（HgS）、ベンガラ（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>など）、鉛丹（Pb<sub>3</sub>O<sub>4</sub>）などが知られている（たとえば、市毛1984）。分析結果から、各試料がどの種類の赤色顔料に由来するものかについて検討した。

### 第2項 試料

分析試料は、赤色顔料が土器に付着している部分に、セロハン粘着テープをはりつけ、表面の一部を剥離させて採取したものである（表22）。試料中には赤色を呈する顔料の粒子が明確に確認できるが、純粋に顔料粒子だけではなく、土器胎土の一部も含まれている。

なお、赤色顔料の色調は、No.1は暗赤色から赤色を呈し、No.2と3は鮮明な赤色を呈する。

### 第3項 方法

採取した赤色顔料は、エネルギー分散型蛍光X線分析計を用いて、含まれる元素を定性分析した。

分析装置は、セイコー電子工業(株)製卓上型蛍光X線分析計 SEA-2001L である。X線発生部の管球はロジウム（Rh）ターゲット、ベリリウム（Be）窓、X線検出器は Si（Li）半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10mm、電圧50kV、試料室内は真空である。

結果については、各試料の蛍光X線スペクトル図を示し、各ピークの蛍光X線名称を示した。

### 第4項 分析結果

図288に試料No.1～3の蛍光X線スペクトルを示す。以下にその特徴的な点について記す。なお、Rh（ロジウム）のピークは、X線管球ターゲットによるものである。

試料No.1：主成分元素として、Fe（鉄）のK $\alpha$ 、K $\beta$ のピークが明瞭に検出される。そのほか、Al（アルミニウム）、Si（ケイ素）、S（硫黄）、K（カリウム）、Ca（カルシウム）、Ti（チタン）、Mn（マンガンの）のピークが認められる。Hg（水銀）やPb（鉛）は検出されない。

表22 赤色顔料分析試料

No.	地区名	遺構名	出土年月日	登録番号	土器	赤色顔料の状態
1	2A-2、I13e5-II	溝120（1）	961225	No.2165	弥生時代後期、壺	表面らせん模様
2	2A-1、I14e4	溝123（上層）	961108	No.1073	古墳時代、土師器	土器の内側付着
3	2A-2、I14e4	溝123（暗茶微砂）	961109	No.1084	古墳時代、土師器	土器の内側付着

試料No.2 : Hg (水銀) のL $\alpha$ 、L $\beta$ 、L $\gamma$ およびS (硫黄) のK $\alpha$ のピークが明瞭に認められる。そのほか Al (アルミニウム)、Si (ケイ素)、K (カリウム)、Ca (カルシウム)、Ti (チタン)、Fe (鉄)、Zn (亜鉛)、Sr (ストロンチウム)、Zr (ジルコニウム) などのピークが確認できる。

試料No.3 : Hg (水銀) のL $\alpha$ 、L $\beta$ 、L $\gamma$ およびS (硫黄) のK $\alpha$ のピークが明瞭に認められる。そのほか Al (アルミニウム)、Si (ケイ素)、K (カリウム)、Ca (カルシウム)、Ti (チタン)、Fe (鉄)、Zn (亜鉛)、Sr (ストロンチウム)、Zr (ジルコニウム) などのピークが確認できる。試料No.2 とほぼ同様なピークが認められる。

なお、Al、Si、K、Ca、Ti、Zn、Sr、Zr などの元素は、土器胎土中にも含まれる元素であり、赤色顔料以外の物質にも由来することが考えられる。

### 第5項 赤色顔料の種類について

先にも述べたように、赤色顔料の種類として、水銀朱、ベンガラ、鉛丹が知られている。

水銀朱は、赤色の由来となる主成分がHgS (硫化水銀 (II)) のものである。天然には、硫化鉱物である辰砂 (Cinnabar) から得られる。

ベンガラは、赤色の由来となる主成分元素がFe (鉄) であるものを総称している。天然には、赤鉄鉱などの鉄鉱石やいわゆる赤土などを原料とする。あるいは、鉄分が多い土壌や褐鉄鉱、硫化鉄 (磁硫鉄鉱 : FeS、黄鉄鉱 : FeS<sub>2</sub>) などを焼いたりするなど、種々の製法が考えられる (本田1995、北野1994など)。こ

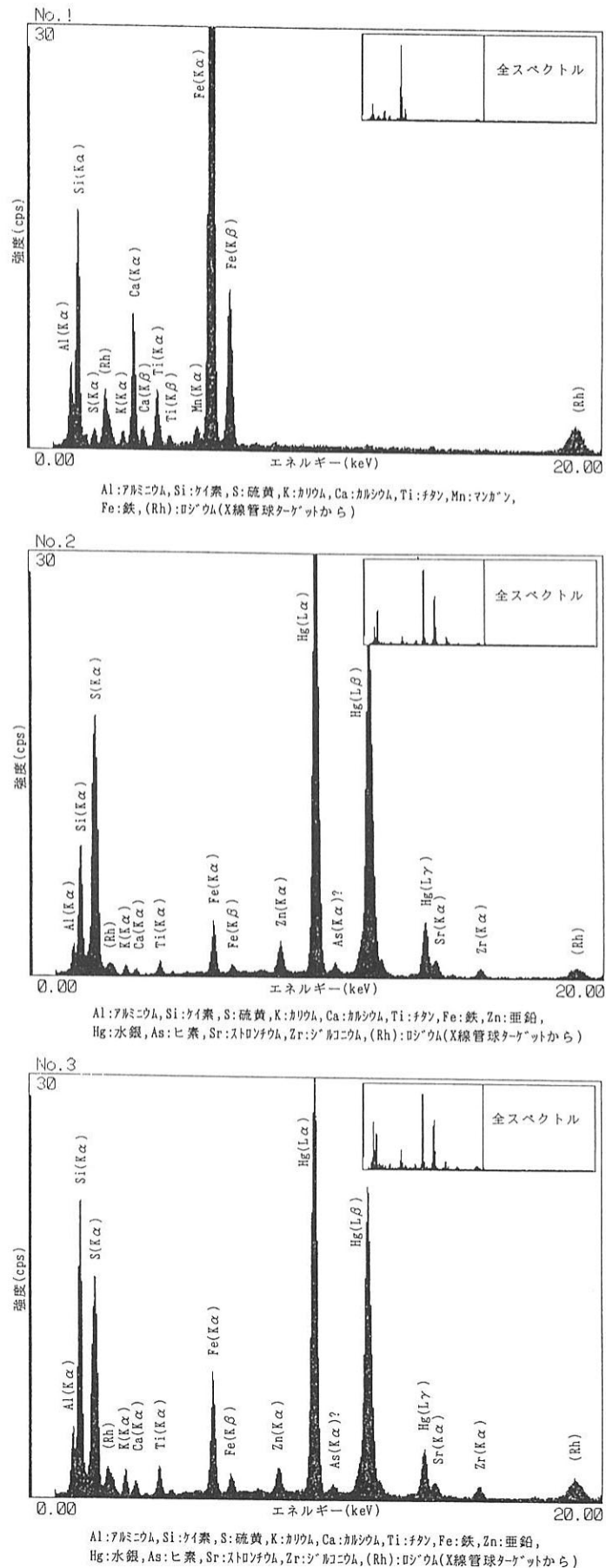


図288 赤色顔料の蛍光X線スペクトル図

うしたことから製法や材料によってベンガラをいくつかに分類できる可能性がある。

鉛丹は、主成分が  $Pb_3O_4$ （四酸化三鉛）である。鉛を焼いて作られる。

## 第6項 分析結果からみた赤色顔料の種類を検討

試料No.1は、Fe（鉄）のピークが顕著に見られ、Hg（水銀）やPb（鉛）が検出されないことから、ベンガラと考える。

試料No.2およびNo.3は、Hg（水銀）とS（硫黄）のピークが明瞭に確認できることから、明らかに水銀朱であるといえる。ただし、Feも検出されていることから、ベンガラも含まれている可能性もある。いずれにせよ、試料No.2およびNo.3は、水銀朱を主体とした赤色顔料である。

## 引用文献

市毛 勲 1984 『増補朱の考古学』第2版 考古学選書12 雄山閣出版 P324

本田光子 1995 「古墳時代の赤色顔料」『考古学と自然科学』31・32 p.63-79

北野信彦 1994 「近世出土漆器資料の保存処理に関する問題点Ⅱ — 文献史料からみた赤色系漆に使用するベンガラの製法について —」『古文化財の科学』39 p.93-102。

### 第13節 溝咋遺跡出土赤彩土器の赤色顔料物質の分析

近畿大学豊岡短期大学 南 武志  
近畿大学共同利用センター 山際 英樹

#### 概要

茨木市溝咋遺跡より出土した赤彩土器18点と混和材1点、計19点の赤色顔料の主成分元素を調べるため、蛍光X線分析装置を用い、鉄、水銀、砒素、鉛の検出を行った。この内No.18の土器は、土器外面と同様内面にも赤色彩色が施されていたので、内面からも赤色顔料を採取し、分析を試みた。No.18外面・内面を含む12点の土器からは、鉄のみが検出された。他の6点の土器からは鉄と水銀が検出された。鉄と水銀の強度比から3点は同じ割合で混合された赤色顔料を使用したと推測された。他の3点は混合割合が異なっており、これらは別々の割合で混ぜられたと考える。鉛と砒素はすべての土器から検出されなかった。

以上より、溝咋遺跡より出土した土器の大部分は鉄を主成分とする赤色顔料で彩色されていたが、一部鉄と水銀を混ぜた赤色顔料が用いられていた。

#### 第1項 はじめに

茨木市溝咋遺跡は弥生時代から近世にかけての複合遺跡であるが、出土品から弥生時代より全国各地と盛んに流通が行われていた可能性が示唆されている。今回分析した赤彩土器はこれらのうちの弥生時代中期末から古墳時代のものと考えられ、いずれも土器断片として出土した。赤彩土器の赤色顔料は時代とともに異なっており、その主成分を分析することは古代の流通過程を知るうえでも重要であると考える。

#### 第2項 分析試料と方法

##### (1) 分析試料

表23 赤色顔料分析試料一覧

No.	遺物番号	登録番号	地区名	遺構名	器種	時期	赤色顔料の状態	赤色顔料の種類	ハレオ・ラボ分析
1	296	1991	A	溝120	鉢	古墳前期	内面	鉄+水銀	
2	344	1996	A	溝120砂層	壺底部	弥生後期末～古墳前期	内面	鉄	
3	他14	2463	A	7面土坑133	石杵	古墳前期			
4	他16	2498	A	土坑122	石臼	古墳前期			
5	1203	1084	2A-1	溝123 (暗茶微砂)	小形丸底壺底部	古墳前期	内面	鉄+水銀	No.3水銀朱
6	1226	1073	2A-1	溝123 (上層)	小形丸底壺体部	古墳前期	内面	鉄+水銀	No.2水銀朱
7	1274	3210	2A-2	10層 (北)	細頸壺	弥生IV末～V初	外面塗布	鉄	
8	1304	2559	2A-2	土器棺3	壺	弥生後期初頭	頸部	鉄	
9	1522	2161	2A-2	溝120 (砂層)	二重口縁壺口縁部	古墳前期	内面平坦面塗布	鉄	
10	1523	2160	2A-2	溝120 (2)	二重口縁壺口縁部	古墳前期	内面放射状?文様	鉄	
11	1524-1529	2165	2A-2	溝120 (1)	広口壺	弥生後期初頭	表面渦巻き文	鉄	No.1ベンガラ
12	1622	3084	2A-2	溝159 (下層)	直口壺?肩部	古墳前期	肩部外面をめぐる線状の文様	鉄	
13	1627	3084	2A-2	溝159 (下層)	壺?細片	古墳前期	内外面	鉄	
14	1628	3084	2A-2	溝159 (下層)	布留壺体部	古墳前期	内面	鉄+水銀	
15	1629	3084	2A-2	溝159 (下層)	布留壺体部	古墳前期	内面	鉄+水銀	
16	1634	3240	2A-2	溝167 (西)	小形壺?	弥生後期～古墳前期	外面	鉄	
17		2185	2A-2	溝120 (砂層)	鉢	弥生後期末～古墳前期	体部～底部内面	鉄+水銀	
18-i		2548	2A-2	土坑116	鉢?体部～底部	古墳前期	内面	鉄	
18-o		2548	2A-2	土坑116	鉢?体部～底部	古墳前期	外面	鉄	
19		2176	2A-2	溝120 (砂層)	壺底部	古墳前期	混和材	鉄	

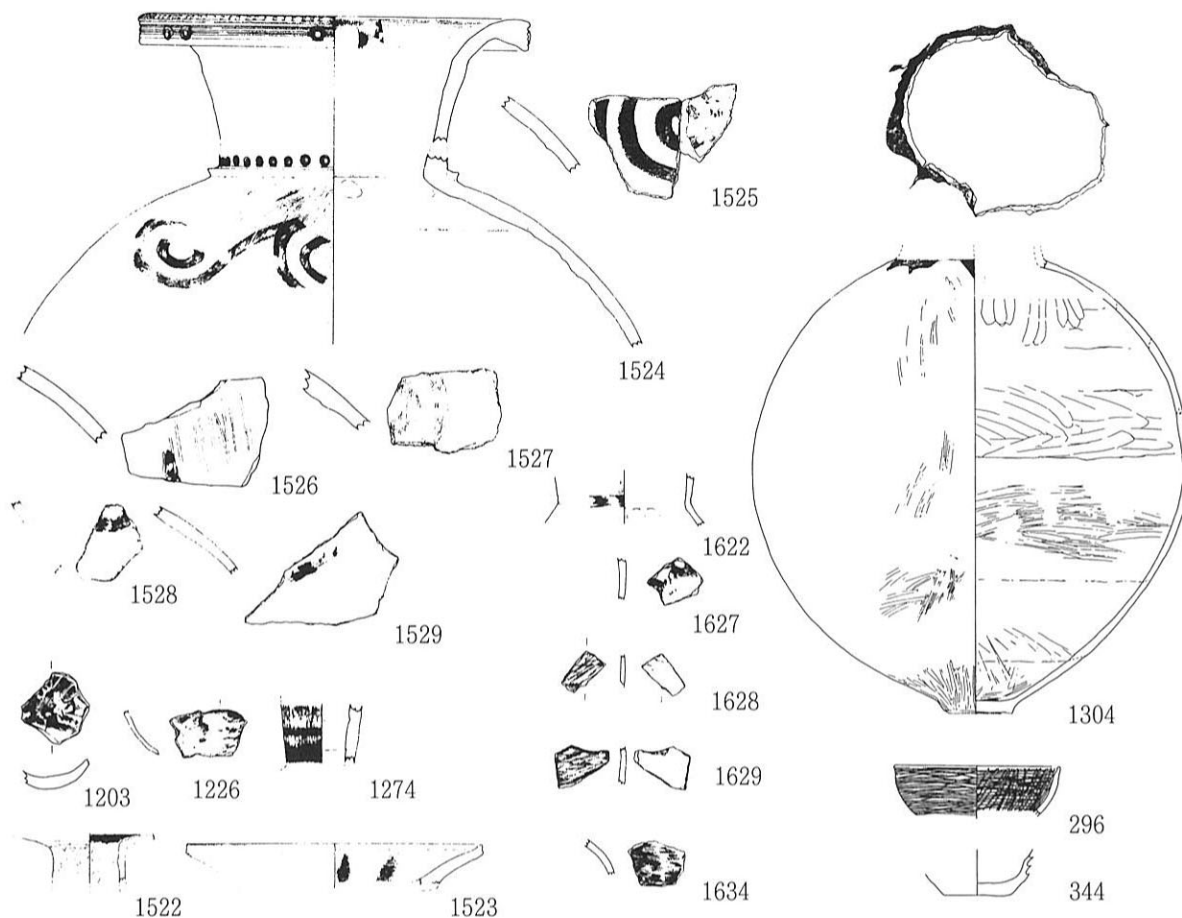


図289 赤色顔料試料採取土器

溝作遺跡より出土した赤彩土器片18点を用いた。その詳細を表23および図289に示す。

なお、No.18は土器外面と内面の両方に赤彩があり、内面の赤色部分を18-i、外面の赤色部分を18-oとし、どちらも分析サンプルとした。

(2) 方法

土器片より赤色部分をカッターナイフで注意深く薄く削り取り、これを集め分析サンプルとした。

集めた赤色部分をビニール袋に入れ、均等な厚さになるように広げ、プレス機を用い10ton/cm<sup>2</sup>で30秒間加圧成形した。蛍光X線分析装置（RIX2000、理学電気工業株式会社（大阪））に成形した試料を入れ、表24に示す分析条件で鉄、水銀、鉛、砒素の検出を行った。

第3項 結果

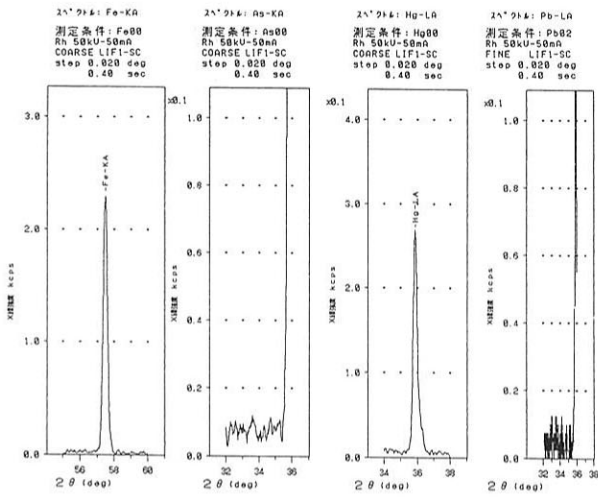
土器片の赤彩部分を蛍光X線分析した結果を図290～292に示す。No.2、7、8、9、10、11、12、13、

表24 蛍光X線分析法の測定条件

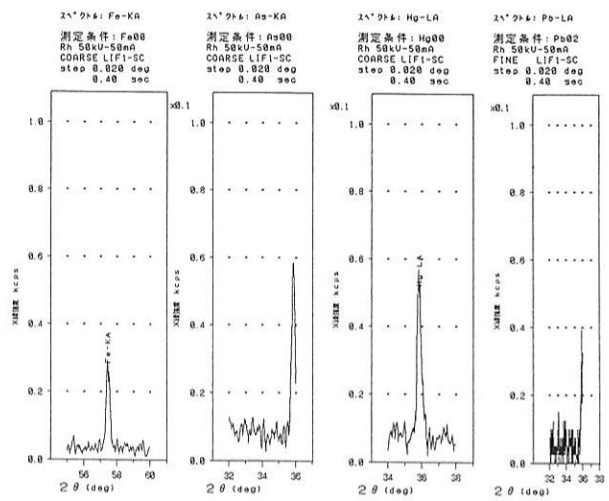
Element	X-ray	2θp (deg)	step (deg)	Crystal	Detector
Fe	Kα	57.55	0.020	LiF1	SC
As	Kα	34.00	0.020	LiF1	SC
Hg	Lα	35.89	0.020	LiF1	SC
Pb	Kα	33.93	0.020	LiF1	SC



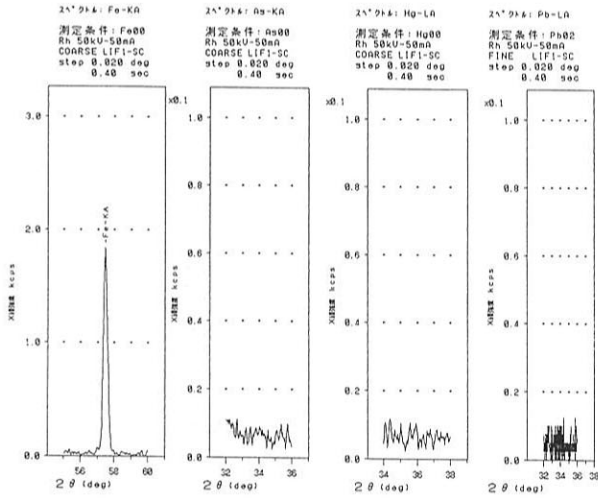
No. 1



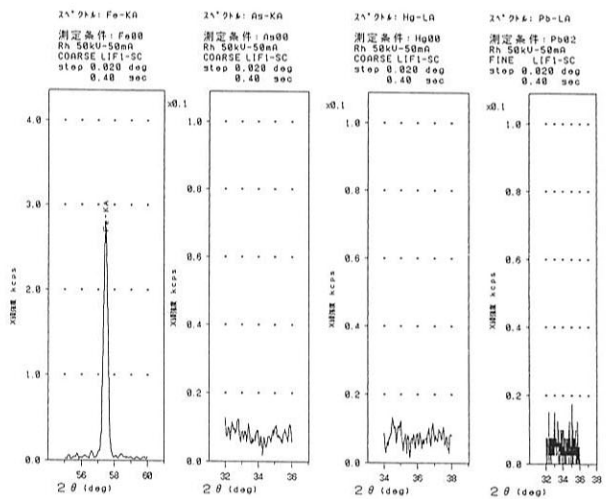
No. 6



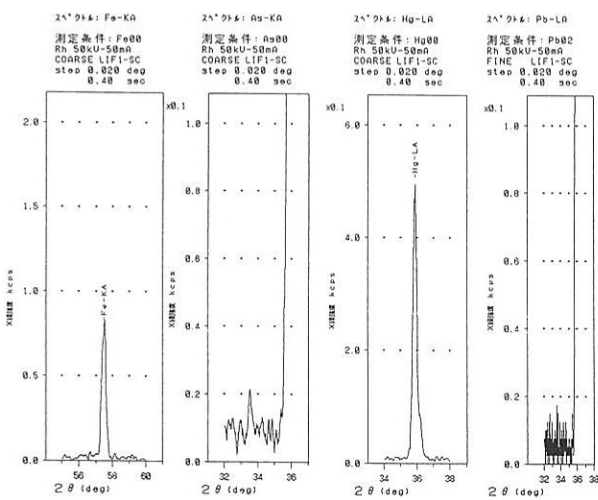
No. 2



No. 7



No. 5



No. 8

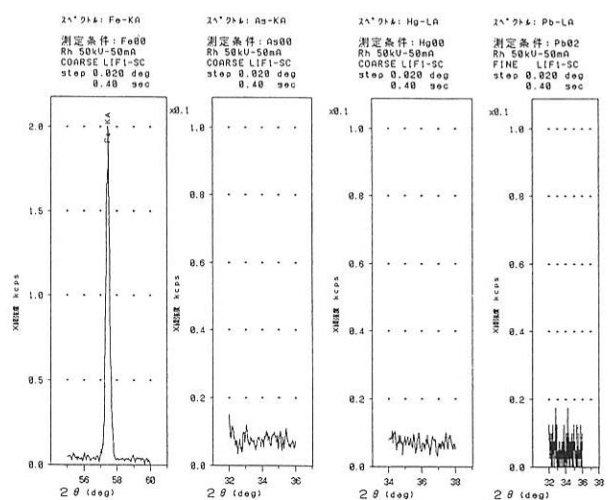
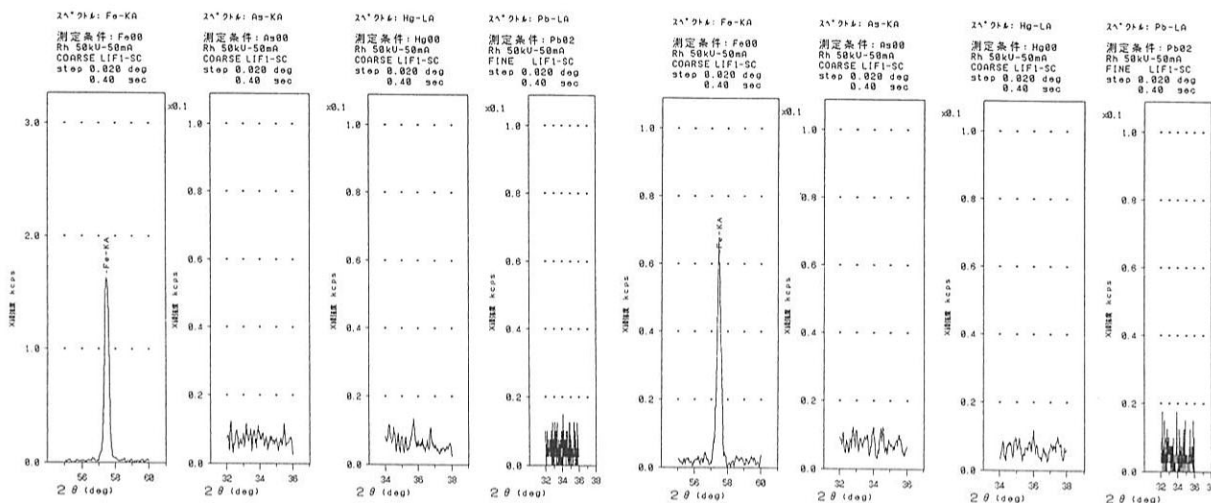


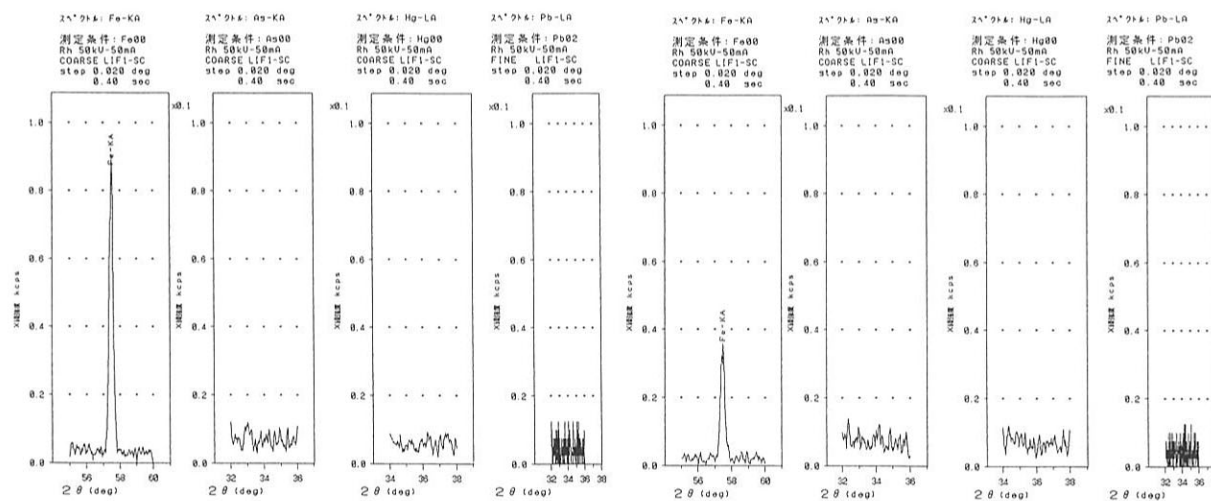
図290 蛍光X線分析(1)

No.9



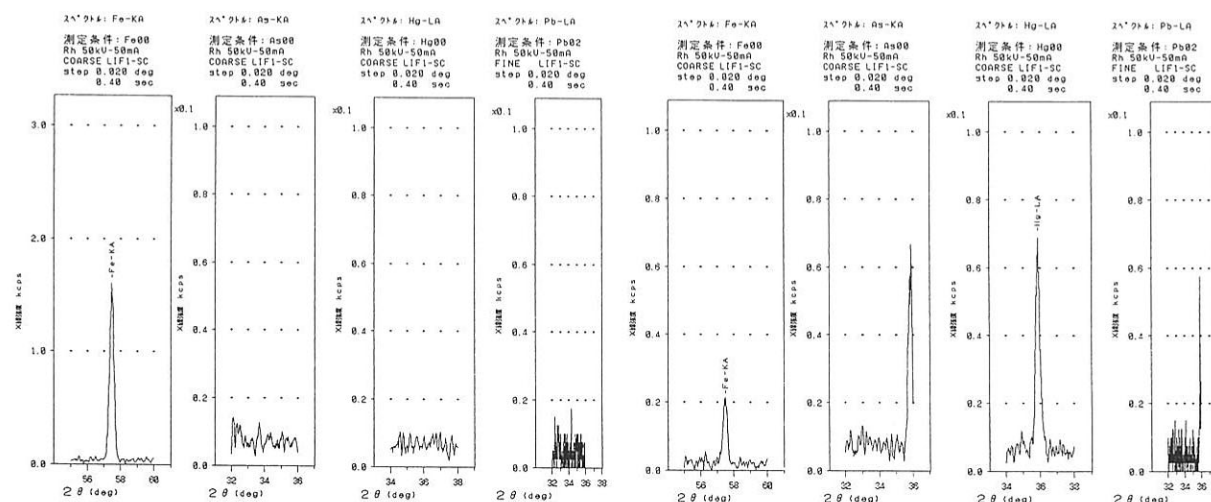
No.12

No.10



No.13

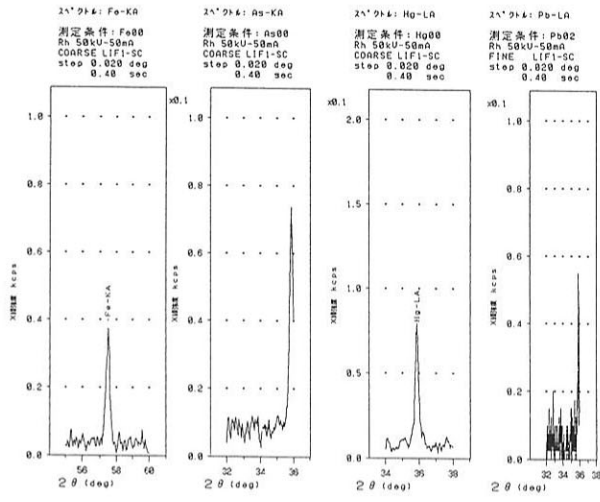
No.11



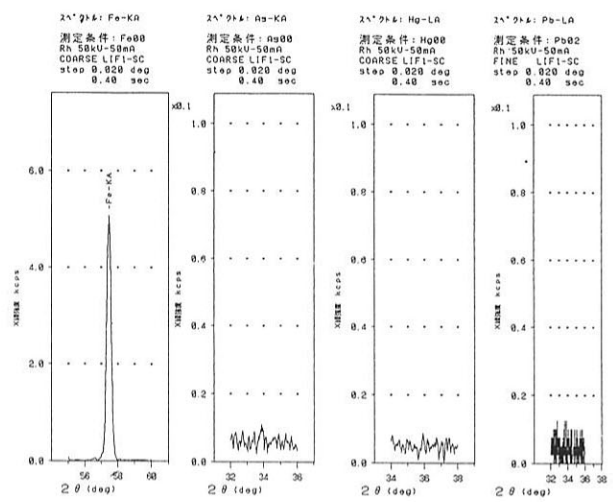
No.14

図291 蛍光X線分析(2)

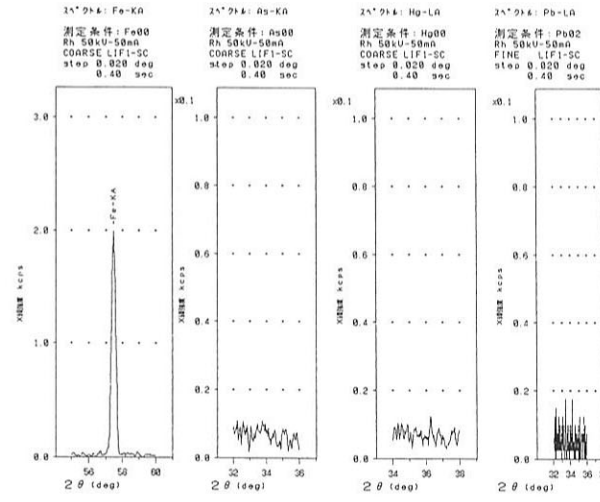
No.15



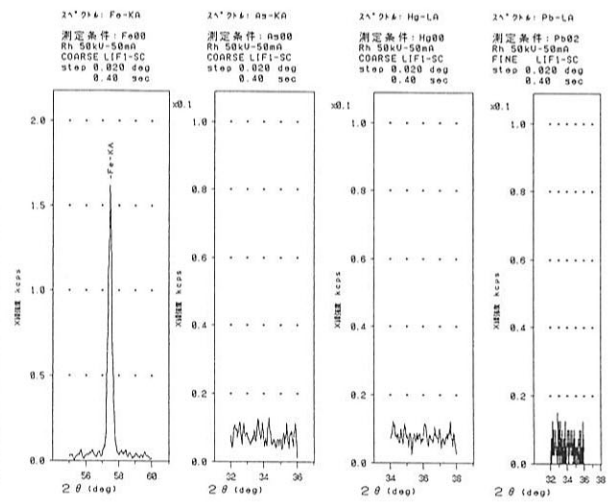
No.18-i



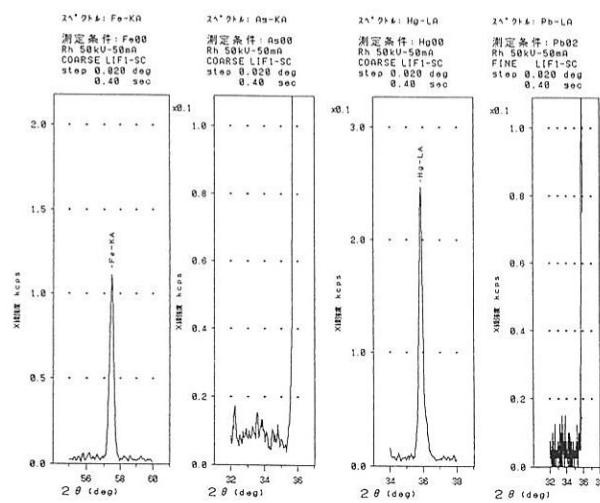
No.16



No.18-o



No.17



No.19

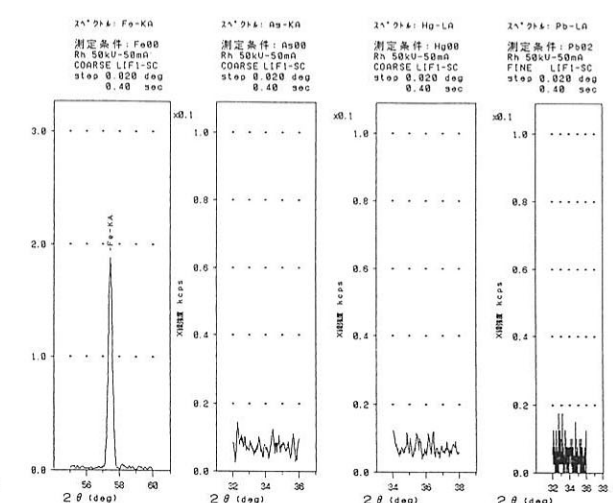


図292 蛍光X線分析(3)

表25 鉄と水銀の強度比

Sample No.	Hg/Fe ratio
1	1.2
5	6.5
6	2.1
14	3.5
15	2.0
17	2.4

16、18-i、18-o、および19の赤色部分からは、鉄だけが検出された。一方、No.1、5、6、14、15、および17の赤色部分からは、鉄と水銀が検出された。

鉄と水銀の両者が検出された6サンプルの強度比を表25に示す。No.6、15、および17はHg/Fe比が約2であったが、No.1は両者を等量、No.14は3倍、No.5は6倍多く水銀を含んでいた。

#### 第4項 判定

今回測定に用いた18サンプルの内、No.18の外表面と内表面を含む12サンプルでは鉄のみが検出され、これらの赤彩には鉄化合物が用いられたと考えられる。残りの6サンプルからは鉄と水銀を検出し、ベンガラと朱を混合して用いたと思われる。また、鉄と水銀の強度比から3サンプル（No.6、15、17）は同時に彩色された可能性がある。No.5のサンプルは鉄がわずかに検出されHg/Fe比が6.5であったが、鉄の混入も考えられ、朱のみで彩色が施された可能性がある。またNo.18の土器は外表面も内表面も鉄のみという興味ある結果が得られた。

#### 第5項 考察

古代から中世にかけて用いられた無機赤色顔料には、ベンガラ（酸化第二鉄）、朱（硫化水銀）、鉛丹（四三酸化鉛）、鶏冠石（二硫化二砒素）の4種類が知られている。砒素は香川県上天神遺跡で把手付広片口皿に検出されている<sup>(1)</sup>。鉛丹は、魏志倭人伝に鉛丹の名前があるが、弥生・古墳時代の遺物から未だ確認されていない。ベンガラの使用は先土器時代から観察され、縄文時代から古墳時代にかけて土器の赤彩に用いられている。一方、朱は縄文時代後期初頭から土器の赤彩に用いられはじめたと考えられている。ベンガラと朱は共に器物の赤彩に用いられたが、縄文時代後期前葉まではベンガラによる赤彩が主であり、後期中葉から後半になると朱による赤彩が多く用いられている<sup>(2)(3)</sup>。ベンガラと朱の使い分けは当初なかったようであるが、焼成前塗彩法が用いられるようになるとベンガラが主となった。なぜなら朱は580°C前後で昇華するので、焼成前塗彩法には不向きである<sup>(2)</sup>。また、朱とベンガラが併用された赤彩土器の出土も報告されている<sup>(2)(4)</sup>。一方、弥生時代の土器で朱が内面に付着した土器が報告されており、これらは近畿地方以西の弥生時代IV期以降に多く、朱の最終調査に用いられた可能性が考えられている<sup>(5)</sup>。

#### 文献

- (1) 香川県埋蔵文化財センター『上天神遺跡』1995
- (2) 成瀬正和「縄文時代の赤色顔料Ⅰ—赤彩土器—」『考古学ジャーナル』438 P10-14 1998
- (3) 奥義次「縄文時代の赤色顔料Ⅲ—伊勢における朱の開発をめぐって—」『考古学ジャーナル』438 P17-18 1998
- (4) 本田光子「赤色顔料から見た古代九州」『応用物理学会放射線分科会 第9回夏の学校要旨集』P49-60 1997
- (5) 大久保徹也「弥生時代の内面朱付着土器」『考古学ジャーナル』438 P24-27 1998

## 第14節 溝咋遺跡出土土器の表面に見られる砂礫

奥田 尚

### 第1項 はじめに

溝咋遺跡から出土した外来系土器の表面に見られる砂礫を肉眼で観察した。最初に裸眼で資料の表面全体の砂礫を観察し、次に観察良好な部分を選んで、倍率30倍の実体鏡で観察した。観察時、砂礫の種類、粒形、粒径、量、および各々の特徴について留意した。粒形は角、亜角、亜円、円に、粒径は目測により裸眼ではmm単位で、鏡下では0.1mm単位で測定した。量については非常に多い、多い、中、僅か、ごく僅か、ごくごく僅かの6段階に区分した。鉱物種は外形により、火山岩起源か深成岩起源かの区別ができるため石英や長石、角閃石については外形についても留意した。

### 第2項 砂礫の特徴

識別できた砂礫種は、岩石片として花崗岩、閃緑岩、斑糲岩、流紋岩、緑色岩類、砂岩、泥岩、チャート、片岩、火山ガラス、鉱物片として石英、長石、黒雲母、角閃石、輝石である。各砂礫種の特徴について述べる。

花崗岩：色は灰白色、灰色で、粒形が角、亜角、粒径が最大2mmである。石英・長石、長石・黒雲母が噛み合っている。

閃緑岩：色は灰色で、粒形が角、粒径が最大1mmである。石英・長石・角閃石、長石・角閃石が噛み合っている。角閃石は針状で自形を示すものがある。

斑糲岩：色は暗灰褐色で、粒形が亜角、粒径が最大4mmである。長石・角閃石が噛み合っている。No.1524資料に含まれる。

流紋岩：色は灰白色、灰色、暗灰色、赤褐色、茶褐色で、粒形が角、亜角、亜円、粒径が最大6mmである。石基はガラス質である。石英の斑晶が見られるものもある。

緑色岩類：色は暗緑色、粒形が亜角、円、粒径が最大1mmである。凝灰岩質である。No.1606、1596の資料に含まれる。

砂岩：色は灰色、暗灰色、黒色、赤桃色、褐色、茶褐色で、粒形が角、亜角、亜円、円、粒径が最大5mmである。細粒砂からなる。

泥岩：色は灰色、暗灰色、茶褐色で、粒形が角、亜角、粒径が最大4mmである。

チャート：色は灰色、暗灰色、褐色、茶色、茶褐色で、粒形が亜角、亜円で、粒径が最大5mmである。

片岩：色は灰白色、灰色、茶色、茶褐色、淡桃色で、粒形が角、亜円、粒径が最大10mmである。石英質片岩、紅簾石片岩、絹雲母片岩、砂質片岩、泥質片岩である。

火山ガラス：無色透明、粒径が最大0.7mmである。貝殻状、束状をなす。

石英：無色透明で、粒形が角、亜角、粒径が最大3mmである。複六角錐あるいはその一部が認められるものがある。

長石：灰白色、白色、灰白色透明、白色透明で、粒形が角、粒径が最大3mmである。自形を示すものがある。

黒雲母：金色、板状で、粒径が最大1mmである。

角閃石：黒色で、粒形が角、粒径が最大3mmである。粒状、短柱状をなす。結晶面が認められるものもある。

輝石：褐色、褐色透明で、柱状、粒状、粒形が角、粒径が最大0.2mmである。自形を示すものがある。

### 第3項 類型区分と傾向

砂礫種構成をもとに源岩を推定して区分する。源岩を推定する場合、例えば、石英・長石・黒雲母あるいは石英・長石、石英・黒雲母、長石・黒雲母、等と噛み合っていれば花崗岩や片麻状花崗岩、花崗斑岩等が砕かれた砂礫と推定し、源岩を花崗岩質岩とした。流紋岩質岩起源の砂礫と推定したものは、石英の斑晶が見られる岩石片や自形の石英が含まれている場合である。更に、推定される主とする源岩

表26 土器の表面にみられる砂礫

資料番号	器種	岩												石												鉱物				海綿の骨片	美質タイプ
		花崗岩		閃緑岩		流紋岩		砂岩		泥岩		チャート		片岩		火山ガラス		石英		長石		雲母		角閃石		輝石					
		肉眼	30倍	肉眼	30倍	肉眼	30倍	肉眼	30倍	肉眼	30倍	肉眼	30倍	肉眼	30倍	肉眼	30倍	肉眼	30倍	肉眼	30倍	肉眼	30倍	肉眼	30倍	肉眼	30倍				
溝作1733	壺																	S 僅	S 僅										VIIIh 紀伊阿波		
溝作1544	鼓形器台					L 稀角	L 中角	M 僅亜角	M 稀亜角	M 稀亜角						S 稀貝	L 多中	M 微	L 僅	M 稀板	L 微板						S 稀E 稀		IVeg 因幡		
溝作1532	壺		L 僅角					L 微亜角	L 微亜角	L 稀亜角								L 僅	L 中E 僅	L 稀	L 僅	S 稀板	M 稀板				S 微		I bdg ?		
溝作1612	製塩土器									M 微角		L 稀角						L 中	M 多E 微	M 中	M 多		M 微板						I dg 備前		
溝作1476	製塩土器	M 稀角		M 稀角														S 僅E 稀	L 稀	S 微		M 微板	S 微	M 非E 多				II ad 因幡			
溝作159	高環					L 多亜角	M 中亜角	M 稀亜角	L 微亜角			L 稀亜角	M 稀亜角					M 僅	S 僅	M 僅	S 僅								IVg 瀬東		
溝作1696	壺	L 微亜角	L 微角					M 稀亜角	M 稀亜角				L 稀亜角					M 僅	M 中E 稀	M 多	L 多					S 僅			I bdg 土師里		
溝作1606	壺?		L 微角					L 僅亜角	M 微亜角					M 稀亜角	M 微貝東			L 稀	M 稀	M 僅						S 稀			VIIafh 在地		
溝作1576	甕							M 僅角											M 多E 中		M 僅					S 稀	M 稀E 僅		IVe 播磨		
溝作554	高環					L 僅亜角	L 中角			L 稀亜角		L 稀亜角							L 中E 微										IVg 瀬東		
溝作553	高環							L 僅亜角	L 僅亜角				M 稀亜角					M 稀	M 僅E 微	S 稀	M 僅								IVg 瀬東		
溝作1524	壺																			M 稀	M 僅				L 非	M 非				II b ?	
溝作1221	甕											M 稀角	M 僅亜角						M 中E 僅	M 稀	M 僅					L 僅			I bdg 在地?		
溝作1438	甕					L 僅亜角	M 微角		L 微亜角		L 僅角			M 稀亜角				M 微	M 僅E 微	M 微	M 僅								IVgh 瀬東		
溝作1242	甕		L 稀角			M 微角	M 僅亜角			M 稀亜角	M 稀亜角	M 稀亜角						M 僅	M 多E 稀		M 僅					M 稀			IVagn ?		
溝作1543	鼓形器台							S 微亜角											M 多E 僅	S 稀	M 中					S 中			I bd ?		
溝作1577	甕							S 稀角		L 稀亜角	M 稀角	L 稀角	M 稀角						L 多	M 多E 僅	M 稀	M 微				S 稀			IVgn 瀬東		
溝作1578	甕												L 中角	L 多角			S 僅貝		S 僅										VIIIh 紀伊阿波		
溝作1542	高環		L 微角															M 僅	L 多E 稀	L 中	M 僅					S 僅E 多			I bd 吉備		
溝作1545	鼓形器台					L 中亜角	M 中角												M 中	M 中E 僅	M 微	M 僅				S 稀	S 稀E 非		IVe 因幡		
溝作1579	甕		L 微角		L 稀角														M 中E 稀	S 中	M 中					M 多E 多			II ad 吉備		
溝作1596		L 稀角	L 稀角						L 僅亜角	L 微亜角								M 微貝東	M 中		L 僅					S 僅			I bfg 在地		
溝作1220	甕									M 稀角									M 多E 中	S 僅	S 稀					S 稀	S 稀		IVagn 庄内川		
溝作1568	甕							L 稀亜角											M 多E 多		M 僅					S 稀			IVn 加賀?		
溝作1575	甕							M 稀角												M 中E 僅	S 微	M 僅	M 稀板	M 微板		S 微			I bd ?		
溝作1580	甕								L 微角	L 微角	L 稀角		L 稀角							L 中E 稀	M 僅	M 微				S 稀			IVg 播磨		

肉眼=肉眼観察 顕眼による観察：L=粒径が2mm以上 M=粒径が2mm未満0.5mm以上 S=粒径が0.5mm未満 非=量が非常に多い 多=量が多い 中=量が中 僅=量が僅か 微=量がごく僅か  
稀=量がごく僅か 30倍=実体顕微鏡の倍率が30倍 実体顕微鏡による観察：L=粒径が1mm以上 M=粒径が1mm未満0.3mm以上 S=粒径が0.3mm未満 - =以下の粒径がある E=自形  
EP=結晶面がある W=白雲母が含まれる 板=板状 貝=貝殻状 東=束状 フ=フジツボ状 パ=軽石状 球=球状 図は報告書の番号と同じ 類型区分は奥田の区分(1992、「庄内式土器研究II」を参照)。

構成以外の砂礫種をもとにして源岩を推定して亜類型を設けた。

観察した土器の砂礫構成は、花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とするⅠ類型、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とするⅡ類型、流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とするⅣ類型、堆積岩起源と推定される砂礫を主とするⅦ類型、片岩起源と推定される砂礫を主とするⅧ類型の5つに大きく区分される。更に、残りの砂礫種をもとに細区分すれば、Ⅰ類型は、Ⅰbd類型、Ⅰbdg類型、Ⅰbfg類型、Ⅰdg類型に、Ⅱ類型は、Ⅱad類型、Ⅱb類型に、Ⅳ類型は、Ⅳagn類型、Ⅳe類型、Ⅳeg類型、Ⅳg類型、Ⅳgh類型、Ⅳgn類型、Ⅳn類型に、Ⅶ類型は、Ⅶafh類型に、Ⅷ類型は、Ⅷh類型に区分される。各類型の特徴について述べる。

Ⅰbd類型：花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる。砂礫相的に吉備、他(?)に区分される。

Ⅰbdg類型：花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、流紋岩質岩起源・閃緑岩質岩起源と推定される砂礫、チャートや砂岩起源の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。砂礫相的に土師里、在地?、他(?)に区分される。

Ⅰbfg類型：花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫、緑色岩類起源と推定される砂礫、砂岩起源の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅰdg類型：花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、流紋岩質岩起源と推定される砂礫、泥岩やチャート起源の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅱad類型：閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩起源・流紋岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる。砂礫相的に吉備、讃岐、他(?)に区分される。

Ⅱb類型：閃緑岩質岩起源と推定される砂礫からなる。

Ⅳagn類型：流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩起源・堆積岩起源と推定される砂礫、角閃石や輝石の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。砂礫相的に庄内川、他(?)に区分される。

Ⅳe類型：流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、自形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる。砂礫相的に因幡、播磨に区分される。

Ⅳeg類型：流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、安山岩質岩起源と推定される砂礫、砂岩や泥岩起源の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅳg類型：流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、砂岩や泥岩、チャート起源の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。砂礫相的に播磨、湖東に区分される。

Ⅳgh類型：流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、砂岩や泥岩、片岩起源の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅳgn類型：流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、砂岩や泥岩、チャート起源の砂礫、他形の角閃石の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅳn類型：流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、他形の角閃石の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅶafh類型：砕屑岩起源の砂礫を主とし、花崗岩質岩起源と推定される砂礫、緑色岩類起源や片岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅷh類型：片岩起源と推定される砂礫からなる。

#### 第4項 土器の砂礫採取地

溝昨遺跡が位置する淀川右岸付近には河岸段丘、第四紀層が、北方の北摂山地には砂岩や泥岩を主とする中生層が、大岩から佐保にかけての付近には閃緑岩の岩体（茨木岩体）が分布する。この影響をうけてか安威川や佐保川には閃緑岩質岩起源の砂礫がみられる。淀川には流紋岩質岩起源の砂礫も僅かにみられ、チャートも比較的多くみられる。当溝昨遺跡から少し行けば北摂山地から流れ出す河川があり、南に行けば淀川となる。このような条件を考慮して、土器にみられる砂礫の採取地について推定する。同じような砂礫構成を示す砂礫は各地にみられるものもあることから、出土遺跡に一番距離が近い場所で採取できる地を採取地とする。

I bd 類型、II ad 類型で吉備とした砂礫は角閃石に結晶面があるものが多く、閃緑岩には針状で自形をなす角閃石がみられることもある。自形あるいはその一部がみられる石英も僅かに含まれる。このような特徴をもつ砂礫は吉備の足守川中流域の砂礫と推定される。I bfg 類型、I bdg 類型で在り地あるいは在り地？とした砂礫は角閃石が比較的多いことから安威川が淀川と合流する付近の砂礫と推定される。また、VII afh 類型で在り地とした砂礫は安威川や佐保川のような閃緑岩分布地に流域をもつ河川の砂礫ではなく、芥川のような主として砂岩や泥岩が分布する付近の川の砂礫と推定される。I bdg 類型で土師里とした砂礫は藤井寺市土師里遺跡付近から柏原市玉手山町付近の石川の砂礫構成に酷似している。I dg 類型で備前とした砂礫は自形の石英、砂岩やチャートが含まれることから、砂礫相的に岡山県牛窓湾付近の砂礫と推定される。II ad 類型で讃岐とした砂礫は砂礫相的に高松市岩清尾山南方付近に分布する閃緑岩の分布地周辺の砂礫に似ている。IV eg 類型で因幡とした砂礫は比較的砂礫粒が円く、砂岩や泥岩が僅かに含まれ、輝石が稀であることから千代川下流域の砂礫と推定される。また、IV e 類型で因幡とした砂礫は砂礫相的に鳥取市西方付近の砂礫と推定される。IV n 類型で加賀？とした砂礫は砂礫相的に石川県の梯川中流の砂礫の可能性がある。IV agn 類型で庄内川とした砂礫は砂礫相的に名古屋台地の北側を流れる庄内川の砂礫に似ている。IV e 類型、IV g 類型で播磨とした砂礫は砂礫相的に姫路市から竜野市にかけての付近の砂礫に似ている。IV g 類型、IV gn 類型、IV gh 類型で湖東とした砂礫は砂礫相的に滋賀県野洲町から近江八幡市にかけての付近の砂礫に似ている。VIII h 類型で紀伊・阿波とした砂礫は結晶片岩起源の砂礫からなることから、紀の川の下流付近か阿波の吉野川の下流付近の砂礫と推定される。？とした砂礫については場所を特定し難い。

#### 第5項 おわりに

時間的な制約があり、ごく僅かの土器資料しか観察をすることが出来なかった。しかし、吉備、讃岐、因幡、播磨、加賀南部、湖東、尾張と各地から土器が運ばれていることが伺える。このように各地から土器が運ばれている遺跡には堺市の下田遺跡や八尾市の中田遺跡、岡山県の津寺遺跡、奈良県の纏向遺跡や南郷大東遺跡等がある。



## 第6章 考察

### 第1節 溝咋遺跡出土の「筑状弦楽器」について

放送大学 笠原 潔

#### 第1項 はじめに

溝咋遺跡から出土した木製品W2に関しては、二つの点からの検討が特に必要と思われる。

一つは、これまでに出土した同種の木製品との比較の問題であり、もう一つは、当該出土品を含めて、そもそもこの種の木製品は何であったかという問題——仮にそれが楽器であったとして、果たしてそれはどのような楽器であったかという問題——である。

以下、この二点について、検討を進めることにする。

#### 第2項 同種の木製品との比較

弥生・古墳時代の遺跡からは、時として、五突起の棒状木製品が出土する。

この種の木製品は、これまでに、表27に示した八つの遺跡から九点が出土している（表27-a）。

これらの木製品は、以下の共通した特徴を示す。

①いずれも躯体の一方の端に五突起を持つか、もしくは、持っていたと推測される。

②躯体全体は、突起のある側（以下、「尾部」）からその反対側（以下、「頭部」）に向かって次第に先細りになっていく外形を取る。従って、躯体の幅は、突起付け根付近で最大値を示す。表27で「最大幅」とあるのは、この部分の数値である。

③躯体の一面は平滑面をなし（以下、こちらの面を「上面」と呼ぶ）、その反対側（以下、「裏面」もしくは「下面」）は稜が立っているか、弧を描いている。その結果、躯体断面は、平たい二等辺三角形をなすか、半円形ないしは蒲鉾型を呈す。

④突起下面は大きく抉られており、従って突起部分の厚さは躯体中央部に比べて薄い。抉り部分の輪郭は概ね放物線状をなす。躯体が最も分厚いのは、この突起下部の抉り込みが描く放物線と躯体下面の稜が交わる個所（ないしは突起下部の抉り込みが描く放物線と躯体下面の弧線が交わる個所）である。表27に「最厚」として示したのは、この部分の厚さである。

⑤頭部先端には、何らかの形で孔が穿たれている（もしくは、穿たれていたと推測される）。

以上のような特徴を持つこれら九点の木製品に加えて、静岡県浜松市角江遺跡からは、これと同種の木製品と思われる弥生時代の棒状木製品が二点出土している。この二点は、尾端の突起が五突起ではなく、四突起をなすという重大な相違は示すものの、上記九例と同種の木製品と見なすことができる<sup>(1)</sup>。従って、この二例も、一覧表に加えることにする（表27-b）。

溝咋遺跡出土の木製品W2は、こうした棒状木製品の頭部側の断片であることが、器形の比較から明らかである。従って、これも表に加えることにする（表27-c）。

**サイズの問題** これら十二例のうち、全長が判明している中で最長の値を示すのは、四条大田中〔6〕（以下、遺跡名に表27に示した整理番号を付して、個々の遺物を区別する）の89.4cmである。逆に、最

表27 棒状木製品一覧

番号	遺跡所在地	遺 跡 名	時 代	全長×最大幅×最厚1)	突起数2)	出典	
1	奈良県橿原市	四分遺跡(藤原京下層)	弥生後期	(26.2) × 5.3 × 1.6	5	①	
2	兵庫県多気郡篠山町	葭池北遺跡	古墳前期	54.3 × [9.0] × 3.8	5	②	
3	滋賀県野洲郡野洲町	市三宅東遺跡	古墳前期(～中期前半)	(66.2) × [9.2] × 3.0	5	③	
4	愛知県豊田市	川原遺跡	古墳中期(四世紀末～五世紀初頭)	(28.7) × 6.1 × [1.8]	5	④	
a	5	滋賀県高島郡新旭町	森浜遺跡	(54.9) × 10.2 × 4.1	5	⑤	
6	奈良県橿原市	四条大田中遺跡	古墳中期	89.4 × 12.0 × 3.8	5	⑥	
7	奈良県橿原市	四条大田中遺跡	古墳中期	(59.5) × 7.8 × 2.2	5	⑦	
8	兵庫県出石郡出石町	袴狭遺跡	古墳中期	(45.7) × 10.05 × 3.2	5	⑧	
9	千葉県木更津市	菅生遺跡	古墳後期	60.9 × 5.3 × 1.9	5	⑨	
b	10	静岡県浜松市	角江遺跡	弥生中期後葉～後期前葉	(54.3) × 5.7 × 2.5	4	⑩
11	静岡県浜松市	角江遺跡	弥生後期前葉	56.4 × 5.0 × 2.6	4	⑪	
c	12	大阪府茨木市	溝咋遺跡	古墳前期末(～中期初頭)	(32.8) × [5.0] × [2.0]	—	⑫

1) 単位はcm。破損のため原サイズが不明の場合は、現存最大値〔 〕内に示した。

2) 現存突起数ではなく、復原突起数。

出典

①奈良国立文化財研究所『飛鳥藤原宮発掘調査報告Ⅲ』1980。奈良国立文化財研究所『木器集成図録 近畿原始篇』(奈良国立文化財研究所史料第36冊)1933(以下、『木器集成図録』)

②篠山町教育委員会『古代祖先の歩み』1980(『木器集成図録』)

③本書。データは、野洲町教育委員会の鈴木桃代さんから御教示いただいた。

④貽谷一「豊中市川原遺跡出土の琴状木製品について」(財)愛知県埋蔵文化財センター『埋蔵文化財愛知』No.53 1998

⑤滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会『森浜遺跡発掘調査報告書』1978(『木器集成図録』)

⑥橿原市千塚資料館「春秋特別展『古代の琴』」展図録1992ほか。

⑦同上。

⑧兵庫県教育委員会「出石町袴狭遺跡遺物説明会史料」1991。データは、兵庫県教育委員会から御教示いただいた。

⑨大場磐雄・乙益重隆編『上総菅生遺跡』中央公論美術出版社1980

⑩(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所『角江遺跡Ⅱ 遺物編2(木製品)』(静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第69集)1996

⑪同上。

⑫本書。

も短いものは、葭池北[2]の54.3cmである。ただし、現存長26.2cmの四分[1]や現存長28.7cmの川原[4]の本来の長さは40cm程度であったと見積もられ、かつてはこうした小型の器体から、四条大田中[6]のような、その二倍以上の長さを持つ器体まで、この種の木製品には大小様々なサイズのものが存在していたことが推定される。

ところで、溝咋[12]は、現存する頭部だけでも32.8cmを測る。その輪郭は菅生[9]の頭部とよく似ているので、頭部幅5.0cmを測る溝咋[12]が頭部幅3.5cm、全長60.9cmの菅生[9]と同じ輪郭を取っていたと仮定してその復原長を求めると、87.0cmという数値が得られる。この数字は、溝咋[12]が四条大田中[6]に匹敵する長さを持っていたことを示唆するものである。現存部分の輪郭から推定される溝咋[12]の長さも、この数値にほぼ見合うものである。

**頭部端の成形法** そうした溝咋[12]の器体を側方から眺めると、頭部端が斜めに切り落とされていて、上部よりも下部の方が突き出ていることに気付く。こうした特徴は、頭部が残存する古墳時代の五例中、葭池北[2]を除く四例(市三宅東[3]・四条大田中[6]・菅生[9]・溝咋[12])にまで共通して見られ、頭部端の成形法に関して、当時、強い規範力が働いていたことが分かる。

**頭部先端孔** これら棒状木製品で頭部が現存するものには、いずれも頭部先端部に何らかの仕方で孔が開けられている。

角江[10]の場合は、平滑面から穿った円孔が裏面まで貫通している(図293-a)。

角江[11]の場合は、平滑面から穿った孔が、頭部裏面を横断するように刻まれた溝上に開口している。別な言い方をすれば、角江[11]の頭部孔の断面は、底辺を欠いた凸字形をなしていると言える

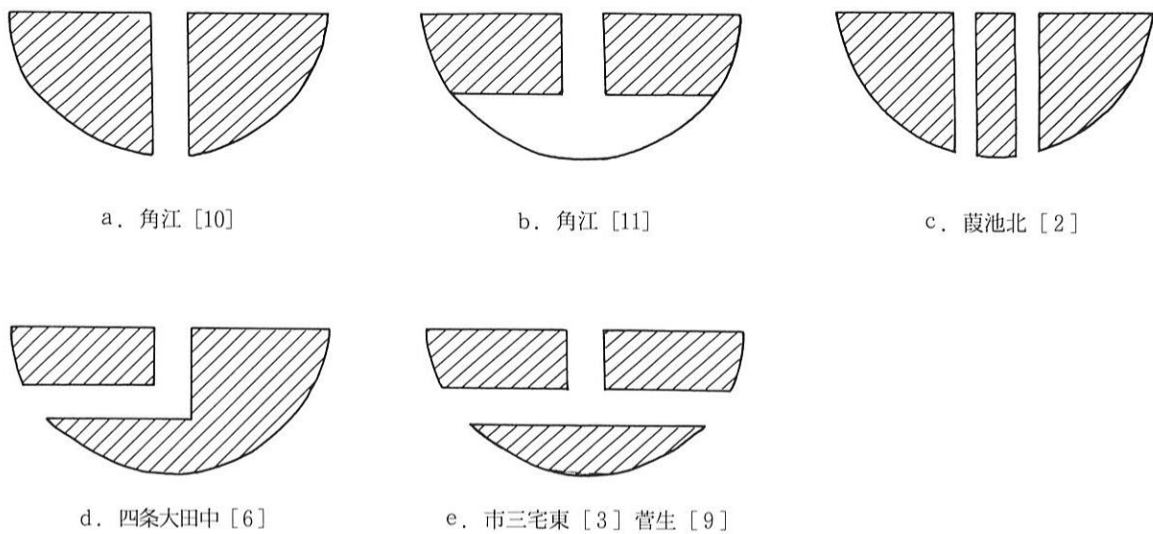


図293 頭部先端孔の断面模式図

(図293-b)。

葭池北 [2] では、頭部を横断するように並んだ二つの円孔が平滑面から裏面まで貫通している (図293-c)。

四条大田中 [6] の場合には、平滑面から穿たれた横長の楕円形の孔が、一側面から穿たれた円孔と躯体中心部で合流している。別な言い方をすれば、平滑面から穿たれた孔は、躯体中央部で九十度方向を換えて躯体側面に開口しているのである (図293-d)。

市三宅東 [3] と菅生 [9] の場合は、平滑面から穿たれた半円形もしくは長方形の孔が、側面から穿たれた円形の貫通孔上に躯体中心部で開口している。別な言い方をすれば、両者の場合、頭部孔の断面は凸字形をなしていると言える (図293-e)。

溝咋 [12] の場合はどうかと言うと、平滑面から穿たれた半円形の孔は、躯体中心部で、側面から穿たれた円形の貫通孔上に開口している。つまり、市三宅東 [3] や菅生 [9] と全く同じ構造をしているのである。この三者は、頭部端の成形法のみならず、頭部先端孔に関しても、全く同じ作り方をしているのである。

さらに言うならば、この三者の頭部先端孔の形状は、四条大田中 [6] や角江 [11] のそれとも似ている。四条大田中 [6] の場合には側面から穿たれた孔が反対側まで貫通しておらず、角江 [11] の場合には、平滑面から穿たれた孔が、側面から穿たれた貫通孔上ではなく、底面から掘り込まれた溝上に開口しているといった相違はあるものの、これら五者の頭部孔の構造は互いによく似た形状をなしていると言ってよからう。

**集弦装置** しかしながら、溝咋 [12] の大きな特徴は、この頭部先端孔の手前、尾部寄りの部分に、別材で作った集弦装置と思われる部材をほぞ留めしている点にある。部材には五本の溝が刻まれているが、その数は同種の棒状木製品の古墳時代例の突起数と一致する。そこから、溝咋 [12] の場合にも失われてしまった尾部端には五本の突起があり、その各々に結び付けられた計五本の弦がこの五本の溝で各一本ずつ受けられていたと推定してよからう。

集弦装置を備えたこの溝咋 [12] の出土によって、この種の木製品に弦を張るとしたら平滑面側に張っていたこと、また、そうであったとすれば、この平滑面が上方もしくは外に向けられていたことが確実

になった。

こうした集弦装置を備えた例は、この種の木製品では始めてであるが、類似の集弦装置を備えた琴の出土は既に報告されている。大阪府堺市下田遺跡出土の琴（古墳時代前期）がそれである。<sup>(2)</sup> 琴央幅13.1 cmと「槽作り」の琴（共鳴槽を伴う琴）としてはやや小型であるが、琴頭部の集弦孔の琴尾側（突起側）の縁に別材で作った集弦装置を木釘で留めている。集弦装置には十二条の溝が掘られているが、琴幅の狭さやこれまで出土した琴の突起数から判断して、その全ての溝が常時弦受け用として使用されていたと考える必要はあるまい。ともあれ、この下田の琴の集弦装置は、器種が異なるとはいえ、溝咋 [12] の頭部先端孔の縁にある部材と非常によく似ており、そこから、溝咋 [12] の部材も、弦受け用の装置であったと推定される。

なお、この種の集弦部材は、滋賀県守山市下長遺跡出土の槽作りの琴（古墳時代前期）にも装着されていた可能性がある。この琴は、琴板琴頭部中央に大きな長方形の切り込みを入れ、その先の琴尾寄りの部分を浅く掘り込んで、そこに小孔を二つ横に並べて貫通させているのが特徴である。<sup>(3)</sup> 出土報告では、この二つの小孔は集弦用の孔と報告されているが、そうではなく、この孔は、掘り込み部分に装着された別材の集弦装置を固定するための釘留め孔であった可能性が高い。<sup>(4)</sup>

こうした琴の集弦装置と類似の装置を備えているところから、溝咋 [12] を含む弥生・古墳時代の棒状木製品は、器種こそ違え、琴に似た弦楽器であった可能性が高いと考えられる。

なお、市三宅東 [3] ・四条大田中 [6] ・菅生 [9] ・溝咋 [12] のように、上面から穿たれた頭部先端孔が側面から穿たれた孔に躯体中央部で合流しているものの場合、側面から穿たれた孔に棒を差し込んで、突起側から張った弦をこの棒に巻き付けて固定したとする考え方がある。<sup>(5)</sup> これら四点に関しては、そうした集弦法を取った可能性も否定できないが、角江 [11] の場合には、平滑面から穿たれた孔は躯体裏面に掘り込まれた溝上に開口していて、棒を側方から差し込んだとしても底面の支えがなく、葭池北 [2] や角江 [10] の場合には、頭部の孔は単なる貫通孔である。従って、市三宅東 [3] 以下の四者の場合にも、そうした弦の巻取り法を想定する必要は必ずしもないように思われる。いずれにせよ、躯体頭部への弦の固定法を示す痕跡は、今のところ、どの出土品でもまだ確認されておらず、この点に関しては今後の検証を待ちたいと思う。

**装飾** 溝咋 [12] のもう一つの特徴は、平滑面の頭部端が装飾風の溝で囲まれており、しかも、頭部に黒漆が塗られている点にある。この種の木製品で躯体に装飾が施されている例には、四条大田中から出土した二点がある。四条大田中 [6] の場合は、躯体裏面に細い線で弧文が刻まれ、また、平滑面に穿たれた頭部先端孔付近にも細い弧文による装飾がある。四条大田中 [7] の場合は、躯体裏面が唐草文などを組み合わせた華麗な装飾で飾られている。現在までに躯体に装飾が加えられた例はこの三点だけであり、いずれにせよ、溝咋 [12] のように、漆が塗られていたり、頭部に装飾風の溝が掘られている例は今のところ他にない。

### 第3項 器種の問題

**従来の分類法** 溝咋 [12] を含むこの種の棒状木製品は、従来の分類法では、「板作り」の琴（共鳴槽を持たない琴）に分類されてきた。

出土琴の分類を試みた水野正好氏は、その時点までに出土していた琴を、まず、大きく「板作りの琴」（共鳴槽を持たない琴）と「槽作りの琴」（琴板の下に共鳴槽を伴う琴）に二分し、さらに形状に基づい

て前者を三群五種に、後者を二群四種に分類した。この分類で、水野氏は、森浜〔5〕と葭池北〔2〕を「板作りの琴」の第1群第2種、すなわち「比較的幅せまく長さも短い細身の形をもち琴板の表面は平滑であるが、裏面は稜をたて断面を三角に仕上げる作りの琴」に、菅生〔9〕を「板作りの琴」第3群第1種、すなわち「羽子板形の特殊な形態をもち、板作りの前記2群とは異なる趣きをもつ琴」に分類した<sup>(6)</sup>。

奈良国立文化財研究所が刊行した『木器集成図録 近畿原始篇』は、出土琴を頭部の平面形・胴部の断面形・尾部の突起数の三つの観点から分類しているが、その中で、胴部の断面形に関しては出土琴をまずⅠ類（板作りの琴）とⅡ類（槽作りの琴）とに大きく分け、さらにその中をそれぞれaからcまでの三グループに細分している。この分類では、当該器種は「Ⅰc類：裏面に稜があり〔胴部断面形が〕厚手の二等辺三角形をなすもの」に分類されている<sup>(7)</sup>。

これに対して、筆者は、通常の「板作り」の琴が「平坦な一枚板からなり、四ないし六突起を持つ」のに対して、当該器種は「躯体が途中から厚みを増して断面が二等辺三角形をなす棒状の器形を持ち、また、五突起を持つ」という固有の特徴を示すところから、これを通常の「板作り」の琴から分離すべきことを提唱して、これを「第三種の琴」（ないしは「棒状琴」）と呼んだ<sup>(8)</sup>。「第三種の琴」とは、「板作りの琴」「槽作りの琴」に次ぐ〈第三種〉の琴の意味である。

琴か？ しかし、この種の木製品は、そもそも「琴」であったのであろうか。この場合の「琴」とは、奏者の前に横たえて弹奏する撥弦楽器を意味するが、この種の木製品の場合は、躯体裏面が弧を描いたり、稜が立っていたりするため、これを横たえると、はなはだ不安定な置き方となってしまう。そうしたところから、この種の木製品は、楽器ではあったとしても、「琴」とは別種な楽器ではなかったか、と推測されるのである。

そうした躯体の形状に注目した場合、楽器としての構え方としては、以下の四通りが考えられる。

①ヴァイオリンのように左肩に載せて構える。

②アイヌの楽器トンコリのように、左胸の前に垂直に、ないしはやや斜めに立てて構える。

③ギターのように、腹に抱えて構える。

④中国古代の楽器「筑」のように、突起と反対側の躯体頭部を左手で握り、器体を身体の前に突き出すようにして構えて、右手に持った棒で演奏する。

このうち、①の構え方は、四条大田中〔6〕や溝咋〔12〕の全長が90cmにもなんなんとする長さを持っているところから、困難であろう。ちなみに、ヴァイオリンの場合は全長60cm前後であり、肩に載せて演奏したとすれば、この程度の長さが適当であったと思われる。また、突起下部を左肩に載せて構えるとなると弦間隔の狭い頭部で弦を弾くことになってしまい、逆に、頭部を左肩に載せるとなると、稜が立ったり、弧を描いていたりする裏面が肩に当たってしまう。こうした点も、このような構え方をした可能性を否定していると思われる。

②の可能性は考えられなくもないが、その場合、突起を上方に向けるとしたら、突起付け根付近を左手の手のひらで受けとめることになる。そうした場合、突起付け根部の幅が12.0cmもある四条大田中〔6〕のような幅広の躯体を手のひらで支えるのは容易なことではない。逆に、突起を下方に向けた場合には、握りやすい太さの頭部が上部にくるため、左手で握りやすくはなるが、構造的に弱い突起部が地面もしくは奏者の膝にあたってしまう。また、こうした構え方をした場合、四条大田中〔6〕や溝咋〔12〕のような大型の器体はともかく、四分〔1〕や川原〔4〕のような小型の器体は保持しにくかつ

たであろう。こうしたところから、このような構え方をした可能性も低いと判断せざるを得ない。

③の可能性も考えられないではないが、その場合、躯体の最も分厚い部分、すなわち、突起下部の挟り込みと躯体裏面の稜（ないしは躯体下面の弧線）が交わる個所が奏者の腹にあたってしまう。そうした場合、なぜこのような器形を取る必要があったか、説明が付かない。この点が、こうした構え方の可能性を否定しているように思われる。

このように考えた場合、④の構え方は、躯体構造から考えて最も合理的である。この種の木製品の場合、頭部側の胴は尾部側（突起側）に比べて細く、しかも握りやすくなっている。そもそも、頭部側の躯体裏面が弧を描いていたり、稜が立っていたりするの、弦を張った平滑面を上方に向けて握った場合に、握りやすくするための工夫だったのではなかろうか。そうであったとすれば、この種の木製品は、古代中国の楽器「筑」と同様、頭部を左手で握って躯体を奏者の体躯の前に突き出し、右手に握った棒状の撥で演奏した楽器であった可能性が高いと考えられる。この考え方は、岡崎晋明氏が最初に提唱したものであるが、<sup>(9)</sup>筆者もこれに賛同するものである。

**筑** 「筑」は、古代中国に起源をもつ弦楽器である。後漢の許慎（西暦30-124）の『説文解字』には「筑、竹を以て五弦の楽を曲する也。竹に从〔したが〕い、珮に从う。珮、これを持つ也。竹、亦、声なり（筑、以竹曲五弦之樂也。从竹、从珮。珮、持之也。竹亦声）」とある。「筑とは、竹をもって五弦の曲を演奏する楽器である。字形は、竹と珮からなる。珮は、これを把持したところを象形したものである。チクという音は、また、この字の音ともなっている」といった意味である。

後漢時代の末に袁紹の軍謀校尉として活躍し、また、『風俗通義』の著者としても知られる応劭が『漢書』高帝紀十二年の条に付した注には「状、琴に似て大頭。弦を安〔=按〕ずるに竹を以てこれを撃つ。故に名づけて筑と曰く（状、似琴而大頭。安弦、以竹撃之。故、名曰筑）」とある。同じ個所に付けられた唐の顔師古（西暦581-645）の注には、「今の筑の形は瑟に似て細頸也（今筑形似瑟而細頸也）」とある。顔師古の注からは、筑は唐代になっても使われ続けていたものの、形が変化し始めていたことが窺われる。事実、後代の文献になると、五弦の筑の他に十二弦、十三弦、二十一弦の筑も挙げられるようになり、時代が下るにつれて弦数が増加していったことが分かる。それと同時に、筑と箏との形態的混同も生じたようで、後代の資料に載せられた筑の図は、筑本来の形態を知る上であまり役に立つものではない。

筑本来の形態を知る上で有用なのは、中国で出土した考古学的資料である。

**馬王堆三号漢墓出土筑** 湖南省長沙市郊外の馬王堆三号漢墓からは、筑の明器が出土している（写真17上）。<sup>(10)</sup>この出土品が筑を象ったものであることは、一緒に出土した埋葬品リストから判明した。全長約33cmで、躯体の半ばまでは断面ほぼ長方形の角材状をなしているが、頭部側は下面と両側部が削られて細くなっており、握りやすい形状になっている。ただし、先端に至って再び幅を若干広げているのは、次に述べる弦掛け用の竹釘を打ち込むためである。躯体上面の両端部には、竹釘が横一列に五本ずつ打ち込まれており、出土時にはその一部に弦が結び付けられたまま残っていた。角材状になっている方の先端部には、釘列のさらに先の所に、キノコのような形の柱<sup>じ</sup>が立てられているが、これは竹釘に結んだ弦の余りの部分を結び付けるためのものと推定されている。

馬王堆三号漢墓の墓主は、馬王堆二号漢墓の墓主である長沙国丞相利蒼と馬王堆一号漢墓の墓主であるその夫人（生々しい屍体が発見されたことで話題を呼んだ）の間に生まれた男子の一人で紀元前168年に死んだ人物であることが出土品から判明しており、そこからこの明器の製作年代の範囲も画定され

る。

曾侯乙墓出土筑 湖北省随県の曾侯乙墓から出土した細長い五弦の撥弦楽器は、発掘報告書では「五弦琴」と報告されているものの、これも筑と認めてよいであろう(写真17中)。<sup>(11)</sup> 全長115cm、尾部幅7.0cm、尾部高4.0cm、頭部幅5.5cm、頭部厚1.4cm。尾部側は断面長方形で中は中空になっており、下面に楕円形の響孔が開口している。躯体中央部から頭部寄りの部分の厚さは尾部側よりも薄く、断面が蒲鉾型になるように成形されている。上面の両端には小孔が五個ずつ躯体を横切るように開けられ、その手前には頭部・尾部とも弦受け用の高まり(「岳山」)が設けられている。尾部上面には、馬王堆三号漢墓出土の筑と同様、キノコ状の柱が削り出されている。この墓は、紀元前433年頃に死亡した楚の属国曾(=随)の支配者乙のものであることが判明しており、従って、この楽器は春秋時代末期のものである。なお、同墓の発掘報告書では、「頭部」「尾部」という言葉の使い方が本稿での呼び方と正反対になっている。本稿では、日本側の出土例の記述と一致させるために、同報告書での「頭部」「尾部」という言葉の使い方を改めたことを申し添えておく。

このほかにも、湖南省長沙市の望城坡漢墓からも前漢時代の三点の筑が出土したことが報じられている。<sup>(12)</sup>

図像資料 筑の演奏法を示す図像資料も出土している。馬王堆一号漢墓の棺画(写真17下)や江蘇省連雲港の前漢墓の漆喰画(図294)がそれである。<sup>(13)</sup> これらの資料を通じて、奏者は筑の頭部を左手で握り、楽器全体を体躯の前に突き出すようにして、右手に持った長い竹棒で弦を打った(もしくは、払った)ことが分かる。古来、「鼓琴擊筑」と言うが、この場合の「擊」とは、「琴」が「鼓」すなわち指で弹奏されるのに対して、竹棒で打弦することを意味したものであることが、これらの資料から推測される。

なお、東京の出光美術館には、筑奏者を象った漢代の塑像が所蔵されている。<sup>(14)</sup>

筑との共通点 これらの考古資料に見られる春秋時代から漢代にかけての筑は、以下の点で弥生・古墳時代の棒状木製品と構造的特徴を共有している。

① 躯体全体が細長い外形を示す。

② 頭部側が尾部側に比べて細くなっており、握りやすい太さになっている。その部分の下面は弧を描いており、手のひらにうまくフィットする。

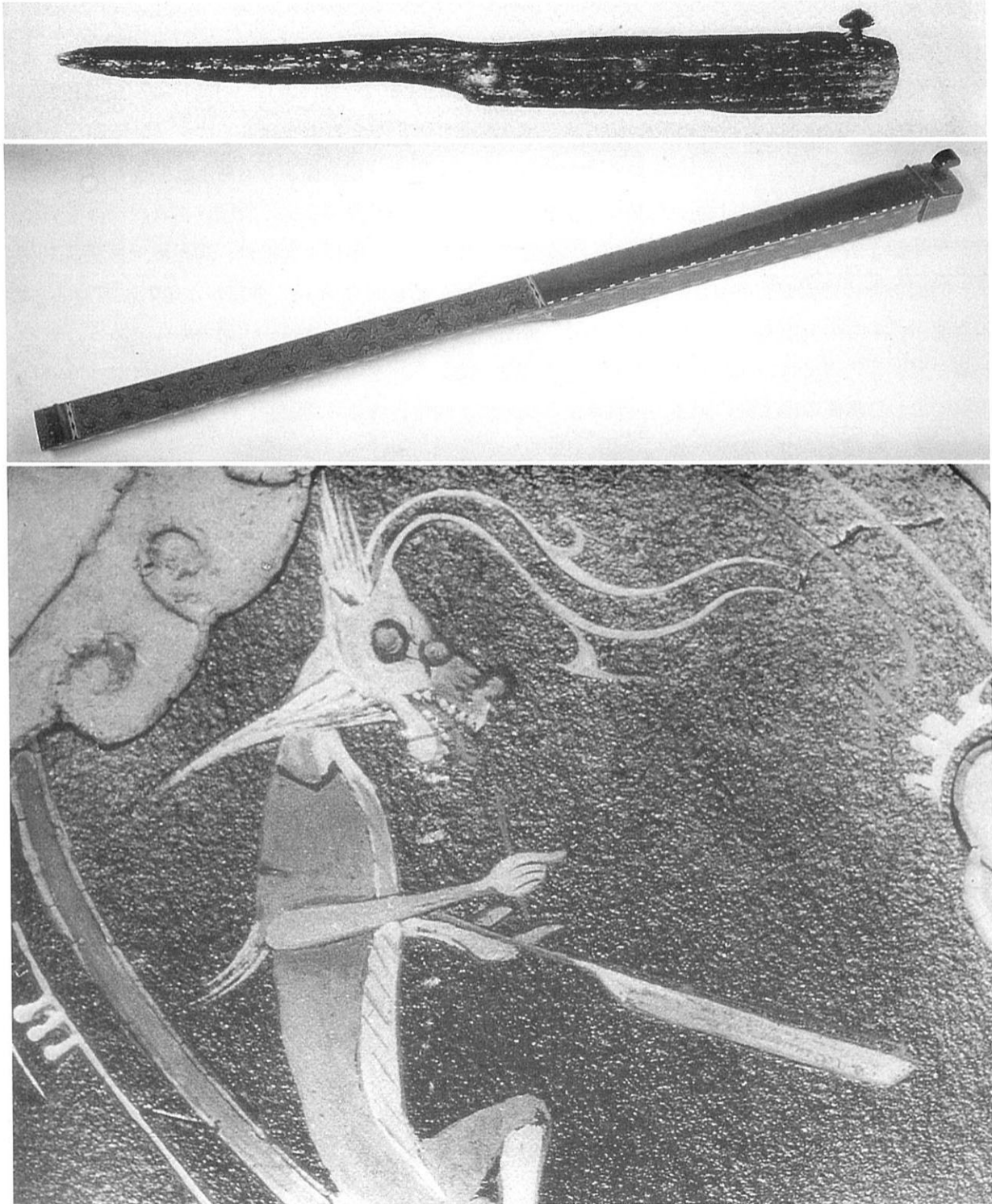
③ 上部の平滑面に弦を張っている。

筑との相違点 その一方で、日本の遺跡から出土する棒状木製品は、以下の点で古代中国の筑と相違している。

① 古墳時代の棒状木製品は、筑と同様、五弦であったと推定されるが、弥生時代の出土例のうち、角



図294 江蘇省連雲港の前漢墓の漆喰画



上・馬王堆三号漢墓出土筑  
 中・曾侯乙墓出土筑  
 下・馬王堆一号漢墓の棺画

写真17 筑関連資料

江遺跡から出土した二点は四突起であり、四弦であったと推定される。

②日本の棒状木製品は尾部に突起を持つが、中国の筑には突起がない。

③筑の尾部は箱状になっているが、日本の棒状木製品の場合は箱状になっておらず、その代わりに突起下面が大きく抉られている。



④筑の尾部には、弦の余りを結び付ける柱が立っているが、日本の棒状木製品にはそれに相当するものはなく、弦は突起に直接結び付けられていたと推測される。

**筑状弦楽器** こうした点から、日本の棒状木製品は、筑に似ているが、筑そのものではなく、従って、これを呼ぶ際には、「筑状弦楽器」ないしは「筑状打弦楽器」という名称を用いるのが適当であろうと思われる。

なお、現在までのところ、この「筑状弦楽器」を演奏している姿を象った埴輪の出土は報告されていない。また、後代の日本側の文献にも、これに該当する楽器に関する記述は見当たらない。ただし、『隋書』倭国伝（『隋書』東夷伝中の倭国の条）に記された推古朝の日本音楽に関する報告文（「楽有五弦琴笛」）中の「五弦」という言葉が、この「筑状弦楽器」を指している可能性があることは、指摘しておきたい。<sup>(15)</sup>

## 註

- (1) 拙稿「出土琴の研究(3)」『放送大学研究年報』第16号 1999. 3
- (2) ㈱大阪府文化財調査研究センター『堺市下田町所在 下田遺跡 — 都市計画道路常盤浜寺線建設に伴う発掘調査報告書 —』(㈱大阪府文化財調査研究センター調査報告書第18集) 1996
- (3) 滋賀県埋蔵文化財センター『滋賀埋文ニュース』第121号 1990. 4
- (4) 拙稿「出土琴の研究(2)」『放送大学研究年報』第13号 1996. 3
- (5) 佐賀県立博物館『時代をかなでた楽器 音の結ぶ世界』展図録 1994 94頁で、そうした弦の巻取り法の可能性が指摘されている。
- (6) 水野正好「琴の誕生とその展開」『考古学雑誌』第66巻1号 1980
- (7) 奈良国立文化財研究所『木器集成図録 近畿原始篇』(奈良国立文化財研究所史料第36冊) 1993
- (8) 拙稿「出土琴の研究(1)」『放送大学研究年報』第12号 1995. 3
- (9) 岡崎晋明「古代人の楽器と歌舞」大塚初重他編『考古学による日本歴史』12「芸術・学芸とあそび」雄山閣 1998
- (10) 劉東升他編著『中国楽器図志』軽工業出版社 北京 1987、『中国音楽史図鑑』中国芸術研究院音楽研究所・人民音楽出版社 北京 1988ほか。
- (11) 湖北省博物館編『曾侯乙墓』文物出版社 北京 1989、東京国立博物館 特別展『曾侯乙墓展』図録 1992ほか。
- (12) 『月刊文化財発掘出土情報』1994年4月号(127-128頁)。同、1994年5月号(144頁)。
- (13) 劉東升他編著、前掲書。前掲『中国音楽史図鑑』。
- (14) 富田哲雄『陶俑』(平凡社版『中国の陶磁』2) 平凡社 1998所載の写真では、楽器は左肩に立てかけられた状態で写っているが、左手に持たせるのが正しい。
- (15) この問題に関しては、拙稿「出土琴の研究(3)」を参照されたい。

**追記** 本稿入稿後、新たに三点の「筑状弦楽器」が出土した。静岡県浜松市恒武西浦遺跡出土のもの(古墳中期、五世紀)は、躯体の一側面を失い、頭部も欠損しているが、現存長105cm、現存幅8.5cm、最厚4cmを測る。下面には華麗な模様が彫り込まれ、赤漆・黒漆の付着も確認された。下面に三個所釘孔がある。筆者は、この出土品を、実用の楽器ではなく、祭祀用の儀器ではなかったかと考えている(1999年7月28日付け静岡新聞)。西浦遺跡と一体の遺跡である恒武山ノ花遺跡出土のもの(古墳中期、五世紀。ヒノキ)は、突起および頭部の集弦孔から先の部分を失っているが、現存長65.7cm、現存幅6.8cm、最厚2.8cmを測る。胴部の絞り込み方など、西浦遺跡出土のものと同通した特徴を示すが、躯体に装飾は施されていない(㈱浜松市文化協会、『山ノ花遺跡 遺構編(図版)』1998. 3に「榿」として掲載)。京都府日向市東土川西遺跡(長岡京下層)出土のもの(古墳前期、四世紀前半。スギ)は、頭部の断片で、現存長35.2cm、現存最大幅5.8cm、最厚3.0cm。溝咋遺跡出土品と同様の集弦用の別材をはめ込んだと思われる浅い溝が集弦孔の手前に掘り込まれている点が注目される。サイズの的にも溝咋遺跡出土品に近い(1999年9月25日付け京都新聞)。

また、静岡県磐田市明ヶ島5号墳の覆土および下層から出土した土製品(五世紀前半。古墳構築前に散布されたもの)の中に、「筑状弦楽器」を象ったほぼ完成品が二点、ほかにその断面と思われるものが数点あることを確認した。本文に記したように、「筑状弦楽器」を象った埴輪は確認されていないが、土製品祭祀の場合には、「筑状弦楽器」を象ることがあったことが判明した。

## 第2節 溝咋遺跡出土の外来系土器について

合田 幸美

### 第1項 はじめに

溝咋遺跡では、古墳時代集落を貫流する溝120を中心とする遺構、包含層から125点の外来系土器が出土している（表28・29）。一遺跡から出土する外来系土器としては非常に多く、関連する地域も広範であり、時期も弥生時代前期から古墳時代前期にわたる。小論では溝咋遺跡出土の外来系土器について、基礎的な分析、検討をおこなう。

なお、ここで用いる「外来系土器」という用語は、土器そのものがもたらされた、いわゆる「搬入土器」と在地で他地域の影響を受けて製作された「模倣土器」の二つの意味を含む広義な用語とし、胎土に含まれる砂粒の観察から、土器そのものが外来した可能性が高い土器は「外来土器」と呼称する。

また、外来系土器とした土器には、他地域に故地をもつものが畿内への伝播の過程において、形態が変容したと考えられるものも含めた。小論では、基本的に、在地の器形構成に含まれない土器を広く外来系土器として捉えた。

### 第2項 事例

溝咋遺跡出土の外来系土器の故地とみられる地域は、東は南関東から西は備後におよぶ。地域別に各事例について述べる。また、外来系とみられるものの地域が特定できないものは最後に一括した。

南関東（図295） 1370、1519の2点がある。

1370は、小形壺形土器の頸部から体部片で、肩部に突帯がめぐり、体部には縦に等間隔に7本の突帯が貼付される。突帯上には刻み目が、肩部と体部突帯間にはハケメが施される。類例は、群馬県榛名町稲荷森遺跡（榛名町教育委員会他1998）、神奈川県川崎市久地伊屋之免古墳（村田1997）などにみられ、特異な形態を示すためか各地で集成が試みられている（久地伊屋之免遺跡発掘調査団1987、角南2000）。これらの成果に拠ると、こうした縦位・横位の突帯文をもつ土器は17遺跡22例があり、東は福島県から、群馬県、山梨県、茨城県、千葉県、神奈川県、西は静岡県までと日本海側では石川県に分布し、弥生時代後期から古墳時代中期前半に位置づけられている（第6章第4節参照）。関東地方を中心に分布するが、関東地方における類例も10例前後と少なく、東海地方の弥生時代後期の土器の影響を受けた可能性が考えられている。また、出土遺跡は河川沿いに立地する例が多く、海、河川を利用した水運に伴う移動が考えられている（神沢1968・1969）。本資料は、こうした土器の分布の西端に位置することとなる。本遺跡も安威川沿いに立地する集落であることから、これまでの出土例と同じく水運に伴う移動が考えられるであろう。時期については、溝120出土土器であるため遺構からの判断は難しいが、多くの類例が属す、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭に位置づけられると考える。

1519は、壺形土器の肩部片であり、上段に羽状縄文、下段に結節縄文が施される。こうした文様構成は宮ノ台式新段階から久ヶ原式、弥生町式にみられ、静岡県東部の相模湾から千葉県房総半島にかけて分布する。この地域の弥生時代後期後半から終末にかけての文様の変遷は、結節縄文が先に消えて羽状縄文が残る傾向があり、この土器片は結節縄文が消える直前の段階とみられ、弥生時代後期後半でも終末に近い時期に位置づけられる。しかし、文様帯のありかたが関東的な原則から崩れたものである点が

表28 外来系土器一覽(1)

土器番号	区	出土層位・遺構	器種	器形	胎土	備考
53	A	7層	土師器	壺	密 石英・長石・黒雲母を含む	外来系? 山陰?
58	A	7層	土師器	壺	密 黒雲母を含む	外来系 瀬戸内
59	A	7層	土師器	壺	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来系 瀬戸内 スリップ
61	A	7層	土師器	壺	密 石英・長石・片岩を含む	外来系 阿波 黒色顔料付着
62	A	7層	土師器	壺	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	外来系 北近畿
63	A	7層	土師器	壺	密 長石・チャート・黒雲母を含む	外来系 山陰
65	A	7層	弥生土器(後期初頭)	器台または壺	密 角閃石・長石・雲母を含む	外来系 瀬戸内 口縁部に黒色顔料付着
138	A	7面	土師器	壺	密 石英・長石・チャートを含む	外来系 瀬戸内
139	A	7面	土師器	壺	密 長石を含む	外来系 瀬戸内
143	A	7面	土師器	甃	密 長石を含む	外来系 阿波
157	A	8層	土師器	高杯	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来系 湖東(奥田氏分析)
159	A	8層	土師器	高杯	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外来系 湖東、野洲川?(奥田氏分析)
174	A	8層	土師器	甃	密 石英・長石・チャート・角閃石・赤色酸化土粒を含む	外来系 河内?
175	A	8層	土師器	甃	密 長石・チャート・角閃石・赤色酸化土粒を含む	外来系 河内?
176	A	8層	土師器	甃	密 石英・長石・チャート・角閃石・赤色酸化土粒を含む	外来系 河内?
182	A	8層	土師器	鉢	密 石英・長石を含む	外来系? 山陰
186	A	9層	弥生土器(後期初頭)	器台	密 長石・チャート・角閃石・赤色酸化土粒を含む	外来系 河内?
228	A	6面 溝73	土師器	甃	密 石英・長石・チャート・角閃石・赤色酸化土粒を含む	外来系 河内?
259	A	7面 溝120	土師器	壺	密 石英・長石・雲母を含む	外来系 阿波(奥田氏観察) 黒色顔料付着
260	A	7面 溝120	土師器	壺	密 石英・チャートを含む	外来系 瀬戸内
261	A	7面 溝120	土師器	壺	密 長石・雲母・角閃石を含む	外来系? 瀬戸内
282	A	7面 溝120	土師器	甃	密 石英・長石・角閃石・赤色酸化土粒を含む	外来系 河内
329	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	密	外来系?
330	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	密 石英・長石・雲母を含む	外来系 瀬戸内
331	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	密	外来系 瀬戸内
332	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	密 石英・長石・雲母を含む	外来系 瀬戸内
335	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	密	外来系 山陰?
358	A	7面 溝120 砂層	弥生土器(後期初頭)	高杯	密 石英・長石・雲母を含む	外来系 河内?
383	A	7面 溝120 砂層	土師器	甃	密	外来系 吉備 下田所
482	A	7面 土坑129	土師器	壺	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外来系 東部瀬戸内
484	A	7面 土坑133	土師器	壺	密 石英・チャートを含む	外来系 東部瀬戸内
488	A	7面 土坑133	土師器	壺	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来系 東部瀬戸内内 黒色顔料付着
491	A	7面 土坑133	土師器	壺	密 石英・長石を含む	外来系 北近畿
553	A	7面 土坑123	土師器	高杯	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 湖東、野洲川?(奥田氏分析)
554	A	7面 溝123	土師器	高杯	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外来系 湖東、野洲川?(奥田氏分析)
605	A	7面 土坑134	土師器	甃	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来系 山陰
964	C	西7層	土師器	甃	密 長石・チャートを含む	外来系 北近畿
1082	C	西7面 河川4	土師器	甃	密 チャート・雲母を含む	外来系 北近畿
1083	C	西7面 河川4	土師器	甃	密	外来系 山陰~北近畿
1200	2A-1	3層	土師器	器台	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 因幡(奥田氏観察)
1204	2A-1	溝120	土師器	甃	密 長石・黒雲母を含む	外来系 河内
1210	2A-1	溝123	土師器	壺	密 長石・チャートを含む	外来系?
1220	2A-1	溝123	土師器	甃	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外来系 愛知県庄内川?(奥田氏分析)
1221	2A-1	溝123	土師器	甃	密 チャート・黒雲母を含む	外来系 東海 胎土は在地(奥田氏分析)
1222	2A-1	溝123	土師器	片口鉢か高杯	密 砂粒を含む	外来系?
1223	2A-1	溝123	土師器	鉢	密	外来系 阿波(奥田氏観察)
1224	2A-1	溝123	土師器	鉢	密 砂粒を含む	外来系 近江
1227	2A-1	溝123	弥生土器(中期)	壺または高杯	密 長石を含む	外来系 備後、山陰
1230	2A-1	溝123	弥生土器(前期)	壺	密 砂粒を含む	外来系 播磨(奥田氏観察)
1240	2A-2	6層	土師器	器台	密 チャート・赤色酸化土粒を含む	外来系 因幡、秋里か伯耆?(奥田氏観察)
1241	2A-2	6層	土師器	甃	密 チャートを含む	外来系 因幡(奥田氏観察)
1242	2A-2	6層	土師器	壺	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 丹後(奥田氏分析)
1243	2A-2	6層	土師器	甃	密 チャート・黒雲母を含む	外来系 北陸か山陰、秋里?(奥田氏観察)
1261	2A-2	8層	弥生土器(後期)	甃	密 小石を含む	外来系 近江 スス付着
1269	2A-2	10層	弥生土器(後期初頭)	壺	密 長石・赤色酸化土粒・角閃石を含む	赤色顔料付着 1524~1529と同一個体 外来系 河内ではない(奥田氏分析)
1271	2A-2	10層	弥生土器(後期)	壺	密 長石・チャート・角閃石を含む	外来系 河内?
1276	2A-2	10層	弥生土器(後期初頭)	甃	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 播磨
1279	2A-2	11面	弥生土器(中期)	壺	密 長石・角閃石を含む	外来系 河内
1281	2A-2	11層	弥生土器(後期)	甃	密 石英・長石を含む	外来系 近江 スス付着
1283	2A-2	11層	弥生土器(後期初頭)	高杯	密 長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 四国?河内?(奥田氏観察)
1300	2A-2	土器棺1	弥生土器(後期初頭)	壺	密 石英・長石・チャート・雲母を含む	外来系 阿波(奥田氏観察)
1302	2A-2	土器棺2	弥生土器(後期)	壺	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来系?
1304	2A-2	土器棺3	弥生土器(後期)	壺	密 長石・角閃石を含む	外来系? 河内?
1370	2A-2	溝120	土師器	壺	密 石英・長石・赤色酸化土粒・黒色粒を含む	外来系 南関東在地の胎土(奥田氏観察)
1371	2A-2	溝120	土師器	壺	密	外来系 東部瀬戸内
1372	2A-2	溝120	土師器	壺	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	外来系 東部瀬戸内 内外 黒色顔料付着 打ち欠き
1373	2A-2	溝120	土師器	壺	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 東部瀬戸内
1374	2A-2	溝120	土師器	甃	粗 石英・長石・チャート・雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 山陰
1375	2A-2	溝120	土師器	甃	密 石英・長石を含む	外来系 山陰
1376	2A-2	溝120	土師器	壺	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 阿波(奥田氏観察)
1377	2A-2	溝120	土師器	壺	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	外来系 瀬戸内
1392	2A-2	溝120	土師器	小形壺	密	外来系 北近畿
1393	2A-2	溝120	土師器	小形壺	密	外来系 北近畿
1415	2A-2	溝120	土師器	小形器台	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 東海

表29 外来系土器一覧(2)

土器番号	区	出土層位・遺構	器種	器形	胎土	備考
1416	2A-2	溝120	土師器	小形器台	密 石英・チャートを含む	外来系 山陰
1417	2A-2	溝120	土師器	小形器台	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外来系 山陰
1422	2A-2	溝120	土師器	甕	密 長石・石英・角閃石を含む	外来 河内?
1423	2A-2	溝120	土師器	甕	密 長石・チャート・黒雲母・角閃石・赤色酸化粒を含む	外来 河内?
1435	2A-2	溝120	土師器	甕	密 石英・長石・チャート・角閃石を含む	外来 河内?
1436	2A-2	溝120	土師器	甕	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外来系 山陰
1437	2A-2	溝120	土師器	甕	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来系 北近畿
1438	2A-2	溝120	土師器	甕	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来 湖東(奥田氏分析)
1439	2A-2	溝120	土師器	甕	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来 湖東
1440	2A-2	溝120	土師器	甕	密 長石・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 東海
1441	2A-2	溝120	土師器	鉢	密 石英・長石を含む	外来系 山陰
1476	2A-2	溝120	土師器	製塩土器	密 雲母・赤色酸化土粒を含む	外来 讃岐(奥田氏観察)
1477	2A-2	溝120	土師器	製塩土器	密 石英・長石・雲母を含む	外来 吉備?
1500	2A-2	溝120 砂層	土師器	壺	密 片岩を含む	外来 阿波
1503	2A-2	溝120 砂層	土師器	壺	密 石英・長石・雲母・黒色粒・砂粒を含む	外来系? 瀬戸内
1504	2A-2	溝120 砂層	土師器	壺	密 長石・チャートを含む	外来系? 瀬戸内
1514	2A-2	溝120 砂層	土師器	壺	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	外来系 北近畿
1515	2A-2	溝120 砂層	土師器	壺	密	外来系 瀬戸内
1516	2A-2	溝120 砂層	土師器	壺	密 小石を含む	外来系 瀬戸内
1517	2A-2	溝120 砂層	土師器	壺	密 石英・長石・赤色酸化土粒・角閃石を含む	外来系 瀬戸内 黒色顔料付着
1518	2A-2	溝120 砂層	土師器	壺	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来系 瀬戸内 黒色顔料付着
1519	2A-2	溝120 砂層	弥生土器(後期)	壺	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来系 南関東
1520	2A-2	溝120 砂層	土師器	壺	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外来 阿波(奥田氏観察)
1521	2A-2	溝120 砂層	弥生土器(後期初頭)	壺	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	外来 瀬戸内
1532	2A-2	溝120 砂層	土師器	壺	粗 砂粒を含む	外来?(奥田氏分析)
1542	2A-2	溝120 砂層	弥生土器(後期初頭)	高杯	密 石英・長石含む	外来 吉備、旭川、総社平野(奥田氏分析)仁五式
1543	2A-2	溝120 砂層	土師器	器台	密 長石・赤色酸化土粒を含む	外来 在地ではない(奥田氏分析)
1544	2A-2	溝120 砂層	土師器	器台	密 石英・チャートを含む	外来 因幡(秋里?) (奥田氏分析)
1545	2A-2	溝120 砂層	土師器	壺	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	外来 因幡か(奥田氏分析)
1568	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外来 加賀南部? 漆7群、庄内IV(奥田氏分析)
1569	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 小石を含む	外来 河内(奥田氏観察)
1570	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 長石・角閃石を含む	外来 河内(奥田氏観察)
1571	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 チャート・雲母・角閃石を含む	外来 河内(奥田氏観察)
1572	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外来 河内
1573	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 石英・長石・チャート・角閃石・小石を含む	外来 河内(奥田氏観察) スス付着
1574	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 長石・角閃石を含む	外来 河内ではない(奥田氏分析)
1575	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 長石・角閃石を含む	外来 在地ではない(奥田氏分析)
1576	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 長石を含む	外来 播磨(奥田氏観察)
1577	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 石英・長石・チャートを含む	外来 湖東の南部、能登川ではない、野洲川?(奥田氏分析)
1578	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 結晶片岩・石英・長石・赤色酸化土粒を含む	外来 阿波(奥田氏分析)
1579	2A-2	溝120 砂層	土師器	甕	密 長石・チャートを含む	外来 吉備、足守川(奥田氏分析) 下田所式
1580	2A-2	溝120 砂層	弥生土器	甕	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来 播磨(奥田氏分析)
1612	2A-2	溝120 砂層	土師器	製塩土器	密 石英・長石・雲母を含む	外来 牛窓付近(奥田氏分析)
1631	2A-2	溝160	弥生土器・土師器	高杯	密 石英・長石・角閃石を含む	外来 河内
1633	2A-2	溝166	弥生土器(後期初頭)	壺	密 石英・長石・角閃石を含む	外来 河内
1649	2A-2	土坑84	土師器	壺	密 長石・チャートを含む	外来系? 瀬戸内
1696	2A-2	土坑108	土師器	壺	密 石英・長石・チャートを含む	外来 交野付近、土師の里(奥田氏分析)
1710	2A-2	土坑129	土師器	鉢	密	外来系 山陰
1733	2A-2	土坑165	土師器	壺	結晶片岩、密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	外来 阿波(奥田氏分析) スス付着
1735	2A-2	土坑161	弥生土器(後期初頭)	器台	密 長石・チャート・角閃石を含む	外来 河内?
1969	2A-2	土器棺4	弥生土器(後期)	壺	密 長石・角閃石を含む	外来 河内?

注意される。

2点とも、奥田 尚氏による砂粒の観察(以下、砂粒観察はすべて奥田 尚氏による。)によると、安威川流域の在地的なものである。

以上より、この2点は、溝咋遺跡周辺で、関東の土器を模倣して製作された土器である可能性が高い。東海(図295) 1415、1220、1221、1440の4点がある。

1415は、小さな受部をもつ脚部が中実の小形器台である。廻間Ⅲ-1式期(赤塚1990・1996。以下廻間式の編年は同文献による。)に位置づけられる。

1220、1221はS字状口縁台付甕である。1220は頸部にハケメ原体のあたりが残存し、両者とも、頸部の屈曲が強く、肩部が張った器形になるとみられる。廻間Ⅱ-4~Ⅲ-1式期に位置づけられる。砂粒観察では、1220は愛知県庄内川周辺、1221は在地の土器と判定されている。

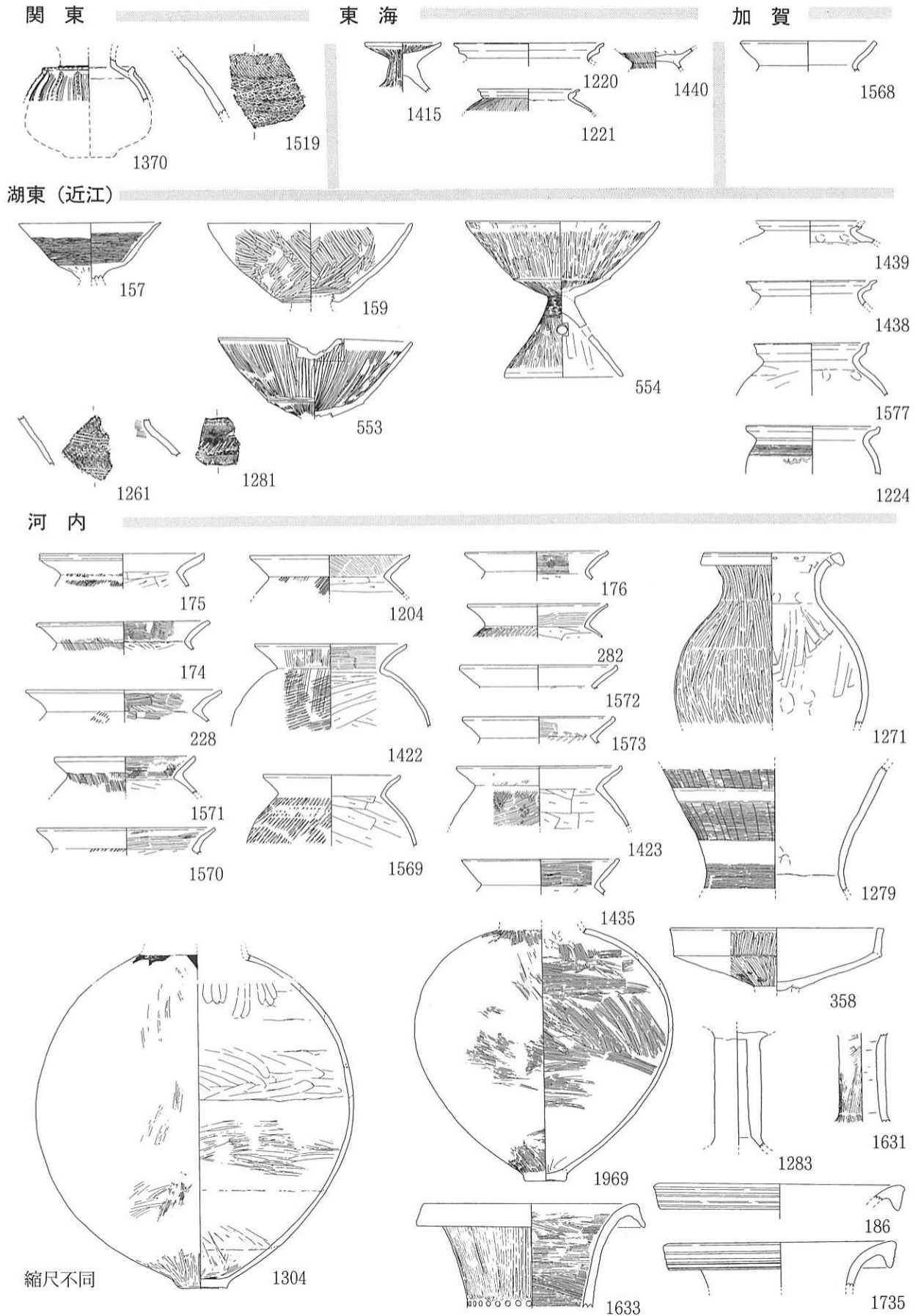


図295 外来系土器(1)

1440は、S字状口縁台付甕の底部から台部片である。底部外面の器壁は荒れる。

湖東（近江）（図295） 157、159、553、554、1438、1577、1439、1224の土師器8点と1261、1281の弥生時代後期土器2点がある。

157、159、553、554は高杯である。159、553、554は砂粒の観察から野洲川周辺の可能性が示唆されている。北近江の土器編年（宮崎1994）では顔戸G-1～2（廻間Ⅱ-1～2）に位置づけられる。

1439は頸部の屈曲が鋭角であることからS字状口縁台付甕の口縁部とみられる。1438、1577は口縁部上端に面をもつ受口状口縁をもつ甕である。1224は鉢の口縁～胴部で、口縁部はつまみ上げられ、胴部には櫛描直線文と波状文が施される。顔戸G-2～3（廻間Ⅱ-2～4）に位置づけられる。

1261、1281は甕の肩部～胴部であり、櫛描直線文と櫛描刺突文が交互に施される。外面には煤が付着する。

加賀（図295） 1568の1点がある。

口縁部がやや内湾し、口縁端部が肥厚しない布留形甕である。砂粒の観察から加賀と判定された。

河内（図295） 174、175、176、228、282、1204、1422、1423、1435、1569、1570、1571、1572、1573の土師器14点と186、1735、1271、1279、1969、1304、358、1283、1631、1633の弥生土器10点がある。

資料はチョコレート色の胎土に角閃石を含むものを中心に抽出したが、安威川上流で分岐する茨木川沿いの大岩においても、角閃石を含むハンレイ岩帯があることを奥田氏より教示を受け、在地の土器にも角閃石が含まれることがわかった。したがって、奥田氏が観察された1569、1570、1571、1573は河内の土器とみられるものの、その他の土器については在地の土器を含む可能性が残る。

土師器14点はすべて甕である。時期については、口縁部のみの資料であり詳細な比定はできないが、庄内式期Ⅱ～Ⅴ（米田1994）の範疇に含まれ、Ⅲ、Ⅳ期の土器が多い。

1304、1969は土器棺として使用された壺で、1304の頸部にはベンガラによる赤彩文が1条めぐる。それぞれ蓋として組み合わされた高杯の形態から弥生時代後期初頭に位置づけられる。1271・1633は外面ミガキで調整される弥生時代後期の壺である。1279は、頸部に簾状文、櫛描直線文が施される長頸の広口壺で、弥生時代中期後半に位置づけられる。358は高杯杯部、1283・1631は高杯脚部で弥生時代後期に位置づけられる。186、1735は、口縁部端面に凹線文が施される器台である。弥生時代後期初頭に位置づけられる。

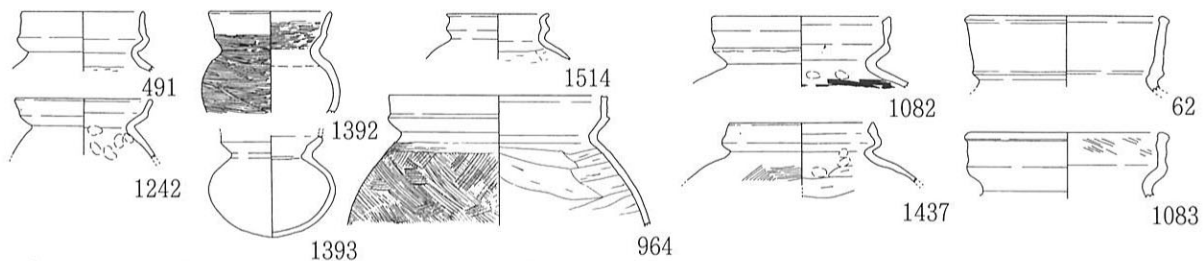
北近畿（図296） 491、1242、1392、1393、1514、964、1082、1437、62、1083の10点がある。

491、1242、1392、1393、1514は小形の壺、964、1082、1437、62、1083は甕である。いずれも二重口縁をもち、頸部から口縁部の立ち上がりやや外側に湾曲し、口縁部がやや内傾するものを含む点特徴的である。胎土は白っぽいものが多い。62、1083は、頸部から口縁部が外反し、口縁部が直立する。器形は山陰の形態を示すものの、器壁が厚く、稜線が鋭くない点から、北近畿から山陰にかけての地域の影響が考えられる。

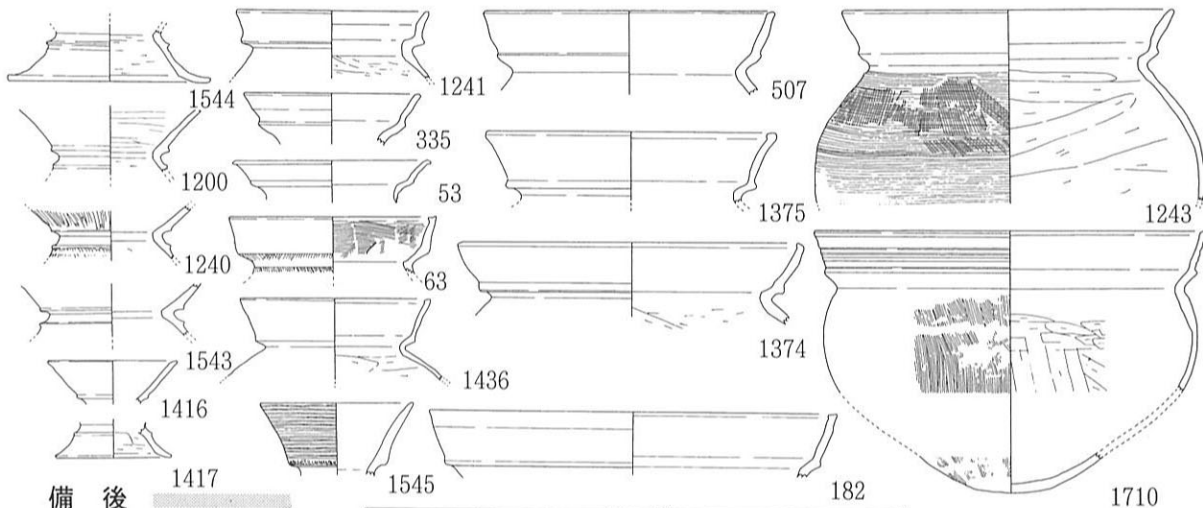
時期についてはこの地域の詳細な編年は確立されておらず、比定は困難であるが、山陰の土器編年を参照するならば、491、1242、1392、1393、1514は青木Ⅳ期新～Ⅶ期（青木遺跡発掘調査団1976・1977・1978、清水1994。以下、青木編年は同文献による。）の庄内式期から布留式期初頭、969、1082、1437、62、1083は口縁端部が内側に肥厚することから青木Ⅶ～Ⅷ期の布留式期併行期と考えられる。

山陰（図296） 1544、1200、1240、1543、1416、1417、1241、335、53、63、1436、1243、507、1375、1374、182、1441、1710の土師器が18点と1545の弥生時代後期末の土器が1点ある。

北近畿



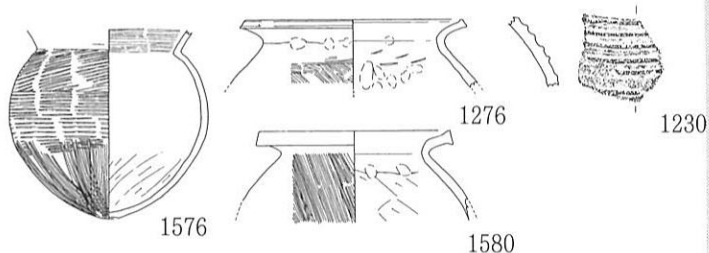
山陰



備後



播磨



阿波

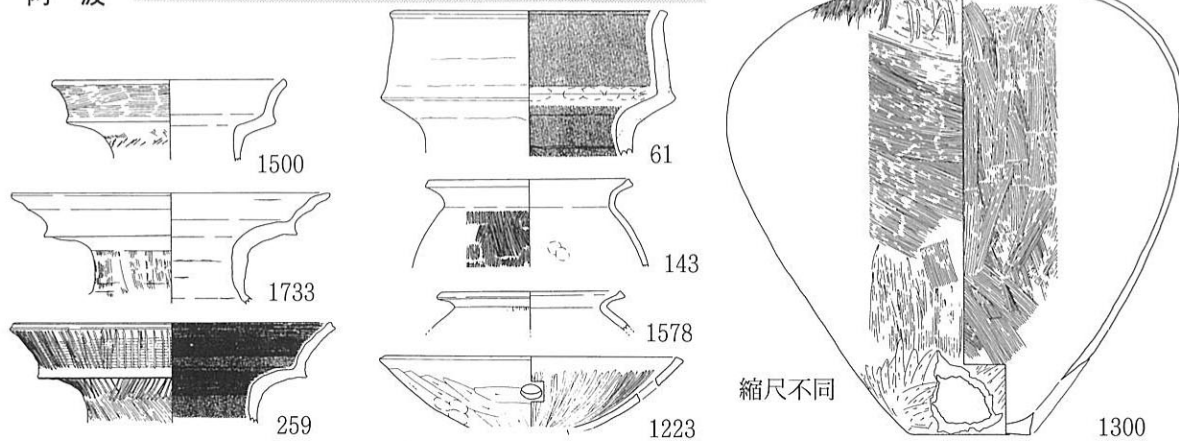


図296 外来系土器(2)

1544、1200、1240、1543は鼓形器台である。頸部は短く丁寧にナデられ、稜が明瞭である。1544は他に比べ頸部がやや長く、青木Ⅴ・Ⅵ期新に、1200、1240、1543は青木Ⅶ期に位置づけられる。砂粒観察から、1200は因幡、1240は因幡の秋里または伯耆、1543は在地のものではない、1544は因幡で秋里の可能性が指摘されている。

1416、1417は小形鼓形器台である。小形鼓形器台は山陰ではほとんどみられず、畿内の墳丘墓や出現期の前方後円墳で小形丸底鉢とセットになって出土する。山陰の土器が、畿内において畿内的な用いられ方をした特殊な器形である（中川1996）。したがって、小形鼓形器台は畿内の土器とみるべきかもしれないが、器形は山陰の特徴を示し、山陰系ともいうべき土器と考えるためここに含めた。布留式期に位置づけられる。

1241、335、53、63、1436は口径15cm以下の小～中形甕、1243、507、1375、1374は口径25cm前後の大形甕である。

1241は器壁が厚く、稜が明瞭であり、青木Ⅳ期でも古い様相を示す。砂粒観察から因幡と判定されている。335、53、63、1436は山陰の影響のもと畿内で製作された可能性をもつ。1241、335、53は口縁端部が内側に肥厚しないため青木Ⅳ期の新相から青木Ⅴ・Ⅵ期にかけて、63、1436は口縁端部が内側に肥厚し青木Ⅶ期古の時期と考えられる。

1243は青木Ⅳ期の新相に位置づけられる。砂粒観察から因幡の秋里もしくは北陸と判定されている。507は胎土が白く、頸部から口縁部にかけてやや外湾することから山陰～北近畿の土器である可能性が考えられる。青木Ⅳ期の新相から青木Ⅴ・Ⅵ期にかけての時期と考えられる。1375は口縁端部が内側に肥厚し青木Ⅶ期古に位置づけられる。胎土も砂粒が多く含まれ1241に類似することから外来土器の可能性が高い。1374は口縁端部が内側に肥厚し、また口縁部がやや内湾することから、青木Ⅶ期古のなかでも1375より新しい要素をもつ。胎土は在地のものである可能性が高い。

182、1441、1710は二重口縁をもつ大形鉢である。182は口縁端部が内側に肥厚することから、青木Ⅶ期とみられる。1441、1710は口縁部に浅い凹線が複数条めぐり、1441、1710の胎土は在地のものに類似し、これらは山陰の土器の影響のもと在地で製作された可能性が高いと考える。畿内では庄内式期から布留式期初頭にかけて大形鉢は普遍的な存在であり（寺沢1986）、1441、1710もこの年代の中に含まれると考える。

1545は擬凹線文が複数条めぐり、稜線直下には刻み目が密に施される。壺の口縁部とみられるが、頸部径が小さい点が留意される。胎土は肌色を呈し、砂粒が多く含まれるが表面は平滑に丁寧に調整されている。青木Ⅲ期新に位置づけられる。

**備後**（図296） 1227の弥生土器1点がある。

直径からは壺の頸部とみられるが、頸部とした箇所との剥離痕からは高杯の脚部となる可能性を残す。頸部には、波状文と櫛描直線文がめぐり、弥生時代中期前半に位置づけられる。

**播磨**（図296） 1576の土師器1点と1276、1580、1230の弥生土器3点がある。

1576は、体部上半に細かなタタキが水平からやや右上がり方向に施され、体部下半には下から上へとハケメ調整が施される。内面は体部下半がケズリ、上半は板ナデ、頸部内面はハケメが施される。頸部内面は丸く稜をもたない。砂粒観察から流紋岩組成の胎土であることが指摘されており、庄内播磨型甕（米田1992、岸本1995）とみられる。本遺跡における庄内播磨型甕はこの1点のみである。

1276、1580は甕である。口縁端部に面をもち、面の両端は明瞭な稜をもつ。体部外面には細かいハケ



メが斜方向に密に施される。内面は頸部より下にケズリが施される。胎土は橙色を呈し、丁寧な作りの土器であり、在地の石英、長石を多く含むやや肌色を呈する土器とは異なる印象をもつ。奥田氏による砂粒観察から播磨と判定され、ここに含めた。弥生時代後期初頭に位置づけられる。

1230は壺の体部片である。細い帯状の突帯がほぼ等間隔にめぐり、突帯上に刻み目がある可能性があるが、磨耗のため不明である。市之郷遺跡に類例がみられ（今里1943）、弥生時代前期末に位置づけられる。本遺跡の外來系土器中最も年代がさかのぼる資料である。砂粒観察からも播磨と判定された。

阿波（図296） 1520、1500、1733、259、61、143、1578、1223、1376の土師器9点と1300の弥生土器1点がある。1300は中部瀬戸内の土器の様相を示すが、砂粒観察により片岩の存在が指摘されここに含めた。後述する瀬戸内の土器にも、260、261、488、1372、1377のように阿波の土器に含まれる可能性をもつ土器があるが、ここでは胎土に片岩が含まれるものを抽出し、阿波の土器とした。ここにあげた土器は、砂粒観察からすべて阿波の土器と判定されている。

1376は壺の口縁部で、肥厚した口縁部には退化した凹線文が2条めぐり、

1520は広口壺の口縁部である。口縁部端面に擬凹線が3条めぐり、端部はやや内側につまみあげられる。直立する頸部から口縁部が屈曲し大きく開く器形となるであろう。

1500、1733、259、61は二重口縁壺である。いずれも頸部が直立し、1500、1733、259の口縁部は外反し、61の口縁部は内傾する。1500は在地の二重口縁壺の形態と峻別しがたいが、胎土に片岩を含むためここに含めた。1733、259は頸部と口縁部の接合部が突帯状に鋭く外方へと伸びており、在地の二重口縁壺に比べ、この点が特徴的である。259は、内面に黒色顔料が塗布される。61は北四国から播磨、畿内にかけて分布する大形壺形土器である。本資料も内面に黒色顔料が塗布される。

143、1578は甕である。薄い器壁をもち口縁端部はややつまみあげられる。143に比べ1578は頸部の屈曲が強く、やや新しい要素をもつ。143の体部外面には細かなハケメが施される。

1223は穿孔があることから、椀形の杯に裾が大きく広がる脚台が付く高杯Eになる可能性が考えられたが、外面にケズリが、内面に丁寧なミガキが施されることから、ここでは鉢として図示した。

143、1578、1223は、いずれも胎土が精良で、あざやかな橙色を呈する点が特徴的である。

以上の土師器は黒谷川Ⅱ～Ⅲ期に位置づけられ（勝浦1995。以下、黒谷川編年は同文献による。）、1376はやや時期が降る可能性がある。

1300はやや頸部の長い広口壺である。肥厚した口縁部には凹線がめぐり縦方向ハケメが部分的に施され、頸部には羽状刺突文がめぐり、体部下半から底部にかけて焼成後の穿孔が2カ所みとめられる。口縁部外面に砂粒が付着する黒色物質がみられ、黒色物質は強い粘着力をもっていた可能性がある。本資料は土器棺として用いられ、弥生時代後期初頭に位置づけられる。先述したとおり、本資料は型式的には中部瀬戸内の土器ととらえられるが、胎土に片岩を含むという指摘をうけ、阿波に含めた。

吉備（図297） 383、1579の土師器が2点、1477、1612の製塩土器が2点、1542の弥生土器が1点ある。

383、1579は二重口縁甕の口縁部である。拡張された口縁部外面には浅い多条の櫛描直線文がめぐり、下田所式に比定される。1579は砂粒観察から足守川流域と判定されている。

1477、1612は小さく低い脚台をもつ製塩土器である。脚台から大きく広がる体部にはタキが施され、器壁は薄く仕上げられる。胎土は内外面ともくすんだ橙色、断面は黒色を呈し微細な砂粒を多く含む。1612は砂粒観察から牛窓周辺と判定される。両者とも脚台3式、古墳時代前期に位置づけられる（広瀬1988）。

1542はやや小形の高杯の口縁部である。口縁部には凹線が2条めぐり、端部に面をもつ。胎土は赤褐色を呈し砂粒を多く含み、他の土器とは全く異なるものである。砂粒観察から旭川流域と判定される。弥生時代中期終末の仁伍式に比定される。

**瀬戸内** (図297) 播磨、吉備、讃岐、阿波を含む、瀬戸内でもとくに東部瀬戸内の影響がみとめられる土器を一括した。ある程度地域が限定される土器については個々に記述する。

139、330、1371、484、58、1515、1516、1517、138、1373、1649、488、260、1372、1518、332、59、482、331、1503、1504、261、1377の土師器23点と65、1521の弥生土器23点、1476の製塩土器1点がある。

139、330、1371、484、58、1515、1516は壺である。139、330、1371、484は頸部が直立し、口縁部が屈曲して大きく開く。139、330、1371の口縁端部はやや上方につまみあげられる。58、1515、1516はやや外傾する頸部から口縁部が外方へと開く。口縁端部はやや上方につまみあげられる。330、1371、1515、1516にみられるように、内外面とも横方向の丁寧なミガキで仕上げるものが多い。讃岐を中心とする北四国の影響が考えられる(岩崎1984)。庄内式期に位置づけられる。

1517、138、1373、1649、488、260、1372、1518、332、59、482は大形の二重口縁壺で、四国系複合口縁壺、讃岐系複合口縁壺、西部瀬戸内系複合口縁壺と呼称されるものである。

1517、138は外反する頸部に内傾する口縁部が付き「く」字形の口頸部をもつ。1517は胎土がチョコレート色を呈し角閃石を多く含む。こうした胎土をもつ土器で、胴部から肩部にかけて傾斜を変えやや直線的になる土器は、讃岐産といわれながらも、播磨に類例が多く畿内でもまみられ、土器棺として利用される場合が多い(岸本1996)。一方、1517のように胴部から肩部が球形を呈するものは畿内に多く、とくに大阪府に多く分布することから、讃岐の影響下に大阪で製作された可能性が高いものであるが(陣内1998)、外来系としてここに含めた。1517は、溝120から散在して出土した破片を接合したものであるが、口頸部内面に黒色顔料が塗布されることから土器棺として利用された可能性が高い。庄内式新相から布留式古相に位置づけられる。

1373、1649は外反する頸部にほぼ直立する口縁部をもつ。この土器も類例は畿内に多く、大阪府、滋賀県に多くみられることから(陣内1998)、1517ほど讃岐の影響は色濃くないものの、東部瀬戸内の影響のもと畿内で製作された可能性が高い。また、陣内氏の指摘のとおり、山陰の影響も看過できず、とくに1649の肩部に押印された円形刺突文は注意される。布留式期でも新相に位置づけられる。

488、1372、260は大きく湾曲しながら外反する頸部にやや内傾しながら直立する口縁部をもつ。1733、259の阿波の土器でみられたように口縁部の接合部が突帯状に鋭く外方へと伸びる。488、1372は内面に黒色顔料が塗布される。庄内式新相から主に布留式期に位置づけられる。

1518、332、59、482は口縁部が比較的短く立ち上がるもので、1518、332は頸部が直立した後屈曲し、59は頸部が大きく屈曲する。内外面ともミガキで丁寧に仕上げられ、1518は口頸部内面に黒色顔料が塗布される。これらの土器も類例は大阪府を中心とする地域に多く、1517、138、1373、1649のような東部瀬戸内の影響を受けた土器が畿内的に変容した土器とみられる。布留式期の前半に位置づけられる。

331、1503、1504、261は畿内における器形構成に含まれるとも考えられるが、外来系の要素が在地の土器に比べ大きく、ここに含めることとした。

331、1503、1504は口縁部が広がり面をもつもので、二重口縁壺と広口壺の折衷形態ともいえる。1503、1504は口縁部に羽状刺突文がめぐる。羽状刺突文は阿波から備後にかけての瀬戸内で広くみられるため

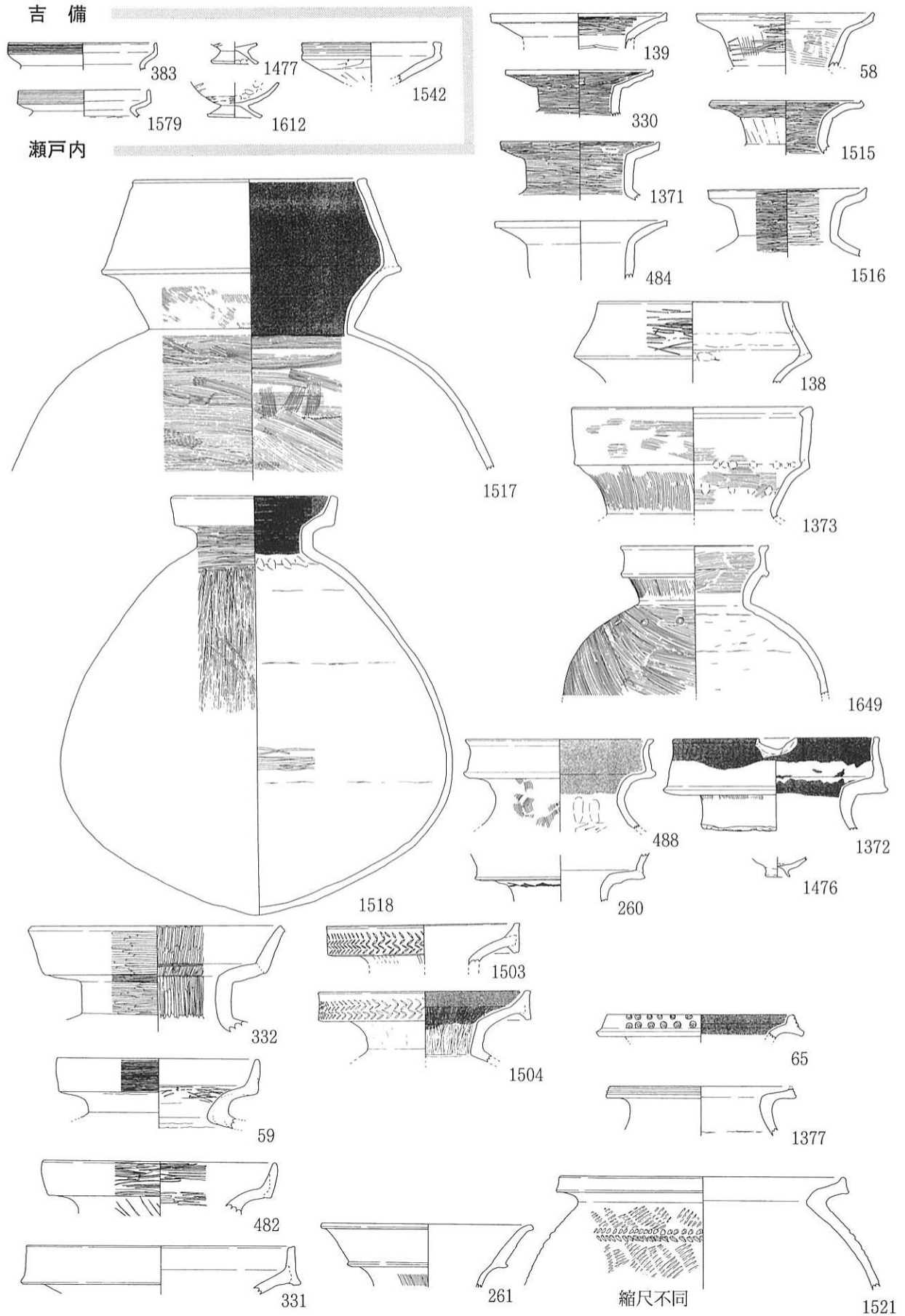


图297 外来系土器(3)

ここに含めた。1504は内面に黒色物質が塗布される。

261は頸部と口縁部の接合部が鋭く外方へのび、阿波の土器に似た形態を示す。

1377は壺の口縁部で、やや内傾する頸部から口縁部が屈曲して大きく開き、口縁部端面には凹線文が3条めぐる。阿波の壺に類似し、阿波の土器編年では黒谷川Ⅱに比定される。

65は器台もしくは壺の口縁部であり、上下に拡張した口縁部端面に2段の竹管刺突文が施文される。胎土はチョコレート色を呈し角閃石を多く含む。内面には黒色顔料が塗布され、この点からは壺の可能性が高いと考える。弥生時代後期初頭に位置づけられる。

1521は大形の壺である。頸部が強く屈曲し、口縁部が短くのび、端部はやや上方にのびる。体部外面にはタタキが施され肩部には羽状刺突文が1条めぐる。胎土はチョコレート色を呈し角閃石を多く含む。当初胎土から讃岐の高松市周辺に類例を求めたものの類例はみられず、対岸の吉備南部の可能性が考えられた。しかし、吉備では、タタキは備前地方まではみられるものの多くはなく、羽状刺突文は山間部から備後にかけての技法であり、角閃石を含む胎土は特殊器台にいくつかみとめられるものの他の器形では用いられないことから、播磨の方に類例が求められる可能性が残った。弥生時代後期初頭に位置づけられる。

1476は小さな脚台もつ製塩土器である。砂粒観察では讃岐の土器と判定された。脚台4式、古墳時代前期に位置づけられる（広瀬1988）。

地域が特定できないもの（図298） 329、1210、1696、1532、1574、1575、1222の土師器が7点、1269・1524（同一個体）、1302の弥生土器が2点ある。

329、1210は壺の口縁部である。二重口縁状に口縁部が上方に立ち上がり面をもつ。329はミガキ、1210はナデ調整で仕上げられ、両者とも胎土が精良で丁寧に仕上げられる。庄内式期に位置づけられる。

1696は二重口縁壺の口縁部である。外反する頸部に直立する口縁部が接合し、口縁端部は内側に肥厚する。北近畿の土器に類似すると考えたが、砂粒観察では交野市付近もしくは土師の里の土器と判定された。

1532は二重口縁をもつ小形丸底壺と考えられる。口縁部が外傾し、在地の小形丸底壺では類例がみられず、北近畿から山陰にかけての地域の影響が考えられた。砂粒観察では在地か外来かの判定はできなかった。

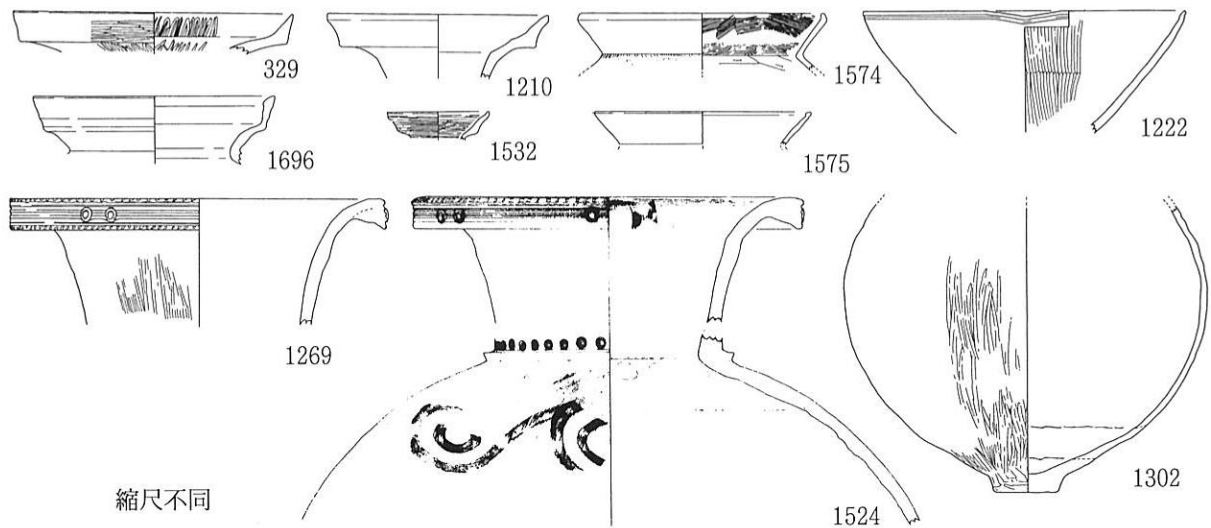


図298 外来系土器(4)

1574、1575は甕の口縁部である。1574は口縁端部がつまみあげられるものやや丸い作りであり、頸部は明瞭な稜をもつ。胎土がやや灰色を呈し庄内播磨型甕の可能性を考えたが、砂粒観察の結果は河内の土器ではないというものであった。1575は角閃石がみられず、砂粒観察では在地の土器ではないと判定された。

1222は片口をもつ鉢もしくは高杯の杯部である。高杯とすれば554のような東海～湖東で見られる深い杯部をもつ形態になるであろうが、口縁端部の下にめぐる凹線に注目すると鉢となる可能性も考えられる。

1269・1524はベンガラによる赤彩文で肩部に渦巻き文が描かれる広口壺である。胎土は薄いチョコレート色を呈し角閃石を多く含むことから生駒西麓の土器と考えられたが、砂粒観察では河内の土器ではないと判定された。弥生時代後期初頭に位置づけられる。溝120出土の接合資料であるが、この時期の出土土器は土器棺が主であることから本資料も土器棺として使用された可能性が考えられる。

1302は壺の体部から底部である。土器棺2の体部であり、弥生時代後期の土器である。胎土は明るい橙色を呈し、粒径の大きな砂粒が多く含まれ、一見して在地の胎土とは異なるためここに含めた。

### 第3項 分析と検討

溝昨遺跡出土外来系土器について、出土土器に占める比率、地域別比率、器形別比率、地域と時期・器形との関連、時期について分析、検討する。

**出土土器に占める外来系土器の比率** (図299) 溝昨遺跡(その1)、(その2)の調査ではコンテナを一杯にした状態で約500コンテナの土器が出土している。うち、非常に雑駁ではあるが、内訳をみると、弥生土器が10コンテナ弱、古代以降の土器が10コンテナ程度であり、それ以外の約480コンテナが古墳時代須恵器、土師器となる。これら古墳時代土器のうち古墳時代前期土師器は約430コンテナ、古墳時代中～後期須恵器は約30コンテナ、古墳時代中～後期土師器は約20コンテナを占める。

これらの土器から、外来系とみられる土器はすべて抽出し実測した。その総点数は125点であり、平置きにした破片が6コンテナと復元した大形土器が6個体である。外来系土器の年代は弥生時代前期から古墳時代前期にわたり、その内訳は、弥生時代前期が1点、弥生時代中期が3点、弥生時代後期が18点、古墳時代前期が103点である。

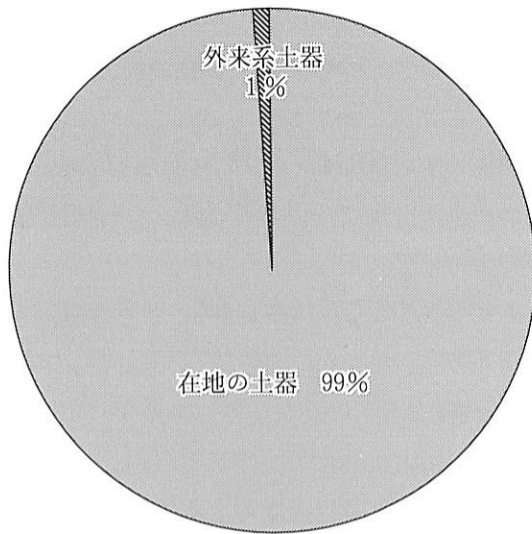
外来系土器の土器全体に占める割合をしるには土器全体の総点数が必要となるが、これを数えることは困難であるため、非常に雑駁ではあるが先にあげたコンテナ数で比率を換算してみたい。

まず、弥生～古墳時代前期の土器全体に占める外来系土器の比率をみると、440コンテナのうち6コンテナが外来系土器であり、弥生～古墳時代前期の土器のうち約1%の土器が外来系の土器である。つぎに、年代別にみると、弥生土器は土器棺が主であるため大形の個体が多く、コンテナ数で表すことが難しいが、弥生土器10コンテナのうち1コンテナと大形個体3個体が外来系土器であり、弥生土器のうち外来系土器が占める比率は約30%程度になるとみられる。古墳時代前期土師器でみれば、430コンテナのうち5コンテナと大形個体3個体で、約1%の土器が外来系の土器となる。

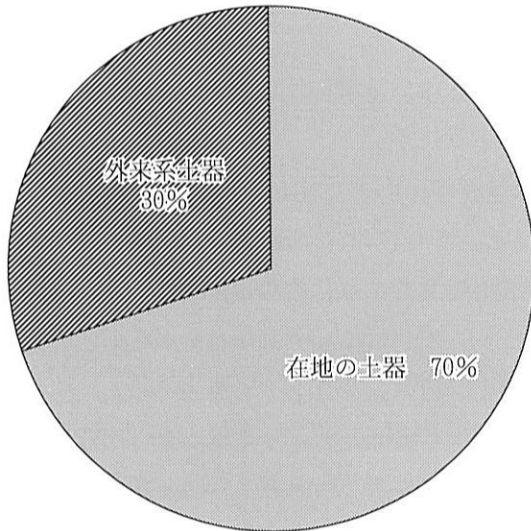
実測点数でみると、全体では1969点中123点で6%、弥生土器では59点中22点で34%、古墳時代前期土師器では1224点中103点で8%となり、土器量全体からみた比率より、やや高めの数字となる。

以上、土器量と実測点数で外来系土器の比率を算出した。弥生土器では両者に大きな差はみられず約30%という比率であり、弥生土器における外来系土器の比率は古墳時代前期に比べ高いということがい

弥生～古墳時代前期土器における外来系土器の比率



弥生土器における外来系土器の比率



古墳時代前期土師器における外来系土器の比率

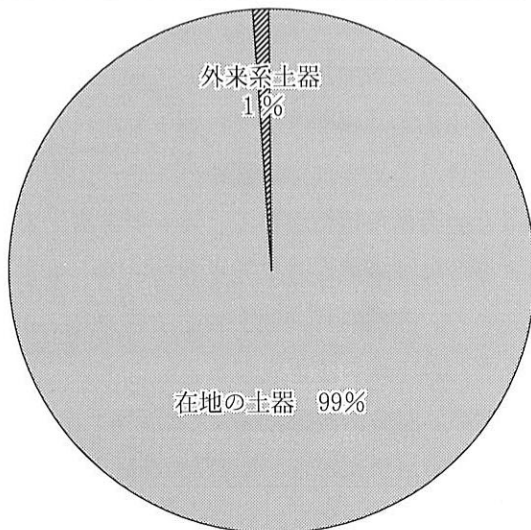


図299 出土土器に占める外来系土器の比率

える。一方、古墳時代前期土師器においては、土器量では約1%、実測点数では8%という比率となり、母数が異なるため算出される比率に差がでる結果となった。整理を進めた実感からすると、古墳時代前期土師器における外来系土器の比率は、土器量における1%という数字の方が実体に近い感じをもつ。

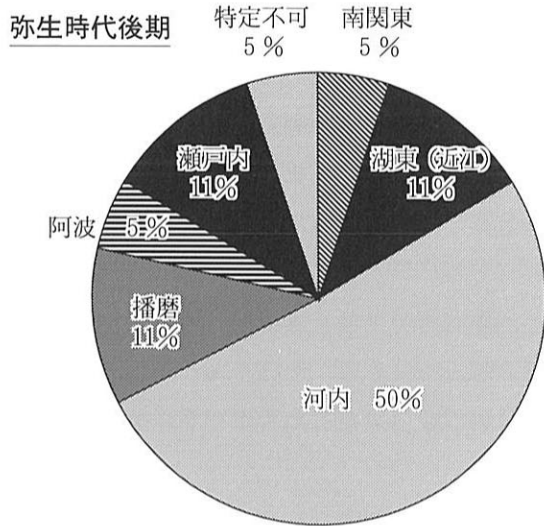
古墳時代前期の他遺跡における外来系土器の占める割合をみると、奈良県纏向遺跡（奈良県桜井市教育委員会1976）では123点、15%、奈良県矢部遺跡（奈良県立橿原考古学研究所1986）では112点、21.3%、奈良県院上遺跡（奈良県立橿原考古学研究所1983）では22点、11.4%と報告され、すべて実測点数を母数とした数値が示される。各遺跡の全体の土器量は不明であり、また外来系土器の認定方法や母数の取り方をはじめとする数的処理方法により結果に差異が認められるであろうが、以上の奈良県の諸遺跡と比べると、溝咋遺跡の外来系土器は、点数はさほど変わらないものの、実測点数に占める比率では小さくなる。

**外来系土器の地域別比率（図300）** 外来系土器のうち、弥生時代後期土器18点と古墳時代前期土師器103点を対象に、地域別比率について検討する。

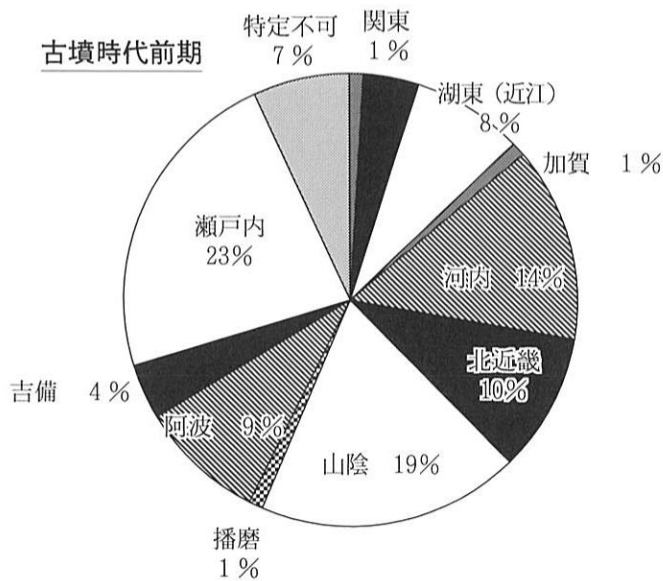
弥生時代後期の外来系土器を地域別に分けると図300、上段のようになる。河内の土器が50%と最も多く、外来系土器の半分が河内からもたらされていることがわかる。これに湖東（近江）、播磨、瀬戸内が各11%、南関東、阿波が各5%でつづく。阿波、播磨の土器を含めた瀬戸内全体の土器をみると27%となり、外来系土器のうち約1/3の土器が瀬戸内からもたらされており、これに、湖東

(近江)の11%、南関東の5%がつづく。

古墳時代前期土師器を地域別に分けると図300、下段のようになる。播磨、吉備、讃岐、阿波を含む大きく瀬戸内と捉えた地域が23%と多く、これに特定が可能であった吉備(4%)、阿波(9%)、播磨



地域	個体数
南関東	1
湖東(近江)	2
河内	9
播磨	2
阿波	1
瀬戸内	2
特定不可	1
計	18



地域	個体数
関東	1
東海	4
湖東(近江)	8
加賀	1
河内	14
北近畿	10
山陰	19
播磨	1
阿波	9
吉備	4
瀬戸内	24
特定不可	8
計	103

図300 外来系土器の地域別比率

(1%)の土器を加えると37%となり、外来系土器のうち約2/5の土器が瀬戸内からもたらされていることがわかる。なかでも阿波の土器が吉備や播磨の土器に比べ多い点に注意される。次に、山陰が19%であり、これに北近畿(10%)を加えると約29%となり、外来系土器のうち約1/3の土器が山陰から北近畿にかけての地域からもたらされていることがわかる。これにつづく地域が近隣の河内で、外来系土器のうち14%、約1/7の土器がもたらされている。湖東、東海の土器は、併せて12%あり、外来系土器のうち約1/8を占める。この他、遠隔地では加賀、関東がそれぞれ1%となっている。すなわち、溝作遺跡の外来系土器は、瀬戸内の土器が多く、これに山陰、河内、湖東～東海地方の土器がつき、このほか加賀、関東といった遠隔地の土器が少数みられるといった様相を示す。溝作遺跡では瀬戸内、山陰を含めた西の地方の影響を受けた土器が外来系土器の半数以上を占め、湖東以東の東の地方の影響を受けた土器を凌駕するといえる。

他遺跡の古墳時代前期外来系土器の様相と比較すると、纏向遺跡では、東海地方の土器が49%と圧倒的多数を占め、これに山陰・北陸17%、河内10%、吉備7%、関東5%、近江5%、西部瀬戸内3%、播磨3%、紀伊1%とつづく。纏向遺跡は東海地方の土器が半数以上を占める点で溝作遺跡とは大きく異なる。

次に、矢部遺跡をみると、近隣地域では大和北部28.5%、北摂23.1%、大和西南部9.6%、大和東南部纏向地域7.0%、生駒西麓8.8%、和泉2.6%、近江1.0%、遠隔地では吉備を中心とする中部瀬戸内地方8.8%(10個体)、伊勢湾沿岸地方5.4%(6個体)、駿河もしくは相模地方2.0%(2個体)、美濃、山陰、西部瀬戸内地方がそれぞれ1%である。矢部遺跡では外来系土器に近隣地域の土器を含むため、単純に比較することはできないが、個体数でみると遠隔地の土器は約20個体と少数であり、うち吉備を中心とする中部瀬戸内地方の土器が10個体と半数を占め、ついで伊勢湾沿岸地方の土器が6個体と多いようである。報告書でも指摘されるように、纏向遺跡とは違い、東海地方の土器が多数を占めることはない。溝作遺跡とは、遠隔地の土器の点数に隔たりがみられるものの、南関東から西部瀬戸内を含む広い範囲の土器がみられる点および瀬戸内の土器が多くみられる点で共通する。

**外来系土器の器形別比率(図301)** 外来系土器のうち、弥生時代後期土器18点と古墳時代前期土器103点を対象に、器形別比率について検討する。

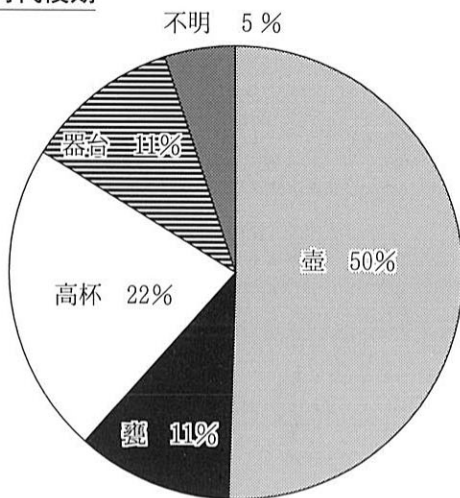
弥生時代後期土器の器形別比率を表したのが図301の上段である。壺が50%と約半数を占め、ついで高杯が22%、甕、器台が各11%を占める。弥生時代後期土器の多くは土器棺に関わる資料であるため、弥生時代後期土器全体の器形構成においても壺が多数を占める。土器棺は遺構として出土したものに土器棺1～4の4個体があり、すべて外来系土器となる可能性をもつ。大形土器、とくに土器棺については、外来系土器に依存した可能性が高いと考えられる。

古墳時代前期土器の器形別比率は、図301の下段のようになる。壺が43%、甕が39%と高率であり、器台・小形器台が7%、鉢が5%、高杯が4%、製塩土器が3%とつづく。壺、甕といった貯蔵、煮炊きに使用される比較的大形の器形が外来系土器の中で高率を示し、高杯、器台、鉢といった供膳形態を呈する中～小形の器形は、外来系土器に占める割合が低いといえる。

一方、古墳時代前期土器全体における各器形の構成比率を実測点数からみると、壺が27%、甕が33%、高杯が29%、器台・小形器台が3%、鉢が9%である。これと外来系土器の器形別比率を比較すると、壺、甕についてはやや外来系土器における割合が高めではあるが、全体の器形構成に占める割合をほぼ反映しており、このことは器台、鉢についてもいえる。しかし、高杯は全体の器形構成のなかで29

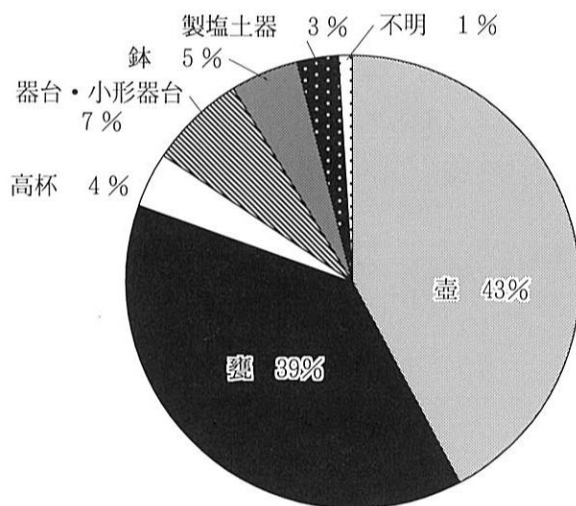


弥生時代後期



器形	個体数
壺	9
甕	2
高杯	4
器台	2
不明	1
計	18

古墳時代前期



器形	個体数
壺	44
甕	39
高杯	4
器台・小形器台	7
鉢	5
製塩土器	3
不明	1
計	103

図301 外来系土器の器形別比率

%を占めるにもかかわらず、外来系土器では4%にすぎない。個体数で見ると、高杯の総数290個体中外来系の高杯は4個体であり、壺、甕に比べ高杯では、外来系の土器が少なく在地の土器が多数を占めるということがいえる。これは中形～小形の土器という土器の大きさとともに盛り付けの器という器形の性格・形態に拠るものではないかと考えられる。

なお、外来系土器の甕39個体のうち、河内庄内型甕は12個体、31%を占めており、他の地域の甕を凌駕する。逆に河内からの土器は甕に限られており、甕が選択的にもたらされ、受容されていると考えられる。

地域と外来系土器の時期・器形との関連(図302) つぎに地域ごとに外来系土器の時期と器形についてみてみたい。図302は、各地域の外来系土器を各地域の編年軸にそって並べたものである。個体数が少ない地域では、時期について限定した箇所に配置できたが、個体数が多い地域はある程度の年代幅をもって土器を配置している。また、詳細な年代の決定が困難な土器については、年代幅をもって配置し

		関 東	東 海	湖 東	河 内	備 後	播 磨
弥生時代	前						
	中						
	後						
古墳時代	前期	細間 I 10 \ 2	庄内 I	黒谷川 I	北近畿	山陰	
		II 13 \ 11	II 11	黒谷川 I \ II			
	中期	III古 12 \ 3	III 12 \ 3	黒谷川 II	加賀		
		III新 14	IV 14	黒谷川 III			
	後期	IV 11 \ 2	V・VI 1	黒谷川 IV			
布留式期							

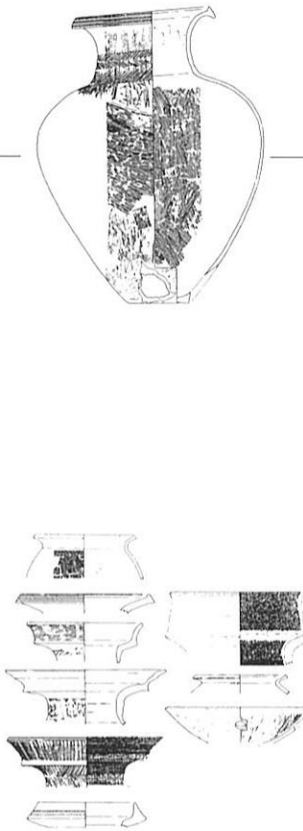



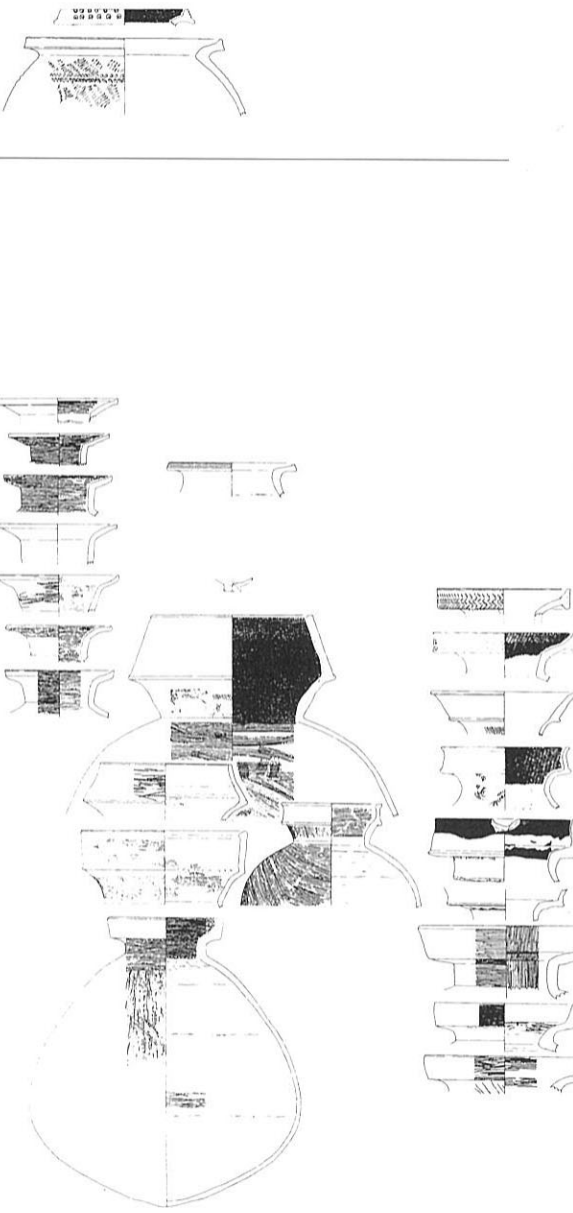
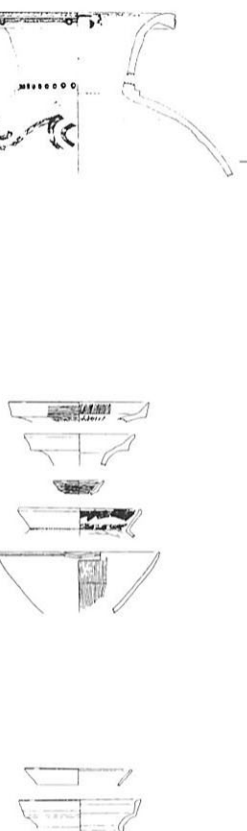
図302 各地域・時期の外來系土器

ている。

関東の影響を受けた外來系土器は2個体しかないものの、壺に限られ、弥生時代後期後半と弥生時代終末～古墳時代前期初頭に位置づけられる。

東海の土器は、S字口縁台付甕が多く、庄内式期の後葉に集中する。器台は、詳細な時期の限定は困難であるが庄内式期後半に位置づけられる。東海の土器は、庄内式期の後半にもたらされているようである。

湖東の土器は弥生時代後期に甕が、庄内式期後半に高杯と甕がもたらされる。湖東からは他地域と異

阿 波	吉 備	瀬 戸 内	特 定 不 可
	    		

なり、高杯が多くもたらされる点が特徴的である。

加賀の土器は布留式甕1個体が確認されたのみである。奥田氏に観察して頂いたのは1個体のみであるが、奥田氏が溝咋遺跡出土土器を概観されたところ、他にも加賀に比定される土器が多くありそうであり、それらはすべて布留式甕であった。加賀の影響は布留式期になってからみられるようである。

河内からは、弥生時代中期から後期初頭にかけて壺、高杯、器台がもたらされ、壺が主であり、うち2個体は大形の土器棺である。一方、古墳時代にはいると、庄内式期後半に多くの庄内河内型甕がもたらされる。先述したように甕に限られ、河内からはこの時期、甕が選択的にもたらされているといえる。

北近畿の土器は庄内式期後半から布留式期前半にかけてみられ、小形壺や甕がもたらされる。

山陰からの土器は、古墳時代初頭の壺が1個体あるものの、大半は庄内式期後半から布留式期前半に集中し、甕、大形鉢のほか器台が多くもたらされる。器台が多い点が特徴的であり、また他の外来系土器が多く出土する遺跡でみられる土製支脚がみられない点も注意される。

備後の土器は、弥生時代中期の壺1点にとどまる。

播磨からは、古く弥生時代前期末に壺が1点もたらされ、その後、弥生時代後期初頭に甕が2点、庄内式期に庄内播磨型甕が1点もたらされる。

阿波からは、弥生時代後期初頭に大形壺が1点もたらされ、土器棺として使用される。しかし、この土器は中部瀬戸内の土器である可能性をもつ。その後、庄内式期後半に壺、甕、鉢がもたらされ、壺が主体を占める。

吉備からは、弥生時代中期終末に高杯が1点もたらされる。庄内式期に製塩土器が、布留式期初頭に甕が2点もたらされる。

瀬戸内の土器は、弥生時代後期初頭に器台（または壺）、壺がもたらされ、その後庄内式期後半から布留式期前半に多数の壺がもたらされる。瀬戸内の影響のもと畿内で製作された可能性をもつ土器が多いものの、壺に限られる点が特徴的である。

**外来系土器の時期** 以上、地域ごとに外来系土器を概観した。図302をみても明らかなように、溝咋遺跡における外来系土器の時期は、弥生時代後期初頭と庄内式期後半～布留式期前半の2つのピークがみられ、とくに後者では庄内式期新相～布留式期初頭の時期に集中することがわかる。

これは、集落出土土器と同じ傾向を示す。庄内式期の古い段階の遺物は溝123肩部で一括して出土した土器に限られる。その他の時期の土器については、集落の土器がまとめて廃棄されたとみられる溝120をみると、弥生時代後期初頭から古墳時代後期までの土器、約150コンテナのうち、弥生時代後期初頭の土器は大形壺を主体として約10コンテナ、古墳時代中期～後期の土師器、須恵器も10コンテナ弱である。残る約130コンテナが庄内式～布留式の土師器であるが、庄内式期の古い段階のものは少なく、庄内式期後半のものが多数を占める。布留式期では、下田遺跡（西村1996）でみられるような最古相を示す土器は、いくつかの甕がみられる程度で僅かであるが、最古相を除くと、布留式期前半に位置づけられものは多く、新相に至るまで連綿とみられる。寺沢編年（寺沢1986）でいえば、布留0式の土師器は希薄であるが、庄内2式～布留3式に位置づけられるものは多いといえる。

溝咋遺跡の外来系土器は、弥生時代後期初頭の時期と庄内式期後半から布留式期前半にかけての時期に多くみられ、とくに後者では庄内式新相～布留式初頭に位置づけられる土器が圧倒的多数を占める。これは集落出土土器の時期的変動と共通する傾向を示す。

#### 第4項 まとめ

以上、溝咋遺跡出土の外来系土器について述べた。以下に要点および推定される事柄、派生する問題点を挙げる。

- ・溝咋遺跡出土の外来系土器は125点を数え、関東～備後にかけての広範な範囲にわたる。
- ・外来系土器の地域の内訳は、東は関東から東海、湖東と加賀であり、近隣では河内が、西では北近畿、山陰、備後の日本海側から中国山地にかけての地域と、播磨、阿波、吉備を含む瀬戸内地域である。
- ・これら外来系土器は、播磨、阿波、吉備を含む瀬戸内地域の土器が半数を占め、これに北近畿～山陰

の土器と近隣の河内の土器がつづき、他に東海～湖東の土器が一定割合みられる。他に、関東、備後、加賀の土器が1～2点みられる。

- ・ 関東の影響を示す土器が2点出土した。1370は突帯文をもつ小形壺であり弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭に位置づけられる。東海の影響が考えられる土器であるが関東地方を中心に分布し、本遺跡出土例は既往の出土例の分布域とはやや距離を置き、分布の西端に位置することとなる。1519は、羽状縄文と結節縄文が施文される壺の肩部片であり、宮ノ台式の影響を受けた土器である。相模湾から房総半島にかけて分布する土器で、畿内では類例が矢部遺跡で報告される。畿内出土の外來系土器中、関東からのものは少なく、この2点は稀少な例といえる。

ただし、2点とも奥田尚氏の砂粒観察では在地の胎土と判定され、関東の影響を受けて在地で製作された可能性が高く、関東からの人の移動が推定される。

- ・ 外來系土器の器形は、壺、甕がそれぞれ4割程度を占め、他の高杯、器台、鉢などの器形は少数である。以上より、主に棺に使用された可能性が高い大形の壺や、熱効率の向上のため器壁の薄さが要求される甕が交易の対象となった可能性が考えられる。その他、山陰の器台、湖東の高杯についても、少数ながら選択的に受容されたと推定される。

- ・ 外來系土器は、弥生時代前期から古墳時代前期にかけてみとめられるが、弥生時代前期は1点、弥生時代中期は2点と少なく、そのほとんどが弥生時代後期初頭と庄内式期後半から布留式期前半にかけての2時期に帰属し、後者が多数を占める。とくに、庄内式新相～布留式初頭に位置づけられる土器が圧倒的多数である。これは集落出土土器の時期的変動と共通する。溝咋遺跡では、弥生時代中期後半から後期初頭にかけて、土器棺をはじめ木棺の底板とみられる板材が出土し、この時期には墓域が形成されていたことが明らかである。その後、遺構、遺物は希薄となり、古墳時代前期初頭、庄内式期に至って集落の居住域が形成される。すなわち、弥生時代後期初頭をすぎた時期から古墳時代前期初頭の間の時期が空白となる。この間、周辺の遺跡では、1本北東側の水系である芥川流域の沖積地微高地上に立地する芝生遺跡で、外來系土器や銅釧を含む遺物がまとまって出土しており、この時期の流通の拠点は芝生遺跡であったと考えられる。

- ・ 溝咋遺跡でみられる、庄内式新相～布留式初頭に盛期を迎えるといった動向は、外來系土器が出土する河内湖岸の中河内地域および河内湖の出入口にあたる上町台地先端とその対岸の地域の諸遺跡の動向とも共通し（山田1994）、沖積地における河川沿いの微高地という遺跡の立地についても共通することから、溝咋遺跡も中河内地域の諸遺跡同様、「津」としての機能をもつと考えられる。

- ・ 山田氏の論考をもとに溝咋遺跡と中河内地域の諸遺跡を比較すると、中河内地域の諸遺跡では、外來系土器の多くが山陰、吉備、讃岐、阿波など西方のもので、近江、北陸、東海など東方のものは混じる程度であり、この点で溝咋遺跡と共通する。また、溝咋遺跡では大和型庄内甕をはじめとする大和の遺物はみとめられず、中河内においても大和型庄内甕は数点程度しか出土していない。すなわち、大和からの物流はほとんどみとめられない点においても中河内地域の諸遺跡と共通する。

- ・ 中河内の諸遺跡は庄内式期初頭に一斉に出現するものの、その後の変遷は一様ではなく、巨視的にみると布留式期前半に消滅する遺跡と初期須恵器出現期まで継続する遺跡に大別され、後者に属する五反島、本郷、船橋遺跡は流通の要衝として機能する。溝咋遺跡は、土器量は減少するものの布留式期後半も継続し、初期須恵器も出土する。古墳時代後期末葉に洪水のため集落が破棄されるまで、居住域を変えながらも継続しており、後者に属すると考えられる。ただし、初期須恵器、韓式系土器は出土するも

のその数は少なく、庄内式期後半～布留式期前半の時期に比べ、要衝の度合いを減じると考えられる。

・東海系土器は、中河内の諸遺跡では一遺跡あたり1～2点と少なく、河内湖東岸の中垣内遺跡と、河内湖の出入口に位置する垂水南遺跡（米田1983）、五反島遺跡でまとまった数が出土する。

こうした現象からは、琵琶湖、淀川水系ルートが東海からの流通の幹線経路になる可能性が想定できそうではあるが、溝咋遺跡では湖東の土器は一定量出土するものの東海の土器は4点にとどまり、先にあげたルートの流通はみとめられるものの、それほど大きな物流があったとは考えられない。その要因は後述する、淀川本流と離れるという立地にかかわる点が1点あるものの、主たる要因は、纏向遺跡における東海系土器出土量が示すように、東海からの流れはその多くが大和盆地東南部を終結地点としていたためと考えられる。また、このことは、山田氏が指摘される、「垂水南遺跡、五反島遺跡は東海の人々の移住が考えられる」ことを補強する。

・ここで流通の手段について少し考えてみたい。溝咋遺跡出土の外来系土器は播磨、阿波、吉備など瀬戸内地方の壺が大半を占め、これに河内の甕がつづき、北近畿～山陰の甕・鉢・器台と東海～湖東の甕・高杯が同程度を占める。

淀川水系の安威川沿いの微高地という立地を考えるならば、流通の主たる手段は船と考えるのが妥当であり、河内湖に直結した水運を用いることによって、瀬戸内からは大形の壺、河内からは器壁が薄い甕を一定量運ぶことが可能であったと考えられる。

一方、安威川の上流は、現在「茨木・亀岡線」と呼称される、北摂山地を安威川沿いに越え亀岡盆地にでるルートに直結しており、北近畿～山陰の土器は、丹後、丹波から亀岡盆地を経由して安威川流域にはいるルートを利用した可能性が考えられる。このルートでは、できる限り海、河川を辿る水運を利用しながらも、一部陸路を辿らなければならず、これが運ばれる土器の大きさや量に限界を生じさせた可能性が考えられる。

では、湖東、東海からのルートはどうであろうか。安威川は大きくは淀川水系に属しながらも、その上流が淀川と交わることはなく、下流は淀川が分流した北側の河川（現神崎川）に合流する（図3参照）。すなわち、溝咋遺跡は河内湖からさかのぼるには直結し便利であるが、淀川を下ってきた場合、冠水時には淀川本流から船で辿り着ける可能性があるものの、乾水時には淀川と安威川の最短地点で荷揚げし、湿地帯を横切るの必要があり、こうした立地が湖東、東海の土器量に反映していると考えられる。また、淀川下流域において、本流沿いで適当な停泊地がみられないことが、垂水南遺跡や五反島遺跡に東海系の土器が集中する要因になっているのではないだろうか。

立地により外来系土器の搬出先が異なることは、京都市水垂遺跡（(財)京都市埋蔵文化財研究所1998）においても顕著である。水垂遺跡は京都市伏見区に所在し、淀川をかなり遡上した地点に立地する。ここでは外来系土器のうち、河内の土器が大半を占め、東海・近江・北陸・山陰・丹波系の土器がこれに次ぎ、大和・山陽・讃岐系の土器は少ないと報告される。同じ淀川水系でも山城に入ると、瀬戸内系の土器は少なくなるようである。

以上、溝咋遺跡出土の外来系土器について、まとめるとともにそこから推定される事柄、派生する問題を列挙した。次に、溝咋遺跡出土の他の外来系遺物との関連について考えたい。

溝咋遺跡では、製塩土器を含む外来系土器のほかに、他地域から搬入されたと考えられる遺物に、朱、結晶片岩材、軽石があり、産地同定が困難な軽石を除く他の二つについてみてみたい。

製塩土器については、先述したように吉備と讃岐からの搬入が明らかであり、古墳時代前期に塩が瀬

戸内の複数の地域からもたらされたことが首肯される。溝咋遺跡（その3）の調査において、古墳時代中期後半～後期の丸底1式（広瀬1988）の製塩土器が土坑からまとまって出土しており、これらも、未分析のため地域は特定できないものの、他地域から搬入されたものとみられる。

溝咋遺跡では、1524の渦巻文が描かれる壺をはじめ、赤色顔料が付着する土器が多く出土しており、自然科学的分析により6点が朱とベンガラ混合物であることがあきらかになっている（南1999）。他に杵形をした石杵が2点、周縁に縁をもつ円形の石皿が1点出土しており、分析試料は採取できなかったものの、その形態から朱の精製に関わる遺物であると考えられる。

朱は、水銀鉱山を擁する地域から搬入されたと考えられ、畿内周辺では、中央構造線に沿った紀ノ川、吉野川流域の奈良県、三重県、徳島県がその候補地としてあげられる。近年では、徳島県若杉山遺跡の発掘調査成果をもとに、朱の生産と搬出、流通を関連づけた研究成果が明らかにされており（岡山1998）、それによると若杉山遺跡で生産された朱は黒谷川郡頭遺跡、矢野遺跡をはじめとする鮎喰川遺跡群がその生産に直接あるいは間接的に関与し、流通の拠点としても機能したと考えられている。

溝咋遺跡では、先にあげた奈良、三重、徳島県のうち、奈良、三重県の土器は出土しておらず、徳島県すなわち阿波の土器は土器そのものが外来していることが明らかで、点数も多い。こうした土器の動向からは、溝咋遺跡に搬入された朱の搬出元としては、阿波が最も可能性が高いと考えられる。このことはまた、後述する結晶片岩材が外来していることから補完されよう。しかし、朱、結晶片岩とも吉野川流域だけではなく紀ノ川流域にも同じように分布するものであり、両地域の峻別は自然科学的分析においても現段階では困難である。したがって今回は、土器の動向からみる限りにおいては、朱の搬出元は阿波の可能性が高いことを指摘するにとどめる。

溝咋遺跡では、集落域から、幅6cm前後、長さ15cm前後の結晶片岩材が3個体出土している。3個体は、灰色系、緑色系、紫色系をそれぞれ呈する。

外来系土器のなかで阿波の土器は、結晶片岩が混和材として入っていることをその基準とした。片岩を含む土器のうち甕、鉢は、胎土の素地があざやかなだいたい色を呈し、阿波から外来したことが一目瞭然であるが、壺の多くは、胎土の素地がやや白っぽい明褐色を呈し、阿波においても同様な素地の土器はみられるものの、在地の土器の素地にも類似し外来土器とするには躊躇する。先にあげた結晶片岩が石材として外来していることを考慮すると、素地は在地の土を用い、混和材として結晶片岩を用いた土器が存在する可能性が考えられる。しかし、在地の土器の素地に類似し結晶片岩を混和材として含む壺の形態は、口縁部接合部の突帯に明らかなように、阿波の特徴を示すものであり、外来土器か外来系土器かの峻別は困難であり、ここでは、結晶片岩材が、在地における土器製作において、混和材として利用された可能性があることを指摘するにとどめざるをえない。なお、結晶片岩製の石製品など、結晶片岩を用いた他の遺物は出土しておらず、溝咋遺跡では、混和材以外の結晶片岩の利用法については不明である。

以上、朱、結晶片岩といった外来系遺物をみると、外来系土器が示す溝咋遺跡と他地域の広範な交流のなかでも、とくに阿波との関係が着目される。文献史学からは、國造本紀をもとに三島溝杭と阿波との関連が指摘される（太田1925）。阿波から三島への経路については、土佐日記に示される航路が興味深く参照されるため、ここに挙げてみたい。土佐日記における土佐国から平安京への航路をみると、四国の南岸から室戸岬（室津）を回り四国の東岸沿いに進み、鳴門（土佐泊）から鳴門海峡をわたって淡路島の南岸をたどり、紀淡海峡を通過して和泉（和泉の灘）に至る。その後、和泉から大阪湾岸を北上

して淀川に入り、遡上して平安京に到着する。これは平安時代における航路であるが、阿波から三島へは鳴門海峡、紀淡海峡さえ通過すれば、比較的安全な航路でたどり着けるようであり、これは古墳時代前期においても大差ないのではないかと想定される。溝咋と阿波は、こうした比較的安全で安定した航路で結ばれることで、朱をはじめとする物資の流通があったと考えられる。結晶片岩材についていえば、佐保川沿いにある古墳時代前期後半に属する將軍山古墳は、石室の壁が結晶片岩の板石で構築され、結晶片岩は阿波もしくは紀伊からの搬入が想定されている（奥田1986）。こうした大量の石材の搬入は水運に拠るものと考えられ、土佐日記にみる航路のうち、少なくとも阿波から三島もしくは紀伊から三島は、古墳時代前期には水運により結ばれていた可能性が高い。

## 第5項 今後の課題

淀川水系には先述した高槻市芝生遺跡のほか、吹田市垂水南遺跡、京都市水垂遺跡のような同様な立地、性格をもつ遺跡があり、それぞれ流通の拠点として機能したと考えられている。これら流通の拠点とみられる集落からは、外来系土器のほか、銅釧、小形仿製鏡といった金属製品、朱や朱を精製したとみられる石杵・石皿、鳥形土製品、筥の文様をもつ土器など稀少な遺物が出土しており、出土遺物の種類に共通点がみられるようである。その用途、要因など、資料の蓄積をまって検討したい。

溝咋遺跡でも明らかなように、こうした流通の拠点とみられる集落の多くは、沖積地の微高地上という立地が示すように、基盤が脆弱で集落の範囲も限られたものであり、流通の拠点とはなり得ても地域の拠点にはなり得ないと考えられ、地域の拠点としては段丘上に立地する安定した基盤をもつ別の集落が機能したのと考えられる。たとえば、溝咋遺跡においては東奈良遺跡がこれにあたる可能性が高い。先学の指摘どおり（酒井1984）、小地域における結びつきがひとつの単位となり、これらが結ばれることで集落間ネットワークが機能したと考えられ、今後、三島地域をもとに、淀川流域におけるネットワークの具体的な事象を明らかにしたい。

外来系土器が多く出土する遺跡は、人や物の移動が推定され、物流、交易の拠点集落として位置づけられる。その最たる遺跡は大和東南部に位置する纏向遺跡であり、至近に纏向石塚、ホケノ山古墳、箸墓といった出現期の古墳が点在することから、これらの古墳に象徴される初期国家形成にあたっての基盤都市として位置づけられている（石野1979、寺沢1984）。古墳出現の直前から相前後する時期、すなわち庄内式新相～布留式初頭の時期、溝咋遺跡のような沖積地微高地上に立地し外来系土器が多く出土する遺跡が、畿内はもとより他地域においても多くみられるようになり、広範な地域間交流が盛んになったようである。土器の移動は人の移動、すなわち情報の伝達を示唆するものであり、情報の伝達と共有化は、それまでの小地域内では補えない何らかの内的あるいは外的要求が契機になって生じたものと考えられ、その要求こそがより広域な範囲における活動を可能にする体制、すなわち国家ではないかと考えられる。このような精神的な事象を考古学から捉えることは困難とは考えられるが、Service が指摘するとおり（Service, E.1971）、交易の複雑化、たとえば交易品に威儀具が含まれるといった事象は国家形成またはその萌芽を示すものと捉えられる。すなわち、流通が分配的であれば、中心となる集落の存在が推定され、集権国家の萌芽が認められるのであり、均質的であれば、均等な集落の存在が推定され、分権的な社会のあり方が想定できる。しかし均等であっても、古代の律令体制下の駅家にみられるように、周辺集落に比べ、中央的な遺構、遺物が顕著である場合には、また別の解釈が必要となるであろう。以上、外来系土器および外来系土器が出土する遺跡がもつ意義を示すにとどまるが、今後、集落



間ネットワークを考えるにあたっては、以上の視点に留意して考えていきたい。

小稿をなすにあたり、江見正己、岡山真知子、奥田 尚、比田井克仁、森岡秀人、山田隆一、米田敏幸の諸氏に多くのご教示を得ました。記して感謝申し上げます。

なお、小稿は、(財)大阪府文化財調査研究センター平成10年度研究助成事業の成果の一部です。

## 註

- 青木遺跡発掘調査団 1976 『青木遺跡発掘調査報告書Ⅰ』  
 青木遺跡発掘調査団 1977 『青木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』  
 青木遺跡発掘調査団 1978 『青木遺跡発掘調査報告書Ⅲ』  
 赤塚次郎 1990 「2土器・土器群の形成」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター  
 赤塚次郎 1996 「濃尾平野低地部における古墳時代の甕」『第4回東海考古学フォーラム 鍋と甕そのデザイン』  
 石野博信 1979 「大和唐古・鍵遺跡とその周辺」『橿原考古学研究所論集』4  
 今里幾次 1943 「播磨市之郷弥生式遺跡の研究」『播磨の弥生文化』  
 岩崎直也 1984 「四国系土器群の搬出」『大阪文化誌』17  
 太田 亮 1925 『日本國史資料叢書 撰津』  
 岡山真知子 1998 「古代における辰砂生産工程の復原——徳島県若杉山遺跡を例として——」『考古学雑誌』84—1  
 奥田 尚 1986 「紅廉石片岩が見られる竪穴式石室」『古代学研究』111  
 勝浦康守 1995 「阿波における庄内式併行期の土器様相」『庄内式土器研究』IX  
 神沢勇一 1968 「東海地方系の弥生式土器」『神奈川県立博物館だより』3号  
 神沢勇一 1969 『神奈川県考古資料集成1. 弥生土器』  
 岸本道昭 1995 「庄内甕播磨発生説考」『庄内式土器研究』X  
 岸本道昭 1996 「新宮東山古墳群の研究」『新宮東山古墳群』  
 叻京都市埋蔵文化財研究所 1998 『水垂遺跡 長岡京左京六・七条三坊』  
 久地伊屋之免遺跡発掘調査団 1987 『川崎市高津区久地伊屋之免遺跡』  
 酒井龍一 1984 「弥生時代中期・畿内社会の構造とセトルメントシステム」『文化財学報』3  
 Service, E., Primitive Social Organization. An Evolutionary Perspective, New York, 1971  
 清水眞一 1994 「因幡・伯耆における庄内式併行期の様相」『庄内式土器研究』VII  
 陣内暢子 1998 「まとめ」『河内平野遺跡群の動態IV』  
 角南聡一郎 2000 「被籠状突帯壺について」『溝咋遺跡』  
 寺沢 薫 1984 「纏向遺跡と初期ヤマト政権」『橿原考古学研究所論集』6  
 寺沢 薫 1986 「畿内古式土師器の編年と二・三の問題」『矢部遺跡』  
 中川 寧 1996 「山陰の後期弥生土器における編年と地域間関係」『島根考古学会誌』13  
 奈良県桜井市教育委員会 1976 『纏向』  
 奈良県立橿原考古学研究所 1983 『院上遺跡』  
 奈良県立橿原考古学研究所 1986 『矢部遺跡』  
 西村 歩 1996 「和泉北部の古式土師器と地域社会」『下田遺跡』  
 榛名町教育委員会ほか 1998 『第1回群馬郡遺跡調査発表会』  
 広瀬和雄 1988 「近畿地方における土器製塩」『考古学ジャーナル』298  
 南 武志 2000 「溝咋遺跡出土赤彩土器の赤色顔料物質の分析」『溝咋遺跡』  
 宮崎幹也 1994 「北近江の土器様相」『庄内式土器研究』VI  
 村田文夫 1997 『古代の南武蔵-多摩川流域の考古学』  
 山田隆一 1994 「古墳時代初頭前後の中河内地域——旧大和川流域に立地する遺跡群の枠組みについて——」『弥生文化博物館研究報告』第3集  
 米田敏幸 1992 「庄内播磨型甕の提唱」『庄内式土器研究』III  
 米田敏幸 1994 「河内における庄内式土器の編年」『庄内式土器研究』VII  
 米田文孝 1983 「搬入された古式土師器」『関西大学考古学研究室開設参拾周年記念考古学論叢』

### 第3節 土器棺葬の変容

#### — 摂河泉の弥生時代中期後葉～古墳時代前期の様相 —

(財)元興寺文化財研究所 角南聡一郎

#### 第1項 目的と方法

本稿では大阪府茨木市溝咋遺跡の土器棺資料の観察を契機に、大阪府下の弥生時代中期～後期にかけての土器棺葬の様相を問題とし、弥生時代中期～後期及び弥生時代後期～古墳時代前期の社会変化に伴い、それぞれの時期に土器棺葬はどのように変容していくのかを検討することを目的とする。

大阪湾沿岸を中心に弥生時代中期中葉に方形周溝墓が展開する。これらの方形周溝墓に伴う形で土器棺が大量にみられるようになる。この傾向は弥生時代中期後葉になっても継続する。しかし後期になると墓自体の様相が不明確となるが、これに従って土器棺の在り方も変容していることが予想される。これまでは具体的に大阪府下の土器棺葬について言及されることはほとんどなかった。そこで本稿では、まず基礎的作業として大阪府下の畿内第IV様式～古墳時代前期の土器棺を集成する。次にこれらの各属性について分析し、この分析から弥生時代中期後葉から古墳時代前期にかけて、どのような点で大きな変化が見いだせるのかを抽出し、この背景、つまり何がどのように変容したのかを想定することを目的とする。

土器棺の時期決定は基本的に棺に転用された土器によっておこなう。しかしこれらの土器は口縁部を打ち欠いている等、情報が欠落している場合が多く、厳密な時期決定は難しい。また土器編年上の問題もいくつかある。本稿と直接関連する問題は、畿内第III様式と第IV様式との区分をどのように考えるかという点、弥生時代の終わり、古墳時代の開始をいつとするかという点がある。

前者について、従来は弥生時代を前期・中期・後期に区分した際、凹線文の出現を画期として弥生時代中期の前半・後半に大別する場合や、畿内第II様式・第III様式・第IV様式をそれぞれ弥生時代中期の前葉・中葉・後葉に比定する場合があります、統一されていない。これは、第III様式を凹線文の有無で古段階と新段階に区分した際、第III様式新段階の資料と第IV様式の区別が、非常に困難であるということに起因している(佐原 1968、曾我 1972)。前述したように土器棺に転用された土器自体に情報が少ないという理由から、ここでは明瞭な凹線文の出現をもって第IV様式とする立場(寺澤・森井 1989)を支持したい。本稿では弥生時代中期を前葉・中葉・後葉に区分した場合、それぞれに第II様式・第III様式・第IV様式をあてることにしたい。

また後者についても、墓制の変化をもって古墳時代の開始を規定する説や、土器の変化をもって画期を設定する意見など様々である。しかし土器棺墓の場合は、その言葉通りに遺体は土器を転用した棺に納められているのであるから、土器の変化をもって時期区分を説明する方が理解しやすいと考える。そこで本稿では庄内式土器を弥生時代終末～古墳時代初頭に、布留式土器を古墳時代前期に比定する(角南 1997)。土器棺による時期区分が困難な庄内式期の資料は弥生時代終末～古墳時代初頭の資料として一括して考え弥生時代後期に含めて考えたい。以上のことから、本稿での時期を、弥生時代中期後葉・弥生時代後期・古墳時代前期という三つに区分してみたい。また、小地域区分として大阪府下の旧国単位区分である摂津・河内・和泉という三つに分けて説明していきたい。

## 第2項 摂河泉の土器棺墓

### 1. 溝咋遺跡の土器棺墓

溝咋遺跡では弥生時代中期末～後期初頭と考えられる土器棺墓4基が検出された。いずれの立地も土器棺は単独で検出されており、棺身はどれも壺が転用されている。特に土器棺墓1の棺身として使用された壺は、その特徴から阿波地方、もしくはその周辺から搬入された土器である可能性が高い。この土器棺の量量は器高が61.1cmと最も高い数値を示している。棺身に搬入土器が使用されているという点と、弥生時代中期終末～後期初頭の過渡期の資料であり、土器様式の変化に伴い墓制はどのように変容していったかを考える資料として興味深い<sup>(1)</sup>。

### 2. 各小地域の様相

では、大阪府下での土器棺墓はこの時期どのような様相を示しているのでしょうか。この疑問を解くために、府下の弥生時代中期後半から古墳時代前期にかけての土器棺資料の集成をおこなった(表30、31、32)。以下、前述したように、弥生時代中期後葉、弥生時代後期、古墳時代前期の順に、摂津、河内、和泉の各小地域における土器棺墓の分布の様相を中心にみていきたい。

全体の分布の状況からは、基数・遺跡数は時期が下るに従って減少していく傾向にあることが見て取れる。

【弥生時代中期後葉】 摂津では茨木市の東奈良遺跡、耳原遺跡、高槻市の芝生遺跡、安満遺跡、豊中市の勝部遺跡、能勢町の大里遺跡がある。河内は大阪市・東大阪市を中心として、土器棺が非常に多くみられる。大阪市城山遺跡では26基の、東大阪市瓜生堂遺跡では19基の土器棺が検出されている。和泉では、和泉市池上曾根遺跡で8基発見されているほか、和泉市池田寺遺跡、万町北遺跡、池田下遺跡で土器棺が検出されている。この時期は土器棺の基数・遺跡数では、河内が突出して多く、土器棺の基数が多いのは各時期を通じても河内が多い。

【弥生時代後期】 溝咋遺跡の所在する摂津では、この時期に茨木市東奈良遺跡、上穂積遺跡、將軍山遺跡、総持寺遺跡、高槻市嶋上郡衛跡遺跡、天神山遺跡と前時代の遺跡数とほぼ同数である。河内は遺跡数も土器棺の基数も大きく減少しており、前時代からすると変化が大きい。和泉では下田遺跡の1遺跡例のみであり、極端な減少傾向が看取できる。

【古墳時代前期】 この時期、摂津では土器棺墓は検出されていない。また、和泉でも鈴の宮遺跡の1例が検出されているのみである。しかし河内では八尾市で一定数の土器棺が存在していることが判明した。

## 第3項 資料の検討

次に、設定した各項目について検討をおこなっていき<sup>(2)</sup>たい。弥生時代中期後葉の資料数に対して、弥生時代後期、古墳時代前期の資料数は少なく、特に古墳時代前期では萱振遺跡一遺跡の資料がこの時期のデータの大半を占めるため、同一基準で扱うには問題が多々あると思われる。しかし、ここではそのような状況が、とりあえず摂河泉での実態であると理解し、あらかじめ傾向をデータから読み取ることが試みてみよう。

【立地】(図293-1、表33) 全時期を通じては、A1類が最も多く、次いでE1類が多い。周溝墓の主体部に埋葬されたものと、土器棺墓が単独で立地するケースが多いようだ。弥生時代中期後葉は、A1類が53例あり、A2類も11例である。一方、E1類が25例ある。つまり方形周溝墓と関係する土器棺、特に主体部に埋葬されたケースが多いことがわかるのと、これに対して土器棺単独で埋葬される場合も

表30 弥生時代中期後葉の土器棺一覽

No	所在地	遺跡	遺構	立地	時期	器種組成	棺身穿孔	口径	器高	最大径	埋蔵状態	備考	文献	
1	茨木市	東奈良	壺棺墓	E 1	IV	II 2		33.9	54.5	45.5	斜位		井上1988	
			壺棺墓	E 1	IV前	II 2		32.1	46.5	39	直位		井上1990	
2	茨木市	芦原	壺棺墓	E 1	IV後	I 6		26	59.5	40	斜位		川崎1998	
3	高槻市	芝生	土器棺墓	E 1	IV	I 3							森田1988	
4	高槻市	安高	壺棺	E 1	IV	I 6		24	91	64		棺外に磨製石剣1	原口1977	
5	豊中市	勝部	第12号墓	A 2	IV前	II 6	あり	20.7	32	25	斜位		藤井ほか1972	
			第13号墓	A 3	IV前	II 1	あり	24	42	35	直位			
			第14号墓	A 3	IV前	I 1	あり	21	37	29.5	斜位			
6	能勢町	大里	壺棺	E 1	IV	I 7							尾上・岡本1986	
			土器棺	E 1	IV	I 4		21.2	41.4	25.8	斜位			
7	枚方市	星ヶ丘西	土器棺墓	A 3	IV							7基検出	西田1980	
8	枚方市	田口山	壺棺墓	E 2	IV	II 6		30	45	36	斜位		西村1995	
				E 2	IV	I 7								
				E 2	IV	II 7								
				E 2	IV	II 7								
9	東大阪市	瓜生堂	5号第1主体部	A 1	IV	I 6		30.8	39.4	35	斜位		岩崎ほか1990	
			13号第3主体部	A 1	IV前	I 4		26	23.6	28	斜位			
			23号壺棺墓	A 3	IV前	II 1		23.1	55.3	37.2	斜位			
			24号主体部	A 1	IV前	II 4		17.4	45.4	40.2	斜位			
			1号壺棺	A 1	IV前	I 4	あり	32.2	42.2	30.5	直位		松宮1997	
			2号壺棺	A 1	IV前	II 4	あり	27.8	37.8	36.5	直位			
			壺棺	A 1	IV前	I 4		17	39.1	38.2	直位			
			2号周1号壺棺	A 1	IV前	II 4		36	61	41.2	横位	他地域産土器	今村ほか1981	
			2号周2号壺棺	A 1	IV前	II 4		36	61	41.2	横位			
			2号周3号壺棺	A 1	IV前	II 4		32.6	58.2	39.6	斜位	他地域産土器		
			2号周4号壺棺	A 1	IV前	II 6					斜位			
			2号周5号壺棺	A 2	IV前	II 6					斜位			
			2号周1号壺棺	A 1	IV前	I 3		9	21.2	25.2	直位			
			8号周1号壺棺	A 2	IV	I 6		12.4	29	21.4	横位			
			14号周1号壺棺	A 1	IV前	I 6		20.4	52.5	46.4	斜位			
			5D19壺棺	E 1	IV	II 3		19.2	31.4	23.4	直位		田代ほか1973	
			5D19壺棺	E 1	IV	I 4					斜位			
			6A19壺棺	E 1	IV	II 1					斜位			
			壺棺	A 1	IV	II 4		32.8	50.2	37	横位		物田1984	
10	東大阪市	巨摩	11号第1主体部	A 1	IV	I 1		1.8	51.2	40	斜位		三好ほか1995	
			11号第9主体部	A 1	IV	II 4		35.4	45.2	38.8	斜位			
11	東大阪市	西之辻	壺棺墓	E 1	IV	II 8 蓋襷+壺		20	48	37.2	横位	永久歯	人骨(胎児か乳児)	竿本編1992
			壺棺墓	E 1	IV	II 1		19.8	35.4	30	直位	人骨(胎児)		
			壺棺墓	E 1	IV	II 4		40	54	48	横位	人骨(幼児)	曾我ほか1994	
12	東大阪市	鬼虎川	第1土器棺	E 1	IV	II 1		39.5	50	42.5	斜位		曾我ほか1994	
			第2土器棺	E 1	IV	II 1		45	44.8	38	横位		曾我ほか1994	
			壺棺墓	E 1	IV	I 1	あり	18.2	40	31.4	直位	人骨(乳児)	竿本・松田編1984	
13	東大阪市	久宝寺	土器棺	A 1	IV	I 6		15.4	44.5	37.8	斜位		中西1986	
14	大阪市	城山	1号土器棺	A 1	IV	II 4		32.4	54	40.2	斜位		杉本・岩瀬1986	
			2号土器棺	A 1	IV	II 4		28.4	42	30.2	斜位			
			3号土器棺	A 1	IV	I 6		25.6	58.4	40	斜位			
			4号土器棺	A 1	IV	II 4		29.4	46.6	33.6	斜位			
			5号土器棺	A 1	IV	II 4		32	45.2	37.4	斜位			
			6号土器棺	A 1	IV	II 2					斜位			
			7号土器棺	A 1	IV	II 8 水差し形土器		10.8	21	20.4	斜位			
			8号土器棺	A 1	IV	II 6		21		22.8	横位			
			9号土器棺	A 1	IV	II 4		40.3	47.6	44.4	斜位			
			10号土器棺	A 1	IV	II 4		30.3	48.6	36.8	斜位			
			11号土器棺	A 1	IV	I 6		25	42	42.7	斜位			
			12号土器棺	A 1	IV	II 4		29.4	49.6	36.6	斜位			
			13号土器棺	A 1	IV	II 1		21.4	29	25.4	斜位			
			14号土器棺	A 1	IV	II 2		32	35		斜位			
			15号土器棺	A 1	IV	II 1		30.8	46	32.4	斜位			
			16号土器棺	A 1	IV	II 4	あり	14.5	45	38.8	斜位			
			17号土器棺	A 1	IV	II 4 鉢+鉢		32.2	42.4	37	斜位			
			18号土器棺	A 1	IV	II 4 鉢2		38	46.4	42.5	斜位			
			19号土器棺	A 1	IV	II 4		30.5	54	42.6	斜位			
			20号土器棺	A 1	IV	II 7		31.9	34.6	40	直位			
			21号土器棺	A 1	IV	I 4		38	60.6	44	斜位			
			22号土器棺	A 1	IV	II 6		40.4	52.8	43	斜位			
			23号土器棺	A 1	IV	II 4		29.2		30.4	斜位			
			24号土器棺	A 1	IV	II 4		27.2	45	30.6	斜位			
			25号土器棺	A 1	IV	II 4		41.2	59.2	50	斜位			
			26号土器棺	A 1	IV	II 1		256	57	27.8	斜位		山上1989	
15	八尾市	成法寺	1号土器棺	A 1	IV	I 3		40.2	50.2	42.4	斜位			
			2号土器棺	A 1	IV	II 4		31.4	38	30	斜位	人骨(小児)	森井1989	
16	八尾市	亀井	130-09	E 1	IV	II 8 蓋襷+高杯		38.4	56	42.2	斜位		広瀬ほか1986	
			ST0101	A 1	IV前	II 4		29	36.8	32	斜位			
			ST0101 1号	A 1	IV前	II 4		34.8		43.8	斜位			
			ST0101 2号	A 1	IV前	II		33.4	49.2	40	直位	人骨(乳児)	高島ほか1980	
			SX3002	E 1	IV	II 2		20.8	30	30.8	直位		近江編1989	
			土器棺	A 1	IV前	I 1 底に壺底部		18.2	41	40	横位		杉本・岩瀬1986	
			1号土器棺	A 1	IV前	I 8 蓋鉢+壺		11.2	45.3	38.4	斜位			
			2号土器棺	A 1	IV前	II 4		40	54	46.8	斜位			
			3号土器棺	A 1	IV前	I 2		15	40	36.2	斜位			
			4号土器棺	A 1	IV前	II 4		27.6	40.8	35.4	斜位	鉄刀1		
			5号土器棺	A 1	IV前	II 4		22.2	40.2	40	斜位		高萩1991	
17	八尾市	久宝寺	土器棺	A 1	IV	I 4	あり	30.6	39.6	39.6	斜位		岡田1997	
18	八尾市	神宮寺	土器棺墓1	E 1	IV後	II 4	あり	27.3	49.3	39.2	直位			
			土器棺墓2	E 1	IV後	II 4		19	29.6	25.4	直位		米田1987	
19	八尾市	中田	壺棺	E 1	IV	I 3		15.2	36	30	直位	人骨(幼児)	坪田1992	
20	八尾市	竹濶	土器棺墓1	A 2	IV	II 2					斜位	米田1985		
21	八尾市	慈智	壺棺	E 1	IV	II 1					斜位	米田1985		
22	羽曳野市	高屋城址	SK01	F	IV	I 6		15	27.2	22.1	斜位		泉本1980	
23	羽曳野市	真志	土器棺墓	E 1	IV前	II 4		37.4	60	43.8	横位		高野ほか1988	
24	富田林市	甲田南	土器棺墓1	E 1	IV	II 1					斜位	小林1983		
			土器棺墓2	E 1	IV前	II 2	あり	33	38.2	37.2	斜位		小林1985	
25	富田林市	真志西	壺棺墓	E 1	IV前	II 1		37.5	56.5	44	斜位		中辻編1986	
26	柏原市	安堂	土坑9	B	IV	I 6		14	38.8	38.8	直位		桑野1986	
27	和泉市	池上曾根	土器棺墓1-1	A 2	IV	I 7		11.4	32.3	39.7	斜位		西川1987	
			土器棺墓1-2	A 2	IV	II 1			35	43	斜位			
			SK01	E 2	IV	I 4		25.5	42	39.5	直位			
			第1号棺		IV前	I 6							井藤ほか1979	
			第5号棺		IV前	II 1	あり							
			第7号棺		IV前	I 1	あり							
			第8号棺		IV前	I 7		32.4	47.2	38.2				
			第9号棺		IV	II 7								
28	和泉市	池田寺	313-00	B	IV	II 2		21.4	29.6	26			田中ほか1991	
29	和泉市	万町北	U001	A 2	IV前	I 4	あり	12	30.5	28.8	斜位		森1993	
			U002	A 2	IV前	I 7					直位			
30	和泉市	池田下	土器棺墓1	A 2	IV前	II 4				34.4	斜位		白石編1991	
			土器棺墓2	A 2	IV前	I 6		33.4	47.7	37.5	斜位			
			土器棺墓3	A 2	IV前	II 2		31.1	45.2	36.9	横位	サマカイト剥片1		

表31 弥生時代後期の土器棺一覽

No	所在地	遺跡	遺構	立地	時期	器種組成	棺身穿孔	口径	器高	最大径	埋蔵状態	備考	文献
3	茨木市	上穂積		E 1	V末	I 1		19	64	50	斜位		田代1959
4	茨木市	将寶山			V末								田代1959
5	茨木市	総持寺	土器墓1	A 3	V後	I 4		21	43.2	48.2	直位		山上編1997
			土器墓2	A 3	V後	I 3	あり	23.2	97.3	43.8	横位		
6	高槻市	嶋上郡衝跡	壺棺墓	E 1	V						斜位		大船1981
			壺棺墓	E 1	V後	I 4			40	35			
			土器棺1	B	V後～末	I 7			36	42.6	斜位		橋本・川村1998
			土器棺2	B	V後～末	I 7			42.1	50	斜位		
7	高槻市	天神山			V末								田代1959
8	枚方市	招提中町	ST01	A 1	V後	I 5		18.4	34.2	25.2	横位		森井1997
9	西条畷市	雁屋	壺棺墓	E 1	V後	I 4		14	40	41.4	斜位		辻本1987
10	東大阪市	巨摩	3号第6主体部	A 1	V前	II 3		24.8	42.6	32.4	斜位		三好ほか1995
			3号第7主体部	A 1	V前	I 2		14.2	31.6	43.8	斜位		
11	大阪市	長原	SX701	E 1	V初	I 1 蓋壺+高杯		26	41.4	44.4	斜位		大阪市1985
12	八尾市	龜井	SX3002	E 1	V前	I 6		9.8	34.2	34.5	横位	人骨(乳幼児)	高島ほか1983
13	八尾市	龜井北	SP11005		V	II 6		14	23.6	19.4	横位		小野ほか1985
			SK4101	E 1	V末	I 7					斜位		大塚ほか1985
14	八尾市	美園	BXS302		V末	I 7	あり		31	34.4	直位		岡本ほか1985
15	藤井寺市	土師の里	土坑243	F	V中	I 6	あり	8.4	12.2		横位		岩崎・岩瀬1981
17	羽曳野市	駒ヶ谷	SX029	A 1	V中	I 4	あり	20.2	40.4	44.4	斜位		高野・小嶋1992
				A 2	V中	I 7	あり				直位		
18	柏原市	本郷	土器棺	A 1	V	I 1		17	55.3	50.2	斜位		北野1993
19	河南町	東山	土器墓2	E 1	V	I 1		16.2	29	30	直位		赤井1998
			土器墓2	E 1	V	I 6		12	37	37	直位		
20	堺市	下田	SM-1	E 2	V後	I 7		16.2	24.2	27.2	斜位		浅岡編1995
			SM-2	E 2	V後	I 7				28	斜位		

表32 古墳時代前期の土器棺一覧

No	所在地	遺跡	遺構	立地	時期	器種組成	棺身穿孔	口径	器高	最大径	埋蔵状態	備考	文献
1	八尾市	龜井北	壺棺	D 1	古墳前	I 1		29.5	81	59	横位		奥・山上1984
2	八尾市	久宝寺	土器棺	D 1	古墳前	I 1		20	50	55.5	斜位		西村1989
3	八尾市	小阪合	土器墓301	E 1	古墳前	I 6		28.2		47.2	横位		高萩1994
			土器墓2	E 2	古墳前	I 1			24.4	30.4	横位		
5	八尾市	美園	ASX301	E 2	古墳前	II 4		30.5	40.5	40.7	斜位		岡本ほか1985
6	八尾市	萱振	SX01	E 2	古墳前	I 1		10.2	30.5	29	横位		大野編1983
			SX02	E 2	古墳前	II 2		12.4	23.4	22.2	横位		
			SX03	E 2	古墳前	II 6					横位		
			SX04	E 2	古墳前	I 6					横位		
			SX05	E 2	古墳前	II 6		14.4		21.4	横位		
			SX06	E 2	古墳前	I 6		11.8	28	25.6	横位		
			SX07	E 2	古墳前	I 6		16.2		26.6	横位		
			SX08	E 2	古墳前	I 6		19.8	32.4	26.4	横位		
			SX09	E 2	古墳前	II 6		15.2		20	横位		
			SX10	E 2	古墳前	II 6					横位		
			SX401	E 1	古墳前	I 6		12.2	32.1	26.5	横位		阪田1984
			SX402	E 1	古墳前	I 6					斜位		
7	羽曳野市	東阪田	SX02	E 2	古墳前	II 4			15.2	32.3	横位		尾上1981
			SX03	E 2	古墳前	I 6					横位		
			SX04	E 2	古墳前	I 6					直位		
8	堺市	鈴の宮	SX055	D 3	古墳前	I 1		21	57.7	57.5	直位		北野編1986

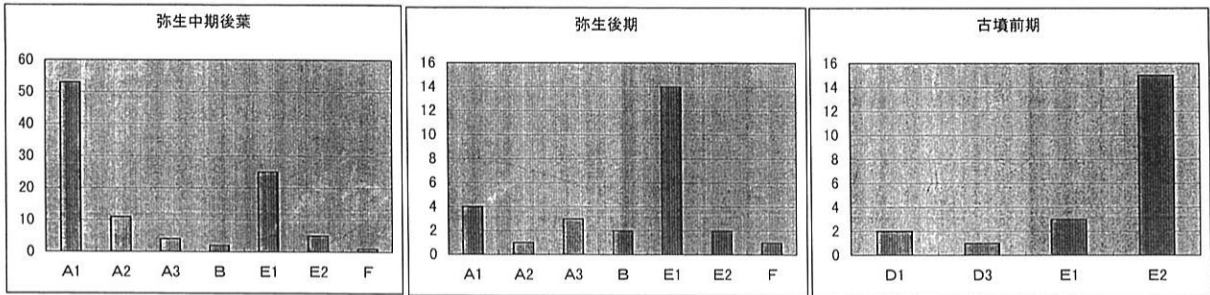
多かったことが読みとれる。弥生時代後期では、A 1 類が4例と大きく減少するのに対して、E 1 類は14例とこの時期では最も多いことがわかる。古墳時代前期になると、古墳と関係して埋葬される土器棺が僅かに存在する（D類）が、最も多いのはE 2 類であり、八尾市萱振遺跡のように、一遺跡で多数の土器棺のみから成る墓域を構成する場合が特徴的に存在する。

【器種組成】(図293-2、図294、表34) 弥生時代中期後葉では、II 4 類が29例で、I 6 類が13例、次いでII 1 類が12例と多い。弥生時代後期は、I 7 類が6例で、次いでI 1 類が5例である。古墳時代前期は、I 6 類が6例、I 1 類が5例、II 6 類が4例という順である。弥生時代中期後葉には甕を棺身・鉢を棺蓋に転用するものが突出して採用されている。次いで壺を棺身として単棺であるものや、甕を棺身・壺を棺蓋にするものが多い。弥生時代後期では、壺を棺身としたものか主体となり、甕を棺身とするものは一気に減少している。ところが古墳時代前期では甕のみ単棺で使用する場合もあり、やや壺を棺身とするものがやや優勢といった程度であろう。

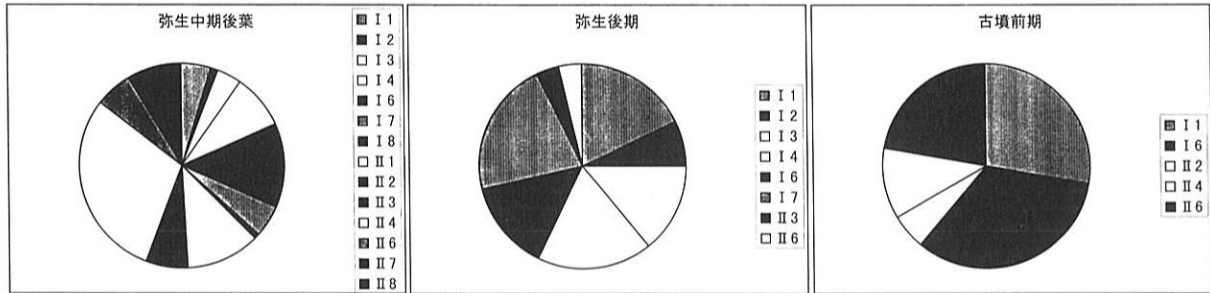
全時期では、II 4 類が31例と最も多く、次いでI 6 類が23例と多い。つまり、府下の土器棺に転用される土器の組み合わせとしては、甕を棺身・鉢を棺蓋に転用するもの、壺を棺身とした単棺であるものの二つの類型が特徴的に盛行すると理解できる。

【棺身穿孔】 棺身に焼成後の穿孔をするものは、全時期を通じては18例、弥生時代中期後葉は13例、弥生時代後期に5例あるが、古墳時代前期には1例も見られなくなる。全体の比率としては各時期を通じて、穿孔がなされるものはあまり多いとはいえない。

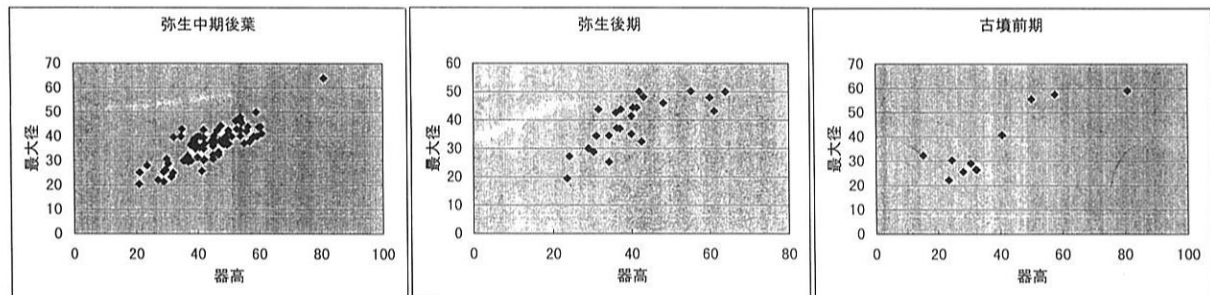
【棺の法量】(図293-3) 棺の法量のうち特に、被葬者の身体の大きさが想定できる器高と最大径の関係に注目してみたい。弥生時代中期後葉では器高は20~60cmの、最大径は20~50cmの範囲に収まる。ただし、高槻市安満遺跡例の器高は81cm、最大径は64cmと飛び抜けて大きい。弥生時代後期になると、器高は20~60cmの、最大径は20~50cmの範囲に分布する。古墳時代前期は、器高は20~40cmの範囲に多



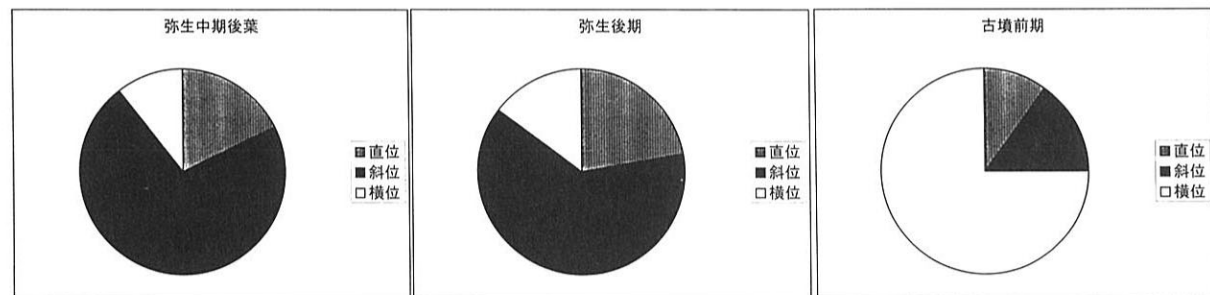
1. 各時代の立地頻度



2. 各時代の器種組成頻度



3. 各時代の器高・最大径の比率



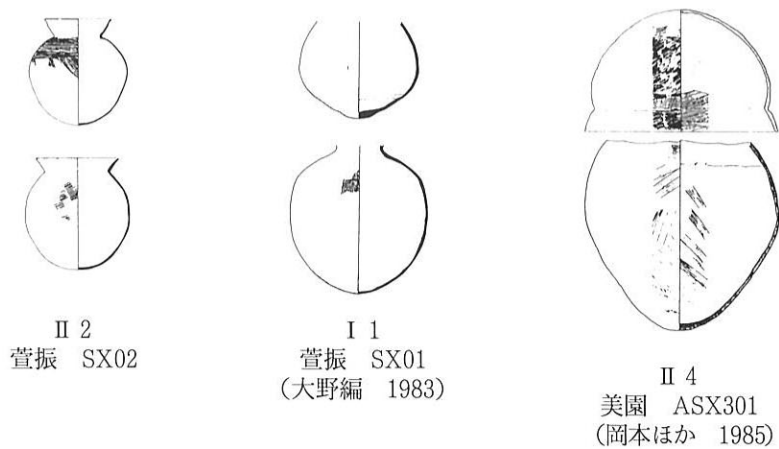
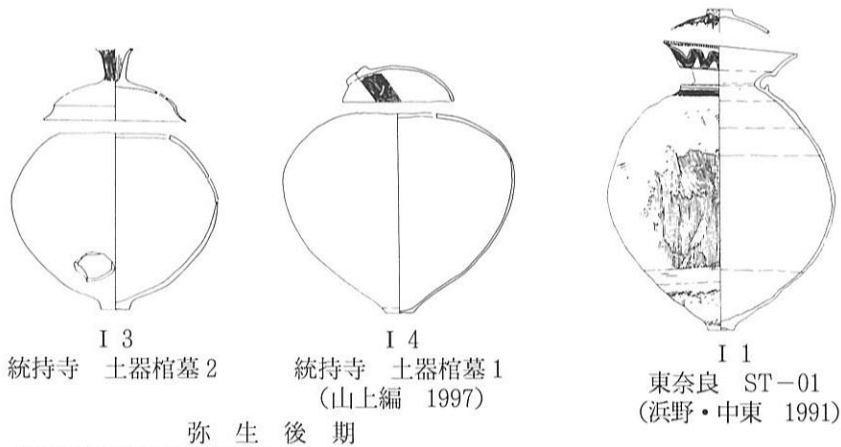
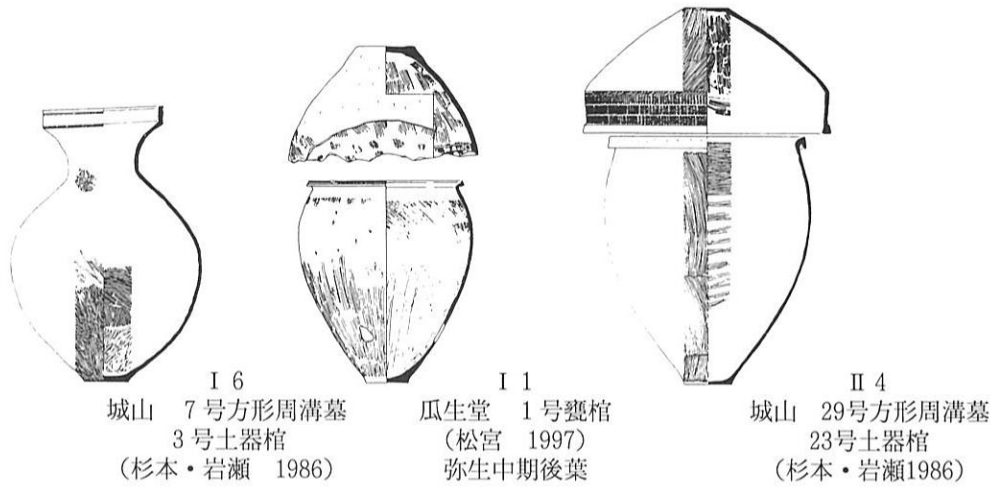
4. 各時代の埋葬状態頻度

図303 土器棺資料の検討

いが、80cmを超える八尾市亀井北遺跡例や、20cmに満たない羽曳野市東阪田遺跡例のようなものも存在するようになる。最大径は20~60cmの範囲に収まるが、集中する範囲は20~30cmである。

棺の法量については、弥生時代中期後葉段階は大きなものから小さいものまでが均等に存在しており、弥生時代後期段階になってもこの傾向は変わらない。この段階では立地によって棺のサイズに違いはみられない。しかし、古墳時代前期段階には、大きな棺と小さな棺の二つのグループに区分できそうである。立地でD 1類のものは大きいサイズの棺が採用され、E類のものは小さいサイズの棺が採用されており、立地によって明確に棺のサイズに違いがあることが判明した。

【埋葬状態】(図293-4、表35) 全時期を通じては、斜位が88例と多く、横位が29例、直位が25例と



古墳前期

図304 各時期の土器棺

表33 各時期の立地

	A1	A2	A3	B	D1	D3	E1	E2	F	合計
弥生中期後葉	53	11	4	2			25	5	1	101
弥生後期	4	1	3	2			14	2	1	27
古墳前期					2	1	3	15		21
合計	57	12	7	4	2	1	42	22	2	149

表34 各時期の器種組成

	I1	I2	I3	I4	I6	I7	I8	II1	II2	II3	II4	II6	II7	II8	合計
弥生中期後葉	5	1	4	9	14	5	1	12	6	1	31	6	6	3	104
弥生後期	5	2	4	5	4	6				1		1			28
古墳前期	5				6				1		2	4			18
合計	15	3	8	14	24	11	1	12	7	2	33	11	6	3	150

表35 各時期の埋葬状態

	直位	斜位	横位	合計
弥生中期後葉	17	68	10	95
弥生後期	6	17	4	27
古墳前期	2	3	15	20
合計	25	88	29	142

八尾市亀井遺跡1号方形周溝墓1号5号土器棺からは鉄刀の破片が1点出土している。また、和泉市池田下遺跡土器棺墓3内からはサヌカイト剥片が1点出土している。

副葬品を伴う例については、他地域では一定量の副葬品がみられることと比較すると(角南 1999c)、河内での土器棺の数からすれば少ないといわざるをえない。

【埋葬遺体】 棺内に埋葬遺体が遺存した例は、計9例ある(角南 1999b)。このうち弥生時代中期後葉段階が8例、弥生時代後期段階が1例である。東大阪市巨摩遺跡11号方形周溝墓第9主体部からは、永久歯が1点出土している。同じく東大阪市の西之辻遺跡では遺体が依存した土器棺が3例あり、それぞれ10ヶ月前後の胎児か乳児、7ヶ月前後の胎児、幼児とされる。東大阪市鬼虎川遺跡の壺棺墓からは1歳くらいの乳児が発見された。八尾市亀井遺跡では、2例の埋葬遺体の検出が報告されており、130-OU<sup>(3)</sup>のものは小児、SX3002のものは乳児とされる。また弥生時代後期のSX3002からも乳幼児骨が発見された。八尾市竹淵遺跡土器棺墓1は5～6歳までの幼児の乳歯が1点出土している。

#### 第4項 土器棺墓はいかに変容したか

府下土器棺葬の特徴を要約し整理しておこう。弥生時代中期後葉では、土器棺資料の多くは、大阪市城山遺跡、東大阪市瓜生堂遺跡から集中して検出されている。これらの立地は方形周溝墓の方台部に埋設されている。いずれも一基の周溝墓に対して複数の土器棺が埋設される点が特徴的である。これらのような、方形周溝墓と関係して埋設される土器棺だけでなく、土器棺墓のみ単独で立地する一群も各時期に存在している。棺の特徴としては、甕を棺身・鉢を棺蓋にするものが弥生時代中期後葉を中心に多い。次いで壺のみ単棺であるものも多い。また、棺身への焼成後穿孔はあまり顕著ではない。棺の法量は弥生時代中期後葉段階では大きなものから小さなものまで様々なものが、各法量にまんべんなく分布している。しかし、古墳時代前期になると大きいものと小さいものの二つに分化するようで、大きい棺は古墳の主体部に採用され、小さいものは土器棺墓のみ立地する際で使用される(図295)。

それでは、土器棺葬はどのように変化したのかを考えてみよう。これまでは、畿内の墓制研究において、土器棺墓は研究者によってどのようにとらえられてきたのだろうか。

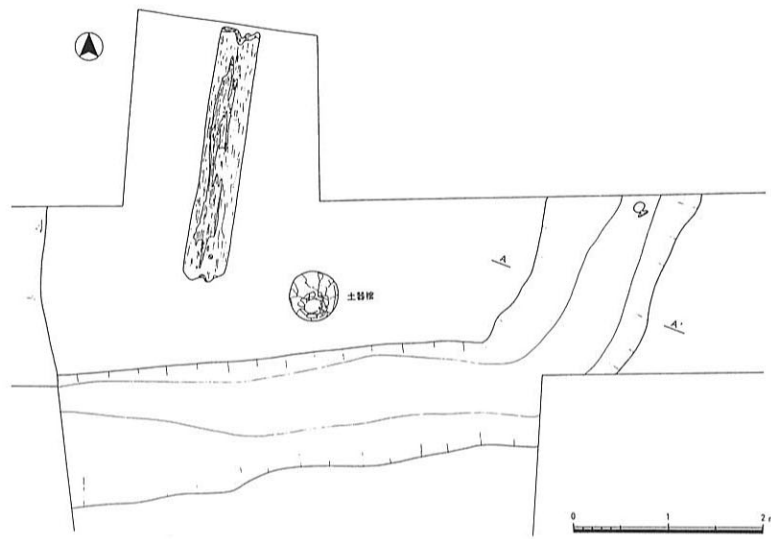
方形周溝墓は弥生時代中期の段階では、家族墓としての性格が強いとされる(都出 1970)。この前提より、方形周溝墓の方台部に埋設された土器棺は、「家族」という単位で考察されてきた。こうした観点から、畿内の土器棺について僅かではあるが解釈がなされている。

辻村純代は未成人埋葬における畿内的特徴として、胎乳児が土器棺に埋葬されるのを除くと、未成人と成人の葬法は基本的に区別がない点、成人としては共通する副葬品を有し、赤色顔料の塗布など特

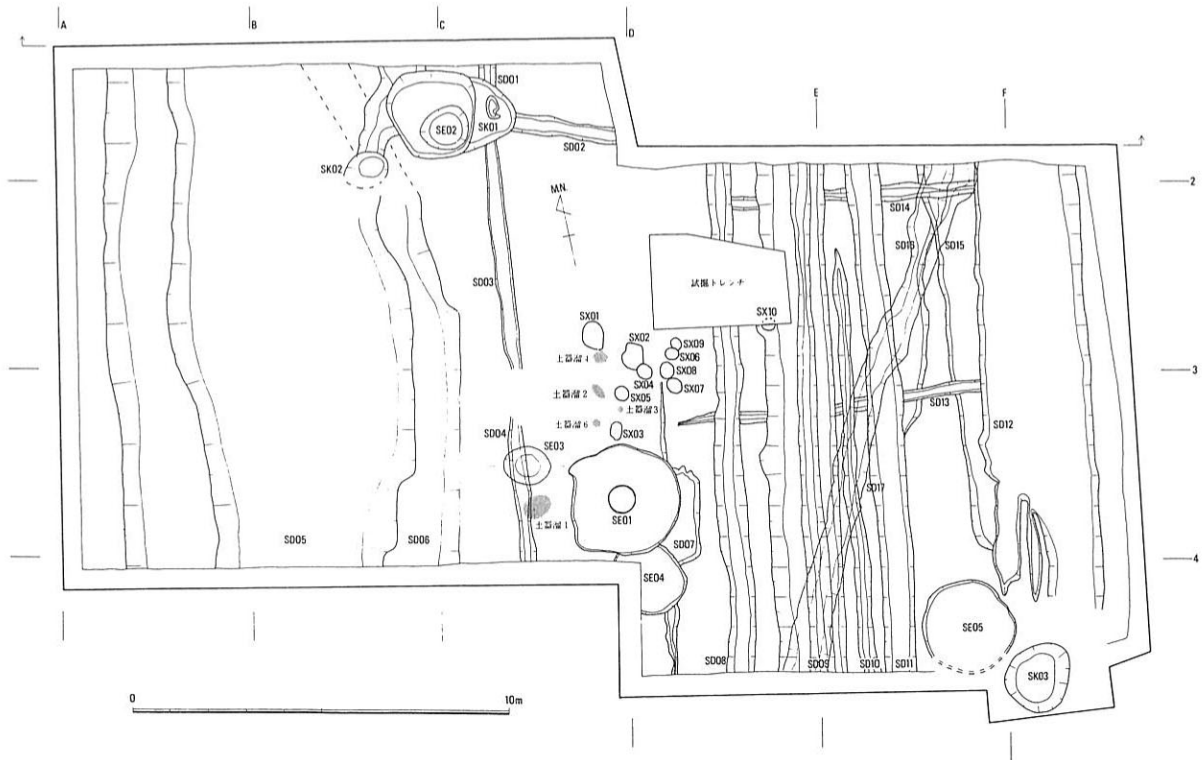
なる。弥生時代中期後葉は斜位の占める割合が圧倒的に多く、この傾向は弥生時代後期になっても引き続きみられる。ところが、古墳時代前期には横位が飛び抜けて増加し最も多くなる。

【副葬品】 府下の土器棺から副葬品が出土するのは、弥生時代中期後葉段階に限定される。高槻市安満遺跡では棺外に先端を歯潰しした磨製石剣1点を副葬した土器棺が検出された。





久宝寺遺跡方形周溝墓（降接型）（西村 1989）



萱振遺跡（隔離型）（大野編 1983）

図305 古墳時代前期における土器棺の二者

別な扱いを受けた幼児がいること。また、そうした特別の埋葬がおこなわれた成人骨は男性であるという点。前者は縄文社会的特徴であり、後者は九州社会と共通する一面を示していると考え（辻村 1993）。

瓜生堂遺跡 2 号方形周溝墓 1 号・4 号土器棺は他地域産の土器を棺身に使用しており、被葬者が他地域からの婚入者の「子供」であると考えられた。また木棺は成人、土坑墓が成人式前、土器棺が乳児・胎児という差を示していることが想定された（田代 1981, 都出 1986）。では、方形周溝墓と関係なく単独で埋葬された土器棺はどのように理解すればよいのだろうか。

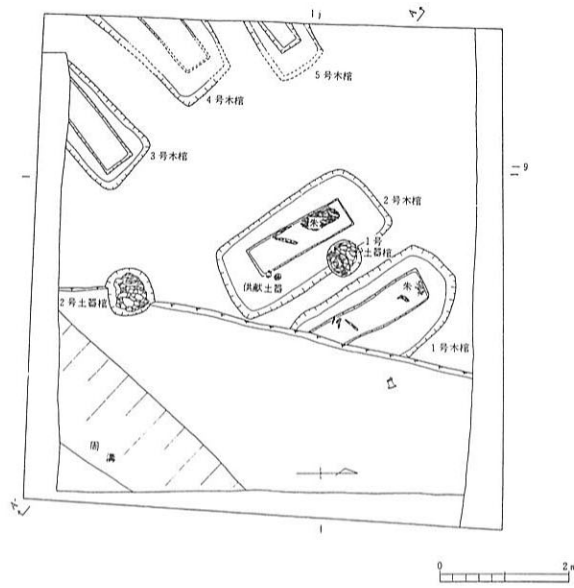
この問題を考えるうえで、傾聴に値する説がある。芋本隆裕は西之辻遺跡・鬼虎川遺跡の例では、壺を棺身とする場合には胎児が、甕を棺身とする場合には乳児が葬られたことを指摘し、棺に用いられる土器の器種の違いには遺体のサイズと関係すると考えた。また、これらの土器棺がいずれも旧河道付近から発見されていることから、早産や死産あるいは生後間もなく死亡した乳児などは、集落構成員の墓域には埋葬せず意識的に川岸に葬られた可能性があるとした（芋本 1992）。今回検討した結果からも、弥生時代中期後葉段階では棺身に壺でなく甕を使用するもの、壺のみの単棺であるものが多いことを指摘したが、弥生時代中期に甕が多く、弥生時代後期になると壺が多くなる傾向は瀬戸内地方と共通している。棺身の器種の差は、芋本のいうように年齢差・遺体のサイズと深く関係しているの可能性は高い。しかし、弥生時代後期段階では、甕の棺身への採用が減少することに伴い、壺が棺身の主体となる。これは年齢差による棺の使い分けの原理が衰退し、壺の口頸部を打ち欠くことに意味が付加されるのではないかと考える。つまり、胎児も乳幼児も壺を棺身としたものへ埋葬されるようになるのではないか。

芋本のこの説は、基本的に弥生時代中期の方形周溝墓は家族墓であるという説に立脚してのものであるだろうが、ここで重要なのは、土器棺単独で存在する事例に対して、はじめて解釈を試みたことである。しかしながら、方形周溝墓の方台部に埋設された土器棺と単独の土器棺墓の意味については説明されていない。では方形周溝墓に埋設された遺体は、はたして本当に家族という関係にあったのだろうか。この点については異論もある。

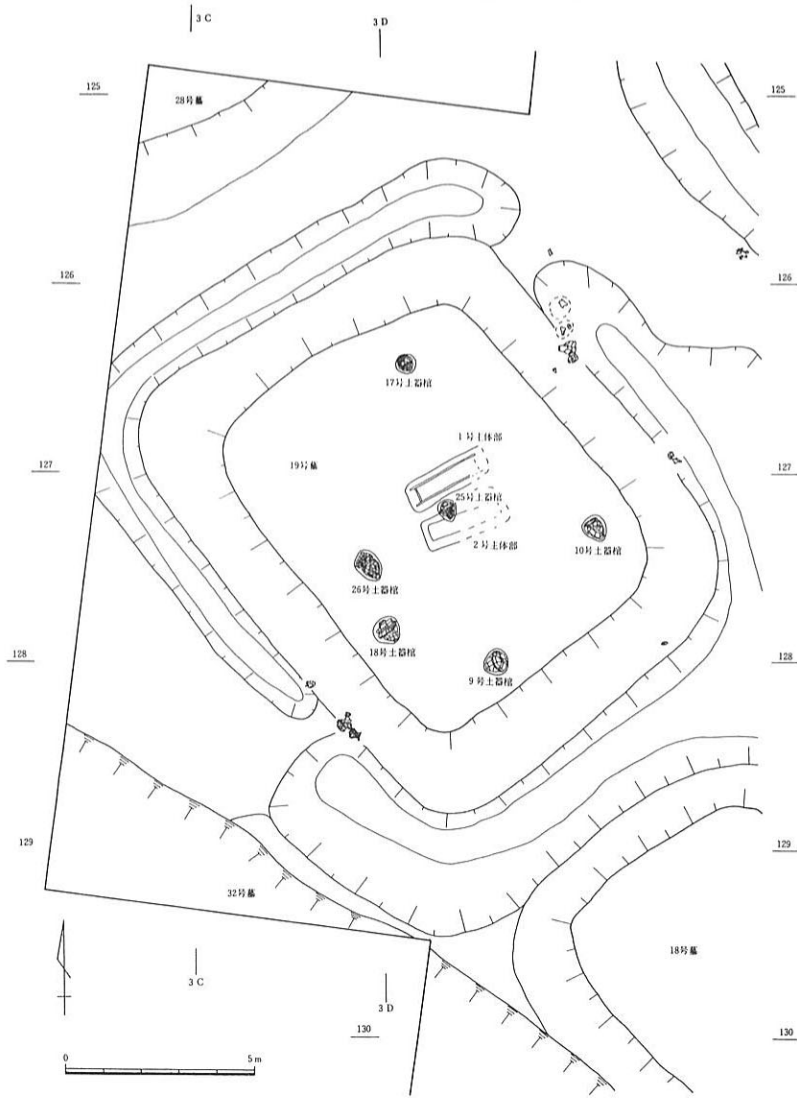
大村 直は南関東地方における、土器棺を分析し、胎児、乳幼児埋葬が埋葬方法、埋葬空間において、小児以降とは年齢的に分離される可能性と、土器棺埋葬がかならずしも一般的ではなかった可能性を想定した。また、少数の土器棺を根拠として、方形周溝墓が「家族墓」であることを主張することに対して疑問を投げかけて、方形周溝墓も厳密に述べれば、葬制における集団原理にしかすぎない考える（大村 1991）。大村が指摘した土器棺の方形周溝墓方台部への埋葬の少なさは、畿内地方でも数遺跡で限定的にしかみられないという点で妥当である。大阪府下の土器棺の検討結果からは、方形周溝墓が家族墓であるとは断定できず、葬制における集団原理と理解しておくことが適切ではないか。

いずれにせよ、土器棺の数の少なさは当時の胎児・早世した乳幼児全てが土器棺に葬られたのではないことを示している。これは、死亡原因、死亡した環境、日時などが、特殊な場合や特別意味が付加された場合にのみ土器棺に埋葬されたと考えるのが妥当ではなかろうか。

以上のような憶測に基づいて、各時期の土器棺葬の変化を意味を考えてみよう。弥生時代中期後葉には方形周溝墓に伴う土器棺と、単独のもの二者があるが、方形周溝墓を家族墓でないとすると前者は隣接型土器棺、後者は隔離型土器棺として類型化できよう。大阪府下では、隣接型・隔離型は弥生時代前期の段階から存在しており（角南 1999a）、土器棺の埋葬位置は階層性と考えたよりも、葬制の系譜の差ととらえる方が説得力がある。隣接型土器棺の中で、注目すべきは、大阪市城山遺跡 19 号方形周溝



亀井遺跡 ST0101 (広瀬ほか 1986)



城山遺跡 19号方形周溝墓 (杉本・岩瀬 1986)

図306 木棺を切って埋葬された土器棺

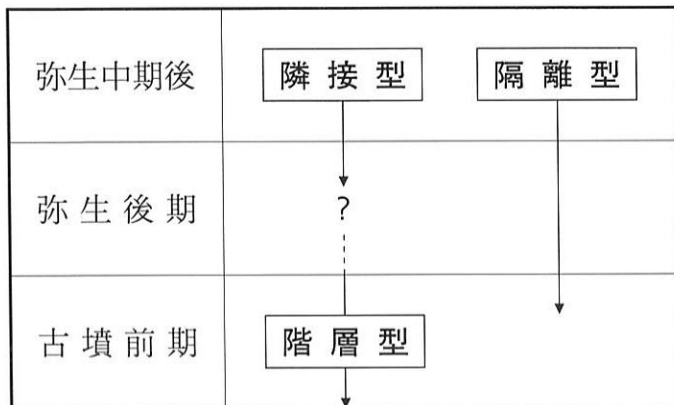


図307 土器棺類型の消長概念モデル

の間に生前に直接的に取り結ばれた社会関係が存在しなかった可能性があること、後者の葬送の執行者が、古い墓葬の被葬者の生前の事跡を直接には知らなかった場合があることを推定した。このことから、特定祖霊に関する『記憶』がある種の『資源』として、葬送行為において動員されたであろうとの解釈を導き出した（溝口 1995）。この解釈を畿内の木棺と土器棺の関係に援用するならば、両者が血縁関係であると断定することは危険であり、血縁関係以外を想定することも可能である。つまり、弥生時代中期に限定するならば、北部九州地方の甕棺二列埋葬が、甕棺墓という一つの墓制中に「大人」用甕棺、「子供」用の土器棺という別の葬制が隣接しているとも理解できる。近畿地方では方形周溝墓という一墓制中に、「大人」用の木棺、「子供」用の土器棺という別の葬制が隣接しているといえよう。また畿内地方ではほとんど、平地に埋設された木棺墓や土坑墓に隣接して土器棺墓は立地しない。土器棺墓は単独もしくは土器棺墓のみ立地する。

これまでの方形周溝墓は、周溝やマウンドに留意した解釈が先行した感が否めない。翻って「大人」と「子供」の葬制の違いに注目してみると、畿内地方の方形周溝墓に伴う土器棺のポジションは、北部九州地方の甕棺墓に伴う転用土器棺の在り方と類似していることがわかる。これとは別に、畿内地方では「大人」の墓に隣接しないで、土器棺墓のみで「子供」を葬る場合もある。このような、畿内地方で二つの「大人」と「子供」の埋葬位置が異なる墓制は、先にも述べたように弥生時代前期からすでに存在しているようである。その差異の背景としては、墓に埋葬された被葬者の帰属する集団の系譜が異なっていたものと考えられる。

弥生時代後期になると、副葬品の在り方等からも、従来から指摘されるように方形周溝墓の意味自体が変容し、階層的な様相を伴う墓制となる。この段階でも大阪府下では方形周溝墓の方台部に土器棺が埋設されることが僅かながらみられる。この土器棺が果たして、階層的秩序に則ったものであるかどうかは不明である。しかし、古墳時代前期の段階に古墳墳丘に埋設される土器棺は確実に弥生時代中期後葉のものとは質的に変化しており、土器棺葬の意味が変容したことを物語っている。これらの議論を踏まえて、最後に畿内地方の埋葬された「子供」についてのモデルを作成し説明してみよう（図297）。隔離型土器棺は、「子供」の墓たる土器棺が「大人」の墓たる木棺墓・土坑墓と明確に区別されて埋葬されており、この類型は弥生時代後期、古墳時代前期にも存続している。

隣接型土器棺は、弥生時代後期に著しく減少し、古墳時代前期にも若干存在する。この間に土器棺の意味は大きく変容し、古墳時代前期のものは階層型土器棺とも呼ぶべき階層原理に沿った「子供」の墓として埋設されたと考えられる。

墓25号土器棺、八尾市成法寺遺跡2号土器棺、八尾市亀井遺跡 ST0101 1号土器棺などのように、「大人」埋葬施設である木棺の墓坑を切って土器棺が埋設されたものがあることだ（図296）。

北部九州地方でも甕棺を切って甕棺や土器棺が埋設される場合があるが、福岡県甘木市栗山遺跡C群墓域を分析した溝口孝司は、古い被葬者の死亡時の、それに挿入される新しい墓葬の被葬者の年齢推定から、後者と前者

## 第5項 おわりに

溝咋遺跡の土器棺墓を契機に、大阪府下の弥生時代中期後葉～古墳時代前期の土器棺を集成し、検討を試みた。この結果によれば、溝咋遺跡の土器棺墓はいずれも土器棺墓のみ単独に立地しており、隔離型の土器棺であるといえよう。土器棺墓1の棺身に使用された壺は、吉備地方もしくはその周辺からの搬入品であるが、この土器の故地では弥生時代後期段階では方形周溝墓は主流の墓制ではない。もしも、この棺に埋葬された「子供」が、この土器の故地からの移住者かその子供とするならば、この時期に吉備地方では隔離型の土器棺が多いことから、故地の墓制が反映されたとは考えられないだろうか。いずれにせよ、溝咋遺跡の土器棺墓資料は、弥生時代中期から後期への過渡期の資料であり、土器棺葬の変容を考えていくうえで貴重な資料であることに変わりはない。(文章中敬称略)

## 謝 辞

本稿作成にあたって、水野正好先生、酒井龍一先生の御指導を賜った。また、溝咋遺跡の調査担当者である合田幸美氏には、遺構・遺物に関して御教示を頂き、本稿執筆の機会を与えていただいた。そして、以下の方々にも御教示・御協力を得た。記して感謝します。忽那敬三、松田順一郎、松田朝由、三好孝一（順不同・敬称略）

## 註

- (1) 本稿では溝咋遺跡の土器棺墓の時期を、弥生時代後期初頭と捉えている。  
 (2) 土器棺・土器棺墓の諸属性については、前稿に基本的に従っている（角南 1999 a、1999 b、1999 c）。本稿で問題とする、その立地・棺の器種組成・埋葬状態についてあげておく。

## 《立地》

- A類－方形周溝墓・円形周溝墓と立地上関係するもの  
 A 1－方（円）形周溝墓の主体部として埋置されたもの  
 A 2－方（円）形周溝墓の溝内・溝底に埋置されたもの  
 A 3－方（円）形周溝墓に隣接して埋置されたもの  
 B類－土壙墓と立地上関係するもの  
 C類－墳丘墓と立地上関係するもの  
 C 1－墳丘墓の主体部として埋置されたもの  
 C 2－墳丘墓の盛土・墓壙内に埋置されたもの  
 D類－古墳と立地上関係するもの  
 D 1－古墳の主体部として埋置されたもの  
 D 2－古墳の墳丘隅に埋置されたもの  
 D 3－古墳の周溝内に埋置されたもの  
 D 4－古墳に隣接して埋置されたもの  
 E類－単一墓制（他の墓制と立地上関係しないもの）  
 E 1－単独  
 E 2－複数  
 F類－住居跡の覆土中・床下・周辺に埋置されたもの  
 G類－支石墓と立地上関係するもの  
 H類－箱式石棺墓と立地上関係するもの

## 《器種組成》

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| I類－棺身に壺を使用するもの   | II類－棺身に甕を使用するもの   |
| I 1－棺蓋に壺を使用するもの  | II 1－棺蓋に壺を使用するもの  |
| I 2－棺蓋に甕を使用するもの  | II 2－棺蓋に甕を使用するもの  |
| I 3－棺蓋に高杯を使用するもの | II 3－棺蓋に高杯を使用するもの |

- |                                     |                                   |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| I 4 - 棺蓋に鉢を使用するもの (台付鉢も含む)          | II 4 - 棺蓋に鉢を使用するもの (台付鉢も含む)       |
| I 5 - 棺蓋に石を使用するもの (板石・河原石等)         | II 5 - 棺蓋に石を使用するもの (板石・河原石等)      |
| I 6 - 棺蓋が無いもの (=単棺)                 | II 6 - 棺蓋が無いもの (=単棺)              |
| I 7 - 棺蓋が不明であるもの<br>(削平・攪乱などを受けている) | II 7 - 棺蓋が不明であるもの (削平・攪乱などを受けている) |
| I 8 - その他                           | II 8 - その他                        |

### Ⅲ類-土器蓋土坑墓

#### 《埋葬状態》

ほぼ直立なものを正位、墓坑に対して横に置かれているものを横位、棺が天地逆に置かれるものを逆位、それ以外を斜位とする。

(3) 前回の埋葬遺体の集成(角南 1999b)では、亀井遺跡からの2例(高島ほか 1983、杉本・岩瀬 1986)を見落としていたことに気付いたので、ここで補っておく。

(4) 方形周溝墓の場合は、墓域を区画した痕跡としての明瞭な周溝が、遺構として検出される。しかし、甕棺墓の場合は墓域を区画したであろうものが考古学的に遺存していない。このため同一の場に「子供」を葬った転用土器棺が存在していても、甕棺と転用土器棺を同一の墓制として捉えることができない。そのため、現状では「甕棺墓」、「土器棺墓」という別の墓制として表現している。

#### 引用・参考文献

- 芋本隆裕 1992 「谷内で検出された壺棺墓・甕棺墓について」『西之辻遺跡第23次発掘調査報告』東大阪市教育委員会・(財)東大阪市文化財協会
- 大村 直 1991 「方形周溝墓における未成人中心埋葬について」『史館』23
- 岸本一宏 1987 「畿内弥生社会構造に関する一考察」『文化史論叢』上 創元社
- 佐原 真 1968 「畿内地方」『弥生式土器集成本編』2 東京堂出版
- 清水真一 1998 「西日本の土器棺」『弥生人のタイムカプセル』福岡市博物館
- 角南聡一郎 1997 「西日本における畿内系甕製作技術の展開」『奈良大学大学院研究年報』2 奈良大学大学院
- 角南聡一郎・山内基樹 1998 「兵庫県下の土器棺・土器棺墓」『播磨大中遺跡』播磨町教育委員会・奈良大学文学部考古学研究室
- 角南聡一郎 1999a 「初期区画墓と土器棺墓」『古川遺跡』門真市教育委員会
- 角南聡一郎 1999b 「西日本の土器棺墓と埋葬遺体」『奈良大学大学院研究年報』4 奈良大学大学院
- 角南聡一郎 1999c 「土器棺の副葬品」『文化財学報』17 奈良大学文学部文化財学科
- 曾我恭子 1972 「土器」『瓜生堂遺跡資料編』瓜生堂遺跡調査会
- 田代克己 1981 「まとめ」『瓜生堂遺跡』Ⅲ 瓜生堂遺跡調査会
- 田中清美 1986 「近畿弥生社会の墳墓」『早良王とその時代』福岡市立歴史資料館
- 田中清美 1988 「弥生時代前・中期における穿孔・打ち欠きのみられる土器について」『考古学論集』2 考古学を学ぶ会
- 田中良之 1998 「出自表示論批判」『日本考古学』5 日本考古学協会
- 辻村純代 1993 「古代日本における子供の帰属」『考古論集』潮見浩先生退官記念事業会
- 都出比呂志 1970 「農業共同体と首長権 階級社会の日本の特質」『講座 日本歴史』1 東京大学出版会
- 都出比呂志 1986 「墳墓」『岩波講座 日本考古学』4 岩波書店
- 寺沢 薫・森井貞雄 1989 「1 河内地域」『弥生土器の様式と編年 近畿編』木耳社
- 春成秀爾 1985 「弥生時代畿内の親族構成」『国立歴史民俗博物館研究報告』5 国立歴史民俗博物館
- 藤田 等 1988 「北部九州における弥生時代未成人埋葬について」『日本民族・文化の生成』1 六興出版
- 溝口孝司 1995 「福岡県甘木市栗山遺跡群墓域の研究」『日本考古学』2 日本考古学協会
- 三好孝一 1998 「河内地域の中期末から後期初頭の土器」『みずほ』26 大和弥生文化の会
- 三好孝一 1999 「河内湖周辺における弥生時代中・後期の集落」『第45回 埋蔵文化財研究集会』埋蔵文化財研究会

#### 【土器棺関係文献】

- 赤井毅彦 1998『東山遺跡発掘調査報告書』河南町教育委員会；浅岡俊夫編1998『下田遺跡』下田遺跡調査団・六甲山麓遺跡調査会；泉本知秀 1980『高屋城跡発掘調査概要』Ⅳ大阪府教育委員会；井上直樹 1990「東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区」『平成元年度発掘調査概報』茨木市教育委員会；井上直樹 1988「東奈良

遺跡(87-2) H・N H-5-1・M地区』『昭和62年度発掘調査概報』I 茨木市教育委員会：今村道雄ほか  
 1981『瓜生堂遺跡』Ⅲ 瓜生堂遺跡調査会：芋本隆裕編 1992『西之辻遺跡第23次発掘調査報告』東大阪市教育委員会・(財)東大阪市文化財協会：岩崎二郎ほか 1980『瓜生堂』(財)大阪文化財センター：岩崎二郎・岩瀬 透 1981『川北遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会：大船孝弘 1980『嶋上郡衙他関連遺跡発掘調査概要』4 高槻市教育委員会：大船孝弘 1985『嶋上郡衙他関連遺跡発掘調査概要』9 高槻市教育委員会：大野 薫編 1983『萱振遺跡発掘調査概要』I 大阪府教育委員会：岡田清一 1997「Ⅲ 神宮寺遺跡」『八尾市文化財調査研究会報告』57 (財)八尾市文化財調査研究会：岡本敏行ほか 1985『美園』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター：近江俊秀編  
 1989『亀井遺跡』(財)八尾市文化財調査研究会：尾上 実 1981『東阪田遺跡—1979年度第4区の調査—』大阪府教育委員会：尾上 実・岡本敏行 1986『大里遺跡発掘調査概要』Ⅱ 大阪府教育委員会：奥 和之・山上 弘 1986『亀井北(その1)』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター：小野久隆ほか 1986『亀井北(その2)』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター：勝田邦夫ほか 1984「1 瓜生堂遺跡」『(財)東大阪市文化財協会年報1983年度』(財)東大阪市文化財協会：川端博明 1998『耳原遺跡・五日市遺跡』名神高速道路内遺跡調査会：北野重 1993『本郷遺跡 1991・1992年度』柏原市教育委員会：北野俊明編 1986『鈴の宮』Ⅴ 堺市教育委員会：桑野一幸 1987『安堂遺跡1986年度』柏原市教育委員会：小林義孝 1983『甲田南遺跡発掘調査概要』Ⅲ 大阪府教育委員会：小林義孝 1985『甲田南遺跡発掘調査概要』Ⅴ 大阪府教育委員会：(財)大阪市文化財協会編 1985「吉内邸新築工事に伴う長原遺跡発掘調査(NG83-63)略報」『昭和58年度大阪市埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』大阪市教育委員会・(財)大阪市文化財協会：阪田育功 1984『萱振遺跡発掘調査概要』Ⅱ 大阪府教育委員会：白石耕治編 1991『池田下遺跡』和泉丘陵内遺跡調査会：杉本二郎・岩瀬 透ほか 1986『城山(その1)』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター：曾我恭子ほか 1972『瓜生堂遺跡 資料編』瓜生堂遺跡調査会：曾我恭子ほか 1973『瓜生堂遺跡』Ⅱ 瓜生堂遺跡調査会：曾我恭子ほか 1994『西ノ辻遺跡第27次・鬼虎川遺跡第32次発掘調査報告書』(財)東大阪市文化財協会：大楽康宏ほか 1986『亀井北(その3)』(財)大阪文化財センター：高島 徹ほか 1980『亀井・城山』(財)大阪文化財センター：高島 徹ほか 1983『亀井』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター：高野 学ほか 1989「喜志遺跡」『古市遺跡群』Ⅹ 羽曳野市教育委員会：高野 学・小嶋 亮 1992「1 駒ヶ谷遺跡の調査」『羽曳野市駒ヶ谷地区埋蔵文化財試掘調査報告書』羽曳野市教育委員会：高萩千秋 1991「Ⅰ 久宝寺遺跡(第5次調査)」『八尾市埋蔵文化財調査会報告』32 (財)八尾市文化財調査研究会：高萩千秋 1994「ⅩⅣ 東郷遺跡(第43次調査)」『八尾市文化財調査研究会報告』42 (財)八尾市文化財調査研究会：田代克己 1959「茨木市上穂積出土の弥生式壺棺」『古代学研究』21・22 古代学研究会：田代克己ほか 1971『瓜生堂遺跡』中央南幹線内西岩田瓜生堂遺跡調査会：田中清美ほか 1991『池田寺遺跡Ⅳ』大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会：辻本 武 1987『雁屋遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会：坪田真一 1992「Ⅲ 竹淵遺跡」『八尾市文化財調査研究会報告』55 (財)八尾市文化財調査研究会：坪田真一 1993「Ⅱ 小阪合遺跡(第19次調査)」『八尾市文化財調査研究会報告』41 (財)八尾市文化財調査研究会：中辻 巨編 1986『喜志西遺跡発掘調査概要』富田林市教育委員会：中西克宏 1986『久宝寺遺跡発掘調査報告』(財)東大阪市文化財協会：西川寿勝 1997『池上曾根遺跡発掘調査概要—池上下宮線建設に伴う調査Ⅰ—』大阪府教育委員会：西田敏秀ほか 1980『星ヶ丘西遺跡』枚方市文化財年報』18 (財)枚方市文化財研究会：西村公助 1989「6 久宝寺遺跡(第3次調査)」『八尾市文化財調査研究会報告』25 (財)八尾市文化財調査研究会：西村健司 1995「5 田口山遺跡(第18次調査)」『枚方市文化財年報14(1992年度分)』(財)枚方市文化財研究調査会：橋本久和・川村雪絵 1998「嶋上郡衙跡の調査(1)」『高槻市文化財年報 平成8年度』高槻市教育委員会：浜野俊一・中東正之 1991「東奈良(90-1) HN G-7-C・G・K地区」『茨木市埋蔵文化財発掘調査概要平成2年度』茨木市教育委員会：広瀬和雄ほか 1986『亀井(その2)』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター：藤井直正ほか 1972『勝部遺跡』豊中市教育委員会：藤沢真依 1990『史跡池上曾根遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会：松宮昌樹 1997「Ⅱ 瓜生堂遺跡第42次発掘調査概報」『東大阪市埋蔵文化財発掘調査概要—1995年度調査(1)—』(財)東大阪市文化財協会：三宅正浩 1990『土師の里遺跡 盾塚・珠金塚・鞍塚古墳他発掘調査概要』Ⅰ 大阪府教育委員会：三好孝一ほか 1995『巨摩・若江北遺跡発掘調査報告』(財)大阪文化財センター：森井貞雄 1989『1988年度 亀井遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会：森井啓次 1997「招提中町遺跡(第33次調査)」『枚方市文化財年報』18 (財)枚方市文化財研究会：森 茂編 1993『万町北遺跡』Ⅰ 和泉市丘陵内遺跡調査会：森田克行 1988「59 芝生遺跡」『昭和59・60年度 高槻市文化財年報』高槻市教育委員会：山上 弘編 1997『総持寺遺跡発掘調査概要』Ⅱ 大阪府教育委員会：山上 弘 1989『成法寺遺跡発掘調査概要』Ⅳ 大阪府教育委員会：米田敏幸 1985「2 恩智遺跡の調査」『八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書』八尾市教育委員会：米田敏幸 1987「中田遺跡発掘調査概要」『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書』Ⅱ 八尾市教育委員会

## 第4節 被籠状突帯壺について — 茨木市溝咋遺跡出土の資料に接して —

(財)元興寺文化財研究所 角南聡一郎

### 第1項 はじめに

1999年3月2日、(財)大阪府文化財調査研究センター北部調査事務所にて、茨木市溝咋遺跡出土資料を実見させていただく機会があった。この遺跡は、古墳時代初頭の集落で、その特徴として外来系土器が多くみられる点が第一にあげられる。当日は、外来系土器を中心に資料を実見・熟覧させていただいたが、中でも胴部に突帯を付した壺(1370)は、以前から関心があった遺物であるが、実見するのは神奈川県山王山遺跡資料に次いで二度目であった。当資料の存在は既に山田隆一によって紹介されている(山田 1998)。2A-2区溝120からの出土で、共伴した遺物の年代観から、当資料は弥生時代終末～古墳時代前期と考えられる<sup>1)</sup>。

そこで本稿では、この「特殊な壺」について、筆者がここ数年収集してきた資料をあげ、溝咋遺跡出土資料の位置付けを試みたい。またこの「特殊な壺」をめぐる筆者の仮説を提示し、今後の祭祀土器研究のための礎としてみたい。

### 第2項 被籠状突帯壺とは

1968年、神沢勇一によって、神奈川県横浜市城郷中学校遺跡から出土した、胴部に縦・横方向に突帯を貼付した弥生時代後期の壺が紹介された(神沢 1968)。ここで神沢は、この突帯は土器に付した籠状の編物を模したようであるとしている。これが恐らく、この種の土器がはじめて考古学界に紹介されたものである。続いて村田文夫は、神奈川県川崎市久地伊屋之免古墳出土のこの種の壺について紹介し、その名称を「縦位・横位の突帯文を有する土器」とし、はじめて8例の類例を集成した(村田 1987)。この集成によれば、分布は駿河から東南北部まであり、例の多いのは関東地方である。消長は弥生時代後期に出現し、古墳時代中期前半までは存在しているようである。その故地については、神沢勇一からの教示として東海地方の弥生時代後期伊場式に求め、主に黒潮海路によって伝播したのではないかとする。村田はその後、これらの土器を「縦位隆帯文」土器と呼び、河内の弥生中期後半の水差し、無頸壺に「縦位に隆帯」が付された資料も含めて考えた(村田 2000)。飯島克巳は、群馬県榛名町稲荷森遺跡住居跡出土のこの種の壺を紹介した。基本的器形は南関東から東海南部のものであるとし、外来系土器と位置付けている(飯島 1991)。この資料は底部は穿孔され、外面には赤彩が施されており、非日常的な色彩が濃い。続いて山田隆一は、溝咋遺跡出土資料を紹介した際、この種の土器を集成し12例を提示した。分布については、一部東北、駿河に分布を広げながら、広く関東地方に散在するのが現状であろうとしている(山田 1998)。

研究史を振り返ってみると、どうやらこの種の土器は、器形としては壺に限定されるが、統一名称を持たないようである。そこで、統一名称をここで与えてみよう。

胴部に貼付される突帯は、おそらく籠状の紐が壺に被せられている様子を模したものであると考えられる。弥生～古墳時代の土器の中には、籠状のもので包まれていた痕跡の認められるものがある。これらの土器は「被籠土器」、「籠目土器」などと呼ばれる。この種の土器を全国的に集成・検討した後藤信祐は、「籠目土器」とは本来、「籠目が残っている土器」のみを指しており、籠で被われている土器、籠で



被われていた痕跡の認められる土器の両者を「被籠土器」と呼んでいる（後藤 1989）。この用語の定義を支持するならば、今回問題としている土器の突帯は、被籠の状態を模倣したものであることから、「被籠状突帯」となる。この種の突帯を有するのは壺のみであることが研究史からも窺えることから、この種の土器をここでは「被籠状突帯壺」と呼んでみよう。

### 第3項 分布と消長

前述の山田隆一により、近年の資料はほぼ集成されたと言っても過言ではなかろう。ここでは、山田文献でもれていた資料を増補して一覧表を作成した（表36、図296～298）。この結果、管見にふれた被籠状突帯壺は17遺跡で計22例となった。

分布を見てみると、東は福島県～西は当遺跡まで広がっている。石川県金沢市新保本町西遺跡例の存在により、その分布は北陸にも広がっていることが確認できた。全体には南東北・関東・中部・東海といった東日本に事例が集中しており、溝咋遺跡例は西日本では初見となる。また、弥生時代後期段階の分布は静岡県・神奈川県域に多く、古墳時代になると北関東や南東北で事例が出現する。また、その出現は弥生時代後期後半で、古墳時代中期前半まで存在するようだ。

出土遺構をみると、弥生時代後期段階では墳墓からの出土は無いが、古墳時代に入ると墳墓からの出土が中心であることが看取できる。

形態は、二重口縁の壺である場合がほとんどであるが、静岡県伊場遺跡例のものは単純口縁を呈する。サイズは大きなものから小さいものまでである。群馬県貝沢柳町遺跡例や、山梨県榎田遺跡例のものは、いずれも底部に焼成前穿孔がある。

### 第4項 被籠状突帯壺の変遷と意味

次にこの被籠状突帯壺の変遷と意味について、現状では資料数の制約があるが考えてみよう。

先にみたように、被籠状突帯壺は弥生時代後期には集落内、特に住居跡でのみみられるが、古墳時代になると墳墓からの出土が目立つ。墳墓出土資料には底部焼成前穿孔と赤彩が施されることが多い。弥生時代には墳墓に供献される土器が焼成後穿孔されることが多いが、古墳時代になるとこれが形骸化し底部が焼成前に穿孔されるようになることは既に知られている。

表36 被籠状突帯壺出土資料一覧

No.	遺跡名	所在地	出土遺構	時期	備考	文献
1	龍門寺	福島県いわき市	第5号住居跡	古・中・前		廣岡ほか 1985
2	龍門寺	福島県いわき市	遺構外	古・中・前		廣岡ほか 1985
3	龍門寺	福島県いわき市	遺構外	古・中・前		廣岡ほか 1985
4	龍門寺	福島県いわき市	遺構外	古・中・前		廣岡ほか 1985
5	男壇	福島県会津坂下町	第1号周溝墓	古・前	外面赤彩	古川ほか 1990
6	安戸星1号墳	茨城県水戸市	くびれ部東側	古・前		茂木・塩谷編 1982
7	番後台	千葉県市原市	021号住居跡	弥・後・後		藤崎 1982
8	貝沢柳町	群馬県高崎市	1号方形周溝墓	古・前	パレススタイル壺・底部穿孔	久保ほか 1986
9	荒砥二之堰	群馬県前橋市	方形周溝墓	古・前		徳江編 1985
10	稲荷森	群馬県榛名町	5A住居址	弥・後・後	外面赤彩	飯島 1991
11	榎田	山梨県甲府市	第3号方形周溝墓	古・前	外面赤彩・底部穿孔	高野 1997
12	榎田	山梨県甲府市	第4号方形周溝墓	古・前	外面赤彩・底部穿孔	高野 1997
13	榎田	山梨県甲府市	第4号方形周溝墓	古・前	外面赤彩・底部穿孔	高野 1997
14	山王山	神奈川県横浜市	第21号住居址	弥・後・後		小川・河野・宍戸 1985
15	城郷中学校敷地	神奈川県横浜市		弥・後		神沢 1968, 1969
16	久地伊屋之免古墳	神奈川県川崎市	第1主体部西側	古・前		村田 1987
17	伊場	静岡県浜松市		弥・後・前		向坂・辰巳 1982
18	梶子	静岡県浜松市	SE02	弥・後・前	突帯剥離	鈴木 1991
19	雌鹿塚	静岡県沼津市	湧水遺構-1	弥・後・後		石川 1990
20	朝日	愛知県清洲町	包含層	弥・中・中～中・後		加藤編 1982
21	新保本町西	石川県金沢市	SK07	弥・末～古・初	胴部焼成後穿孔	楠 1992
22	溝咋	大阪府茨木市	溝120	弥・末～古・初		本報告

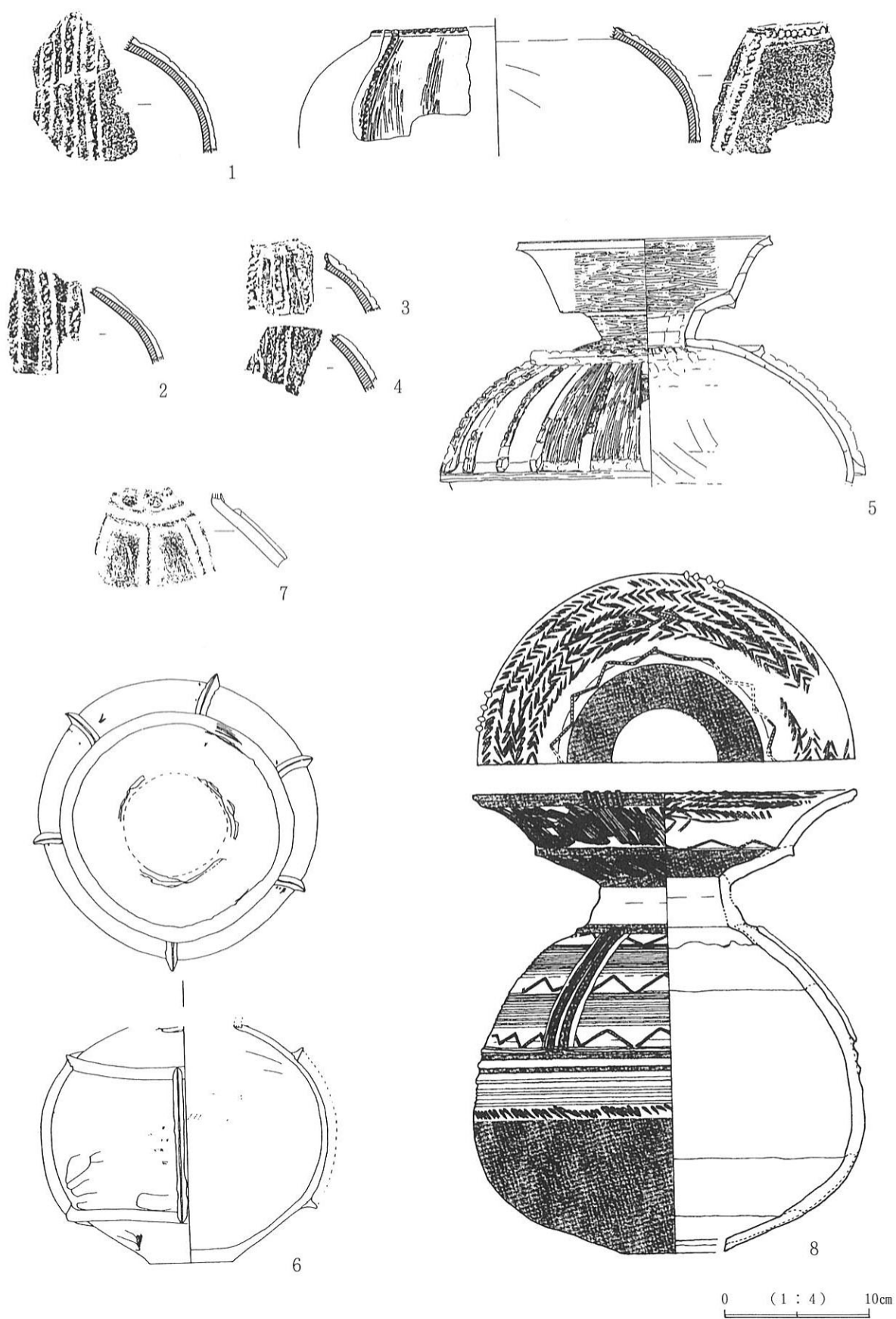


図308 被籠状突帯壺集成(1) (各文献より、No.は表36に同じ)

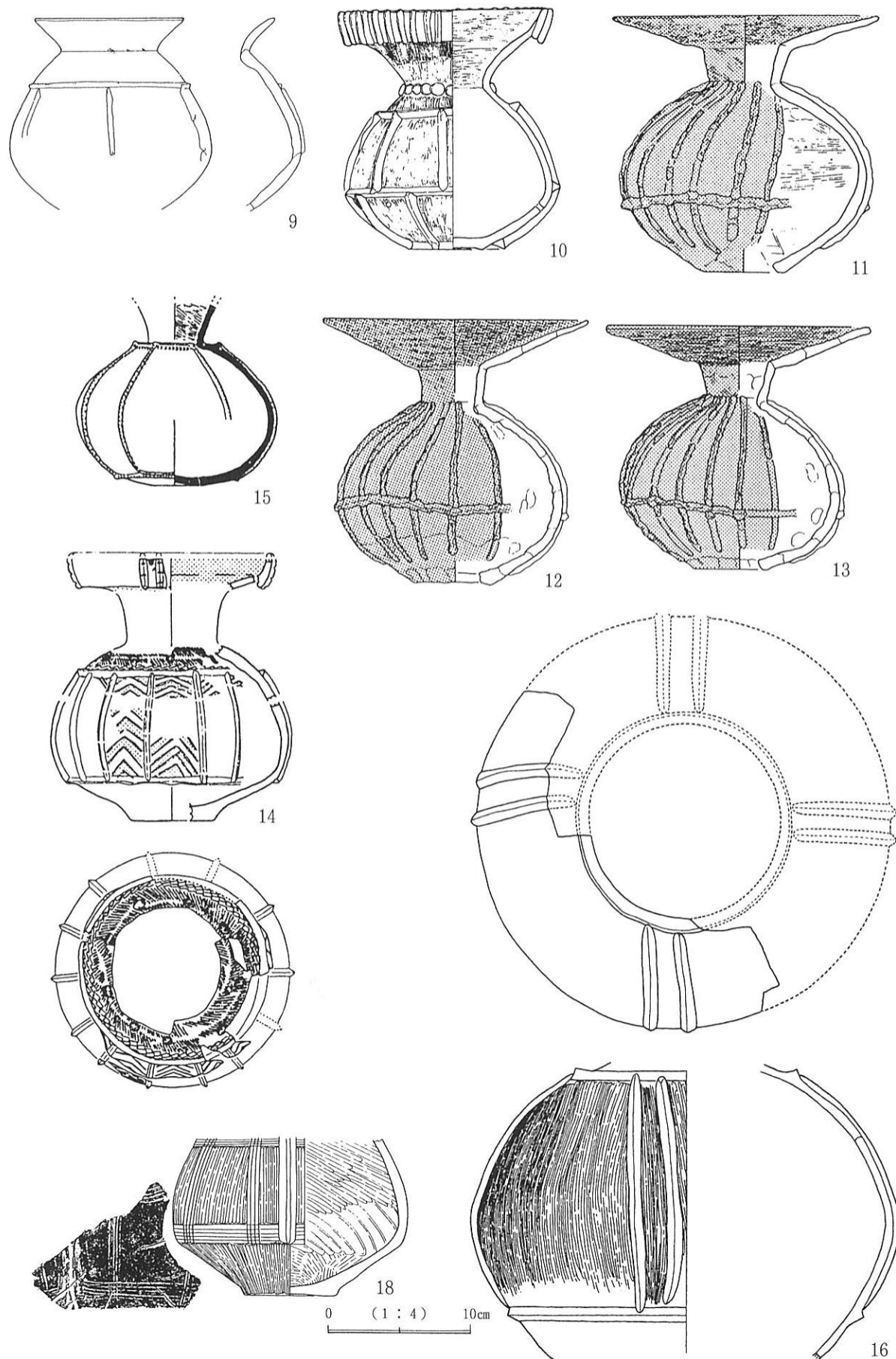


図309 被籠状突帯壺集成(2) (各文献より、No.は表36に同じ)

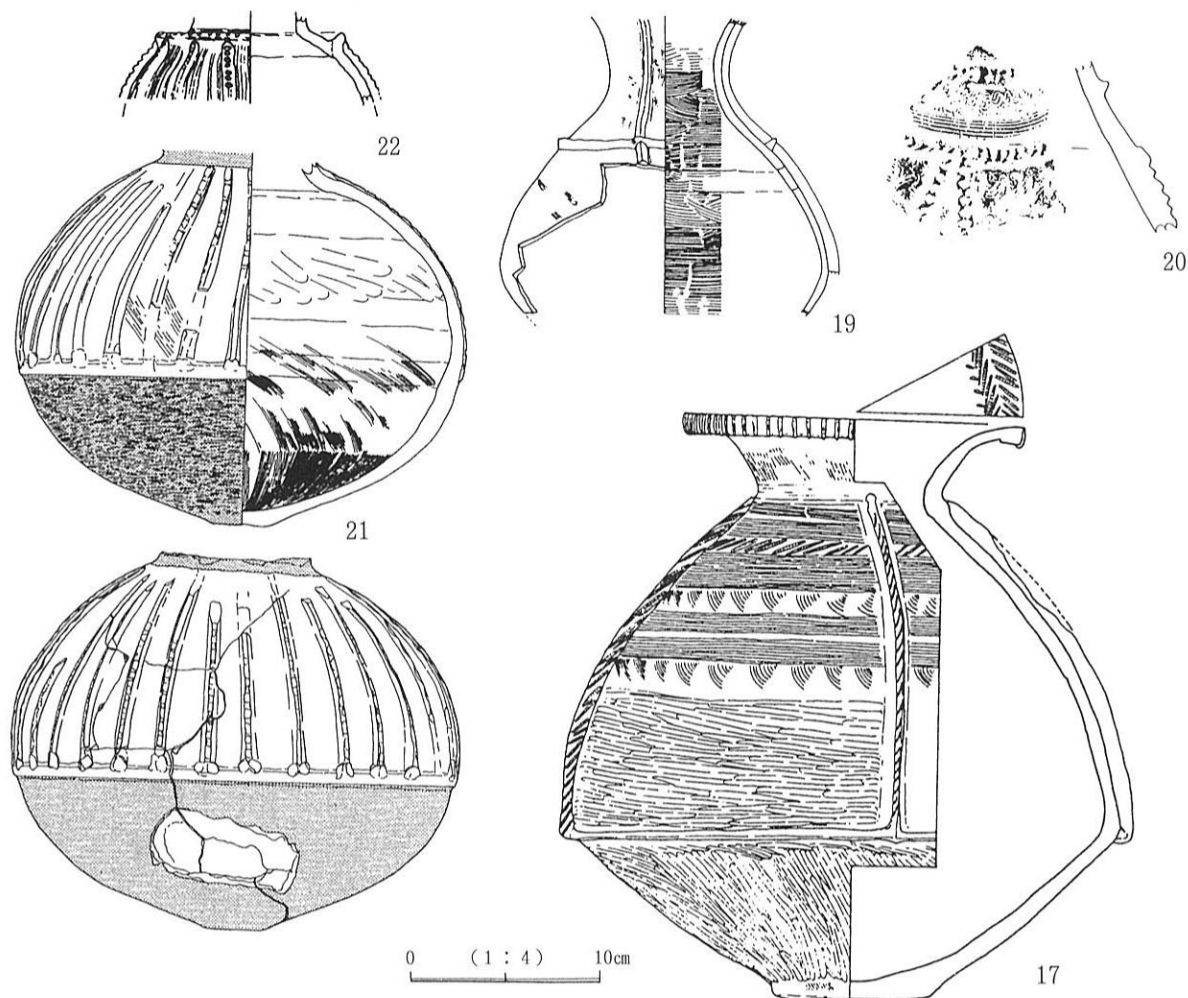


図310 被籠状突帯壺集成(3) (各文献より、No.は表36に同じ)

ここで示唆に富む事例として、石川県金沢市新保町西遺跡例がある。被籠状突帯壺は土坑 SK07から出土した。以下報告書から抜粋しながら概略をみていこう(楠 1992)。遺構の規模は1.33×1.29 mで、深さ90.92 mである。形状は略円形を呈し、底面には若干凹凸がある。底部直上南寄りに長径5～7 cmの小石が20個以上置かれていたかのような状態で出土した。出土遺物には土器と桃の種がある。土器は上位に高杯・器台があり、下位に被籠状突帯壺があった。壺は口頸部を打ち欠き、胴部下半が意図的に穿孔された状態で出土した。桃の種は計33.5個出土した。報告者はこの土坑の機能として、出土土器の器種組成が、壺・小型土器・高杯・器台等が多く、甕が少ないことから1. 素堀の井戸、2. 祭祀行為後のかたづけをおこなった祭場、3. 貯蔵穴の三つの可能性を提示している。また出土土器の時期として、漆町編年の6群を考えている(田嶋 1986)。これは畿内では庄内II式期前後に相当し、弥生時代終末～古墳時代初頭と考えられる。ここで一旦、本題とは離れて被籠状突帯壺の原型と考えられる被籠土器の機能、意味についてみておこう。前述の後藤信祐は被籠土器の出土遺構として大きく以下の6つに分けられるとする(後藤 1989)。1. 竪穴住居跡、2. 土器棺、3. 方形(円形)周溝墓、4. 土坑、5. 溝、6. 自然河道。2～6の最終出土状況からは被籠土器本来の意味を推定することは難しいとしながらも、儀礼により供献されたり廃棄されたものが多いことを示している(後藤 1989)。また、1については、籠で被って多の壺と区別するという特殊性から、種籾保存用の壺や稲粃運搬用の壺である可能性が高いとした。

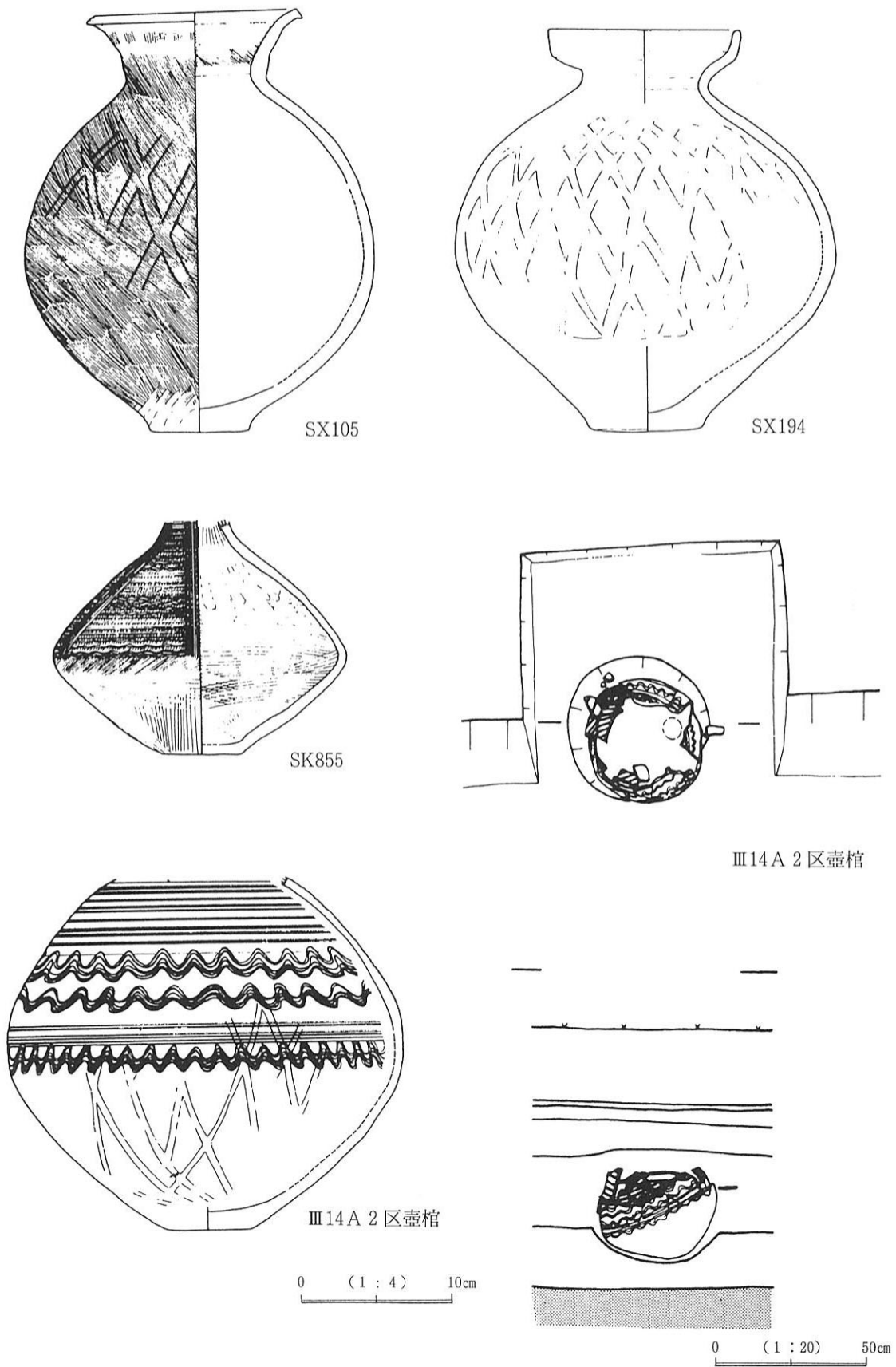


図311 朝日遺跡の被籠というデザイン（加藤編 1982より）

ところで、前述したように被籠状突帯壺は古墳時代になると墓からの出土が多くなる。被籠土器の場合、墓と関係した事例はどうだろう。後藤の集成した例では、土器棺や周溝墓からの出土例はどうやら東日本で多く見られるようだ。一例をあげると愛知県清洲町朝日遺跡では(図299)、被籠状突帯壺も出土しているが、方形周溝墓の周溝墓 SX105及び SX194から山中式期の被籠土器も出土しており、これらは周溝墓への供献土器であった可能性が高い(加藤編 1982)。また、Ⅲ14 A 2区壺棺は高蔵式期の広口壺を使用しており、単独で立地している。この土器棺の棺身には被籠の痕跡が認められる(加藤編 1982)。以上のことから、弥生時代中期末から後期前半にかけて、被籠土器が墓への供献土器や「子供」用の棺として意識的に使用される場合があったことが窺える。また、弥生時代後期前後の東海地方には、被籠土器をモデルとしてデザインされたかのような壺が存在している。SK855出土の資料がそうである(図299)。つまり、朝日遺跡では弥生時代中期中葉～後葉にかけて、壺を実際に籠状に被ったものを特殊な用途として使用したり、この影響からか被籠というデザインで壺を飾ったりしている様子が窺える。

一方、群馬県貝沢柳町遺跡1号方形周溝墓から出土した被籠状突帯壺は、東海系パレススタイル壺の範疇で捉えられるものである。そこで想起されるのが前述の朝日遺跡である。筆者は以下のように考えてみた。朝日遺跡付近で被籠土器から被籠状突帯壺への転化が生じ、それが東海系土器の動きと連動して群馬県へと波及した、とすると納得がいく現象である。

更に古墳時代にも興味深い「被籠」のデザインと考えられる事例が存在する。岐阜県垂井町に所在する親ヶ谷古墳は、全長85mの古墳時代前期の前方後円墳である。この古墳からの出土品のうち石製壺がある。この壺は二重口縁を呈し、胴部外面は29ヶ所の匙面によって構成されている(東海古墳文化研究会 1988、図300)。この匙面をわざわざ施すというデザインは一体何に由来したものなのだろう。一つの可能性を提示してみると、これは本来、壺が被籠された状態を模倣したものではないかと思われる。つまり被籠土器が石製へと材質転化されたもの、とは考えられないであろうか。

また、籠の編み方について注目してみたい。被籠状突帯壺の突帯は、全て縦方向と横方向に貼りつけられており、被籠土器にみられるような斜め方向のものは存在していない。後藤信祐による被籠土器の籠の編み方の分類によると、縦横方向によるⅠ類、「頸部と胴部下半に2本の蔓をより合わせて水平に

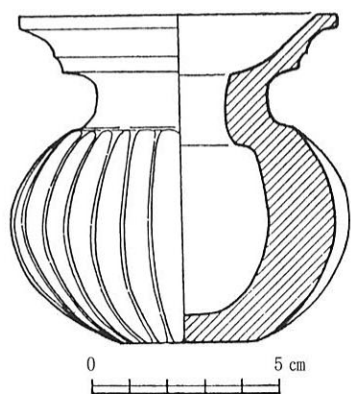


図312 親ヶ谷古墳出土石製壺  
(東海古墳文化研究会 1988より)

めぐらし、別の一本の蔓で、これらを交互に引懸けて折り返しながら土器にそって縦方向にとりつけていき、そのあと上下両帯の間を2本の蔓でさきの縦帯をより込みながら水平にとおした横帯を入れたもの」とされるものである(後藤 1989)。被籠状突帯壺にⅠ類に相当するものしか存在しないのは、たまたまそうなったとは考えにくく、Ⅰ類の被籠をする壺の使われ方と深く関係していると思われる。つまり、Ⅰ類の壺は特別な用途として使われており、これを模倣することで被籠状突帯壺には祭祀用の土器としての意味が更に付加されたのではなかろうか。

以上のことを要約すると、弥生時代後期前半段階までは、被籠土器を集落内での祭祀に用いる場合と墳墓の祭祀に用いる場合の両者が存在した。このような状態は古墳時代前期までは、ある程度継続して認められる。次に弥生時代後期後半段階には、被籠土器を模倣した被籠状突帯壺が出現する。この段階ではこの種の土器が、祭祀的に使用されたかどうかは明らかになっていない。更に被籠状突帯壺は弥生時代終末～古墳時代初頭には、

主に集落内で祭祀的に使用されていたようだ。古墳時代前期にはこれに墳墓での祭祀的使用が顕著になる。

被籠状突帯壺と類似した祭祀的性格が想定されるものとして、三連S字甕がある。三連S字甕は小型のS字甕三個が焼成前の段階から連結して製作されたもので、これまでに神奈川県平塚市御所ヶ谷遺跡の円形周溝墓、静岡県富士宮市中向原遺跡、長野県松本市石行遺跡2号住居跡、滋賀県能登川町斗西遺跡SD02-5等、5例が知られる(図301)。

これと関係して、岐阜県大垣市曾根八千町遺跡の古墳時代前期の木棺墓SX02には、下半部焼成後穿孔された3個体のS字甕があたかも三連S字甕を連想させるような状態で供献されていた(鈴木 1997、図302)。このことはつまり、煮炊具としての甕が、墳墓祭祀や集落内祭祀に用いられ、甕を三個体並べて置くことに何らかの意味があった。古墳時代になって、この行為が小型化した甕でおこなわれるように、そのイレギュラーな形状として三連S字甕が製作され使用される場合もあったのではなかろうか。いずれにしても、本来の甕としての機能からはかけ離れたものとして使用されている。

ここで被籠状突帯壺を祭祀と関係した遺物であると仮定し、弥生時代から古墳時代への過渡期で生成された特殊なものであると捉えるならば以下のプロセスが想定できる。生成のモデルを提示してみよう。弥生時代の稲作主体の農耕社会とともに誕生した被籠土器は、種籾保存用の壺及び稲籾運搬用の壺である場合が多かった。当初はどうであったか不明だが、やがて被籠という行為にはその内容物が、他の壺

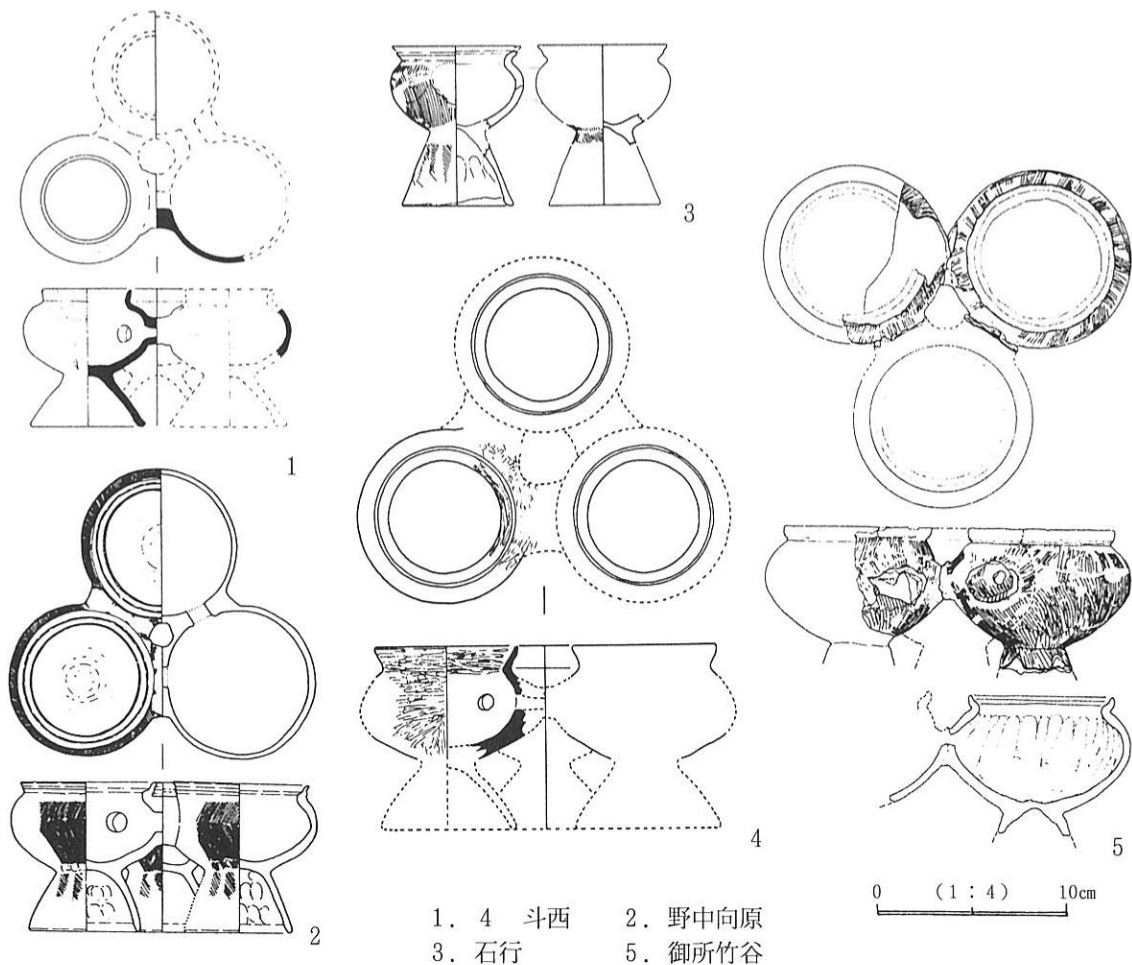


図313 三連S字甕集成(各文献より)

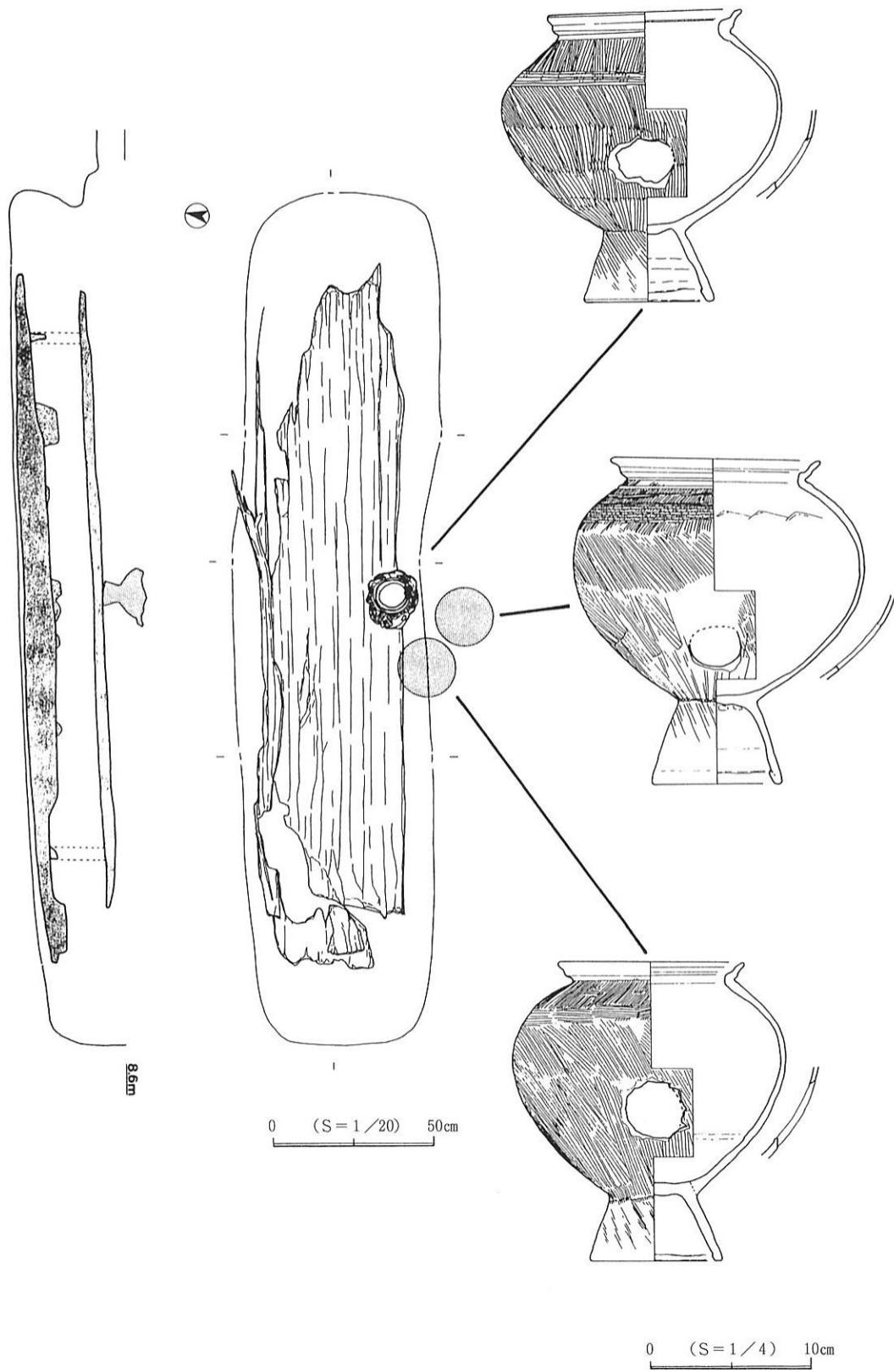


図314 曾根八千町遺跡 SX02と供献S字甕（鈴木 1997より作成）



と区別されるものであるという意味が付加されるようになる。そして弥生時代中期になると、被籠という他との差異を強調するために、あらかじめ被籠を模した突帯を付した土器が誕生する。そして後期の段階になるとやや分布に広がりを見せるようになる。しかし被籠状突帯壺は主流にはならず、あくまで脇役にすぎない。恐らく依然として主体は本来の被籠土器であろう。こうした被籠状突帯壺はそもそもその誕生の段階から実用品ではなく、農耕祭祀と関係したものであったと考えられる。

東日本では弥生時代後期前半段階までは、集落での祭祀と墳墓での祭祀に使用される土器の区別は不明確である。ところが、弥生時代後期後半段階～古墳時代初頭にかけて、祭祀形態に段階的に変化が生じていくようだ。この変化の背景としてはもちろん内的な要因もあろうが、弥生時代中期後半～後期にかけての鉄器の流入により、様々な生産用具が石器から鉄器へと転化していったことなどの大陸・半島からの外的要因による変化が生じ、弥生時代後期後半段階には列島内の内的なアイデンティティーの混沌と転化が発生した結果、弥生社会への鉄器の急速な普及などが考えられる。この所産として、一方では吉備の特殊器台や特殊壺のような、墳墓祭祀専用の土器が誕生するが、他方では、被籠状突帯壺や三連S字甕のような突然変異的土器を誕生させている。古墳時代前期には集落内で使用された祭祀と関係した文物と、墳墓の祭祀で使用された文物の区別が一段と明確になりつつある状態が看取される。この後、古墳時代前期末には、再び大陸・半島からの窯技術や竈の導入などの、外的な要因によって大きく社会は変化していく。この結果、葬りと祭りの明確な線引きがおこなわれるようになるのではなかろうか。

被籠状突帯壺、三連S字甕、それから筆者が籠目・籠形土器<sup>(2)</sup>と称している、土器の器面に籠（笊のような形状のもの）の圧痕を付着させ、籠そのものの形を模倣したと考えられる土器など（角南 1999）、いずれも本来それらの「器」に備わっていた「貯蔵する」「煮炊する」といった機能とは異なった祭祀としての用いられ方をしている。恐らくこれらは弥生時代～古墳時代に移行する過程で、祭祀行為の情報にも混乱が生じた結果誕生した、イレギュラーな「器」であることには疑う余地はないだろう。しかし、この情報の乱れ・混乱は、一体何に起因するものであるのか、これらの祭祀が時間の流れとともに、どのようなものからどのようなものへと変化していったかを考える上では重要な遺物であるのかもしれない。また、いずれも遺物として残存しにくい、植物繊維を用いた道具の使用方法を窺い知るためには格好の資料である。稀に遺跡から籠や編物そのものが出土することがあるが、今後、被籠土器などの特殊土器について考えるためには、籠や編物自体との比較検討もおこなわれるべきであろう。

## 第5項 おわりに

以上、溝咋遺跡出土資料を契機として、全国的にも稀な被籠状の突帯を有する壺について、ここでは「被籠状突帯壺」という名称を与え、集成を試みた。この結果より、被籠状突帯壺は被籠土器をモチーフとして生成された可能性が高い点や、その故地は朝日遺跡を中心としたエリアである可能性が強まった点などを明示した。また、被籠状突帯壺は東日本での弥生社会から古墳社会への移行過程で生じた「歪み」を象徴した資料ではないかと考えた。

被籠状突帯壺は、現状ではまだまだ資料数が少ないものであり、現段階ではその実態は不明な点も多く、曖昧模糊としている。しかし、今回、溝咋遺跡から出土をみたことによって、これまで東海、関東や東北地方においてのみ議論の対象であった考古資料が、一気に畿内とも無関係ではないということになってきた。今後、東日本を中心とした各地で類例が増加していくであろうが、西日本とも無関係で

はないことを念頭に置きつつ、単に「珍品」として取り扱う以上の検討がなされることを期待したい。  
(文章中敬称略)

## 謝 辞

本稿作成に際して以下の方々の御教示・御協力を得た。記して感謝致します。神野 信、木澤直子、合田幸美、白石真理、西川修一、藤澤典彦、山田隆一（順不同・敬称略）

## 註

- (1) 調査担当者の合田幸美氏の御教示による。
- (2) 籠目・籠形土器は、西日本で弥生時代後期後半に出現する。筆者の見解では、当初から籠を型として使用し土器製作をおこなった結果「籠目」が付着したものと、籠の形を模倣し祭祀的な使用がされた「籠形」土器の二者が併存した可能性が高い（角南 1999）。

## 引用・参考文献

- 飯島克巳 1991 「榛名町稲荷森遺跡出土の弥生後期外来系土器」『群馬考古学手帳』2 群馬土器観会  
石川治夫 1990 『雌鹿塚遺跡発掘調査報告書』II 沼津市教育委員会  
植田文雄 1988 『斗西遺跡』能登川町教育委員会  
植田文雄 1994 『斗西遺跡（2次調査）』能登川町教育委員会  
植松なおみ 1980 「古代遺跡出土カゴ類の基礎的研究」『物質文化』35 物質文化研究会  
宇賀神誠司ほか 1987 『赤木山遺跡群II』松本市教育委員会  
小川裕久・河野善映・宍戸信吾 1985 『山王山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター  
加藤安信編 1982 『朝日遺跡』愛知県教育委員会  
河野一也ほか 1988 『御所ヶ谷遺跡』日本窯業研究所  
神沢勇一 1968 「東海地方系の弥生土器」『神奈川県立博物館だより』3 神奈川県立博物館  
神沢勇一 1969 『神奈川県考古資料集1 弥生土器』神奈川県立博物館  
楠 正勝 1992 『金沢市新保本町西遺跡III』金沢市教育委員会  
久保泰博ほか 1986 『貝沢柳町遺跡』高崎市  
後藤信祐 1989 「被籠土器考」『栃木県考古学会誌』11 栃木県考古学会  
鈴木 元 1997 「曾根八千町遺跡出土のS字甕」『曾根八千町遺跡』大垣市教育委員会  
鈴木敏則 1991 『梶子遺跡』VIII (財)浜松市文化協会  
角南聡一郎 1999 「弥生～古墳時代前期の籠目・籠形土器」『香川考古』7 香川考古刊行会  
高野玄明 1995 『榎田遺跡』山梨県教育委員会・山梨県住宅供給公社  
田嶋明人 1986 「漆町遺跡出土土器の編年的位置付け」『漆町遺跡』I 石川県立埋蔵文化財センター  
東海古墳文化研究会 1988 「岐阜県西濃地方の前方後方(円)墳の測量調査」『古代』86 早稲田大学考古学会  
徳江秀夫編 1985 『荒砥二之堰遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
西川修一 1992 「特殊壺になれなかった壺」『古代』94 早稲田大学考古学会  
西川卓志 1990 「弥生時代壺形土器小考」『播磨考古学論叢』今里幾次先生古稀記念会  
増田精一 1982 「弥生時代の稲初め保存」『歴史公論』82 雄山閣  
村田文夫 1987 「歴史素描・久地伊屋之免古墳」『久地伊屋之免遺跡』高津図書館友の会郷土史研究部  
村田文夫 2000 「縦位に隆帯が貼付けられた土器」『考古学論究』7 立正大学考古学会  
藤崎芳樹 1982 『市原市番後台遺跡・神明台遺跡』千葉県土木部・(財)千葉県文化財センター  
向坂剛二・辰巳 均 1982 『伊場遺跡遺物編3』浜松市教育委員会  
茂木雅博・塩谷 修編 1982 『常陸安戸屋古墳』水戸市教育委員会  
廣岡 敏ほか 1985 『龍門寺遺跡』いわき市教育委員会・(財)いわき市教育文化事業団  
古川博行ほか 1990 「男壇遺跡」『阿賀川地区遺跡発掘調査報告書』会津坂下町教育委員会  
山上英誉 1982 『月の輪遺跡群III』富士宮市教育委員会  
山田隆一 1998 「大阪府下出土の東海・東国地域の土器」『庄内式土器研究』XVI 庄内式土器研究会

## 第7章 総括

今回の調査では、弥生時代後期～近世の遺構を検出し、弥生時代前期～近世の遺物が出土した。以下、年代順に自然科学的調査を含め、全体の調査成果をまとめることとする。

### 弥生時代前期

遺構は検出されていないが、C区西7面河川4および2A-1区3面溝123から、古段階に位置づけられる木葉文小形壺(1099)、新段階の甕など10数個体の弥生時代前期の遺物が出土している。すべて河川出土遺物であり、やや磨耗していることから、溝昨遺跡周辺にこの時期の集落が存在した可能性があるが、現時点では周辺遺跡を含め明らかではない。出土量が少ないことから、前期集落は離れた箇所にあるか、または小規模なものと推定される。

特記すべき遺物として、前期末に位置づけられる播磨の壺片(1230)が2A-1区3面溝123から出土している。数多く出土している外来系土器のうち、最古に位置づけられるものであり、この時期から他地域との交流があったことがうかがえる。

### 弥生時代中期

明確な遺構は検出されていない。ただし、A区、2A-2区の9～12層で、中期後半の土器がわずかながら出土しており、集落の中心部ではないものの、前期に比べ、人の活動の痕跡がみられるようになる。A区深掘部で採取した土壌よりプラント・オパールが多数検出されており(第5章第4節)、溝昨遺跡ではこの時期より水田が営まれた可能性がある。

この時期の外来系土器は備後の高杯(1227)、河内の壺(1279)、吉備の高杯(1542)がみとめられ、他地域との交流の範囲に広がりが見られる。

この時期の景観を想定する際、河川である2A-2区溝123の存在が重要となる。調査では、その南肩部をA区および2A区北端で検出したのみであるが、調査地北辺に沿って、ほぼ東西方向に河川が流れていたものと想定される。先にあげた2A-2区下層で、弥生時代中期後半の土器が出土した地点は、この河川南側に形成された微高地にあたる。土器は、数は少ないものの、木の根痕跡の傍らなどで、完形に近い形で出土していることから、この時期にはある程度安定した面の形成がなされていたと考えられる。古墳時代前期に居住域となる微高地の形成は、弥生時代中期後半にははじまっていたと考えられる。

### 弥生時代後期

後期初頭の土器棺が4基検出された。土器棺1～3は2A-2区6面の微高地上で検出され(図155)、いずれも上半は中世の耕作により削平、破壊された状態であった。土器棺1、3の内部土壌の脂肪酸分析からは、ヒト遺体の埋葬が明らかである(第5章第10節)。土器棺4は2C区10面古墳時代水田の大畦畔で検出された(図193)。弥生時代後期初頭に位置づけられ、古墳時代の水田造成に際し、かろうじて破壊をまぬがれたものであろう。土器棺本体はすべて壺であり、土器棺1・2は大形鉢を、土器棺3・4は高杯を蓋としている。蓋はすべて在地の土器であるが、土器棺1本体(1300)は中部瀬戸内もしくは阿波、土器棺3(1304)・4(1969)は河内からの外来系土器であり、土器棺2も地域の特定はできないが、胎土が異なり、在地の土器ではない。このほかにも、土器棺1～3に近接する、2A-2区6

面溝120からは、後期初頭の大形広口壺（1524～1529・1521）が出土しており、土器棺が破碎されたものである可能性が高い。これらも河内、瀬戸内からの外来系土器である。土器棺に用いられる大形壺は外来系土器がほとんどであり、選択的に受容されている可能性が高い。

特異な遺物では、赤色顔料で渦文を描く土器があげられる（1524～1529）。これはさきにあげた2A-2区6面溝120出土大形広口壺で、土器棺であった可能性が高い土器である。その他の遺物ではビーンズ形に歪んだ円環型銅釧（O61）がある。これも同じく2A-2区6面溝120出土であり、土器棺群と近接した位置から出土していることから、土器棺の埋葬遺物である可能性がある。

2A-2区6面の土器棺群は、調査区のなかでもやや高い部分にみられ、先述した弥生時代中期後半の土器が出土する面より約80cm高い面で検出された。これより、弥生時代後期初頭には、河川による微高地の形成はかなりすすみ、安定した地盤が広がっていたと考えられる。また、その形成速度も、かなりはやいものであったであろう。2A-2区9～12面では、溝165、167、172（図174、176）など調査区をほぼ東西方向に貫流する小規模な溝があり、これらがもととなり、後述する古墳時代前期の溝120が形成されたと考えられる。

### 古墳時代前期（図267）

最も多くの遺構・遺物がみられ、集落（以下、居住域と、生産域である水田に分けて記述する。）が盛期をむかえる時期である。

調査地全体の景観を復元すると、調査区北辺に沿って東西方向の河川が流れ（A区、2A-1・2区溝123）、その本流ともいえる河川が調査区西辺に沿って、現在の安威川とほぼ同じ方向で流れる（C区河川4）。この時期には東西方向の河川（溝123）の自然堤防が発達し、その自然堤防上であるA区、2A-1・2区に居住域が広がり、その範囲は南北40m、東西120mを測る。生産域である水田はこれら自然堤防に挟まれた後背湿地であるB区、C区東半部、2B区、2C区に広がり、南北150m、東西130m以上の範囲が考えられる。北西に高く、南東に低い地形に則して、ほぼ調査地を対角線状に北西-南東方向の低い谷部がはしり、これに平行する形で基本となる大畦畔、小畦畔が設けられ、これを北東-南西方向の小畦畔で区分したものと考えられる。

A区、2A-1・2区に広がる居住域では、A区7・8面、2A-2区6～8面で竪穴11棟、建物15棟、塀、門、柱穴多数、溝120、土坑多数を検出した。遺構の多くは古墳時代のなかで年代幅をもち、明確な前期～後期への遺構の変遷は明らかにし難いが、概ね、竪穴は古墳時代前期～中期に、建物は古墳時代前期～後期に、溝120および土坑は古墳時代前期～後期に位置づけられる。

古墳時代前期、庄内式期前半には、溝123の南肩部がA区にあり、南肩部では甕をはじめとする完形土器がまとまって出土した。この時期にはまだ溝120はそれほど整備されたものではなく、弥生時代後期から継続する小規模な溝である。河川はその後しだいに埋没し、調査区内はすべて自然堤防となり、安定した居住域が広がる。

庄内式期後半～布留式期、集落は整備され、盛期を迎える。居住域には、東西方向に溝120が貫流し、その両肩部に竪穴、建物、塀、柱穴、土坑、井戸が広がる。溝120から南側の水田に向けて、地形はなだらかに下降し、水田に近づくにつれ遺構密度は低くなる。居住域と水田の境には、溝状の浅い窪みがあり、それが切れる部分で比較的大きな柱穴が2カ所確認され、門状の施設が存在が想定される（図15・16）。

竪穴は、周溝のみが検出されるものが大半であり、埋土が確認されたものは、A区竪穴1、2A-2

区竪穴1、4、5のみである。竪穴は方形であり、一辺4～5mを測るものが多く、支柱穴は2本ないしは無しである。竪穴1からは精良な灰白色粘土塊が出土し、その産地を推定するために珪藻分析をおこなったところ、搬入された粘土塊である可能性が高いという結果を得た（第5章第3節）。2A-2区竪穴2～4は、3棟が重複して検出され、竪穴2→3→4の変遷が明らかである。竪穴4からは土師器把手が出土し、古墳時代中期～後期に位置づけられ、竪穴2・3は古墳時代中期以前に位置づけられる。竪穴として認定した遺構は11棟のみであるが、多数検出された小溝の多くは、竪穴の周溝と形態、規模、方向が共通し、竪穴の周溝となる可能性が高く、多くの竪穴が重複して営まれたと考えられる。

建物は、A区8面建物10・11（図22）が古墳時代前期に位置づけられる可能性が高い。

堀は、2A-1区、2A-2区で各1列確認された。後者は建物12・15と方向が同じであることから、これらは併存した可能性がある。

竪穴、建物の方向は6群にまとめられ（図158）、居住域の縁辺部では居住域と水田との境界線に主軸が平行する建物が多く、溝120近辺では主軸がこれに平行する竪穴、建物が多い傾向がある。

柱穴は円形で、直径30～50cm、深さ40～50cmのものが多い。低湿地性遺跡のためか、柱材が多く残存し、面取りをもつ柱材もみられた。樹種はヒノキが多い（第5章第8節）。柱穴の中には深さ70～80cmにおよぶものもあり、この場合、底面に礎板や藁、枝をまとめて敷いて柱が沈まない工夫がなされたものが多くみられた。また、柱穴埋土上層から完形の小形丸底壺が出土する例が10例ほどあり、これら小形丸底壺の多くは口縁部または胴部に打ち欠きが見られ、建物の廃絶にあたり人為的な埋納がなされた可能性が高い。その他、柱穴出土の特異な遺物としては、小形仿製鏡（図172、O62）、人形代（W50）があげられ、これらも人為的埋納が考えられる。

溝120の埋土は上層のシルト層と下層の砂層に大別される（図162）。上層には須恵器を含み、下層は土師器のみであることから、溝120は古墳時代前期より機能し、その後しだいに埋積しながら、古墳時代後期終末には完全に埋没していたと考えられる。両肩部には盛土、杭の打設、横木による土留めが見られ、継続的に管理されていたことがうかがえる。溝埋土は土砂よりも土器が多い状態であり、コンテナ約150箱におよぶ大量の土器が出土し、先述した弥生時代後期初頭の赤色顔料で渦文を描く土器（1524～1529）、円環型銅釧（O61）のほか、人面線刻土器（1396）、線刻土器（1288、1365～1368）、鳥形土製品（O1）、外来系土器、籠目土器（1596）、外面調整が縄蓆文タタキの可能性をもつ有孔鉢（1606）など興味深い遺物が多く出土した。また、北肩部で、泥除未製品とみられる木製品が検出され、加工途上の保管が考えられる。

人面線刻土器は、同時代の他の類例が入れ墨をもつなか、入れ墨を施さない例として注目された。『古事記』のなかで溝咋関連記事を見ると、神武天皇の使者として媛蹈鞰五十鈴媛に会った大久米命が目の周辺に入れ墨をしており、それを見た媛が不思議に思ったという記事がある。これより、媛蹈鞰五十鈴媛の周辺では入れ墨がそれほど流布していなかったことがうかがえ、入れ墨を施さない人面線刻土器を考えるにあたり興味深い。

鳥形土製品は、溝120底面で出土した。類例は埼玉県志木市西原大塚遺跡（月刊文化財発掘出土情報99.11）など少数例しかなく、稀少な遺物である。

外来系土器は、総点125点中、古墳時代前期のものは103点を数え、その多くが庄内式期後半から布留式期前半に位置づけられる。関東、東海、加賀、湖東、北近畿、山陰、備後のほか播磨、阿波、吉備などの瀬戸内地方、近隣では河内からの外来系土器がみられ、非常に広範な地域との交流がうかがえ、な

かでも瀬戸内地方を中心とした西方との結びつきが強い（第6章第2節）。とくに、関東の影響を示す土器（1370）は被籠土器が発展したとみられる突帯がめぐる土器であり、全国でも約20数例と稀少な例である。この土器の類例は東海～関東に分布し、関東に分布の中心があるが、東海の土器の影響のもと成立した可能性が高いと考えられている。溝咋遺跡出土例はこれらとはやや距離を置き、分布の西端に位置する。本例は砂粒観察から胎土は在地のものと判定されており、関東との交流のあり方を考えるにあたり興味深い資料である（第6章第4節）。

土坑は直径1 m、深さ50cm程度のもが多く、埋土に腐食物層が介在する土坑が10基程度ある。特記すべき土坑として、A区土坑98、土坑102（図21）、2A-2区土坑108、土坑130（図166）があげられる。土坑98は居住域のはずれにあり、白色の漆喰状の層が介在し、琴状弦楽器（W2）が出土した。琴状弦楽器（W2）は長岡京跡（東土川西遺跡）などで類例がみられ（月刊文化財発掘出土情報99, 11）、馬王堆一号漢墓をはじめとする中国の諸資料より、「筑状弦楽器」と呼称すべき遺物であることが判明した（第6章第1節）。土坑102は壺形埴輪に類似する二重口縁壺上半、完形の布留形甕、小形丸底壺が出土しており、一括遺物として意義深い資料である。土坑108は埋土に厚い腐食物層が介在し、粃がまとまって出土し、その他、モモ核、カナムグラ、炭化米、マクワウリ、ヒョウタンの仲間など多種多様な植物遺体が出土した。本土坑では土壌試料を採取し、埋積環境の復元が試みられ、腐食物層は当時の地表面が流入し埋積したことが明らかとなった（第5章第6節）。当時の食生活や居住環境を知るうえで重要な資料である。こうした多様な自然遺物は土坑130においてもみられた。土坑130は前期に機能し、中期を下限とする遺構である。溝120の泥除未製品の北側に位置する方形の土坑であり、円形土坑が多い中特異であり、泥除未製品との関連が注意された。埋土には腐食物層が介在し、昆虫遺体のほかモモ核、ナス属、ヒョウタン、マクワウリなどの植物遺体がまとまって出土した（第5章第8節）。

井戸は、古墳時代をとおして2A-1区3面井戸3の1基のみが検出された（図147）。井戸3はクスノキ一木作りであり、工具痕が明瞭に残る。

その他、注意された遺構に2A-2区6面溝126、同区7面溝151がある。直径約2 mの円形にめぐる小溝であり、居住域のなかでもやや低湿な箇所にもみられる。福岡市雀居遺跡で、弥生時代前期の例であるが、同様の遺構がブタ小屋となる可能性が指摘されている（月刊文化財発掘出土情報99, 4）。本遺跡では骨は出土せず、また土壌試料を採集していないため確認の手だてはないが、類似遺構である可能性のみ指摘しておきたい。

土器では、特異なタキキをもつ土器（1262）のほか、赤色顔料、黒色顔料が付着または塗布された土器が注意された。この時期の赤色顔料は、水銀朱とベンガラを混ぜたものが多い（第5章第12・13節）。赤色顔料付着土器は、小形丸底壺や甕の細片であり、土器に塗布したというよりも精製などの際に道具として使用された可能性が大きく、これは外面に煤が付着する、赤色顔料を焼成した可能性をもつ資料（296）からもうかがえる。同様の指摘は、三重県津市雲出島貫遺跡においてもなされている（川崎1999）。また、朱の精製に用いたと考えられる石臼（W16）、石杵（O14・O15）の存在も、本遺跡において朱の加工がなされたことを裏付ける。

このほか、居住域から吉野川流域産を含む結晶片岩材が数点出土しており、これと阿波からの外来系土器および朱の存在からは、溝咋遺跡と阿波との強い結びつきが推定される。

黒色顔料は、二重口縁壺、高杯の口縁部内面に塗布され、東部瀬戸内の影響を受けた大形二重口縁壺ではとくに多くみられる。石川県羽咋市太田ニシカワダ遺跡では、土器に付着または塗布された黒色顔

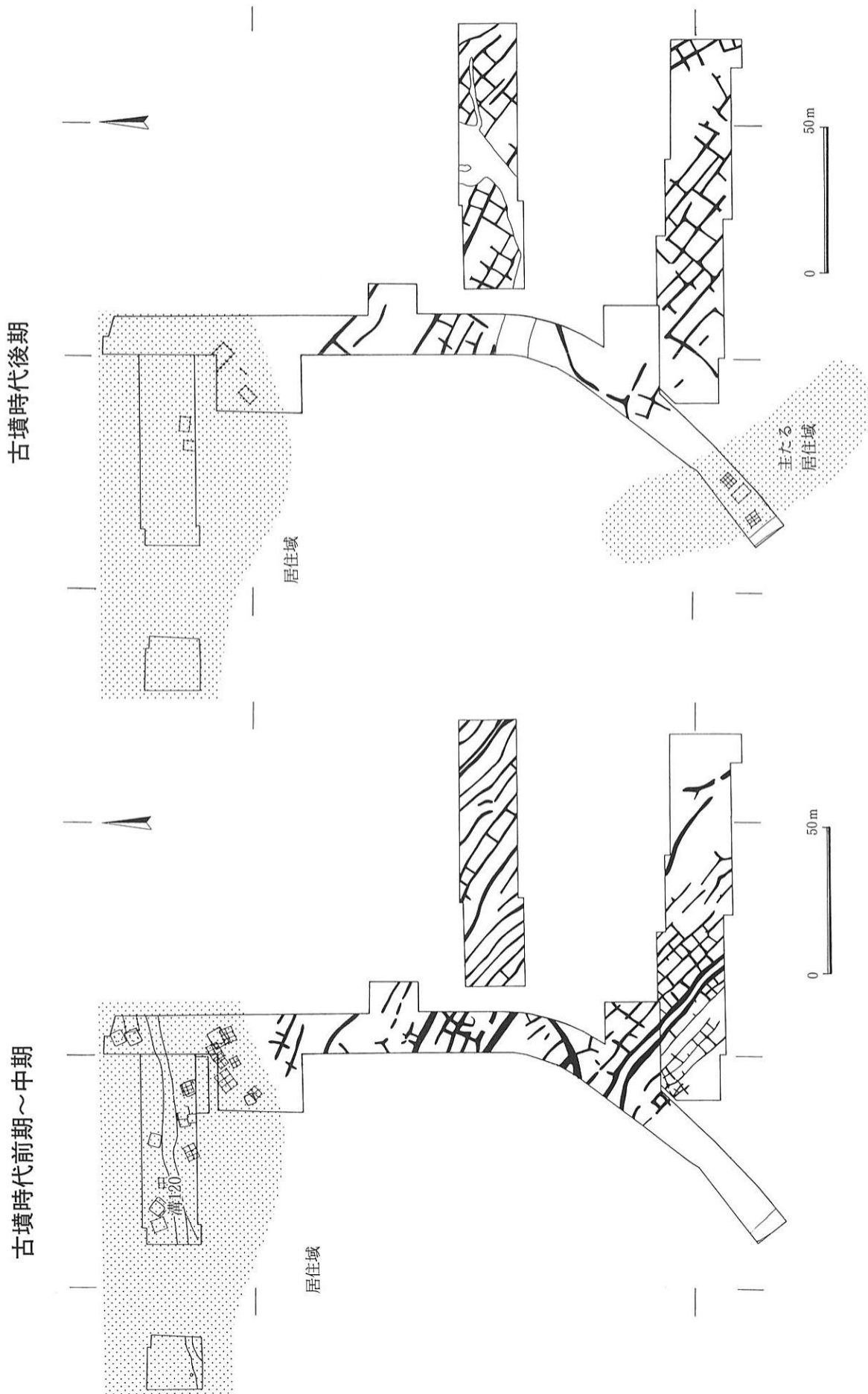


図315 古墳時代前期～中期、後期の遺構

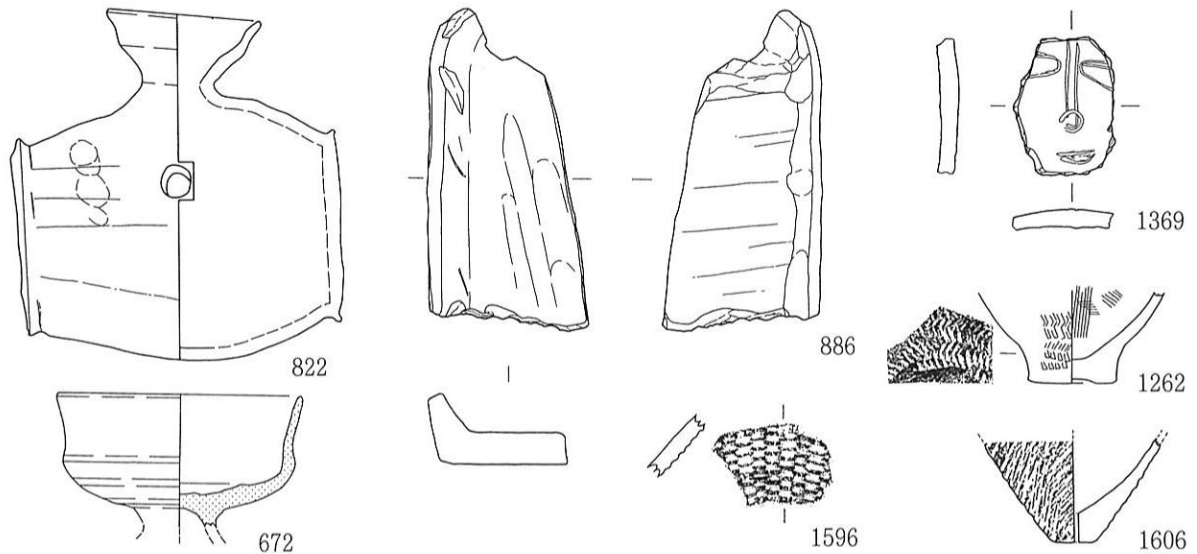


図316 弥生時代後期～古墳時代後期の特異な遺物

料が漆であることが判明している（四柳1999）。本遺跡出土例についても、漆か否かの分析を当センター保存室の山口誠治氏に依頼したところ、結果は漆ではなく炭化物質と判明し、何が炭化したのか種類の同定までは不可能であるとのことであった。黒色顔料の意図的な塗布は明らかであり、装飾的なものか、実用的なものか、今後の類例の蓄積をまって明らかにしたい。

鉄器では、手鎌（O28）、鑿（O60）が出土しており、前者は古墳時代前期に、後者は古墳時代前期～後期に位置づけられる。古墳時代に位置づけられる鉄製品はこの2点のみであるが、砥石が多く出土しており、木製品の加工痕、C区西7面河川4から出土した大量の薄く剥いだ木片からは、多様な鉄製加工工具の存在が想定される。

土製品では、先述した鳥形土製品のほか、土製勾玉（O50）、土製玉（O51）がある。

水田は、微地形に則して造営され、小畦畔は直交する箇所は少なく、ややずれた位置にとり付く箇所が多い。傾斜がやや急な部分では、一辺3～4m程度の小区画水田となり、2C区西部で顕著である。B区中央部、2C区東部の低湿部では、大畦畔基部で木器が集中してみられ、沈下を防ぐための施設と考えられる（図32・33・188・189・192・194）。その他、注目すべきものに、2C区で検出された棒状木製品貫通土器がある。布留形甕を、先端を加工した棒が貫通するもので、甕は煤が厚く付着することから日常的な土器とみられるものの、その行為は祭祀的な性格をもつ可能性が高い。

大畦畔基部の木器集中部の存在からは、木器等を敷設した時期に基本的な水田の造営、整備が行われたことがうかがえ、棒状木製品貫通土器はこうした水田造営に関わる祭祀とも考えられる。こうして整備された水田ではあるが、耕土中の砂層薄層の存在（C区東8層下位、2C区11層西側）からは、水田造営後、古墳時代中期にかけて小規模な洪水に複数回遭ったことがうかがえる。

### 古墳時代中期（図267）

集落は継続するものの、古墳時代前期に比べ遺構・遺物量は格段に減少し、集落の活力の減退がうかがえる。

景観は古墳時代前期とほぼ同様であるが、A区、2A-1・2区の居住域では、溝120の埋積が進み、また、A区7層、2A-2区6層といった包含層のあり方からは、土器や植物遺体、腐食物を含む層の堆積が進む。こうした廃棄物の堆積も、後述する居住域移動のひとつの要因となった可能性が考えられ



る。一方、C区西半部では自然堤防が発達し、微高地の形成が進む。水田の景観はおおきくは変わらない。

A区、2A-1・2区に広がる居住域では、2A-2区5～6面土器群（図151～153）のほか、溝、土坑からも初期須恵器が出土している。しかし、出土遺物量は古墳時代前期に比べ少ない。

一方、C区西半部出土初期須恵器は、A区、2A-1・2区より点数が多く、A区、2A-1・2区からC区西半部への居住域の移動がうかがえる。

初期須恵器、瓦質高杯（672）の存在からは、古墳時代前期に比べ規模は縮小するものの、地域間交流の拠点としての性格は継続すると考えられる。

### 古墳時代後期（図267）

古墳時代中期に比べ遺構・遺物量は増加し、古墳時代前期にはおよばないまでも、集落の活力はある程度回復したとみられる。

景観は古墳時代前期、中期とほぼ同様であるが、A区、2A-1・2区の居住域では、包含層の堆積とともに、土坑や溝120がほぼ埋没する。一方、C区西半部では安定した微高地が形成され、居住域として活用される。水田の景観はおおきくは変わらない。

A区、2A-1・2区では、A区6面建物1・2と門1（図15・16）、2A-2区6面建物11・13（図149・150）が検出され、その他土坑数基がこの時期に位置づけられる。水田と居住域を画す施設として、門の存在が注目される。居住域の中心はC区に移動しているが、A区、2A-1・2区においても、わずかではあるが建物が営まれたようである。

一方、C区西半部は、西4面建物13・14・15（図45・47）のほか柱穴が多数検出され、出土遺物も多く、居住域の中心として機能する。

須恵器は中期後葉から後期前葉のTK23～MT15は少なく、MT85（TK10～43）が大勢を占め、TK209が少量出土し、これを下限とする。器形は杯、甕が多く、甗、器台を少量含む。土師器は暗文を施す杯が2点（878・1032）あり、古墳時代後期末葉～飛鳥時代初頭を下限とする。器形は甕、高杯が多く、その他、甗、鍋、羽釜、移動式竈がある。壺は古墳時代前期に比べ格段に少なく、須恵器甕にその機能が転換したと考えられる。移動式竈は図化した点数は少ないが、破片数は20～30点出土しており、当初日常的な使用も考えられたが、煤の付着からは使用頻度が低く、やはり非日常的な使用を考えたほうが妥当であろう。移動式竈で用いられる煮沸具は、長胴甕、羽釜、鍋があるが、甕に比べ羽釜、鍋は各々5点以下と出土点数が少ない。移動式竈を用いる非日常的な使用の際には羽釜、鍋が使用された可能性が考えられないであろうか。

特異な遺物として、土師質樽形甗（822）および不明土製品（886）があげられる。土師質樽形甗の類例は、熊本県人吉市相良村覚井古墳群出土例（熊本県立装飾古墳館1994）以外を知らず、稀少な例といえる。樽形甗はTK73～TK208の須恵器に特徴的な器形であり、本例もこの時期に位置づけられると考えられるが、出土状況からは時期を明確にできない。不明土製品の類例は、寝屋川市讃良郡条里遺跡（大阪府教育委員会1991）、寝屋川市長保寺遺跡（寝屋川市教育委員会1993）、三重県多気郡明和町コドノA・コドノB遺跡（三重県埋蔵文化財センター1998）でみられ、長保寺遺跡では移動式竈の焚口の枠である可能性が示唆されるものの断定には至らず、今後の類例の蓄積をまちたい。

その他遺物では、碧玉製管玉（O3）、碧玉製勾玉（O78）、滑石製白玉（O55～57）、滑石製双孔円盤（O41・53）、滑石製紡錘車（O40・52）、土錘（O37～39・48・49）、土製紡錘車（O40）、玉砥石（O

7) が出土している。玉の未製品は確認されておらず、玉の製作はおこなわれなかったようである。

水田関連の遺構に、B区6面河川2、2B区7面溝14がある。これらは一連の河川であり、調査区全体を北西-南東方向にはしる谷部の水路である。堰が検出され、古墳時代後期終末の完形土器が多く出土した。土器は洪水により居住域から流れ込んだものと考えられる。

砂層により覆われた水田では、大畦畔はもちろん、高さ5~10cmの小畦畔も明瞭に検出された。水田では、成人、幼児の人の足跡、偶蹄類、鳥類の足跡、鋤先を突き立てたとみられる痕跡が明瞭に検出され、人の歩行痕跡の解析から歩幅、身長が提示された(第5章第11節)。

水田耕土出土遺物として特筆すべきものに、2B区8層出土の下駄(W56)がある。圧痕が明瞭に残るものであり、下駄出土例としては最古段階に位置づけられる(瀬川1992)。

水田を覆う砂層は10~20cmの厚さがあり、低い箇所では砂層上層に木、枝を含む腐食物層が堆積する(2B区6層)。これらの層はTK209型式を下限とする遺物を包含することから、この時期に大規模な洪水に遭い水田は耕作不可能となり、集落は破棄されたと考えられる。これは居住域出土遺物とも整合性がみとめられる。

## 飛鳥・奈良時代

遺構・遺物は極めて稀薄である。古墳時代後期終末の洪水後、すみやかな復旧はおこなわれなかったようである。

景観は、A区、2A-1・2区およびC区西半部は引き続き微高地であったと考えられるが、生産域である水田は全面砂に埋もれた状態であったと想定される。ただし、後述する溝204の存在からは、奈良時代初頭に部分的に水田が造営された可能性がある。微高地上にまで洪水砂が及んだか否かは中世の削平のため不明であるが、遺物が皆無に近いことから、居住域の形成はなかったものと考えられる。

2C区5面で、東西、南北方向の浅い溝(溝204)が検出された。飛鳥IV~平城Iの須恵器杯身(1965)が1点出土しており、上層、下層の出土遺物からもこの年代に位置づけられる。条里制の確実な施行は後述する中世前半であるが、本遺構により奈良時代初頭にさかのぼる可能性も捨てがたい。他に、条里制施行に関わる遺構としてA区6面の水田から居住域への緩斜面で検出された鋤溝がある(図16)。古墳時代後期建物の廃絶後、微地形に即した北西-南東方向の鋤溝がみられ、これを東西南北方向の鋤溝が切る。明確にこれら鋤溝に伴う遺物はみられないが、上層で平城Vに位置づけられる遺物(21)が出土している点が注意される。両者ともわずかな範囲での検出であり、条里制施行時期の上限を遡及させることはできないが、今後、周辺地域における調査では注意が喚起される。

奈良時代中頃には、2B区西半部の上宮跡下層にあたる地点で土器がまとまって出土しており(図186)、再びこの地に人の活動の痕跡がみられるようになる。出土地点は古墳時代河川(7面溝14)の湾曲により形成された微高地であり、奈良時代においても他に比べやや高い場所であることから、この地点が選択されたのであろう。土器は平城Ⅲに位置づけられる一群であり(1823~1842・1849~1855)、須恵器壺、横瓶、平瓶、土師器甕などの容器が主体で、底面に穿孔をもつ瓦質壺(1823)も含まれることから、祭祀的な性格がうかがえる。これとやや離れた地点で、平城Ⅲに位置づけられる「奈拈」の墨書をもつ土器(669)が出土しており、一群のものである可能性が高い。

2B区西半部は後に上宮が置かれる場所であるが、広い調査区のなかで奈良時代遺物が出土するのはこの地点のみであり、奈良時代から他とは区別された地点であったと考えられる。

その他、年代の特定はできないが、噴砂が2A-1・2区でみとめられた(図版32-4)。中世耕土

層除去後の古墳時代包含層上面で検出しており、古墳時代後期末以降中世（12～13世紀）以前に位置づけられる。噴砂は、河川である溝123の南肩部にあたる箇所、やや北に振るがほぼ東西方向に連続して確認され、おおきくは有馬—高槻構造線に平行する方向性を示す。

## 平安時代

飛鳥・奈良時代に引き続き、遺構・遺物は極めて稀薄である。

景観は、飛鳥・奈良時代と変化はなく、前代からの微高地のほか、2 B区西半部が他に比べやや高い地形が想定される。

明確な遺構は検出されていないが、平安時代の末葉には、2 B区西半部で上宮（3面上宮跡）が営まれた可能性をもつ。また、2 C区4層から平安時代後葉の遺物が出土しており、中世以降安定して営まれる水田の基盤は、この時期より形成された可能性が考えられる。

平安時代の遺物は、飛鳥・奈良時代に引き続き、2 B区西半部である程度まとまって出土する。西半部4層、5層に含まれる遺物（図243）がそうであり、緑釉陶器椀（1858）をはじめとして須恵器壺、土師器杯、高杯、羽釜が少量出土した。緑釉陶器は他に椀（730）、皿（1773）が出土している。他に、平安時代末から鎌倉時代初頭に位置づけられる巴文軒丸瓦（1737・1739）、剣当文軒平瓦（1747）が出土しており、上宮の創建を考えるにあたり重要な資料である。

その他、年代を明確にし難いが、平安時代に帰属する可能性が高い遺物に、曲物（W9）と有頭棒（W46）、銅鈴（O27）がある。

曲物と有頭棒は、B区6面河川2北肩部の洪水砂上面で近接して出土した。復元条里の坪境から約20m離れた地点にあたる。同じ遺物の組合せは、東大阪市・八尾市池島・福万寺遺跡でみられ、坪境の交差点で出土し、平安時代の祭祀的な遺物である可能性が指摘されている（（財）大阪文化財センター1995）。本遺跡例は共伴遺物を欠き、古墳時代後期末以降中世以前としか年代を決められないが、同様の遺物の組合せがみられることは、今後水田に関わる祭祀を考える際、注意を要する。

銅鈴はB区5面出土であり、奈良時代以降中世以前に位置づけられる。出土地点は、曲物、有頭棒出土地点に近接し、復元条里の坪境から約20m離れた地点である。とくにこれに伴うピットなどの遺構はみとめられなかった。先述の池島・福万寺遺跡においても水田から銅鈴が出土しており、水田祭祀に関わる資料と考えられている（渡辺1995）。

## 中世（図268）

12～13世紀以降、上宮を除く全域に乾田化した条里制水田が広がり、この景観は浪商学園が建設される近代までつづく。中世前半には、C区西半部に居住域が短期間形成される。

C区西半部の居住域は建物1棟、塀1列（図44）からなり、建物の柱穴（穴15）からは瓦器椀5枚（995～997）が重なって出土した。居住域は、12世紀末から13世紀にかけて存続し、その後水田となる。なお、瓦器は楠葉型、和泉型が出土しており、和泉型が多くみられる。

上宮跡は、平安時代末から中世前半には柱穴が検出されるのみでその様相は不明であるが（図184・2 B区3面上宮跡）、中世後半には建築物の様相が明らかとなる（図180～183・2 B区2面上宮跡）。

中世後半の上宮は、方形にめぐる柱列1を中心に、前面（南面）には柱列が2列平行し、これに平行および直交する建物2棟からなる。周辺には空地がひろがり、建物と空地を含む上宮は四辺を溝で囲まれ（B区1面溝2・3、C区1面溝35、2 B区0・1面溝2）、条里制の土地区画にのっとったものである（図6）。B区4面柱1・2（W44・45）は上宮の西面にあたる箇所検出されており、鳥居

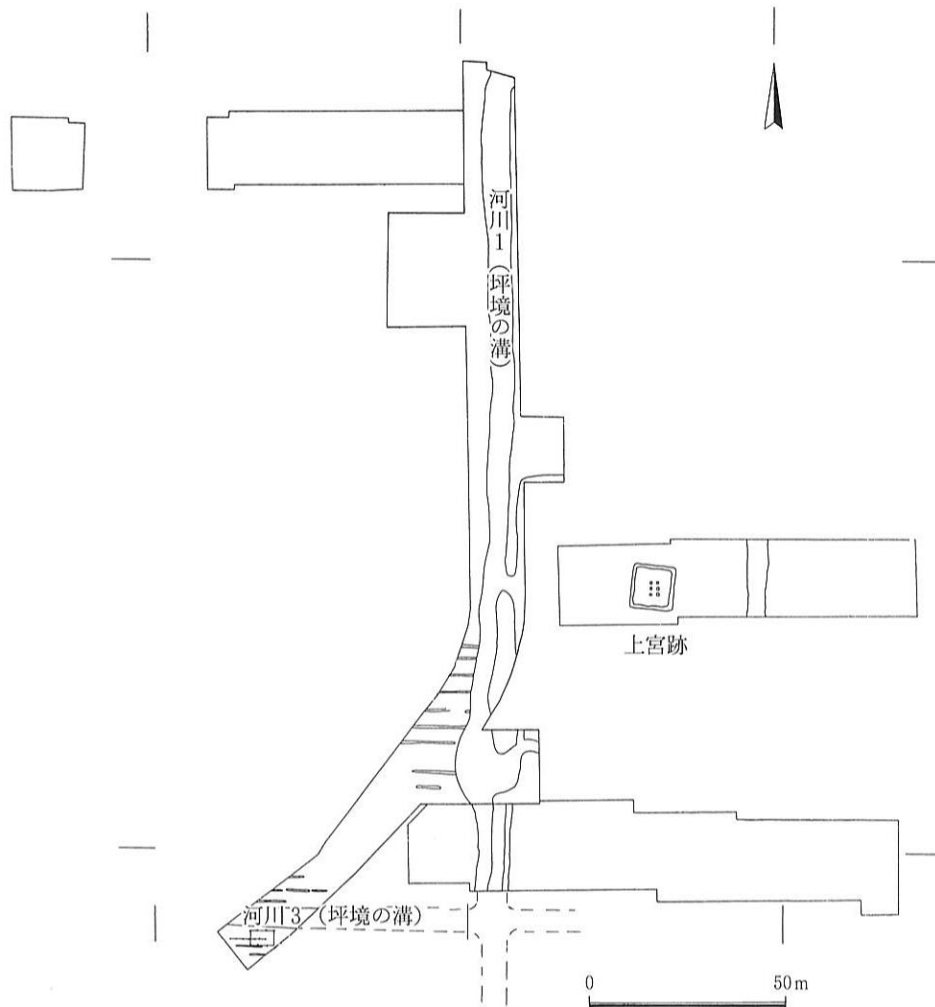


図317 中世～近世の遺構

状の施設が想定される(図28・29)。遺物は巴文軒丸瓦(1738・1740・1741)、唐草文軒平瓦(1749～1751)をはじめとする瓦のほか土師器、須恵器、陶器が出土した(図43～45)。

本遺構に類似する遺構が、三重県松阪市古轡通り遺跡で検出されており、室町時代の神社跡と報告される(月刊文化財発掘出土情報1999. 11)。本遺構は遺物の出土状況から大きく中世後半に位置づけているが、この類例からは室町時代に位置づけられる可能性が考えられる。他に遺構の様相は異なるが、中世

の堂跡には、長野県飯田市駄科北平遺跡、同松川町の場遺跡がある(佐藤1978)。

条里制水田に伴う遺構には、坪境溝であるA～C区1面河川1、C区西1面河川3があり、修復されながら近世まで存続したことが明らかである。

特記すべき遺物には、C区東1面河川1の堰に引っかけた状態で出土した卒塔婆(W1)があり、中世溝杭庄を考える一資料となる。

### 近世(図268)

景観は、中世以降大きくは変わらず、2B区西半部に上宮が存続するほかは、全域に条里制水田がひろがる。

上宮跡は、中央の建築物は二度建て替えられるものの、周辺に空地が広がり、四辺を溝で囲まれるといった様相に変化はみられない。

中央の建築物は、断面コ字形の方形溝に囲まれた1×1間の建物(2B区1面上宮跡)から、断面浅いU字形の方形溝に囲まれた2×1間の建物(2B区0面上宮跡)へと変化する(図177・178)。前者に伴う遺物は無く、後者の溝から16世紀末以降の鬼瓦(1765・1766)をはじめとする遺物が出土しており、先述した室町時代の可能性をもつ建築物の廃絶後、16世紀末以降明治42年までに二度の建て替えがあったと考えられる。

上宮跡は、確実に遺構に伴う遺物が少なく、遺構の年代を特定することは困難であるが、遺構はおお

表37 調査成果一覧

遺跡	遺跡名	遺物	木器	その他の遺物	自然遺物	自然科学的分析		遺構	遺構	考察
						種類	概要			
弥生時代前期	C区西7面河川4 (～古墳後期) 2 A-1区3面溝123 (～古墳前期) 2 A-1区3面溝124 (～古墳前期)	古段跡(木炭小形炭(1099)) 新段跡(1228・1229) 前期木・漆器からの外來系土器(1230)								
弥生時代中期	水田? A区9～10層 A区8面溝123 (～古墳前・中期) 2 A-2区11層 (～古墳前期) 2 A-2区12層 (～弥生後期)	中期後半壘(188・189) 中期後半広口壘(535・536) 中期後半壘・溝(1278～1283) 中期後半水差(1584) 前後、河内、古澤からの外來系土器(1277・1278・1542)		石釘(O6)			ブランド・オパール分析(第5章第4節) 土器棺内土層の樹皮炭分析(第5章第10節)	2 A-2区彌高地の形成 水田遺習開始の可能性有り 2 A-2区彌高地の形成が中心		土器棺蓋の発容(第6章第3節) 「環状深溝」について(第6章第1節) 外來系土器について(第6章第2節)
弥生時代後期初期	土器棺 2 A-2区6面土器棺1～3 2 C区10面土器棺4	瀬戸内、河内からの外來系土器(1300・1304・1950)が中心として使用される ベンガラで染文を描く土器(1504～1529・溝1210出土)		円環型銅剣(O61)			赤色顔料分析(第5章第12・13節) 赤色顔料はベンガラ(鉄)を使用			
古墳時代前期	集落(環濠型・広範囲地域間交流) 水田 A区～2 A-2区区穴 A区～2 A-2区建物(柱礎存多し、礎石多い) A区8面溝123 A区～2 A-2区6面溝120 A区6面土坑39 (～中期・漆器? 琴) A区7面土坑102 (礎と礎)(2021) 2 A-1区3面井戸3-木(クスノキ)くろ抜き 2 A-2区6面溝120内埋込木製品 2 A-2区6面溝123・7面溝151(円形) 2 A-2区6面土坑108(枿の埋込) 2 A-2区6面土坑130(植物遺体) A-C区水田畦畔・足跡痕跡・燧石痕跡 B区7面水差集中部1・2(大群葬基盤) 2 B・2 C区水田畦畔・足跡痕跡・燧石痕跡 2 B区8面群葬1(大群葬基盤) 2 C区10面群葬1(大群葬基盤) 2 C区10面群葬木製品通土器(2018)	人形代(W50) 組合寄器(W73) 大甕(W85～90) 腰掛(W92・63) 羽状張家器(W2) 木片(C区西7面河川4)	各遺構出土木・植物遺体(～中世) 枿、根茎遺体、植物遺体(土坑108)	樹種鑑定、植物遺体同定など(第5章第5・8節) 窓穴出土粘土の珪酸分析(第5章第3節) 土器の砂礫観察(第5章第14節)	溝120埋土の花射・柱礎分析(第5章第2・3節) 小規模な環濠の排水(～古墳中期)					
古墳時代中期	集落(環濠型・地域間交流の拠点として環濠)・水田 A区～2 A-2区区穴と建物 2 A-2区5～6面土器群 A-C区水田畦畔・足跡痕跡・燧石痕跡 2 B・2 C区水田畦畔・足跡痕跡・燧石痕跡 A区6面建物1・2(2015・16) A区6面門1(2015・16) B区6面河川2埋 C区西4面建物13・14・15(2015・17) A-C区水田畦畔・足跡痕跡・燧石痕跡 2 A-2区6面建物11・13(20149・150) 2 B区7面溝14	初期須恵器多数 瓦質高杯(672) 須恵器(MT85が多くTK289まで出土) 土師器(礎、高杯が多く、窓は少ない。移動式甕、羽蓋、甕、燧石) 土師質埴形壘(822) 不明土製品(896)	下駄(W86) 最古段階 碧玉製勾玉(O78) 滑石製双玉(O35～57) 滑石製双玉(041・53) 滑石製紡車(O40・52) 土器(O37～39・48・49) 土製紡車(O40)		2 A-2区溝120の埋込遺構 C区西半部彌高地の形成					
古墳時代後期	集落(環濠型)・水田 弥生による集落の跡(TK209形式) 環濠・遺物は極めて稀薄 土器群(土器群下層) 2 B・2 C区水田畦畔・足跡痕跡・燧石痕跡 A区6面溝(斜行→東西南北方向) 2 C区5面溝2M(最古の東西南北溝) 2 C区3-3面土器群(1820～1842・1849～1850) 2 B区西半部4層・5層 2 B区3面上宮跡(柱、建物は不明)	須恵器群(1963)(飛鳥M～平城宮1) 赤土器「赤土」(669)(平城宮) 輪軸器(79・1773・1858) 巴文軒瓦丸(1737・1739)・斜当文軒瓦瓦(1747) 瓦器(13世紀多し。和泉が多く備前少い) 環山橋? 丹波焼埴鉢・陶器 軒瓦丸・軒平瓦	曲物(W9)と有蓋器(W46) 卒塔婆(W1)		足跡痕跡の分析(第5章第11節) 水田土層の珪酸分析(第5章第7節)	C区西半部彌高地の安定 全滅洪水による砂層で埋没			大規模な洪水(古墳時代後期終末)	
平安時代	遺構・遺物は稀薄 土器群(神社跡・平安末～)・水田基盤の形成 2 B区西半部4層・5層 2 B区3面上宮跡(柱、建物は不明)	海老後、砂層上層の土壌化進む(2 A-1・2区西6層) 全滅灰色シルト～粘土層(中世水田の基盤)の形成	銅鈴(O27)							
中世	土器群(神社跡)・集落・桑里御水田 A-C区1面河川1(坪地溝、～近代) B区4面柱穴(上宮跡?) (2024) C区西1面河川13(坪地溝、～近代) C区西3面建物12・群1 2 B区2面上宮跡(方形の柱列と建物)	軒瓦丸・軒平瓦・道瓦丸(2018)								水田(18世紀後半～14世紀)
近世	土器群(神社跡)・水田(桑里遺構) 2 B区1面上宮跡(方形の溝1と建物) 長方形土坑6年度探検坑?・洪水(桑里遺構?)	頭蓋骨(巧物による切断痕有り)								洪水

きく4段階の変遷がおえ、出土遺物からは、平安時代末～鎌倉時代に1段階、室町時代に1段階、慶長年間以降に2段階の変遷が考えられる。

第2章で先述したとおり、上宮関連の文献資料からは、11世紀中葉に溝杭大夫と称した源資兼が、15世紀後葉以降の室町時代に溝咋兵庫介質信とその後裔が、16世紀末以降に長谷川式部少輔が、寛保二(1742)年には永井日向守と小堀仁左衛門が、宝暦十三(1763)年には土井大炊頭がこの地を領していたことが明らかであり、検出された遺構、遺物の変遷と領有の変遷がほぼ整合性をもつ点が興味深い。

その他、坪境溝であるB区1面河川1から人の頭蓋骨が出土しており、刃物による切断痕がみられる(第5章第9節)。中世に属する可能性を残す。

## 近代

明治42年の廃仏毀釈により上宮は現在の溝咋神社に合祀され、跡地は竹藪となる。水田では、水田区画にのっとった長方形土坑がみられ、その用途は粘土採掘坑、災害復旧坑などが考えられるが、断定には至らない。

昭和38年に浪商学園がこの地に建築されることとなり、上宮跡とともに条里制水田が盛土され、校舎、グラウンドが整備された。校舎は敷地の南側に集中しており、敷地内の多くはグラウンドとして利用されたため、市街地にもかかわらず遺構は良好に残存することとなった。

「溝咋」は、『古事記』および『日本書紀』よりその名をみることができ、神武天皇正妃である媛蹈鞬五十鈴媛命の故地として、文献史上においても注目されてきた。記紀以降の諸史料にもその名は散見され、詳細は第2章で述べたところである。

溝咋は畿内の中においても古くから注目されてきた土地であり、それは、畿内と他地域を結ぶ大動脈である淀川の北岸に位置し、周辺には肥沃な地がひろがるという立地に負うところが大きいと考えられる。今回、はじめてまとまった発掘調査がおこなわれ、その立地を十分にいかしたこの地の歴史の一端が明らかとなった。重要な遺構、遺物が多いなか、関連資料の追究も不十分なままであり、遺跡が示す意義を十分にくみとれないままの報告となったことは否めないが、本報告が、この地の歩んできた歴史を省みる端緒となれば幸いである。

## 註

大阪府教育委員会 1991 『讚良郡条里遺跡発掘調査概要・Ⅱ』

(財)大阪文化財センター 1995 『池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅺ』

川崎志乃 1999 「赤色顔料付着の土器について」『研究紀要』8 三重県埋蔵文化財センター

熊本県立装飾古墳館 1994 『第4回企画展図録 器は語る 須恵器の手と技と』

佐藤甦信 1978 「下伊那地方における中世遺構と堂址について」『中部高地の考古学』

瀬川芳則 1992 「最古の木製下駄」『同志社大学考古学シリーズV 考古学と生活文化』

寝屋川市教育委員会 1993 『寝屋川市文化財資料19 長保寺遺跡』

三重県埋蔵文化財センター 1998 『コドノA遺跡・コドノB遺跡(第1次)発掘調査報告』

四柳嘉章 1999 「太田ニシカワダ遺跡の古墳時代前期土師器群に塗装された漆液の科学分析」『太田ニシカワダ遺跡』石川県羽咋市教育委員会

渡辺典子 1995 「銅鈴二例」『大阪文化財研究』8

---

# 土器觀察表

---

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0001	A	1層	磁器	碗			外 回転ナデ	外 (7.5Y8/2) 灰白 内 (7.5Y8/2) 灰白 断 (7.5Y8/2) 灰白	密	外 施釉 内 施釉
0002	A	1層	陶器	碗			外 回転ナデ・回転ケズリ	外 (5Y8/2) 灰白 内 (10YR2/2) 黒褐 断 (7.5Y8/2) 灰白	密	外 施釉 内 施釉 (鉄釉)
0003	A	1層	須恵器	擂鉢	外 回転ナデ・楕目 内 回転ナデ			外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	粗 白色砂粒多く含む	外 重ね焼き痕? 備前
0004	A	1層	須恵器	擂鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (2.5GY6/1) オリーブ灰 内 (2.5GY6/1) オリーブ灰 断 (2.5GY6/1) オリーブ灰	密	東播系
0005	A	1層	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ユビオサエ 内 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密	
0006	A	2層	磁器 (白磁)	碗				外 (7.5Y7/2) 灰白 内 (7.5Y7/2) 灰白 断 (10Y8/1) 灰白	密	外 施釉 内 施釉
0007	A	2層	陶器	卸皿				外 (5Y8/1) 灰白 内 (5Y8/1) 灰白 断 (5Y8/1) 灰白	密	外 施釉 (緑釉) 内 施釉 (緑釉)
0008	A	2層	陶器	擂鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄	粗	
0009	A	2層	須恵器	擂鉢	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	東播系
0010	A	2層	須恵器	擂鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密	東播系
0011	A	2層	土師器	皿	外 ナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/4) 浅黄橙	密	
0012	A	2面	磁器	猪口				外 白 内 白 断 白	密	外 施釉 内 施釉
0013	A	4層	磁器 (白磁)	碗				外 (2.5GY8/1) 灰白 内 (10Y8/1) 灰白 断 (N8/1) 灰白	密	外 施釉 内 施釉
0014	A	4層	磁器 (白磁)	碗				外 (10Y8/1) 灰白 内 (2.5GY8/1) 灰白 断 (7.5Y8/1) 灰白	密	外 施釉 内 施釉
0015	A	4層	磁器 (白磁)	皿				外 (7.5Y8/1) 灰白 内 (7.5Y8/2) 灰白 断 (7.5Y8/1) 灰白	密	外 施釉 内 施釉
0016	A	4層	瓦器	碗	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 ユビオサエ 内 ミガキ		外 (7.5Y4/1) 灰 内 (7.5Y5/1) 灰 断 (7.5Y8/1) 灰白	密	
0017	A	4層	黒色土器	碗	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (N3/0) 暗灰 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密	
0018	A	4層	瓦器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (N7/0) 灰白 内 (N5/0) 灰 断 (N8/0) 灰白	密	
0019	A	4層	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y5/1) 黄灰 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密	
0020	A	5層	瓦器	三足釜				外 (7.5Y8/1) 灰白 断 (7.5Y8/1) 灰白	密	



番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0021	A	6層~7層上半	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (5R6/1) 赤灰	密	
0022	A	6層~7層上半	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ナデ・ケズリ	外 ナデ 内 ナデ・ユビオサエ	外 (25Y8/1) 灰白 内 (5YR6/8) 赭 断 (25Y8/1) 灰白	密	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む
0023	A	6層~7層上半	土師器	壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ナデ・ケズリ		外 (25Y8/2) 灰白 内 (25Y7/2) 灰白 断 (10YR5/1) 赭灰	密	石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む
0024	A	7層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N5/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (N7/0) 灰	密	
0025	A	7層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N5/1) 灰 内 (N7/1) 灰 断 (N6/1) 灰	密	
0026	A	7層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (5PB5/1) 青灰 内 (5PB5/1) 青灰 断 (5PB6/1) 青灰	密	
0027	A	7層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰 内 (N7/0) 灰 断 (N7/0) 灰	密	
0028	A	7層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (5B6/1) 黄灰	密	
0029	A	7層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0030	A	7層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N5/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N6/0) 灰	密	
0031	A	7層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・回転ナズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
0032	A	7層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N4/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (5R5/0) 赤灰	密	内 自然釉
0033	A	7層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N2/0) 黒 内 (N2/0) 黒 断 (N7/0) 灰白	密	
0034	A	7層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ・ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ・ナデ	外 (25YR6/1) 赤灰 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR7/1) 灰白	密	
0035	A	7層	須恵器	鉢	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (5B5/1) 青灰 内 (5B6/1) 青灰 断 (10BG6/1) 青灰	密	
0036	A	7層	須恵器	壺	外 回転ナデ・回転カキメ	外 回転ナデ・回転カキメ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	外 自然釉
0037	A	7層	須恵器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0038	A	7層	須恵器	甕	外 回転ナデ・ハケメ・ユビオサエ 内 回転ナデ・ユビオサエ	外 回転ナデ・ハケメ・ユビオサエ 内 回転ナデ・ユビオサエ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N5/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
0039	A	7層	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (5RP6/1) 紫灰	密	
0040	A	7層	須恵器	提瓶	外 カキメ 内 ナデ	外 カキメ 内 ナデ	外 カキメ 内 ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N5/0) 灰 断 (5Y7/1) 灰	密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎土	備考
0041	A	7層	須恵器	甗		外 回転ナデ・回転カキメ 内 回転ナデ		外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y5/1) 黄灰 断 (2.5Y7/1) 灰白		密	
0042	A	7層	土師器	広口壺A	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ハケメ	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ハケメ・ケズリ・ユビオサエ		外 (7.5Y7/3) にぶい橙 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白		密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
0043	A	7層	土師器	広口壺B	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ハケメ+ヨコナデ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (5Y8/1) 灰白		密 石英・長石・チャートを含む	
0044	A	7層	土師器	広口壺D	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ		外 (10YR7/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白		密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	
0045	A	7層	土師器	広口壺C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (2.5Y8/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/1) 灰白		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	口縁部を巻き込む
0046	A	7層	土師器	短頸壺A	外 ナデ 内 ナデ			外 (7.5YR7/1) 明褐灰 内 (7.5YR6/2) 灰褐 断 (7.5YR7/1) 明褐灰		密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	
0047	A	7層	土師器	短頸壺A	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ケズリ		外 (7.5YR8/4) にぶい橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (7.5YR6/6) 橙		密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0048	A	7層	土師器	短頸直口壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ケズリ		外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR3/1) 黒褐 断 (10YR7/2) にぶい黄橙		密 長石・チャートを含む	口縁部内面に黒色顔料塗布
0049	A	7層	土師器	二重口縁壺A 1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (5YR8/3) 淡橙 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (5Y5/1) 灰		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0050	A	7層	土師器	二重口縁壺A 1	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (2.5YR7/6) 橙 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (5YR8/2) 灰白		密 石英・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0051	A	7層	土師器	二重口縁壺A 1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (10YR8/3) 淡黄橙 内 (7.5YR8/3) 淡黄橙 断 (10YR8/1) 灰白		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0052	A	7層	土師器	二重口縁壺A	外 ヨコナデ 内 ナデ			外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5YR8/1) 灰白 断 (N8/0) 灰白		密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
0053	A	7層	土師器	壺	外 ナデ 内 ナデ			外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5YR8/1) 灰白 断 (2.5YR8/1) 灰白		密 石英・長石・黒雲母を含む	外来系? 山陰?
0054	A	7層	土師器	二重口縁壺A 2	外 ヨコナデ・ハケメ+ヨコナデ 内 ヨコナデ・ミガキ・ハケメ			外 (2.5Y8/3) 淡黄 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0055	A	7層	土師器	二重口縁壺B 1	外 ハケメ 内 ナデ			外 (7.5YR8/3) 淡黄橙 内 (7.5Y8/6) 淡黄橙 断 (7.5Y8/6) 淡黄橙		密 石英・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0056	A	7層	土師器	二重口縁壺B 2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (7.5YR6/2) 灰褐 内 (7.5YR7/3) にぶい橙 断 (7.5YR7/3) にぶい橙		密 石英・長石・チャートを含む	
0057	A	7層	土師器	二重口縁壺B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ			外 (5YR8/4) 淡橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR7/2) 明褐灰		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0058	A	7層	土師器	壺	外 ヨコナデ・ハケメ+ミガキ 内 ハケメ+ナデ			外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白		密 黒雲母を含む	外来系 瀬戸内
0059	A	7層	土師器	壺	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ミガキ			外 (7.5YR8/3) 淡黄橙 内 (10YR8/1) 灰白 断 (2.5Y6/1) 黄灰		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来系 瀬戸内スリップ
0060	A	7層	土師器	二重口縁壺D 2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (10YR8/4) 淡黄橙 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (2.5Y5/1) 黄灰		密 石英・長石・金雲母・赤色酸化土粒を含む	

番号	トレンチ名	階位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0061	A	7層	土師器	壺	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ユビオサエ			外(10YR8/3) 浅黄橙 内(2.5Y7/2) 灰黄 断(2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・片岩を含む	外来系 阿波 色顔料付着
0062	A	7層	土師器	壺	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外(2.5Y7/3) 浅黄 内(2.5Y8/1) 灰白 断(5Y5/1) 灰	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	外来系 瀬戸内
0063	A	7層	土師器	壺	外ナデ・ハケメ 内ハケメ			外(10YR7/2) におい黄橙 内(10YR7/2) におい黄橙 断(5YR6/4) におい橙	密 長石・チャート・黒雲母を含む	外来系 瀬戸内
0064	A	7層	土師器	直口壺	外ナデ 内ナデ	外ナデ・ユビオサエ 内ナデ	外ナデ 内ユビオサエ	外(10YR8/2) 灰白 内(10YR5/1) 褐灰 断(5YR7/4) におい橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0065	A	7層	土師器	壺	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外(7.5YR5/3) におい褐 内(5Y3/1) オリーブ黒 断(10YR3/1) 黒褐	密 角閃石・長石・雲母を含む	外来系 瀬戸内 口縁部に黒色顔料付着
0066	A	7層	土師器	壺			外ミガキ 内ナデ	外(7.5Y7/1) 灰白 内(5Y7/1) 灰白 断(5Y5/1) 灰	密 石英・長石・チャートを含む	外 底面に木の葉痕
0067	A	7層	土師器	壺			外ナデ・ハケメ 内ハケメ	外(10YR8/1) 灰白 内(2.5Y8/1) 灰白 断(2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	外 底面に木の葉痕
0068	A	7層	土師器	小形丸底壺A	外ヨコナデ 内ナデ+ユビオサエ		外ヨコナデ 内ナデ+ユビオサエ	外(5YR8/4) 淡橙 内(5YR7/3) におい橙 断(2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
0069	A	7層	土師器	小形丸底壺A	外ミガキ+ナデ 内ヨコナデ		外ナズリ+ナデ 内ヨコナデ	外(10YR8/3) 浅黄橙 内(2.5YR7/6) 橙 断(5YR7/4) におい橙	密 石英・長石・黒雲母を含む	スリップ
0070	A	7層	土師器	小形丸底壺B	外ヨコナデ 内ヨコナデ		外ヨコナデ 内ナデ	外(2.5Y6/1) 黄灰 内(2.5Y6/1) 黄灰 断(5Y7/0) 灰	密 長石・チャートを含む	粘土巻き上げ方式
0071	A	7層	土師器	小形丸底壺B	外ヨコナデ 内ヨコナデ		外ヨコナデ・ナデ・ハケメ 内ヨコナデ	外(5YR8/3) 淡橙 内(5YR8/3) 淡橙 断(5YR8/3) 淡橙	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
0072	A	7層	土師器	小形丸底壺B	外回転ナデ 内回転ナデ		外ハケメ 内ユビオサエ	外(2.5Y7/1) 灰白 内(2.5Y8/1) 灰白 断(2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	爪痕
0073	A	7層	土師器	小形丸底壺C	外ナデ 内ハケメ+ナデ		外ハケメ+ナデ 内ナデ	外(5YR8/3) 淡橙 内(5YR8/2) 灰白 断(5YR7/3) におい橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	打ち欠き
0074	A	7層	土師器	高杯A1	外ヨコナデ 内ヨコナデ		外ナデ	外(7.5YR8/3) 浅黄橙 内(10YR8/1) 明褐灰 断(7.5YR7/1) 明褐灰	密 石英・チャートを含む	
0075	A	7層	土師器	高杯A1	外ハケメ+ヨコナデ 内ヨコナデ		外ハケメ+ヨコナデ 内ナズリ	外(7.5YR8/4) 浅黄橙 内(10YR8/2) 灰白 断(5YR8/4) 淡橙	密 石英・長石・チャートを含む	
0076	A	7層	土師器	高杯A1	外ヨコナデ・ハケメ 内ヨコナデ		外ハケメ+ナデ 内ナデ	外(5YR6/4) におい橙 内(10YR8/3) 浅黄橙 断(10YR7/2) におい黄橙	密 石英・長石・チャート・雲母を含む	
0077	A	7層	土師器	高杯A2または短頸直口壺	外ヨコナデ 内ハケメ			外(7.5YR7/3) におい橙 内(7.5YR8/3) 浅黄橙 断(7.5YR5/1) 褐灰	密 石英・長石を含む	
0078	A	7層	土師器	高杯B	外調整不明 内調整不明		外調整不明 内ナデ	外(7.5YR8/4) 浅黄橙 内(10YR7/4) におい黄橙 断(7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・チャートを含む	
0079	A	7層	土師器	高杯B	外ハケメ+ミガキ 内ハケメ		外ハケメ+ミガキ 内ハケメ	外(2.5Y6/1) 黄灰 内(7.5YR6/4) におい橙 断(2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0080	A	7層	土師器	高杯B	外ヨコナデ 内ヨコナデ		外ハケメ・ユビオサエ 内ナデ	外(10YR8/1) 灰白 内(10YR8/2) 灰白 断(2.5Y8/1) 灰白	密 雲母を含む	棒状工具による削突

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
0081	A	7層	土師器	高杯B	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ナデ ナデ		外 (5YR7/1) 灰白 内 (10YR7/1) 灰白 断 (5YR7/1) 灰白		密	長石・黒雲母を含む	
0082	A	7層	土師器	高杯B	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ・ケズリ ヨコナデ	外 内 上、ヘラナデ 下、ヨコナデ・ナデ 内、ヨコナデ・ハケメ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白		密	石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0083	A	7層	土師器	高杯B	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ハケメ+ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ハケメ+ヨコナデ ヨコナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (7.5YR7/1) 明褐灰		密	石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0084	A	7層	土師器	高杯C	外 内 ハケメ+ヨコナデ ナデ・ハケメ	外 内 ハケメ+ヨコナデ ナデ	外 内 ハケメ+ヨコナデ・ナデ 調整不明	外 (10YR7/1) 灰白 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR8/1) 灰白		密	石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0085	A	7層	土師器	高杯C	外 内 調整不明 調整不明	外 内 ハケメ 調整不明	外 内 ハケメ 調整不明	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (2.5Y5/1) 黄灰		密	石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0086	A	7層	土師器	高杯C	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR8/2) 灰白		密	石英・長石・チャートを含む	
0087	A	7層	土師器	高杯D2	外 内 ハケメ+ミガキ ミガキ	外 内 ハケメ+ミガキ ミガキ	外 内 ミガキ ユビオサエ	密		密		
0088	A	7層	土師器	高杯D2	外 内 ヨコナデ ナデ+ミガキ	外 内 ユビオサエ+ナデ・ハケメ ハケメ+ナデ+ミガキ	外 内 ヨコナデ ナデ+ミガキ	外 (5YR8/4) 淡橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR7/4) にぶい橙		密	石英・長石を含む	
0089	A	7層	土師器	高杯E	外 内 ヨコナデ・ナデ ヨコナデ・ミガキ	外 内 ナデ・ハケメ ナデ+ユビオサエ	外 内 ナデ・ハケメ ナデ+ヨコナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (7.5YR8/2) 灰白		密	石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0090	A	7層	土師器	高杯			外 内 上、ナデ 下、ヨコナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白		密	石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	粘土紐巻き上げ成形
0091	A	7層	土師器	高杯			外 内 ケズリ+ヨコナデ	外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR8/3) 淡橙		密	石英・長石・チャートを含む	
0092	A	7層	土師器	高杯		外 内 ハケメ ナデ	外 内 上、ハケメ 下、ヘラナデ	外 (5YR8/4) 淡橙 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙		密	長石・赤色酸化土粒を含む	
0093	A	7層	土師器	高杯			外 内 上、ハケメ 下、調整不明	外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR5/3) にぶい赤褐 断 (5YR5/3) にぶい赤褐		密	石英・長石を含む	
0094	A	7層	土師器	高杯			外 内 ナデ・ハケメ	外 (2.5YR7/6) 橙 内 (10YR5/3) にぶい黄褐 断 (10YR7/2) にぶい黄褐		密	チャート・黒雲母を含む	
0095	A	7層	土師器	高杯		外 内 ミガキ ナデ・ユビオサエ	外 内 上、ミガキ 下、ハケメ+ナデ	外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白		密	石英・長石・チャート・黒雲母を含む	
0096	A	7層	土師器	高杯			外 内 ナデ+ケズリ ナデ	外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙		密	石英・長石・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0097	A	7層	土師器	高杯			外 内 上、ヘラナデ 下、ケズリ 内、下、ヨコナデ	外 (2.5YR6/4) にぶい橙 内 (10R6/6) 赤橙 断 (2.5YR8/2) 灰白		密	長石・チャート・黒雲母を含む	
0098	A	7層	土師器	高杯			外 内 上、ミガキ 下、ヘラナデ・ユビオサエ	外 (2.5YR7/4) 淡赤橙 内 (2.5YR7/6) 橙 断 (2.5YR7/3) 淡赤橙		密	石英・長石・チャートを含む	粘土紐巻き上げ成形
0099	A	7層	土師器	高杯			外 内 ナデ 上、ケズリ 下、ナデ	外 (7.5YR7/6) 橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (7.5YR7/6) 橙		密	石英・長石・チャートを含む	
0100	A	7層	土師器	高杯			外 内 ナデ 上、ケズリ 下、ヨコナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白		密	長石・チャート・黒雲母を含む	

番号	トレチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0101	A	7層	土師器	高杯D2	外ヨコナデ・ナデ 内ナデ	外ミガキ		外(7.5YR6/6)橙 内(7.5YR6/6)橙 断(5Y5/1)灰	密石英・長石・チャート・雲母を含む	
0102	A	7層	土師器	高杯D2		外ヨコナデ 内ヨコナデ・ユビオサエ		外(5YR8/3)淡橙 内(5YR8/3)淡橙 断(7.5YR8/3)浅黄橙	密石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
0103	A	7層	土師器	小形器台	外ナデ 内ナデ			外(2.5Y7/1)灰白 内(10YR7/2)にぶい黄橙 断(10YR8/1)灰白	密石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0104	A	7層	土師器	小形器台B	外ミガキ+ナデ 内ミガキ	外ミガキ+ナデ 内ミガキ		外(7.5Y8/4)浅黄橙 内(7.5YR8/4)浅黄橙 断(10YR7/3)にぶい黄橙	密石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0105	A	7層	土師器	小形器台C2	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ヨコナデ 内ナデ+ユビオサエ		外(10YR8/1)灰白 内(10YR8/1)灰白 断(7.5YR8/1)灰白	密石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
0106	A	7層	土師器	小形器台C	外ハケメ+ナデ 内ナデ	外ハケメ+ナデ 内ナデ		外(5YR7/4)にぶい黄橙 内(5YR7/6)橙 断(2.5Y8/1)灰白	密石英・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0107	A	7層	土師器	小形器台C	外ナデ	外ナデ		外(10YR7/3)にぶい黄橙 内(10YR7/2)にぶい黄橙 断(2.5Y7/2)灰黄	密石英・長石・雲母を含む	
0108	A	7層	土師器	小形器台C	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ミガキ+ナデ 内上、ヘラナデ		外(10YR7/3)にぶい黄橙 内(5YR7/2)にぶい黄橙 断(2.5Y8/1)灰白	密石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	打ち欠き
0109	A	7層	土師器	弥生形変A	外ヨコナデ	外タタキ		外(2.5Y5/2)暗灰黄 内(2.5Y6/1)黄灰 断(2.5Y5/4)にぶい赤褐	密石英・長石・チャートを含む	
0110	A	7層	土師器	弥生形変A	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外タタキ+ハケメ 内ヘラナデ		外(10YR6/2)灰黄褐 内(10YR3/1)黒褐 断(2.5Y7/1)灰白	密石英・長石を含む	煤附着
0111	A	7層	土師器	弥生形変A	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ			外(10YR6/2)灰黄褐 内(10YR3/1)黒褐 断(2.5Y7/1)灰白	密石英・長石・チャート・を含む	煤附着
0112	A	7層	土師器	布留形変C	外ヨコナデ・ハケメ 内ヨコナデ・ケズリ	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ケズリ		外(7.5YR8/2)灰白 内(7.5YR8/3)浅黄橙 断(7.5YR8/3)浅黄橙	密石英・長石・チャートを含む	
0113	A	7層	土師器	庄内形変B	外ヨコナデ・タタキ 内ヨコナデ・ナデ	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ナデ		外(7.5YR7/4)にぶい橙 内(10YR7/2)にぶい黄橙 断(5Y4/1)灰色	密石英・長石・チャートを含む	
0114	A	7層	土師器	布留形変B	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外(10YR4/2)灰黄褐 内(10YR7/2)にぶい黄橙 断(7.5Y6/1)灰	密石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0115	A	7層	土師器	布留形変B	外ナデ・ハケメ 内ナデ・ケズリ	外ヨコナデ・ハケメ 内ナデ・ケズリ		外(5YR7/6)橙 内(10YR8/2)灰白 断(2.5Y7/1)灰白	密石英・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0116	A	7層	土師器	布留形変B	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ナデ	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ナデ		外(2.5Y7/2)灰黄 内(7.5YR8/2)灰白 断(10YR8/2)灰白	密石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0117	A	7層	土師器	布留形変B	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ+ナデ 内ケズリ		外(2.5Y8/2)灰白 内(2.5Y8/1)灰白 断(2.5Y8/2)灰白	密長石・チャート・雲母を含む	
0118	A	7層	土師器	布留形変B	外ヨコナデ・ハケメ 内ヨコナデ・ナデ・ケズリ			外(10YR6/1)相灰 内(10YR6/1)相灰 断(10YR5/1)相灰	密石英・長石・チャートを含む	
0119	A	7層	土師器	布留形変B	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ 内ケズリ		外(10YR4/2)灰黄褐 内(2.5Y6/2)灰黄 断(2.5Y6/2)灰黄	密石英・長石・チャート・黒雲母を含む	
0120	A	7層	土師器	布留形変B	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ケズリ+ナデ	外ヨコナデ 内ケズリ		外(7.5YR8/3)浅黄橙 内(7.5YR8/6)浅黄橙 断(7.5YR7/1)明褐灰	密石英・長石・赤色酸化土粒を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
0121	A	7層	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ケズリ			外 (5YR8/4) 淡橙 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (10YR6/1) 褐灰	密	石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む		
0122	A	7層	土師器	布留形甕B	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (7.5YR8/1) 灰白 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (10YR6/1) 褐灰	密	石英・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む		
0123	A	7層	土師器	大形鉢A2	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ			外 (7.5YR8/3) 淡黄橙 内 (7.5YR8/3) 淡黄橙 断 (N6/0) 灰	密	石英・赤色酸化土粒を含む		
0124	A	7層	土師器	大形鉢A1	外 ハケメ 内 ヘラナデ	外 ハケメ 内 ヘラナデ	内 ヘラナデ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR7/1) 灰白	密	石英・長石・チャートを含む		
0125	A	7層	土師器	大形鉢A1	外 ナデ 内 ヘラナデ	外 ナデ 内 ヘラナデ		外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	長石・雲母を含む		
0126	A	7層	土師器	小形鉢A2	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (5Y7/1) 灰白 内 (N4/0) 灰白 断 (7.5Y7/1) 灰白	密			
0127	A	7層	土師器	小形鉢A2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ+ユビオサエ 内 ヘラナデ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR5/1) 褐灰	密	石英・長石・赤色酸化土粒を含む		
0128	A	7層	土師器	小形丸底鉢B	外 ミガキ	外 ナデ 内 ヘラナデ		外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (10YR6/3) にぶい黄橙	密	石英・長石・チャート赤色酸化土粒を含む		
0129	A	7層	土師器	小形丸底鉢A	外 ヨコナデ+ユビオサエ 内 ヨコナデ	外 ナデ+ユビオサエ 内 ナデ+ユビオサエ		外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (10YR6/4) にぶい黄橙	密	長石・チャートを含む		
0130	A	7層	土師器	手捏	外 ユビオサエ 内 ナデ	外 ユビオサエ 内 ナデ		外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (10YR6/4) にぶい黄橙	密	石英・長石・チャートを含む		
0131	A	7層	土師器	手捏	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (N5/0) 灰 断 (5YR7/6) 橙	密	石英・長石・チャートを含む		
0132	A	7層	土師器	羽釜		外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ		外 (10YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	石英・長石・チャートを含む	煤附着	
0133	A	7面	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (10BG6/1) 青灰 内 (10BG6/1) 青灰 断 (5B6/1) 青灰	密			
0134	A	7面	須恵器	盥	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・ナデ 内 回転ナデ・ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密			
0135	A	7面	土師器	広口蓋A	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (5YR7/8) 橙 内 (7.5YR8/3) 淡黄橙 断 (7.5YR6/1) 褐灰	密	石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む		
0136	A	7面	土師器	短頸直口壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ハケメナデ			外 (10YR7/1) 灰白 内 (10YR7/1) 黄灰 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密	石英・長石・黒雲母を含む		
0137	A	7面	土師器	二重口縁壺C 1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (7.5YR7/6) 橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5Y4/1) 灰	密	石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む		
0138	A	7面	土師器	壺	外 ナデ+ミガキ・ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (7.5YR6/6) 橙	密	石英・長石・チャートを含む	外来系 瀬戸内	
0139	A	7面	土師器	壺	外 ヨコナデ 内 ミガキ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (5YR6/4) にぶい橙	密	長石を含む	外来系 瀬戸内	
0140	A	7面	土師器	高杯E		外 ヨコナデ・ナデ・ミガキ 内 ヨコナデ		外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密			

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0141	A	7面	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (5YR5/6) 明赤褐 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (7.5YR6/4) にぶい橙	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0142	A	7面	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ハケメ			外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR6/8) 橙 断 (5YR7/6) 橙	密 石英・長石・チャートを含む	外来系 阿波
0143	A	7面	土師器	甕	外 ハケメ 内 ナデ・ユビオサエ			外 (7.5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5B7/1) 明青灰	密 長石を含む	
0144	A	7面	土師器	小形丸底鉢B 2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ケズリ	外 ナデ 内 ケズリ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (7.5Y3/1) オリーブ黒	密 長石・チャート・雲母を含む	
0145	A	8層	土師器	二重口縁壺A 1	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (7.5YR7/3) にぶい橙	密 石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
0146	A	8層	土師器	二重口縁壺A 2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ハケメ			外 (2.5YR7/4) 淡赤橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR8/3) 淡橙	密 石英・長石・チャートを含む	
0147	A	8層	土師器	二重口縁壺B	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ケズリ+ミガキ			外 (7.5YR8/1) 灰白 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR5/1) 褐灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
0148	A	8層	土師器	二重口縁壺A 2	外 ミガキ+ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	
0149	A	8層	土師器	二重口縁壺A	外 ヨコナデ・ナデ 内 ミガキ+ナデ			外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR5/2) 灰黄褐 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 長石・チャート・赤色酸化 土粒を含む	
0150	A	8層	土師器	二重口縁壺D 1	外 ナデ 内 ミガキ			外 (7.5YR6/4) にぶい橙 内 (10YR8/1) 灰白 断 (10YR5/1) 褐灰	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0151	A	8層	土師器	二重口縁壺D 2	外 ヨコナデ 内 ミガキ			外 (7.5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (N5/0) 灰	密 石英・長石・チャート・雲 母を含む	
0152	A	8層	弥生土器	壺	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ナデ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/3) 淡黄 断 (2.5Y8/2) 灰	密 石英・長石・チャート・雲 母を含む	外 ヘラ記号
0153	A	8層	弥生土器	壺		外 ナデ 内 ハケメ		外 (2.5Y8/3) 淡黄 内 (2.5Y8/3) 淡黄 断 (2.5Y8/2) 灰白	密	
0154	A	8層	弥生土器	壺		外 ハケメ 内 ナデ		外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/3) にぶい黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	爪痕
0155	A	8層	弥生土器	壺		外 ナデ 内 ナデ		外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	
0156	A	8層	土師器	壺		外 ハケメ 内 ナデ		外 (10YR6/1) 褐灰 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (7.5YR8/1) 灰白	密 石英・チャート・赤色酸化 土粒を含む	
0157	A	8層	土師器	高杯	外 ミガキ・ケズリ 内 ミガキ+ナデ			外 (5YR7/2) 明褐灰 内 (5YR7/6) 橙 断 (2.5Y7/3) 淡黄	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	外来 湖東 (奥田氏分析)
0158	A	8層	土師器	高杯B	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ハケメ+ナデ	外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ+ナデ		外 (7.5YR6/8) 橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・砂 岩を含む	
0159	A	8層	土師器	高杯	外 ミガキ 内 ミガキ			外 (5YR7/6) 橙 内 (7.5YR8/1) 灰白 断 (N5/0) 灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	外来 湖東 野洲 川か。(奥田氏分析)
0160	A	8層	土師器	高杯		外 ハケメ・ナデ 内 ケズリ+ナデ		外 (2.5YR6/6) 橙 内 (2.5YR7/6) 橙 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0161	A	8層	土師器	高杯			外上 内下 ナデ	外(7.5YR8/4) 浅黄橙 内(7.5YR8/6) 浅黄橙 断(10YR8/3) 浅黄橙	石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	
0162	A	8層	土師器	小形鉢E1	外ヨコナデ 内ナデ	外ナデ 内ナデ	外ナデ	外(2.5YR6/8) 橙 内(2.5YR6/8) 橙	密	
0163	A	8層	土師器	小形器台A1	外ミガキ 内ナデ	外ミガキ 内ナデ	外ミガキ 内ナデ	外(5YR8/4) 淡橙 内(2.5Y8/1) 灰白 断(2.5YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	
0164	A	8層	土師器	小形器台C1	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ミガキ 内調整不明	外ミガキ	外(7.5YR7/3) にぶい橙 内(7.5YR8/2) 灰白 断(7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	
0165	A	8層	土師器	小形器台A2	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ナデ 内ナデ	外上 内下 ナデ	外(2.5Y8/2) 灰白 内(2.5Y8/3) 淡黄 断(7.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	
0166	A	8層	土師器	小形器台C			外上 内下 ナデ	外(5YR7/6) 橙 内(5YR8/3) 淡橙 断(5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	粉痕
0167	A	8層	土師器	小形器台			外上 内上 内下 ナデ	外(7.5YR8/3) 浅黄橙 内(7.5YR8/3) 浅黄橙 断(7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	
0168	A	8層	土師器	小形鉢F			外ナデ	外(10YR3/1) 黒褐 内(10YR4/1) 褐灰 断(7.5YR6/3) にぶい橙	密 長石・黒雲母を含む	
0169	A	8層	土師器	小形鉢F			外ナデ 内ヨコナデ・ナデ	外(5YR7/6) 橙 内(5YR8/4) 淡黄 断(5YR5/2) 灰褐	密 チャート・雲母を含む	
0170	A	8層	土師器	弥生形壺A1	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外タタキ 内ユビオサエ	外ナデ 内ヨコナデ・ナデ	外(7.5YR6/3) にぶい橙 内(2.5YR6/1) 黄灰 断(7.5YR8/4) 浅黄橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	煤片着
0171	A	8層	土師器	弥生形壺A2	外ヨコナデ・タタキ 内ヨコナデ・ハラナデ			外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(5YR7/6) 橙 断(N6/0) 灰	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	
0172	A	8層	土師器	弥生形壺A2	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外タタキ+ハラナデ 内ハケナデ	外ナデ 内ヨコナデ	外(7.5YR8/1) 灰白 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	
0173	A	8層	弥生土器	甕	外ヨコナデ 内調整不明		外ヨコナデ 内調整不明	外(10YR3/1) 黒褐 内(10YR5/3) にぶい黄橙 断(2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	黒色物質付着
0174	A	8層	土師器	庄内形壺A	外ヨコナデ・ハケメ 内ハケメ・ケズリ			外(10YR7/1) 灰白 内(10YR7/1) 灰白 断(10YR6/1) 褐灰	密 石英・長石・チャート・角四石・赤酸化土粒を含む	外来 河内?
0175	A	8層	土師器	庄内形壺A	外ヨコナデ・タタキ+ハケメ 内ヨコナデ・ケズリ			外(2.5Y5/1) 黄灰 内(N6/0) 灰 断(2.5Y7/1) 灰白	密 長石・チャート・角四石・黒雲母・赤酸化土粒を含む	外来 河内?
0176	A	8層	土師器	庄内形壺A	外ヨコナデ 内ハケメ・ケズリ			外(10YR3/2) 黒褐 内(10YR4/2) 灰黄褐 断(2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・角四石・黒雲母・赤酸化土粒を含む	外来 河内?
0177	A	8層	土師器	布留形壺A	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ 内ケズリ	外ハケメ 内ユビオサエ	外(5YR7/3) にぶい橙 内(10YR6/2) 灰黄褐	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	
0178	A	8層	弥生土器	甕	外ヨコナデ 内ナデ	外板ナデ 内ナデ・ケズリ		外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(10YR7/1) 灰白	密 長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	
0179	A	8層	土師器	甕			外タタキ 内ナデ・ユビオサエ	外(2.5Y7/1) 灰白 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	
0180	A	8層	土師器	甕			外タタキ 内ユビオサエ	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(2.5Y4/1) 黄灰 断(10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャートを含む	



番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0181	A	8層	弥生土器	甕	外ヨコナデ・ハケメ 内ヨコナデ・ユビオサエ	外調整不明 内ナデ		外(5YR4/2) 灰褐 内(2.5YR5/1) 黄灰 断(2.5YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	
0182	A	8層	土師器	鉢	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外(2.5YR5/1) 黄灰色 内(10YR7/1) 灰白 断(N5/0) 灰色	密 石英・長石を含む	外来系? 山陰
0183	A	8層	土師器	小形鉢A1	外タタキ	外タタキ	外タタキ・ケズリ	外(10YR4/1) 褐灰 内(10YR6/1) 褐灰 断(10YR6/1) 褐灰	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	
0184	A	8層	土師器	小形鉢B2	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ミガキ 内ヨコナデ	外ミガキ 内ユビオサエ	外(10YR7/3) にぶい黄橙 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャートを含む	
0185	A	8層	土師器	小形丸底鉢A		外ナデ・タタキ 内ヘラナデ	外ナデ・タタキ 内ヘラナデ	外(5YR6/3) にぶい橙 内(2.5Y7/1) 灰白 断(5YR7/6) 橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来 河内?
0186	A	9層	弥生土器	器台	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外(2.5Y5/2) 暗灰黄 内(2.5Y5/2) 暗灰黄 断(2.5Y5/2) 暗灰黄	密 石英・長石・チャート・角閃石・赤色酸化土粒を含む	
0187	A	9層	土師器	布留形甕A	外ハケメ+ナデ 内ナデ・ヘラナデ			外(7.5YR3/1) 黒褐 内(7.5YR8/3) 浅黄橙 断(7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	
0188	A	9層	弥生土器	甕	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ナデ	外ミガキ 内ナデ		外(10YR3/1) 黒褐 内(10YR6/3) にぶい黄橙 断(10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0189	A	9面	弥生土器	甕	外ナデ 内ナデ	外ミガキ 内板ナデ	外ミガキ 内板ナデ	外(10YR3/2) 黒褐 内(10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・雲母を含む	
0190	A	10層	土師器	小形器台C1	外ミガキ+ヨコナデ 内ミガキ	外ケズリ+ミガキ 内ミガキ	外ミガキ	外(7.5YR6/4) にぶい橙 内(7.5YR7/4) にぶい橙 断(7.5YR7/3) にぶい橙	密 長石を含む	棒状工具による割突
0191	A	10層	弥生土器	長頸甕	外ヨコナデ・ミガキ 内ヨコナデ・ナデ+ユビオサエ			外(2.5Y7/2) 灰黄 内(5Y7/2) 灰白 断(5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	朱痕?
0192	A	10層	弥生土器	甕	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ヘラナデ 内ナデ+ユビオサエ		外(2.5Y7/3) 浅黄 内(2.5Y7/2) 灰黄 断(10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	煤片着
0193	A	10層	弥生土器	甕	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ 内ヘラナデ		外(10YR2/1) 黒 内(7.5YR7/2) 明褐灰 断(7.5YR8/2) 灰白	密 長石・赤色酸化土粒を含む	
0194	A	10層	弥生土器	甕		外ケズリ 内ユビオサエ	外ケズリ 内ユビオサエ	外(7.5R5/3) にぶい赤褐 内(N4/0) 灰色 断(N7/0) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	
0195	A	10層	弥生土器	甕		外ハケメ	外ハケメ	外(2.5Y7/2) 浅黄 内(2.5Y7/2) 浅黄 断(N4/0) 灰	密 チャート・長石を含む	底部に木の葉痕
0196	A	10層	弥生土器	甕		外ミガキ		外(10YR6/1) 褐灰 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・長石・チャートを含む	
0197	A	10層	弥生土器	把手付台付鉢	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ナデ+ミガキ 内ハケメナデ+ミガキ		外(2.5Y7/2) 灰黄 内(10YR8/2) 灰白 断(5Y4/1) 灰	密 石英・長石・チャートを含む	
0198	A	11層	弥生土器	甕	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ 内ナデ		外(10YR5/2) 灰黄褐 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(10YR8/4) 浅黄橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	煤片着
0199	A	1面 河川1	磁器(染付)	碗				外(2.5GY8/1) 灰白 内(7.5GY8/1) 明緑灰 断(N8/0) 灰白	密	外 施釉 内 施釉
0200	A	1面 河川1	磁器(青磁)	碗				外 内断(7.5YR8/2) 灰白	密	外 施釉 内 施釉

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
0201	A	1面 河川1	磁器(青磁)	碗				外(7.5GY7/1)明緑灰 内(5CG7/1)明緑灰 断(7.5Y8/1)灰白	密		高合部砂付着	
0202	A	1面 河川1	須恵器	擂鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ・沈線			外(2.5GY5/1)オリーフ灰 内(2.5Y8/1)明赤灰 断(5R7/1)明赤灰	密		備前	
0203	A	1面 河川1	瓦器	碗				外(2.5Y8/1)灰白 内(2.5Y8/1)灰白	密			
0204	A	1面 河川1	瓦器	皿	外 ナデ 内 ナデ+ミガキ			外(2.5Y8/1)灰白 内(2.5Y8/1)灰白	密			
0205	A	1面 河川1	土師器	鍋	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ		外(2.5Y3/1)黒褐 内(10YR7/3)にぶい黄橙 断(10YR8/3)浅黄橙	密			
0206	A	1面 河川1	須恵器	捏鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外(2.5Y8/1)灰白 内(2.5Y8/1)灰白	密		東播系	
0207	A	1面 河川1	須恵器	双耳壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 ナデ 内 回転ナデ		外(2.5Y8/1)灰白 内(2.5Y8/1)灰白	密			
0208	A	1面 河川1	須恵器	壺	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ナデ+ユビオサエ			外(2.5Y8/1)灰白 内(2.5Y8/1)灰白	密			
0209	A	7面 河川4	土師器	二重口縁壺A 1	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ミガキ			外(5YR8/3)淡黄橙 内(7.5YR8/2)灰白 断(7.5YR8/1)灰白	密	石英・長石・赤色酸化土粒を含む		
0210	A	1面 河川1	土師器	二重口縁壺B 1	外 ハケメ 内 ミガキ			外(7.5YR8/3)淡黄橙 内(7.5YR7/4)にぶい橙 断(10YR6/1)褐灰	密	石英・チャート・赤色酸化土粒を含む		
0211	A	1面 河川1	土師器	高杯D2	外 ヨコナデ 内 ミガキ+ナデ	外 ミガキ 内 ミガキ+ナデ		外(7.5YR7/2)明褐灰 内(7.5YR7/4)にぶい橙 断(10YR8/1)灰白	密	長石・黒雲母を含む		
0212	A	1面 河川1	土師器	高杯	外 ナデ 内 ハケメ	外 ナデ 内 ハケメ		外(2.5Y7/1)灰白 内(7.5YR7/6)橙 断(5YR7/6)橙	密	石英・長石・チャートを含む	外来系?	
0213	A	1面 河川1	磁器	天目碗				外(5Y8/1)灰白 内(5Y8/1)灰白	密		外 施釉(鉄軸) 内 施釉(鉄軸)	
0214	A	1面 鑄溝2	瓦器	皿	外 ナデ 内 ミガキ	外 ナデ 内 ミガキ		外(5B4/1)明青灰 内(5PB4/1)明青灰 断(2.5GY8/1)灰白	密			
0215	A	1面 溝63	須恵器	捏鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(7.5Y8/2)灰白 内(2.5Y8/1)灰白 断(7.5Y8/1)灰白	粗		東播系	
0216	A	1面 溝64	瓦器	火鉢	外 ナデ 内 ナデ			外(2.5Y8/1)灰白 内(2.5Y6/2)灰黄 断(2.5Y8/1)灰白	密		菊花文 スタンプ	
0217	A	1面 溝64	須恵器	捏鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(10Y7/1)灰白 内(7.5Y7/1)灰白 断(7.5Y7/1)灰白	密		東播系	
0218	A	1面 溝100	土師器	壺	外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ・ナデ	内 ナデ・ユビオサエ		外(10YR7/3)にぶい黄橙 内(7.5YR8/3)淡黄橙 断(10YR7/2)にぶい黄橙	密	石英・長石・チャートを含む		
0219	A	6面建物1 穴396	土師器	小形鉢A2	外 ユビオサエ 内 ナデ	外 ユビオサエ 内 ナデ		外(7.5YR8/3)淡黄橙 内(7.5YR8/2)灰白 断(10YR8/1)灰白	密			
0220	A	6面建物2 穴414	土師器	小形丸底鉢A	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ユビオサエ 内 板ナデ		外(7.5YR7/6)橙 内(7.5YR7/6)橙 断(7.5YR8/4)浅黄橙	密	長石・チャート・黒雲母を含む	外 爪痕	

番号	トレンチ名	階位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
0221	A	6面建物2 穴417	土師器	小形丸底壺C	外ナデ 内ナデ	外ナデ 内ユビオサエ		外(10YR5/2) 灰黄褐 内(10YR4/1) 褐灰 断(10YR5/2) 灰黄褐		密	石英・長石・チャートを含む	
0222	A	6面 穴314	須恵器	高杯	外回転ナデ 内回転ナデ	外回転ナデ 内回転ナデ		外(7.5Y7/1) 灰白 断(5Y7/1) 灰白		密		
0223	A	6面 穴317	土師器	広口壺B	外ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ 内ヨコナデ・ナデ		外上、ナデ 下、ヘラナデ 内上、ケズリ+ナデ 下、ヨコナデ	外(2.5Y8/2) 灰白 内(2.5Y8/2) 灰白 断(2.5Y7/2) 灰黄		密	石英・長石・チャート・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0224	A	6面 穴317	土師器	高杯				外(2.5Y8/1) 灰白 内(2.5Y8/2) 灰白 断(10YR8/1) 灰白		密	石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0225	A	6面 穴317	土師器(軟質土器)	甕	外ヨコナデ・タタキ 内ナデ	外タタキ 内ナデ		外(2.5Y8/2) 灰白 内(2.5Y8/2) 灰白 断(10YR7/3) にぶい黄橙		密	石英・長石を含む	煤付着
0226	A	6面 溝74	土師器	高杯B	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ 内ナデ	外ハケメ	外(2.5YR5/6) 明赤褐 内(2.5YR5/6) 明赤褐 断(2.5YR6/1) 赤灰		密	石英・長石・チャートを含む	
0227	A	6面 溝74	土師器	高杯			外上、ヘラナデ 内ユビオサエ 下、ヨコナデ	外(7.5YR8/4) 浅黄橙 内(7.5YR8/4) 浅黄橙 断(7.5YR8/4) 浅黄橙		密	石英・長石・チャートを含む	
0228	A	6面 溝73	土師器	庄内形甕A	外ヨコナデ・タタキ 内ハケメ・ケズリ			外(2.5Y7/1) 灰白 内(10YR7/1) 灰白 断(2.5Y7/1) 灰白		密	石英・長石・チャート・角閃石・赤色酸化土粒を含む	外来 河内?
0229	A	6面 溝78	須恵器	杯身	外回転ナデ 内回転ナデ			外(7.5Y7/1) 灰白 内(7.5Y7/1) 灰白 断(N8/0) 灰白		密		
0230	A	6面 溝72	須恵器	高杯		外回転ナデ 内ナデ	外回転ナデ 内回転ナデ・ナデ	外(N7/0) 灰白 内(N7/0) 灰白 断(7.5Y7/1) 灰白		密		
0231	A	6面 溝69	土師器	広口壺B	外ヨコナデ・ナデ 内ハケメ+ナデ・ナデ			外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(2.5Y7/1) 灰白 断(2.5Y7/3) 浅黄		密	石英・長石・チャートを含む	
0232	A	建物4 穴453	土師器	二重口縁壺A	外ヨコナデ+ハケメ 内板ナデ・ハケメ			外(2.5Y8/2) 灰白 内(2.5Y8/2) 灰白 断(2.5Y8/1) 灰白		密	石英・長石・黒雲母を含む	
0233	A	建物8 穴425	土師器	弥生形甕A	外ナデ・タタキ 内ナデ			外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(7.5YR8/2) 灰白 断(10YR8/2) 灰白		密		
0234	A	7面 穴348	土師器	小形器台C1	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ハケメ	外ナデ・ユビオサエ	外ハケメ+ヘラナデ 内上、ユビオサエ・ハケメ 下、ハケメ	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(7.5YR7/2) 明褐灰 断(2.5Y6/1) 黄灰		密	石英・長石・チャートを含む	
0235	A	7面 穴360	須恵器	杯身	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ケズリ	外(5G3/1) 暗緑灰 内(5PB5/1) 青灰		密		
0236	A	7面 穴380	土師器	高杯			外ナデ 内下、ヨコナデ	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(2.5Y5/1) 黄灰		密	石英・長石を含む	
0237	A	7面 穴381	土師器	鉢	外ナデ 内ナデ			外(7.5YR5/8) 明褐 内(7.5YR6/8) 赭 断(7.5YR5/1) 褐灰		密	石英・長石・チャートを含む	
0238	A	7面 穴427	土師器	手捏	外ハケメ+ナデ 内ヨコナデ	外ハケメ+ナデ・ユビオサエ 内ヨコナデ	外ハケメ+ナデ 内ヨコナデ	外(2.5Y8/1) 灰白 内(2.5Y7/2) 灰黄 断(2.5Y8/1) 灰白		密	長石・チャート・雲母を含む	
0239	A	7面 穴451	土師器	高杯C	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ケズリ+ナデ		外(7.5YR8/3) 浅黄橙 内(7.5YR8/4) 浅黄橙 断(7.5YR8/2) 灰白		密		梅状工具による刺突
0240	A	7面 穴468	土師器	高杯	外ヨコナデ 内ヨコナデ		外上、ケズリ・ミガキ 下、ヨコナデ 内上、ケズリ 下、ヨコナデ	外(2.5Y6/1) 黄灰 内(2.5Y7/1) 灰白 断(N5/0) 灰		密	石英・長石・チャート・黒雲母を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
0241	A	7面 穴480	土師器	高杯C	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外(5YR7/6) 橙 内(10YR8/3) 浅黄橙 断(10YR6/6) 明黄褐	密	石英・長石・雲母を含む		
0242	A	7面 穴485	土師器	高杯B	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ケズリ・ケズリ+ナデ 内ナデ	外(2.5Y8/1) 灰白 内(2.5Y8/1) 灰白 断(2.5Y8/1) 灰白	密	石英・長石・チャート・黒雲母を含む			
0243	A	8面 穴685	土師器	小形丸底壺	外ヨコナデ・ミガキ 内ヨコナデ・ナデ	外ミガキ 内ナデ	外(2.5Y7/2) 灰黄 内(2.5Y8/2) 灰白 断(2.5Y8/2) 灰白	密	長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む			煤付着
0244	A	7面 穴491	土師器	壺		外タタキ 内板ナデ	外(10YR7/3) にぶい黄橙 内(10YR7/3) にぶい黄橙 断(2.5Y6/1) 黄灰	密	石英・長石・チャートを含む			
0245	A	7面 穴491	土師器	高杯		外ハラナデ 内ケズリ	外(5YR6/4) にぶい橙 内(10YR7/1) 灰白 断(7.5YR7/1) 明焼灰	密				
0246	A	7面 穴495	土師器	小形器台C 3	外ヨコナデ 内ナデ	外ナデ 内ナデ	外(7.5YR7/4) にぶい橙 内(7.5YR8/4) 浅黄橙 断(10YR7/3) にぶい黄橙	密	石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む			
0247	A	7面 穴509	土師器	小形丸底壺B 2	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハラナデ・ハケメ 内ナデ	外(2.5Y8/2) 灰白 内(7.5Y8/2) 灰白	密	石英・チャート・赤色酸化土粒を含む			
0248	A	7面 穴509	土師器	高杯		外上、ハラナデ・ナデ 内ナデ	外(5YR8/4) 淡橙 内(7.5YR8/3) 浅黄橙 断(7.5YR8/3) 浅黄橙	密				
0249	A	7面 穴582	土師器	小形壺A 4	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外タタキ 内ナデ	外(N2/0) 黒 内(10YR8/3) 浅黄橙 断(5Y5/1) 灰	密				
0250	A	7面 穴587	土師器	小形丸底壺B 2	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ナデ・ハケメ 内ケズリ+ナデ・ユビオサエ	外(7.5YR8/8) 黄橙 内(7.5YR7/6) 橙 断(7.5YR7/6) 橙	密	長石を含む			
0251	A	7面 穴587	土師器	高杯	外ミガキ 内ナデ+ミガキ・ハケメ+ミガキ	外ミガキ 内ナデ+ミガキ・ハケメ+ミガキ	外(5YR8/4) 淡橙 内(5YR7/6) 橙 断(10YR7/3) にぶい黄橙	密	長石・チャート・赤色酸化土粒を含む			
0252	A	7面 穴587	土師器	高杯		外ハラナデ 内上、ケズリ 下、ハケメ	外(10YR8/2) 灰白 内(10YR8/3) 浅黄橙 断(10YR8/2) 灰白	密				
0253	A	7面 穴616	土師器	高杯E		外ミガキ 内ヨコナデ	外(10YR7/1) 灰白 内(10YR7/1) 灰白 断(10YR7/1) 灰白	密	石英・長石・チャートを含む			
0254	A	7面 溝120	須恵器	杯身	外回転ケズリ 内回転ナデ		外(N7/0) 灰白 内(N7/0) 灰白 断(N7/0) 灰白	密				
0255	A	7面 溝120	土師器	短頸壺A	外ヨコナデ 内ヨコナデ		外(7.5YR8/2) 灰白 内(7.5YR8/2) 灰白 断	密				
0256	A	7面 溝120	土師器	短頸壺A	外ハケメ・ミガキ 内ハケメ+ナデ	外ハケメ・ミガキ 内ナデ	外(5YR7/3) にぶい橙 内(10YR7/1) 灰白 断(2.5Y5/1) 青灰	密	長石を含む			
0257	A	7面 溝120	土師器	短頸壺A	外ミガキ 内ミガキ		外(2.5Y6/2) 灰黄 内(2.5Y6/2) 灰黄 断(2.5Y7/2) 灰黄	密	石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む			
0258	A	7面 溝120	土師器	短頸壺A	外ミガキ 内ミガキ	外ミガキ 内ハラナデ	外(7.5YR7/4) にぶい橙 内(7.5YR7/3) にぶい橙 断(7.5YR8/3) 浅黄橙	密				ヘラ
0259	A	7面 溝120	土師器	壺	外ナデ+ミガキ・ミガキ・ハケメ 内ナデ		外(5YR6/2) 灰褐 内(2.5YR7/3) 淡赤橙 断(5YR6/1) 焼灰	密	石英・長石・雲母を含む			外来 阿波 (奥田氏御祭) 内面黒色顔料塗布
0260	A	7面 溝120	土師器	壺	外ヨコナデ・ハケメ 内ヨコナデ		外(2.5Y6/2) 灰黄 内(2.5Y6/2) 灰黄 断(2.5Y6/1) 黄灰	密	石英・チャートを含む			外来系 瀬戸内

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0261	A	7面 溝120	土師器	壺	外 ナデ・ハケメ 内 ミガキ			外 (2.5YR8/2) 灰白 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 長石・雲母・角閃石を含む	外来系? 瀬戸内 内面黒色顔料塗布
0262	A	7面 溝120	土師器	二重口縁壺	外 ミガキ 内 ヘラナデ・ハケメ			外 (7.5YR3/1) 黒褐 内 (2.5Y5/1) 黄灰 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・長石・チャートを含む	
0263	A	7面 溝120	土師器	壺	外 ハケメ 内 ケズリ・ユビオサエ			外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (N6/0) 灰	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	ヘラ記号
0264	A	7面 溝120	土師器	直口壺	外 タデミガキ+コナナデ 内 ミガキ+ヨコナナデ			外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y6/2) 灰黄	密 長石を含む	
0265	A	7面 溝120	土師器	小形丸底壺	外 ナデ 内 ケズリ	外 ナデ・ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙	密	煤付着 内面穀物粒痕
0266	A	7面 溝120	土師器	小形丸底壺B	外 ヨコナナデ 内 ヨコナナデ	外 ユビオサエ+ナデ 内 ユビオサエ	外 ユビオサエ+ナデ 内 ユビオサエ	外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (10YR5/2) 灰黄褐 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密	
0267	A	7面 溝120	土師器	小形丸底壺C	外 ナデ 内 ユビオサエ	外 ナデ 内	外 ケズリ 内 ユビオサエ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	
0268	A	7面 溝120	土師器	壺		外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (5YR7/6) 橙 内 (7.5YR7/3) にぶい黄橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	密 雲母を含む	
0269	A	7面 溝120	土師器	高杯B	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 上、ヘラナデ+ミガキ 内、ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (2.5Y6/2) 灰黄	密 チャート・赤色酸化土粒を含む	
0270	A	7面 溝120	土師器	高杯B	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ナデ・ミガキ	外 (7.5YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断	密	
0271	A	7面 溝120	土師器	高杯C	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ナデ	外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (5YR6/6) 橙	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0272	A	7面 溝120	土師器	高杯B	外 ヨコナナデ 内 ヨコナナデ	外 ユビオサエ 内 ヨコナナデ	外 ユビオサエ 内 ヨコナナデ	外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	
0273	A	7面 溝120	土師器	高杯	外 ハケメ	外 ハケメ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (7.5YR6/3) にぶい褐 断	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	
0274	A	7面 溝120	土師器	高杯D2		外 ミガキ・ハケメ+ミガキ+ナデ 内 ハケメ	外 ミガキ 内 ハケメ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙	密 石英・チャート・雲母・赤 色酸化土粒を含む	打ち欠き
0275	A	7面 溝120	土師器	高杯		外 上、ミガキ 内、ミガキ+ナデ 外 上、ナデ 内、ヨコナナデ	外 上、ミガキ 内、ナデ 外 ミガキ 内 ケズリ	外 (7.5YR6/3) にぶい褐 内 (7.5YR8/6) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	
0276	A	7面 溝120	弥生土器	高杯	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ケズリ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 チャートを含む	
0277	A	7面 溝120	土師器	高杯D1	外 ヘラナデ 内 ナデ	外 ヘラナデ 内 ナデ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密	
0278	A	7面 溝120	土師器	高杯D1		外 ミガキ・ユビオサエ 内 板ナデ・ナデ	外 ミガキ 内 板ナデ・ナデ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 長石・雲母を含む	
0279	A	7面 溝120	土師器	高杯A	外 ヨコナナデ 内 ミガキ	外 ヨコナナデ 内 ナデ	外 ヨコナナデ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5YR7/3) 浅黄 断 (10YR8/2) 灰白	密 長石・チャート・黒雲母・ 赤色酸化土粒を含む	
0280	A	7面 溝120	土師器	弥生形壺A2	外 ナデ・タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (N8/0) 暗灰 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0281	A	7面 溝120	土師器	弥生形甕A 2	外 ナデ・ハケメ+ナナデ 内 ナデ	外 タタキ+ハケメ・タタキ 内 ナデ	外 タタキ・ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0282	A	7面 溝120	土師器	庄内形甕A	外 ナデ・タタキ 内 ナデ・ハケメ・ケズリ	外 ナデ・タタキ 内 ナデ・ハケメ・ケズリ	外 ナデ・タタキ 内 ナデ・ハケメ・ケズリ	外 (10YR4/2) 灰黄褐 内 (10YR4/2) 灰黄褐 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密 石英・長石・角閃石・赤色酸化土粒を含む	外来 河内
0283	A	7面 溝120	土師器	布留形甕A	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ナデ・ケズリ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	
0284	A	7面 溝120	土師器	布留形甕C	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ・ケズリ	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ・ケズリ	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ・ケズリ	外 (5Y2/1) 黒 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR5/1) 褐灰	密 石英・長石・雲母を含む	
0285	A	7面 溝120	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ	外 (5YR3/1) 黒褐 内 (5YR8/3) 淡黄	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0286	A	7面 溝120	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 (7.5YR1.7/1) 黒 内 (7.5YR6/3) にぶい褐	密 石英・長石・雲母を含む	
0287	A	7面 溝120	土師器	布留形甕C	外 ナデ+ハケメ 内 ハケメ+ナナデ・ナデ	外 ナデ+ハケメ 内 ハケメ+ナナデ・ナデ	外 ナデ+ハケメ 内 ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	密	
0288	A	7面 溝120	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ケズリ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ケズリ	外 ヨコナデ 内 ナデ・ケズリ	外 (2.5YR8/3) 浅黄橙 内 (2.5Y8/3) 浅黄橙 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0289	A	7面 溝120	土師器	布留形甕C	外 ナデ 内 ナデ・ケズリ	外 ナデ 内 ナデ・ケズリ	外 ナデ 内 ナデ・ケズリ	外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR7/3) にぶい橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	密	
0290	A	7面 溝120	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	
0291	A	7面 溝120	土師器	布留形甕A	外 ナデ 内 ナデ・板ケズリ	外 ナデ 内 ナデ・板ケズリ	外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/4) 或黄橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	密	
0292	A	7面 溝120	土師器	大形鉢	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 長石・チャートを含む	
0293	A	7面 溝120	土師器	中形鉢	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (N3/0) 暗灰 内 (10YR6/1) 褐灰 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密	
0294	A	7面 溝120	土師器	中形鉢A	外 ハケメ+ナナデ 内 ハケメ+ナナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (7.5YR8/4) 或黄橙 断 (10YR6/1) 褐灰	粗 石英・長石を含む	
0295	A	7面 溝120	土師器	小形鉢A 1	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 (10YR5/4) にぶい黄褐 内 (10YR4/4) 褐 断 (10Y5/1) 灰	密	
0296	A	7面 溝120	土師器	小形鉢	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 (2.5YR5/4) にぶい赤褐 内 (7.5YR6/4) にぶい橙 断 (5YR6/3) にぶい橙	密 石英・長石を含む	赤色顔料(鉄+水銀)外面欠損部に煤付着
0297	A	7面 溝120	土師器	手捏	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR6/1) 褐灰 断 (10YR7/1) 灰白	密	
0298	A	7面 溝120	土師器	手捏	外 ヘラナデ 内 ケズリ	外 ヘラナデ 内 ケズリ	外 ナデ・ヘラナデ 内 ケズリ	外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (7.5YR6/2) 灰褐 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0299	A	7面 溝120	土師器	手捏	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密 長石・雲母を含む	
0300	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢A	外 ミガキ 内 ナデ・ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 長石・長石を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0301	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 1	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ		外 (10YR5/1) 褐灰 内 (10YR5/2) 灰黄褐 断 (10YR6/4) にぶい黄橙	粗	
0302	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 1	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 ナデ 内 ヘラナデ	外 ケズリ 内 ケズリ	外 (10YR5/2) 灰黄褐 内 (10YR5/2) 灰黄褐 断 (10YR6/2) 灰黄褐	粗 長石・黒雲母を含む	
0303	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 2	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 ケズリ・ハケメ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (10Y8/3) 残黄橙	密	
0304	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 2	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	粗 石英を含む	打ち欠き
0305	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ミガキ 内 ケズリ	外 ナデ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄	密 心	長石・チャート・雲母を含む
0306	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ・ケズリ 内 ケズリ	外 ケズリ 内 ケズリ	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (5Y8/1) 灰白	密	石英・長石・チャート・雲母・赤色酸化土粒を含む
0307	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 3	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密	石英・長石を含む
0308	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 3	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ユビオサエ	外 ハケメ 内 ユビオサエ	外 (10YR7/4) にぶい黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密	長石・黒雲母を含む
0309	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 3	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 (7.5YR7/2) 明褐 内 (7.5YR8/3) 残黄橙 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密	石英・長石・雲母を含む
0310	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 3	外 ヨコナデ 内 ハケメ	外 ケズリ+ナデ 内 ナデ	外 ケズリ+ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	石英・雲母を含む
0311	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 3	外 ナデ 内 ハケメ+ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰黄	密	長石・雲母を含む
0312	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢C 1	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (5YR6/6) 橙	密	
0313	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢C 2	外 ナデ 内 ナデ・ミガキ	外 ナデ 内 ナデ・ミガキ	外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	粗	
0314	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢C 2	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/1) 灰白	密	
0315	A	7面 溝120	土師器	小形丸底鉢C 3	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ミガキ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 (N5/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (2.5YR5/8) 明赤褐	密		
0316	A	7面 溝120	土師器	蓋	外 ユビオサエ+ナデ 内 ハケメ+ナデ	外 ユビオサエ+ナデ 内 ハケメ+ナデ	外 ユビオサエ+ナデ 内 ハケメ+ナデ	外 (7.5YR6/3) にぶい褐 内 (2.5Y4/1) 黄灰 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	石英・長石・雲母を含む
0317	A	7面 溝120	土師器	蓋	外 ナデ 内 ハケメ+ナデ	外 ナデ 内 ハケメ+ナデ	外 ナデ 内 ハケメ+ナデ	外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (7.5YR4/3) 褐 断 (10YR6/1) 褐灰	密	
0318	A	7面 溝120	土師器	鉢 把手				外 (10YR8/2) 灰白	密	長石・チャートを含む
0319	A	7面 溝120 砂層	土師器	広口壺B	外 ミガキ 内 ミガキ			外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR8/3) 残黄橙	密	
0320	A	7面 溝120 砂層	土師器	短頸直口壺	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ・ハケメ			外 (5YR7/6) 橙 内 (7.5YR7/3) にぶい橙 断 (5PB5/3) 青灰	密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
0321	A	7面 溝120 砂層	土師器	短頸壺A	外 ナデ+ハケメ・ハケメ+ナデ+ハケメ 内 ハケメ・ナデ			外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (7.5YR5/3) にぶい褐		密		
0322	A	7面 溝120 砂層	土師器	短頸壺B	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (2.5Y8/3) 淡黄 内 (2.5Y7/3) 淡黄 断 (2.5Y8/3) 淡黄		密	石英・長石を含む	
0323	A	7面 溝120 砂層	土師器	二重口縁壺B 2	外 ナデ 内 ナデ			外 (10YR6/2) にぶい黄橙 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR7/1) 灰白		密	石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0324	A	7面 溝120 砂層	土師器	二重口縁壺B 2	外 ナデ 内 ミガキ			外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (10YR7/2) にぶい黄橙		密	石英・長石・雲母を含む	
0325	A	7面 溝120 砂層	土師器	二重口縁壺B 1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (10YR7/2) にぶい黄橙		密	長石・チャートを含む	
0326	A	7面 溝120 砂層	土師器	二重口縁壺B 2	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (N4/0) 灰		密	石英・チャートを含む	
0327	A	7面 溝120 砂層	土師器	二重口縁壺B 1	外 ミガキ 内 ヨコナデ・ミガキ			外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (7.5YR5/3) にぶい褐 断 (2.5Y7/1) 灰白		密		
0328	A	7面 溝120 砂層	土師器	二重口縁壺D 2	外 ナデ 内 ナデ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (10YR6/3) にぶい黄橙		密	石英・長石を含む	
0329	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	外 ミガキ 内 ヨコナデ+ミガキ			外 (2.5YR7/2) 灰黄 内 (2.5YR7/2) 灰黄 断 (2.5YR7/2) 灰黄		密	長石・チャートを含む	外来系?
0330	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	外 ミガキ 内 ナデ+ミガキ			外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR7/4) にぶい橙 断 (5YR6/4) にぶい橙		密	石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 瀬戸内
0331	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (2.5Y7/3) 淡黄 内 (5Y4/1) 灰 断 (7.5Y4/1) 灰色		密		外来系 瀬戸内
0332	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	外 ミガキ 内 ミガキ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR3/1) 黒褐		密	石英・長石・雲母を含む	外来系 瀬戸内
0333	A	7面 溝120 砂層	土師器	二重口縁壺	外 ハケメ 内 ナデ・ハケメ			外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR8/3) 淡黄橙		密	石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0334	A	7面 溝120 砂層	土師器	二重口縁壺	外 ミガキ 内 ケズリ+ミガキ			外 (2.5YR7/4) 淡赤橙 内 (5YR8/3) 淡橙 断 (5YR8/2) 灰白		密	長石・赤色酸化土粒を含む	外面赤色顔料?
0335	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	外 ナデ 内 ナデ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR5/3) にぶい黄褐		密		外来系 山陰?
0336	A	7面 溝120 砂層	土師器	広口壺	外 ミガキ 内 ナデ・ミガキ			外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR7/3) にぶい橙 断 (N4/0) 灰		密	石英・長石・チャート・黒雲母赤色酸化土粒を含む	スリップ?
0337	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	外 ナデ 内 板ナデ			外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/3) 淡黄橙		密		
0338	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	外 ナデ 内 板ナデ			外 (10YR7/2) にぶい橙 内 (7.5YR6/3) にぶい橙 断 (10YR8/2) 灰白		密		
0339	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ			外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR7/3) にぶい橙		密	石英・長石・雲母を含む	
0340	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺	外 ナデ・ミガキ・ユビオサエ 内 ハケメ			外 (7.5YR6/4) にぶい橙 内 (7.5YR4/2) 灰褐 断 (7.5YR8/2) 灰白		密	石英・長石・雲母を含む	



番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0341	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺			外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙	粗	
0342	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺			外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5YR6/3) にぶい橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR5/1) 褐灰	密 石英・チャートを含む	
0343	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺			外 ナデ 内 板ナデ	外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (5YR7/6) 橙	粗	
0344	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺			外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10R4/4) 赤褐 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・チャートを含む	赤色顔料(鉄)
0345	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺			外 ミガキ 内 板ナデ・ミガキ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	
0346	A	7面 溝120 砂層	土師器	壺			外 ミガキ+ナデ・ミガキ・ナデ	外 (5YR7/2) 明褐灰 内 (7.5YR4/3) 暗赤褐 断 (5YR6/3) にぶい橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	朱
0347	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形丸底壺	外 タタキ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内 ナデ		外 (2.5Y5/2) 暗灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (N4/0) 灰	密 石英・長石・チャートを含む	
0348	A	7面 溝120 砂層	土師器	高杯B	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ケズリ+ナデ 内 ヨコナデ		外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 長石・赤色酸化土粒を含む	
0349	A	7面 溝120 砂層	土師器	高杯B	外 ヨコナデ+ハケメ+ミガキ 内 ハケメ+ミガキ	外 ヨコナデ+ハケメ+ミガキ 内 ハケメ+ミガキ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0350	A	7面 溝120 砂層	土師器	高杯B	外 ケズリ+ナデ 内 ナデ+ミガキ	外 ケズリ+ナデ 内 ナデ+ミガキ		外 (7.5YR2/1) 黒 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR4/1) 褐灰	密 長石を含む	
0351	A	7面 溝120 砂層	土師器	高杯B	外 ハケナデ 内 ハケナデ	外 ハケナデ 内 ハケナデ		外 (7.5YR6/4) にぶい橙 内 (7.5YR5/4) にぶい褐 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密 長石を含む	
0352	A	7面 溝120 砂層	土師器	高杯	外 ハケメ+ミガキ 内 ハケメ+ミガキ	外 ハケメ+ミガキ 内 ハケメ+ミガキ		外 (7.5YR7/6) 橙 内 (10YR7/4) にぶい黄橙 断 (2.5YR6/1) 黄灰色	密	
0353	A	7面 溝120 砂層	土師器	高杯D1	外 ナデ 内 板ナデ	外 ナデ 内 板ナデ	外 ハケメ+ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (N3/0) 暗灰	密	
0354	A	7面 溝120 砂層	土師器	高杯D1			外 ミガキ 内 上、ナデ 下、ハケメ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/1) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	
0355	A	7面 溝120 砂層	土師器	高杯D2	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ	外 ミガキ+ナデ		外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密 長石・黒雲母を含む	
0356	A	7面 溝120 砂層	土師器	高杯E			外 ナデ・ミガキ 内 ミガキ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (7.5YR7/2) 明褐灰	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0357	A	7面 溝120 砂層	土師器	高杯			外 上、ナデ・ミガキ 内 ハケメ+ナデ	外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・長石・チャートを含む	
0358	A	7面 溝120 砂層	土師器	高杯	外 ミガキ 内 ヨコナデ	外 ミガキ+ハケメ 内 ナデ		外 (7.5YR5/3) にぶい褐 内 (7.5YR6/2) 灰褐	密 石英・長石・角閃石・雲母を含む	外来 河内? 赤色顔料?
0359	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形器台C3	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ナデ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	
0360	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形器台C			外 ハケメ+ミガキ・ハケナデ 内 下、ハケメ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (N2/0) 黒	密	刺突

番号	トレン字名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0361	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形器台C	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 調整不明		外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	粗	
0362	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形器台C	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (5YR8/4) 淡橙 内 (5YR7/4) にぶい橙 断 (5YR6/1) 褐灰	粗 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0363	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形器台C		外 ハケメ+ミガキ 内 ハケナデ		外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密	
0364	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形器台C		外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0365	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形器台C		外 ナデ・ミガキ 内 ナデ・ミガキ	外 ナデ・ミガキ 内 ナデ・ミガキ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR6/2) 灰褐	密 石英・長石・雲母を含む	
0366	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕B2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内 ヨコナデ		外 (7.5YR8/6) 浅黄橙 断 (5YR7/6) 橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0367	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕B2	外 ヨコナデ・タタキ 内 ハケメ			外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/4) にぶい黄橙 断 (7.5YR7/3) にぶい橙	粗	
0368	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕B2	外 ハケメ・タタキ+ヨコナデ 内 ハケナデ			外 (7.5YR7/6) 橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	
0369	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕B2	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ			外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/1) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	
0370	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕B2	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ハケメ			外 (7.5YR5/2) 灰褐 内 (7.5YR7/3) にぶい橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0371	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕A3	外 ナデ・タタキ 内 ナデ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	
0372	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕A3	外 ナデ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ		外 (5YR8/4) 淡橙 内 (2.5Y6/3) にぶい橙 断 (5YR7/1) 明褐灰	密 石英・長石・雲母を含む	
0373	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕A3	外 調整不明 内 ナデ	外 ハケメ・タタキ 内 板ナデ		外 (2.5YR7/6) 橙 内 (10YR5/2) 灰黄褐 断 (5YR7/3) にぶい橙	粗	
0374	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕A3	外 ナデ・タタキ 内 ナデ			外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断	石英・長石・雲母を含む	
0375	A	7面 溝120 砂層	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (5Y2/1) 黒 内 (2.5Y4/2) 暗灰黄 断 (2.5Y5/2) 暗灰黄	密 石英・長石・黒雲母を含む	
0376	A	7面 溝120 砂層	土師器	布留形甕B	外 ハケメ 内 ナデ・ケズリ			外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR4/1) 褐灰 断 (10YR8/2) 灰白	粗	
0377	A	7面 溝120 砂層	土師器	布留形甕C	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ケズリ		外 (5YR8/4) 淡橙 内 (5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密	
0378	A	7面 溝120 砂層	土師器	布留形甕C	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ・ケズリ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密	
0379	A	7面 溝120 砂層	土師器	布留形甕C	外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ・ナデ			外 (5YR5/1) 褐灰 内 (10YR5/1) 褐灰 断 (10YR7/1) 灰白	粗	
0380	A	7面 溝120 砂層	土師器	庄内形甕B	外 ナデ 内 ハケメ・ナデ			外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/3) 浅黄	密 石英・長石・雲母を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0381	A	7面 溝120 砂層	土師器	布留形甕B	外 ナデ 内 ナデ・ケズリ			外 (5YR6/4) にぶい橙 内 (7.5YR5/1) 褐灰 断 (7.5YR7/2) 明褐灰	密	
0382	A	7面 溝120 砂層	土師器	布留形甕B	外 ナデ 内 ナデ・ケズリ+ナデ・ケズリ			外 (2.5YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	粗 石英・長石・雲母を含む	
0383	A	7面 溝120 砂層	土師器	甕	外 ハケメ・ナデ 内 ナデ			外 (2.5Y8/3) 浅黄 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/1) 灰白	密	外来 吉備 下田所
0384	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕			外 タタキ 内 ハケメ	外 (7.5YR6/2) 灰褐 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (5YR5/4) にぶい赤褐	密 石英・長石・雲母を含む	木の葉
0385	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕			外 タタキ 内 ナデ	外 (7.5YR7/1) 明褐灰 内 (7.5YR3/1) 黒褐	密 石英・長石・雲母を含む	木の葉
0386	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕			外 タタキ・ナデ 内 ハケメ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (2.5Y2/1) 黒	密	
0387	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕			外 タタキ・ナデ 内 板ナデ	外 (7.5YR8/3) 灰白 内 (5YR7/4) にぶい橙 断 (5YR8/2) 灰白	密	
0388	A	7面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕			外 タタキ 内 ナデ・板ナデ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y5/1) 黄灰	粗 石英・長石を含む	
0389	A	7面 溝120 砂層	土師器	大形鉢	外 ミガキ 内 ミガキ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	
0390	A	7面 溝120 砂層	土師器	大形鉢A3	外 内			外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (2.5Y5/1) 黄灰	密 石英・長石を含む	
0391	A	7面 溝120 砂層	土師器	大形鉢A2	外 ミガキ・ハケメ 内 ミガキ・ハケメ			外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密	
0392	A	7面 溝120 砂層	土師器	中形鉢C1	外 ヨコナデ 内 ヘラナデ	外 ミガキ 内 ヘラナデ		外 (5YR5/4) にぶい赤褐 内 (5YR6/6) 褐 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密 チャートを含む	
0393	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形鉢	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ナデ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	
0394	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形鉢A1	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ・ユビオサエ	外 ユビオサエ 内 ユビオサエ		外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR7/3) にぶい橙 断 (7.5YR7/3) にぶい橙	密 石英・長石・雲母を含む	
0395	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形鉢		内 板ナデ		外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (10YR6/3) にぶい黄橙	粗	
0396	A	7面 溝120 砂層	土師器	手捏	外 ナデ 内 ナデ	外 調整不明 内 ナデ・板ナデ		外 (7.5YR6/2) 灰褐 内 (7.5YR6/1) 灰褐 断 (7.5Y8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	
0397	A	7面 溝120 砂層	土師器	手捏	内 ハケメ	内 ハケメ		外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (10YR7/4) にぶい黄橙	密	
0398	A	7面 溝120 砂層	土師器	手捏				外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密	
0399	A	7面 溝120 砂層	土師器	有孔鉢	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ・ユビオサエ		外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	
0400	A	7面 溝120 砂層	土師器	有孔鉢	外 タタキ 内 板ナデ	外 タタキ・ナデ 内 板ナデ		外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・長石を含む	煤付着

番号	トレン字名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0401	A	7面 溝120 砂層	土師器	小形丸底鉢C 3	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ミガキ		外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断面 (5YR6/4) にぶい橙	密	
0402	A	7面 溝120 砂層	土師器	?	外 ナデ 内 ナデ			外 (10YR7/1) 灰白 内 (10YR7/1) 灰白 断面 (10YR7/1) 灰白	密	
0403	A	7面 溝124	須恵器	把手付碗	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (5PB7/1) 明青灰 内 (5PB7/1) 明青灰 断面 (N8/0) 灰白	密	
0404	A	7面 溝129	土師器	弥生形甕A2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断面 (10YR7/3) にぶい黄橙	良	石英・長石・黒雲母を含む
0405	A	7面 溝138	土師器	高杯E		外 ミガキ 内 ミガキ		外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (7.5YR7/4) にぶい黄橙 断面 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密	石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む
0406	A	7面 溝139	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナズリ 内 回転ナデ・ユビオサエ		外 (N5/0) 灰 内 (5Y6/0) 灰 断面 (N5/0) 灰	密	
0407	A	7面 溝139	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナズリ 内 回転ナズリ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断面 (N6/0) 灰	密	
0408	A	7面 溝144	土師器	二重口縁蓋	外 内	外 内		外 (7.5YR7/6) 橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断面 (10YR8/3) 浅黄橙	密	長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む
0409	A	7面 溝144	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ヨコナデ		外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断面 (5YR7/6) 橙	密	石英・長石・チャートを含む
0410	A	7面 溝144	土師器	高杯		外 ハケメ+ミガキ 内		外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR6/6) 橙 断面 (7.5Y4/1) 灰	密	長石・チャート・赤色酸化土粒を含む
0411	A	7面 溝144	土師器	小形器台	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (7.5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断面 (10YR8/2) 灰白	密	石英・長石・チャートを含む
0412	A	7面 溝144	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断面 (10YR7/4) にぶい黄橙	密	石英・長石・チャート・雲母を含む
0413	A	7面 溝147	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ハケメ	外 ヨコナデ 内 ハケメ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/1) 灰白 断面 (7.5YR7/4) にぶい黄橙	密	石英・長石・チャートを含む
0414	A	7面 溝147	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ・ケズリ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 (7.5YR7/4) にぶい黄橙 内 (7.5YR7/4) にぶい黄橙 断面 (2.5Y6/1) 黄灰	密	石英・長石・雲母を含む
0415	A	7面 土坑98	須恵器	無蓋高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断面 (7.5Y6/1) 灰	密	
0416	A	7面 土坑98	土師器	広口壺	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ+ヘラナデ	外 ハケメ 内 ナデ+ヘラナデ		外 (10YR6/1) 褐灰 内 (2.5YR7/1) 灰白 断面 (2.5YR7/1) 灰白	密	石英・チャート・黒雲母を含む
0417	A	7面 土坑98	土師器	二重口縁蓋C 2	外 回転ナデ・ヘラナデ 内 ミガキ・ナデ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断面 (N6/0) 灰	密	長石・雲母を含む
0418	A	7面 土坑98	土師器	二重口縁蓋B 1	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 (7.5YR8/6) 浅黄橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断面 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密	石英・長石・金雲母・赤色酸化土粒を含む
0419	A	7面 土坑98	土師器	小形丸底蓋B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断面 (10YR8/1) 灰白	密	石英・チャート・赤色酸化土粒を含む
0420	A	7面 土坑98	土師器	小形丸底蓋C	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ+ユビオサエ・ケズリ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断面 (10YR8/2) 灰白	密	石英・長石・金雲母・赤色酸化土粒を含む

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎土	備考
0421	A	7面 土坑98	土師器	土師器	高杯A 2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ハケメ・ユビオサエ 内 ヨコナデ		外 (5Y6/6) 橙 内 (5Y6/6) 橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄		石英・長石・チャートを含む	
0422	A	7面 土坑98	土師器	土師器	高杯A 2	外 ヨコナデ+ミガキ 内 ヨコナデ・ハケメ+ミガキ			外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (2.5Y7/2) 灰黄		石英・長石・チャートを含む	朱
0423	A	7面 土坑98	土師器	土師器	高杯B	外 ヨコナデ・ 内 ヨコナデ・ユビオサエ			外 (10YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (2.5Y7/1) 灰白		石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0424	A	7面 土坑98	土師器	土師器	高杯B	外 ハケメ+ナデ 内 ヨコナデ・ハケメ+ヨコナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ハケメ+ナデ		外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (2.5Y7/4) にぶい橙		石英・長石・チャートを含む	締状工具による割 突
0425	A	7面 土坑98	土師器	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ハケメ+ナデ		外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄		石英・長石・チャートを含む	
0426	A	7面 土坑98	土師器	土師器	高杯B	外 ハケメ 内 ヨコナデ	外 ハケメ・ミガキ 内 下、ユビナデ		外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (7.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白		石英・長石・チャート・金 雲母を含む	煤附着
0427	A	7面 土坑98	土師器	土師器	高杯C	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ	外 ナデ・ケズリ 内 ナデ・ハケメ		外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (N7/0) 灰白		石英・長石・チャートを含む	
0428	A	7面 土坑98	土師器	土師器	高杯		外 上、ミガキ 内 上、ナデ 外 下、ナデ	外 (5YR87/6) 橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白		長石・チャート・雲母・赤 色酸化土粒を含む		
0429	A	7面 土坑98	土師器	土師器	高杯		外 ヨコナデ 内 ケズリ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (5Y5/1) 灰		長石・チャート・雲母・赤 色酸化土粒を含む	
0430	A	7面 土坑98	土師器	土師器	布留形甕A	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ			外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (2.5Y5/1) 黄灰		石英・長石・金雲母を含む	煤附着
0431	A	7面 土坑98	土師器	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ 内 ハケメ・ケズリ			外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白		石英・長石・チャート・雲母・赤 色酸化土粒を含む	
0432	A	7面 土坑98	土師器	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ・ハケメ+ナデ 内 ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (N3/0) 暗灰		石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0433	A	7面 土坑98	土師器	土師器	大形鉢A 1	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ハケメ			外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白		石英・長石・チャートを含む	
0434	A	7面 土坑98	土師器	土師器	有孔鉢B		外 ハケメ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR7/1) 灰白		石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0435	A	7面 土坑98	土師器	土師器	小形丸底鉢B 3	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	内 ヘラナデ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白		長石・チャート・金雲母を 打ち欠き	
0436	A	7面 土坑98	土師器(軟質土器)	土師器	?		外 タタキ		外 (2.5Y2/1) 黒 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y8/2) 灰白		石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	格子タタキ
0437	A	7面 土坑99	土師器	土師器	広口壺B	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR7/1) 灰白		長石・チャートを含む	
0438	A	7面 土坑99	土師器	土師器	広口壺A	外 ナデ 内 ナデ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白		長石・チャートを含む	
0439	A	7面 土坑99	土師器	土師器	丸底鉢	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白		石英・チャート・黒雲母を 含む	
0440	A	7面 土坑99	土師器	土師器	蓋		外 タタキ 内 ハケメ		外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白		長石・チャートを含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0441	A	7面 土坑100	土師器	高杯A1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ミガキ 内 ミガキ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0442	A	7面 土坑100	土師器	高杯A2	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 長石・チャートを含む	煤付着
0443	A	7面 土坑100	土師器	弥生形甕B1	外 タタキ 内 ヨコナデ・ハケメ+ナデ	外 タタキ 内 ハケメ+ナデ		外 (5YR5/2) 灰褐 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR8/1) 灰白	密 長石・チャート・赤色酸化 土粒を含む	
0444	A	7面 土坑100	土師器	弥生形甕A	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ハラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ		外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR8/4) 橙 断 (7.5Y3/1) オリーブ黒	密 長石・チャート・赤色酸化 土粒を含む	
0445	A	7面 土坑100	土師器	広口壺C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (7.5YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0446	A	7面 土坑100	土師器	弥生形甕		外 タタキ 内 ナデ・ユビオサエ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	ヘラ記号
0447	A	7面 土坑102	土師器	二重口縁壺B1	外 ハケメ+ナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ハケメ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・金 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0448	A	7面 土坑102	土師器	小形丸底鉢B3	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ヘラナデ		外 (10YR8/1) 灰白 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
0449	A	7面 土坑102	土師器	布留形甕B	外 ナデ・ハケメ+ナデ 内 ナデ・ケズリ+ナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ケズリ・ユビオサエ		外 (5YR8/1) 灰白 内 (5YR8/1) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	穿孔 煤付着
0450	A	7面 土坑109	須恵器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0451	A	7面 土坑109	土師器	小形丸底壺C	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ハケメ 内 ナデ		外 (N2/0) 黒 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (5Y8/1) 灰白	密	打ち欠き 煤付着
0452	A	7面 土坑109	土師器	小形丸底壺C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ユビオサエ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (5Y5/1) 灰	密 チャートを含む	打ち欠き 煤付着
0453	A	7面 土坑109	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ヨコナデ・ナデ 内 ナデ		外 (5YR7/8) 橙 内 (5YR7/8) 橙 断 (7.5YR7/1) 明褐灰	密 石英・チャートを含む	
0454	A	7面 土坑118	土師器	高杯B	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ・ケズリ 内 ナデ		外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0455	A	7面 土坑118	土師器	高杯B	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	
0456	A	7面 土坑118	土師器	高杯B	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 長石・チャート・金雲母・ 赤色酸化土粒を含む	棒状刺突痕
0457	A	7面 土坑118	土師器	高杯		外 ハケメ 内 ケズリ		外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 淡黄	密 石英・長石・チャート・黒 雲母赤色酸化土粒を含む	
0458	A	7面 土坑118	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0459	A	7面 土坑118	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ナデ 内 ヨコナデ・ナデ		外 (7.5YR6/2) 明褐灰 内 (10YR4/1) 褐灰 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 精製・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0460	A	7面 土坑121	土師器	小形鉢A1	外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ+ナデ・板ナデ	外 ハケメ 内 ユビオサエ		外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR7/3) にぶい橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	炭化物内着

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
0461	A	7面 土坑121	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ミガキ	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 (2.5YR7/6) 橙 内 (2.5YR7/4) 淡赤橙 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 長石・雲母を含む	密 長石・雲母を含む		
0462	A	7面 土坑122	土師器	高杯E	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ	外 (5Y7/6) 橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (7.5YR8/1) 灰白	密 長石・チャート・雲母・赤酸化土粒を含む	密 長石・チャート・雲母・赤酸化土粒を含む		
0463	A	7面 土坑122	土師器	高杯B	外 ヨコナデ・ヘラナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ヘラナデ・ケズリ 内 ヨコナデ・ミガキ	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 (5Y7/6) 橙 内 (7.5YR8/4) 淡黄橙 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・雲母・赤酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・雲母・赤酸化土粒を含む		
0464	A	7面 土坑122	土師器	小形器台C1	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR6/1) 褐灰 断 (5YR7/6) 橙	密 石英・長石・チャート・雲母を含む	密 石英・長石・チャート・雲母を含む		
0465	A	7面 土坑122	土師器	小形器台C1		外 ヘラナデ+ナデ 内 ヨコナデ	外 ヘラナデ 内 ヨコナデ	外 (7.5YR8/6) 淡黄橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (7.5YR7/6) 橙	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む		
0466	A	7面 土坑122	土師器	弥生形甕B2	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 (2.5YR6/8) 橙 内 (2.5YR7/6) 橙 断 (2.5YR6/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・雲母を含む	密 石英・長石・チャート・雲母を含む		
0467	A	7面 土坑122	土師器	庄内形甕B	外 ヨコナデ・タタキ・ユビオサエ 内 ヨコナデ・ヘラナデ・ユビオサエ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 (5YR8/4) 淡橙 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (5Y5/1) 灰	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む		
0468	A	7面 土坑122	土師器	小形丸底鉢B1	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 長石・チャート・雲母を含む	密 長石・チャート・雲母を含む		
0469	A	7面 土坑123	土師器	高杯C	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ミガキ・ハケメ	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ミガキ	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ミガキ	外 (5YR8/4) 淡橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	密 長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む		
0470	A	7面 土坑123	土師器	高杯C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む		横状刺突痕
0471	A	7面 土坑123	土師器	高杯		外 ハケメ・ナデ 内 ナデ	外 ハケメ・ナデ 内 ナデ	外 (5YR6/8) 橙 内 (5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR7/3) にぶい橙	密 長石・チャート・赤酸化土粒を含む	密 長石・チャート・赤酸化土粒を含む		
0472	A	7面 土坑123	土師器	高杯		外 上、ミガキ 下、ケズリ 内 下、ヨコナデ	外 上、ミガキ 下、ケズリ 内 下、ヨコナデ	外 (5YR8/2) 灰白 内 (5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 チャート・赤酸化土粒を含む	密 チャート・赤酸化土粒を含む		
0473	A	7面 土坑125	土師器	二重口縁鉢A1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 (7.5YR7/1) 明褐灰 内 (10YR8/1) 灰白 断 (10YR7/1) 灰白	密 長石・チャートを含む	密 長石・チャートを含む		
0474	A	7面 土坑125	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ・ユビオサエ 内 ヘラナデ・ユビオサエ	外 ハケメ・ユビオサエ 内 ヘラナデ・ユビオサエ	外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む		
0475	A	7面 土坑125	土師器	高杯		外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (N3/1) 暗灰 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む		
0476	A	7面 土坑125	土師器	小形丸底鉢C	外 ヨコナデ・ユビオサエ+ナデ 内 ヨコナデ・ユビオサエ	外 ヨコナデ・ユビオサエ+ナデ 内 ヨコナデ・ユビオサエ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 (2.5Y8/2) 淡橙 内 (2.5Y7/1) 灰黄 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む		
0477	A	7面 土坑126	土師器	高杯		外 ミガキ	外 ミガキ	外 (5YR8/3) 淡橙 内 (5YR7/3) にぶい橙 断 (5YR5/1) 褐灰	密 石英・長石・黒雲母を含む	密 石英・長石・黒雲母を含む		穿孔
0478	A	7面 土坑126	土師器	小形器台C1		外 ナデ	外 ナデ	外 (7.5YR8/3) 淡黄橙 内 (7.5YR8/4) 淡黄橙 断 (7.5YR8/3) 淡黄橙	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む		
0479	A	7面 土坑128・129	土師器	二重口縁鉢B2	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ミガキ・ナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・長石・チャートを含む	密 石英・長石・チャートを含む		
0480	A	7面 土坑128・129	土師器	短頸直口甕	外 ハケメ+ミガキ 内 ハケメ+ミガキ・ケズリ	外 ハケメ+ミガキ 内 ハケメ+ミガキ・ケズリ	外 ハケメ+ミガキ 内 ハケメ+ミガキ・ケズリ	外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (10YR8/3) 淡黄橙	密 石英・長石・チャートを含む	密 石英・長石・チャートを含む		煤付着

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0481	A	7面 土坑128・129	土師器	小形丸底鉢B 2	外 ナデ・ヘラナデ 内 ナデ・ヘラナデ	外 ヘラナデ・ユビオサエ 内 ヘラナデ	外 ユビオサエ 内 ユビオサエ	外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャートを含む	煤付着
0482	A	7面 土坑128・129	土師器	二重口縁蓋B	外 ミガキ 内 ミガキ+ナデ			外 (5YR6/4) にぶい橙 内 (10YR6/3) 浅黄橙 断 (5YR4/1) 褐灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	外来系 内
0483	A	7面 土坑128・129	土師器	短頸直口蓋	外 ハケメ+ミガキ 内 ハケメ+ミガキ			外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR7/3) にぶい橙	密 石英・長石・黒雲母を含む	
0484	A	7面 土坑133	土師器	蓋	外 ヨコナデ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (7.5YR8/2) 浅黄橙 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・チャートを含む	外来系 内
0485	A	7面 土坑133	土師器	広口蓋A	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ハケメ			外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0486	A	7面 土坑133	土師器	二重口縁蓋A 1	外 ミガキ 内 ヨコナデ			外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙	密 チャートを含む	
0487	A	7面 土坑133	土師器	二重口縁蓋B	外 ミガキ・ハケメ 内 ミガキ・ハケメ			外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (7.5YR8/2) 灰白	密 石英・チャート・赤色酸化 土粒を含む	
0488	A	7面 土坑133	土師器	壺	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ユビオサエ・ケズリ			外 (7.5YR7/6) 橙 内 (7.5YR5/3) にぶい褐 断 (7.5YR7/6) 橙	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	外来系 内
0489	A	7面 土坑133	土師器	短頸直口蓋	外 外 内 内			外 (10YR5/4) にぶい黄橙 内 (7.5YR5/6) 明褐 断 (7.5YR7/2) 明褐灰	密 長石・チャート・黒雲母を 含む	外来系 内
0490	A	7面 土坑133	土師器	小形丸底蓋B	外 ヨコナデ・ナデ・ハケメ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 ユビオサエ	外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・雲 母を含む	外来系 内
0491	A	7面 土坑133	土師器	壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (5YR8/4) 浅橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石を含む	外来系 内
0492	A	7面 土坑133	土師器	壺	外 外 内 内			外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR6/6) 褐 断 (5YR4/1) 褐灰	密 石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
0493	A	7面 土坑133	土師器	壺	外 外 内 内			外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・を 含む	煤付着
0494	A	7面 土坑133	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 調整不明 内 調整不明		外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (10YR6/1) 褐灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0495	A	7面 土坑133	土師器	高杯	外 ナデ 内 ミガキ	外 ナデ 内 ミガキ	外 上、ケズリ 下、ヨコナデ 内、ヘラナデ・ケズリ 下、ヨコナデ	外 (5YR8/4) 浅橙 内 (5YR8/4) 浅橙 断 (5YR7/6) 橙	密 長石・チャート・赤色酸化 土粒を含む	
0496	A	7面 土坑133	土師器	小形器台C3	外 ミガキ 内 ハケメ+ミガキ	外 ヘラナデ+ミガキ 内 ハケメ+ミガキ	外 上、ミガキ 内、ミガキ+ナデ 内 ハケメ	外 (2.5YR7/6) 橙 内 (2.5YR7/6) 橙 断 (2.5YR6/6) 橙	密 長石・雲母・赤色酸化土粒 を含む	スリップ ラセン状粘土織巻 き上げ
0497	A	7面 土坑133	土師器	小形器台	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ・ヘラナデ		外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (2.5Y5/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0498	A	7面 土坑133	土師器	小形器台	外 ヨコナデ			外 (5YR8/3) 浅橙 内 (5YR8/2) 灰白 断 (5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0499	A	7面 土坑133	土師器	小形器台	外 外 内 内			外 (5YR7/6) 橙 内 (2.5YR7/6) 橙 断 (2.5YR7/3) 浅赤橙	密 石英・長石・チャート・を 含む	
0500	A	7面 土坑133	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ 内 ハケメ			外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (2.5YR7/3) 浅黄 断 (10YR6/3) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	



番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
0501	A	7面 土坑133	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (7.5YR7/2) にぶい橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (2.5Y7/1) 灰白		密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	黒	
0502	A	7面 土坑133	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ケズリ・ユビオサエ			外 (7.5YR7/6) 橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙		密 長石・赤色酸化土粒を含む		
0503	A	7面 土坑133	土師器	弥生形甕A			外 タタキ+ハケメ 内 ハケメ	外 (7.5YR6/3) にぶい橙 内 (2.5YR8/3) 淡黄 断 (2.5YR8/1) 灰白		密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	黒	密付着 ドーナツ底
0504	A	7面 土坑133	土師器	弥生形甕B			外 タタキ+ハケメ 内 ハケメ	外 (7.5YR6/4) にぶい橙 内 (7.5YR6/1) 褐灰 断 (7.5YR6/1) 褐灰		密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	黒	密付着 ドーナツ底
0505	A	7面 土坑133	土師器	鉢			外 ハケメ 内 ケズリ	外 (10YR6/1) 褐灰 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白		密 石英・長石を含む		
0506	A	7面 土坑133	土師器	小形丸底鉢	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ケズリ+ナデ 内 ヨコナデ		外 (7.5YR8/3) 淡黄橙 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (7.5YR8/2) 灰白		密 長石・チャート・赤色酸化 土粒を含む	赤色酸化	
0507	A	7面 土坑134	土師器	甕	外 調整不明 内 調整不明			外 (10YR6/1) 褐灰 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白		密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	赤	外来系 山陰
0508	A	7面 土坑134	土師器	小形丸底甕	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ケズリ 内 ヘラナデ		外 (10YR5/1) 褐灰 内 (2.5Y4/1) 黄灰 断 (2.5Y5/1) 黄灰		密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	黒	
0509	A	7面 土坑134	土師器	高杯B	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ナデ・ケズリ 内 ナデ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (5Y7/1) 灰白		密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	黒	
0510	A	7面 土坑134	土師器	高杯			外 上、ミガキ 内 下、ヘラナデ 内 上、ケズリ 下、ナデ	外 (2.5YR6/1) 黄灰 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y6/1) 黄灰		密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	黒	
0511	A	7面 土坑134	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ケズリ+ヘラナデ	外 ナデ 内 ケズリ+ヘラナデ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y7/3) 淡黄 断 (10YR8/2) 灰白		密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	赤	
0512	A	7面 土坑134	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ケズリ	外 ナデ 内 ケズリ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (10YR7/2) にぶい黄橙		密 石英・長石・チャートを含 む		
0513	A	7面 土坑134	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (N6/1) 灰 内 (10YR6/1) 褐灰 断 (10YR6/1) 褐灰		密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	赤	
0514	A	7面 土坑134	土師器	甕	外 ハケメ? 内 ナデ			外 (10YR8/4) 淡黄橙 内 (2.5Y7/4) 淡赤橙 断 (10YR5/1) 褐灰		密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	赤	外来系?阿波
0515	A	7面 土坑140	土師器	高杯A.1	外 ミガキ 内 ハケメ	外 ミガキ・ナデ 内 ハケメ・ナデ・ユビオサエ		外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (5YR7/4) にぶい橙		密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	赤色酸	
0516	A	7面 土坑140	土師器	高杯A	外 ヨコナデ 内 ハケメ	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ハケメ		外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (5Y6/1) 灰		密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	赤	
0517	A	7面 土坑140	土師器	高杯			外 上、ヨコナデ 内 下、ハケメ 内 ナデ	外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (10YR7/4) にぶい黄橙		密 長石・チャート・赤色酸化 土粒を含む	赤色酸化	
0518	A	7面 土坑140	土師器	布留形甕A	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y8/1) 灰白		密 チャート・雲母赤色酸化土 粒を含む	赤色酸化土	
0519	A	8面 穴789	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (7.5Y6/1) 灰 断 (7.5R5/1) 赤灰		密		外 自然釉
0520	A	8面 穴691	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ハケメ+ナデ・ケズリ	外 ハケメ 内 ナデ+ユビオサエ		外 (10YR4/2) 灰黄橙 内 (10YR5/3) にぶい黄橙		密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	黒	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0521	A	8面 穴691	土師器	小形丸底鉢B 1	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ケズリ+ユビオサエ	外 ナデ 内 ケズリ+ユビオサエ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y6/4) にぶい黄	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0522	A	8面 土坑142	土師器	高杯		外 上、ミガキ 内 上、ケズリ+ナデ 下、ヨコナデ	外 ナデ 内 ヨコナデ	外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 チャート・黒雲母を含む	
0523	A	8面 土坑142	土師器	布留形甕A	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (10YR8/1) 灰白 内 (2.5Y4/1) 黄灰 断 (10YR6/1) 褐灰	密 石英・長石を含む	
0524	A	8面 土坑143	土師器	小形器台	外 ナデ 内 ナデ			外 (5YR8/4) 淡橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・チャートを含む	
0525	A	11層	弥生土器	甕		外 ミガキ・ヘラナデ 内 ヘラナデ・ユビオサエ		外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/6) 浅黄橙 断 (7.5YR7/1) 明褐灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	爪痕
0526	A	7面 溝123	須恵器	甕または盃	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (5Y6/1) 灰 内 (5Y6/1) 灰 断 (10Y5/1) 灰	密	
0527	A	7面 溝123	土師器	広口壺B	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ハケナデ			外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR5/1) 褐灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0528	A	7面 溝123	土師器	二重口縁壺A 2	外 ミガキ 内 ミガキ			外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR6/1) 褐灰	密 石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
0529	A	7面 溝123	土師器	二重口縁壺C 1	外 ミガキ 内 ハケメ・ミガキ			外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y3/1) 黒褐 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャートを含む	黒色物質塗布
0530	A	7面 溝123	土師器	壺	外 タタキ+ミガキ 内 ケズリ			外 (10YR2/1) 黒 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR6/1) 褐灰	密 石英・長石を含む	
0531	A	7面 溝123	土師器	細頸壺	外 ミガキ 内 ミガキ・ヘラナデ			外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0532	A	7面 溝123	土師器	直口壺	外 ナデ 内 ナデ・ハケメ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (2.5Y5/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0533	A	7面 溝123	土師器	小形壺	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ			外 (7.5YR7/2) 明赤灰 内 (2.5YR7/2) 明赤灰 断 (2.5YR6/4) にぶい橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	
0534	A	7面 溝123	土師器	壺		外 ミガキ・ユビオサエ		外 (10YR8/3) 浅黄 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	良 石英・長石・チャート・雲 母を含む	
0535	A	7面 溝123	弥生土器	壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/3) 浅黄	密 長石を含む	
0536	A	7面 溝123	弥生土器	壺	外 ハケメ 内 ナデ			外 (10YR7/1) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石を含む	
0537	A	7面 溝123	土師器	小形器台A2	外 ナデ+ミガキ 内 ナデ・ミガキ+ナデ			外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	木の葉痕
0538	A	7面 溝123	土師器	小形器台C2	外 ヨコナデ 内			外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (7.5Y5/1) 灰	密 石英・長石・チャートを含む	
0539	A	7面 溝123	土師器	小形器台C3		外 ナデ 内 ナデ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密	
0540	A	7面 溝123	土師器	小形器台A1	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ+ケズリ			外 (10YR7/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (5Y5/1) 灰	密 石英・長石・チャート・を 含む	

番号	トレンチ名	階位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	備考
0541	A	7面溝123	土師器	小形器台	外 ミガキ+ナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ミガキ+ナデ・エビオサエ 内 ナデ	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR8/3) 淡黄橙 断 (5Y5/1) 灰	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
0542	A	7面溝123	土師器	小形器台C1	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ミガキ+ナデ	外 ミガキ 内 ナデ	外 ミガキ 内 ナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	取打痕?
0543	A	7面溝123	土師器	小形器台A2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 エビオサエ+ナデ	外 エビオサエ+ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	密 石英・長石・チャートを含む	
0544	A	7面溝123	土師器	小形器台C1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (7.5YR6/2) 灰褐 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0545	A	7面溝123	土師器	高杯A	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (5YR8/3) 淡橙 内 (5YR8/2) 灰白 断 (7.5YR4/3) 褐	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0546	A	7面溝123	土師器	高杯B	外 ヨコナデ・ミガキ+ナデ 内 ヨコナデ+ナデ	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ・ミガキ・エビオサエ	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャートを含む	密 石英・長石・チャートを含む	
0547	A	7面溝123	土師器	高杯E	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ハケメ	外 ハケメ 内 ハケメ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (5Y5/1) 灰	粗 長石・チャート・雲母を含む	粗 長石・チャート・雲母を含む	
0548	A	7面溝123	土師器	高杯E	外 ヨコナデ・ミガキ+ナデ 内 ヨコナデ・ミガキ+ナデ	外 ミガキ+ナデ 内 ミガキ+ナデ	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/3) 淡黄橙 内 (5YR8/3) 淡橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0549	A	7面溝123	土師器	高杯E	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ミガキ 内 ナデ	外 ミガキ 内 ナデ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR8/3) 淡黄橙 断 (10YR8/3) 淡黄橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0550	A	7面溝123	土師器	高杯E	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ミガキ 内 ナデ	外 ミガキ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0551	A	7面溝123	土師器	高杯D1	外 ミガキ+ナデ 内 ミガキ+ナデ	外 ミガキ 内 ミガキ+ナデ	外 ミガキ 内 ナデ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄	密	密	
0552	A	7面溝123	土師器	高杯D2	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ+ナデ	外 ミガキ 内 ナデ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英を含む	密 石英を含む	
0553	A	7面溝123	土師器	高杯	外 ミガキ+ナデ 内 ミガキ+ナデ	外 ミガキ+ナデ 内 ミガキ+ナデ	外 ミガキ+ナデ 内 ハケメ	外 (5YR8/3) 淡橙 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (5YR7/1) 明褐灰	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	外来 湖東、野洲川か。 (奥田氏分析)
0554	A	7面溝123	土師器	高杯	外 ミガキ+ナデ・ミガキ 内 ミガキ+ナデ・ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ナデ・ケズリ	外 (10YR8/1) 灰白 内 (7.5YR8/3) 淡黄橙 断 (5YR7/1) 明褐灰	密 石英・長石・雲母を含む	密 石英・長石・雲母を含む	外来 湖東、野洲川か。 (奥田氏分析)
0555	A	7面溝123	土師器	高杯		外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0556	A	7面溝123	土師器	高杯		外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ナデ	外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (2.5Y5/1) 黄灰 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・雲母・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・雲母・赤色酸化土粒を含む	
0557	A	7面溝123	土師器	高杯		外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ナデ	外 (7.5YR3/1) 黒褐 内 (7.5YR4/2) 灰褐 断 (7.5YR6/2) 灰褐	密 石英・長石・黒雲母を含む	密 石英・長石・黒雲母を含む	
0558	A	7面溝123	土師器	高杯		外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y5/1) 黄灰	密 石英・長石・チャートを含む	密 石英・長石・チャートを含む	
0559	A	7面溝123	土師器	弥生形器A1	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ナデ+ヘラナデ	外 タタキ 内 ナデ+ヘラナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0560	A	7面溝123	土師器	弥生形器B1	外 ヨコナデ・タタキ+ミガキ+ナデ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 タタキ+ミガキ+ナデ 内 ヘラナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	煤付着

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
0561	A	7面 溝123	土師器	甕	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・タタキ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0562	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B1	外 タタキ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 (5.5YR7/5) にぶい橙 内 (7.5YR7/5) 橙 断 (7.5YR6/1) 褐灰	外 (5.5YR7/5) にぶい橙 内 (7.5YR7/5) 橙 断 (7.5YR6/1) 褐灰	密 石英・長石・チャートを含む	密 石英・長石・チャートを含む	炭化物付着
0563	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B1	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (2.5Y7/1) 灰白	外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	煤付着
0564	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B1	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 (7.5YR6/2) 灰褐 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (7.5Y6/1) 灰	外 (7.5YR6/2) 灰褐 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (7.5Y6/1) 灰	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	煤付着
0565	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕A1	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 (7.5YR1.7/1) 黒 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙	外 (7.5YR1.7/1) 黒 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	密 石英・長石・雲母を含む	煤付着
0566	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B2	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (5.5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙	外 (5.5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石を含む	密 石英・長石を含む	煤付着
0567	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B2	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (10Y6/2) 灰黄褐 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/3) 浅黄橙	外 (10Y6/2) 灰黄褐 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/3) 浅黄橙	密 長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	密 長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	煤付着
0568	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B2	外 ヨコナデ・タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 ナデ・タタキ 内 ナデ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (7.5Y7/1) 灰白	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (7.5Y7/1) 灰白	密 長石を含む	密 長石を含む	炭化物付着
0569	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B2	外 ナデ+ハケメ・タタキ 内 ナデ+ハケメ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (2.5YR6/4) にぶい橙 内 (5.5YR7/3) にぶい橙 断 (2.5YR7/8) 橙	外 (2.5YR6/4) にぶい橙 内 (5.5YR7/3) にぶい橙 断 (2.5YR7/8) 橙	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
0570	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B1	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・雲母を含む	密 石英・長石・チャート・雲母を含む	
0571	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B1	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ハケメ・ユビオサエ	外 タタキ 内 ハケメ	外 タタキ 内 ナデ	外 (10YR4/1) 褐灰 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	外 (10YR4/1) 褐灰 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	煤付着
0572	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B1	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/1) 灰白	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/1) 灰白	密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0573	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B1	外 ナデ・タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・金雲母を含む	密 石英・長石・チャート・金雲母を含む	
0574	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕A2	外 ナデ・タタキ 内 ナデ	外 ハケメ+タタキ 内 ナデ	外 ハケメ+タタキ 内 ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0575	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕A2	外 ナデ・タタキ 内 ナデ・ハケメ	外 タタキ 内 ハケメ	外 タタキ 内 ハケメ	外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (N6/0) 灰色	外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (N6/0) 灰色	密 石英・長石・チャートを含む	密 石英・長石・チャートを含む	
0576	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B2	外 ナデ・タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (N4/0) 灰 断 (N4/0) 灰	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (N4/0) 灰 断 (N4/0) 灰	密 長石・黒雲母を含む	密 長石・黒雲母を含む	
0577	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B1	外 ヨコナデ・タタキ+ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (10YR7/4) にぶい黄橙 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (N5/0) 灰	外 (10YR7/4) にぶい黄橙 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (N5/0) 灰	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
0578	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕B2	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (10YR7/1) 灰白	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (10YR7/1) 灰白	密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	煤付着
0579	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕A2	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (5.5Y8/1) 浅黄橙 断 (7.5YR7/6) 橙	外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (5.5Y8/1) 浅黄橙 断 (7.5YR7/6) 橙	密 長石・チャート・雲母を含む	密 長石・チャート・雲母を含む	煤付着
0580	A	7面 溝123	土師器	弥生形甕A2	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ナデ+ヘラナデ	外 タタキ 内 ナデ+ヘラナデ	外 タタキ 内 ナデ+ヘラナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・金雲母を含む	密 石英・長石・チャート・金雲母を含む	煤付着

番号	トレンチ名	層位・連棟	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0581	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A2	外 タタキ 内 ヨコナデ・ハケメ	外 タタキ 内 ハケメ		外 (N2/0) 黒 内 (10YR6/3) におい黄橙 断 (10YR7/4) におい黄橙	石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0582	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ		外 (7.5YR7/6) 橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄	石英・長石・チャートを含む	煤付着
0583	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A2	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ	外 タタキ		外 (5YR7/4) におい橙 内 (10YR8/1) 灰白 断 (5YR7/3) におい橙		煤付着
0584	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 タタキ 内 ヨコナデ・ユビオサエ+ナデ	外 タタキ 内 ユビオサエ+ナデ	外 タタキ 内 ユビオサエ+ナデ	外 (5YR6/4) におい橙 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (5YR7/3) におい橙	石英・長石・チャートを含む	煤付着
0585	A	7面溝123	土師器	弥生形甕B2	外 タタキ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 タタキ 内 ヘラナデ		外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (N3/0) 暗灰 断 (10YR7/2) におい黄橙	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0586	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ナデ	外 タタキ 内 ナデ		外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR7/2) 明褐灰 断 (7.5YR4/1) 褐灰	石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
0587	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内 ナデ		外 (N1.5/0) 黒 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 長石を含む	煤付着
0588	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A4	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ユビオサエ+ナデ	外 タタキ 内 ユビオサエ+ナデ・ヘラナデ		外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (N3/0) 暗灰	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	煤付着
0589	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 タタキ+ナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ+ナデ 内 ヨコナデ		外 (10YR3/1) 黒褐 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	
0590	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ・ハケメ		外 (10YR7/1) 灰白 内 (2.5YR7/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 長石・チャート・雲母を含む	
0591	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 ヨコナデ・タタキ+ナデ 内 ヨコナデ・ケズリ	外 タタキ+ナデ 内 ケズリ・ナデ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	煤付着
0592	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A4	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 タタキ 内 ナデ・ヘラナデ		外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 雲母・赤色酸化土粒を含む	水散された粘土が 覆う
0593	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 ナデ・タタキ・ユビオサエ 内 ハケナデ	外 タタキ 内 ハケメ		外 (10YR5/2) 灰黄褐 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石を含む	
0594	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ナデ	外 タタキ 内 ナデ		外 (N3/0) 暗灰 内 (N3/0) 暗灰 断 (7.5YR7/4) におい橙	密 長石・チャートを含む	
0595	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 ナデ・タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ		外 (10YR2/1) 黒 内 (10YR3/1) 黒褐	密 石英・長石・雲母を含む	煤付着
0596	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 ナデ・タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ		外 (2.5YR7/6) 橙 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (7.5YR7/2) 明褐灰	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	煤付着
0597	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 ヨコナデ・タタキ+ナデ 内 ヨコナデ・ナデ+ヘラナデ	外 タタキ+ナデ・タタキ 内 ナデ+ヘラナデ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	
0598	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A4	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ・タタキ 内 ケズリ+ナデ		外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
0599	A	7面溝123	土師器	弥生形甕A3	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ヘラナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ヘラナデ		外 (10YR8/3) 淡黄橙 内 (N3/0) 暗灰 断 (10YR7/3) におい黄橙	密 石英・長石を含む	
0600	A	7面溝123	土師器	甕		外 タタキ 内 ナデ		外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (N4/0) 灰 断 (N8/0) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎土	備考
0601	A	7面溝123	土師器	甕			外 内	外(2.5Y8/2) 灰白 内(7.5Y7/3) 灰黄	灰白 黒褐 断(2.5Y7/2) 灰黄	石英・長石・チャートを含む	炭化物内着(米)
0602	A	7面溝123	土師器	甕		外 内	外 内	外(2.5Y7/1) 灰白 内(2.5Y7/1) 灰白 断(7.5Y7/4) にぶい橙	にぶい黄橙 にぶい黄橙 にぶい黄橙	石英・長石・チャートを含む	
0603	A	7面溝123	土師器	甕		外 内	外 内	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(10YR6/3) にぶい黄橙 断(10YR6/3) にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい黄橙 にぶい黄橙	石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
0604	A	7面溝123	土師器	甕	外 内	外 内	外 内	外(5YR8/4) 淡橙 内(5YR8/3) 淡橙 断(7.5Y7/1) 灰白	淡橙 淡橙 灰白	石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
0605	A	7面溝123	土師器	布留形甕A	外 内	外 内	外 内	外(10YR5/2) 灰黄褐 内(10YR6/1) 褐灰 断(10YR6/1) 褐灰	灰黄褐 褐灰 褐灰	石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
0606	A	7面溝123	土師器	有孔鉢A	外 内	外 内	外 内	外(10YR7/1) 灰白 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(5Y6/1) 灰	灰白 にぶい黄橙 にぶい黄橙	石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
0607	A	7面溝123	土師器	鉢		外 内	外 内	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(2.5Y6/1) 黄灰 断(10YR7/3) にぶい黄橙	にぶい黄橙 黄灰 にぶい黄橙	石英・長石・チャートを含む	煤片着
0608	A	7面溝123	土師器	中形鉢B	外 内	外 内	外 内	外(2.5Y8/2) 灰白 内(10YR7/3) にぶい黄橙 断(2.5Y7/1) 灰白	灰白 にぶい黄橙 灰白	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0609	A	7面溝123	土師器	中形鉢C1	外 内	外 内	外 内	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(10YR7/3) にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい黄橙 にぶい黄橙	石英・長石・チャートを含む	煤片着
0610	A	7面溝123	土師器	中形鉢F1	外 内	外 内	外 内	外(7.5YR8/1) 灰白 内(7.5YR8/2) 灰白 断(7.5YR7/1) 明褐灰	灰白 灰白 明褐灰	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0611	A	7面溝123	土師器	中形鉢E3	外 内	外 内	外 内	外(N3/0) 暗灰 内(2.5Y6/2) 灰黄 断(2.5Y7/1) 灰白	暗灰 灰黄 灰白	石英・長石・チャートを含む	
0612	A	7面溝123	土師器	小形鉢A1	外 内	外 内	外 内	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(10YR7/3) にぶい黄橙 断(2.5Y7/2) 灰黄	にぶい黄橙 にぶい黄橙 灰黄	チャートを含む	
0613	A	7面溝123	土師器	小形鉢A1	外 内	外 内	外 内	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(2.5Y7/2) 灰黄 断(10YR6/4) にぶい黄橙	にぶい黄橙 灰黄 にぶい黄橙	石英・金雲母・砂岩を含む	
0614	A	7面溝123	土師器	小形鉢E3	外 内	外 内	外 内	外(2.5Y5/1) 黄灰 内(2.5Y6/2) 灰黄 断(10YR6/4) にぶい黄橙	黄灰 灰黄 にぶい黄橙	石英・長石・チャートを含む	
0615	A	7面溝123	土師器	小形鉢A2	外 内	外 内	外 内	外(2.5Y6/1) 黄灰 内(2.5Y6/2) 灰黄 断(5Y5/1) 灰	黄灰 灰黄 灰	石英・長石・チャートを含む	
0616	A	7面溝123	土師器	小形鉢C	外 内	外 内	外 内	外(7.5Y7/6) 橙 内(10YR7/3) にぶい黄橙 断(5YR7/6) 橙	橙 にぶい黄橙 橙	石英・長石を含む	
0617	A	7面溝123	土師器	有孔鉢A	外 内	外 内	外 内	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(2.5Y7/1) 灰白 断(2.5Y7/1) 灰白	にぶい黄橙 灰白 灰白	石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
0618	A	7面溝123	土師器	有孔鉢A	外 内	外 内	外 内	外(2.5Y7/2) にぶい黄橙 内(10YR7/2) にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい黄橙	石英・長石・チャートを含む	
0619	A	7面溝123	土師器	有孔鉢A	外 内	外 内	外 内	外(2.5Y7/2) 灰黄 内(2.5Y7/3) 浅黄 断(2.5Y7/2) 灰黄	灰黄 浅黄 灰黄	石英・長石・チャート・雲 母を含む	
0620	A	7面溝123	土師器	有孔鉢A	外 内	外 内	外 内	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(10YR8/2) 灰白	にぶい黄橙 にぶい黄橙 灰白	石英・長石・チャートを含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0621	A	7面溝123	土師器	小形丸底鉢B 1	外ヨコナデ 内ハケメ・ヘラナデ	外ヘラナデ 内	外ナデ 内ヘラナデ	外(7.5YR8/3)浅黄橙 内(10YR7/2)にぶい黄橙 断(7.5YR8/3)浅黄橙	密 石英・長石・チャートを含む	
0622	A	7面溝123	土師器	小形丸底鉢A	外板ナデ 内	外ナデ 内	外ナデ 内ユビオサエ	外(5YR7/2)明褐灰 内(5YR7/2)明褐灰 断(5YR6/6)橙	密 石英・長石・チャートを含む	
0623	A	7面溝123	土師器	小形丸底鉢B 2	外ヨコナデ・ミガキ 内ヨコナデ・ナデ	外ミガキ 内ナデ		外内断 密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む		
0624	B	1層	磁器(架付)	皿				外(N8/0)灰白 内(N8/0)灰白 断(7.5Y8/1)灰白	密	
0625	B	1層	磁器(架付)	皿				外(N8/0)灰白 内(10Y8/1)灰白 断(N8/0)灰白	密	
0626	B	1層	磁器(架付)	皿				外(N8/0)灰白 内断(7.5Y8/1)灰白	密	
0627	B	1層	磁器(白磁)	皿				外(10Y8/1)灰白 内(10Y8/1)灰白 断	密	外施釉 内施釉
0628	B	1層	陶器	碗または皿				外(7.5YR5/6)明褐 内(7.5Y8/1)灰白 断	密	緑釉
0629	B	1層	陶器	碗		外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ケズリ 内ヨコナデ	外内断 密	密	外施釉 内施釉
0630	B	1層	土師器	皿	外ヨコナデ 内ヨコナデ		外ナデ・ユビオサエ 内ナデ	外(10YR8/2)灰白 内(10YR8/2)灰白	良	
0631	B	1面	瓦器	鉢			外ナデ・ユビオサエ 内ナデ+ミガキ	外(7.5YR8/3)浅黄橙 内(7.5YR8/6)浅黄橙 断(7.5YR7/1)明褐灰	粗	
0632	B	2層	磁器(白磁)	碗				外(2.5GY8/1)灰白 内(7.5Y8/2)灰白 断(10Y8/1)灰白	密	外施釉 内施釉
0633	B	2層	磁器	碗				外(2.5YR7/4)淡赤橙 内(10G7/1)明緑灰 断(10Y8/1)灰白	密	外施釉 内施釉
0634	B	2層	陶器	擂鉢	外回転ナデ・ミガキ 内回転ナデ・沈線			外(2.5YR4/4)にぶい赤褐 内(2.5YR6/4)にぶい橙 断	粗	
0635	B	2層	瓦器	三足釜				外(N4/0)灰白 内断(N8/0)灰白	密	
0636	B	2層	土師器	皿				外(7.5YR8/2)灰白 内(10YR8/2)灰白 断(10YR8/1)灰白	密	
0637	B	2層	須恵器	杯身	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外内断 密	密	
0638	B	3層	瓦器	椀	外ナデ・ユビオサエ 内ナデ			外(N4/0)灰 内(N6/0)灰白 断(N8/0)灰白	密	
0639	B	3層	瓦器	三足釜				外(N5/0)灰 内断(N8/0)灰白	密	
0640	B	3層	須恵器	甕	外回転ナデ 内回転ナデ			外(N6/0)灰 内(5PB6/1)青灰 断(5RB6/1)赤灰	密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎土	備考	
0641	B	3層	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (10Y6/1) 灰 内 (10Y6/1) 灰 断 (5PB7/1) 明青灰		密		
0642	B	3層	土師器	蓋		外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ		外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (2.5Y8/1) 灰白		密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む		
0643	B	3層	土師器	甕			外 タタキ+ナデ	外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR4/2) 灰黄褐 断 (2.5Y7/1) 灰白		密	石英・チャートを含む	
0644	B	4層	瓦器	椀	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ+ユビオサエ 内 ナデ+ミガキ		外 (7.5Y8/1) 灰白 内 (7.5Y8/1) 灰白 断 (7.5Y8/1) 灰白		密		
0645	B	4層	瓦器	椀	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ユビオサエ+ナデ 内 ナデ・ミガキ		外 (N4/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (N8/0) 灰白		密		
0646	B	4層	瓦器	椀			外 ナデ	外 (N4/0) 灰 内 (N4/0) 灰 断 (N8/0) 灰白		密		
0647	B	4層	瓦器	椀	外 ヨコナデ・ナデ+ミガキ 内 ヨコナデ	外 ユビオサエ+ナデ 内 ナデ+ミガキ		外 (N5/0) 灰白 内 (N5/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白		密		
0648	B	4層	瓦器	椀	外 ヨコナデ・ミガキ・ユビオサエ 内 ヨコナデ・んで+ミガキ	外 ユビオサエ 内 ナデ+ミガキ		外 (N4/0) 灰 内 (N4/0) 灰 断 (N8/0) 灰白		密		
0649	B	4層	瓦器	椀			外 ヨコナデ 内 ミガキ	外 (N4/0) 灰 内 (N4/0) 灰 断 (N8/0) 灰白		密		
0650	B	4層	瓦器	椀	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ミガキ	外 ユビオサエ+ナデ 内 ミガキ		外 (N5/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (7.5Y8/1) 灰白		密		
0651	B	4層	黒色土器	椀			外 ヨコナデ・ナデ 内 ナデ+ミガキ	外 (7.5YR7/6) 橙 内 (7.5Y2/1) 黒 断 (2.5Y8/1) 灰白		密		
0652	B	4層	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ユビオサエ+ナデ 内 ユビオサエ+ナデ		外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (7.5YR8/8) 黄橙		密	長石・赤色酸化土粒を含む	
0653	B	4層	土師器	皿	外 ナデ+ユビオサエ 内 ナデ+ユビオサエ	外 ナデ+ユビオサエ 内 ナデ+ユビオサエ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙		密	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0654	B	4層	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ+ハラナデ・ユビオサエ 内 ハラナデ		外 (7.5YR8/6) 黄橙 内 (7.5YR8/6) 黄橙 断 (7.5YR7/1) 明焼灰		密	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0655	B	4層	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ユビオサエ+ナデ・ユビオサエ 内 ナデ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白		密	長石・赤色酸化土粒を含む	
0656	B	4面溝13	瓦器	椀			外 ヨコナデ・ナデ 内 ナデ+ユビオサエ	外 (N3/0) 暗灰 内 (N8/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白		密		
0657	B	4面溝13	土師器	皿	外 ヨコナデ・ユビオサエ 内 ヨコナデ・ユビオサエ+ナデ	外 ユビオサエ 内 ユビオサエ+ナデ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白		密	石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	
0658	B	4面溝17	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (7.5YR8/2) 灰白		密	赤色酸化土粒を含む	
0659	B	5層	磁器(青磁)	碗			外 (5GY6/1) オリーブ灰 内 (2.5GY6/1) オリーブ灰 断 (N8/1) 灰白		密		外 施釉 内 施釉	
0660	B	5層	磁器(白磁)	皿			外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5Y7/2) 灰白 内 (7.5Y7/2) 灰白 断 (N8/0) 灰白		密		外 施釉 内 施釉



番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0661	B	5層	瓦器	釜	外 ヨコナデ 内 ナデ			外 (N4/0) 灰 内 (N4/0) 灰 断 (N8/0) 灰白	密	
0662	B	5層	瓦器	椀	外 ヨコナデ+ナデ 内 ヨコナデ+ナデ・ミガキ	外 ナデ 内 ヨコナデ+ナデ・ミガキ	外 ヨコナデ+ナデ 内 ヨコナデ+ナデ・ミガキ	外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白	密	
0663	B	5層	瓦器	皿	外 ヨコナデ 内 ナデ+ミガキ		外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ+ミガキ	外 (N4/1) 灰 内 (N3/1) 焼灰 断 (N7/1) 灰	密	
0664	B	5層	土師器	皿	外 ナデ 内 ナデ		外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 (25Y8/1) 灰白 内 (25Y8/1) 灰白 断 (25Y2/1) 黒	密	
0665	B	5層	土師器	皿	外 ナデ 内 ナデ		外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密	赤色酸化土粒を含む
0666	B	5層	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 (25Y8/4) 淡黄 内 (25Y8/4) 淡黄	良	
0667	B	5層	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (5Y8/1) 灰白	密	長石・赤色酸化土粒を含む
0668	B	5層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 ヘラキリ 内 回転ナデ		外 (5B6/1) 青灰 内 (5B6/1) 青灰	密	
0669	B	5層	須恵器	杯身	外 回転カキメ・回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 ケズリ 内 回転ナデ	外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白	粗	墨書「奈麻」
0670	B	5層	須恵器	甕	外 回転ナデ・タタキ+カキメ 内 回転ナデ・同心円当テ具痕			外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白	密	
0671	B	5層	須恵器	提瓶	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5Y6/1) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
0672	B	6層	瓦器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 ケズリ 内 回転ナデ	内 回転ナデ	外 (7.5Y4/1) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白	密	
0673	B	6層	須恵器	杯身	外 回転ナデ・ケズリ 内 回転ナデ			外 (10Y7/1) 灰白 内 (2.5Y5/3) 黄褐 断 (2.5Y6/2) 灰黄	密	
0674	B	6層	須恵器	高杯			外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰	粗	
0675	B	6面	須恵器	直口壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 ヘラキリ 内 回転ナデ			密	
0676	B	6面	須恵器	椀蓋		外 回転ナデ・ケズリ 内 回転ナデ		外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0677	B	6面	土師器	有孔鉢B	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ・ナデ 内 ナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (10YR7/4) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密	石英・長石・雲母を含む
0678	B	7層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・ケズリ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
0679	B	7層	須恵器	壺		外 回転ケズリ		外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
0680	B	7層	土師器	壺		外 ミガキ 内 ナデ		外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (10BG7/1) 明青灰	密	石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む

番号	トレンチ名	層位・遺構	器	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎土	備考
0681	B	7層	土師器		壺			外 内	外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (N5/0) 灰 断 (7.5Y7/1) 灰白		密 雲母を含む	
0682	B	7層	土師器		高杯B	外 内	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ナデ	外 内	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白		密 長石・雲母を含む	
0683	B	7層	土師器		高杯B	外 内	外 ナデ 内 ナデ	外 内	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白		密	
0684	B	7層	土師器		高杯	外 内	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ	外 内	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白		密 石英・長石・黒雲母を含む	棒状工具による刺突
0685	B	7層	土師器		高杯			外 内	外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (5Y6/1) 灰		密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0686	B	7層	土師器		高杯			外 内	外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (7.5YR7/3) におい橙 断 (7.5YR8/2) 灰白		密 石英・長石・黒雲母を含む	
0687	B	7層	土師器		高杯			外 内	外 (10YR8/2) 灰白 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (10YR5/4) におい黄褐		密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0688	B	7層	土師器		器台または壺	外 内	外 ナデ 内 ミガキ		外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (2.5Y4/1) 黄灰		密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0689	B	7層	土師器		弥生形甕A	外 内	外 ヨコナデ・タタキ+ナデ 内 ヨコナデ・ナデ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/4) 浅黄 断 (10YR6/3) におい黄橙		密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0690	B	7層	土師器		布留形甕B	外 内	外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白		密 長石・赤色酸化土粒を含む	
0691	B	7層	土師器		布留形甕B	外 内	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ケズリ		外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (2.5Y6/1) 黄灰		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0692	B	7層	土師器		布留形甕B	外 内	外 ヨコナデ・ハケメ+ナデ 内 ハケメ+ヨコナデ・ユビオサエ+ナデ・ケズリ		外 (2.5Y5/2) 暗灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (5Y4/1) 灰		密 石英・長石を含む	煤付着
0693	B	7層	土師器		布留形甕B	外 内	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ	外 内	外 (7.5YR7/4) におい橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙		密 石英・長石・雲母を含む	煤付着
0694	B	7層	土師器		弥生形甕B	外 内	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ナデ	外 内	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (2.5Y8/1) 灰白 断		密 石英・長石・チャート・雲母を含む	
0695	B	7層	土師器		甕			外 内	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y6/1) 灰		密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0696	B	7層	土師器		鍋(把手)	外 内	外 ユビオサエ+ナデ・ナデ 内 ナデ	外 内	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (10YR7/2) におい黄橙		密 石英・長石・黒雲母を含む	
0697	B	7面	須恵器		高杯蓋	外 内	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 内	外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (5PB7/1) 明青灰		密	
0698	B	7面	土師器		小形丸底甕B 2~3	外 内	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ユビオサエ	外 内	外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (10YR6/1) 褐灰		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0699	B	7面	土師器		布留形甕B	外 内	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ケズリ		外 (10BG2/1) 青黒 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0700	B	7面	土師器		布留形甕C	外 内	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ケズリ		外 (5Y2/1) 黒 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙		密 石英・長石・チャートを含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
0701	B	7面	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/3) 淡黄 断 (2.5Y6/1) 黄灰		密	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0702	B	1面 溝1	磁器(染付)	碗				外 (N7/0) 灰白 内 (N70) 灰白 断 (N8/0) 灰白		密		外 施釉 内 施釉
0703	B	1面 溝1	磁器(染付)	碗				外 (2.5GY8/1) 灰白 内 (N8/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白		密		外 施釉 内 施釉 重ね焼き痕
0704	B	1面 溝1	磁器(染付)	碗				外 (7.5GY7/1) 明緑灰 内 (7.5GY7/1) 明緑灰 断 (2.5GY7/1) 明オリーブ灰		密		外 施釉 内 施釉
0705	B	1面 溝1	磁器(染付)	碗				外 (5Y8/1) 灰白 内 (5Y8/1) 灰白 断 (5Y8/1) 灰白		密		外 施釉 内 施釉
0706	B	1面 溝1	磁器(染付)	碗				外 (5GY8/1) 灰白 内 (5GY8/1) 灰白 断 (N8/0) 灰白		密		外 施釉 内 施釉
0707	B	1面 溝1	磁器(染付)	蓋						密		
0708	B	1面 溝1	磁器(染付)	皿				外 (N8/0) 灰白 内 (N8/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白		密		外 施釉 内 施釉
0709	B	1面 溝1	磁器(染付)	皿				外 (N8/0) 灰白 内 (2.5GY8/1) 灰白 断 (N8/0) 灰白		密		
0710	B	1面 溝1	磁器(染付)	猪口				外 (N8/0) 灰白 内 (N8/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白		密		外 施釉 内 施釉
0711	B	1面 溝1	磁器(染付)	御神酒徳利				外 (2.5GY8/1) 灰白 内 (N8/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白		密		外 施釉
0712	B	1面 溝1	磁器	碗				外 (7.5GY7/1) 明緑灰 内 (10GY8/1) 明緑灰 断 (10Y8/1) 灰白		密		外 施釉 内 施釉
0713	B	1面 溝1	磁器	皿				外 (7.5Y6/1) 灰 内 (7.5Y6/1) 灰 断 (5GY8/1) 灰白		密		外 施釉 内 施釉
0714	B	1面 溝1	陶器	皿				外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (7.5YR5/4) にぶい褐 断 (2.5Y8/3) 淡黄		密		外 施釉 内 施釉 重ね焼き痕
0715	B	1面 溝1	陶器	蓋				外 (10YR3/2) 黒褐 内 (10G7/0) 灰 断 (10YR6/1) 相灰		密		
0716	B	1面 溝1	陶器	鍋	外 ナデ			外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (5Y6/1) 灰		密		内 施釉
0717	B	1面 溝1	陶器	鍋				外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5YR6/2) 灰赤		密		煤付着
0718	B	1面 溝1	陶器	行平鍋				外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (7.5Y6/1) 灰 断 (7.5YR8/1) 灰白		密		外 施釉 内 施釉
0719	B	1面 溝1	陶器	小壺	内 回転ナデ			外 (10R3/4) 暗赤 内 (2.5YR6/3) にぶい橙 断 (5YR5/3) にぶい赤褐		密		外 施釉 内 施釉
0720	B	1面 溝1	陶器	皿	外 ヨコナデ		外 イトキリ			密		煤付着

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0721	B	1面溝1	陶器	鉢				外(10R4/4)赤褐 内(10R8/1)灰 断(10R4/4)赤褐	密	外 内 施釉 施釉
0722	B	1面溝1	陶器	御神酒德利			外 内	外(7.5YR6/4)にぶい橙 内(7.5YR5/6)明褐 断(5YR7/4)にぶい橙	密	外 内 施釉 施釉
0723	B	1面溝1	陶器	合子蓋				外(5YR8/4)淡橙 内(7.5Y8/1)灰白 断(7.5Y8/1)灰白	密	外 内 施釉 施釉
0724	B	1面溝1	陶器	德利				外(7.5YR4/2)灰褐 内(7.5YR3/3)暗褐 断(10YR7/1)灰白	密	
0725	B	1面溝1	陶器	小水注				外(10Y6/1)灰 内(10Y6/1)灰 断(10Y7/1)灰白	密	施釉
0726	B	1面溝1	陶器	挿鉢	外 内	回転ナデ・沈線		外(2.5YR6/6)橙 内(2.5YR6/6)橙	密	
0727	B	1面溝1	陶器	挿鉢	外 内	回転ナデ・沈線		外(7.5YR6/4)にぶい橙 内(10YR5/3)にぶい黄褐 断(10YR6/3)にぶい黄橙	密	
0728	B	1面溝3	陶器	碗			外 内	外(5YR7/4)にぶい橙 内(2.5Y7/2)灰黄	密	内 砂目 施釉
0729	B	1面溝4	瓦器	碗	外 内	ヨコナデ ヨコナデ	外 内	外(5Y7/1)灰白 内(5Y7/1)灰 断(N4/0)灰白	密	
0730	B	1面溝5	綜釉陶器	碗					密	外 内 施釉 施釉
0731	B	1面溝5	磁器(青磁)	碗				外(2.5GY5/1)オリープ灰 内(2.5GY6/1)オリープ灰 断(N8/0)灰白	密	外 内 施釉 施釉
0732	B	1面溝5	土師器	高杯			外 内	外(7.5YR7/4)にぶい橙 内(7.5YR7/4)にぶい橙	粗	
0733	B	1面溝5	瓦器	釜	外 内	ユビオサエ ヨコナデ			密	
0734	B	1面溝6	瓦器	碗	外 内	ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ ヨコナデ・ミガキ	外 内	外(N4/0)灰 内(N4/0)灰 断(7.5Y8/1)灰白	密	
0735	B	1面土坑1	陶器	鉢			外 内	外(7.5YR7/4)にぶい橙 内(7.5Y7/2)灰白 断(10YR8/2)灰白	密	外 内 施釉 施釉
0736	B	1面土坑2	磁器(染付)	碗				外(10GY8/1)明緑灰 内(7.5GY8/1)明緑灰 断(2.5GY8/1)灰白	密	外 内 施釉 施釉
0737	B	1面土坑14	土師器	皿	外 内	ヨコナデユビオサエ+ナデ ヨコナデ	外 内	外(7.5YR8/1)灰白 内(7.5YR8/2)灰白 断(7.5YR8/2)灰白	密	外 内 施釉 施釉
0738	B	1面河川1	磁器(青磁)	碗				外(5GY7/1)明オリープ灰 内(5GY7/1)明オリープ灰 断(N7/0)灰白	密	外 内 施釉 施釉
0739	B	1面河川1	磁器(青磁)	碗				外(10Y5/1)灰 内(10Y5/1)灰 断(N5/0)灰	密	外 内 施釉 施釉
0740	B	1面河川1	磁器(青磁)	碗				外(5GY7/1)明オリープ灰 内(5GY7/1)明オリープ灰 断(N7/0)灰白	密	外 内 施釉 施釉

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0741	B	1面 河川1	磁器(白磁)	碗				外(7.5Y6/2)灰オリーブ 内(7.5Y6/2)灰オリーブ 断(10Y7/1)灰白	密	外 施釉 内 施釉
0742	B	1面 河川1	磁器(白磁)	碗				外(10Y8/1)灰白 内(10Y8/1)灰白 断(N8/0)灰白	密	外 施釉 内 施釉
0743	B	1面 河川1	陶器	行平鍋			外 回転ナデ 内 回転ナデ	外(2.5Y7/1)灰白 内(2.5Y5/3)黄褐 断(2.5Y7/1)灰白	密	煤付着
0744	B	1面 河川1	陶器	行平鍋	外 回転ナデ・ケズリ			外(2.5YR6/6)橙 内(2.5YR6/6)橙 断(2.5YR6/6)橙	密	外 施釉 内 施釉
0745	B	1面 河川1	陶器	皿	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・ヘラキリ 内 回転ナデ	外(N8/0)灰白 内(N8/0)灰白 断(N6/0)灰	密	外 施釉 内 施釉
0746	B	1面 河川1	陶器	深皿			外 回転ナデ・ケズリ・ユビオサエ 内 回転ナデ・ナデ	外(2.5Y8/1)灰白 内(7.5Y8/1)灰白 断(7.5Y8/1)灰白	密	
0747	B	1面 河川1	陶器	碗			外 回転ナデ 内 回転ナデ	外(7.5Y8/1)灰白 内(7.5Y8/1)灰白 断(7.5Y8/1)灰白	密	
0748	B	1面 河川1	陶器	補鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(10R4/4)赤褐 内(10R5/2)灰赤 断(N6/0)灰	密	
0749	B	1面 河川1	陶器	補鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ・沈線			外(2.5YR5/4)にぶい赤褐 内(2.5YR5/2)灰赤 断(2.5YR5/4)にぶい赤褐	密	
0750	B	1面 河川1	陶器	補鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ・沈線			外(2.5YR6/6)橙 内(2.5YR5/3)にぶい赤褐 断(5YR6/2)灰褐	密	
0751	B	1面 河川1	陶器	補鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ・沈線			外(5YR5/3)にぶい赤褐 内(5YR5/2)灰褐 断(5YR6/4)にぶい橙	密	
0752	B	1面 河川1	陶器	補鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ・沈線			外(2.5YR6/4)にぶい橙 内(2.5Y6/1)黄灰 断(5YR7/3)にぶい橙	密	備前
0753	B	1面 河川1	陶器	補鉢			外 回転ナデ 内 回転ヘラナデ・沈線	外(7.5YR7/6)橙 内(7.5YR8/6)浅黄橙 断(2.5Y8/3)浅黄	密	信来?
0754	B	1面 河川1	陶器	補鉢			外 回転ナデ 内 沈線	外(2.5YR5/6)赤褐 内(10R6/6)赤 断(10R5/6)赤	密	
0755	B	1面 河川1	陶器	補鉢			外 回転ナデ 内 沈線	外(10R6/6)赤橙 内(2.5YR5/2)灰赤 断(2.5YR5/2)灰赤	密	
0756	B	1面 河川1	陶器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ・ユビオサエ			外(5R6/1)赤灰 内(N6/0)灰 断(N6/0)灰	密	
0757	B	1面 河川1	陶器	甕	外 回転ナデ			外(2.5YR5/3)にぶい赤褐 内(2.5YR4/3)にぶい赤褐 断(10R6/4)にぶい赤橙	密	
0758	B	1面 河川1	瓦器	椀	外 ミガキ 内 ナデ	外 ミガキ 内 ナデ・ユビオサエ		外(N5/0)灰 内(N4/0)灰 断(2.5GY8/1)灰白	密	
0759	B	1面 河川1	瓦器	羽釜	外 ヨコナデ・ナデ 内 ナデ			外(N5/0)灰 内(N4/0)灰 断(5Y8/2)灰白	密	
0760	B	1面 河川1	瓦器	三足釜					粗	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0761	B	1面 河川1	瓦器	三足釜				外(N5/0)灰 内(N6/0)灰 断(7.5Y8/1)灰白	密	
0762	B	1面 河川1	土師器	三足釜				外(7.5YR8/3)浅黄橙 内(7.5YR8/6)浅黄橙 断(7.5YR7/1)明褐灰	密	
0763	B	1面 河川1	黒色土器	椀			外 内	外(10YR7/2)にぶい黄橙 内(N3/0)暗灰 断(2.5Y8/2)灰白	密	
0764	B	1面 河川1	土師器	皿	外 ユビオサエ 内 調整不明		外 内	外(10YR8/2)灰白 内(10YR8/2)灰白	密	自然釉
0765	B	1面 河川1	須恵器	壺			外 内		密	
0766	B	1面 河川1	土師器	壺	外 ヨコナデ・ユビオサエ 内			外(7.5YR8/2)浅黄橙 内(7.5YR8/3)浅黄橙 断(7.5YR8/2)灰白	密 心	石英・長石・チャートを含む
0767	B	6面 河川2	須恵器	杯蓋	外 調整不明 内 回転ナデ			外(5PB6/1)青灰 内(5PB6/1)青灰	密	自然釉
0768	B	6面 河川2	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(N6/0)灰 内(N7/0)灰白 断(N7/0)灰白	密	
0769	B	6面 河川2	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(N6/0)灰 内(N7/0)灰白	密	
0770	B	6面 河川2	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(N7/0)灰白 内(10YR7/1)灰白	密	
0771	B	6面 河川2	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(N6/0)灰 内(N7/0)灰白 断(N7/0)灰白	密	
0772	B	6面 河川2	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(5YR6/1)褐灰 内(5YR7/1)明褐灰	密	
0773	B	6面 河川2	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ・回転ナズリ 内 回転ナデ			外(N5/0)灰 内(N5/0)灰 断(N5/0)灰	密	
0774	B	6面 河川2	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(N6/0)灰 内(N6/0)灰 断(2.5YR5/2)灰赤	密	自然釉
0775	B	6面 河川2	須恵器	杯身	外 回転ナズリ 内 回転ナデ			外(5PB7/1)明青灰 内(5PB7/1)明青灰	密	
0776	B	6面 河川2	須恵器	杯身	外 回転ナデ・回転ナズリ 内 回転ナデ			外(5Y7/1)灰白 内(2.5Y6/1)黄灰	密	
0777	B	6面 河川2	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(N7/0)灰白 内(N7/0)灰白	密	
0778	B	6面 河川2	須恵器	杯身	外 回転ナズリ 内 回転ナデ			外(N7/0)灰白 内(2.5YR4/3)にぶい赤褐	密	
0779	B	6面 河川2	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(N6/0)灰 内(N4/0)灰 断(N7/0)灰白	密	
0780	B	6面 河川2	須恵器	高杯	外 回転ナズリ 内 回転ナデ			外(N4/0)灰 内(N7/0)灰白 断(N7/0)灰白	密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0781	B	6面 河川2	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
0782	B	6面 河川2	須恵器	甕	外 タタキ+カキメ 内 同心円当子具痕			外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
0783	B	6面 河川2	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
0784	B	6面 河川2	須恵器	甕	外 タタキ 内 ヨコナデ			外 (N6/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	
0785	B	6面 河川2	須恵器	提瓶	外 カキメ			外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
0786	B	6面 河川2	須恵器	器台		外 回転ナデ 内 回転ナデ			密	
0787	B	6面 河川2	土師器	二重口縁壺A 1	外 ヨコナデ・ハケメ+ナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 長石・チャート・赤色酸化 土粒を含む	
0788	B	6面 河川2	土師器	高杯	外 ヨコナデ 内 ハケメ			外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0789	B	6面 河川2	土師器	高杯	外 ハケメ 内 ナデ		外 ハケメ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密 長石・チャートを含む	
0790	B	6面 河川2	土師器	高杯		外 ヘラナデ+ハケメ 内 下、ハケメ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄	密 長石・チャート・赤色酸化 土粒を含む	
0791	B	6面 河川2	土師器	布留形壺C	外 ナデ 内 ハケメ			外 (2.5YR5/6) 明赤褐 内 (2.5YR5/6) 明赤褐	粗	
0792	B	6面 河川2	土師器	布留形壺C	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ハケメ			外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR5/2) 灰黄褐 断 (10YR5/1) 褐灰	密 石英・長石・チャートを含 む	
0793	B	6面 河川2	土師器	布留形壺C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (5Y5/1) 灰	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0794	B	6面 河川2	土師器	甕	外 ハケメ・ユビオサエ 内 ヨコナデ				粗	
0795	B	6面 河川2	土師器	手捏	外 ナデ 内 ユビオサエ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ハケメ・ユビオサエ		外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
0796	B	6面 河川2	土師器	羽釜	外 ナデ 内 ユビオサエ	外 ナデ 内 ナデ・ユビオサエ		外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (5YR5/3) にぶい赤褐 断 (7.5YR8/6) 浅黄橙	密 石英・長石・チャートを含 む	煤付着
0797	B	6面 河川2	土師器	鍋	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 長石・チャートを含む	煤付着 口縁部打ち欠き
0798	B	6面 河川2	土師器	移動式甕					密 長石・チャートを含む	煤付着
0799	B	6面 河川2	土師器	移動式甕					密 長石・チャート・赤色酸化 土粒を含む	
0800	B	6面 河川2	土師器	移動式甕				外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/4) にぶい黄橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャートを含 む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0801	C	西3層	瓦器	椀	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ミガキ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ミガキ	外 (N3/0) 暗灰 内 (N4/0) 灰 断 (N8/0) 灰白	密	
0802	C	西3層	瓦器	椀	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ミガキ	外 ユビオサエ 内 ミガキ	外 ヨコナデ・ナデ 内 ミガキ	外 (5YR7/1) 黒 内 (N5/0) 灰 断 (10Y8/1) 灰白	密	
0803	C	西3層	須恵器	高杯蓋		外 カキメ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0804	C	西3層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (10BG6/1) 青灰 内 (5B6/1) 青灰 断 (10BG6/1) 青灰	密	
0805	C	西3層	須恵器	杯身	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
0806	C	西3層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N5/0) 灰 断 (5PR5/1) 紫灰	密	
0807	C	西3層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N8/0) 灰白 内 (7.5Y7/1) 灰白 断 (N8/0) 灰白	密	
0808	C	西3層	須恵器	杯身	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ			外 (N5/0) 灰 内 (5PB7/1) 明青灰 断 (5PB5/1) 青灰	密	
0809	C	西3層	土師器	高杯A2	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (2.5YR6/6) 橙 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (5YR7/1) 明褐灰	密	長石・赤色酸化土粒を含む
0810	C	西3層	土師器	把手		内 ケズリ+ユビオサエ		外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (5YR5/4) にぶい赤褐 断 (10YR5/1) 褐灰	密	長石・チャートを含む
0811	C	西3層	土師器	把手				外 (2.5YR7/6) 橙 内 (2.5YR6/6) 橙 断 (10YR8/2) 灰白	密	石英・長石・チャートを含む
0812	C	西3層	土師器	移動式甕				外 (5YR7/6) 橙 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (10YR7/1) 灰白	密	石英・長石・チャートを含む
0813	C	西3面	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5PB3/1) 暗青灰 内 (N6/0) 灰 断 (5PB5/1) 青灰	密	
0814	C	西3面	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	へろ記号
0815	C	西3面	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N5/0) 灰	密	
0816	C	西3面	土師器	甕	外 ハケメ 内 ハケメ・ユビオサエ			外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (5YR7/6) 橙	密	長石・赤色酸化土粒を含む
0817	C	西3面	土師器	甕	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 板ナデ		外 (2.5YR6/8) 橙 内 (2.5YR7/8) 橙 断 (2.5YR7/6) 橙	密	
0818	C	西3面	土師器	甕	外 ナデ 内 ナデ・ハケメ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y6/3) にぶい黄 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	石英・チャートを含む
0819	C	西3面	土師器	杯	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ+ナデ	外 ユビオサエ 内 ヨコナデ+ナデ	内 ミガキ		密	
0820	C	西3面	土師器	羽釜	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ハケメ	外 ヨコナデ+ユビオサエ 内 ヨコナデ・ハケメ		外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (7.5YR8/6) 浅黄橙	密	



番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0821	C	西3面	土師器	碗?			内 ユビオサエ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR6/1) 褐灰	密 石英・長石を含む	
0822	C	西3面	土師器	樽形甕	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (5YR8/1) 灰白 内 (5YR8/3) 淡橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
0823	C	西3面	土師器	台付鉢?				外 (2.5YR6/4) にぶい橙 内 (2.5YR6/4) にぶい橙	粗	
0824	C	西4層	瓦器	壺	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ			外 (N4/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (10YR8/1) 灰白	密	
0825	C	西4層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ+ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ・ヘラキリ 内 回転ナデ+ナデ		外 (5PB6/1) 青灰 内 (5PB7/1) 明青灰	密	
0826	C	西4層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断	密	
0827	C	西4層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰白	密	
0828	C	西4層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N6/0) 灰	密	
0829	C	西4層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰	密	
0830	C	西4層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N8/0) 灰白	密	
0831	C	西4層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0832	C	西4層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/1) 灰 内 (N6/1) 灰 断	密	
0833	C	西4層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ			外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
0834	C	西4層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5PB7/1) 青灰 内 (5PB7/1) 青灰	密	
0835	C	西4層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N7/0) 灰白 内 (N6/0) 灰	密	
0836	C	西4層	須恵器	高杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5PB6/1) 青灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
0837	C	西4層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0838	C	西4層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白	密	
0839	C	西4層	須恵器	杯身	外 回転ナデ・ケズリ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0840	C	西4層	須恵器	杯身	外 回転ナデ・カキメ 内 回転ナデ	外 カキメ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白	密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
0841	C	西4層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N8/0) 灰白 内 (N8/0) 灰白	密			
0842	C	西4層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密			
0843	C	西4層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰	密			
0844	C	西4層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5YR5/1) 褐灰 内 (2.5YR4/1) 赤灰 断 (2.5YR5/1) 赤灰	密			
0845	C	西4層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密			
0846	C	西4層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N7/0) 灰白 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密			
0847	C	西4層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密			
0848	C	西4層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (10Y5/1) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密			
0849	C	西4層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰	密			
0850	C	西4層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ	外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (10R4/1) 暗赤灰	密			
0851	C	西4層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ			密			
0852	C	西4層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密			
0853	C	西4層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ・カキメ 内 回転ナデ	外 カキメ 内 ナデ	外 (5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (5Y7/1) 灰白	密			
0854	C	西4層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰	密			
0855	C	西4層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ	外 (7.5YR4/0) 褐灰 内 (N5/0) 灰 断 (7.5YR6/2) 灰褐	密			
0856	C	西4層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ・カキメ 内 回転ナデ	外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密			
0857	C	西4層	須恵器	臑	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (10Y5/2) オリーブ灰 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密			自然釉
0858	C	西4層	須恵器	台付長頸蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰	密			
0859	C	西4層	須恵器	高杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5Y7/1) 灰白 内 (N8/0) 灰白	密			
0860	C	西4層	須恵器	短頸蓋	外 回転ナデ・タキキ+カキメ 内 回転ナデ			外 (7.5Y5/1) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (7.5YR5/1) 褐灰	密			

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0861	C	西4層	須置器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密 長石を含む	
0862	C	西4層	須置器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (7.5Y7/1) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
0863	C	西4層	須置器	壺	外 回転ナデ・ハケメ 内 回転ナデ			外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
0864	C	西4層	須置器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N7/0) 灰白 内 (5Y7/1) 灰白 断 (5Y7/1) 灰白	密	
0865	C	西4層	須置器	壺	外 回転ナデ・カキメ 内 回転ナデ			外 (N5/0) 灰 内 (N8/0) 灰白 断 (N6/0) 灰	密	
0866	C	西4層	須置器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (2.5YR6/2) 灰赤 内 (10YR7/1) 灰白 断 (5YR6/2) 灰褐	密	
0867	C	西4層	須置器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N7/0) 灰白 内 (10Y4/1) 灰 断 (7.5YR6/1) 褐灰	密	
0868	C	西4層	須置器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ				密	
0869	C	西4層	須置器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (10G2/1) 緑黒 内 (10Y8/1) 灰白 断 (5P5/1) 紫灰	密	
0870	C	西4層	須置器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ・カキメ・ユビオサエ			外 (7.5Y6/1) 灰 内 (7.5Y5/1) 灰 断 (5YR7/1) 明褐灰	密	自然釉
0871	C	西4層	須置器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N4/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
0872	C	西4層	須置器	器台			外 上、カキメ+ハケメ 内 回転ナデ	外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
0873	C	西4層	土師器	中形鉢C1	外 ヨコナデ・ハケメ・ユビオサエ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ナデ		外 (7.5YR8/6) 浅黄橙 内 (7.5YR8/6) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 雲母を含む	
0874	C	西4層	土師器	高杯A2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ハケメ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (10YR8/2) 灰白	密	
0875	C	西4層	土師器	布留形甕C	外 ナデ 内 ナデ・ケズリ・ユビオサエ			外 (10R5/6) 赤 内 (2.5YR5/6) 明赤褐 断 (2.5YR5/4) におい赤褐	密 石英・長石を含む	
0876	C	西4層	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ユビオサエ			外 (N2/0) 黒 内 (7.5YR7/1) 明褐灰 断 (7.5YR6/3) におい褐	密 チャートを含む	
0877	C	西4層	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (7.5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (7.5YR6/1) 褐灰	密 石英・長石・チャートを合 む	
0878	C	西4層	土師器	杯C	外 ナデ・ユビオサエ 内 ミガキ	外 ケズリ・ミガキ 内 ミガキ		外 (2.5YR6/6) 橙 内 (2.5YR7/6) 橙 断 (2.5YR7/6) 橙	密 チャートを含む	
0879	C	西4層	土師器	手捏	外 ユビオサエ 内 ナデ	外 ユビオサエ 内 ナデ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (2.5Y6/2) 灰黄	密	
0880	C	西4層	土師器	手捏	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR8/2) 浅黄橙 内 (10YR8/2) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 浅黄橙	密	爪痕

番号	トレンチ名	階位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0881	C	西4層	土師器	鍋(把手)				外(10YR7/4)にぶい黄橙 内(2.5Y7/2)灰黄 断(10YR6/4)にぶい黄橙	密	
0882	C	西4層	土師器	鍋(把手)		外 内 ユビオサエ		外(2.5YR7/6)橙 内(2.5YR7/4)淡赤橙 断(10R6/6)赤橙	密	
0883	C	西4層	土師器	甌				外(2.5Y7/1)灰白 内(10YR7/1)灰白 断(2.5Y7/1)灰白	密	
0884	C	西4層	土師器	移動式甌	外 ナテ・ユビオサエ 内 ハケメ・ケズリ+ナテ			外(10YR8/3)浅黄橙 内(10YR8/2)灰白 断(10YR8/3)浅黄橙	密	
0885	C	西4層	土師器	移動式甌	外 ナテ・ユビオサエ 内 ナテ			外(10YR6/1)褐灰 内(10YR6/1)褐灰 断(10YR6/1)褐灰	密	
0886	C	西4層	土師器	?	外 内	外 内			密	
0887	C	西4面	須恵器	杯蓋	外 回転ケズリ 内 回転ナテ	外 回転ケズリ 内 回転ナテ		外(N6/0)灰 内(N6/0)灰 断(N6/0)灰	密	
0888	C	西4面	須恵器	杯身	外 回転ケズリ 内 回転ナテ	外 回転ケズリ 内 回転ナテ			密	
0889	C	西4面	須恵器	高杯	外 回転ケズリ 内 回転ナテ	外 回転ケズリ 内 回転ナテ	外 回転ナテ 内 回転ナテ	外(10GY7/1)明緑灰 内(10GY7/1)明緑灰	密	
0890	C	西4面	須恵器	甌	外 回転ナテ・カキメ・回転ケズリ 内 回転ナテ	外 回転ケズリ+回転ナテ 内 回転ナテ		外(N4/0)灰 内(N4/0)灰	密	
0891	C	西4面	土師器	甌	外 ハケメ 内 ハケメ	外 ハケメ 内 ハケメ		外(5YR7/6)橙 内(10YR8/2)灰白 断(2.5Y7/1)灰白	密	
0892	C	西5層	須恵器	杯蓋	外 回転ナテ 内 回転ナテ	外 回転ケズリ 内 回転ナテ		外(N8/0)灰白 内(N6/0)灰	密	
0893	C	西5層	須恵器	高杯	外 回転ナテ 内 回転ナテ	外 回転ナテ 内 回転ナテ		外(N5/1)灰 内(N6/1)灰 断(5P6/1)紫灰	密	自然釉
0894	C	西5層	須恵器	甌	外 回転ナテ 内 回転ナテ			外(N5/1)灰 内(N6/1)灰 断(5RP5/1)紫灰	密	
0895	C	西5層	須恵器	蓋	外 回転ナテ 内 回転ナテ	外 タタキ 内 ナテ			密	
0896	C	西5層	土師器	小形丸底甌A	外 ヨコナテ・板ナテ 内 ヨコナテ・ユビオサエ	外 板ナテ・ナテ 内 ケズリ+ナテ	外 ナテ 内 ケズリ+ナテ	外(7.5YR7/6)橙 内(7.5YR7/6)橙 断(7.5YR8/4)浅黄橙	密 長石・チャート・黒雲母・ 赤色酸化土粒を含む	打ち抜き
0897	C	西5層	土師器	小形丸底甌C	外 ヨコナテ 内 ヨコナテ・ユビオサエ	外 ヨコナテ・ハケメ 内 ケズリ+ナテ	外 ハケメ 内 ケズリ+ナテ	外(2.5Y8/2)灰白 内(2.5Y8/1)灰白 断(2.5Y8/1)灰白	密 長石・チャート・黒雲母を 含む	打ち抜き
0898	C	西5層	土師器	小形丸底甌C	外 ヨコナテ・ハケメ+ナテ 内 ヨコナテ・ケズリ+ナテ	外 ハケメ+ナテ・ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 ケズリ	外(10YR7/1)灰白 内(2.5Y6/1)黄灰	粗 石英・長石・チャート・雲 母を含む	棒状工具による削 突
0899	C	西5層	土師器	高杯C	外 ヨコナテ 内 ヨコナテ	外 ナテ・ハケメ 内 ナテ		外(7.5YR7/6)橙 内(5YR6/8)橙 断(10YR8/3)浅黄橙	密 石英・長石・黒雲母を含む	
0900	C	西5層	土師器	高杯B	外 ヨコナテ 内 ヨコナテ	外 ハケメ+ナテ 内 ナテ		外(10R6/6)赤橙 内(10R6/6)赤橙 断(10R5/1)赤灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	

番号	トレシチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0901	C	西5層	土師器	高杯A1	外 ヨコナデ・ハケメ+ナデ 内 ヨコナデ・ハケメ+ナデ	外 ハケメ+ナデ+ナデ 内 ハケメ+ナデ+ナデ		外 (10YR7/4) にぶい黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR6/1) 褐灰	密 長石・黒雲母を含む	棒状工具による刺突 打ち欠き
0902	C	西5層	土師器	高杯			外 上、ナデ+ハケメ+ナデ 内 下、ハケメ+ナデ	外 (2.5YR6/4) にぶい橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (5YR7/6) 橙	密 石英・長石・チャートを含む	
0903	C	西5層	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ヘラナデ			外 (7.5YR7/6) 橙 内 (5YR6/4) にぶい橙 断 (7.5R5/1) 褐灰	密 長石・黒雲母を含む	
0904	C	西5層	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ			外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (7.5YR4/1) 褐灰	密 長石・黒雲母を含む	
0905	C	西6層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N5/1) 灰 内 (5Y5/1) 灰白 断 (N7/1) 灰白	密	
0906	C	西6層	須恵器	杯身	外 回転ケズリ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N8/0) 灰白 内 (10YR7/4) にぶい黄橙 断 (7.5YR7/1) 灰白	密	焼成不良・やや瓦質
0907	C	西6層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N6/0) 灰	密	
0908	C	西6層	土師器	広口壺A	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ユビオサエ			外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (10YR7/4) にぶい黄橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 長石を含む	
0909	C	西6層	土師器	直口壺	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (5YR8/2) 灰白 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (7.5YR8/6) 浅黄橙	密 石英・長石・チャートを含む	
0910	C	西6層	土師器	壺			外 ナデ・ヘラナデ 内 ナデ	外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 チャート・赤色酸化土粒を含む	
0911	C	西6層	土師器	高杯C	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ+ミガキ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ヨコナデ+ミガキ		外 (10YR7/4) にぶい黄橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0912	C	西6層	土師器	高杯	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR8/4) 淡橙	密 チャート・雲母を含む	
0913	C	西6層	土師器	高杯A	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密	
0914	C	西6層	土師器	高杯B	外 ヨコナデ・ナデ 内 ナデ	外 ナデ・ハケメ 内 調整不明		外 (5YR7/6) 橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	棒状工具による刺突
0915	C	西6層	土師器	高杯B	外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ+ナデ	外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ+ナデ		外 (5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (N2/0) 黒	密 石英・長石・チャートを含む	
0916	C	西6層	土師器	高杯		外 ナデ 内 ナデ		外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
0917	C	西6層	土師器	高杯		外 上、ナデ 内 下、ヨコナデ		外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 長石を含む	
0918	C	西6層	土師器	高杯	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (5YR6/8) 橙 内 (5YR6/8) 橙 断 (5YR6/6) 橙	密	ラセン状粘土紐巻き上げ
0919	C	西6層	土師器	高杯	外 上、ヘラナデ 内 下、ナデ	外 上、ヘラナデ 内 ナデ		外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (5Y6/1) 灰	密 チャート・雲母を含む	
0920	C	西6層	土師器	布留形甕B	外 ナデ 内 ハケメ+ナデ・ナデ・ユビオサエ			外 (2.5YR6/8) 橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR5/2) 灰黄褐	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0921	C	西6層	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ・エビオサエ			外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密	
0922	C	西6層	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (7.5YR6/4) にぶい橙 内 (7.5YR7/3) にぶい橙 断 (7.5YR6/2) 灰褐	密 長石・チャートを含む	
0923	C	西6層	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・エビオサエ・ハケメ・			外 (5YR8/4) 淡橙 内 (7.5YR6/6) 浅黄橙 断 (5Y4/1) 灰	密 チャート・雲母を含む	
0924	C	西6層	土師器	小形鉢A 2	外 ハケメ 内 ナデ			外 (10YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密	
0925	C	西6層	土師器	小形鉢A 2	外 ナデ 内 ナデ			外 (5YR6/6) 橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (5YR6/6) 橙	密	
0926	C	西6層	土師器	甕			外 ケズリ・ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (7.5YR8/2) 灰白	密 長石・チャートを含む	
0927	C	西6面	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ			外 (5P6/1) 紫灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白	密	
0928	C	西6面	土師器	小形丸底甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ		外 ハケメ 内 ケズリ	外 (2.5Y2/1) 黒 内 (10YR17/1) 黒 断 (10YR5/1) 褐灰	密 石英・長石を含む	
0929	C	西6面	土師器	高杯B	外 ハケメ 内 ヨコナデ		外 ハケメ 内 ナデ	外 (7.5Y7/4) にぶい橙 内 (10YR7/4) にぶい黄橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石を含む	
0930	C	西6面	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (10YR7/1) 黒 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (2.5Y5/1) 黄灰	密	
0931	C	西6面	土師器	甕	外 ハケメ			外 (5Y2/1) 黒 内 (10YR8/4) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 長石を含む	
0932	C	西7層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ	外 (5PB7/1) 明青灰 内 (N7/0) 灰白 断 (5PB7/1) 明青灰	密	
0933	C	西7層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ・回転ケズリ	外 (5PB7/1) 明青灰 内 (5PB7/1) 明青灰 断 (N8/0) 灰白	密	
0934	C	西7層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ	外 (N7/0) 灰白 内 (5PB5/1) 紫灰 断 (5R6/1) 赤灰	密	
0935	C	西7層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ	外 (N8/0) 灰白 内 (7.5Y7/1) 灰白 断 (7.5Y8/1) 灰白	密	
0936	C	西7層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ・回転ケズリ	外 (N5/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白	密	
0937	C	西7層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ	外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0938	C	西7層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ	外 (5PB7/1) 明青灰 内 (5PB6/1) 青灰 断 (N7/0) 灰白	密	
0939	C	西7層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
0940	C	西7層	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 カキメ 内 回転ナデ	外 (7.5GR5/1) 緑灰 内 (5PB7/1) 明青灰 断 (5RP4/1) 暗紫灰	密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0941	C	西7層	須恵器	高杯			外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0942	C	西7層	須恵器	甕	外 タタキ+沈線 内 回転ナデ				密	
0943	C	西7層	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (7.5Y8/1) 灰白 内 (7.5Y6/1) 灰 断 (10Y5/1) 灰	密	
0944	C	西7層	須恵器	甕	外 ハケメ+カキメ 内 回転ナデ			外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0945	C	西7層	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N6/0) 灰 内 (N3/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	自然釉
0946	C	西7層	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ				密	外 施釉 内 施釉
0947	C	西7層	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N5/0) 灰 内 (7.5Y5/1) 灰 断 (N5/0) 灰	密	
0948	C	西7層	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/6) 浅黄橙 断 (7.5YR7/1) 明褐色	密	
0949	C	西7層	土師器	甕				外 (10YR8/4) 浅黄橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密 チャート・黒炭母・赤色酸化土粒を含む	
0950	C	西7層	土師器	小形丸底壺C	外 回転ナデ 内 回転ナデ・ケズリ		外 ハケメ 内 ユビナデ・ケズリ	外 (2.5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR7/6) 橙	密 長石・チャートを含む	
0951	C	西7層	土師器	高杯A2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 石英・長石を含む	
0952	C	西7層	土師器	高杯A2	外 ヨコナデ 内 調整不明		外 ヨコナデ 内 調整不明	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 長石を含む	スリップ
0953	C	西7層	土師器	高杯A2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0954	C	西7層	土師器	高杯B・C	外 ヨコナデ 内 調整不明		外 ヨコナデ 内 調整不明	外 (5YR7/3) にぶい橙 内 (5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・チャート・黒炭母・赤色酸化土粒を含む	
0955	C	西7層	土師器	高杯			外 上、ミガキ 内 調整不明	外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (7.5YR7/3) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・黒炭母・角閃石を含む	
0956	C	西7層	土師器	高杯			外 上、ナデ 下、ヨコナデ 内 下、ケズリ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (2.5Y7/2) 灰白	密 長石・チャートを含む	ラセン状粘土紐 巻き上げ成形
0957	C	西7層	土師器	高杯			外 上、ヘラナデ 内 下、ヨコナデ	外 (5YR6/6) 橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR8/1) 灰白	密 長石・チャートを含む	ラセン状粘土紐 巻き上げ成形
0958	C	西7層	土師器	高杯			外 上、ヘラナデ 内 下、タタキ状ハケメ+ナデ 内 上、ケズリ 下、タタキ状ハケメ+ナデ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/1) 灰白	密 チャート・赤色酸化土粒を含む	
0959	C	西7層	土師器	高杯			外 上、ハケメ・ミガキ 内 下、ハケメ	外 (2.5YR8/3) 浅黄 内 (10YR8/4) 浅黄橙 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
0960	C	西7層	土師器	高杯			外 上、ヘラナデ 内 下、ケズリ 内 上、ヨコナデ 下、ヨコナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 チャートを含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0961	C	西7層	土師器	高杯			外 上、ハケメ 内 上、ハケメ・ナデ 下 ハケメ	外 (2.5Y5/6) 明赤褐 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (2.5Y5/6) 明赤褐	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
0962	C	西7層	土師器	布留形壺B	外 ヨコナデ・ユビオサエ			外 (N2/0) 黒 内 (10YR4/2) 灰黄褐 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	煤付着
0963	C	西7層	土師器	布留形壺B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ハケメ・ユビオサエ			外 (10YR3/1) 黒褐 内 (10YR5/4) にぶい黄橙 断 (10YR5/1) 褐灰	密 長石・チャート・黒雲母・ 赤色酸化土粒を含む	
0964	C	西7層	土師器	壺	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ		外 ハケメ 内 ケズリ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 長石・チャートを含む	外来系 北近畿
0965	C	西7層	土師器	大形鉢A2	外 ヨコナデ+ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・雲 母を含む	打ち欠き
0966	C	西7層	土師器	大形鉢A2	外 ヨコナデ・ハケメ+ナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・を含む	
0967	C	西7層	土師器	匜	外 ハケメ+ナデ 内 調整不明		外 ハケメ+ナデ 内 調整不明	外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (10YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 石英・長石・チャートを含 む	
0968	C	西9層	土師器	直口壺	外 ナデ・ハケメ+ナデ 内 ナデ・ケズリ		外 ハケメ+ナデ 内 ケズリ・ユビオサエ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	煤付着
0969	C	西9層	土師器	布留形壺B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (5YR8/3) 淡橙	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0970	C	西9層	土師器	高杯				外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (5YR8/3) 淡橙	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
0971	C	西10層	土師器	布留形壺C	外 ヨコナデ・板ナデ 内 ヨコナデ・板ナデ		外 板ナデ 内 板ナデ	外 (2.5YR3/1) 黒褐 内 (10YR8/2) 灰白 断 (2.5YR8/1) 灰白	密	
0972	C	西10層	弥生土器	壺			外 タタキ+ケズリ+ナデ 内 ハラナデ	外 (2.5Y5/1) 黄灰 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y6/2) 灰黄	密 長石・チャートを含む	煤付着
0973	C	西10層	弥生土器	壺			外 ハケメ・ナデ 内 ハケメ・ケズリ	外 (10YR5/1) 褐灰 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR7/1) 灰白	密 長石・チャートを含む	
0974	C	西10層	土師器	小形器台			外 ナデ・ヨコナデ 内 ハケメ+ヨコナデ	外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 長石・チャート・赤色酸化 土粒を含む	
0975	C	西1面 溝20	須恵器	高杯			外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密 長石・チャートを含む	
0976	C	西1面 溝20	須恵器	甌	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/6) 浅黄橙 断 (7.5YR7/1) 明褐灰	密	へら記号
0977	C	西1面 溝20	土師器	布留形壺B	外 ナデ・ハケメ			外 (2.5Y7/3) 浅黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/3) 浅黄	密 石英・長石を含む	
0978	C	西1面 溝21	黒色土器か瓦器	甌	外 ナデ 内 ミガキ		外 ユビオサエ 内 ミガキ	外 (7.5Y8/1) 灰白 内 (7.5Y7/1) 灰白 断 (7.5Y8/1) 灰白	密	
0979	C	西1面 溝21	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ	外 (N5/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
0980	C	西1面 溝21	須恵器	甌	外 カキメ 内 回転ナデ		外 カキメ・回転ケズリ 内 回転ナデ	外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	



番号	トレンチ名	階位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
0981	C	西1面 溝21	土師器	高杯C	外 ナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ハケメ		外 (5YR6/6) 橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 新 (5YR7/6) 橙	密	
0982	C	西1面 溝21	土師器	移動式甕	外 内	外 内		外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR7/3) にぶい橙 新 (10YR8/1) 灰白	密	
0983	C	西1面 土坑38	須恵器	甕	外 内	外 内		外 (N7/0) 灰白 内 (N6/0) 灰 新 (N7/0) 灰白	密	
0984	C	西1面 土坑39	須恵器	杯蓋	外 内	外 内	外 回転ナデ・回転ナデ 内 回転ナデ	外 (5B5/1) 青灰色 内 (N5/0) 灰 新 (N4/0) 灰	密	
0985	C	西1面 土坑39	土師器	小形壺	外 内	外 ナデ		外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 新 (7.5YR8/4) 浅黄橙	密	
0986	C	西1面 土坑39	土師器	羽釜	外 内	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR6/2) 灰黄橙 新 (10YR7/3) にぶい黄橙	密	煤付着
0987	C	西1面 土坑39	土師器	移動式甕	外 内	外 内		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (7.5YR6/4) にぶい橙 新 (7.5YR7/4) にぶい橙	密	
0988	C	西1面 河川3	陶器	壺	外 内	外 内		外 (7.5R4/1) 暗赤灰 内 (7.5R5/2) 灰赤 新 (2.5YR6/6) 橙	密	
0989	C	西1面 河川3	瓦器	椀	外 内	外 ナデ 内 ミガキ	外 ナデ 内 ミガキ	外 (N4/0) 灰 内 (N6/0) 灰 新 (N8/0) 灰白	密	
0990	C	西1面 河川3	土師器	皿	外 内	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ+ユビオサエ 内 ナデ+ユビオサエ	外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/2) 灰白 新 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密	
0991	C	西1面 河川3	須恵器	杯身	外 内	外 回転ナデ・回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N6/0) 灰 新 (N7/0) 灰白	密	
0992	C	西3面 建物12穴15	瓦器	椀	外 内	外 ナデ 内 ミガキ	外 ナデ 内 ミガキ	外 (N5/0) 灰 内 (N4/0) 灰 新 (N7/0) 灰白	密	
0993	C	西3面 建物12穴15	瓦器	椀	外 内	外 ユビオサエ 内 ナデ+ミガキ	外 ヨコナデ 内 ナデ+ミガキ	外 (N5/0) 灰 内 (N4/0) 灰 新 (N8/0) 灰白	密	
0994	C	西3面 建物12穴9	瓦器	椀	外 内	外 ミガキ+ユビオサエ 内 ミガキ	外 ナデ・ミガキ+ユビオサエ 内 ミガキ	外 (N4/0) 灰 内 (N4/0) 灰 新 (10Y8/0) 灰白	密	
0995	C	西3面 建物12穴15	瓦器	椀	外 内	外 ヨコナデ 内 ミガキ	外 ヨコナデ・ナデ 内 ミガキ	外 (N3/0) 暗灰 内 (N4/0) 灰 新 (2.5Y7/1) 灰白	密	
0996	C	西3面 建物12穴15	瓦器	椀	外 内	外 ヨコナデ・ユビオサエ 内 ミガキ	外 ヨコナデ・ナデ 内 調整不明	外 (5Y8/1) 灰白 内 (N3/0) 暗灰 新 (N8/0) 灰白	密	
0997	C	西3面 建物12穴15	瓦器	椀	外 内	外 ヨコナデ・ナデ+ミガキ 内 ヨコナデ・ミガキ	外 ナデ+ミガキ 内 ミガキ	外 (N3/0) 暗灰 内 (N5/0) 灰 新 (2.5Y7/1) 灰白	密	
0998	C	西3面 建物12穴8	瓦器	椀	外 内	外 ミガキ+ナデ 内 ミガキ+ナデ	外 ユビオサエ 内 ミガキ+ナデ	外 (N5/0) 灰 内 (N5/0) 灰 新 (N7/0) 灰白	密	
0999	C	西3面 穴13	須恵器	壺	外 内	外 カキメ・ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (7.5Y7/1) 灰白 新 (7.5Y7/1) 灰白	密	
1000	C	西3面 穴13	須恵器	杯身	外 内	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (10Y5/1) 灰 内 (N5/0) 灰 新 (N8/0) 灰白	密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1001	C	西3面 穴18	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (5PB5/1) 青灰 内 (N5/0) 灰 断 (5PB7/1) 明青灰	密	
1002	C	西3面 穴18	土師器 (軟質土器)	?		格子タタキ 内 ナデ		外 (7.5YR5/3) にぶい褐 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR7/6) 橙	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
1003	C	西3面 穴19	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N8/0) 灰白 内 (N8/0) 灰白 断 (2.5GY8/1) 灰白	密	
1004	C	西3面 穴21	須恵器	高杯				外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
1005	C	西3面 穴28	須恵器	碗か蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N4/0) 灰 内 (N8/0) 灰白 断 (5PB7/1) 明青灰	密	
1006	C	西3面 穴35	製塩土器		外 内	外 内		外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (7.5Y8/1) 灰白 断 (7.5Y8/1) 灰白	密 長石を含む	
1007	C	西4面 溝22	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5PB7/1) 明青灰 内 (5B7/1) 明青灰 断 (5B7/1) 明青灰	密	
1008	C	西4面 溝22	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
1009	C	西4面 溝22	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5PB7/1) 明青灰 内 (5PB7/1) 明青灰 断 (5PB7/1) 明青灰	密	
1010	C	西4面 溝22	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰	密	
1011	C	西4面 溝22	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・カキメ 内 回転ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/6) 浅黄橙 断 (7.5YR7/1) 明褐灰	密	
1012	C	西4面 溝22	須恵器	壺	外 回転ナデ・カキメ 内 ナデ+同心円当り具痕			外 (N6/1) 灰 内 (N6/1) 灰 断 (2.5GY8/1) 灰白	密	
1013	C	西4面 溝22	須恵器	壺	外 タタキ+カキメ・タタキ+ナデ 内 回転ナデ・同心円当り具痕+回転ナデ			外 (N7/1) 灰白 内 (N7/1) 灰白 断 (N7/1) 灰白	密	
1014	C	西4面 溝22	須恵器	壺	外 タタキ+ヨコナデ 内 回転ナデ			外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断	密	
1015	C	西4面 溝22	須恵器	壺	外 回転ナデ・タタキ+カキメ 内 回転ナデ・同心円当り具痕+ナデ			外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
1016	C	西4面 溝22	土師器	高杯	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (10YR7/1) 灰白 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 長石・チャートを含む	
1017	C	西4面 溝22	土師器	高杯			外 ミガキ 内 ケズリ	外 (2.5YR7/6) 橙 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (2.5Y8/4) 淡黄	密	
1018	C	西4面 溝22	土師器	移動式蓋	外 内	外 内		外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (N4/0) 灰 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	
1019	C	西3面 溝28	瓦器	椀	外 ヨコナデ・ナデ+ユビオサエ 内 ヨコナデ・ミガキ	外 ナデ+ユビオサエ 内 ナデ	外 ナデ+ユビオサエ 内 ナデ	外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
1020	C	西3面 溝35	土師器	皿	外 ナデ+ユビオサエ 内 ハケメ+ユビオサエ	外 ナデ+ユビオサエ 内 ナデ	外 ナデ+ユビオサエ 内 ハケメ+ユビオサエ	外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1021	C	西4面 溝56	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ・ヘラキリ 内 回転ナデ		外 (5PB7/1) 明青灰 内 (N5/0) 灰	密	
1022	C	西4面 溝56	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ・ヘラキリ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白	密	外 施釉
1023	C	西4面 溝56	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (7.5Y6/1) 灰 内 (N8/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白	密	外 自然釉
1024	C	西4面 溝56	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/1) 灰白 内 (N6/1) 灰白	密	外 自然釉
1025	C	西4面 溝56	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白	密	
1026	C	西4面 溝56	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N4/0) 灰 内 (N4/0) 灰	密	自然釉
1027	C	西4面 溝56	須恵器	器台			外 カキメ	外 (5PB6/1) 青灰 内 (5PB6/1) 青灰 断 (5PB6/1) 青灰	密	
1028	C	西4面 溝56	須恵器	壺	外 ハケメ・カキメ+タタキ 内 回転ナデ・同心円当子具痕			外 (N7/0) 灰白 内 (N6/0) 灰 断	密	
1029	C	西4面 溝56	須恵器	壺	外 タタキ+回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N4/0) 灰 内 (N6/0) 灰	密	
1030	C	西4面 溝56	須恵器	甕	外 タタキ+回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
1031	C	西4面 溝56	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (7.5Y4/1) 灰 内 (N5/0) 灰	密	
1032	C	西4面 溝56	土師器	杯		外 ミガキ 内 ミガキ		外 (2.5YR7/4) 浅黄橙 内 (7.5YR7/2) 明褐灰	密	
1033	C	西4面 溝56	土師器	高杯	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ	外 ハケメ・ユビオサエ 内 ナデ	外 ヘラナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/2) 灰白	密	棒状工具による刺突
1034	C	西4面 溝56	土師器	高杯			外 ユビオサエ 内 ハケメ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/2) 灰白	密	
1035	C	西4面 溝56	土師器	移動式甕	外 内	外 内		外 (10YR8/2) 灰白 内 (2.5YR7/6) 橙	密	
1036	C	西3面 溝57	土師器	高杯	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR7/4) に近い黄橙 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (7.5YR8/2) 灰白	密	棒状工具による刺突
1037	C	西3面 土坑50	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
1038	C	西3面 土坑51	須恵器	捏鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N4/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (7.5Y7/1) 灰白	密	東播系
1039	C	西3面 土坑51	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N7/0) 灰白 内 (N6/0) 灰 断 (N5/0) 灰	密	
1040	C	西3面 土坑51	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (5PB6/1) 青灰 内 (5PB6/1) 青灰 断 (5PB6/1) 青灰	密	

番号	トレンチ名	階位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1041	C	西3面 土坑51	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
1042	C	西3面 土坑51	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N5/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密	
1043	C	西3面 土坑53	須恵器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N8/0) 灰白 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (N8/0) 灰白	密	
1044	C	西3面 土坑53	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
1045	C	西4面 穴	土師器	高杯A2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR5/1) 褐灰	密 長石・チャートを含む	
1046	C	西4面 穴	土師器	高杯A2	外 ナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ヨコナデ・ナデ		外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙	密 長石・赤色酸化土粒を含む	
1047	C	西4面 穴	土師器	鍋(把手)	外 内	外 内		外 (5Y2/2) オリーブ黒 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (5YR7/6) 橙	密 石英・長石を含む	
1048	C	西4面 穴52	土師器	羽釜	外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ・ユビオサエ	外 ナデ・ハケメ 内 ユビオサエ		外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (7.5YR6/1) 褐灰 断 (10YR7/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
1049	C	西4面 穴174	土師器	手柄	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ユビオサエ	外 (7.5YR6/2) 灰褐 内 (7.5YR6/1) 褐灰 断 (5YR6/6) 橙	密	
1050	C	西4面 穴200	須恵器	甕	内 ナデ			外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (7.5Y6/1) 灰 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密	自然釉
1051	C	西4面 穴206	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N8/0) 灰白 内 (N8/0) 灰白 断 (5Y8/1) 灰白	密	
1052	C	西4面 土坑62	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (N7/0) 灰白	密	
1053	C	西4面 土坑62	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5B6/1) 青灰 内 (5B6/1) 青灰	密	
1054	C	西4面 土坑63	須恵器	高杯			外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N4/0) 灰 内 (N4/0) 灰 断 (5R5/1) 赤灰	密	
1055	C	西4面 土坑64	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (5PB7/1) 明青灰	密	
1056	C	西4面 土坑64	須恵器	甕	外 回転ナデ・タタキ+ナデ 内 回転ナデ・同心円当ナデ具縁+ナ デ			外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
1057	C	西4面 土坑64	土師器	高杯			外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密	
1058	C	西4面 土坑66	土師器	高杯	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/1) 灰白 断 (7.5YR8/1) 灰白	密 チャートを含む	
1059	C	西4面 土坑66	土師器	高杯	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR8/1) 灰白 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR7/6) 橙	密 長石を含む	
1060	C	西4面 土坑66	土師器	高杯	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 調整不明			粗 石英・長石・チャートを含む 心	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1061	C	西4面 土坑66	土師器	高杯	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 調整不明		外 (7.5Y8/1) 灰白 内 (7.5Y8/1) 灰白 断 (7.5Y7/6) 橙	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
1062	C	西4面 土坑66	土師器	杯	外 ハケメ 内 ヘラナデ	外 ハケメ 内 ハケメ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
1063	C	西4面 土坑66	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ+ナデ	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ハケメ		外 (7.5YR7/6) 橙 内 (7.5YR7/2) 明褐色 断 (10YR5/1) 褐灰	密	
1064	C	西4面 土坑66	土師器	甕	外 ハケメ 内 ハケメ	外 ハケメ 内 ハケメ・ユビオサエ		外 (10YR7/6) 明黄褐 内 (10YR4/2) 灰黄褐 断 (7.5YR6/4) にぶい橙	密 長石・チャート・黒雲母・ 赤色酸化土粒を含む	
1065	C	西5面 穴270	土師器	甕	外 ハケメ 内 ハケメ・ユビオサエ+ケズリ	外 ハケメ 内 ハケメ		外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 長石・チャートを含む	
1066	C	西5面 穴277	土師器	移動式甕				外 (5YR7/6) 橙 内 (7.5YR4/3) 褐 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密	
1067	C	西5面 穴281	土師器	甕	外 ヨコナデ・ナデ・ケズリ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ナデ・ケズリ 内 ナデ		外 (7.5YR8/5) 浅黄橙 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密	
1068	C	西5面 穴281	土師器	小形丸底甕	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 調整不明		外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	
1069	C	西5面 穴281	土師器	甕	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ		外 (5YR6/6) 橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (7.5YR6/8) 橙	密	
1070	C	西5面 穴293	土師器	甕	外 ハケメ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ナデ・ユビオサエ		外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (5YR8/2) 灰白 断 (7.5Y7/4) にぶい橙	密 石英・チャート・赤色酸化 土粒を含む	煤付着
1071	C	西5面 穴303	土師器	甕	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ・ハケメ・ユビオサエ	外 ナデ・ハケメ 内 ヨコナデ		外 (7.5YR5/4) にぶい褐 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (7.5YR6/6) 橙	密	
1072	C	西5面 穴303	土師器	製埴土器				外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (5YR6/6) 橙	密	
1073	C	西7面 河川4	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナズリ 内 回転ナデ		外 (5PB7/1) 明青灰 内 (5PB7/1) 明青灰 断 (N7/0) 灰白	密	
1074	C	西7面 河川4	須恵器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (7.5Y5/1) 灰 内 (5Y5/1) 灰 断 (7.5YR5/1) 褐灰	密	
1075	C	西7面 河川4	須恵器	甕		外 スリケシ・細罫文タタキ 内 スリケシ			密	
1076	C	西7面 河川4	須恵器	器台	外 回転ナデ 内 回転ナデ				密	内 自然釉
1077	C	西7面 河川4	土師器	短頸壺B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR7/2) 明褐色 断 (7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
1078	C	西7面 河川4	土師器	短頸直口壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (5Y6/1) 灰	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
1079	C	西7面 河川4	土師器	短頸直口壺	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ナデ 内 ナデ・ユビオサエ		外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR3/1) 黒褐	密	
1080	C	西7面 河川4	土師器	二重口縁壺A 1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (7.5YR6/4) にぶい橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	煤付着

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1081	C	西7面 河川4	土師器	二重口縁壺A 1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ナデ・ケズリ			外 (N3/0) 暗灰 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	
1082	C	西7面 河川4	土師器	壺	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ユビオサエ・ハケメ			外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 (7.5YR6/6) 橙 断 (5Y5/1) 灰	密	外 来系 北近畿
1083	C	西7面 河川4	土師器	壺	外 ヨコナデ 内 ハケメ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (2.5Y8/1) 灰白	密	外 来系 山陰～北 近畿
1084	C	西7面 河川4	土師器	壺	外 ナデ・ミガキ 内 ナデ			外 (7.5YR6/3) にぶい褐 内 (10YR6/1) 褐灰 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密	長石を含む
1085	C	西7面 河川4	土師器	直口壺	外 ナデ・ミガキ・ハケメ 内 ナデ・ケズリ・ユビオサエ			外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密	石英・長石・角閃石を含む
1086	C	西7面 河川4	土師器	直口壺	外 ナデ 内 ヘラナデ			外 (10YR6/1) 褐灰 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密	長石を含む
1087	C	西7面 河川4	土師器	壺			外 ミガキ・ハケメ・ナデ 内 ミガキ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/1) 灰白 断 (7.5YR8/2) 灰白	密	石英・長石を含む
1088	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底壺	外 回転ナデ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (5YR6/4) にぶい橙 断 (5YR7/3) にぶい橙	密	チャート・赤色酸化土粒を 含む
1089	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底壺B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (10YR2/1) 黒 内 (2.5Y5/2) 暗灰黄 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密	チャート・黒雲母を含む
1090	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底壺B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ハケメ・ユビオサエ+ナデ 内 ヨコナデ	外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/1) 灰白	密	石英・長石を含む
1091	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底壺B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (10YR6/2) 灰黄褐	密	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む
1092	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (7.5YR5/3) にぶい褐 内 (10YR5/3) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密	
1093	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底壺	外 ヨコナデ・ハケメ・ユビオサエ 内 ヨビオサエ		外 ハケメ・ナデ・ユビオサエ 内 ヨビオサエ・ヘラナデ	外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密	石英・長石・チャートを含む
1094	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底壺C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ケズリ 内 ヨコナデ	外 (10YR6/1) 褐灰 内 (2.5Y5/1) 黄灰	密	長石・チャート・黒雲母を 含む
1095	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底壺C	外 ナデ 内 ナデ		外 ケズリ 内 ナデ	外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/1) 灰白	密	長石を含む
1096	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底壺	外 ナデ 内 ナデ		外 ケズリ・ユビオサエ 内 ヘラナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白	密	石英を含む
1097	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底壺	外 ナデ 内 ナデ		外 ナデ 内 ミガキ	外 (7.5YR8/6) 浅黄橙 内 (7.5YR8/6) 浅黄橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙	密	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む
1098	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底壺D	外 ナデ 内 ナデ		外 ナデ 内 ヘラナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (N6/0) 灰 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密	チャート・赤色酸化土粒を 含む
1099	C	西7面 河川4	弥生土器	壺	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ			外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (2.5Y4/1) 黄灰 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密	石英・長石を含む
1100	C	西7面 河川4	土師器	高杯A.2	外 ヨコナデ+ハケメ+ミガキ 内 ヨコナデ+ハケメ+ミガキ		外 ナデ 内 ナデ+ミガキ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/4) 浅黄橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密	長石・チャートを含む

備考欄に「木」の記載があるものは、木製の胎土を含むことを示す。

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1101	C	西7面 河川4	土師器	高杯A2	外 内	外 内	ハケメ ナデ	外(10YR8/2) 灰白 内(10YR8/2) 灰白 断(10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	
1102	C	西7面 河川4	土師器	高杯A2	外 内	外 内	ナデ ナデ	外(10YR7/2) 灰白 内(2.5Y6/2) 灰黄 断(2.5Y6/2) 灰黄	密 チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	
1103	C	西7面 河川4	土師器	高杯A1	外 内	外 内	ヨコナデ ヨコナデ	外(2.5Y7/1) 灰白 内(10YR6/2) 灰黄褐 断(10YR7/2) 灰白	密 長石・チャートを含む	
1104	C	西7面 河川4	土師器	高杯A1	外 内	外 内	ハケメ+ヨコナデ ハケメ+ヨコナデ	外(10YR6/1) 褐灰 内(10YR7/2) 灰白 断(2.5Y6/1) 黄灰	密 長石・チャート・雲母・赤酸化土粒を含む	煤付着
1105	C	西7面 河川4	土師器	高杯A1	外 内	外 内	ナデ ナデ	外(2.5Y7/2) 灰黄 内(2.5Y8/3) 淡黄 断(10YR8/1) 灰白	密	
1106	C	西7面 河川4	土師器	高杯A1	外 内	外 内	ヨコナデ ヨコナデ	外(10YR5/1) 褐灰 内(2.5Y5/1) 黄灰 断(7.5YR6/1) 褐灰	密 長石を含む	内 毆打痕
1107	C	西7面 河川4	土師器	高杯A1	外 内	外 内	ナデ ナデ	外(2.5Y6/1) 黄灰 内(10YR6/2) 灰黄褐 断(10YR5/1) 褐灰	密 石英・長石を含む	
1108	C	西7面 河川4	土師器	高杯B	外 内	外 内	ナデ ナデ	外(10YR7/2) 灰白 内(2.5Y7/2) 灰黄 断(2.5Y7/2) 灰黄	密 長石を含む	内 毆打痕
1109	C	西7面 河川4	土師器	高杯B	外 内	外 内	ヨコナデ ヨコナデ	外(5YR8/4) 淡黄 内(5YR8/3) 淡黄 断(5YR8/4) 淡黄	密 石英・赤酸化土粒を含む	構状工具による刺突
1110	C	西7面 河川4	土師器	高杯B	外 内	外 内	ヨコナデ ヘラナデ	外(2.5Y8/1) 灰白 内(2.5Y8/1) 灰白 断(2.5Y8/1) 灰白	密 石英・チャート・赤酸化土粒を含む	
1111	C	西7面 河川4	土師器	高杯B	外 内	外 内	ハケメ+ナデ ヨコナデ+ナデ	外(7.5YR7/4) 灰白 内(10YR7/3) 灰白 断(7.5YR7/3) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	
1112	C	西7面 河川4	土師器	高杯B	外 内	外 内	ヨコナデ ヨコナデ	外(5YR7/4) 灰白 内(7.5YR7/3) 灰白 断(10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	
1113	C	西7面 河川4	土師器	高杯B	外 内	外 内	ナデ ナデ	外(7.5YR8/2) 灰白 内(7.5YR8/2) 灰白 断(7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤酸化土粒を含む	
1114	C	西7面 河川4	土師器	高杯B	外 内	外 内	ハケメ+ヨコナデ ハケメ+ヨコナデ	外(10YR7/2) 灰白 内(7.5YR7/2) 明褐灰 断(5YR7/3) 灰白	密 チャート・赤酸化土粒を含む	構状工具による刺突
1115	C	西7面 河川4	土師器	高杯B	外 内	外 内	ハケメ ナデ	外(2.5YR8/2) 灰白 内(10YR7/2) 灰白 断(10YR7/2) 灰白	密 チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	
1116	C	西7面 河川4	土師器	高杯C	外 内	外 内	ハケメ+ヨコナデ ヨコナデ	外(7.5YR7/3) 灰白 内(10YR8/3) 淡黄褐 断(7.5YR7/4) 灰白	密	内 毆打痕
1117	C	西7面 河川4	土師器	高杯C	外 内	外 内	ハケメ+ナデ ナデ	外(2.5YR6/4) 灰白 内(10YR7/2) 灰白 断(7.5YR7/3) 灰白	密 長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	
1118	C	西7面 河川4	土師器	高杯C	外 内	外 内	ナデ ナデ	外(2.5Y8/2) 灰白 内(2.5Y7/3) 淡黄 断(2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石を含む	
1119	C	西7面 河川4	土師器	高杯	外 内	外 内	ナデ ナデ	外(10YR7/2) 灰白 内(10YR6/3) 灰白 断(2.5Y7/1) 灰白	密 長石・チャートを含む	朱
1120	C	西7面 河川4	土師器	高杯	外 内	外 内	ナデ ナデ	外(10YR6/2) 灰黄褐 内(10YR6/3) 灰白 断(5YR7/4) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1121	C	西7面 河川4	土師器	高杯			外 ハケメ+ナデ 内 ナデ 上、ケズリ 下、ナデ・ユビオサエ	外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 石英・長石・チャートを含む	
1122	C	西7面 河川4	土師器	高杯			外 ナデ 内 上、ケズリ 下、ナデ・ユビオサエ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1123	C	西7面 河川4	土師器	高杯			外 ナデ 内 上、ケズリ 下、ナデ・ユビオサエ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y5/1) 黄灰 断 (2.5Y7/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1124	C	西7面 河川4	土師器	高杯			外 ナデ 内 上、ケズリ 下、ハケメ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 長石・赤色酸化土粒を含む	
1125	C	西7面 河川4	土師器	高杯			外 上、ミガキ・ハケメ 内 下、ナデ 下、ハケメ・ユビオサエ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 石英・長石を含む	
1126	C	西7面 河川4	土師器	高杯			外 上、ヘラナデ 内 上、ケズリ 下、ユビオサエ	外 (10YR5/2) 灰黄褐 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (2.5Y4/1) 黄灰	密 長石を含む	
1127	C	西7面 河川4	土師器	高杯			外 ココナデ 内 下、ヨコナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (2.5YR7/6) 橙 断 (2.5YR7/4) 浅黄橙	密 石英・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1128	C	西7面 河川4	土師器	高杯			外 ナデ 内 上、ケズリ 下、ナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y5/1) 黄灰	密 石英・チャート・黒雲母を含む	
1129	C	西7面 河川4	土師器	高杯			外 上、ハケメ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR6/1) 粗灰	密 石英・長石を含む	
1130	C	西7面 河川4	土師器	布留形曇C	外 ナデ 内 ケズリ		外 ナデ 内 ケズリ	外 (N3/0) 暗灰 内 (5Y4/1) 灰 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石を含む	煤付着
1131	C	西7面 河川4	土師器	布留形曇C	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ユビオサエ		外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ユビオサエ	外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR4/2) 灰黄褐 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・チャートを含む	
1132	C	西7面 河川4	土師器	布留形曇B	外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ・ケズリ		外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ・ケズリ	外 (N2/0) 黒 内 (2.5Y5/2) 暗灰黄 断 (N4/0) 灰	密 石英・黒雲母を含む	
1133	C	西7面 河川4	土師器	布留形曇C	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ハケメ・ケズリ		外 ヨコナデ・ハケメ 内 ハケメ・ケズリ	外 (N2/0) 黒 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	煤付着
1134	C	西7面 河川4	土師器	布留形曇B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ		外 ハケメ 内 ケズリ	外 (N2/0) 黒 内 (7.5Y7/4) にぶい橙 断 (10YR7/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	煤付着
1135	C	西7面 河川4	土師器	布留形曇B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ・ユビオサエ		外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
1136	C	西7面 河川4	土師器	布留形曇B	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ		外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ	外 (N3/0) 暗灰 内 (2.5Y7/3) 浅黄 断 (7.5YR7/3) にぶい橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	煤付着
1137	C	西7面 河川4	土師器	布留形曇C	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ケズリ		外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ケズリ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1138	C	西7面 河川4	土師器	布留形曇C	外 ナデ 内 ナデ・ケズリ		外 ナデ 内 ナデ・ケズリ	外 (N2/0) 黒 内 (10YR3/1) 黒褐 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
1139	C	西7面 河川4	土師器	布留形曇C	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ		外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ	外 (N3/0) 暗灰 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (7.5GY4/1) 暗緑灰	密	
1140	C	西7面 河川4	土師器	布留形曇B	外 ナデ 内 ハケメ		外 ナデ 内 ハケメ	外 (5Y7/3) 浅黄 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (5Y2/2) オリーブ黒	密	



番号	トレンチ名	階位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
1141	C	西7面 河川4	土師器	布留形甕A				外 (10YR4/2) 灰黄褐 内 (10YR4/2) 灰黄褐 断 (10YR7/1) 灰白	密 黒雲母を含む	密 黒雲母を含む		
1142	C	西7面 河川4	弥生土器	甕	外 ナデ 内 ナデ			外 (7.5YR7/3) にぶい黄橙 断 (5YR6/8) 橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	黒	
1143	C	西7面 河川4	弥生土器	甕	外 ナデ 内 ナデ			外 (10YR7/1) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	黒	煤付着
1144	C	西7面 河川4	弥生土器	甕		外 タタキ・ナデ 内 ナデ		外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y5/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	赤	
1145	C	西7面 河川4	弥生土器	甕		外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 長石・チャートを含む	密 長石・チャートを含む		
1146	C	西7面 河川4	弥生土器	甕		外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR5/2) 灰黄褐 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR5/2) 灰黄褐	密 長石・チャート・黒雲母を含む	密 長石・チャート・黒雲母を含む		
1147	C	西7面 河川4	土師器	大形鉢	外 ヨコナデ・ハケメ・ミガキ 内 ヨコナデ			外 (10YR7/2) 灰黄褐 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密 黒雲母・赤色酸化土粒を含む	密 黒雲母・赤色酸化土粒を含む		
1148	C	西7面 河川4	土師器	小形鉢F2	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ			外 (10YR6/1) 褐灰 内 (N4/0) 灰 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 長石・黒雲母を含む	密 長石・黒雲母を含む		
1149	C	西7面 河川4	土師器	手捏	外 ナデ 内 ヘラナデ			外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	赤	
1150	C	西7面 河川4	土師器	小形丸底鉢B3	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ			外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (N3/0) 暗灰 断 (5YR7/4) にぶい橙	密 石英・チャートを含む	密 石英・チャートを含む		
1151	C	東1層	磁器(染付)	碗				外 (7.5GY8/1) 明緑灰 内 (7.5GY8/1) 明緑灰 断 (N8/1) 灰白	密	密		外 施釉 内 施釉
1152	C	東1層	磁器(白磁)	紅皿				密		密		
1153	C	東1層	陶器	鉢	外 回転ケズリ			外 (5Y8/2) 灰白 内 (5Y8/2) 灰白 断 (5Y8/2) 灰白	密	密		外 施釉 内 施釉
1154	C	東1層	陶器	土瓶				外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密	密		
1155	C	東1層	土師器	茶釜	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (2.5Y7/3) 浅黄	密 長石を含む	密 長石を含む		煤付着
1156	C	東1面	磁器	碗				外 (5YR2/2) 黒褐 内 (5YR2/2) 黒褐	密	密		外 施釉(鉄釉) 内 施釉(鉄釉)
1157	C	東2層	磁器(白磁)	碗				外 (10Y8/1) 灰白 内 (10Y8/1) 灰白 断 (7.5Y8/2) 灰白	密	密		外 施釉 内 施釉
1158	C	東2層	瓦器	羽釜	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (2.5Y3/1) 黒褐 内 (N4/0) 灰 断 (N8/0) 灰白	密	密		
1159	C	東3層	瓦器	碗	外 ケズリ・ナデ・ユビオサエ 内 ナデ+ミガキ			外 (7.5Y4/1) 灰 内 (5PB5/1) 青灰 断 (N8/0) 灰白	密	密		
1160	C	東4層	磁器	碗				外 (10Y6/1) 灰 内 (7.5Y7/1) 灰白 断 (N8/0) 灰白	密	密		外 施釉 内 施釉

番号	トレンチ名	階位・遺構	器種	器形	口縁部	体	底部・脚部	色	調	土	備考
1161	C	東4層	磁器(青白磁)	合子				外(7.5YR8/1)灰白 内(7.5Y8/1)灰白 断(8.8/0)灰白		密	外施釉 内施釉
1162	C	東4層	瓦器	椀				外(8.5/0)灰 内(2.5Y7/1)灰白 断(8.8/0)灰白		密	
1163	C	東4層	瓦器	皿	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外(8.3/0)灰 内(8.4/0)灰 断(7.5Y7/1)灰白		密	
1164	C	東4層	土師器	皿	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外(2.5Y8/2)灰白 内(10YR8/2)灰白 断(7.5YR8/1)灰白		密	
1165	C	東4層	土師器	皿	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外(7.5YR8/3)浅黄橙 内(7.5YR7/3)にぶい橙		密	
1166	C	東5層	磁器(白磁)	碗			外 回転ケズリ	外(10Y7/1)灰白 内(10Y7/2)灰白 断(10Y8/1)灰白		粗	内施釉
1167	C	東5層	瓦器	椀			外 ナデ 内 ミガキ	外(5Y5/1)灰 内(5Y5/0)灰 断(3Y8/1)灰白		密	
1168	C	東5層	黒色土器B	椀	外ミガキ 内ミガキ			外(7.5YR1.7/1)黒 内(7.5YR1.7/1)黒 断(7.5YR1.7/1)黒		密	
1169	C	東5層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外(5PB6/1)青灰 内(5PB6/1)青灰 断(5PB6/1)青灰		密	
1170	C	東5層	須恵器	杯身	外 回転ケズリ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外(8.6/0)灰 内(8.6/0)灰 断(8.7/0)灰白		密	
1171	C	東5層	須恵器	甌	外 回転ナデ・タタキ 内 回転ナデ			外(8.6/1)灰 内(10BG6/1)青灰 断(8.7/1)灰白		密	
1172	C	東6層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外(8.7/0)灰白 内(8.7/0)灰白 断(8.8/0)灰白		密	
1173	C	東6層	須恵器	甌	外 回転ナデ 内 回転ナデ・同心円当テ具痕			外(8.7/0)灰白 内(8.7/0)灰白 断(8.6/0)灰		密	
1174	C	東6層	須恵器	甌	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(10R5/2)灰赤 内(8.6/0)灰 断(8.6/0)灰		密	
1175	C	東6層	土師器	鍋(把手)	外 ハケメ・ユビオサエ 内 ハケメ・ユビオサエ			外(2.5Y7/4)浅黄 内(2.5Y7/2)灰黄褐 断(7.5YR5/6)明褐		密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	口縁部外面に同心 円当て具痕
1176	C	東7層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外(8.5/0)灰 内(8.6/0)灰 断(7.5YR6/1)相灰		密	
1177	C	東9層	土師器	弥生形甌	外 タタキ・ユビオサエ 内 ナデ・ハケナデ			外(10YR7/2)にぶい黄橙 内(10YR5/2)灰黄褐 断(5YR7/3)にぶい橙		密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
1178	C	東9層	土師器	弥生形甌	外 ヨコナデ・タタキ 内 ヨコナデ・ハケナデ			外(8.3/0)暗灰 内(10YR7/3)にぶい黄橙 断(7.5YR8/1)灰白		密 長石・チャート・黒雲母・ 赤色酸化土粒を含む	
1179	C	東1面 井戸4	磁器(染付)	碗				外(5PB4/1)暗青灰 内(5PB4/1)暗青灰 断(8.8/0)灰白		密	
1180	C	東1面 井戸4	磁器(染付)	碗				外 白 内 白 断 白		密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器	器形	口縁部	体	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
1181	C	東1面 井戸4	磁器(架付)	碗型碗					外 白 内 白 断 白		密		
1182	C	東1面 井戸4	磁器(架付)	碗					外 (N8/0) 灰白 内 (N8/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白		密		
1183	C	東1面 井戸4	土師器	羽釜	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ				外 (2.5Y5/2) 暗灰黄 内 (2.5Y5/2) 暗灰黄 断 (N2/0) 黒		密		煤付着
1184	C	東1面 河川1	磁器(青磁)	碗				外 回転ケズリ	外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (7.5Y7/1) 灰白		密		外 施釉 内 施釉
1185	C	東1面 河川1	磁器(白磁)	碗				外 回転ケズリ	外 (N8/0) 灰白 内 (10GY8/1) 明緑灰 断 (N8/0) 灰白		密		外 施釉 内 施釉
1186	C	東1面 河川1	陶器	挿鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ+枕縁				外 (10R4/2) 灰赤 内 (2.5YR4/2) 灰赤 断 (2.5YR6/2) 灰赤		粗		備前 丹波?
1187	C	東1面 河川1	瓦器	椀				外 ナデ 内 ミガキ	外 (5Y8/1) 灰白 内 (N5/0) 灰 断 (5Y8/1) 灰白		密		
1188	C	東1面 河川1	瓦器	椀				外 ナデ 内 ミガキ	外 (N3/0) 暗灰 内 (N3/0) 暗灰 断 (7.5Y8/2) 灰白		密		
1189	C	東1面 河川1	土師器	皿	外 ユビオサエ+ナデ 内 ナデ+ユビオサエ				外 (10YR8/4) 浅黄橙 内 (10YR8/4) 浅黄橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙		密		長石・チャート・赤色酸化土粒を含む
1190	C	東1面 河川1	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ				外 (2.5YR8/2) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白		密		石英・チャート・赤色酸化土粒を含む
1191	C	東1面 河川1	土師器	皿	外 ナデ 内 ハケメ				外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙		密		長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む
1192	C	東1面 河川1	土師器	皿	外 ナデ 内 ヨコナデ				外 (10YR8/4) 浅黄橙 内 (10YR6/6) 明黄褐 断 (10YR7/2) にぶい黄橙		密		チャートを含む
1193	C	東1面 河川1	須恵器	挿鉢	外 回転ナデ 内 回転ナデ				外 (10Y6/1) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (10Y6/1) 灰		密		東播系
1194	C	東1面 河川1	須恵器	壺	外 回転ケズリ 内 回転ナデ				外 (5Y7/1) 灰白 内 (5P7/1) 明紫灰 断 (5P7/1) 明紫灰		密		
1195	C	東1面 河川1	須恵器	皿	外 回転ナデ 内 回転ナデ				外 (N5/0) 灰 内 (N4/0) 灰 断 (5YR3/6) 暗赤褐		密		
1196	C	東4面 穴51	陶器	皿					外 (7.5Y5/1) 灰 内 (5Y5/1) 灰		密		外 施釉 内 施釉
1197	C	東9面 溝61	土師器	弥生形甕	外 ヨコナデ・タタキ・ハケメ・ナ 内 ヨコナデ・ハラナデ・ケズリ				外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y8/2) 灰白		密		長石・チャートを含む
1198	C	東9面 溝61	土師器	弥生形甕	外 ヨコナデ・ハケメ・タタキ 内 ナデ				外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/1) 灰白		密		石英・長石・チャート・黒雲母を含む
1199	2A-1	3層	土師器	高杯D2	外 ミガキ 内 ナデ・ミガキ				外 (2.5Y7/3) 浅黄 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄		密		石英・長石・赤色酸化土粒を含む
1200	2A-1	3層	土師器	器台	外 ヨコナデ 内 ヘラナデ・ケズリ				外 (7.5YR6/3) にぶい褐 内 (10YR8/2) 灰白 断 (2.5Y7/2) 灰黄		密		石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む 外 来 因幡 (奥田氏観祭)

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎土	備考
1201	2A-1	6層	土師器	有孔鉢A2	外ナデ 内ナデ	外ナデ 内ナデ	外ナデ 内ナデ	外(10YR7/1)灰白 内(7.5YR6/2)灰褐 断(10YR7/2)にぶい黄橙	密長石・チャート・赤色酸化土粒を含む		
1202	2A-1	3面溝120	土師器	鉢	外ナデ 内ナデ	外ナデ・ハケメ・ハケメ+ナデ 内ナデ・ハケメ	外ナデ 内ナデ	外(10YR7/4)にぶい黄橙 内(10YR6/2)灰黄褐 断(10YR7/3)にぶい黄橙	粗石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む		赤色顔料(鉄+水銀)
1203	2A-1	3面溝120	土師器	小形丸底壺				外(2.5Y7/1)灰白 内(2.5Y7/1)灰白	密長石を含む		外来 河内
1204	2A-1	3面溝120	土師器	庄内形壺A	外ナデ 内ハケメ・ケズリ			外(10YR3/1)黒褐 内(2.5Y2/1)黒 断(2.5Y6/2)灰黄	密長石・黒雲母を含む		
1205	2A-1	3面溝123	土師器	短頸直口壺	外ナデ 内ナデ	外ナデ 内ナデ・ユビオサエ		外(10YR7/2)にぶい黄橙 内(2.5YR6/2)灰黄 断(10YR8/2)灰白	粗石英・長石・チャート・雲母・赤色酸化土粒を含む		
1206	2A-1	3面溝123	土師器	広口壺B	外ヨコナデ+ハケメ+ミガキ 内ナデ・ミガキ			外(2.5Y7/2)灰黄 内(2.5Y7/3)浅黄 断(2.5Y5/1)黄灰	密長石・チャートを含む		
1207	2A-1	3面溝123	土師器	短頸壺B	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ユビオサエ			外(2.5YR6/6)橙 内(5YR6/4)にぶい橙 断(7.5YR7/3)にぶい橙	密長石・チャート・赤色酸化土粒を含む		
1208	2A-1	3面溝123	土師器	短頸壺A	外ハラナデ・ハケメ 内ナデ・ハラナデ			外(10YR8/2)灰白 内(10YR7/2)にぶい黄橙 断(10YR8/2)灰白	粗石英・チャートを含む		
1209	2A-1	3面溝123	土師器	二重口縁壺B1	外ミガキ+ナデ・ハケメ+ナデ 内ミガキ・ナデ・ユビオサエ			外(5YR8/4)浅橙 内(5YR1.7/1)黒 断(10YR7/2)にぶい黄橙	密石英・長石・チャートを含む		内 黒色物質付着
1210	2A-1	3面溝123	土師器	壺	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外(10YR4/1)褐灰 内(10YR5/1)褐灰 断(7.5YR6/1)褐灰	密長石・チャートを含む		外来?
1211	2A-1	3面溝123	土師器	高杯A1	外ヨコナデ+ミガキ 内ナデ			外(10YR7/2)にぶい黄橙 内(10YR7/3)にぶい黄橙 断(10YR5/1)褐灰	密長石・チャート・黒雲母を含む		
1212	2A-1	3面溝123	土師器	小形器台C1	外ヨコナデ 内ミガキ	外ハケメ+ミガキ	外ハケメ+ミガキ 内上、ハケメナデ 下、ヨコナデ	外(7.5YR7/2)明褐灰 内(10YR7/2)にぶい黄橙 断(7.5YR6/4)にぶい橙	密長石・チャート・赤色酸化土粒を含む		
1213	2A-1	3面溝123	土師器	小形器台	外ヨコナデ+ミガキ 内ミガキ	外ヨコナデ+ミガキ 内ミガキ		外(2.5Y7/2)灰黄 内(10YR5/1)褐灰 断(2.5Y6/1)黄灰	密石英・長石を含む		
1214	2A-1	3面溝123	土師器	弥生形壺A2	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外タタキ・ハケメナデ 内板ナデ		外(2.5Y7/2)灰黄 内(2.5Y7/2)灰黄 断(2.5Y8/2)灰白	密長石・石英・チャート・赤色酸化土粒を含む		
1215	2A-1	3面溝123	土師器	壺	外ミガキ+ナデ・ユビオサエ 内ナデ	外ミガキ+ナデ・ユビオサエ 内ナデ		外(10YR8/4)浅黄橙 内(2.5Y7/2)灰黄 断(2.5Y8/1)灰白	密石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む		外 黒色物質付着
1216	2A-1	3面溝123	土師器	壺	外ナデ 内ナデ+ハケメ	外タタキ+ハケメナデ 内ナデ		外(5PB3/1)暗青灰 内(10YR8/1)灰黄褐 断(2.5YR7/8)橙	密石英・長石・チャートを含む		
1217	2A-1	3面溝123	土師器	布留形壺C	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ 内板ナデ		外(2.5Y6/2)灰黄 内(2.5Y6/2)灰黄 断(2.5Y7/2)灰黄	密石英・長石を含む		
1218	2A-1	3面溝123	土師器	布留形壺B	外ナデ 内ナデ	外ナデ 内板ナデ		外(2.5Y7/2)灰黄 内(2.5Y7/3)浅黄 断(2.5Y8/1)灰白	密石英・長石を含む		
1219	2A-1	3面溝123	土師器	布留形壺B	外ナデ 内ナデ	外ナデ 内ナデ		外(10YR4/1)褐灰 内(7.5YR8/3)浅黄橙 断(7.5YR8/2)灰白	密石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む		外 黒色物質付着
1220	2A-1	3面溝123	土師器	壺	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ヨコナデ 内ヨコナデ		外(10YR7/1)黒 内(10YR6/1)褐灰 断(10YR7/1)灰白	密石英・長石・チャート・黒雲母を含む		外来 湖東、庄内川か。(奥田氏分析)

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1221	2A-1	3面 溝123	土師器	甕	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ナデ		外 (10YR8/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (N5/0) 灰	密 チャート・黒雲母を含む	外来系 東海 胎土は在地 (奥田氏分析)
1222	2A-1	3面 溝123	土師器	片口鉢か高杯	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ナデ 内 ミガキ		外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (10YR6/6) 明黄褐 断 (10YR6/4) にぶい黄橙	密 砂粒を含む	外来?
1223	2A-1	3面 溝123	土師器	鉢	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ケズリ 内 ミガキ		外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR6/3) にぶい褐	密	外来 阿波 (奥田氏観察)
1224	2A-1	3面 溝123	土師器	鉢				外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (N5/0) 灰	密 砂粒を含む	外来系 近江
1225	2A-1	3面 溝123	土師器	小形丸底鉢B 3	外 ナデ・ミガキ 内 ハケメ+ミガキ	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y6/2) 灰黄	密	赤色顔料 (鉄+水銀)
1226	2A-1	3面 溝123	土師器	小形丸底蓋か 鉢						
1227	2A-1	3面 溝123	弥生土器	壺か高杯	内 ナデ			外 (2.5Y7/3) 浅黄 内 (2.5Y7/3) 浅黄 断 (2.5Y5/3) 黄褐	密 長石を含む	外来系 備後、山陰
1228	2A-1	3面 溝123	弥生土器	甕	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ			外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	粗 石英・長石・砂粒を含む	爪痕?
1229	2A-1	3面 溝123	弥生土器	甕	外 ナデ 内 ナデ			外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 長石・チャート・黒雲母を含む	
1230	2A-1	3面 溝123	弥生土器(前期)	壺				外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (5Y7/2) 灰白	密 砂粒を含む	外来 播磨 (奥田氏観察)
1231	2A-2	2層	磁器			外 回転ナデ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR3/1) 黒褐 断 (5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外 漆釉 (鉄釉) 内 漆釉 (鉄釉) 天目茶碗
1232	2A-2	5層	黒色土器	碗		外 回転ナデ 内 ミガキ		外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (N3/0) 暗灰 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 赤色酸化土粒を含む	
1233	2A-2	5層	須恵器	高杯		外 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N6/0) 灰	密	
1234	2A-2	5層	須恵器	器台か高杯				外 (10Y5/1) 灰 内 (N8/0) 灰白 断 (7.5R5/2) 灰赤	密	
1235	2A-2	6層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N5/0) 灰 内 (5PB6/1) 青灰 断 (5R6/1) 赤灰	密	
1236	2A-2	6層	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (N4/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (5R5/1) 赤灰	密	
1237	2A-2	6層	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (7.5YR5/1) 褐灰 内 (N7/1) 灰白 断 (5YR5/2) 灰褐	密	
1238	2A-2	6層	土師器	小形丸底蓋	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ミガキ	外 ミガキ	外 調整不明	外 (7.5Y7/4) にぶい橙 内 (7.5Y6/4) にぶい橙	密	
1239	2A-2	6層	土師器	小形丸底蓋B	外 ナデ 内 ハケメ	外 ナデ 内 板ナデ	外 ナデ 内 板ナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	黒
1240	2A-2	6層	土師器	器台	外 ハケメ+ミガキ・ヨコナデ 内 ナデ・ケズリ+ナデ	外 ハケメ+ミガキ 内 ナデ	外 ハケメ+ミガキ・ヨコナデ 内 ナデ・ケズリ+ナデ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密 チャート・赤色酸化土粒を含む	外来 因幡、秋里 か泊書? (奥田氏観察)

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1241	2A-2	6層	土師器	甕	外ヨコナデ・ナデ 内ヨコナデ・ケズリ			外(2.5Y2/1)黒 内(2.5Y8/1)灰白 新(2.5Y8/1)灰白	密チャートを含む	外来 因幡 (奥田氏観察)
1242	2A-2	6層	土師器	甕	外ナデ 内ナデ・ユビオサエ	外ハケメ 内ケズリ		外(10YR8/2)灰白 内(10YR8/2)灰白 新(10YR8/2)灰白	密石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	外来 丹後か? (奥田氏分析)
1243	2A-2	6層	土師器	甕	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ 内ケズリ		外(N2/0)黒 内(2.5Y8/1)灰白 新(N5/0)灰	密チャート・黒雲母を含む	外来 北陸か山陰 秋里? (奥田氏観察)
1244	2A-2	6層	土師器	手捏	外ユビオサエ 内ユビオサエ			外(2.5Y7/2)灰黄 内(2.5Y7/2)灰黄 新(2.5Y8/1)灰白	密石英・長石・黒雲母を含む	
1245	2A-2	6層	土師器	甕				外(5YR7/6)橙 内(5YR6/6)橙 新(7.5YR7/4)にぶい橙	粗長石・赤色酸化土粒を含む	
1246	2A-2	6面	土師器	小形丸底甕B	外ナデ 内ナデ・ケズリ	外ナデ 内ケズリ・ユビオサエ		外(10YR7/2)にぶい黄橙 内(10YR6/2)灰黄褐	密	打ち欠き 煤付着
1247	2A-2	6面	土師器	小形甕	外ナデ 内ナデ	外ナデ 内ナデ		外(10YR8/2)灰白 内(10YR8/2)灰白 新(7.5Y7/6)橙	密砂粒を含む	煤付着
1248	2A-2	7層	土師器	広口甕E	外ヨコナデ 内調整不明			外(7.5YR7/4)にぶい橙 内(10YR7/3)にぶい黄橙 新(10YR8/2)灰白	密石英・長石・チャート・雲 母・赤色酸化土粒を含む	
1249	2A-2	7層	土師器	小形器台C1	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ミガキ 内ミガキ		外(7.5YR7/2)明褐灰 内(7.5YR7/2)明褐灰 新(7.5YR5/1)褐灰	密長石・チャートを含む	敲打痕?
1250	2A-2	7層	土師器	弥生形甕A2	外ナデ 内ナデ	外タタキ 内ナデ		外(7.5YR7/6)橙 内(7.5YR7/3)にぶい橙 新(10YR8/3)浅黄橙	粗石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
1251	2A-2	7層	土師器	弥生形甕A3	外ナデ 内ナデ	外タタキ 内ナデ・ユビオサエ		外(7.5YR6/6)橙 内(7.5YR7/4)にぶい橙 新(7.5YR8/2)灰白	密石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
1252	2A-2	7層	土師器	布留形甕C	外ヨコナデ・ハケメ 内ヨコナデ・ケズリ			外(7.5YR8/6)浅黄橙 内(7.5YR8/4)浅黄橙 新(7.5YR8/4)浅黄橙	密石英・長石を含む	
1253	2A-2	7層	土師器	小形鉢E1	外ナデ 内ミガキ	外ナデ 内ミガキ		外(2.5Y7/2)灰黄 内(2.5Y4/1)黄灰 新(2.5Y5/6)黄灰	密長石・チャートを含む	
1254	2A-2	8層	土師器	大形鉢A2	外ナデ・ミガキ 内ミガキ			外(10YR3/1)黒褐 内(N2/0)黒 新(2.5Y6/1)黄灰	密長石・チャート・雲母を含 む	
1255	2A-2	8層	土師器	有孔鉢A	外ヨコナデ 内ハケナデ	外タタキ 内ハケナデ		外(5YR8/3)赤橙 内(7.5YR8/2)灰白 新(5YR7/1)明褐灰	密石英・長石・チャートを含 む	
1256	2A-2	8層	土師器	高杯小鉢		外ハケメ 内ヨコナデ		外(7.5YR7/2)明褐灰 内(10YR8/1)灰白 新(10YR8/1)灰白	密石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
1257	2A-2	8層	土師器	高杯小鉢		外ナデ 内ナデ		外(2.5Y6/2)灰黄 内(2.5Y7/2)灰黄 新(2.5Y6/1)黄灰	密石英・長石・チャート・黒 雲母・砂粒を含む	
1258	2A-2	8層	土師器	弥生形甕B	外ヨコナデ・タタキ 内ヨコナデ+ハケメ・ハケナデ			外(7.5YR7/4)にぶい橙 内(7.5YR7/3)にぶい橙 新(2.5Y6/1)黄灰	密石英・長石・チャートを含 む	煤付着 穿孔
1259	2A-2	8層	土師器	布留形甕C	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ナデ 内敷ナデ		外(10YR3/2)黒褐 内(10YR7/2)にぶい黄橙 新(10YR8/1)灰白	密長石・チャートを含む	
1260	2A-2	8層	土師器	布留形甕C	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ 内ナデ・ケズリ		外(N3/0)暗灰 内(2.5Y5/1)黄灰 新(2.5Y6/1)黄灰	密長石・チャートを含む	

番号	トレン字名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1261	2A-2	8層	弥生土器(後期)	甕		外ナデ 内ナデ		外(2.5YR8/2)灰白 内(2.5YR8/2)灰白 断(10YR8/1)灰白	密 石英・長石を含む	外来系 近江 煤付着
1262	2A-2	8層	弥生土器(後期)	甕		外ナデ 内ナデ	タタキ ハケメ	外(5YR7/1)黒 内(7.5YR5/2)灰褐 断(7.5YR5/6)明褐	密 直径2~3mmの石英・長石を含む	「く」字形タタキ
1263	2A-2	9層	土師器	広口壺E	外ナデ+ハケメ 内ナデ			外(5YR6/6)褐 内(10YR5/1)明灰 断(10YR3/1)浅黄橙	密 石英・長石を含む	
1264	2A-2	9層	弥生土器(前期)	壺	外ナデ・ハケメ 内ナデ			外(5YR6/6)褐 内(5YR7/6)橙 断(10YR8/3)浅黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	
1265	2A-2	9層	弥生土器(前期)	壺	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外(5YR8/3)淡黄 内(5Y8/1)灰白 断(10Y6/1)灰	密 石英・長石を含む	
1266	2A-2	9層	土師器	布留形壺C	外ナデ 内ナデ			外(2.5Y7/2)灰黄 内(2.5Y8/2)灰白 断(2.5Y6/2)灰黄	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1267	2A-2	9面	弥生土器	壺		外ナデ・板ナデ 内ナデ・板ナデ		外(2.5YR7/4)淡赤橙 内(10YR6/2)灰黄褐 断(N4/0)灰	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	
1268	2A-2	9面	土師器	布留形壺A	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ハケメ			外(NL5/0)黒 内(2.5YR5/2)暗灰黄 断(5Y6/1)灰	密 長石・雲母を含む	
1269	2A-2	10層	弥生土器(後期初頭)	広口壺	外ナデ・ハケメ 内ヨコナデ・ミガキ			外(7.5YR7/2)明褐灰 内(5YR8/3)淡褐 断(7.5YR7/1)明褐灰	密 長石・赤色酸化土粒・角閃石を含む	1824~1829と同一個体 外来 河内ではない(奥田氏分析)
1270	2A-2	10層	弥生土器(後期)	壺蓋	外ヨコナデ・ミガキ 内ヨコナデ・ミガキ			外(10YR6/3)にぶい黄橙 内(10YR6/2)灰黄褐 断(5YR5/6)明赤褐	密 石英・長石を含む	
1271	2A-2	10層	弥生土器(後期)	広口壺	外ヨコナデ・ミガキ 内ヨコナデ・ナデ			外(5YR5/4)にぶい赤褐 内(2.5YR5/4)にぶい赤褐 断(2.5YR5/4)にぶい赤褐	密 長石・チャート・角閃石を含む	外来系 河内?
1272	2A-2	10層	弥生土器	壺	外ハケナデ 内ナデ+板ナデ			外(7.5R5/3)にぶい赤褐 内(5YR7/1)黒 断(5YR7/3)にぶい橙	粗 石英・長石・雲母を含む	
1273	2A-2	10層	弥生土器	小形壺	外ハケメ・ミガキ 内ヨコナデ・ハラナデ			外(7.5YR8/6)淡黄橙 内(7.5YR5/2)灰褐	密 石英・長石・雲母を含む	
1274	2A-2	10層	弥生土器	細頸壺	外ミガキ 内ナデ			外(7.5YR8/1)灰白 内(2.5YR8/2)灰白 断(2.5Y6/1)黄灰	密 チャートを含む	赤色顔料(鉄)
1275	2A-2	10層	弥生土器	壺?		内ナデ		外(2.5Y7/3)浅黄 内(2.5Y7/2)灰黄 断(2.5Y7/1)灰白	密 石英・長石を含む	線刻土器
1276	2A-2	10層	弥生土器	甕	外ナデ・ハケメ 内ナデ・ハラナデ・ユビオサエ			外(7.5YR4/2)灰褐 内(2.5YR7/6)橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 瀬戸内
1277	2A-2	10層	弥生土器(後期)	高杯	外ナデ・ミガキ+ナデ 内ナデ			外(7.5YR8/3)浅黄橙 内(10YR8/3)浅黄橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	打ち欠き 黒色物質付着
1278	2A-2	11層	弥生土器	広口壺	外ヨコナデ・ハケメ 内ヨコナデ			外(7.5YR7/4)にぶい橙 内(10YR7/2)にぶい黄橙 断(10YR8/3)浅黄橙	密 石英・長石を含む	
1279	2A-2	11面	弥生土器(中期)	長頸広口壺	外ナデ・ミガキ 内ユビオサエ			外(2.5Y4/2)暗灰黄 内(2.5Y4/2)暗灰黄 断(N2/0)黒	密 長石・角閃石を含む	外来 河内
1280	2A-2	11層	弥生土器	壺?	外ナデ 内板ナデ			外(10YR7/3)にぶい黄橙 内(10YR7/4)にぶい黄橙 断(10YR7/2)にぶい黄橙	密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1281	2A-2	11層	弥生土器(後期)	甕		内 ハケメ		外(10YR17/1)黒 内(2.5Y8/1)灰白 断(2.5Y5/1)黄灰	密 石英・長石を含む	外来系 煤附着
1282	2A-2	11層	弥生土器(中期)	台付鉢		外 上、ミガキ 内 ナデ		外(2.5Y8/1)灰白 内(5Y8/2)灰白	密 石英・長石を含む	
1283	2A-2	11層	弥生土器(後期初頭)	高杯		外 上、ナデ 内 上、ナデ		外(10YR6/3)にぶい黄橙 内(10YR6/3)にぶい黄 断(10YR7/1)灰白	密 長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来 四国?河内? (奥田氏観察)
1284	2A-2	12層	弥生土器	水差	内 ナデ			外(2.5Y8/2)灰白 内(2.5Y7/3)浅黄 断(2.5Y8/2)灰白	密 長石を含む	
1285	2A-2	12層	弥生土器	甕	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ		外(N2/0)黒 内(10YR7/2)にぶい黄橙 断(10YR8/1)灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	煤附着
1286	2A-2	12層	弥生土器	甕	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ		外(10YR7/2)にぶい黄橙 内(10YR7/2)にぶい黄橙 断(10YR8/2)灰白	密 石英・長石を含む	
1287	2A-2	12層	弥生土器	甕		外 ハケメ 内 ナデ		外(2.5Y3/1)黒褐 内(N5/0)黒 断(10YR4/1)褐灰	密 長石・チャートを含む	
1288	2A-2	12面	弥生土器	壺		外 ヘラナデ 内 板ナデ		外(10YR7/2)にぶい黄橙 内(7.5YR7/6)橙 断(2.5YR7/1)灰白	密 石英・長石を含む	線刻土器
1289	2A-2	5~6面 土器群1	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(N3/0)暗灰 内(N7/0)灰白 断(7.5R6/2)灰赤	密	
1290	2A-2	5~6面 土器群1	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外(2.5GY5/1)オリーブ灰 内(N7/0)灰白 断(N7/0)灰白	密 長石・チャートを含む	
1291	2A-2	5~6面 土器群1	須恵器	器台		内 回転ナデ		外(7.5Y6/1)灰 内(5RP7/1)暗紫灰 断(5R6/1)赤灰	密 石英・長石・雲母を含む	
1292	2A-2	5~6面 土器群2	須恵器	甕		外 回転ナデ・回転ケズリ 内 回転ナデ		外(N7/1)灰白 内(N7/1)灰白 断(N7/1)灰白	密 長石を含む	
1293	2A-2	5~6面 土器群12	土師器	甕	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外(7.5YR8/6)浅黄橙 内(7.5YR8/6)浅黄橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1294	2A-2	5~6面 土器群13	土師器	短頸壺A	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外(5YR7/6)橙 内(5YR6/6)橙 断(7.5YR8/2)灰白	密 石英・長石を含む	
1295	2A-2	5~6面 土器群13	土師器	高杯E	外 ナデ 内 ナデ			外(5YR8/2)灰白 内(7.5YR7/4)にぶい黄橙 断(10YR8/1)灰白	密 石英・チャートを含む	
1296	2A-2	5~6面 土器群13	土師器	高杯		外 ナデ 内 ナデ		外(5YR7/6)橙 内(5YR8/4)淡橙 断(7.5YR8/1)灰白	粗 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	
1297	2A-2	5~6面 土器群13	土師器	弥生形壺B1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内 ナデ		外(5YR6/6)橙 内(5YR6/6)橙 断(10YR8/2)灰白	密 石英・長石・チャート・雲母・赤色酸化土粒・砂岩を含む	
1298	2A-2	5~6面 土器群13	土師器	弥生形壺か有孔鉢A		外 タタキ 内 板ナデ		外(10YR7/2)にぶい黄橙 内(10YR8/1)灰白 断(2.5Y8/1)灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1299	2A-2	6面 土器群1	弥生土器(後期初頭)	大形鉢	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ		外(7.5YR8/4)浅黄橙 内(7.5YR8/4)浅黄橙 断(N7/0)灰白	密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1300	2A-2	6面 土器群1	弥生土器(後期初頭)	壺	外 ハケメ+ナデ 内 板ナデ	外 ハケメ+ナデ+ミガキ・ハケメ 内 ハケメ		外(10YR6/3)にぶい黄橙 内(7.5YR7/6)橙 断(10YR6/1)褐灰	密 石英・長石・チャート・雲母を含む	外来 阿波 (奥田氏観察) 黒色物質



番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1301	2A-2	6面 土器棺2	弥生土器(後期)	鉢	外ナデ 内			外(7.5YR8/4) 浅黄橙 内(7.5YR8/4) 浅黄橙 断(10Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	黒色物質
1302	2A-2	6面 土器棺2	弥生土器(後期)	壺	外ナデ 内	外ナデ・ミガキ 内	外板ナデ 内ナデ	外(7.5YR6/6) 橙 内(5YR7/6) 橙 断(10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	外来?
1303	2A-2	6面 土器棺3	弥生土器(後期)	高杯	外ミガキ 内ミガキ			外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(2.5Y6/1) 黄灰	密 長石・赤酸化土粒を含む	外来? 河内? 赤色顔料(鉄)
1304	2A-2	6面 土器棺3	弥生土器(後期)	壺	外ミガキ 内ミガキ		外ミガキ+ナデ 内板ナデ	外(7.5YR6/4) にぶい黄橙 内(10YR6/3) にぶい黄橙 断(2.5Y6/1) 黄灰	密 長石・角閃石を含む	
1305	2A-2	6面 竪穴1	土師器	広口壺B	外ヨコナデ・ミガキ 内ナデ・ミガキ			外(7.5YR7/6) 橙 内(5YR6/6) 橙 断(10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	
1306	2A-2	6面 竪穴1	土師器	短頸壺B	外ナデ 内ナデ	外ナデ・ユビオサエ		外(5YR7/4) にぶい橙 内(10YR8/2) 灰白 断(N4/0) 灰	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒・石英・長石を含む	
1307	2A-2	6面 竪穴1	土師器	二重口縁壺B <sub>2</sub>	外ヨコナデ・ユビオサエ 外ヨコナデ・ナデ			外(2.5Y8/1) 灰白 内(7.5YR8/1) 灰白 断(7.5YR8/6) 浅黄橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒・石英・長石を含む	
1308	2A-2	6面 竪穴1	土師器	高杯	外ナデ 内ナデ		外ナデ	外(5YR7/6) 橙 内(5YR7/6) 橙 断(5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	
1309	2A-2	6面 竪穴1	土師器	小形器台	外ナデ 内ナデ			外(7.5YR8/6) 浅黄橙 内(7.5YR8/2) 灰白 断(7.5Y8/1) 灰白	粗 石英・長石・赤酸化土粒・砂粒を含む	
1310	2A-2	6面 竪穴1	土師器	弥生形壺	外ナデ 内ナデ	外ナデ・タタキ		外(10YR8/2) 灰白 内(10YR8/2) 灰白 断(10YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・赤酸化土粒を含む	
1311	2A-2	6面 竪穴1	土師器	弥生形壺	外ナデ 内ナデ		外タタキ・ナデ 内ナデ・板ナデ	外(10YR6/2) 灰黄褐 内(10YR8/2) 灰白 断(10Y8/2) 灰白	密 石英・長石を含む	
1312	2A-2	6面 竪穴1	土師器	壺	外ナデ 内ナデ		外タタキ+ナデ・ユビオサエ 内ナデ	外(N2/0) 黒 内(10YR8/1) 灰白 断(10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	
1313	2A-2	6面 竪穴1	土師器	弥生形壺A1	外ナデ 内ナデ	外ナデ・タタキ+ナデ	内ナデ	外(7.5YR8/6) 浅黄橙 内(7.5YR8/3) 浅黄橙 断(7.5YR8/1) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤酸化土粒・黒色粒・砂粒を含む	外 炭化物付着
1314	2A-2	6面 竪穴4	土師器	把手	外ナデ 内ナデ			外(2.5YR7/8) 橙	密 石英・長石・雲母・赤酸化土粒を含む	
1315	2A-2	6面 穴785	土師器	小形丸底鉢C	外ミガキ 内ミガキ		外ハケメ+ミガキ 内ケズリ+ナデ・ケズリ	外(7.5YR7/4) にぶい橙 内(5YR7/4) にぶい橙 断(10YR7/1) 灰白	密 石英・長石を含む	
1316	2A-2	6面 穴663	土師器	短頸直口壺	外ハケメ+ヨコナデ 内ハケメ+ヨコナデ			外(2.5Y8/3) 浅黄 内(2.5Y8/2) 灰白 断(2.5Y8/3) 浅黄	密 石英・長石・雲母を含む	
1317	2A-2	6面 穴673	土師器	小形丸底鉢B <sub>1</sub>	外ナデ 内ナデ	外ハケナデ 内板ナデ+ナデ	外調整不明 内板ナデ+ナデ	外(2.5YR6/6) 橙 内(10YR8/2) 灰白 断(10YR7/2) にぶい黄橙	粗 長石・赤酸化土粒・黒色粒を含む	
1318	2A-2	6面 穴771	土師器	高杯	外ナデ 内ナデ		外ミガキ・ナデ	外(5YR7/6) 橙 内(5YR7/4) にぶい橙 断(7.5YR8/4) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母・赤酸化土粒を含む	
1319	2A-2	6面 穴870	土師器	小形鉢A2	外ナデ 内ナデ		外ナデ 内ナデ	外(N1.5/0) 黒 内(10YR8/2) 灰白 断(2.5Y6/1) 黄灰	密 長石・チャートを含む	
1320	2A-2	6面 穴980	須恵器	甗	外回転ナデ 内回転ナデ	外回転ナデ 内回転ナデ	外回転ナデ 内回転ナデ	外(N4/0) 灰 内(N4/0) 灰	密	打ち欠き

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1321	2 A-2	6面 穴985	土師器	直口壺		外 ミガキ+ナデ 内 ナデ	外 内	外 (5YR7/6) 橙 内 (7.5YR6/6) 橙 断 (7.5YR6/6) 橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	打ち欠き
1322	2 A-2	6面 穴985	土師器	広口壺E	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ナデ・ハケメ+ナデ			外 (2.5YR7/8) 橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	
1323	2 A-2	6面 穴985	土師器	小形高杯	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ	外 内	外 内	外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (2.5Y7/1) 灰白	粗 長石・雲母を含む	
1324	2 A-2	6面 穴985	土師器	弥生形甕A4	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 内	外 内	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR7/4) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 小石を含む	
1325	2 A-2	6面 穴985	土師器	小形丸底鉢A	外 ナデ 内 ハケメ+ナデ	外 内	外 内	外 (5YR7/6) 橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/4) 浅黄橙	密 石英・長石を含む	
1326	2 A-2	6面 穴985	土師器	手焙	外 ナデ 内 ナデ	外 内	外 内	外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (7.5YR7/3) にぶい黄橙	粗 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	
1327	2 A-2	6面 穴1107	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ 内 ハケメ+ナデ	外 内	外 内	外 (2.5YR7/8) 橙 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5YR7/1) 明赤灰	密 石英・長石・チャート・雲母・砂粒を含む	
1328	2 A-2	6面 穴1294	土師器	小形丸底鉢B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 内	外 内	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙	密	
1329	2 A-2	6面 穴1310	土師器	高杯B~C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 内	外 内	外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (7.5YR6/6) 橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1330	2 A-2	6面 穴1395	土師器	小形鉢E3	外 ナデ 内 ナデ	外 内	外 内	外 (2.5YR7/4) 淡赤橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR7/2) 灰白	密 石英・長石・雲母・砂粒を含む	
1331	2 A-2	6面 穴1635	土師器	庄内形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 内	外 内	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (2.5YR6/1) 黄灰 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒・石英・長石を含む	
1332	2 A-2	6面 穴1717	土師器	短頸壺A	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ナデ・ミガキ	外 内	外 内	外 (10YR8/1) 灰白 内 (2.5YR8/1) 灰白 断 (5Y8/1) 灰白	密 長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1333	2 A-2	6面 穴1911	土師器	高杯	外 ナデ 内 ハケメ	外 内	外 内	外 (5YR7/5) 橙 内 (5YR7/4) にぶい橙 断 (5YR7/1) 明赤灰	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1334	2 A-2	6面 溝101	土師器	高杯C	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 内	外 内	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1335	2 A-2	6面 溝114	土師器	二重口縁壺B 2	外 ナデ 内 ナデ	外 内	外 内	外 (5YR8/4) 淡橙 内 (7.5YR6/4) にぶい橙 断 (10Y7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1336	2 A-2	6面 溝120	瓦質土器	高杯				外 (N5/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (5Y7/1) 灰白	密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1337	2 A-2	6面 溝120	須恵器	高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 内	外 内	外 (N6/0) 灰 内 (5PB6/1) 青灰 断 (5R5/1) 赤灰	密	
1338	2 A-2	6面 溝120	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 内	外 内	外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白	密	
1339	2 A-2	6面 溝120	須恵器	甕	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 内	外 内	外 (10BG6/1) 青灰 内 (5BG6/1) 青灰 断 (10BG6/1) 青灰	密 長石を含む	
1340	2 A-2	6面 溝120	須恵器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 内	外 内	外 (N5/0) 灰 内 (7.5Y6/1) 褐灰 断 (10R6/2) 灰赤	密 長石を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
1341	2A-2	6面 溝120	土師器	広口壺A	外 内 ヨコナデ・ハケメ ナデ・ハケメ・ケズリ			外 (2.5Y 6/2) 灰黄 内 (2.5Y 7/2) 灰黄 断 (7.5Y R 7/6) 橙		密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む		
1342	2A-2	6面 溝120	土師器	広口壺C	外 内 ナデ ナデ			外 (5Y R 7/4) におい橙 内 (10Y R 4/1) 褐灰 断 (10Y R 7/1) 灰白		密 石英・長石を含む		
1343	2A-2	6面 溝120	土師器	広口壺D	外 内 ヨコナデ ヨコナデ			外 (10Y R 6/4) におい黄橙 内 (2.5Y 8/1) 灰白 断 (7.5Y R 8/3) 浅黄橙		密 石英・長石を含む		
1344	2A-2	6面 溝120	土師器	広口壺E	外 内 ヨコナデ・ナデ ヨコナデ・ナデ			外 (7.5Y R 8/3) 浅黄橙 内 (7.5Y R 8/1) 灰白 断 (5Y 4/1) 灰		密 石英・長石・チャートを含む		
1345	2A-2	6面 溝120	土師器	短頸壺A	外 内 ヨコナデ・ミガキ ミガキ・ナデ			外 (2.5Y 6/3) におい黄 内 (7.5Y R 5/6) 明褐 断 (10Y R 7/2) におい黄橙		密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む		
1346	2A-2	6面 溝120	土師器	短頸直口壺	外 内 ヨコナデ・ナデ ヨコナデ・ナデ			外 (10Y R 8/1) 灰白 内 (10Y R 8/2) 灰白 断 (N 5/0) 灰		密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む		
1347	2A-2	6面 溝120	土師器	短頸直口壺	外 内 ヨコナデ・ミガキ ヨコナデ+ミガキ・ユビオサエ			外 (7.5Y R 7/4) におい橙 内 (5Y R 7/3) におい橙 断 (2.5Y 8/1) 灰白		密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む		打ち欠き
1348	2A-2	6面 溝120	土師器	短頸直口壺	外 内 ヨコナデ・ハケメ ハケメ・板ケズリ			外 (10Y R 6/2) 灰黄褐 内 (10Y R 4/3) におい黄褐 断 (10Y R 6/3) におい黄橙		密 角閃石を含む		
1349	2A-2	6面 溝120	土師器	二重口縁壺A 1	外 内 ヨコナデ ヨコナデ			外 (2.5Y 7/2) 灰黄 内 (10Y R 8/2) 灰白 断 (10Y R 8/2) 灰白		密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む		
1350	2A-2	6面 溝120	土師器	二重口縁壺A 2	外 内 ナデ・ハケメ ナデ			外 (10Y R 7/2) におい黄橙 内 (2.5Y 6/2) 灰黄 断 (10Y R 6/1) 褐灰		密 石英・長石・雲母・砂粒を 含む		
1351	2A-2	6面 溝120	土師器	壺	外 内 ヨコナデ・ハケメ+ヨコナデ ハケメ+ヨコナデ・ケズリ			外 (2.5Y 6/1) 黄灰 内 (2.5Y 7/2) 灰黄 断 (2.5Y 7/2) 灰黄		密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む		
1352	2A-2	6面 溝120	土師器	二重口縁壺B 2	外 内 ヨコナデ・ミガキ ヨコナデ・ミガキ			外 (2.5Y 6/2) 灰黄 内 (2.5Y 5/1) 黄灰 断 (N 5/0) 灰		密 長石・チャート・黒雲母を 含む		
1353	2A-2	6面 溝120	土師器	二重口縁壺B 2	外 内 ミガキ+ナデ・ミガキ+板ナデ ミガキ+ナデ・ハケメ+ミガキ			外 (10Y R 6/3) におい黄橙 内 (10Y R 7/3) におい黄橙 断 (10Y R 7/1) 灰白		密 長石・チャートを含む		
1354	2A-2	6面 溝120	土師器	二重口縁壺	外 内 ナデ・ハケメ+ナデ ハケメ+ナデ			外 (2.5Y R 5/6) 明赤褐 内 (2.5Y R 5/6) 明赤褐 断 (2.5Y R 5/1) 赤灰		密 石英・長石・雲母・砂粒を 含む		
1355	2A-2	6面 溝120	土師器	二重口縁壺E	外 内 ナデ・ミガキ・ハケメ+ナデ ナデ			外 (10Y R 7/2) におい黄橙 内 (10Y R 7/2) におい黄橙 断 (2.5Y 7/1) 灰白		密 石英・長石・雲母・砂粒を 含む		
1356	2A-2	6面 溝120	土師器	二重口縁壺E	外 内 ナデ・ミガキ ナデ			外 (10Y R 5/2) 灰黄褐 内 (10Y R 6/3) におい黄橙 断 (10Y R 6/3) におい黄橙		密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒・砂粒を含む		
1357	2A-2	6面 溝120	土師器	二重口縁壺E	外 内 ナデ・ミガキ ナデ・ミガキ			外 (10Y R 7/2) におい黄橙 内 (10Y R 7/4) におい黄橙 断 (10Y R 8/3) 浅黄橙		密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒・砂粒を含む		
1358	2A-2	6面 溝120	土師器	壺	外 内 タタキ+ミガキ ナデ・ハラナデ・ケズリ・ユビ オサエ			外 (2.5Y 7/1) 灰白 内 (2.5Y 7/2) 灰黄 断 (10Y R 8/2) 灰白		密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒・石英・長 石を含む		
1359	2A-2	6面 溝120	土師器	二重口縁壺	外 内 ミガキ ヨコナデ			外 (2.5Y 7/2) 灰黄 内 (2.5Y 8/1) 灰白 断 (2.5Y 8/1) 灰白		密 石英・長石・チャートを含む		
1360	2A-2	6面 溝120	土師器	小形二重口縁 壺	外 内 ナデ ヨコナデ			外 (10Y R 7/4) におい黄橙 内 (10Y R 7/3) におい黄橙 断 (10Y R 7/4) におい黄橙		密 砂粒を含む		

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1361	2A-2	6面 溝120	土師器	小形二重口縁壺	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ	外 (7.5YR8/1) 灰白 内 (7.5YR8/1) 灰白	密	
1362	2A-2	6面 溝120	土師器	直口壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ユビオサエ+ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR4/1) 褐灰 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 長石・チャート・黒雲母を含む	
1363	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋C か希望形蓋	外 ナデ 内 調整不明	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 ユビオサエ	外 (10YR8/4) 浅黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (5YR7/4) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	煤付着
1364	2A-2	6面 溝120	土師器	壺			外 ナデ 内 ヘラナデ	外 (7.5YR7/3) にぶい黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	木の葉痕
1365	2A-2	6面 溝120	弥生土器・土師器	壺		外 ハケメ 内 ケズリ		外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	線刻土器
1366	2A-2	6面 溝120	弥生土器・土師器	壺		外 ハケメ 内 ケズリ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (5Y7/1) 灰白 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	線刻土器
1367	2A-2	6面 溝120	弥生土器・土師器	壺		外 ハケメ 内 ハケメ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャートを含む	線刻土器
1368	2A-2	6面 溝120	弥生土器・土師器	壺		外 ハケメ 内 ケズリ		外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	線刻土器
1369	2A-2	6面 溝120	弥生土器・土師器	壺?		外 ミガキ 内 ナデ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石を含む	人面線刻土器
1370	2A-2	6面 溝120	土師器	壺		外 ナデ 内 ナデ		外 (5YR7/6) 橙 内 (7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒・黒色粒を含む	外来系 南関東 在郷の胎土 (奥田氏調査)
1371	2A-2	6面 溝120	土師器	壺	外 ミガキ 内 ミガキ+ナデ・ナデ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密	外来系 東部瀬戸 内
1372	2A-2	6面 溝120	土師器	壺	外 ナデ・ハケメ+ナデ 内 ナデ			外 (2.5YR6/8) 橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・黒雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	東部瀬戸内 外来系 黒色物質付着 打ち欠き
1373	2A-2	6面 溝120	土師器	壺	外 ハケナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ハケメ・ユビオサエ			外 (5YR6/6) 橙 内 (7.5YR6/2) 灰褐 断 (10YR5/2) 灰黄褐	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 東部瀬戸 内
1374	2A-2	6面 溝120	土師器	甗	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ケズリ			外 (2.5YR5/2) 灰赤 内 (5YR6/1) 褐灰 断 (5YR6/6) 橙	粗 石英・長石・チャート・雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系 山陰
1375	2A-2	6面 溝120	土師器	壺か甗	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (2.5Y4/1) 黄灰 内 (2.5Y4/1) 黄灰 断 (2.5Y4/1) 黄灰	密 石英・長石を含む	外来系 山陰
1376	2A-2	6面 溝120	土師器	壺	外 ナデ 内 ナデ			外 (7.5YR6/4) にぶい黄橙 内 (7.5YR6/4) にぶい黄橙 断 (7.5YR7/4) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来 阿波 (奥田氏調査)
1377	2A-2	6面 溝120	土師器	壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	外来系 瀬戸内 内 黒色物質付着
1378	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋C	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ・ユビオサエ	外 ナデ 内 ハケナデ・ユビオサエ	外 ナデ 内 ユビオサエ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	黒色物質付着 打ち欠き
1379	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋		外 ヨコナデ・ハケメ 内 ナデ		外 (10YR8/4) 浅黄橙 内 (5YR6/3) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 砂粒を含む	
1380	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋B	外 ナデ 内 ナデ	外 調整不明 内 ケズリ	外 調整不明 内 ユビオサエ	外 (7.5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	内 引き欠き

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1381	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ・ケズリ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄	密	
1382	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ナデ 内 ユビオサエ	外 ナデ 内 ユビオサエ	外 (5Y7/1) 灰白 内 (5Y7/1) 灰白 断 (5Y6/1) 灰	密	長石・チャート・黒雲母を含む 打ち欠き・引き欠き
1383	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ・ユビオサエ	外 ナデ 内 ナデ・ユビオサエ	外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (5YR8/2) 灰白 断 (7.5YR8/1) 灰白	密	チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む
1384	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋B	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ・ケズリ・ユビオサエ	外 ナデ 内 ナデ・ケズリ	外 ナデ 内 ナデ・ケズリ	外 (7.5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (2.5YR7/6) 橙	密	石英・長石を含む 打ち欠き・引き欠き
1385	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5Y8/1) 灰白 内 (7.5Y8/1) 灰白 断 (7.5Y8/1) 灰白	密	3カ所打ち欠き
1386	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋C	外 ヨコナデ 内 ハケメ	外 ハケメ 内 ユビオサエ	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白	密	砂粒を含む 3カ所打ち欠き
1387	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケナデ+ナデ 内 ケズリ	外 ナデ 内 ナデ	内 ケズリ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密	砂粒を含む 打ち欠き
1388	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋C	外 ハケメ 内 ナデ	外 ナデ・ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密	長石を含む
1389	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白	密	石英・長石・砂岩を含む
1390	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙	密	
1391	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底蓋	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ・ハケメ・板ナデ・ユビオサエ 内 ハケナデ・板ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 板ナデ 内 板ナデ	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (2.5Y4/1) 褐灰	密	外来系 北近畿
1392	2A-2	6面 溝120	土師器	小形蓋	外 ナデ・ミガキ 内 ナデ・ミガキ	外 ミガキ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (5YR7/6) 橙 内 (5Y6/6) 橙 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密	外来系 北近畿
1393	2A-2	6面 溝120	土師器	小形蓋	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密	外来系 北近畿
1394	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯A.2	外 ナデ 内 板ナデ+ヨコナデ	外 ナデ 内 板ナデ+ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (10YR8/4) 浅黄橙	密	石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む
1395	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯A.2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密	石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む 内 爪痕?
1396	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯B	外 ハケメ+ミガキ 内 ナデ・ミガキ・ハケメ+ミガキ	外 ハケメ+ミガキ 内 ハケメ+ミガキ	外 ハケメ+ミガキ 内 ナデ	外 ハケメ・ミガキ 内 ナデ・ハケメ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	密	
1397	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯A.1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 調整不明	外 ハケメ 内 調整不明	外 ハケメ 内 調整不明	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR8/3) 浅黄橙	密	石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む
1398	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯B	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 調整不明	外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密	長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む 棒状工具による割突
1399	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯B	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 (5YR6/6) 橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (2.5YR6/6) 橙	粗	石英・長石・チャートを含む
1400	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯B	内 ヨコナデ	外 ユビオサエ	外 ユビオサエ	外 ユビオサエ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR7/2) 深い黄橙	密	長石・赤色酸化土粒を含む 敲打痕 棒状工具による割突

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1401	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯B	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ハケメ・ヨコナデ	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ハケメ・ヨコナデ	外 ハケメ・ミガキ・ケズリ 内 ナデ・ハケメ	外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (5YR6/6) 橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1402	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯A1	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ・ケズリ 内 ナデ	外 ナデ	外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石を含む	
1403	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ	外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1404	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯C	外 ナデ+ユビオサエ 内 板ナデ	外 ナデ+ユビオサエ 内 板ナデ	外 調整不明 内 上、ミガキ 下、調整不明 下、ケズリ	外 (5YR7/2) 明褐灰 内 (10YR8/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1405	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯C	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙	粗 石英・長石を含む	
1406	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯			外 上、ヘラナデ+ミガキ 内 ナデ	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (N5/0) 灰	密 長石・チャートを含む	
1407	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯		内 ナデ	外 ナデ・ハケメ 内 下、ハケナデ	外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (7.5YR7/2) 明褐灰	密 長石・チャート・黒雲母を含む	ラセン状粘土紐巻き上げ
1408	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯			外 上、ヘラナデ 内 調整不明	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (2.5YR7/6) 橙 断 (10YR6/1) 褐灰	密 角閃石・砂粒を含む	
1409	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯D	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR6/1) 褐灰 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (10YR7/1) 灰白	密 石英・長石・雲母・砂粒を含む	
1410	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯D1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ミガキ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ミガキ	外 ナデ・ミガキ 内 ミガキ+ナデ	外 (7.5YR8/2) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1411	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯D1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 板ナデ+ナデ	外 上、板ナデ+ナデ 内 下、ナデ 下、ヨコナデ	外 (5YR8/2) 灰白 内 (2.5Y8/3) 浅黄 断 (10YR) にぶい黄橙	粗 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1412	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯D1			外 ナデ・ハケメ 内 ハケメ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密	
1413	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯D2	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 ナデ	外 (5YR7/6) 橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (7.5Y7/4) にぶい黄橙	粗 石英・長石を含む	
1414	2A-2	6面 溝120	土師器	高杯D2	外 調整不明 内 ナデ	外 調整不明 内 ナデ	外 調整不明 内 ナデ	外 (10YR8/6) 黄橙 内 (10YR8/1) 灰白 断 (10YR8/4) 浅黄橙	密 砂粒を含む	
1415	2A-2	6面 溝120	土師器	小形器台	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 (5YR7/4) にぶい黄橙 内 (7.5YR7/4) にぶい黄橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系? 東海
1416	2A-2	6面 溝120	土師器	小形器台	外 ヨコナデ 内 ミガキ	外 ヨコナデ 内 ミガキ	外 ヨコナデ 内 ミガキ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/1) 灰白	密 石英・チャートを含む	外来系 山陰
1417	2A-2	6面 溝120	土師器	小形器台			外 ヨコナデ 内 ヨコナデ+ユビオサエ	外 (2.5YR3/1) 黒褐 内 (2.5YR5/1) 黄灰 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外来系 山陰
1418	2A-2	6面 溝120	土師器	弥生形甕A1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内 板ナデ	外 (N2/0) 黒 内 (2.5Y6/3) にぶい黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・チャート・黒雲母を含む	内 炭化物付着 煤付着
1419	2A-2	6面 溝120	土師器	弥生形甕	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (2.5Y2/1) 黒 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石を含む	
1420	2A-2	6面 溝120	土師器	弥生形甕	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内 板ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (7.5YR4/2) 灰褐 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒・石英・長石を含む	黒色物質付着

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎土	備考
1421	2A-2	6面溝120	土師器	弥生形甕A2	外ナテ 内ナテ	外タタキ・ナテ 内ナテ		外(10YR7/3)にぶい黄橙 内(10YR7/3)にぶい黄橙 断(10YR4/1)褐灰	密石英・長石・黒雲母・赤色酸化土粒を含む		
1422	2A-2	6面溝120	土師器	庄内形甕A	外ヨコナテ・ハケメ 内ヨコナテ・ハケメ	外ハケメ・タタキ 内ケズリ		外(7.5YR1.7/1)黒 内(10YR5/3)にぶい黄褐 断(10YR4/4)褐	密長石・石英・角閃石を含む	外来河内?	
1423	2A-2	6面溝120	土師器	庄内形甕A	外ヨコナテ 内ヨコナテ	外ハケメ 内ケズリ		外(2.5Y5/2)暗灰黄 内(2.5Y5/2)暗灰黄 断(7.5Y7/1)灰白	密長石・チャート・黒雲母・角閃石・赤色酸化土粒を含む	外来河内?	
1424	2A-2	6面溝120	土師器	布留形甕C	外ヨコナテ 内ヨコナテ	外ハケナテ+ナテ 内ケズリ	外ナテ 内ユビオサエ	外(2.5Y7/2)灰黄 内(2.5Y7/2)灰黄 断(2.5Y7/2)灰黄	密石英・長石・チャート・雲母・赤色酸化土粒を含む	襟付着	
1425	2A-2	6面溝120	土師器	布留形甕C	外ヨコナテ 内ヨコナテ	外ナテ・ハケメ 内ナテ・ケズリ		外(10YR7/3)にぶい黄橙 内(2.5Y7/2)灰黄 断(2.5Y8/1)灰白	密石英・長石を含む		
1426	2A-2	6面溝120	土師器	布留形甕C	外ヨコナテ 内ヨコナテ	外ハケメ 内ナテ・ケズリ		外(5YR1.7/1)黒 内(10YR8/2)灰白 断(10YR7/2)にぶい黄橙	密石英・長石を含む		
1427	2A-2	6面溝120	土師器	布留形甕C	外ヨコナテ 内ヨコナテ	外ハケナテ 内ナテ		外(10YR7/4)にぶい黄褐 内(10YR6/4)にぶい黄褐 断(10YR8/2)灰白	密長石を含む		
1428	2A-2	6面溝120	土師器	布留形甕C	外ヨコナテ 内ヨコナテ	外ヨコナテ・ハケメ 内ケズリ		外(5Y8/1)灰白 内(5Y8/1)灰白 断(5Y8/1)灰白	密石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む		
1429	2A-2	6面溝120	土師器	布留形甕A	外ヨコナテ・ハケメ 内ハケメ・ケズリ			外(7.5YR8/4)浅黄橙 内(10YR8/3)浅黄橙 断(10YR8/1)灰白	密		
1430	2A-2	6面溝120	土師器	布留形甕A	外ヨコナテ・ハケメ 内ヨコナテ・ケズリ			外(7.5YR7/3)にぶい橙 内(7.5YR8/3)浅黄橙 断(10YR4/1)褐灰	密石英・長石を含む		
1431	2A-2	6面溝120	土師器	布留形甕A	外ヨコナテ 内ヨコナテ	外ハケメ 内ケズリ		外(10YR1.7/1)黒 内(2.5Y2/1)黒 断(2.5Y4/1)黄灰	密石英・長石を含む		
1432	2A-2	6面溝120	土師器	布留形甕B	外ヨコナテ・ハケメ 内ヨコナテ・ケズリ			外(10YR5/2)灰黄褐 内(10YR7/3)にぶい黄橙 断(7.5Y6/1)褐灰	密石英・長石・チャートを含む		
1433	2A-2	6面溝120	土師器	布留形甕B	外ナテ・ハケメ 内ハケメ+ナテ・板ケズリ・ユビオサエ			外(10YR8/2)灰白 内(10YR8/2)灰白 断(10YR8/2)灰白	粗砂粒を含む		
1434	2A-2	6面溝120	土師器	布留形甕B	外ヨコナテ・ハケナテ 内ヨコナテ・ハケナテ・ケズリ			外(2.5Y7/3)浅黄 内(2.5Y7/2)灰黄 断(2.5Y8/3)浅黄	密長石を含む		
1435	2A-2	6面溝120	土師器	甕	外ナテ 内ハケメ・ケズリ+ナテ			外(10YR3/2)黒褐 内(10YR4/2)灰黄褐 断(2.5Y7/1)灰白	密石英・長石・チャート・角閃石を含む	外来河内? 内外黒色物質付着	
1436	2A-2	6面溝120	土師器	甕	外ナテ 内ナテ・ケズリ+ユビオサエ			外(10YR6/4)にぶい黄橙 内(10YR6/2)灰黄褐 断(10YR6/4)にぶい黄橙	密石英・長石・チャート・黒雲母を含む	外来系山陰	
1437	2A-2	6面溝120	土師器	甕	外ナテ・ハケメ 内ナテ・ケズリ・ユビオサエ			外(2.5Y8/2)灰白 内(2.5Y8/2)灰白 断(2.5Y7/1)灰白	密石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来系北近畿	
1438	2A-2	6面溝120	土師器	甕	外ヨコナテ 内ヨコナテ・ナテ			外(10YR3/1)黒褐 内(10YR8/1)灰白 断(2.5Y8/1)灰白	密石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来湖東 (奥田氏分析)	
1439	2A-2	6面溝120	土師器	台付甕	外ヨコナテ 内ナテ・ケズリ・ユビオサエ			外(2.5Y8/2)灰白 内(2.5Y8/1)灰白 断(2.5Y8/1)灰白	密石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	外来湖東	
1440	2A-2	6面溝120	土師器	台付甕	外ハケメ 内板ナテ			外(7.5YR8/2)灰白 内(2.5Y5/1)黄灰 断(N5/0)灰	密長石・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	外来系東海	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1441	2A-2	6面 溝120	土師器	大形鉢	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ナデ+ユビオサエ・ ケズリ			外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 石英・長石を含む	外来系 山陰
1442	2A-2	6面 溝120	土師器	小形鉢A1	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 調整不明	外 内	外 (5YR6/8) 橙 内 (5YR6/8) 橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙	粗 石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
1443	2A-2	6面 溝120	土師器	小形鉢A1	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 内	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y4/1) 黄灰 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・長石を含む	
1444	2A-2	6面 溝120	土師器	小形鉢A2	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 内	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石を含む	
1445	2A-2	6面 溝120	土師器	小形鉢A2	外 ハケメ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ+板ナデ	外 内	外 (7.5YR6/6) 橙 内 (5YR5/6) 明赤褐 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	粗 石英・長石・雲母を含む	
1446	2A-2	6面 溝120	土師器	小形鉢B1	外 タタキ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内 ヨコナデ	外 内	外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 石英・長石・雲母を含む	打ち欠き
1447	2A-2	6面 溝120	土師器	小形鉢B1	外 ナデ 内 ナデ	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ	外 内	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR4/3) にぶい黄橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	密 雲母・砂粒を含む	
1448	2A-2	6面 溝120	土師器	小形鉢C	外 タタキ 内 ハケメ	外 タタキ 内 ハケメ	外 内	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
1449	2A-2	6面 溝120	土師器	小形鉢B3	外 ミガキ 内 ナデ	外 ミガキ 内 ナデ	外 内	外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (10YR8/2) 灰白	粗 長石を含む	
1450	2A-2	6面 溝120	土師器	手捏土器	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 内	外 (10YR7/1) 灰白 内 (10YR5/2) 灰黄褐 断 (10YR8/1) 灰白	密 長石・チャートを含む	
1451	2A-2	6面 溝120	土師器	手捏	外 板ナデ 内 板ナデ	外 板ナデ 内 板ナデ	外 内	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/3) 浅黄	密 砂粒を含む	
1452	2A-2	6面 溝120	土師器	手捏	外 ヨコナデ・ケズリ 内 ミガキ	外 ヘラナデ 内 ミガキ	外 内	外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (7.5YR6/4) にぶい橙 断 (10YR5/1) 褐灰	密 砂粒を含む	
1453	2A-2	6面 溝120	土師器	手捏	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 内	外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙	密	
1454	2A-2	6面 溝120	土師器	手捏	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 内	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y8/3) 浅黄 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石を含む	
1455	2A-2	6面 溝120	土師器	手捏	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 内	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (10YR8/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密	
1456	2A-2	6面 溝120	土師器	手捏	外 ナデ+ユビオサエ 内 ナデ+ユビオサエ	外 ナデ+ユビオサエ 内 ナデ+ユビオサエ	外 内	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (7.5YR7/2) 明褐灰 断 (7.5YR7/4) にぶい黄橙	密 長石・チャート・砂粒を含む	
1457	2A-2	6面 溝120	土師器	手捏	外 ヲビオサエ 内 ヲビオサエ	外 ヲビオサエ 内 ヲビオサエ	外 内	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (7.5YR7/3) にぶい黄橙	密 砂粒を含む	
1458	2A-2	6面 溝120	土師器	手捏	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ・ユビオサエ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ・ユビオサエ	外 内	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR6/2) 灰黄褐	密 長石・チャートを含む	
1459	2A-2	6面 溝120	土師器	有孔鉢A	外 タタキ+ナデ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 内	外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR7/2) 明褐灰 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒・砂粒を含む	
1460	2A-2	6面 溝120	土師器	小形丸底鉢B 2~B3	外 ナデ・ユビオサエ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ヘラナデ	外 内	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR6/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石を含む	底部貼付か？



番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1461	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢B 1	外ヨコナデ 内なで	外ハケメ 内ナデ・ケズリ	外ハケメ 内ケズリ	外(10YR8/2) 灰白 内(10YR8/2) 灰白 断(2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒・石英・長 石を含む	密付着 打ち欠き?
1462	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢B 2	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ 内ナデ	外ハケメ 内ナデ	外(2.5Y6/1) 黄灰 内(2.5Y7/1) 灰白	密	
1463	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢B 2	外ナデ 内ナデ	外ハケメ・ハケメ+ミガキ・ケズ リナデ	外ハケメ 内ナデ	外(10YR8/2) 灰白 内(10YR8/3) 浅黄橙 断(10YR8/2) 灰白	密 砂粒を含む	
1464	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢B 2	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ+ナデ 内ケズリ	外ハケメ+ナデ 内ケズリ	外(2.5Y6/2) 灰黄 内(2.5Y6/2) 灰黄 断(2.5Y7/2) 灰黄	密 チャート・黒雲母・赤色酸 化土粒を含む	
1465	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢B 2	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ナデ 内板ナデ	外ナデ 内板ナデ	外(2.5Y7/1) 灰白 内(7.5Y8/3) 浅黄橙	密 長石を含む	
1466	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢B 2	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ+ナデ 内ナデ	外ハケメ 内ナデ	外(2.5Y8/2) 灰白 内(2.5Y8/2) 灰白 断(2.5Y8/2) 灰白	密	打ち欠き?
1467	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢B 2~B3	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ 内ヨコナデ	外ハケメ+ナデ 内ヨビオサエ	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(10YR8/2) 灰白 断(10YR7/3) にぶい黄橙	密 砂粒を含む	
1468	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢B 2~B3	外ヨコナデ・ハケメ 内ヨコナデ・ハケメ	外ハケメ 内ナデ	外ハケメ 内ナデ	外(2.5Y7/4) 浅黄 内(2.5Y7/3) 浅黄 断(3Y6/1) 灰	密 石英・長石を含む	
1469	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢B 3	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ケズリ+ナデ 内ナデ	外ケズリ+ナデ 内ナデ・ユビオサエ	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(10YR8/2) 灰白 断(2.5YR6/4) にぶい橙	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒・石英・長 石を含む	
1470	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢B 3	外ミガキ 内ミガキ	外ミガキ 内ナデ	外ミガキ 内ナデ	外(7.5YR8/2) 灰白 内(5YR7/4) にぶい橙 断(10YR8/1) 灰白	密 砂粒を含む	
1471	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢D	外ミガキ 内ミガキ+暗文	外ミガキ 内ナデ	外ミガキ 内ナデ	外(5YR4/6) 赤褐 内(5YR6/4) にぶい橙 断(2.5Y7/1) 灰白	密	スリップ
1472	2A-2	6面溝120	土師器	小形丸底鉢D	外ヨコナデ・ミガキ+ナデ 内ミガキ	外ナデ 内ミガキ	外ナデ	外(7.5YR7/1) 明褐 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャートを含 む	
1473	2A-2	6面溝120	土師器	手焙	外ナデ 内ナデ	外ハケメ+ナデ 内ナデ	外ナデ	外(10YR8/2) 灰白 内(5YR5/1) 褐灰 断(7.5YR8/2) 灰白	粗 石英・長石・雲母・砂粒を 含む	
1474	2A-2	6面溝120	土師器	手焙	外ヨコナデ 内ナデ	外ヨコナデ 内ナデ	外ヨコナデ 内ナデ	外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(7.5YR5/2) 灰褐 断(7.5YR7/6) 橙	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒・石英・長石を含む	
1475	2A-2	6面溝120	土師器	手焙	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ナデ 内板ナデ	外ナデ 内板ナデ	外(5YR7/4) にぶい橙 内(7.5YR7/2) 明褐灰 断(10YR7/2) にぶい黄橙	密 長石・チャート・赤色酸化 土粒を含む	
1476	2A-2	6面溝120	土師器	製塩土器			外ナデ 内ナデ・ユビオサエ	外(7.5YR5/4) にぶい褐 内(7.5YR5/4) にぶい褐 断(5YR5/4) にぶい赤褐	密 雲母・赤色酸化土粒を含む	外来 讃岐 (栗田氏御家)
1477	2A-2	6面溝120	土師器	製塩土器			外タタキ 内ナデ	外(5YR7/6) 橙 内(5YR6/6) 橙 断(N2/0) 黒	密 石英・長石・雲母を含む	外来 吉備?
1478	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	広口壺A	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ミガキ	外ミガキ 内ナデ	外ミガキ 内ナデ	外(2.5Y7/2) 灰黄 内(2.5Y7/2) 灰黄 断(2.5Y6/2) 灰黄	密 長石・チャートを含む	
1479	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	広口壺B	外ハケメ 内ナデ	外タタキ+ハケメ 内ハケメナデ	外タタキ+ハケメ 内ハケメナデ	外(10YR8/2) 灰白 内(N6/0) 灰 断(2.5Y8/2) 灰白	密 長石・チャートを含む	
1480	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	広口壺A	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外タタキ+ハケメ 内ハケメ+ナデ	外タタキ+ハケメ 内ハケメ+ナデ	外(7.5YR8/3) 浅黄橙 内(10YR8/3) 浅黄橙 断(10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎土	備考
1481	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	広口壺D	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ+ナデ 内 ハケナデ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白		密 長石・チャートを含む	
1482	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	短頸直口壺	外 ハケメ+ミガキ 内 ハケメ+ミガキ・ユビオサエ			外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (5YR7/6) 橙		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1483	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	短頸壺B	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ・ハラナデ			外 (7.5YR7/1) 明褐灰 内 (5YR6/4) におい橙 断 (10YR4/1) 褐灰		密 石英・長石・チャートを含む	
1484	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺A 1	外 ヨコナデ・ハケナデ 内 ナデ・ミガキ			外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (10YR7/3) におい黄橙 断 (10YR7/2) におい黄橙		密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒・石英・長石を含む	
1485	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺B 2	外 ヨコナデ・ハケナデ 内 ヨコナデ・ミガキ			外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白		密 石英・チャートを含む	
1486	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺D 2	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ハケメ+ナデ			外 (7.5YR6/4) におい橙 内 (5YR7/4) におい橙 断 (5YR7/4) におい橙		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1487	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺A 1	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ミガキ+ナデ			外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白		密 長石・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1488	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺C 1	外 ナデ 内 ナデ・ミガキ			外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (10YR6/3) におい黄橙 断 (10YR7/2) におい黄橙		密 石英・長石・雲母・砂粒を含む	
1489	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺B 1	外 ハケメ・ナデ 内 ナデ			外 (10YR7/3) におい黄橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (7.5YR7/2) 明褐灰		粗 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
1490	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺B 2	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ			外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (10YR6/2) 灰黄橙 断 (10YR8/1) 灰白		密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1491	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺B 1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (10YR7/2) におい黄橙		密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1492	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺C 1	外 ナデ 内 ナデ			外 (7.5YR7/4) におい橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白		密 石英・長石・チャートを含む	打ち欠き
1493	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺B 2	外 ミガキ 内 ミガキ			外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (10YR7/2) におい黄橙		密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1494	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺D 2	外 ナデ・ハケメ+ナデ 内 ミガキ			外 (2.5Y6/3) におい黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (10YR7/3) におい黄橙		密 石英・長石・雲母・砂粒を含む	
1495	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺D 1	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (5YR7/2) 明褐灰 内 (7.5YR7/3) におい橙 断 (7.5YR8/2) 灰白		密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1496	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺D 1	外 ナデ・ミガキ・ユビオサエ 内 ナデ・ミガキ			外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (10YR8/1) 灰白		密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	
1497	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺D 2	外 ナデ・ミガキ 内 ミガキ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (10YR6/2) 灰黄褐		密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒・石英・長石を含む	
1498	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺D	外 ナデ 内 ナデ			外 (7.5YR7/4) におい橙 内 (5YR7/4) におい橙 断 (7.5YR6/1) 褐灰		粗 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	
1499	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口緑壺E	外 ミガキ 内 板ナデ+ナデ・板ナデ			外 (10YR6/3) におい黄褐 内 (10YR5/3) におい黄褐 断 (10YR8/2) 灰白		密 石英・長石・雲母・砂粒を含む	
1500	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 ハケメ・ナデ 内 ナデ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y6/3) におい黄 断 (2.5Y6/2) 灰黄		密 片岩を含む	外来 阿波

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1501	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口縁壺D 2	外 内 ミガキ+ナデ・ミガキ ミガキ+ナデ			外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	粗 石英・長石・チャート・赤 酸化土粒を含む	
1502	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口縁壺D 2	外 内 ナデ・ハケメ ナデ・ハケメ			外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (10YR5/1) 相灰	粗 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒・砂粒を含む	
1503	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ナデ ミガキ+ナデ			外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR3/1) 黒褐	密 石英・長石・雲母・黒色粒・ 砂粒を含む	外来系? 瀬戸内
1504	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ヨコナデ・ナデ ヨコナデ・ミガキ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y4/1) 黄灰 断 (2.5Y4/1) 黄灰	密 長石・チャートを含む	外来系? 瀬戸内 黒色物質付着
1505	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形広口壺	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ナデ・板ナデ ナデ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (7.5YR7/2) 明褐灰	密 長石・チャートを含む	
1506	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形広口壺	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ナデ・ヘラナデ ナデ		外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母・砂岩を 含む	
1507	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	直口壺	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ミガキ+ナデ ナデ・ヘラナデ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/3) 浅黄 断 (2.5Y7/3) 浅黄	密 長石・赤色酸化土粒を含む	
1508	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	直口壺	外 内 ヨコナデ・ミガキ+ナデ ナデ	外 内 ヨコナデ ナデ		外 (10YR7/1) 灰白 内 (10YR6/1) 相灰 断 (10YR8/1) 灰白	密 チャートを含む	
1509	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ミガキ ナデ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	内 木の葉痕
1510	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヘラナデ・タタキ ヘラナデ		外 (7.5YR7/6) 橙 内 (7.5YR8/6) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
1511	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ナデ 板ナデ	外 内 ナデ 板ナデ		外 (N2/0) 黒 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y6/2) 灰黄	密 石英・長石を含む	煤付着
1512	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヘラナデ ハケメ		外 (10YR3/1) 黒褐 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (2.5Y6/2) 灰黄	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
1513	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ミガキ ミガキ		外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR7/2) 明褐灰	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	
1514	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ヨコナデ・ナデ ヨコナデ・ナデ・ケズリ			外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	外来系 北近畿
1515	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ナデ・ミガキ ミガキ			外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR7/4) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密	外来系 瀬戸内
1516	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ミガキ ミガキ			外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (2.5Y7/3) 浅黄 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石を含む	外来系 瀬戸内
1517	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ヨコナデ・ハケメ+ナデ ヨコナデ・ハケメ	外 内 ハケメ ハケメ		外 (7.5YR4/6) 褐 内 (7.5YR6/4) にぶい橙 断 (7.5YR6/4) にぶい橙	密 石英・長石・赤色酸化土粒・ 角閃石を含む	外来系 瀬戸内 黒色物質付着
1518	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ヨコナデ・ミガキ ハケナデ+ミガキ	外 内 ナデ ナデ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/3) 灰黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	外来系 瀬戸内 黒色物質付着
1519	2A-2	6面 溝120 砂層	弥生土器(後期)	壺	内 ナデ			外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (9.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	外来系 南関東
1520	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	壺	外 内 ヨコナデ・ナデ ヨコナデ・ナデ			外 (7.5YR5/4) にぶい橙 内 (7.5YR6/4) にぶい橙 断 (7.5YR6/1) 相灰	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	外来 阿波 (奥田氏観察)

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1521	2A-2	6面 溝120 砂層	弥生土器	壺	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 タタキ+ヨコナデ ナデ		外 (7.5YR5/2) 灰褐 内 (7.5YR5/2) 灰褐 断 (7.5YR5/2) 灰褐	密 石英・長石・赤色酸化土粒・ 角閃石を含む	外来 瀬戸内
1522	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形二重口縁 壺	外 内 ハケメ+ミガキ ミガキ・ユビオサエ	外 内 ハケメ+ナデ ナデ		外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR6/3) にぶい黄橙	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	赤色顔料 (鉄)
1523	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	二重口縁壺	外 内 ハケメ+ナデ ハケメ+ナデ	外 内 ナデ・ハケメ ヨコナデ・ミガキ・ヘラナデ		外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR7/3) にぶい橙 断 (10YR7/1) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	赤色顔料 (鉄)
1524	2A-2	6面 溝120 砂層	弥生土器	壺	外 内 ナデ・ハケメ ヨコナデ・ミガキ・ヘラナデ	外 内 ナデ		外 (7.5YR5/2) 灰褐 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 長石・角閃石を含む	赤色顔料 (鉄) 河内ではない (奥田氏分析)
1525	2A-2	6面 溝120 砂層	弥生土器	壺		外 内 ナデ		外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (N4/0) 灰 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	赤色顔料 (鉄)
1526	2A-2	6面 溝120 砂層	弥生土器	壺		外 内 ミガキ		外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (5Y3/1) オリーブ黒	密	赤色顔料 (鉄)
1527	2A-2	6面 溝120 砂層	弥生土器	壺				外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (5Y7/2) 灰 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密	赤色顔料 (鉄)
1528	2A-2	6面 溝120 砂層	弥生土器	壺				外 (10YR5/2) 灰黄褐 内 (5Y5/1) 灰 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密	赤色顔料 (鉄)
1529	2A-2	6面 溝120 砂層	弥生土器	壺				外 (5Y4/1) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (2.5Y7/2) 灰	密	赤色顔料 (鉄)
1530	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形丸底壺		外 内 ヨコナデ・ミガキ・ミガキ ナデ		外 (10YR2/2) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 角閃石・砂粒を含む	
1531	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形丸底鉢	外 内 ヨコナデ ミガキ	外 内 ナデ ナデ		外 (5YR8/3) 淡橙 内 (5YR7/3) にぶい橙	密	
1532	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形丸底壺	外 内 ナデ・ミガキ ナデ・ミガキ	外 内 ナデ		外 (7.5YR7/6) 橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	粗 砂粒を含む	外来 ? (奥田氏分析)
1533	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	高杯A1	外 内 ミガキ+ヨコナデ ミガキ+ヨコナデ	外 内 ミガキ ミガキ		外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (7.5YR8/3) 淡黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	
1534	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	高杯A1	外 内 ミガキ ナデ	外 内 ハケメ・ミガキ ナデ		外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (5Y8/3) 淡橙 断 (5Y5/1) 灰	密 石英・長石を含む	
1535	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	高杯D1	外 内 ヨコナデ・ミガキ ヨコナデ・ミガキ	外 内 ミガキ ミガキ		外 (2.5Y6/3) にぶい黄 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・長石・雲母・砂粒を 含む	
1536	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	高杯D1	外 内 ナデ・ミガキ+ナデ ナデ・ミガキ	外 内 ミガキ+ナデ ミガキ		外 (10YR8/3) 淡黄橙 内 (10YR5/3) にぶい黄橙	密 石英・長石・雲母を含む	
1537	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	高杯D1	外 内 ナデ 板ナデ	外 内 カキメ・ミガキ+ケズリ・ミガ キ 内 ハケメ+ナデ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密	
1538	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	高杯E	外 内 ヨコナデ・ハケメ+ナデ ヨコナデ・ハケメ	外 内 ヨコナデ・ミガキ ヨコナデ・ミガキ		外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒・砂粒を含む	
1539	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	高杯E		外 内 上、ナデ 下、ヨコナデ 内 ナデ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR6/1) 褐灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
1540	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	高杯E		外 内 上、ナデ・ミガキ 下、ナデ 内 ナデ		外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	粗 石英・長石・雲母を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1541	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	高杯E	外 内 ミガキ ミガキ	外 内 ミガキ ミガキ+ナデ	外 内 ミガキ ヘラナデ+ナデ	外 (10YR8/2) 浅黄橙 内 (10YR8/2) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母・石粒を含む	
1542	2A-2	6面 溝120 砂層	弥生土器(後期切頭)	高杯	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ケズリ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 (10R5/4) 赤褐 内 (10R6/4) 赤褐 断 (10YR5/4) 赤褐	密 石英・長石を含む	外来 吉備、旭川、 総社平野(奥田氏 分析) 仁伍式
1543	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	器台	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 (7.5YR7/3) 赤黄 内 (5YR7/3) 赤黄 断 (10YR7/2) 灰白	密 長石・赤色酸化土粒を含む	外来 在地ではな い (奥田氏分析)
1544	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	器台	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 (2.5YR7/2) 灰黄 内 (2.5YR7/2) 灰黄 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・チャートを含む	外来 因幡(歌垣?) (奥田氏分析)
1545	2A-2	6面 溝120 砂層	弥生土器	壺	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	外来 因幡か (奥田氏分析)
1546	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形器台C1	外 内 ミガキ ナデ	外 内 ミガキ ナデ	外 内 ミガキ ナデ	外 (10YR7/2) 赤黄 内 (10YR7/2) 赤黄 断 (10YR7/2) 赤黄	密 長石・チャートを含む	
1547	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形器台C1	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ミガキ ナデ	外 (7.5YR7/4) 赤黄 内 (7.5YR6/3) 赤黄 断 (10YR7/3) 赤黄	密 石英・長石・雲母を含む	
1548	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形器台C	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 (2.5YR6/6) 橙 内 (10R6/6) 赤橙 断 (2.5YR7/3) 浅赤橙	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
1549	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形器台C	外 内 ヨコナデ ミガキ	外 内 ヨコナデ ミガキ	外 内 ヨコナデ ミガキ		密 石英・長石を含む	
1550	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形器台C1	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR7/2) 灰黄 断 (10YR7/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・雲母を含む	
1551	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形器台C1	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 (7.5YR7/4) 赤黄 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 砂粒を含む	
1552	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形器台C3			外 内 ナデ+ミガキ ナデ+ハケメ	外 (7.5YR6/6) 橙 内 (7.5YR6/6) 橙 断 (7.5YR7/6) 橙	密	
1553	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形器台C		内 板ナデ	外 内 ミガキ ヨコナデ	外 (7.5YR7/4) 赤黄 内 (7.5YR7/3) 赤黄 断 (7.5YR7/3) 赤黄	密 長石・赤色酸化土粒・黒雲母を含む	
1554	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	小形器台C			外 内 ハケメ+ミガキ ハケメ+ヨコナデ	外 (7.5YR6/4) 赤黄 内 (10YR7/2) 赤黄 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1555	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	高杯D1		外 内 ミガキ ミガキ	外 内 ミガキ ヨコナデ	外 (10YR7/3) 赤黄 内 (10YR7/4) 赤黄 断 (10YR7/4) 赤黄	密 長石・黒雲母を含む	
1556	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕B2	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ+ハケメ+ナデ	外 内 タタキ 板ナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (2.5Y7/3) 浅黄	密 石英・長石を含む	煤付着
1557	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕B1	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 タタキ ナデ	外 (5YR8/4) 浅黄 内 (2.5YR6/4) 浅黄 断 (7.5YR7/4) 浅黄	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	煤付着
1558	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕A2	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ+ハケメ+ナデ	外 内 タタキ 板ナデ	外 (10YR6/3) 赤黄 内 (10YR7/2) 赤黄 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石を含む	
1559	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕A3	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 (10YR7/2) 赤黄 内 (10YR7/3) 赤黄 断 (10YR7/3) 赤黄	密 長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1560	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕A3	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 タタキ ナデ+ユビオサエ	外 内 タタキ ナデ+ユビオサエ	外 (10YR7/3) 赤黄 内 (10YR7/2) 赤黄 断 (7.5YR8/6) 浅黄橙	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒・石英・長石を含む	煤付着

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1561	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	布留形甕C	外ヨコナデ 内ハケメ+ヨコナデ・ハケメ・ナ デ	外ハケメ 内板ケズリ		外(10YR6/2) 灰黄褐 内(2.5YR7/2) 灰黄 断(2.5Y6/1) 黄灰	石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
1562	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	布留形甕C	外ナデ・ハケメ+ナデ 内ハケメ			外(N1.5/0) 黒 内(7.5YR6/3) にぶい褐 断(5YR7/4) にぶい橙	石英・長石を含む	
1563	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕				外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(10YR7/1) 灰白 断(10YR7/2) にぶい黄橙	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	底部に木の葉痕
1564	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕				外(7.5YR6/2) 灰褐 内(10YR6/3) にぶい黄橙 断(7.5YR8/1) 灰白	石英・長石・チャートを含 む	底部に木の葉痕
1565	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕				外(N3/0) 暗灰 内(10YR6/2) 灰黄褐 断(10YR7/2) にぶい橙	石英・長石・チャートを含 む	
1566	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕				外(10YR7/2) にぶい黄橙 内(2.5Y7/2) 灰黄 断(2.5Y7/1) 灰白	石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
1567	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	弥生形甕				外(2.5Y3/1) 黒褐 内(2.5Y7/1) 灰白 断(2.5Y6/2) 灰黄	長石・チャートを含む	
1568	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ハケメ・ナデ		外(N3/0) 暗灰 内(2.5Y5/2) 暗灰黄 断(10YR7/2) にぶい黄橙	石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	外来 加賀西部か。 漆7群、庄内IV。 (奥田氏分析)
1569	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外タタキ 内ケズリ		外(2.5YR7/1) 赤黒 内(2.5Y3/1) 黒褐 断(2.5Y8/1) 灰白	石英・長石を含む	外来 河内 (奥田氏観察)
1570	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ヨコナデ・タタキ 内ハケメ・ケズリ			外(2.5Y5/2) 暗灰黄 内(2.5Y6/1) 黄灰 断(N5/0) 灰	長石・角閃石を含む	外来 河内 (奥田氏観察)
1571	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ナデ・ハケメ 内ハケメ・ナデ			外(10YR4/2) 灰黄褐 内(10YR5/3) にぶい黄褐 断(2.5Y5/2) 暗灰黄	チャート・雲母・角閃石を 含む	外来 河内 (奥田氏観察)
1572	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ヨコナデ・タタキ 内ヨコナデ・ケズリ			外(2.5Y5/2) 暗灰黄 内(2.5Y5/2) 暗灰黄 断(2.5Y5/2) 暗灰黄	石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	外来 河内
1573	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ナデ 内ハケメ・ケズリ・ユビオサエ			外(2.5Y4/2) 暗灰黄 内(2.5Y3/1) 黒褐 断(2.5Y4/2) 暗灰黄	石英・長石・チャート・角 閃石・石英・長石を含む	外来 河内 (奥田氏観察)
1574	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ヨコナデ・ハケメ+ヨコナデ 内ハケメ・ケズリ			外(2.5Y3/1) 黒褐 内(2.5Y6/1) 黄灰 断(2.5Y5/1) 黄灰	長石・角閃石を含む	外来 河内ではな い (奥田氏観察)
1575	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ヨコナデ 内ヨコナデ			外(2.5Y4/1) 黄灰 内(2.5Y5/1) 黄灰 断(2.5Y7/1) 灰白	長石・黒雲母を含む	外来 在地ではな い (奥田氏分析)
1576	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ヨコナデ 内ハケメ	外ハケメ 内ケズリ		外(2.5Y7/3) 浅黄 内(5Y8/3) 淡黄 断(5Y7/1) 灰白	長石を含む	外来 播磨 (奥田氏観察)
1577	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ヨコナデ・ナデ+ユビオサエ 内ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ			外(2.5Y7/2) 灰黄 内(2.5Y8/1) 灰白 断(2.5Y8/1) 灰白	石英・長石・チャートを含 む	外来 高取の清部、能登 川ではない、野洲川か。 (奥田氏分析)
1578	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ヨコナデ・ハケメ 内ヨコナデ			外(2.5YR6/6) 橙 内(2.5YR6/6) 橙 断(7.5YR7/4) にぶい橙	結晶片岩・石英・長石・赤 色酸化土粒を含む	外来 阿波 (奥田氏分析)
1579	2A-2	6面 溝120 砂層	土師器	甕	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ナデ・ケズリ			外(10YR7/1) 灰白 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(7.5YR7/2) にぶい黄橙	長石・チャートを含む	外来 吉備、足守川 (奥田氏分析)
1580	2A-2	6面 溝120 砂層	弥生土器	甕	外ヨコナデ 内ヨコナデ・ナデ	外ハケメ 内ケズリ		外(7.5YR8/4) 浅黄橙 内(5YR7/4) にぶい橙 断(5YR7/4) にぶい橙	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	外来 播磨 (奥田氏分析)

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1581	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	大形鉢A1	外 ミガキ+ナデ・ハケメ 内 ナデ	外 ミガキ+ナデ・ナデ 内 ハケメ+ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄褐色 内 (7.5YR6/3) にぶい黄褐色 断 (10YR7/2) にぶい黄褐色	密 石英・長石・雲母・砂粒を含む	
1582	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	大形鉢A1	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ハケメ+ナデ・ナデ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (7.5YR7/4) にぶい黄褐色 断 (10YR8/2) 灰白	粗 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1583	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	大形鉢A3	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ・ケズリ 内 ハケメ+ナデ+ミガキ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/3) にぶい黄褐色 内 (2.5Y6/6) 橙 断 (10YR7/3) にぶい黄褐色	密	
1584	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	中形鉢A	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ・ハケメ	外 ハケメ 内 ハケメ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄褐色 内 (10YR7/2) にぶい黄褐色 断 (10YR7/2) にぶい黄褐色	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1585	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	中形鉢C2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/3) にぶい黄褐色 内 (10YR8/3) 浅黄褐色 断 (10YR8/3) 浅黄褐色	粗 石英・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1586	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	中形鉢C2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ+ヘラナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (7.5YR6/1) 褐灰 断 (7.5YR6/4) にぶい黄褐色	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒・石英・長石を含む	
1587	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	鉢か手焙	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/1) 灰白 内 (2.5YR5/1) 黄灰 断 (2.5YR6/2) 灰黄	密 石英・チャートを含む	
1588	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	小形鉢A1	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR7/2) にぶい黄褐色 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石を含む	
1589	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	小形鉢E1	外 ヨコナデ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 板ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (N3/0) 暗灰 内 (10YR6/2) 灰黄褐色 断 (10YR7/2) にぶい黄褐色	密 石英・長石を含む	
1590	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	小形鉢E2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR6/1) 褐灰 内 (2.5YR6/4) にぶい黄褐色 断 (10YR8/1) 灰白	密	水浸された粘土が覆う
1591	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	小形鉢G	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y4/1) 黄灰 断 (N3/0) 暗灰	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	打ち欠き
1592	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	小形鉢G	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (N2/0) 黒 断 (2.5Y5/1) 黄灰	密 長石・チャート・黒雲母を含む	
1593	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	鉢	外 ヨコナデ・ユビオサエ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1594	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	小形鉢D	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (10YR7/2) にぶい黄褐色 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1595	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	小形鉢D	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1596	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	中形鉢		内 ナデ	内 ナデ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/3) 浅黄褐色 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石を含む	罫目在地 (奥田氏分析)
1597	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	手捏	外 ナデ 内 板ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR6/2) 灰黄褐色 内 (10YR8/2) 灰黄褐色 断 (10YR6/2) 灰白	密 砂粒を含む	
1598	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	手捏		外 ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (5Y7/1) 灰白 内 (5Y4/1) 灰 断 (5Y4/1) 灰	密 長石・黒雲母を含む	
1599	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	手捏	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄褐色 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (10YR7/2) にぶい黄褐色	密 長石・チャートを含む	
1600	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	手捏	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄褐色 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
1601	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	手型	外 ユビオサエ 内 ナデ	外 ユビオサエ 内 ナデ	外 ユビオサエ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母を含む		
1602	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	手型	外 ナデ・ユビオサエ 内 板ナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 板ナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 板ナデ	外 (7.5Y4/1) 灰 内 (10YR7/3) にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母を含む		
1603	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	手型	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (7.5YR7/3) にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母を含む		
1604	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	有孔鉢B	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 タタキ 内 ナデ	外 (5Y7/1) 灰白 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (2.5Y7/1) 灰白	密	石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む		
1605	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	有孔鉢A	外 タタキ 内 ハケナデ	外 タタキ 内 ハケナデ	外 タタキ 内 ハケナデ	外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (7.5YR5/6) 明褐	密	石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む		
1606	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	有孔鉢B	外 細密タタキ?タタキの重複? 内 ナデ	外 細密タタキ?タタキの重複? 内 ナデ	外 細密タタキ?タタキの重複? 内 ナデ	外 (N2/0) 黒 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR4/1) 褐灰	密	長石・チャートを含む	細密タタキ?タタキの重複? 在地(奥田氏分析)	
1607	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	小形丸底鉢A	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (7.5YR7/6) 橙 内 (10YR7/4) にぶい黄橙 断 (10YR8/1) 灰白	粗	石英・長石を含む		
1608	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	小形丸底鉢C <sub>2</sub>	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ミガキ 内 ミガキ+暗文	外 ミガキ 内 ミガキ+暗文	外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密	石英・長石を含む		
1609	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	小形丸底鉢D	外 ナデ+暗文 内 ナデ+暗文	外 ナデ+暗文 内 ナデ+暗文	外 ナデ+暗文 内 ナデ+暗文	外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密	長石・赤色酸化土粒を含む		
1610	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	手焙	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (10YR7/1) 灰白 断 (10YR7/1) 灰白	密	長石・チャート・黒雲母を含む		
1611	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	手焙	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ハケナデ	外 ヨコナデ 内 ハケナデ	外 (2.5Y8/3) 淡黄 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (2.5Y8/1) 灰白	密	石英・長石を含む		
1612	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	製埴土器				外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR6/4) にぶい橙 断 (N4/0) 灰	密	石英・長石・雲母を含む	外来 牛窓付近 (奥田氏分析)	
1613	2A-2	6面溝120 砂層	土師器	鉢	外 タタキ+ナデ 内 ナデ	外 タタキ+ナデ 内 ナデ	外 タタキ+ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (10YR6/1) 褐灰	密	石英・長石・雲母・砂粒を含む		
1614	2A-2	9(2)面溝123	土師器	二重口縁壺C <sub>1</sub>	外 ヨコナデ・ハケメ+ナデ 内 ヨコナデ・ナデ			外 (10YR8/2) 灰白 内 (7.5YR7/3) にぶい橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母を含む		
1615	2A-2	9(2)面溝123	土師器	高杯D1	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR6/3) にぶい黄橙	密	石英・長石を含む		
1616	2A-2	9(2)面溝123	土師器	小形鉢A1	外 ナデ+ミガキ 内 ナデ+ミガキ	外 ナデ+ミガキ 内 ナデ+ミガキ	外 ナデ+ミガキ 内 ナデ+ミガキ	外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (7.5YR7/3) にぶい黄橙 断 (7.5YR7/3) にぶい黄橙	粗	石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む		
1617	2A-2	8面溝153	弥生土器	細頸壺	外 ハラナデ+ハケメ 内 ナデ			内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR6/4) にぶい橙 断 (7.5YR8/1) 灰白	密	石英・長石を含む		
1618	2A-2	8面溝155	土師器	高杯				外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密	石英・長石・チャートを含む		
1619	2A-2	8面溝155	土師器	弥生形壺A3	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ+ナデ	外 タタキ+ナデ	外 (2.5YR7/4) 淡赤橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/1) 灰白	粗	長石・チャート・黒雲母を含む		
1620	2A-2	8面溝155	土師器	弥生形壺A3	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ 内 ハケメ	外 タタキ 内 ハケメ	外 (N2/0) 黒 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (10YR3/1) 黒褐	粗	石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	打ち欠き	



番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1621	2A-2	10面 溝159	土師器	広口長頸壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ナデ		外 (5YR8/4) 淡橙 内 (5YR8/2) 灰白 断 (5YR7/1) 明褐灰	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
1622	2A-2	10面 溝159	土師器	壺	外 ミガキ 内 ナデ・ユビオサエ			外 (N4/0) 灰 内 (7.5YR7/3) にぶい橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 砂粒を含む	赤色顔料(鉄)
1623	2A-2	10面 溝159	土師器	小形壺	外 ヨコナデ 内 ハケナデ	外 ナデ・ハケメ+ナデ 内 ハケメ+ナデ		外 (5YR8/3) 淡橙 内 (7.5YR8/3) 淡黄橙 断 (7.5YR8/1) 灰白	密 長石・チャートを含む	
1624	2A-2	10面 溝159	弥生土器	壺				外 (5Y4/1) 灰 内 (5Y5/1) 灰 断 (5Y4/1) 灰	密	赤色顔料
1625	2A-2	10面 溝159	弥生土器	壺				外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (N4/0) 灰 断 (N2/0) 黒	密	赤色顔料
1626	2A-2	10面 溝159	弥生土器	壺		外 板ナデ・ナデ 内 ナデ		外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y5/2) 暗灰黄 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・雲 母を含む	
1627	2A-2	10面 溝159	土師器	不明	外 ナデ 内 ナデ			外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (5Y7/1) 灰白	密	赤色顔料(鉄)
1628	2A-2	10面 溝159	土師器	布留形壺	外 ハケメ 内 ケズリ			外 (2.5Y4/1) 黄灰 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (N4/0) 灰	密	赤色顔料(鉄+水 銀)
1629	2A-2	10面 溝159	土師器	布留形壺	外 ハケメ 内 ケズリ・ハケメ			外 (N3/0) 暗灰 内 (5Y7/1) 灰白 断 (N4/0) 灰	密	赤色顔料(鉄+水 銀)
1630	2A-2	10面 溝159	弥生土器または土師 器	高杯		外 ナデ 内 ナデ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y4/2) 暗灰黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 長石・雲母・赤色酸化土粒 を含む	
1631	2A-2	9(1)面 溝160	弥生土器または土師 器	高杯		外 ハケナデ 内 板ナデ		外 (2.5Y6/3) にぶい黄 内 (5Y7/6) 黄 断 (2.5Y6/3) にぶい黄	密 石英・長石・角閃石を含む	外来 河内
1632	2A-2	9(2)面 溝165	弥生土器または土師 器	壺		外 ハケナデ・ナデ 内 ハケナデ		外 (N1.5/0) 黒 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (N4/0) 灰	密 石英・長石を含む	煤付着
1633	2A-2	9(2)面 溝166	弥生土器(後期加戸)	大形広口壺	外 ヨコナデ・ミガキ 内 ヨコナデ・ハケナデ・ハケメ			外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR7/3) にぶい橙	密 石英・長石・角閃石を含む	外来 河内
1634	2A-2	10面 溝167	土師器	壺	外 ナデ 内 ナデ			外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR5/3) にぶい黄褐 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密 砂粒を含む	赤色顔料(鉄)
1635	2A-2	1面 土坑27	土師器	小形丸底壺B	外 ヨコナデ 内 ハケメ+ナデ	外 ハケメ 内 ケズリ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 チャートを含む	
1636	2A-2	1面 土坑32	瓦質土器	浅鉢		外 ナデ 内 ナデ		外 (N7/1) 灰白 内 (N7/1) 灰白 断 (N7/1) 灰白	密 長石・雲母を含む	
1637	2A-2	1面 土坑32	須恵器	双耳壺				外 (N8/0) 灰白 内 (N8/0) 灰白 断 (N8/0) 灰白	粗 長石・砂粒を含む	
1638	2A-2	6面 土坑80	土師器	布留形壺B	外 ナデ 内 ハケメ	外 ハケメ 内 ナデ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	
1639	2A-2	6面 土坑80	土師器(軟質土器)	壺?		外 格子タタキ 内 ナデ		外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y8/4) 淡黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石を含む	
1640	2A-2	6面 土坑80	土師器	小形丸底壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ナデ・ユビオサエ		外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (7.5YR8/1) 灰白	密 長石・チャート・黒雲母・ 赤色酸化土粒を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎土	備考
1641	2A-2	6面 土坑80	土師器	高杯A2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ+ヨコナデ・ユビオサエ +ナデ 内 ヨコナデ・ナデ		外 (10YR6/1) 褐灰 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙		密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・黒色粒を含む	
1642	2A-2	6面 土坑80	土師器	小形鉢C	外 ナデ 内 ハケメナデ	外 ミガキ+ナデ 内 ミガキ		外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y6/1) 黄灰		粗 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	
1643	2A-2	6面 土坑81	土師器	小形丸底壺C	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白		密	
1644	2A-2	6面 土坑81	土師器	小形丸底壺C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ・ハケメ 内 ナデ		外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR7/1) 明褐灰 断 (7.5YR7/1) 明褐灰		密 石英・長石・チャートを含む	
1645	2A-2	6面 土坑81	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ユビオサエ 内 ヨコナデ		外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/2) 浅黄橙 断 (2.5Y7/2) 灰黄		密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	梯状脚突痕
1646	2A-2	6面 土坑81	土師器	高杯				外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (2.5YR6/4) にぶい橙 断 (10YR6/2) 灰黄褐		密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
1647	2A-2	6面 土坑82	土師器	布留形壺B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ+ユビオサエ 内 ナデ+ユビオサエ		外 (N2/0) 黒 内 (2.5Y4/1) 黄灰 断 (2.5Y5/1) 黄灰		密 長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1648	2A-2	6面 土坑84	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (2.5Y6/1) 黄灰		密 石英・長石・チャートを含む	
1649	2A-2	6面 土坑84	土師器	壺	外 ヨコナデ・ハケメ 内 ハケメナデ	外 ハケメ 内 ケズリ		外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/1) 灰白 断 (10YR6/1) 褐灰		密 長石・チャートを含む	外来系? 瀬戸内
1650	2A-2	6面 土坑84	土師器	高杯C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ+ナデ・ハケメ 内 ナデ		外 (7.5YR7/6) 橙 内 (2.5YR6/8) 橙 断 (5.5YR5/1) 褐灰		密 石英・長石・雲母を含む	棒状工具による刺突
1651	2A-2	6面 土坑84	土師器	手捏土器	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (7.5YR7/2) 明褐灰 断 (2.5Y8/1) 灰白		密 石英・長石・チャートを含む	
1652	2A-2	6面 土坑85	土師器	壺		外 ハケメ+ヨコナデ 内 ケズリ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白		密 石英・長石・チャート・黒雲母を含む	ヘラ記号
1653	2A-2	6面 土坑85	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ハケメ	外 ケズリ 内 ヨコナデ・ハケメ		外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y5/2) 暗灰黄 断 (7.5YR8/1) 灰白		密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1654	2A-2	6面 土坑85	土師器	布留形壺A	外 ナデ 内 ナデ・ハケメ	外 ハケメ 内 ハケメ・ハケメ+ケズリ		外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR6/2) 灰褐 断 (7.5YR8/2) 灰白		密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1655	2A-2	6面 土坑87	土師器	小形壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 板ナデ 内 ナデ		外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y4/1) 黄灰		密	
1656	2A-2	6面 土坑87	土師器	直口壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ハケメ・ユビオサエ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙		密 石英・長石・雲母を含む	
1657	2A-2	6面 土坑87	土師器	小形丸底壺B	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ・ユビオサエ		外 (5.5YR8/4) 淡黄 内 (5.5YR8/4) 淡黄 断 (7.5YR7/4) にぶい橙		密 砂粒を含む	
1658	2A-2	6面 土坑87	土師器	小形丸底壺B	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (7.5YR6/6) 橙		密	
1659	2A-2	6面 土坑87	土師器	小形丸底壺A	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (5.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰白 断 (2.5Y6/4) にぶい黄		密	
1660	2A-2	6面 土坑87	土師器	小形丸底壺A	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白		密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1661	2A-2	6面 土坑87	土師器	高杯B	外 ナデ・ミガキ 内 ハケメ+ミガキ	外 ミガキ+ナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (10YR5/1) 褐灰 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・長石を含む	
1662	2A-2	6面 土坑87	土師器	高杯			外 ナデ・ハケメ 内 ナデ	外 (10YR7/1) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
1663	2A-2	6面 土坑87	土師器	大形鉢B1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ケズリ+ナデ 内 ケズリ+ナデ		外 (10YR3/1) 黒褐 内 (10YR4/1) 褐灰 断 (2.5Y4/1) 黄灰	密 石英・長石・チャートを含む 粗	黒色顔料
1664	2A-2	6面 土坑87	土師器	小形丸底鉢B 3	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 板ナデ	外 ハケメ 内 板ナデ	外 (2.5Y7/3) 浅黄 内 (2.5Y5/1) 黄灰 断 (2.5Y4/1) 黄灰	粗 石英・長石を含む	
1665	2A-2	6面 土坑88	土師器	直口壺	外 ハケメ+ナデ 内 ハケメ・ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ユビオサエ	外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y6/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	煤付着
1666	2A-2	6面 土坑88	土師器	小形丸底蓋B	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 チャートを含む	
1667	2A-2	6面 土坑88	土師器	小形丸底蓋B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ヨコナデ	外 (7.5YR8/6) 浅黄橙 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (5Y4/1) 灰	密 石英・長石を含む	
1668	2A-2	6面 土坑88	土師器	小形丸底蓋C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ヨコナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ・ユビオサエ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR6/1) 褐灰	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	
1669	2A-2	6面 土坑88	土師器	小形丸底蓋D	外 ナデ 内 ナデ	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密	
1670	2A-2	6面 土坑88	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	煤付着 へら描
1671	2A-2	6面 土坑88	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 ユビオサエ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 長石・チャート・黒雲母を 含む	
1672	2A-2	6面 土坑88	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ+ナデ 内 板ケズリ・ユビオサエ		外 (2.5Y8/2) 浅黄 内 (2.5Y7/3) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 長石・赤色酸化土粒を含む	刺突
1673	2A-2	6面 土坑88	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y8/1) 灰白	密 石英・チャートを含む	刺突
1674	2A-2	6面 土坑88	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 (2.5Y7/3) 浅黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y8/3) 淡黄	粗 石英・長石・チャートを含 む	
1675	2A-2	6面 土坑88	土師器	布留形甕B	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ+ナデ・ナデ 内 ナデ・ケズリ	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (5Y6/1) 灰	粗 石英・長石を含む	
1676	2A-2	6面 土坑93	土師器	高杯A1	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 ハケメ・ミガキ・ナデ 内 ケズリ・ナデ	外 (2.5YR7/2) 灰黄 内 (10YR6/3) にぶい黄橙 断 (N5/0) 灰	密 石英・長石・雲母を含む	
1677	2A-2	6面 土坑93	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/1) 灰白	密 チャート・黒雲母・赤色酸 化土粒を含む	
1678	2A-2	6面 土坑93	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 ヨコナデ・ナデ 内 ケズリ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y7/3) 浅黄	密 石英・長石を含む	
1679	2A-2	6面 土坑93	土師器	布留形甕B	外 ナデ 内 ナデ・ハケメ	外 ハケメ 内 板ケズリ		外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石を含む	
1680	2A-2	6面 土坑93	土師器	布留形甕B	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ+ナデ・ナデ 内 ケズリ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	

番号	トレン字名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1681	2A-2	6面 土坑83	土師器	布留形甕B	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ヨコナデ・ハケメ	外 ハケメ 内 ナデ・板ナデ・ユビオサエ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (2.5YR7/2) 灰黄 断 (10YR8/2) 灰白	密	
1682	2A-2	6面 土坑83	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ハケメ	外 ハケメ 内 ヨコナデ・ケズリ・ユビオサエ		外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石を含む	
1683	2A-2	6面 土坑98	土師器	小形丸底甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 板ナデ			粗 石英・長石・雲母を含む	
1684	2A-2	6面 土坑98	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ+ユビオサエ 内 ナデ		外 (10YR3/1) 黒褐 内 (10YR6/3) にぶい黄褐 断 (2.5Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1685	2A-2	6面 土坑98	土師器	高杯		外 ハケメ 内 ナデ・ケズリ・ハケメ		外 (10YR8/2) 灰白 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (10YR6/4) にぶい黄褐	密 石英・長石を含む	
1686	2A-2	6面 土坑98	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ		外 (10YR7/1) 黒 内 (10YR6/3) にぶい黄褐 断 (10YR7/3) にぶい黄褐	密 石英・長石・チャートを含む	煤付着
1687	2A-2	6面 土坑101	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (7.5YR8/3) 浅黄褐 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (7.5YR7/3) にぶい橙	密 石英・長石・チャートを含む	
1688	2A-2	6面 土坑101	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ナデ・ケズリ		外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR6/1) 褐灰	密 石英・長石を含む	
1689	2A-2	6面 土坑104	土師器	二重口縁甕C 1	外 ナデ 内 ヨコナデ			外 (10YR8/3) 浅黄褐 内 (10YR8/4) 浅黄褐 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母・砂粒を含む	
1690	2A-2	6面 土坑106	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ+板ナデ 内 ナデ	外 上、ヘラナデ 内 上、板ナデ	外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR8/2) 灰白 断 (7.5R5/2) 灰赤	粗 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	
1691	2A-2	6面 土坑106	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ハケメ	外 ヨコナデ・ケズリ 内 ナデ		外 (5YR6/1) 褐灰 内 (5YR7/6) 橙 断 (10YR3/1) 黒褐	密 石英・チャートを含む	
1692	2A-2	6面 土坑106	土師器	高杯B	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ハケメ		外 (2.5YR4/4) にぶい赤褐 内 (2.5YR6/6) 橙 断 (5YR6/6) 橙	粗 石英・長石・赤色酸化土粒・砂粒を含む	
1693	2A-2	6面 土坑106	土師器	小形鉢A.2	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (7.5YR8/4) 浅黄褐 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (10YR6/1) 褐灰	密 石英・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1694	2A-2	6面 土坑107	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ・ユビオサエ		外 (5YR6/6) 橙 内 (10YR7/1) 灰白 断 (7.5YR4/3) 褐	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1695	2A-2	6面 土坑108	土師器	短頸甕A	外 ヨコナデ・ハケメ・ハケメ+ナ テ			外 (10Y8/1) 灰白 内 (10Y8/2) 灰白 断 (10Y8/1) 灰白	密 石英・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1696	2A-2	6面 土坑108	土師器	壺	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ			外 (10YR6/4) にぶい黄褐 内 (10YR6/3) にぶい黄褐 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密 石英・長石・チャートを含む	外米 交野付近、土師の里 (奥田氏分析)
1697	2A-2	6面 土坑108	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (2.5YR7/6) 橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1698	2A-2	6面 土坑108	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ユビオサエ 内 ナデ		外 (2.5Y8/3) 浅黄 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1699	2A-2	6面 土坑108	土師器	高杯B	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ		外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (5Y7/1) 灰白	密 長石・チャート・黒雲母を含む	
1700	2A-2	6面 土坑108	土師器	高杯	外 ハケメ+ナデ 内 ハケメ+ナデ	外 ハケメ+ナデ 内 ハケメ+ナデ		外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	

番号	トロンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1701	2A-2	6面 土坑108	土師器	高杯		外 ナデ 内 ナデ	外 ヘラナデ・ナデ 内 ナデ・ケズリ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/1) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	刺突痕
1702	2A-2	6面 土坑108	土師器	小形器台C3		外 ハケメ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ハケメ	外 (5Y7/1) 灰白 内 (N4/0) 灰 断 (N8/0) 灰白	密 長石を含む	
1703	2A-2	6面 土坑108	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ・ユビオサエ 内 ナデ・ケズリ・ユビオサエ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (25Y8/1) 灰白 内 (25Y5/1) 黄灰 断 (25Y5/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	煤付着
1704	2A-2	6面 土坑108	土師器	広口壺	外 ハケメ+ミガキ+ナデ 内 ナデハケ・ユビオサエ	外 ハケメ+ミガキ+ナデ 内 ナデ・ユビオサエ・ナデハケ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (10YR7/2) におい黄橙	密	
1705	2A-2	6面 土坑108	弥生土器	甕	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 タタキ+ナデ 内 ヨビオサエ+ケズリ	外 タタキ 内 ナデ	外 (N2/0) 黒 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR8/2) 灰白	密 長石・チャートを含む	
1706	2A-2	6面 土坑116	土師器	高杯			外 上、ミガキ+ナデ 内 ナデ	外 (5YR7/6) 橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR6/4) におい黄橙	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1707	2A-2	6面 土坑116	土師器	小形丸底鉢B2	外 ナデ 内 ナデ	外 ヨコナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (25Y6/1) 黄灰 内 (25Y7/1) 灰白 断 (7.5YR6/4) におい橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1708	2A-2	6面 土坑127	土師器	高杯			外 ハケメ 内 ケズリ+ナデ	外 (25YR6/6) 橙 内 (25YR6/4) におい橙 断 (25YR6/4) におい橙	密 石英・チャート・黒雲母を含む	
1709	2A-2	6面 土坑129	須恵器	高杯			外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N5/0) 灰	密 長石を含む	
1710	2A-2	6面 土坑129	土師器	大形鉢	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (25Y7/3) 浅黄	密	外来系 山陰
1711	2A-2	6面 土坑129	土師器	移動式甕		外 板ナデ 内 板ナデ	外 板ナデ 内 板ナデ	外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (10YR5/2) 灰黄褐 断 (10YR7/3) におい黄橙	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
1712	2A-2	6面 土坑130	土師器	広口壺A	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (5YR6/6) 橙 内 (10YR6/2) 灰黄褐 断 (10YR7/3) におい黄橙	密 石英・長石・チャートを含む	
1713	2A-2	6面 土坑130	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 ヘラナデ 内 上、ケズリ 下、ユビオサエ+ヨコナデ	外 (25Y7/2) 灰黄 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (25Y7/1) 灰白	密 石英・長石・チャートを含む	
1714	2A-2	6面 土坑130	土師器	高杯B	外 タタキ 内 ヨコナデ	外 タタキ・タタキ+ユビオサエ 内 板ナデ+ハケナデ	外 上、ヘラナデ+ハケメ・ヘラナデ 内 上、ケズリ 下、ハケナデ+ユビオサエ	外 (7.5YR7/2) 明褐灰 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR7/2) 明褐灰	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1715	2A-2	6面 土坑130	土師器	高杯C	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR6/2) 灰黄褐 内 (10YR4/1) 相灰 断 (10YR6/1) 相灰	密 石英・長石・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1716	2A-2	6面 土坑130	土師器	高杯			外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1717	2A-2	6面 土坑130	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ	外 (10YR8/1) 灰白 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (10YR7/2) におい黄橙	密 長石・黒雲母を含む	
1718	2A-2	6面 土坑130	土師器	手埴	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ・タタキ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/2) におい黄橙 内 (10YR7/2) におい黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密 石英・長石を含む	
1719	2A-2	6面 土坑132	土師器	器台か壺?		外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/3) におい黄橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙	密 長石・赤色酸化土粒を含む	
1720	2A-2	6面 土坑133	土師器	小形丸底鉢C	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (7.5YR8/2) 灰白	粗 石英・長石・チャートを含む	3カ所打ち欠き

番号	トレン字名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1721	2A-2 6面 土坑133	土師器	小形丸底蓋C	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	石英・長石・チャートを含む	2カ所打ち欠き穿孔
1722	2A-2 6面 土坑133	土師器	高杯B	外 内 ハケメ+ナデ ハケメ+ヨコナデ	外 内 ハケメ+ナデ ハケメ+ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (5.5YR7/4) にぶい橙 内 (2.5Y8/2) 灰白 断 (10YR7/4) にぶい黄橙	石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む	
1723	2A-2 6面 土坑133	土師器	高杯			外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (2.5YR7/4) 淡赤橙 内 (5YR8/2) 灰白 断 (2.5YR7/2) 明赤灰	石英・長石・チャートを含む	
1724	2A-2 6面 土坑133	土師器	高杯B	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (5YR88/1) 灰白 内 (7.5YR8/8) 黄橙 断 (2.5YR7/2) 明赤灰	粗 酸化土粒・黒色粒を含む	石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒・黒色粒を含む	
1725	2A-2 6面 土坑133	土師器	小形甕	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (10YR4/3) にぶい黄橙 内 (2.5YR3/1) 黒褐 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密 を含む	石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
1726	2A-2 7面 土坑149	土師器	広口壺	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (5YR8/2) 灰白 内 (7.5YR7/2) 明褐灰 断 (7.5YR5/1) 褐灰	密	長石・チャートを含む	
1727	2A-2 7面 土坑149	土師器	壺?		外 内 ハケメ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (7.5Y8/1) 灰白 断 (2.5Y8/1) 灰白	密	石英・長石を含む	線刻土器
1728	2A-2 7面 土坑149	土師器	弥生形甕	外 内 ヨコナデ・タタキ ヨコナデ・ナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR8/2) 灰白	密	石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
1729	2A-2 8面 土坑158	土師器	高杯A1	外 内 ヨコナデ+ミガキ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/1) 灰白 断 (N6/0) 灰	密	長石・チャート・黒雲母を 含む	
1730	2A-2 7面 土坑158	土師器	小形壺	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (2.5Y8/1) 灰白 内 (2.5Y8/1) 灰白 断 (7.5Y8/1) 灰白	密	石英・長石・チャートを含む	
1731	2A-2 7面 土坑158	土師器	大形鉢A4	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ハケナデ+ミガキ ハケナデ+ミガキ	外 内 ナデ ナデ	外 (7.5YR4/1) 褐灰 内 (10YR5/2) 灰黄褐 断 (7.5YR4/1) 褐灰	密	石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	
1732	2A-2 7面 土坑159	土師器	弥生形甕A4	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR6/8) 橙 断 (5YR7/2) 明褐灰	粗 を含む	石英・長石・雲母・砂粒を 含む	
1733	2A-2 9(1)面 土坑165	土師器	壺	外 内 ヨコナデ・ハケメ+ナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/1) 灰白	結晶片岩・密 母・赤色酸化土粒を含む	石英・長石・雲母・砂粒を 含む	外来 阿波 (黒田氏分析) 煤付着
1734	2A-2 8面 土坑161	土師器	細頸壺か小形 直口壺	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (2.5YR8/2) 灰白 断 (5Y7/1) 灰白	密	石英・長石を含む	
1735	2A-2 8面 土坑161	弥生土器(後期初頭)	器台	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ヨコナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (2.5Y5/2) 暗灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y5/2) 暗灰黄	密 を含む	長石・チャート・角閃石を 含む	外来 河内?
1736	2A-2 8面 土坑161	土師器	弥生形甕A1	外 内 ヨコナデ ヨコナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (10YR6/1) 褐灰 内 (10YR6/6) 明黄褐 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	粗 を含む	石英・長石・雲母・砂粒を 含む	煤付着
1737	2B 西半部2面 穴183	瓦	軒丸瓦	外 内 ナデ 布目織	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (2.5GY4/1) 暗オリーブ灰 内 (2.5GY7/4) 暗緑灰	密		
1738	2B 西半部0面 溝1	瓦	軒丸瓦	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (5Y5/1) 灰 内 (5Y5/1) 灰 断 (7.5YR6/4) にぶい橙	密	石英・長石を含む	
1739	2B 西半部2層	瓦	軒丸瓦	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (5Y5/1) 灰 内 (5Y5/1) 灰 断 (7.5YR6/4) にぶい橙	密	石英・長石・チャートを含む	
1740	2B 西半部0面	瓦	軒丸瓦	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 内 ナデ ナデ	外 (N7/0) 灰白 内 (N6/0) 灰 断 (5Y8/1) 灰白	密		

番号	トレン字名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
1741	2 B	西半部1層(最上層)	瓦	軒丸瓦		外ナデ 内ナデ		外(N7/0)灰白 断(N7/0)灰白		密 長石を含む		
1742	2 B	西半部0面 溝1	瓦	軒丸瓦		外ナデ 内 布目痕		外(N4/0)灰 断(N7/0)灰白		密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む		
1743	2 B	西半部0面 溝1	瓦	軒丸瓦		外ナデ 内ナデ		外(N4/0)灰 断(7.5Y7/1)灰白		密 長石・チャートを含む		
1744	2 B	西半部0面 溝1	瓦	軒丸瓦		外ナデ 内ナデ		外(5PB3/1)暗青灰 内(5PB5/1)青灰 断(7.5Y8/1)灰白		密		
1745	2 B	西半部0面 溝1	瓦	軒丸瓦		外ナデ 内ナデ		外(N4/0)灰 断(5Y7/1)灰白		密 長石を含む		
1746	2 B	西半部0面 溝1	瓦	軒瓦		外ナデ 内ナデ		外(5BG2/1)青黒 内(10BG3/1)暗青灰 断(N8/1)灰白		密		
1747	2 B	西半部2層	瓦	軒平瓦		外 布目痕 内ナデ・細目		外(N5/0)灰 内(N4/0)灰 断(N8/0)灰白		密		
1748	2 B	西半部3層	瓦	軒平瓦		外ナデ 内ナデ		外(N2/0)黒 内(N3/0)暗灰 断(5Y8/1)灰白		粗 石英・長石・雲母を含む		
1749	2 B	西半部0面	瓦	軒平瓦		外ナデ 内ナデ		外(5Y7/1)灰白 断(5Y7/2)灰白		密 長石・チャートを含む		
1750	2 B	西半部2面 溝5	瓦	軒平瓦		外ナデ 内ナデ				密 長石・黒雲母を含む		
1751	2 B	西半部0面 溝1	瓦	軒平瓦		外ナデ 内ナデ		外(10BG2/1)青黒 内(10BG3/1)青黒 断(N6/1)灰		密		
1752	2 B	西半部0面 溝1	瓦	軒平瓦		外ナデ 内ナデ		外(N5/0)灰 内(N5/0)灰 断(3Y8/1)灰白		密		
1753	2 B	西半部0面 溝1	瓦	軒平瓦		外ナデ 内ナデ		外(5PB3/1)暗青灰 内(5PB3/1)暗青灰 断(5Y8/1)灰白		密		
1754	2 B	西半部0面 溝1	瓦	軒平瓦		外ナデ 内ナデ		外(5PB2/1)青黒 内(5PB2/1)青黒 断(N8/0)灰白		密		
1755	2 B	西半部0面 溝1	瓦	軒平瓦		外ナデ 内ナデ		外(N5/0)灰 内(5PB5/1)青灰 断(7.5Y7/1)灰白		密		
1756	2 B	西半部0面 溝1	瓦	丸瓦		外ナデ 内 布目痕						炭化物付着
1757	2 B	西半部0面 溝1	瓦	丸瓦		外ナデ 内 布目痕		外(N3/0)暗灰 断(5Y7/1)灰白		密 長石・チャートを含む		
1758	2 B	西半部0面 溝1	瓦	平瓦		外ナデ 内 細目		外(5PB4/1)暗青灰 内(5PB4/1)暗青灰 断(10YR7/3)にぶい、黄橙				
1759	2 B	西半部0面 溝1	瓦	棧瓦		外ナデ 内ナデ		外(N3/0)暗灰 内(N5/0)灰 断(7.5Y8/1)灰白		密		
1760	2 B	西半部0面 溝1	瓦	棧瓦		外ナデ 内ナデ		外(5PB4/1)暗青灰 内(5PB4/1)暗青灰 断(N7/0)灰白		密		

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1761	2 B	西半部0面溝1	瓦	椀瓦	外ナテ 内ナテ			外(N8/0)暗灰 断(5Y7/1)灰白	密 長石・チャート・黒雲母・ 赤色酸化土粒を含む	
1762	2 B	西半部0面溝1	瓦	出隅板塀瓦	外ナテ 内ナテ			外(5PB2/1)青黒 内(5PB2/1)暗青黒 断(10YR8/2)灰白	密	
1763	2 B	西半部0面溝1	瓦	椀瓦	外ナテ 内ナテ			外(2.5GY8/1)灰白 内(5Y6/2)灰オリーブ 断(2.5GY8/1)灰白	密	
1764	2 B	西半部0面溝1	瓦	輪造い瓦	外ナテ 内ナテ			外(N6/0)灰 内(N6/0)灰	密 黒色粒を含む	
1765	2 B	西半部0面溝1	瓦	鬼瓦						
1766	2 B	西半部0面溝1	瓦	鬼瓦	外ナテ 内ナテ			外(N7/1)灰白 内(5PB7/1)明青灰 断(5Y7/1)灰白	密 石英・長石・雲母を含む	
1767	2 B	西半部0面溝1	瓦	入隅板塀瓦	外ナテ 内ナテ			外(5PB5/1)青灰 断(5Y8/2)灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒 を含む	
1768	2 B	西半部0面溝1	瓦	角椀切落板塀 瓦	外ナテ 内ナテ			外(N6/0)灰 断(2.5GY8/1)灰白	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	
1769	2 B	西半部0面溝1	瓦	角椀板塀瓦	外ナテ 内ナテ			外(N4/0)灰 断(2.5YG8/1)灰白	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・石英・長石を含む	
1770	2 B	西半部0面溝1	磁器	碗					密	
1771	2 B	西半部0面溝1	磁器	碗					密	外施釉(黄釉) 内施釉(黄釉)
1772	2 B	西半部1層(最上層)	磁器(白磁)					外(7.5Y7/2)灰白 内(7.5Y7/1)灰白 断(10Y8/1)灰白	密 長石を含む	
1773	2 B	西半部1層(最上層)	緑釉陶器	皿				外(2.5GY3/1)暗オリーブ灰 内(2.5GY3/1)暗オリーブ灰 断(2.5YR6/2)灰赤	密 石英・長石を含む	緑釉
1774	2 B	西半部1層(最上層)	瓦器	椀	外ナテ 内ナテ	外 ユビオサエ+ナテ 内 ナテ+ミガキ		外(N8/0)灰白 内(N5/0)灰 断(N8/0)灰白	密 石英・長石・雲母を含む	
1775	2 B	西半部1層(最上層)	瓦器	椀	外ナテ 内ナテ			外(N4/0)灰 内(N5/0)灰 断(N7/0)灰白	密 石英・長石を含む	
1776	2 B	西半部1層(最上層)	土師器	皿	外ナテ 内ナテ			外(10YR8/3)浅黄橙 内(10YR8/3)浅黄橙 断(10YR6/4)にぶい黄橙	密 石英・長石・雲母・黒色粒 を含む	炭化物付着 スリップ
1777	2 B	西半部1層(最上層)	土師器	皿	外ナテ 内ナテ			外(7.5YR7/4)にぶい橙 内(7.5YR8/3)浅黄橙 断(7.5YR7/3)にぶい黄橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒・黒色粒を含む	
1778	2 B	西半部1層(最上層)	土師器	皿	外ナテ 内ナテ			外(10YR7/3)にぶい黄橙 内(10YR7/3)にぶい黄橙 断(10YR7/2)にぶい黄橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	
1779	2 B	西半部1層(最上層)	土師器	高台付杯	外ナテ 内ナテ			外(7.5YR8/3)浅黄橙 内(7.5YR8/3)浅黄橙 断(7.5YR8/3)浅黄橙	密 石英を含む	
1780	2 B	西半部1層(最上層)	土師器	高台付杯	外ナテ 内ナテ	外ナテ・ユビオサエ 内ナテ・ユビオサエ		外(7.5YR8/3)浅黄橙 内(7.5YR8/4)浅黄橙 断(7.5YR8/2)灰白	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒・砂粒を含む	



番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1781	2 B	西半部1層(最上層)	土師器	不明			外 ナデ 内 ナデ	外 (5YR8/3) 淡橙 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒・ 黒色粒を含む	
1782	2 B	西半部1層(最上層)	須恵器	短鉢	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 石英・長石・黒色粒・砂粒 を含む	東播系
1783	2 B	西半部1層(最上層)	須恵器	甕		外 タタキ 内 同心円当て具痕・タタキ	外 タタキ 内 タタキ	外 (5YR4/1) 褐灰 内 (5B4/1) 暗青灰 断 (N7/0) 灰白	密 長石・無色粒を含む	
1784	2 B	西半部2層(溝1内 側)	黒色土器	皿	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 ミガキ 内 ミガキ	外 (N3/0) 暗灰 内 (N4/0) 灰 断 (N4/0) 灰	密 石英・長石・雲母を含む	
1785	2 B	西半部2層(溝1内 側)	黒色土器	碗			外 ナデ・ミガキ 内 ミガキ	外 (N3/0) 暗灰 内 (N4/0) 灰 断 (N4/0) 灰	密 石英・長石・雲母を含む	
1786	2 B	西半部2層(溝1内 側)	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙	密 石英・赤色酸化土粒を含む	
1787	2 B	西半部2層(溝1内 側)	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙	密 赤色酸化土粒を含む	
1788	2 B	西半部2層(溝1内 側)	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙	密 石英・長石・チャートを含む	
1789	2 B	西半部2層(溝1内 側)	土師器	高杯			外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (7.5YR8/4) 浅黄橙	密 石英・長石を含む	
1790	2 B	西半部2層(溝1内 側)	土師器	瓶子?	外 ナデ 内 ナデ	外 ヘラナデ 内 ユビオサエ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR5/1) 褐灰 断 (7.5YR6/4) にぶい橙	密 長石を含む	
1791	2 B	西半部2層(溝1内 側)	須恵器	壺		外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ 底部 糸切り痕	外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰	密	稲付着
1792	2 B	西半部1面 溝2	土師器	杯	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヘケメ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR6/4) にぶい黄橙 内 (2.5Y6/4) にぶい黄 断 (2.5Y6/2) 灰黄	密 長石・雲母・赤色酸化土粒 を含む	
1793	2 B	西半部2面 土坑7	瓦器	碗	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (N8/1) 灰白 内 (N8/1) 灰白	密	
1794	2 B	西半部4面 土坑15	須恵器	皿	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ナデ 内 回転ナズリ	外 (5YR5/1) 褐灰 内 (5YR5/1) 褐灰 断 (5B5/1) 青灰	密	
1795	2 B	西半部7面 土坑19	須恵器	杯身	外 回転ナズリ 内 回転ナデ		外 回転ナズリ 内 回転ナデ	外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	
1796	2 B	西半部1層	土師器	皿	外 ナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒・黒色粒を含む	
1797	2 B	西半部1層	土師器	皿	外 ナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ヨコナデ	外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 長石を含む	
1798	2 B	西半部1層	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ヨコナデ・ナデ	外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR7/6) 橙	密	
1799	2 B	西半部0面	陶器	短鉢	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ・沈線	外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5YR4/3) にぶい赤褐 内 (7.5R5/3) にぶい赤褐 断 (7.5R6/1) 赤灰	密 石英・長石・雲母・黒色粒 を含む	丹波
1800	2 B	西半部2層	瓦器	碗	外 ナデ 内 ナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N8/0) 灰白	密 石英・長石・雲母を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
1801	2 B	西半部2層	土師器	皿	外 内 ナデ ナデ		外 内 ナデ ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密			
1802	2 B	西半部2層	土師器	皿	外 内 ヨコナデ ナデ		外 内 ヨコナデ ナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密			
1803	2 B	西半部2層	土師器	皿	外 内 ヨコナデ ヨコナデ		外 内 ヨコナデ ナデ	外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR7/4) にぶい橙 断 (7.5YR7/6) 橙	密			
1804	2 B	西半部2層	土師器	皿	外 内 ナデ ナデ		外 内 ナデ ナデ	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/3) 浅黄橙	密 土粒を含む	石英・チャート・赤色酸化 土粒を含む		
1805	2 B	西半部2層	須恵器	高杯	外 内 回転ナデ 回転ナデ		外 内 回転ナデ 回転ナデ	外 (N4/0) 灰 内 (N4/0) 灰	密			
1806	2 B	西半部2面	瓦器	碗	外 内 ヨコナデ・ナデ ヨコナデ・ナデ・暗文		外 内 ナデ 暗文	外 (N5/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (N8/0) 灰白	密			
1807	2 B	西半部2面	土師器	皿	外 内 調整不明 調整不明		外 内 調整不明 調整不明	外 (10YR8/2) 灰白 内 (10YR8/2) 灰白 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密	長石・雲母・赤色酸化土粒 を含む		
1808	2 B	西半部3層	瓦器	碗	外 内 ナデ ナデ		外 内 ナデ ナデ+暗文	外 (N6/0) 灰白 内 (N6/0) 灰	密	石英・長石を含む		
1809	2 B	西半部3層	瓦器	皿	外 内 ヨコナデ 暗文		外 内 ナデ 暗文	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (N6/0) 灰 断 (2.5Y8/2) 灰白	密	石英・長石・雲母を含む		
1810	2 B	西半部3層	瓦器	碗	外 内 ミガキ ミガキ		外 内 ミガキ ミガキ	外 (N3/0) 暗灰 内 (N4/0) 灰 断 (N4/0) 灰	密	石英・長石・雲母を含む		
1811	2 B	西半部3層	土師器	皿	外 内 ヨコナデ ヨコナデ		外 内 ナデ+ユビオサエ ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (N7/0) 灰白	密	石英・チャート・黒雲母・ 赤色酸化土粒を含む		
1812	2 B	西半部3層	土師器	皿	外 内 ナデ ナデ		外 内 ナデ ナデ	外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (7.5YR7/2) 明褐灰	密	石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む		
1813	2 B	西半部3層	土師器	皿	外 内 ナデ ナデ・ユビオサエ		外 内 ナデ ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (10YR8/2) 灰白	密	石英・長石・雲母・黒色粒 を含む		
1814	2 B	西半部3層	土師器	皿	外 内 ナデ ナデ		外 内 ナデ ナデ・ユビオサエ	外 (10Y7/2) にぶい黄橙 内 (10Y7/2) にぶい黄橙 断 (10Y7/2) にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む		
1815	2 B	西半部3層	土師器	皿	外 内 ヨコナデ ヨコナデ		外 内 ヨコナデ ナデ	外 (2.5Y8/2) 灰白 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (5Y7/1) 灰白	密	石英・雲母・赤色酸化土粒 を含む		
1816	2 B	西半部3層	須恵器	杯蓋	外 内 回転ナデ 回転ナデ		外 内 回転ナデ 回転ナデ	外 (N5/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N6/0) 灰	密	長石・黒色粒を含む		
1817	2 B	西半部3層	須恵器	杯身	外 内 回転ナデ 回転ナデ		外 内 回転ナデ 回転ナデ	外 (5BG7/1) 明青灰 内 (2.5GY7/1) 明オリーブ灰	密			へう記号
1818	2 B	西半部3層	須恵器	杯身	外 内 回転ナデ 回転ナデ		外 内 回転ナデ 回転ナデ	外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰	密			
1819	2 B	西半部3層	瓦器	碗	外 内 ミガキ ミガキ		外 内 ナデ ミガキ	外 (N3/0) 暗灰 内 (N4/0) 灰 断 (N3/0) 暗灰	密	石英・長石・雲母を含む		
1820	2 B	西半部3面	土師器	皿	外 内 ナデ ナデ		外 内 ナデ ナデ	外 (5YR8/3) 浅黄橙 内 (2.5YR7/6) 橙 断 (5YR6/6) 橙	密	石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒・黒色粒を含む		

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1821	2 B	西半部3面	土師器	皿	ナデ 外 内	外 内	外 内	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/3) 灰白 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 雲母・赤色酸化土粒を含む	
1822	2 B	西半部3面	須恵器	壺	外 内	外 内	外 内	外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N6/0) 灰	密 石英・長石を含む	自然釉
1823	2 B	西半部3-3層	瓦質土器	壺	外 内	外 内	外 内	外 (N5/0) 灰 内 (N8/0) 灰白 断 (7.5Y8/1) 灰白	密 石英・長石・雲母・砂粒を含む	打ち欠き
1824	2 B	西半部3-3層	土師器	皿	ナデ 外 内	外 内	外 内	外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (5YR8/1) 灰白 断 (5YR8/1) 灰白	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・黒色粒を含む	
1825	2 B	西半部3-3層	土師器	杯	外 内	外 内	外 内	外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (5YR7/6) 橙	密 石英・長石を含む	
1826	2 B	西半部3-3層	須恵器	杯蓋	外 内	外 内	外 内	外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密 石英・長石・黒色粒を含む	
1827	2 B	西半部3-3層	須恵器	長頸壺	外 内	外 内	外 内	外 (7.5Y7/1) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	粗 石英・長石・黒色粒・石粒を含む	自然釉
1828	2 B	西半部3-3層	須恵器	壺	外 内	外 内	外 内	外 (5PB6/1) 青灰 内 (5PB5/1) 青灰	粗	自然釉
1829	2 B	西半部3-3層	須恵器	甗	外 内	外 内	外 内	外 (N6/0) 灰 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	粗 石英・長石・黒色粒を含む	
1830	2 B	西半部3-3層	須恵器	甗	外 内	外 内	外 内	外 (N6/1) 灰 内 (N6/1) 灰	密 長石・チャートを含む	
1831	2 B	西半部3-3層	土師器	甗	ナデ・ハケメ 外 内	外 内	外 内	外 (7.5YR6/6) 橙 内 (7.5YR8/4) 浅黄橙 断 (5Y7/6) 橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・黒色粒を含む	
1832	2 B	西半部3-3層	土師器	甗	ナデ 外 内	外 内	外 内	外 (2.5YR6/6) 橙 内 (5YR8/3) 淡橙 断 (2.5YR6/8) 橙	粗 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1833	2 B	西半部3-3層	土師器	甗	調整不明 外 内	外 内	外 内	外 (5YR7/6) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR6/8) 橙	粗 石英・長石・赤色酸化土粒・黒色粒を含む	
1834	2 B	西半部3-3層	土師器	甗	ナデ 外 内	外 内	外 内	外 (5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR8/4) 淡橙 断 (5YR8/2) 灰白	粗 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・黒色粒を含む	
1835	2 B	西半部3-3層	土師器	甗	調整不明 外 内	外 内	外 内	外 (5YR7/8) 橙 内 (5YR7/6) 橙 断 (5YR7/6) 橙	粗 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒・黒色粒を含む	
1836	2 B	西半部3-3層	土師器	甗	ナデ・ハケメ+ナデ 外 内	外 内	外 内	外 (2.5YR7/6) 橙 内 (2.5YR7/8) 橙 断 (2.5YR6/8) 橙	粗 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・黒色粒を含む	
1837	2 B	西半部3-3層	土師器	甗	ナデ・ハケメ+ナデ 外 内	外 内	外 内	外 (2.5YR7/6) 橙 内 (5YR8/2) 灰白 断 (5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1838	2 B	西半部3-3層	土師器	甗	ナデ 外 内	外 内	外 内	外 (2.5YR5/6) 明赤褐 内 (2.5YR6/6) 橙 断 (2.5YR6/2) 灰赤	密 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	
1839	2 B	西半部3-3層	土師器	甗	ナデ 外 内	外 内	外 内	外 (7.5YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR8/2) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒・黒色粒を含む	
1840	2 B	西半部3-3層	土師器	甗	ナデ 外 内	外 内	外 内	外 (7.5YR8/2) 灰白 内 (2.5YR7/3) 淡赤橙	粗 石英・長石・チャート・赤色酸化土粒を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1841	2 B	西半部3 - 3層	土師器	甗	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 ナデ・ヘラナデ・ユビオサエ	外 ナデ・ヘラナデ・ユビオサエ 内 ナデ	外 (2.5YR5/6) 明赤褐 内 (2.5YR6/6) 暗赤褐 断 (2.5YR5/6) 明赤褐	粗 石英・長石・雲母・黒色粒を含む	
1842	2 B	西半部3 - 3層	土師器	甗	外 暗文 内 暗文	外 ハケメ	外 ナデ 内 ナデ	外 (10R6/8) 橙 内 (10R5/8) 赤 断 (2.5YR7/8) 橙	密 石英・長石・赤色酸化土粒・砂粒を含む	スリップ
1843	2 B	西半部2面 穴56	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/3) 浅黄橙 内 (10YR8/3) 浅黄橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密 石英・長石を含む	
1844	2 B	西半部2面 穴56	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR7/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/3) にぶい黄橙 断 (10YR5/4) にぶい黄橙	密 石英・赤色酸化土粒を含む	
1845	2 B	西半部2面 穴114	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (10YR8/4) 浅黄橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (10YR8/4) 浅黄橙	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
1846	2 B	西半部3面 井戸1	瓦器	碗	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ・ユビオサエ 内 暗文	外 ヨコナデ・ナデ 内 暗文	外 (N3/0) 暗灰 内 (N4/0) 灰 断 (10Y8/1) 灰白	密	
1847	2 B	西半部3面 井戸1	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ+ユビオサエ 内 ナデ	外 (7.5YR8/3) 浅黄橙 内 (7.5YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・黒雲母・赤色酸化土粒を含む	
1848	2 B	西半部3面 井戸1	土師器	皿	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y8/3) 淡黄 内 (2.5Y8/3) 淡黄 断 (2.5Y7/4) 浅黄	密	
1849	2 B	西半部3 - 3層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (5BG6/1) 青灰 内 (5BG6/1) 青灰	密	
1850	2 B	西半部3 - 3層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白 断 (N7/0) 灰白	密 長石・チャートを含む	
1851	2 B	西半部3 - 3層	須恵器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N8/0) 灰白	密 石英・長石・黒色粒を含む	
1852	2 B	西半部3 - 3層	須恵器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (5PB5/1) 青灰 内 (5PB6/1) 草灰 断 (5P4/1) 暗紫灰	密 石英・長石を含む	自然釉付着
1853	2 B	西半部3 - 3層	須恵器	横瓶	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 カキメ 内 同心円当テ具痕+ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (2.5Y5/1) 黄灰 内 (10Y4/2) 灰白	密	自然釉付着
1854	2 B	西半部3 - 3層	須恵器	平瓶	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 ユビオサエ 内 回転ナデ・ユビオサエ	外 (N6/0) 灰 内 (5PB5/1) 青灰	密 石英を含む	自然釉付着
1855	2 B	西半部3 - 3層	須恵器	甗	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 タタキ+回転ナデ・タタキ 内 同心円当テ具痕	外 回転ナデ 内 同心円当テ具痕	外 (N7/0) 灰白 内 (2.5YR6/2) 灰赤 断 (N7/0) 灰白	密 石英・長石・雲母・黒色粒を含む	
1856	2 B	西半部3層	須恵器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ 底部 ヘラ切り	外 (2.5GY5/1) オリーブ灰 内 (N7/0) 灰白	密 石粒を含む	釉付着
1857	2 B	西半部3層	土師器	羽釜	外 ナデ 内 ナデ		外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (5YR3/1) 黒褐 内 (10R3/1) 暗赤灰 断 (10R5/4) 赤褐	密 石英・長石・チャート・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1858	2 B	西半部4層	緑釉陶器	碗			外 ナデ・ヘラナデ 内 ナデ 底部 糸切り痕	外 (7.5YR7/3) にぶい橙 内 (7.5YR7/3) にぶい橙 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密 石英・長石・雲母・砂粒を含む	爪痕 回転糸切り痕
1859	2 B	西半部4層	瓦器	碗	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (N6/0) 灰 内 (N3/0) 暗灰 断 (N8/0) 灰白	密	
1860	2 B	西半部4層	土師器	碗	外 ナデ 内 ナデ		外 ナデ 内 ナデ	外 (5YR5/4) にぶい赤褐 内 (7.5YR5/4) にぶい褐	密 石英・長石・黒色粒を含む	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1861	2 B	西半部4層	土師器	杯または碗	外ナデ 内ナデ	内ナデ		外(7.5YR8/4) 浅黄橙 内(5YR5/8) 明赤褐 断(7.5YR6/8) 橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	
1862	2 B	西半部4層	須恵器	杯身	外回転ナデ 内回転ナデ	外回転ナデ 内回転ナデ	内 回転ナデ 底部 回転ナデ	外(N6/0) 灰 内(N7/0) 灰白 断(N7/0) 灰白	密	回転ヘラ切り痕
1863	2 B	西半部4層	須恵器	皿	外回転ナデ 内回転ナデ	外回転ナデ 内回転ナデ	内 回転ナデ 底部 回転ナデ	外(N6/0) 灰 内(N7/0) 灰白 断(N7/0) 灰白	密 石英・長石・黒色粒を含む	回転ヘラ切り痕
1864	2 B	西半部4層	須恵器	壺		外回転ナデ 内回転ナデ		外(N6/0) 灰 内(7.5R6/1) 赤灰 断(N7/0) 灰白	密 石英・長石・黒色粒を含む	
1865	2 B	西半部4層	須恵器	壺		外回転ナデ 内回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外(N7/0) 灰白 内(N6/0) 灰 断(N7/0) 灰白	密 石英・長石・赤色酸化土粒・黒色粒を含む	
1866	2 B	西半部4層	須恵器	小形壺	外回転ナデ 内回転ナデ	外 回転ナデ・回転ヘラナデ	底部 回転糸切り痕	外(N6/0) 灰 内(N7/0) 灰白 断(N7/0) 灰白	粗 石英・長石を含む	
1867	2 B	西半部4層	土師器	高杯			外 下、ナデ・ハケメ 内 下、ナデ・ハケメ	外(2.5YR6/8) 橙 内(2.5YR7/3) 淡赤橙 断(2.5YR7/3) 淡赤橙	粗 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・黒色粒・砂粒を含む	
1868	2 B	西半部4層	土師器	台付皿		内 ナデ	外 ハケメ+ナデ	外(5YR7/6) 橙 内(5YR8/4) 淡橙 断(5YR7/4) にぶい橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1869	2 B	西半部4層	土師器	台付皿		外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外(5YR7/8) 橙 内(5YR7/8) 橙 断(7.5YR8/6) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む	
1870	2 B	西半部4層	土師器	羽釜	外ナデ 内ナデ	外ナデ 内ナデ		外(5YR7/4) にぶい橙 内(5YR8/1) 灰白 断(5YR7/4) にぶい橙	密 石英・長石・雲母・赤色酸化土粒・砂粒を含む	
1871	2 B	西半部4層	土師器	皿	外ナデ 内ナデ	外 ユビオサエ+ナデ 内 ユビオサエ		外(7.5Y8/2) 灰白 内(2.5Y7/6) 橙 断(2.5Y6/6) 橙	粗 石英・長石・チャート・黒色粒を含む	
1872	2 B	西半部4層	須恵器	杯身	外回転ナデ 内回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外(N6/0) 灰 内(N7/0) 灰白 断(N7/0) 灰白	密 石英・長石・黒色粒を含む	
1873	2 B	西半部5層	土師器	杯	外ヨコナデ 内ヨコナデ+ミガキ	外 ナデ 内 調整不明	外 ナデ 内 調整不明	外(10YR7/1) 灰白 内(10YR7/2) にぶい黄橙 断(2.5YR6/6) 橙	密 石英・長石・雲母を含む	
1874	2 B	西半部5層	須恵器	小形壺	外回転ナデ 内回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 底部 糸切り痕		密	自然釉付着
1875	2 B	西半部5層	須恵器	壺	外回転ナデ 内回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナズリ 内 回転ナデ	外(N7/0) 灰白 内(N7/0) 灰白	密 黒色粒を含む	打ち欠き
1876	2 B	6層	須恵器	有蓋高杯	外回転ナデ 内回転ナデ	外 回転ナズリ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		密 石英・長石を含む	
1877	2 B	6層	土師器	高杯A1	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外 ナデ 内 ハケメ+ナデ		外(10YR5/1) 褐灰 内(10YR6/1) 褐灰 断(10YR6/1) 褐灰	密 長石・チャート・黒色粒・赤色酸化土粒を含む	
1878	2 B	6層	土師器	高杯		外 ナデ 内 ハケメ+ナデ	外 ナデ 内 上、ナデ 下、ハケメ	外(5YR6/6) 橙 内(5YR6/6) 橙 断(5Y6/2) 灰オリーブ	密 石英・長石・赤色酸化土粒を含む	
1879	2 B	6層	土師器	羽釜	外ナデ 内ナデ+ナデ 外ナデ 内ナデ・ユビオサエ+ナデ			外(10YR6/6) 明黄褐 内(10YR4/1) 褐灰 断(10YR8/3) 浅黄橙	密 石英・長石・雲母・砂粒を含む	
1880	2 B	7層	須恵器	杯身	外回転ナデ 内回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外(N7/0) 灰白 内(N7/0) 灰白	密	

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1881	2 B	7層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ			密	
1882	2 B	7層	須恵器	壺	外 回転ナデ・回転ナデ+タタキ 内 回転ナデ+タタキ		外 ハケメ 内 ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰	密	
1883	2 B	7層	土師器	小形壺	外 ナデ 内 ハケメ		外 ハケメ 内 ナデ		外 (5YR6/6) 橙 内 (5YR6/6) 橙 断 (7.5YR7/4) にぶい橙	密	長石・赤色酸化土粒を含む
1884	2 B	7層	土師器	杯	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ヨコナデ・ナデ 内 ヨコナデ・ナデ		外 (7.5YR6/4) にぶい橙 内 (7.5YR7/6) 橙 断 (10YR7/3) にぶい黄橙	密	石英・長石・赤色酸化土粒を含む
1885	2 B	7面	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5Y8/1) 灰白 内 (5Y8/2) 灰白 断 (5Y8/1) 灰白	粗	生焼け
1886	2 B	7面	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N5/0) 灰 内 (N5/0) 灰 断 (N5/0) 灰	粗	長石・黒色粒を含む 自然釉付着
1887	2 B	7面	須恵器	高杯			外 回転ケズリ 内 回転ナデ			密	石英・長石を含む 打ち欠き
1888	2 B	7面	須恵器	壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 タタキ+カキメ 内 同心円当テ具痕		外 (7.5GY6/1) 緑灰 内 (7.5Y7/1) 灰白	密	石英・長石・雲母を含む
1889	2 B	7面	須恵器	壺			外 タタキ+カキメ・タタキ 内 同心円当テ具痕		外 (7.5Y7/1) 灰白 内 (10Y7/1) 灰白	密	石英・長石・雲母を含む
1890	2 B	8層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (5PB6/1) 青灰	密	
1891	2 B	8層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N4/0) 灰 内 (5Y5/1) 灰 断 (N7/0) 灰白	密	
1892	2 B	8層	土師器	布留形甕C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		外 ハケメ 内 ナデ・ケズリ		外 (2.5Y7/4) 浅黄 内 (2.5Y6/3) にぶい黄 断 (2.5Y7/3) 浅黄	密	石英・長石・雲母・赤色酸化土粒を含む
1893	2 B	8層	土師器	鍋	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ・ハケメ		外 ハケメ 内 回転ケズリ		外 (10YR6/4) にぶい黄橙 内 (10YR5/6) 黄褐 断 (10YR7/4) にぶい黄橙	密	石英・長石・雲母を含む
1894	2 B	8層	弥生土器	甕			外 ナデ・ユビオサエ 内 板ナデ		外 (7.5YR4/3) 褐 内 (10YR2/2) 黒褐 断 (7.5YR6/1) 褐灰	密	石英・長石・雲母・砂粒を含む
1895	2 B	7面 溝14	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5BG7/1) 明青灰 内 (5BG7/1) 明青灰	密	
1896	2 B	7面 溝14	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N5/0) 灰	密	石英・長石を含む 自然釉付着
1897	2 B	7面 溝14	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白	粗	
1898	2 B	7面 溝14	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ			密	石英・長石を含む
1899	2 B	7面 溝14	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白	密	石英・長石を含む
1900	2 B	7面 溝14	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ		外 回転ケズリ 内 同心円当テ具痕		外 (N7/0) 灰白 内 (N7/0) 灰白	粗	

番号	トレン子名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1901	2 B	7面 薄14	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ			密	
1902	2 B	7面 薄14	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰	密	黒色物質付着
1903	2 B	7面 薄14	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (10GY6/1) 緑灰 内 (10GY6/1) 緑灰	密	
1904	2 B	7面 薄14	須恵器	高杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (N7/0) 灰白 内 (5PB6/1) 青灰	密	外 自然釉
1905	2 B	7面 薄14	須恵器	高杯		外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5P7/1) 明葉 内 (5P7/1) 明葉	粗	
1906	2 B	7面 薄14	須恵器	有蓋高杯	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ			密	
1907	2 B	7面 薄14	須恵器	杯蓋または杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ				密	
1908	2 B	7面 薄14	須恵器	甌		外 回転ナデ 内 回転ナデ			密	石英・長石を含む
1909	2 B	7面 薄14	須恵器	甌		外 回転ナデ 内 回転ナデ			粗	石英・長石を含む
1910	2 B	7面 薄14	須恵器	甌	外 タタキ+回転ナデ 内 同心円当テ具痕			外 (N6/1) 灰 内 (5PB7/1) 明青 断 (5P7/1) 明葉	密	
1911	2 B	7面 薄14	須恵器	甌	外 回転ナデ 内 回転ナデ				密	長石を含む
1912	2 B	7面 薄14	須恵器	甌	外 回転ナデ+回転ナデ 内 回転ナデ+回転ナデ+回転ナデ+回 転ナデ				密	石英を含む ヘラ記号 釉付着
1913	2 B	7面 薄14	須恵器	甌	外 回転ナデ 内 回転ナデ			外 (5B4/1) 暗青灰 内 (5P6/1) 紫灰 断 (5R5/1) 赤灰	密	釉付着
1914	2 B	7面 薄14	土師器	小形丸底壺		外 ナデ+ユビオサエ・ミガキ 内 ナデ+ユビオサエ		外 (10YR7/2) にぶい黄褐色 内 (25Y7/2) 灰黄 断 (75YR5/4) にぶい褐	密	石英・長石・チャート・黒 雲母・赤色酸化土粒を含む
1915	2 B	7面 薄14	土師器	小形鉢A2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ユビオサエ+ナデ 内 ヨコナデ		外 (10YR6/3) にぶい黄褐色 内 (10YR5/3) にぶい黄褐色	粗	石英・長石・チャートを含 む
1916	2 B	7面 薄14	土師器	手捏	外 ユビオサエ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ		外 (25Y7/1) 灰白 内 (10YR7/1) 灰白	密	石英・長石・雲母を含む
1917	2 B	7面 薄15	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5Y6/1) 灰 内 (5Y6/1) 灰 断 (5Y6/1) 灰	密	石英・長石を含む
1918	2 B	7面 薄15	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ケズリ 内 回転ナデ			粗	
1919	2 B	7面 薄15	須恵器	短頸壺	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ+回転ケズリ 内 回転ナデ		外 (5BG7/1) 明青灰 内 (N7/1) 灰白	密	石英・長石を含む
1920	2 B	7面 薄15	土師器	高杯A2	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ナデ+ハケメ		外 (75YR8/3) 浅黄褐色 内 (75YR8/2) 灰白 断 (75YR8/3) 浅黄褐色	密	石英・長石・チャートを含 む

番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口縁部	体部	底部・脚部	色調	胎土	備考
1921	2 B	7面溝15	土師器	把手付鍋	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ナデ+ユビオサエ 内ナデ+ユビオサエ		外(2.5Y7/2)灰黄 内(2.5Y7/3)浅黄 断(2.5Y7/3)浅黄	密 石英・長石を含む	打ち欠き 煤付着
1922	2 B	7面溝16	須恵器	杯蓋	外回転ナデ 内回転ナデ	外回転ナズリ 内回転ナデ		外(N6/0)灰 内(5PB5/1)黄灰 断(N6/0)灰	密 長石を含む	
1923	2 B	7面溝16	須恵器	高杯蓋	外回転ナデ 内回転ナデ	外回転ナズリ 内回転ナデ・同心円当子具裏		外(N5/0)灰 内(N6/0)灰 断(N7/0)灰	密 石英・長石・黒色石を含む	
1924	2 B	7面溝16	土師器	高杯A2		内ハケメ	外ケズリ・ナデ・ハケメ 内ハケメ	外(5YR7/4)にぶい橙 内(5YR6/4)にぶい橙 断(5YR7/2)明褐灰	粗 石英・長石・雲母・砂粒を含む	
1925	2 C	1層	須恵器	捏鉢	外回転ナデ 内回転ナデ			外(10R7/1)明赤灰 内(10R6/4)にぶい赤橙 断(10R6/3)にぶい赤橙	密	更搦系 釉付着
1926	2 C	1層	須恵器	捏鉢	外回転ナデ 内回転ナデ			外(N3/0)暗灰 内(N3/0)暗灰 断(5Y8/1)灰白	密 石英・長石を含む	更搦系 生焼け
1927	2 C	2層	磁器	合子				外(7.5GY7/1)明緑灰 内(2.5GY7/1)明オリーブ灰 断(N8/0)灰白	密	外 施釉 内 施釉
1928	2 C	2層	磁器	合子				外(10Y7/1)灰白 内(7.5Y7/1)灰白 断(10Y8/1)灰白	密	外 施釉 内 施釉
1929	2 C	2層	磁器(白磁)	碗				外(7.5YR7/1)灰白 内(7.5YR7/1)灰白 断(7.5YR8/1)灰白	密	外 施釉 内 施釉
1930	2 C	2層	瓦器	碗			外ナデ 内暗文+ナデ	外(N1.5/1)黒 内(10YR8/1)灰白 断(N7/0)灰白	密 石英・長石・雲母を含む	
1931	2 C	3層	灰軸陶器	碗(高台)			外回転ナデ 内回転ナデ 底部 回転糸切り	外(2.5GY8/1)灰白 内(N7/0)灰白 断(2.5GY8/1)灰白	密	
1932	2 C	3層	瓦器	碗	外ヨコナデ・ナデ 内ヨコナデ・ナデ	外ナデ・ユビオサエ 内ナデ		外(N4/0)灰 内(N5/0)灰 断(N8/0)灰白	密	
1933	2 C	3層	須恵器	捏鉢	外回転ナデ 内回転ナデ			外(N7/0)灰白 内(N7/0)灰白 断(N7/0)灰白	密 石英・長石・雲母を含む	更搦系
1934	2 C	4層	瓦器	碗	外ミガキ・ナデ+ユビオサエ 内ミガキ+ユビオサエ+ナデ	外ミガキ・ナデ+ユビオサエ 内ミガキ+ユビオサエ+ナデ		外(10YR7/1)灰白 内(10YR4/2)灰黄褐 断(2.5Y6/1)黄灰	密 石英・チャート・黒雲母を含む	
1935	2 C	4層	土師器	皿	外ナデ+ユビオサエ 内ナデ+ユビオサエ			外(10YR8/2)灰白 内(10YR8/2)灰白 断(10YR5/2)灰黄褐	密 石英・長石・黒雲母・赤酸化土粒を含む	
1936	2 C	4層	灰軸陶器	碗(高台)			外回転ナデ 内回転ナデ	外(N8/0)灰白 内(5Y7/1)灰白 断(N8/0)灰白	密 石英・長石・チャートを含む	
1937	2 C	4層	灰軸陶器	?			外回転ナデ 内回転ナデ 底部 回転糸切り	外(5Y6/1)灰 内(7.5Y7/1)灰白 断(7.5Y7/1)灰白	密	回転糸切り痕
1938	2 C	4層	土師器	羽釜	外ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ 内ヨコナデ・ナデ			外(10YR4/1)褐灰 内(10YR5/2)灰黄褐 断(7.5YR5/4)にぶい褐	密 石英・長石・チャート・赤酸化土粒を含む	
1939	2 C	7層	須恵器	杯蓋	外回転ナデ 内回転ナデ			外(N4/0)灰 内(N5/0)灰 断(N5/0)灰	密 長石を含む	
1940	2 C	7層	土師器	短頸直口蓋	外ヨコナデ 内ヨコナデ	外ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ 内ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ		外(5YR6/6)橙 内(5YR6/8)橙 断(5YR5/8)明赤褐	密 長石・チャート・黒雲母・赤酸化土粒を含む	



番号	トレンチ名	層位・遺構	器種	器形	口	縁部	体	底部・脚部	色	調	胎	土	備考
1941	2 C	7層	土師器	小形丸底鉢B 3	外 ヨコナデ	外 ナデ	外 ナデ	外 ケズリ+ナデ	外 (10YR8/4) 浅黄橙 内 (5YR7/3) にぶい橙 断 (5YR2/1) 黒褐	密 長石・黒雲母・赤色酸化土 粒を含む	密 長石・黒雲母・赤色 酸化土粒を含む		
1942	2 C	7層	土師器	手捏	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ	外 ナデ	外 ナデ	外 (10YR6/3) にぶい黄橙 内 (10YR7/4) にぶい黄橙	密 石英・長石・黒雲母・赤色 酸化土粒を含む	密 石英・長石・黒雲母・赤色 酸化土粒を含む		
1943	2 C	8層	土師器	小形器台C 3	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 調整不明	外 調整不明 内 調整不明	外 (2.5YR6/6) 橙 内 (5YR6/8) 橙 断 (5YR5/8) 明赤褐	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む	密 石英・長石・雲母・赤色酸 化土粒を含む		
1944	2 C	8面	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (5PB4/1) 暗青灰 内 (N5/0) 灰 断 (5YR5/2) 灰褐	密 長石を含む	密 長石を含む		
1945	2 C	9層	土師器	小形丸底蓋B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ケズリ 内 ナデ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (10YR7/2) にぶい黄橙 断 (10YR7/2) にぶい黄橙	密 長石・黒雲母・チャートを含 む	密 長石・黒雲母・チャートを 含む	打ち欠き	
1946	2 C	9層	土師器	小形丸底蓋C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 板ナデ	外 (2.5Y7/2) 灰黄 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y8/2) 灰白	密 長石を含む	密 長石を含む		
1947	2 C	9層	土師器	小形丸底蓋C	外 ハケメ+ミガキ+ナデ 内 ハケメ	外 ハケメ+ミガキ+ナデ 内 ナデ+ユビオサエ	外 ハケメ+ミガキ+ナデ 内 ナデ+ユビオサエ	外 ハケメ+ミガキ+ナデ 内 ナデ+ユビオサエ	外 (5YR6/4) にぶい橙 内 (5YR6/4) にぶい橙 断 (10YR6/2) 灰黄褐	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む	密 石英・長石・チャート・赤 色酸化土粒を含む		
1948	2 C	9層	土師器	小形丸底蓋C	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ユビオサエ+ケズリ	外 ハケメ+ヨコナデ 内 ユビオサエ	外 ナデ 内 ユビオサエ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y7/2) 灰黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 長石を含む	密 長石・黒雲母・チャートを 含む		
1949	2 C	9層	土師器	小形丸底蓋	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ユビオサエ	外 ナデ 内 ユビオサエ	外 ナデ 内 ユビオサエ	外 (2.5Y6/1) 黄灰 内 (2.5Y6/1) 黄灰 断 (2.5Y5/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・石英・長石を含む	密 石英・長石・チャート・黒 雲母・石英・長石を含む	打ち欠き	
1950	2 C	9層	土師器	高杯B	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ・ユビオサエ 内 上、ナデ 下、ハケメ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (7.5YR6/6) 橙 断 (10YR8/4) 浅黄橙	密 石英・長石を含む	密 石英・長石を含む		
1951	2 C	9層	土師器	高杯	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ハケメ 内 上、ナデ 下、ハケメ	外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 長石・雲母を含む	密 長石・雲母を含む		
1952	2 C	9層	土師器	高杯	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 上、ミガキ+ナデ 内 ナデ	外 (2.5Y6/3) にぶい黄 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (2.5Y4/1) 黄灰	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む	密 石英・長石・チャート・黒 雲母を含む		
1953	2 C	9層	土師器	弥生形甕	外 ナデ+タキ・ユビオサエ 内 ナデ+ユビオサエ	外 ナデ+タキ・ユビオサエ 内 ナデ+ユビオサエ	外 ナデ+タキ・ユビオサエ 内 ナデ+ユビオサエ	外 ナデ+タキ・ユビオサエ 内 ナデ+ユビオサエ	外 (2.5Y6/2) 灰黄 内 (2.5Y6/3) にぶい黄 断 (5YR5/4) にぶい赤褐	密 長石・雲母を含む	密 長石・雲母を含む		
1954	2 C	9層	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 ハケメ 内 ケズリ	外 (10YR7/2) にぶい黄橙 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (N3/0) 暗灰	密 石英・雲母を含む	密 石英・雲母を含む		
1955	2 C	9層	土師器	布留形甕B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 (2.5Y7/3) 浅黄 内 (10YR4/3) にぶい黄褐 断 (2.5Y7/2) 灰黄	密 石英・雲母を含む	密 石英・雲母を含む		
1956	2 C	9層	土師器	小形丸底鉢	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 ナデ 内 ナデ	外 (7.5YR7/4) にぶい橙 内 (5YR7/4) にぶい橙 断 (2.5YR6/6) 橙	密 石英・長石・雲母・砂粒を 含む	密 石英・長石・雲母・砂粒を 含む		
1957	2 C	10層	須恵器	杯蓋	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (5Y7/1) 灰白 内 (5Y6/2) 灰黄 断 (N7/1) 灰白	密 石英・長石を含む	密 石英・長石を含む		
1958	2 C	10層	須恵器	杯身	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 回転ナデ 内 回転ナデ	外 (N6/0) 灰 内 (N6/0) 灰 断 (N7/0) 灰白	密 石英・長石・チャートを含 む	密 石英・長石・チャートを 含む	梅状工具による刺 突	
1959	2 C	10層	土師器	高杯B	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ハケメ	外 ハケメ 内 ハケメ	外 ハケメ 内 ハケメ	外 (5Y6/1) 灰 内 (2.5YR5/1) 黄灰 断 (5Y7/1) 灰白	密 長石・雲母を含む	密 長石・雲母を含む		
1960	2 C	10層	土師器	高杯	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ	外 ハケメ 内 ハケメ	外 ハケメ 内 ハケメ	外 ハケメ+ナデ 内 ナデ+ケズリ・ユビオサエ	外 (2.5Y7/1) 灰白 内 (2.5Y6/2) 灰黄 断 (N4/0) 灰	密 長石・雲母を含む	密 長石・雲母を含む		



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	みぞくいいせき
書名	溝咋遺跡(その1・2)
副書名	茨木・学園町地区埋蔵文化財発掘調査1次・2次報告書
巻次	
シリーズ名	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書
シリーズ番号	第49集
編著者名	安部みき子・伊藤 武・奥田 尚・尾崎和美・蔭山誠一・笠原 潔・鬼頭 剛・合田幸美・後藤敏一・新山雅広・鈴木 茂・角南聡一郎・長田正宏・中野寛子・中野益男・橋本亜希子・菱田 量・藤根 久・真家和生・南 武志・撫養健至・山際英樹・山口誠治
編集機関	財団法人 大阪府文化財調査研究センター
所在地	〒536-0016 大阪府大阪市城東区蒲生2丁目11番3号 小森ビル4階 TEL 06-6934-6651 FAX 06-6934-7029
発行年月日	2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みぞくいいせき 溝咋遺跡	おおさか 府 大阪府 いばらき 市 茨木市 がくえん ちょう 学園町	27211	51	34°	135°	1995. 3. 1	4330㎡  7029㎡	集合住宅建築に伴う
				48′	35′	～		
				45″	37″	1996. 2. 29		
						1996. 4. 1 ～ 1997. 7. 25		

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
溝咋遺跡	集落	弥生時代後期	土器棺	弥生後期土器 銅釧	赤色顔料(鉄)を用い 渦文を描く
		古墳時代前期	竪穴・建物・溝土坑・ 井戸(一木)・水田	土師器 人面線刻土器 外来系土器 小形仿製鏡 木器 筑状弦楽器	入れ墨のない人面 関東・東海・山陰・瀬 戸内
		古墳時代中期		初期須恵器	
		古墳時代後期	建物・溝・土坑・水 田	土師器 土師質樽形甕 須恵器 滑石製紡錘車・玉 木器 下駄	最古段階
		奈良時代	土器群	土師器・須恵器 墨書土器	
		平安時代		緑釉陶器・瓦 金銅製鈴	
		中世	建物・柱穴列(神社) 水田	卒塔婆・瓦	
		近世	建物(神社)・水田	陶磁器・瓦	

---

(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第49集

溝 咋 遺 跡 (その1・2)

— 茨木・学園町地区埋蔵文化財発掘調査1次・2次報告書 —

本 文 編

発行年月日 2000年3月31日

編集・発行 財団法人 大阪府文化財調査研究センター  
〒536-0016 大阪府大阪市城東区蒲生2丁目11番3号  
小森ビル4階 TEL 06-6934-6651 FAX 06-6934-7029

印刷・製本 明新印刷株式会社

---